

# 九州共立大学

## スポーツ学部

2020 年度

講義要項



# 九州共立大学の建学の精神

## 《自律処行》

(自らの良心に従い、事に処し善を行なう)

九州共立大学の建学の精神である「自律処行」は、学生と教職員が共に立ち、人による人にまでの教育を行なうことを目指した創立者福原軍造が創造したことばである。

「自律」とは、自己の志向や行為を道に照らし、我情・我欲・我見による不正を制することであり、「処行」とは、事に処するに徳を以てし、知性にかなう道を行なうことである。

この2語を併せた「自律処行」は、自らの良心に従い、事に処し善を行なうことを表している。

### 【九州共立大学の目的】

本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。

### 【学 是】

本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行なうことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自分の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。

### 【スポーツ学部の人材養成及び教育研究上の目的等】

#### スポーツ学科

スポーツ学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。

## 【大学全体の三つの方針】

〔卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）〕

本学は、学是「自律処行（自らを律することができ、自ら考えて判断し、責任を持って行動する）」を体現し、総合的な教養、特定専門分野に関する知識を身につけ、深い考察力を備えることを目指す。

その実現のために、卒業認定・学位授与の方針（DP）を3つの領域（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性）から構成し、各課程を修め、目標を達成した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

知識・技能
キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。
思考力・判断力・表現力
本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。
主体性・協働性
自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。

〔教育課程編成・実施の方針（CP：カリキュラム・ポリシー）〕

本学では、学生が大学の卒業認定・学位授与方針（DP）の目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

教育内容
1. 総合共通科目は、「教養教育科目」、「キャリア教育科目」を中心に、現代社会を生き抜くために必要不可欠な幅広い教養、および基礎学力等を体系的に学べるように科目を配置する。 2. 専門教育科目は、各学部・学科の専門的知識を修得するために、基礎的内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。また、学問領域を超えた学際的な知識修得科目を配置する。
教育方法
1. 学生の主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）が実現されるように、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 2. 学外実習等を通じて体験的な学修活動を実施する。
教育評価
1. 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価方法に従い単位を付与する。 2. 学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たすことを含め、総合的に評価する。

〔入学者受け入れ方針（AP：アドミッション・ポリシー）〕

本学は、学是「自律処行（自らを律することができ、自ら考えて判断し、責任を持って行動する）」を体現し、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げた目標を強い意志を持って達成しようとする人を受け入れる。

また、高等学校もしくは中等教育学校において、基礎学力と基本的な学修習慣を有し、特に国語を通じて、読む、聞く、話す、書くという表現力、発信力、コミュニケーション能力の基礎を身につけ、それぞれの学科が必要としている「基礎的な知識・技能の修得」、「課題を解決するための思考力・判断力・表現力」、「主体的に学修に取り組む態度」を有し、さらに教育課程編成・実施の方針（CP）をよく理解し、各学科の教育目標に応えて真摯に学問修得に励む人を広く求める。

## 【スポーツ学部 スポーツ学科の三つの方針】

〔卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）〕

スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身につけ、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目指す。

この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。

知識・技能
学士（スポーツ学）として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。
思考力・判断力・表現力
実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。
主体性・協働性
専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。

〔教育課程編成・実施の方針（CP：カリキュラム・ポリシー）〕

スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針（CP）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。

教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

教育内容
<p>1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、スポーツ総合コース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、健康フィットネスコース、スポーツ政策コースの5コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身につけるよう、系統的に科目を配置する。</p> <p>2. 専門教育科目は、「共通科目」「専攻コース科目」「専門演習科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるよう科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身につけ、学年を重ねるにつれてそれらを応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。</p> <p>3. さらに専門演習科目は、3年次より少人数クラスで展開され、4年次に卒業研究に取り組む。これらの科目を通して、国内外において活かせる「協調性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。</p>
教育方法
<p>1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>2. 演習・実験・実習においてはグループ学修を取り入れ、協調性を身につけるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する能力を育成する。</p> <p>3. 卒業研究は、身につけた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。</p>
教育評価
<p>1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。</p> <p>2. 4年間の学修成果は、卒業研究（必修）によって行い、総合的に評価する。</p>

〔入学者受け入れ方針（AP：アドミッション・ポリシー）〕

スポーツ学科は、卒業認定・学位授与の方針（DP）および教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、体験を重視する教育を通じて、体育・スポーツ学に関する高い専門知識などを修得する。

入学者には次のような学力を有した人を求める。

知識・技能
高等学校もしくは中等教育学校の教育内容を幅広く学修しており、特に国語を通じて、読む、聞く、話す、書くという表現力、発信力、コミュニケーション能力の基礎とスポーツに関する基本的な知識や技能を身につけている。
思考力・判断力・表現力
自分自身の経験を踏まえ、自分の考えや意見が述べられ、高い力量を持つスポーツ指導者やスポーツに関係する者の素養があり、そのための研究や実践に取り組み、社会で活かしたいという目的意識がある。
主体性・協働性
課外活動やボランティア活動等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけており、教育現場やスポーツイベントなどに積極的にかかわろうとする意欲がある。

# インデックス

科目名	科目区分	掲載頁	科目名	科目区分	掲載頁
<b>ア行</b>			教職総合講義	自由選択) 教職	353-354
			教職発展ゼミナール★	自由選択) 教職	360
アクアエクササイズ	専攻コース科目【フィットネス】	192	教職論	自由選択) 教職	347
アスレティックテーピング	専攻コース科目【スポトレ】	173	共生社会を生きる	新々) 教養教育	25
アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ★	専攻コース科目【スポトレ】	174	教養基礎答練Ⅰ	自由選択) K-CIP	369
アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ★	専攻コース科目【スポトレ】	175	教養基礎答練Ⅱ	自由選択) K-CIP	370
アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ★	専攻コース科目【スポトレ】	176	暮らしと経済	新々) 教養教育	16-17
アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ★	専攻コース科目【スポトレ】	177	芸術の世界	新) 教養教育	56-57
アスレティックトレーニング現場実習Ⅴ★	専攻コース科目【スポトレ】	178	(K-CIP) 教職基礎演習	自由選択) K-CIP	379
アスレティックトレーニング現場実習Ⅵ★	専攻コース科目【スポトレ】	179	(K-CIP) 教職教養(教育原理・教育心理)	自由選択) K-CIP	377
アスレティックトレーナー概論★	専攻コース科目【スポトレ】	160	(K-CIP) 行政法演習	自由選択) K-CIP	374
アスレティックリハビリテーション演習★	専攻コース科目【スポトレ】	171	(K-CIP) 憲法演習	自由選択) K-CIP	371
アスレティックリハビリテーション論★	専攻コース科目【スポトレ】	170	(K-CIP) 保健体育科Ⅰ★	自由選択) K-CIP	378
イングリッシュワークショップ	新々) 言語・異文化理解	42	(K-CIP) マクロ経済学演習	自由選択) K-CIP	376
インターンシップ(企業研修)	新々) キャリア教育	51	(K-CIP) ミクロ経済学演習	自由選択) K-CIP	375
運動器の構造と機能	専攻コース科目【フィットネス】	183	(K-CIP) 民法(債権、親族・相続)演習	自由選択) K-CIP	373
運動生理学	専攻コース科目【フィットネス】	186	(K-CIP) 民法(総則、物権)演習	自由選択) K-CIP	372
運動生理学実験	共通科目	116	健康医科学論★	専攻コース科目【フィットネス】	184
運動負荷試験★	専攻コース科目【フィットネス】	188	健康栄養指導演習	専攻コース科目【フィットネス】	191
運動プログラムの管理	専攻コース科目【フィットネス】	189	健康産業施設実習★	専攻コース科目【フィットネス】	194
エアロビックエクササイズ	専攻コース科目【フィットネス】	193	健康づくり運動実技	専攻コース科目【フィットネス】	182
エアロビックダンス	スポーツ実技科目	333	健康づくり運動理論	専攻コース科目【フィットネス】	181
英語Ⅰ	新々) 言語・異文化理解	29-30	健康フィットネス概論	専攻コース科目【フィットネス】	180
英語Ⅱ	新々) 言語・異文化理解	31-32	現代国家と法(日本国憲法)	新々) 教養教育	15
英語Ⅲ	新) 言語・異文化理解	64	剣道	スポーツ実技科目	330
英語Ⅳ	新) 言語・異文化理解	65	コーチング各論A	専攻コース科目【スポ総合】	120-123
英語コミュニケーションⅠ	新々) 言語・異文化理解	33	コーチング各論B	専攻コース科目【スポ総合】	124-127
英語コミュニケーションⅡ	新々) 言語・異文化理解	34	コーチングシステム論	専攻コース科目【スポ総合】	129
衛生学及び公衆衛生学	共通科目	98	コーチング実習	専攻コース科目【スポ総合】	128
			心の科学★	新々) 教養教育	24
			ことばと異文化	新々) 教養教育	9-12
			ことばと日本文化	新々) 教養教育	4-7
<b>カ行</b>			コンディショニング演習	専攻コース科目【スポトレ】	166
海外研修	新々) 言語・異文化理解	43	コンディショニング論	専攻コース科目【スポトレ】	165
介護と福祉のフィットネスプログラム	専攻コース科目【フィットネス】	190			
解剖生理学	共通科目	97			
科学を考える	新) 教養教育	60-62			
学校体育指導演習	専攻コース科目【スポ教育】	142	<b>サ行</b>		
学校体育のマネジメント	専攻コース科目【スポ教育】	141	サッカー	スポーツ実技科目	322-323
学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)	専攻コース科目【スポ教育】	154	事前事後指導	自由科目) 教職【教職】	388
学校保健Ⅱ(小児保健・精神保健を含む。)	専攻コース科目【スポ教育】	155	社会科学【応用Ⅰ】	自由選択) K-CIP	367
学校保健指導演習	専攻コース科目【スポ教育】	156	社会科学【応用Ⅱ】	自由選択) K-CIP	368
韓国語Ⅰ	新々) 言語・異文化理解	40	社会科学【基礎】	自由選択) K-CIP	362
韓国語Ⅱ	新々) 言語・異文化理解	41	社会教育演習	自由選択) 社会主事	346
器械運動	スポーツ実技科目	316	社会教育計画の立案	自由選択) 社会主事	343
器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	専攻コース科目【スポ教育】	143	社会教育施設の経営	自由選択) 社会主事	344
機能解剖学Ⅰ	専攻コース科目【スポトレ】	161	社会教育実習★	自由選択) 社会主事	345
機能解剖学Ⅱ	専攻コース科目【スポトレ】	162	社会体育論★	専攻コース科目【スポ教育】	157
キャリアデザインⅠ	新々) キャリア教育	49-50	柔道	スポーツ実技科目	331
キャリアデザインⅡ	新) キャリア教育	68-72	ジュニアスポーツ指導演習	専攻コース科目【スポ教育】	159
キャリアデザインⅢ	新) キャリア教育	73-77	ジュニアスポーツ論	専攻コース科目【スポ教育】	158
キャンブ	スポーツ実技科目	334	生涯学習・社会教育の指導者★	自由選択) 社会主事	342
球技指導法A	専攻コース科目【スポ教育】	146-148	生涯学習と社会教育	自由選択) 社会主事	341
球技指導法B	専攻コース科目【スポ教育】	149-151	生涯学習と社会体育	専攻コース科目【スポ政策】	200
救急法実習★	共通科目	114	障害者とスポーツ	専攻コース科目【スポ総合】	139
教育課程論	自由選択) 教職	355	生涯スポーツ論	専攻コース科目【スポ政策】	199
教育原論	自由選択) 教職	348	情報処理演習Ⅰ	新々) 情報教育	44
教育史	自由選択) 教職	352	情報処理演習Ⅱ	新々) 情報教育	45
教育実習Ⅰ★	自由科目) 教職【教職】	386	情報処理演習Ⅲ	新々) 情報教育	46
教育実習Ⅱ★	自由科目) 教職【教職】	387	情報処理演習Ⅳ	新々) 情報教育	47
教育心理学	自由選択) 教職	349	情報文化論	新々) 教養教育	13
教育制度論	自由選択) 教職	351	職業とコミュニケーション	新々) キャリア教育	48
教育相談	自由選択) 教職	359	人権・同和教育	新々) 教養教育	18-19
教育方法論	自由選択) 教職	357	身体機能評価法	専攻コース科目【スポトレ】	167
教職実践演習(中・高)	自由科目) 教職【教職】	389	人文・自然科学【基礎】	自由選択) K-CIP	363



「科目区分の略号表」

新々カリ (2019～2020年度入学生)	総合共通科目	新々)総合共通コア	
		新々)教養教育	
		新々)言語・異文化理解	
		新々)情報教育	
		新々)キャリア教育	

新カリ (2015～2018年度入学生)	総合共通科目	新)総合共通コア	
		新)教養教育	
		新)言語・異文化理解	
		新)情報教育	
		新)キャリア教育	

新カリ (2016年度以降入学生)	専門教育科目	共通科目	
		専攻コース科目【スポ総合】	スポーツ総合コース
		専攻コース科目【スポ教育】	スポーツ教育コース
		専攻コース科目【スポトレ】	スポーツトレーナーコース
		専攻コース科目【フィットネス】	健康フィットネスコース
		専攻コース科目【スポ政策】	スポーツ政策コース
		専門演習科目	
		スポーツ実技科目	

旧カリ (2015年度以前の入学生)	専門教育科目	旧)共通科目	
		旧)専攻コース科目【スポ教育】	スポーツ教育コース
		旧)専攻コース科目【コーチング】	コーチングコース
		旧)専攻コース科目【スポトレ】	スポーツトレーナーコース
		旧)専攻コース科目【フィットネス】	健康フィットネスコース
		旧)専門演習科目	
		旧)スポーツ実技科目	

	自由選択科目	自由選択)社会主事	社会教育主事関連科目
		自由選択)教職	教職課程関連科目
		自由選択)K-CIP	K-CIP関連科目
	自由科目	自由科目)教職【教科】	教科に関する専門教育科目 (教科に関する科目)
		自由科目)教職【教職】	教職に関する専門教育科目 (教職に関する科目)

科目ナンバリングのコード配分規則（スポーツ学部2020年度カリキュラム）

（例）「解剖生理学」の場合

S S H 1 1 01

	学部	学科	科目区分	科目水準	開講期	通し番号
(例)	S (スポーツ)	S (スポーツ)	H (共通科目)	1	1 (前期)	01 (先頭の科目)
詳細			別表 1	別表 2	1:前期 2:後期 3:集中等	01~99

別表 1

【参考】

コード	科目区分	経済・経営学科の科目区分	地域創造学科の科目区分
A	総合共通コア科目	総合共通コア科目	
B	教養教育科目	教養教育科目	
C	言語・異文化理解科目	言語・異文化理解科目	
D	情報教育科目	情報教育科目	
E	<del>健康教育科目</del>	健康教育科目	
F	キャリア教育科目	キャリア教育科目	
G	留学生特別科目	留学生特別科目	
H	共通科目	コア科目群	コア科目群
I	<del>地域創造基礎科目群</del>		地域創造基礎科目群
J	専攻コース科目	領域科目群	コース科目群
K	スポーツ実技科目	実践科目群	実践科目群
L	専門演習科目	ゼミナール科目群	ゼミナール科目群
M	教職課程関連科目	教職課程関連科目	<del>教職課程関連科目</del>
N	K-CIP関連科目	K-CIP関連科目	K-CIP関連科目
O	教職課程関連科目（自由科目配置）	教職課程関連科目 （自由科目配置）	キャリアコンサルタント養成関連科目 （自由科目配置）

別表 2

コード	科目水準
0	・リメディアル科目（高校の補修的科目） ・要卒単位外科目（自由科目）
1	・総合共通科目 ・専門教育科目（基礎・入門的科目） ※初年次導入教育、基礎・入門的科目で特に前提とする基礎知識を必要としない科目 ※主に1年次配当科目
2	・総合共通科目（中・上級） ・専門教育科目（初級） ※基礎から専門的レベルへの橋渡しとなる科目 ※主に2年次配当科目
3	・専門教育科目（中級） ※発展・応用レベルの内容を扱う科目 ※主に3年次配当科目
4	・専門教育科目（上級） ※より高度な実践的・専門的な内容を扱う科目、専門領域演習 ※主に4年次配当科目

■ 2020年度入学 スポーツ学部 科目ナンバリング表 ■

1/3

科目水準	総合共通コア科目 (SSA)	教養教育科目 (SSB)	言語・異文化理解科目 (SSC)	情報教育科目 (SSD)
1	SSA1101 福原学	SSB1101 ことばと日本文化 SSB1102 スポーツの文化 SSB1103 ことばと異文化 SSB1104 情報文化論 SSB1105 歴史と国際情勢 SSB1106 現代国家と法(日本国憲法) SSB1107 暮らしと経済 SSB1108 人権・同和教育 SSB1109 人間と哲学 SSB1110 生命と地球 SSB1111 心の科学 SSB1112 共生社会を生きる	SSC1101 日本語表現法 I SSC1102 英語 I SSC1103 TOEIC 入門 SSC1104 ドイツ語 I SSC1105 中国語 I SSC1106 韓国語 I SSC1107 イングリッシュワークショップ SSC1201 英語 II SSC1202 ドイツ語 II SSC1203 中国語 II SSC1204 韓国語 II SSC1301 海外研修	SSD1101 情報処理演習 I SSD1201 情報処理演習 II
2			SSC2101 日本語表現法 II SSC2102 伝わる文章力 SSC2103 英語コミュニケーション I SSC2201 英語コミュニケーション II	SSD2101 情報処理演習 III SSD2201 情報処理演習 IV

科目水準	キャリア教育科目 (SSF)	留学生特別科目 (SSG)
1	SSF1201 職業とコミュニケーション	SSG1101 初級日本語 I A SSG1102 初級日本語 I B SSG1103 初級日本語 I C SSG1104 初級日本語 I D SSG1105 初級日本語 I E SSG1106 初級日本語 II A SSG1107 初級日本語 II B SSG1108 初級日本語 II C SSG1109 初級日本語 II D SSG1110 初級日本語 II E SSG1111 中級日本語 I SSG1201 中級日本語 II
2	SSF2101 キャリアデザイン I SSF2102 スキルアップ講座 B SSF2201 スキルアップ講座 C SSF2301 インターンシップ (企業研修)	SSG2101 上級日本語 I SSG2201 上級日本語 II
3	SSF3101 キャリアデザイン II SSF3102 スキルアップ講座 G SSF3103 スキルアップ講座 R SSF3201 キャリアデザイン III SSF3202 スキルアップ講座 A SSF3203 スキルアップ講座 H SSF3204 スキルアップ講座 S	SSG3101 スキルアップ講座 N SSG3102 スキルアップ講座 P SSG3201 スキルアップ講座 O SSG3202 スキルアップ講座 Q

科目水準	共通科目 (SSH)	専攻コース科目 (SSJ)	スポーツ実技科目 (SSK)	
1	SSH1101 解剖生理学	SSJ1101 スポーツ学概論 ※	SSK1101 体操(体づくり運動を含む。)	
	SSH1102 衛生学及び公衆衛生学	SSJ1201 スポーツ教育概論 ※	SSK1102 陸上競技A	
	SSH1103 スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	SSJ1202 アスレティックトレーナー概論 ※	SSK1103 バスケットボール	
	SSH1104 スポーツ指導論	SSJ1203 健康フィットネス概論 ※	SSK1104 サッカー	
	SSH1105 トレーニング実習	SSJ1204 スポーツ政策概論 ※	SSK1301 キャンプ	
	SSH1106 体力測定評価法実習		SSK1302 マリンスポーツ	
	SSH1201 スポーツ生理学		SSK1303 スノースポーツ	
	SSH1202 スポーツバイオメカニクス			
	SSH1203 スポーツ社会学			
SSH1204 スポーツ心理学				
2	SSH2101 スポーツ医学	SSJ2101 コーチング各論A	SSJ2202 コーチングシステム論	SSK2101 器械運動
	SSH2102 救急法実習	SSJ2102 トレーニング計画論	SSJ2203 メンタルトレーニング演習	SSK2102 陸上競技B
	SSH2201 スポーツ栄養学	SSJ2103 レジスタンストレーニング実習	SSJ2204 陸上競技指導法	SSK2103 水泳
	SSH2301 スポーツワークショップ	SSJ2104 器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	SSJ2205 球技指導法A	SSK2104 バレーボール
		SSJ2105 社会体育論	SSJ2206 機能解剖学II	SSK2105 バドミントン
		SSJ2106 機能解剖学I	SSJ2207 スポーツ傷害論II	SSK2106 ダンス
		SSJ2107 スポーツ傷害論I	SSJ2208 コンディショニング演習	SSK2107 剣道
		SSJ2108 コンディショニング論	SSJ2209 身体機能評価法	SSK2108 柔道
		SSJ2109 健康づくり運動理論	SSJ2210 健康づくり運動実技	SSK2109 エアロビクダンス
		SSJ2110 運動器の構造と機能	SSJ2211 運動生理学	
		SSJ2111 健康医科学論	SSJ2212 アクアエクササイズ	
		SSJ2112 スポーツ政策各論	SSJ2213 地域スポーツ政策演習	
		SSJ2113 スポーツ組織論	SSJ2214 生涯学習と社会体育	
		SSJ2114 生涯スポーツ論		
		SSJ2201 コーチング各論B		
	3	SSH3101 体力トレーニング論	SSJ3101 コーチング実習	SSJ3203 球技指導法B
SSH3102 スポーツ統計学		SSJ3102 スポーツ方法論	SSJ3204 武道指導法	SSK3102 ラグビー
SSH3103 運動生理学実験		SSJ3103 スポーツパフォーマンス測定実習	SSJ3205 学校保健II(小児保健・精神保健を含む。)	SSK3103 ソフトボール・野球
SSH3104 スポーツ動作解析法		SSJ3104 地域スポーツ論	SSJ3206 学校保健指導演習	SSK3104 テニス
SSH3105 キャリアアドバンス公務員養成I		SSJ3105 学校体育のマネジメント	SSJ3207 ジュニアスポーツ指導演習	SSK3201 レクリエーション実技
SSH3201 発育発達老化論		SSJ3106 学校体育指導演習	SSJ3208 アスレティックリハビリテーション論	
SSH3202 テーピング実習		SSJ3107 水泳指導法	SSJ3209 スポーツ内科学	
SSH3203 スポーツクラブのマネジメント		SSJ3108 ダンス指導法	SSJ3210 運動プログラムの管理	
SSH3204 キャリアアドバンス公務員養成II		SSJ3109 学校保健I(学校安全を含む。)	SSJ3211 介護と福祉のフィットネスプログラム	
SSH3205 キャリアアドバンス教員養成I		SSJ3110 ジュニアスポーツ論	SSJ3212 健康栄養指導演習	
SSH3206 キャリアアドバンス健康指導者養成I		SSJ3111 スポーツ傷害評価法	SSJ3213 生涯スポーツと社会体育の計画・立案	
		SSJ3112 リハビリテーション論	SSJ3214 生涯スポーツと社会体育の経営	
		SSJ3113 アスレティックテーピング	SSJ3215 ボランティア活動と生涯スポーツ	
		SSJ3114 スポーツカウンセリング論	SSJ3301 アスレティックトレーニング現場実習I	
		SSJ3115 生活習慣病概論	SSJ3302 アスレティックトレーニング現場実習II	
		SSJ3116 運動負荷試験	SSJ3303 アスレティックトレーニング現場実習III	
		SSJ3117 エアロビクエクササイズ	SSJ3304 アスレティックトレーニング現場実習IV	
		SSJ3118 生涯スポーツと社会体育の指導者	SSJ3305 アスレティックトレーニング現場実習V	
		SSJ3119 生涯学習支援方法論	SSJ3306 アスレティックトレーニング現場実習VI	
		SSJ3201 スポーツゲーム分析演習	SSJ3307 健康産業施設実習	
		SSJ3202 障害者とスポーツ	SSJ3308 スポーツ社会教育実習	
4	SSH4101 スポーツの歴史と文化	SSJ4101 スポーツ戦術論		
	SSH4102 レクリエーション論	SSJ4102 スポーツ栄養指導演習		
	SSH4103 キャリアアドバンス教員養成II	SSJ4103 アスレティックリハビリテーション演習		
	SSH4104 キャリアアドバンス健康指導者養成II	SSJ4104 地域スポーツ指導実習		
	SSH4105 キャリアアドバンスAT養成I	SSJ4105 スポーツ社会教育演習		
	SSH4201 キャリアアドバンスAT養成II			

科目水準	専門演習科目 (SSL)
3	SSL3101 スポーツゼミナール
4	SSL4101 卒業研究

科目水準	教職課程関連科目(SSM)	K-CIP関連科目(SSN)	
1	SSM1101 教職論 SSM1201 教育原論	SSN1101 文章理解 SSN1102 社会科学【基礎】 SSN1103 数的処理 I SSN1201 人文・自然科学【基礎】 SSN1202 数的処理 II	
2	SSM2101 教育心理学 SSM2102 特別支援教育概論 SSM2103 教育制度論 SSM2201 教育課程論 SSM2202 教育相談	SSN2101 数的処理III SSN2102 社会科学【応用 I】 SSN2103 教養基礎答練 I SSN2104 (K-CIP) 憲法演習 SSN2105 (K-CIP) 民法(総則、物権) 演習 SSN2106 (K-CIP) ミクロ経済学演習 SSN2107 (K-CIP) 教職教養(教育原理・教育心理)	SSN2108 (K-CIP) 保健体育科 I SSN2201 社会科学【応用 II】 SSN2202 教養基礎答練 II SSN2203 (K-CIP) 民法(債権、親族・相続) 演習 SSN2204 (K-CIP) 行政法演習 SSN2205 (K-CIP) マクロ経済学演習 SSN2206 (K-CIP) 教職基礎演習
3	SSM3101 教職総合講義 SSM3102 特別活動指導法 SSM3103 生徒・進路指導論 SSM3104 学校体験活動 SSM3201 道德教育指導法 SSM3202 教育方法論 (総合的な学習の時間の指導法を含む。)	SSN3101 (K-CIP) 労働法演習 SSN3102 (K-CIP) 刑法演習 SSN3103 (K-CIP) 財政学・経済事情演習 SSN3104 (K-CIP) 行政学・経営学演習 SSN3105 (K-CIP) 政治学演習 SSN3106 (K-CIP) 国際関係演習 SSN3107 (K-CIP) 社会学・社会事情演習 SSN3108 (K-CIP) 会計学演習 SSN3109 (K-CIP) 教養科目演習(公安職 I)	SSN3110 (K-CIP) 教養科目演習(行政職) SSN3111 (K-CIP) SPI演習(行政職 I) SSN3112 (K-CIP) 教職教養(教育史・教育法規) SSN3113 (K-CIP) 保健体育科 II SSN3201 (K-CIP) 教養科目演習(公安職 II) SSN3202 (K-CIP) 専門科目演習(行政職) SSN3203 (K-CIP) SPI演習(行政職 II) SSN3204 (K-CIP) 専門科目記述式演習(行政職) SSN3205 (K-CIP) 教職専門演習
4		SSN4101 (K-CIP) 一次対策(直前模試) SSN4102 (K-CIP) 二次対策 SSN4103 (K-CIP) 総合対策講座	

科目水準	教職課程関連科目(SSO)
0	SSO0101 保健体育科教育法 I SSO0102 保健体育科教育法 III SSO0103 教育実習 I SSO0104 教育実習 II SSO0105 事前事後指導 SSO0201 保健体育科教育法 II SSO0202 保健体育科教育法 IV SSO0203 教職実践演習(中・高)

**総合共通科目 (2019～2020 年度入学生) 1**

シラバス一覧 A 《総合共通科目》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

**総合共通科目 (2015～2018 年度入学生) 54**

シラバス一覧 B 《総合共通科目》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

**専門教育科目 88**

シラバス一覧 C 《専門教育科目》(2016～2020 年度入学生)・・・・・・・・ 89

科目順次性を考慮して履修する必要がある科目・・・・・・・・・・・・ 92

シラバス一覧 D 《専門教育科目》(2015 年度以前入学生)・・・・・・・・ 93

**自由選択科目 338**

シラバス一覧 E 《自由選択科目》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 339

**自由科目 380**

シラバス一覧 F 《自由科目》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 381

# 総合共通科目(2019～2020年度入学生)

## 《総合共通科目の教育目標》

### 【知識・技能】

キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。  
また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。

### 【思考力・判断力・表現力】

本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。

### 【主体性・協働性】

自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。  
また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。

## 《卒業に要する単位》

2019～2020年度入学生

履修区分		最低修得単位数		要卒単位数
総合共通コア科目		必修1単位		30単位
教養教育科目	文化・芸術領域	2単位以上	6単位以上	
	歴史・社会領域	2単位以上		
	人間・環境領域	2単位以上		
言語・異文化理解科目	日本語	必修2単位	8単位以上	
	英語	必修2単位		
	ドイツ語			
	中国語			
	韓国語			
	イングリッシュワークショップ			
	海外研修			
情報教育科目		必修2単位	2単位以上	
キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	必修4単位	4単位以上	
	キャリア発展領域			

# シラバス一覧 A 《 総合共通科目 》

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ	
総合共通 コア科目	福原学	1	前	3	
教養 教育科目	文化・ 芸術 領域	ことばと日本文化	1・(2) 前・後	4-7	
		スポーツの文化	1・(2) 前・後	8	
		ことばと異文化	1・(2) 前・後	9-12	
		情報文化論	1・(2) 後	13	
	歴史・ 社会 領域	歴史と国際情勢	1・(2) 前・後	14	
		現代国家と法(日本国憲法)	1・(2) 前・後	15	
		暮らしと経済	1・(2) 前・後	16-17	
		人権・同和教育	1・(2) 前・後	18-19	
	人間・ 環境 領域	人間と哲学	1・(2) 前・後	20-21	
		生命と地球	1・(2) 前・後	22-23	
		心の科学	1・(2) 前・後	24	
		共生社会を生きる	1・(2) 前・後	25	
	言語・ 異文化 理解科目	日本語	日本語表現法	1 前・後	26
			日本語表現法	2 前・後	27
伝わる文章力			2 前・後	28	
英語		英語	1 前・(後)	29-30	
		英語	1 (前)・後	31-32	
		英語コミュニケーション	2 前	33	
		英語コミュニケーション	2 後	34	
		TOEIC入門	1 前・後	35	
ドイツ語		ドイツ語	1 前	36	
		ドイツ語	1 後	37	
中国語		中国語	1 前	38	
		中国語	1 後	39	
韓国語		韓国語	1 前	40	
		韓国語	1 後	41	
イングリッシュワークショップ		1 後	42		
海外研修		1~4 集中	43		

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ
情報 教育 科目	情報処理演習	1	前	44
	情報処理演習	1	後	45
	情報処理演習	2	前	46
	情報処理演習	2	後	47
キャリア 教育 科目	キャリア デザイン 領域	職業とコミュニケーション	1 後	48
		キャリアデザイン	2 前後	49-50
		キャリアデザイン	3 前	/
		キャリアデザイン	3 後	/
		インターンシップ(企業研修)	2 集中	51
	キャリア 発展 領域	スキルアップ講座A	3 後	/
		スキルアップ講座B	2・(3) 前	52
		スキルアップ講座C	2・(3) 後	53
		スキルアップ講座G	3・(4) 前	/
		スキルアップ講座H	3・(4) 後	/
スキルアップ講座R	3・(4) 前	/		
スキルアップ講座S	3・(4) 後	/		

授業科目名 (Subject)	福原学 Basic Seminar (Fukuhara-gaku)			単位数	授業内容*	
担当者	スポーツ学部教員			専任	1 学部長講話 ・ガイダンス ガイダンスを行う。宿泊研修で学んだことについて 予復修課題： 宿泊研修を振り返る。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSA1101	2 学長講話 建学の精神・ビジョンを学ぶ。 日本語力が必要であることを学ぶ。 予復修課題： 日本語力について情報収集する。	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	3 大学を知る 自校史を学ぶ。 予復修課題： 建学の精神について理解する。	
配当年次	1年生	開講学期	前期	スポーツ学部	4 大学を知る 大学図書館の利用価値を知る。 予復修課題： 大学生の図書館利用について情報収集する。	
授業概要	学校法人福原学園九州共立大学のスポーツ学部に通う学生の一人ひとりが、将来に対する夢を実現しようと進んでいく上で、創設者である福原軍造先生の建学の精神を理解する。そしてこれから社会に向かって大いなる夢と希望を持ち、強く逞しく生きる力を涵養することを目的とする。					
授業到達目標	福原学園の歴史や見学の精神を理解する。 九州共立大学スポーツ学部の設置とその理念を知る。 卒業生から見える「学生生活」を知る。					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業開始時に詳細を説明する。 外部講師の都合で変更となる場合がある。 予・復修で60分の学習を目安とすること。			
1. 小テスト、感想文など		5 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		45 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	・グループディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %	・プレゼンテーション			
3.		%	・グループワーク			
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
					11 コースガイダンス 学部の専門領域を理解し、自らの進むコースを理解する。 予復修課題： 学部の専門領域を再確認する。	
					12 論理的な文章はこう読もう パラグラフを捉える。トピック・センテンスを探す。 予復修課題： 課題の文章のトピック・センテンスを見つける。	
					13 論理的な文章はこう読もう 文章を要約する。 予復修課題： 課題の文章を要約する。	
					14 学部長講話 ・モラル教育 クラスごとに分かれて学内を清掃する。 予復修課題： 学内を清掃して気づくことは？	
					15 学部長講話 ・まとめと振り返り 学習内容をまとめる、レポート作成 予復修課題： 授業時に指示する。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ことばと日本文化 Japanese Language and Culture			単位数	授業内容*			
担当者	鈴木 喬 (SUZUKI Takashi)			2	1 オリエンテーション 講義の内容、目的や評価方法等について説明する。 予復修課題： シラバスを見直し予修をする。配布資料を元に復修を行うこと。			
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 神話と昔話 「むかし」と「いにしへ」や、神話と昔話、伝説の違いについて説明する。 予復修課題： 出身地域の神話について調べる。配布資料を元に復修すること。			
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰﾌﾞﾙ学部共通	3 日本文化と禁忌侵犯 神話や昔話における禁忌侵犯（見るなのタブー）について講義する。 予復修課題： 配布資料を元に古事記神話、「青ひげ」について予復修すること。		
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期				4 古事記神話に見られる「恥」について 古事記神話における「恥」について概観し、講義する。 予復修課題： 配布資料を元に授業内容を予復修すること。	
授業概要	本講義では、「ことば」について取り上げ、それらが織りなす日本文化について考えることを目的とする。神話や昔話、万葉集などの古典作品や、マンガやアニメ、テレビドラマを対象とする。言語学的考察はもちろん、民俗学、社会学、国文学など多角的に考察し、日本文化について掘り下げる。グローバル化社会、多文化社会の現代において、他の文化を知ることは勿論のこと、我々の文化について自覚的であればならない。身近な「ことば」や作品を通じ、受講生自身が日本文化とは何かを見つめ直すことを毎回の課題とする。						5 日本人における「恥」 形容詞「やさし」の変容など日本語の側面から「恥」を考察する。 予復修課題： 配布資料を元に「恥」について予復修すること。	
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。</li> <li>・日本文化について説明することができる。</li> <li>・作品内部の「ことば」を読み解き、自分で解釈することができる。</li> <li>・慣用句を文化の一事象として理解することができる。</li> </ul>						6 「やさしさ」の表現構造 『泣いた赤鬼』等に見る「やさしさ」について講義する。 予復修課題： 配布資料を元に「やさしさ」について予復修すること。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。								
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。								
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。								
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・毎回の授業でミニツツペーパーを全て提出すること。 ・授業中においては、積極的に参加すること。 ・身のまわりの「ことば」や「伝説」について関心を持つこと。 ・授業（教材含む）の予復修を約1時間行うこと。					
1. 小テスト、感想文など		%						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		30 %						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		50 %	・毎回の授業でミニツツペーパーを実施する。 ・自分で漢字を創作する(14回目)。 ・身のまわりの「ことば」について調査する。 ・クリッカーを用いて授業内容に取り入れる。					
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	随時、プリントを配布する。							
参考書	加藤周一『日本文化における時間と空間』をはじめ、授業内で適宜紹介する。							
					15 まとめのテストおよび授業の総括を行う。 予復修課題： 配布資料を元に授業全体の復修すること。			

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ことばと日本文化 Japanese Language and Culture			単位数	授業内容*	
担当者	古浦 修子 (KOURA Shuko)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1101・ERB1101・SSB1101		
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰﾌﾞﾙｰ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期			
授業概要	遠藤周作は、その作品を通して、日本人とキリスト教との関わりを生涯追究した作家です。人生の意味をあたかく誠実に問う作風は、今もなお多くの読者に親しまれています。また遠藤文学は、代表作『沈黙』のハリウッド映画化、長崎・天草の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録などにより、近年ふたたび注目され世界的評価も高まっています。この授業では、人間の弱さや苦しみに共感の眼差しを向ける遠藤文学の特徴やテーマについて学び、作品の現代社会における意義を考えていきます。					
授業到達目標	1)日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。 2)文学作品を通して「かくれ切支丹(キリシタン)」の歴史を知り、価値観の多様性や異文化との共生に対する視点を養うことができる。 3)ことばによる芸術的表現を通して、現代日本人にとって 信じる こととは何かを考え、理解することができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)授業では毎回ミニッツペーパーを提出すること。			
1. 小テスト、感想文など		%	2) 授業には積極的に参加すること。			
2. 中間テスト		%	3) 配付資料を活用し、授業の予復修を約1時間おこなうと、より一層理解が深まります。			
3. 課題レポートなどの提出物	30	%	4) 授業理解のため『最後の殉教者』『おバカさん』『沈黙』を読んでおくことをお勧めします。作品の入手方法は授業で説明します。			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲	10	%				
6. 自主的学習(予習・復習など)	10	%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	50	%	ミニッツペーパー(毎回)			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する		しない			
教科書	授業で取り上げる作品や関連資料をまとめたプリントを毎回配付し、教科書の代わりとする。					
参考書	遠藤周作・佐藤泰正『人生の同伴者』講談社文芸文庫、2006年					
1	イントロダクション 講義の概要、評価方法について説明する。作家・遠藤周作の人物像を紹介する。 予復修課題：配付資料を読み、遠藤周作の生涯や作家としての活動について理解する。					
2	遠藤文学の背景 遠藤周作の幼年期(中国・満州での異国体験～キリスト教の洗礼)について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、幼少期の体験が遠藤の信仰と文学に与えた影響を理解する。					
3	遠藤文学の背景 遠藤周作の少年期(いたずら小僧だった中学時代～浪人・大学時代)について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、無自覚に受けた洗礼による少年期の葛藤について理解する。					
4	遠藤文学の背景 遠藤周作の青年期(フランス留学とその挫折～作家としての出発)について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、西洋との壁にぶつかった遠藤が小説家になるまでを理解する。					
5	『最後の殉教者』を読む 「切支丹(キリシタン)」の歴史を紹介し、遠藤が関心を抱いた理由について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、日本におけるキリスト教の受容と迫害の歴史について理解する。					
6	『最後の殉教者』を読む 作品において、信仰上の強者と弱者が対照的に描写されている意味について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、遠藤文学における弱者像の特徴や役割を理解する。					
7	『最後の殉教者』を読む 人間の弱さへの眼差しを作品から読み解き、信じる 行為の意味について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、遠藤文学における切支丹小説の意義を理解する。					
8	『おバカさん』を読む 遠藤文学におけるユーモア小説やエッセイの試みと、その意義について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、ユーモアという表現方法がもたらす効果について理解する。					
9	『おバカさん』を読む 主人公・ガストンの人物像と、彼を「おバカさん」と呼ぶ遠藤の意図について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、作品の人物設定と互いの関係性に象徴される「愛」を理解する。					
10	『おバカさん』を読む ガストンの生き方を通して描かれる、日本人にも実感できるイエス像について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、作品が表す日常性とそれを越えた世界との関係を理解する。					
11	『沈黙』を読む 遠藤周作の大病による入院・手術体験と、その後の作家としての転機について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、遠藤の「生活」と「人生」に対する考え方の変化を理解する。					
12	『沈黙』を読む 主要人物である宣教師ロドリゴと、切支丹キチジローの人物像と関係について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、人間の裏切りや醜さを受け止めようとするロドリゴの葛藤を理解する。					
13	『沈黙』を読む ロドリゴが烈しい迫害に直面し葛藤する様子を通して描かれる「愛」について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、知識ではなく自身の体験として信仰に向き合う人間像を理解する。					
14	『沈黙』を読む 主要人物の裏切りや挫折の中に、新たな意味を見いだす作品の視点について講義する。 予復修課題：配付資料を読み、ロドリゴが信仰を棄てた後の年月が描かれる意味を理解する。					
15	まとめ これまでの授業を総括し、まとめのテストを実施する。 予復修課題：配付資料を読み、遠藤文学の「人間凝視」に対する自分の考えをまとめる。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ことばと日本文化 Japanese Language and Culture			単位数	授業内容*	
担当者	前田 知津子 (MAEDA Chizuko)			2	オリエンテーション 1 講義の概要や評価方法について説明する。 予復修課題： 配付資料を元に、日本の伝統的短詩形について復修すること。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1101・ERB1101・SSB1101	2 上代の文学 『古事記』を中心に 『古事記』の成立、構成について『日本書紀』を参照しつつ講義する。 予復修課題： 配付資料を元に、『古事記』の成立、構成について予復修すること。	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰﾌﾞﾙｰ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期			
授業概要	上代の文学から『古事記』『万葉集』を取り上げ、日本の伝統的な詩形である歌（歌謡・和歌・短歌）を講読する。上代は、口誦によって伝えられてきた神話や歌謡などが、『古事記』等に定着する時代である。『古事記』は、単に現存するわが国最古の歴史書という位置づけばかりでなく、その後の文学作品に影響を与えた点においても重要である。現存最古の歌集『万葉集』も同様である。本講義では、上代から現在に至るまで行われている歌をとらえて、日本文化を考える視点を提示することを一つの目的とする。					
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統文化に対する造詣を深めることができる。</li> <li>文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。</li> <li>文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができる。</li> <li>上代文学に関する基本的な知識を得ることができる。</li> <li>小倉百人一首に関する基本的な知識を得ることができる。</li> </ul>					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性をもって授業に参加すること。</li> <li>予復修の時間を2時間程度取り、理解を深めること。</li> <li>毎回のミニッツペーパーをすべて提出すること。</li> <li>11回目には歌一首、14回目には互選用紙を提出すること。</li> <li>配布するプリント類を整理すること。</li> </ul>			
1. 小テスト、感想文など		%	<b>アクティブ・ラーニング</b> ミニッツペーパー〔毎回〕 実践学習〔第11回、第14回〕			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		50 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
15		まとめ まとめのテストと授業の総復修をする。互選の結果を発表する。 予復修課題： 配付資料を元に授業全体の復修すること。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ことばと日本文化 Japanese Language and Culture			単位数	授業内容*			
担当者	吉田 宰 (YOSHIDA Tsukasa)			2	1 オリエンテーション 講義の内容や評価方法などについて説明する。「くずし字」について講義する。 予復修課題：配布資料をもとに、「くずし字」について復修すること。			
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1101・ERB1101・SSB1101	2 日本古典籍の基礎知識 日本古典籍について、写本や版本などに関する基礎事項を講義する。 予復修課題：配布資料をもとに、日本古典籍について予復修すること。			
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 日本古典籍の基礎知識 日本古典籍について、写本や版本などに関する基礎事項を講義する。 予復修課題：配布資料をもとに、日本古典籍について予復修すること。		
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期				4 江戸時代の文芸概説 江戸時代の文芸について、「雅」と「俗」という視点から講義する。 予復修課題：配布資料をもとに、江戸時代の文芸について予復修すること。	
授業概要	本講義では、明治時代以前における日本古典籍について、とくに江戸時代の文学を中心に取り上げる。江戸時代の文学は、『源氏物語』や『伊勢物語』といった伝統的な物語からの影響を大いに受けながら、一方で仮名草子や読本といった、江戸時代になって新たに生まれたジャンルも存する、多種多様なものであった。本講義では、そうした豊潤な江戸時代の文学を通して日本文化に対する学生の理解を深めることを目的とする。また「くずし字」（変体仮名）の読解指導も講義内において行うことで、学生が日本文化を理解する際の一助としたい。						5 「くずし字」でよむ日本古典文学 『伊勢物語』について概要を説明し、該書を「くずし字」でよむ。 予復修課題：配布資料をもとに、『伊勢物語』および「くずし字」について予復修すること。	
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。</li> <li>・日本古典籍や「くずし字」について、基礎的な知識や読解能力を身につけることができる。</li> <li>・江戸時代の文学について、その特徴を理解することができる。</li> </ul>						6 「くずし字」でよむ日本古典文学 『仁勢物語』について概要を説明し、該書を「くずし字」でよむ。 予復修課題：配布資料をもとに、『仁勢物語』および「くずし字」について予復修すること。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )								
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。								
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。								
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。								
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・毎回のミニッツペーパーをすべて提出すること。 ・授業中においては、積極的に参加すること。 ・授業の予復修を1時間程度行うことが望ましい。					
1. 小テスト、感想文など		%						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		30 %						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		50 %	・ミニッツペーパー(毎回)。					
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	随時プリントを配布する。							
参考書	授業中に適宜指示する。							
15		まとめ まとめのテストおよび授業の総括を行う。 予復修課題：配布資料をもとに、授業全体の復修をすること。						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツの文化 Sports Culture			単位数	授業内容*	
担当者	内田 満 (UCHIDA Mitsuru)			2	1 本授業の目的・概要・評価方法などの説明を行う。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 予復修課題：スポーツ振興法と基本法について学んでおく。 グループワークを行うための班分けやワークショップの目的などを説明する。 またスポーツの歴史についての概要を講義する。 予復修課題：古代オリンピックについて調べ、レポートする。	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 スポーツの歴史 - 戦前・戦後期におけるスポーツの歴史について説明する。 またグループで、戦争とスポーツとの関わりについて討議する。 予復修課題：スポーツ種目の発祥について調べ、レポートする。
配当年次	1-2年生	開講学期	前期			4 スポーツの歴史 - 戦後期におけるスポーツとコミュニティスポーツについて説明する。また競技スポーツと生涯スポーツのイメージについてグループ討議をする。 予復修課題：体育指導委員について調べ、レポートする。
授業概要	2020年の東京オリンピックを契機に、国内でもスポーツの気運が高まっている。平成23年に改正されたスポーツ基本法の前文では文化としてのスポーツも強調されている。しかし一方では、ハラスメントの問題などがメディアなどで取り上げられるようになり、その影響が社会を賑わせてもいる。改めて、スポーツは人間と社会にとってどのような意味を持つのか、理解を深めていくことが問われている。本授業では、スポーツの概念や歴史を踏まえ、現代におけるスポーツのとらえ方(フェアプレイやスポーツマンシップなど)を学ぶ。					
授業到達目標	1. スポーツの歴史的な背景を学び、文化としてのとらえ方を理解する 2. 我が国における、スポーツの歴史を学び、現代におけるスポーツのあり方を議論できる 3. 今後の生涯スポーツのあり方について、提案できる能力を身につける					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業形式は講義形式とグループによるワークショップを基本とする。その中で、自分なりの意見(哲学)をまとめたり、グループとしてのコミュニケーションを深め、組織的な意見集約を行う。課題は10回程度を予定しており、その都度提示する。課題に応じ、授業でフィードバックする。 予復修時間：1時間程度			
1. 小テスト、感想文など		10 %	アクティブ・ラーニング ・グループディスカッション [第2~10回] ・グループワーク [第11~14回] ・プレゼンテーション [第15回]			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		20 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	必要に応じて資料を配付する					
参考書	関春南「戦後日本のスポーツ政策 その構造と展開」大修館書店、1997年					
	15					本授業のまともとしての試験を行う(60分)。終了後、試験内容を中心に解説と振り返りを行う。 予復修課題：試験に必要な資料のまとめなどを行っておく。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ことばと異文化 Foreign Languages and Cultures			単位数	授業内容*					
担当者	永松 美保 (NAGAMATSU Miho)			専任	1 オリエンテーション 講義概要・受講についての説明、及び、諸注意 予復修課題：講義概要で、見聞きした馴染みのない学術用語は調べておく。					
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1103・ERB1103・SSB1103	2 イギリスについて全体像の説明、及び、学生個々の持つイメージの発表 予復修課題：イギリスについて抱いているイメージをまとめておく。					
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・法・文学部共通	3 イギリス文化について：教科書「はしがき」部分、及び、そのキーワードの説明 イギリス文化紹介 予復修課題：講義内容の復修と共に、「はしがき」に出てくる重要語句を調べてくる。				
配当年次	1-2年生	開講学期	前期				4 イギリス文化について：教科書「はしがき」部分、及び、そのキーワードの説明 イギリス文化紹介 予復修課題：講義内容の復修と共に、「はしがき」に出てくる重要語句を調べてくる。			
授業概要	交通網の発達で海外の国々が身近になった現在、21世紀を生きる皆さんにとって外国の文化を知ることは大切なことです。 この講義では、英語圏の国の中でも、特に、イギリスに焦点をあて、イギリス文化を説明して行きます。講義では、イギリス文化関係の専門書を用いて、イギリスの位置、気候からイギリスの繁栄の歴史などまで説明します。 時間が許せば、テーマ毎に学生の皆さんにグループ発表をして貰うこともあります。						5 イギリス文化について：教科書「はしがき」部分、及び、そのキーワードの説明 イギリス文化紹介 予復修課題：講義内容の復修と共に、「はしがき」に出てくる重要語句を調べてくる。			
授業到達目標	英語圏の文化を学ぶことによって、国際社会で生きて行くことが可能な教養を身につけ、国際情勢に敏感な意識を持つことができるようになる。						6 イギリスの産業・気候・緯度・正式名称等の説明 イギリス文化紹介 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							7 4つの文化圏について (イングランドについて) イングランドのそれぞれの地域等について 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。							8 4つの文化圏について (イングランドについて) 他地域、他国対イングランドの関係 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。							9 4つの文化圏について (ウエールズについて) ウエールズの特徴 (産業・気候・言語等) 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。							10 4つの文化圏について (スコットランドについて) スコットランドの特徴 (産業・気候等) 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				11 4つの文化圏について (北アイルランドについて) 北アイルランドの特徴 (産業・気候等) 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修に際しては、第1回目の講義に必ず出席し、講義概要を把握して受講を決めて下さい。出席状況、受講態度については、厳しく対応します。そのことも念頭に置いて履修を決めて下さい。また、受講学生は必ず教科書を携えて、講義に臨んで下さい。 講義に際しては、60分程度を目安に、講義内容の予復修修を行って下さい。				12 大英帝国の光と影 イギリスの帝国主義政策とその繁栄 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
2) 最終到達度の評価							13 大英帝国の光と影 ヴィクトリア時代の女性達を中心として 予復修課題：講義内容の復修と共に、次回講義予定箇所まで教科書を読んでくる。			
1. まとめのテスト		70 %					14 現在のイギリス社会 (階級制度、移民問題等) 階級制度と移民問題を中心に 予復修課題：講義内容の復修と共に、イギリスの階級制度を調べてくる。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%					15 まとめのテストと総括 予復修課題：講義内容を振り返って、試験勉強を行う。			
3.		%								
再評価の実施	する	しない								
教科書	概説 イギリス文化史 (佐久間康夫他、ミネルヴァ書房)									
参考書	イギリス文化史入門 (昭和堂、井野瀬久美恵編)、英米女性作家 (久守和子他、ミネルヴァ書房)									

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ことばと異文化 Foreign Languages and Cultures		単位数	授業内容*	
担当者		森田 司 (MORITA Tsukasa)		2	1 オリエンテーション： シラバスの解説を行う。また、授業の進め方、評価方法、授業概要を説明する。 予復修課題：オリエンテーションプリントの再確認。次回のクイズについて事前に考えておく。(120分程度)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEB1103・ERB1103・SSB1103	2 新しい国アメリカ（植民地時代） 植民地時代から現在のアメリカに続く源流を考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。リンカーン、南北戦争について調べておく。(120分程度)	
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 アメリカらしさってなんだろう？（独立期から南北戦争まで） 新興国アメリカのアイデンティティ追求を考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。「アメリカン・ドリーム」とは何か調べておく。(120分程度)
配当年次		1-2年生	開講学期 前期/後期	4 アメリカの金メッキ時代（南北戦争後から第一次世界大戦まで） 華々しい経済成長とその裏にある欺瞞を考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。禁酒法に関して調べておく。(120分程度)		
授業概要		アメリカは超大国として今なお軍事や経済など、様々な面で世界に多大な影響を及ぼしている。日本とアメリカの関しても時に協力し合い、時に批判し合っておりその例外ではない。しかし、アメリカは決して建国の当初から強大な国ではなかった。第1～9回目では、時系列順にアメリカ成立以降の道程を文学作品や映画を通して説明する。第10～14回目では、それぞれテーマを絞り、アメリカにおける様々な問題を学ぶ。				
授業到達目標		歴史を学ぶことで、アメリカという国を具体的、客観的に知ることができる。文学作品や映画を通してアメリカの文化に触れ、理解することができる。アメリカにおける諸問題を学び、多文化共生に必要な視点を持つことができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法（全体で100%）			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1. 履修にあたり、第一回目の講義に参加して講義概要を把握して受講をすることが判断して下さい。			
1. 小テスト、感想文など		20 %	2. 授業はスライドとプリント及び、関連する映画などで行います。			
2. 中間テスト		%	3. 毎回、授業初めに内容に関するクイズを、授業終わりに感想を書いてもらいます。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		40 %	毎回授業内容に関するクイズを出します。その際、必要であればグループディスカッションを行います。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書 プリントを配布します。参考文献があれば、適宜紹介します。						
参考書 諏訪部浩一他『アメリカ文学入門』三修社、2013年 猿谷要『アメリカ500年の物語』平凡社、2004年						
11		エスニシティから今のアメリカを考える（人種） ヒスパニック系、アジア系の台頭など、さらに複雑化する多様性を考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。「ジャパンバッシング」とは何か調べてくる。(120分程度)				
12		目の上のたんこぶ？（ジャパン・バッシング） 映画『ガン・ホー』を通し、他国への不当な攻撃について考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。小説の歴史、「セクシャリティ」とは何か調べてくる。(120分程度)				
13		欲望の表現（セクシャリティ） 小説の広まりと共に成長した欲望の表現を考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。「カルヴィニズム」とは何か調べてくる。(120分程度)				
14		超厳格キリスト教徒が作った国アメリカ（宗教） アメリカにおける宗教観がどのように変化していったのかを考察する。 予復修課題：授業内容をプリントで復修する。次回のクイズについて事前に考えておく。(120分程度)				
15		まとめ 勉強してきた内容の総括し、まとめのテストを行う。 予復修課題：これまでの授業をプリントで復修する。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ことばと異文化 Foreign Languages and Cultures		単位数	授業内容*			
担当者		黄 冬柏 (HUANG Dongbai)		2	専任			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEB1103・ERB1103・SSB1103				
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通			
配当年度	1-2年生	開講学期	後期					
授業概要	中国の古典小説『三国志演義』は名言の宝庫と言ってもよい。「三顧の礼」をはじめ、世に知られた名句も多い。この講義では、『三国志演義』にまつわる名句を学習しながら、小説における虚実の組み合わせや英雄豪傑の人物像を理解する。 具体的に、「桃園の誓い」や「三顧の礼」「赤壁の戦い」などの名場面を中心に、DVD映像を鑑賞しながら、パワーポイントと配布資料を通して勉強を進めていく。					1	ガイダンス：シラバスを配付し、授業の内容や進め方、および成績評価などについて詳しく説明する。 予復修課題： 三国志を調べてくこと、配付資料「三国志演義の世界」を復修すること。予復修の目安時間：各120分。	
授業到達目標	中国のことばと文化に興味を持ち、三国志物語の面白さを知る。また、中国の社会や文化、及び人々の考え方をより深く理解できる。さらに、学習を通して得られる世界についての情報を深く理解し、現代の日本社会について広い視野から考えられるようになる。					2	ことばと小説『三国志演義』 パワーポイントで小説『三国志演義』にまつわる名言を紹介する。 予復修課題： 『三国志演義』にまつわる名言を調べてくこと。予復修の目安時間：各120分。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							3	名場面1：「桃園の誓い」 DVD「桃園の誓い」の鑑賞と配布資料の解説。 予復修課題： 「桃園の誓い」を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。
【知識・技能】	キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					4	人物像1：神になった英雄 関羽 パワーポイントで関羽について解説する。 予復修課題： 配付資料を熟読し、関羽について調べてくこと。予復修の目安時間：各120分。	
【思考力・判断力・表現力】	本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					5	名場面2：「官渡の戦い」 DVD「官渡の戦い」の鑑賞と配布資料の解説。 予復修課題： 「官渡の戦い」を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。	
【主体性・協働性】	自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					6	人物像2：曹操はなぜ悪役なのか パワーポイントで曹操について解説する。 予復修課題： 配付資料を熟読し、曹操について調べてくこと。予復修の目安時間：各120分。	
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項					7	名場面3：「三顧の礼」 DVD「三顧の礼」の鑑賞と配布資料の解説。 予復修課題： 「三顧の礼」を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業に参加し、ノートを取ること。 授業中は、積極的にディスカッションに参加すること。 授業後に、感想文などを提出すること。					8	人物像3：劉備の人徳 パワーポイントで劉備について解説する。 予復修課題： 配付資料を熟読し、劉備について調べてくこと。予復修の目安時間：各120分。
1. 小テスト、感想文など	20 %						9	名場面4：「赤壁の戦い」 DVD「赤壁の戦い」の鑑賞と配布資料の解説。 予復修課題： 「赤壁の戦い」を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。
2. 中間テスト	%						10	人物像4：諸葛孔明の知恵 パワーポイントで諸葛孔明について解説する。 予復修課題： 配付資料を熟読し、諸葛孔明について調べてくこと。予復修の目安時間：各120分。
3. 課題レポートなどの提出物	20 %						11	名場面5：「関羽の最期」 DVD「関羽の最期」の鑑賞と配布資料の解説。 予復修課題： 「関羽の最期」を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。
4. 授業中の発表、討論	10 %						12	人物像5：呉の孫権 パワーポイントで孫権について解説する。 予復修課題： 配付資料を熟読し、孫権について調べてくこと。予復修の目安時間：各120分。
5. 授業への参加意欲	10 %						13	名場面6：「秋風五丈原」 DVD「秋風五丈原」の鑑賞と配布資料の解説。 予復修課題： 「秋風五丈原」を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。
6. 自主的学習(予習・復習など)							14	日本における『三国志演義』の受容 パワーポイントで日本における『三国志演義』の受け入れ方について解説する。 予復修課題： 『三国志演義』の受容を調べてくこと、配付資料を熟読すること。予復修の目安時間：各120分。
7.							15	まとめ 勉強した内容の総括と質疑応答を行った後、課題レポートを課す。 予復修課題： 全部の配付資料の整理と復習を行ってレポートを書くこと。予復修の目安時間：各120分。
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		・ミニッツペーパー：第1回・第5回・第11回						
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %	・ミニッツレポート：第3回・第7回・第13回						
3.		・グループディスカッション：第6回・第12回						
再評価の実施	する	しない						
教科書	プリント配布							
参考書	羅貫中著・井波律子訳『三国志演義』 筑摩書房 2002年							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ことばと異文化 Foreign Languages and Cultures		単位数	授業内容*		
担当者		山本 洋一 (YAMAMOTO Yoichi)		2	1		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	イントロダクション 授業の進め方と概要説明		
授業形式		講義		EEB1103・ERB1103・SSB1103	2		
配当年度		1-2年生		履修学部	ドイツ(1) ライン河から見るドイツ		
開講学期		後期		経済学部・スポーツ学部共通	予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:フランス革命(1789年)について調べる。(約1時間)		
授業概要	「異文化」がもたらす「外国」や「外国人」との連関で認識されることには一定の批判を向ける						
	「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した時代を生きる今日の私たちは、日常的に「異文化」の存在を強烈に意識させられています。そうした状況下では多様性の共生が求められる一方で、現実には自らの価値観から外れる他者を排斥する傾向も顕在化しています。本講義では、主にヨーロッパを対象として、歴史、政治、文化的背景などの多様な観点と関連づけながら、「異文化」というテーマに多角的にアプローチします。						
授業到達目標	1. 「異文化」に対する既存のイメージと現実のギャップを客観化することができる。						
	2. 「文化」を形成する諸要素を認識し分析的に理解することができる。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						3	
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				ドイツ(2) ライン河から見るドイツ	
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				4	
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:ユダヤ人の歴史を概観しておく。(約1時間)	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				5	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		講義内容のまとめり毎に、内容確認のための小テストを複数回実施します。		ドイツ(3) ライン河から見るドイツ	
1. 小テスト、感想文など		70%		板書、スライド、配布プリントさらには口頭で説明した内容はどれも重要ですから、必ずノートを取り、授業外での予復修(各1時間程度)に役立ててください。小テストも、その内容に添って出題されます。		予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:東西冷戦について調べる。(約1時間)	
2. 中間テスト		%				ドイツ(4) 東西ドイツ分断と「ベルリンの壁」	
3. 課題レポートなどの提出物		20%				予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:東ドイツの政治体制を概観しておく。(約1時間)	
4. 授業中の発表、討論		%				ドイツ(5) 東西ドイツ分断と「ベルリンの壁」	
5. 授業への参加意欲		5%				予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:「ベルリンの壁」崩壊について調べる。(約1時間)	
6. 自主的学習(予習・復習など)		5%				ドイツ(6) 東西ドイツ分断と「ベルリンの壁」	
7.		%				予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:世界の移民問題について調べる。(約1時間)	
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				7	
1. まとめのテスト		%		講義内容理解確認のための小テスト		8	
2. 論文、まとめのレポートなど		%		レポート執筆		移民とその問題(1) イギリスの移民政策とその影響	
3.		%				予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:世界の移民問題について調べる。(約1時間)	
再評価の実施		する		しない		9	
教科書		特別な教科書は使用しない				10	
参考書		特になし				11	
						予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:イタリアについて概観しておく。(約1時間)	
						12	
						イタリア(1) イタリア統一国家建国とその背景	
						予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:歌謡「サンタルチア」の日本語歌詞を調べる。(約1時間)	
						13	
						イタリア(2) ローマ帝国とキリスト教	
						予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:ヴェネツィアの歴史建造物について調べる。(約1時間)	
						14	
						イタリア(3) ヴェネツィアとその繁栄	
						予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。予修:ローマの歴史建造物について調べる。(約1時間)	
						15	
						イタリア(4) ローマ建国神話	
						予復修課題: 復修:授業内容をまとめる。(約1時間)	
						まとめ	
						予復修課題: 授業全体の復修(約1時間)	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		情報文化論 Theory of Information and Culture		単位数	授業内容*			
担当者	福島 宙輝 (FUKUSHIMA Hiroki)			非常勤講師	1	本講義の目的及び講義の進め方について説明する。 例を挙げながら情報社会について解説する 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)		
実務経験のある教員による授業	ナンバリング			EEB1104・ERB1104・SSB1104	2	機械はどのように「思考」するかを講義する 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)		
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3	デジタルデータとアナログデータ 情報量とは何か 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
配当年次	1-2年生	開講学期	後期			4	人は世界をどのように観ているのか ～表象とは何か（1）視覚と聴覚の実験～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
授業概要	犬も歩けば人工知能が乱舞する時代に、我々の知的生命体としての存在価値が問われている。本講義は、人工知能と情報技術の基礎を論じ、対比的に人間の思考の特性を論じる。講義の後半においては最先端の人工知能研究を紹介しつつ、人工知能とは何か、今後の知能研究の進む道を紹介する。同時に、アフォーダンスを中心として環境に埋め込まれた知性、身体性の重要性を論じる。					5	人は世界をどのように観ているのか ～表象とは何か（2）味覚と嗅覚と触覚の実験～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
授業到達目標	①記憶とデータを基軸概念として機械の情報処理の特性を、人間の思考と対比的に説明できる ②表象と記号を基軸概念として、人間の思考の特性を機械の情報処理と対比的に説明できる ③人工知能の先端的システムとその内包する課題を理解できる					6	人間と機械とハリネズミの記憶の仕組み ～環境に埋め込まれた知性と身体性～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕								
【知識・技能】	キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				◎	7	予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度) 中間試験と解説	
【思考力・判断力・表現力】	本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				○	8	予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
【主体性・協働性】	自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					9	人類史上の天才とその思考に迫る 羽生善治、ひふみん、チャールズ=サンダース=パース、アラン=チューリング 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
成績評価の方法（全体で100%）		履修における留意事項				10	人工知能の黒歴史と第三次AIブーム 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	毎回の課題も思索的で、ハイレベルです。毎回、180分程度の予復修を要します。					11	結局人工知能は何がすごいのか ～ビッグデータとディープラーニング～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)
1. 小テスト、感想文など	25 %					12	アフォーダンスと環世界 ～普遍性と客観性に毒された自然科学を打ち破れ～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
2. 中間テスト	25 %					13	アフォーダンスを探すフィールドワーク ～知的かつ思索のお散歩の技術と実践～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
3. 課題レポートなどの提出物	%					14	総括：記号論への招待 ～記号のしくみと味覚表象構成論～ 予復修課題：講義内容のまとめを作成する(180分程度)	
4. 授業中の発表、討論	%					15	最終課題と解説を実施する	
5. 授業への参加意欲	25 %						予復修課題：最終課題に向けての予習(180分程度)	
6. 自主的学習(予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%							
2. 論文、まとめのレポートなど	25 %							
3.	%							
再評価の実施	する							
教科書	福島宙輝『あ、これ美味しいの言い換え力』三才ブックス、2018							
参考書								

\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	歴史と国際情勢 International Affairs and History			単位数	授業内容*		
担当者	鎌田 厚志 (KAMATA Atsushi)			2	1	国際政治とは何か、市民にとっての学問教養としてなぜそれが必要かについて考えてみる。また、今後の授業日程や到達目標について解説する。 予復修課題：国際政治の時事問題に触れる(予復修180分)。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1105・ERB1105・SSB1105	2	国際関係の最も重要な主体である「国家」の主要な三つの要素、特にその中の領域と国民について学ぶ。 予復修課題：領土問題等に関心をもって学ぶ。(予復修180分)	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3	近代において「主権国家」が、歴史的にどのようにして誕生したかについて説明する。 予復修課題：主権概念形成の背景となる歴史を学ぶ。(予復修180分)
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期			4	封建社会だった江戸期から明治維新を経て、日本が近代主権国家へと変化した歴史を学ぶ。 予復修課題：日本の幕末・明治の歴史を学ぶ。(予復修180分)
授業概要	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際関係論の主要な理論(リアリズム、リベラリズム等)に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦等の歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。政治と国際問題に対する基礎的知識と能動的な思考能力を身につけることを目指す。					5	近代における国民国家形成の歴史、ナショナリズムとは何かについて学ぶ。 予復修課題：国民国家について学ぶ。(予復修180分)
授業到達目標	1. 国家をはじめとした国際政治の行為主体(アクター)についての基礎知識を身につけることができる。 2. 国際政治に対する基本的な見方・理論を把握することができる。 3. 国際政治の歴史および現状についての理解を深めることができる。					6	最も主要な国際機関である国際連合について、その歴史や制度について学ぶ。 予復修課題：国連について学ぶ。(予復修180分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					7	国際経済機関であるIMF・世界銀行や、WTOについて学ぶ。 予復修課題：国際経済機関について学ぶ。(予復修180分)	
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					8	グローバル化の時代において大きな力を持つに至った多国籍企業について学ぶ。 予復修課題：多国籍企業について学ぶ。(予復修180分)	
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					9	グローバル化の問題点である、タックス・ヘイブン等の問題について学ぶ。 予復修課題：タックス・ヘイブン等について学ぶ(予復修180分)	
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	該当範囲の現代社会や世界史の予習、または新聞やニュース等に目を通すことに、毎回少なくとも一時間以上は用いて、日ごろから自分の見識や思考力を深めることを求めます。復修も同程度以上の時間をかけることが望ましいです。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		70 %	毎回質問用紙を配布します(記入は自由)。				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	質問に答える形で時事問題等を取りあげたいと思いますので、積極的な質問を期待します。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	特に使用しない。講義で使用する資料は配付する。					11	リアリズムと並ぶ主要な国際政治理論であるリベラリズムについて、その歴史や課題や概要について説明する。 予復修課題：リベラリズムについて学ぶ。(予復修180分)
参考書	村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣(2015年)					12	規範やアイデンティティの観点から国際関係の変化を説明するコンストラクティビズムの理論を説明する。 予復修課題：コンストラクティビズムについて学ぶ。(予復修180分)
					13	国際社会における貧富の格差の問題に対する構造的アプローチについて学ぶ。 予復修課題：南北問題等について学ぶ。(予復修180分)	
					14	国際政治理論に大きな影響を与えた第一次世界大戦について学ぶ。 予復修課題：第一次世界大戦の歴史について(予復修180分)	
					15	授業のまとめ・試験を実施する。 予復修課題：今までの授業内容の復修。(予復修180分)	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		現代国家と法（日本国憲法） Law and Contemporary Nations (The Constitution of Japan)		単位数	授業内容*			
担当者		古澤 勝人 (FURUSAWA Katsuto)		2	1 「憲法とは何か(1)」 憲法の目的、背景、構成および特徴について概説する。 予復修課題：[復修]憲法は何のために存在し、何を対象とするものか、まとめておくこと。			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSB1106	2 「憲法とは何か(2)」 憲法の基本原理、法の支配、立憲主義などについて述べる。 予復修課題：[復修]「法の支配」について説明できるようになっておくこと。			
授業形式		講義	科目区分	総合共通科目	履修学部			
配当年次		1-2年生	開講学期	前期/後期	スポーツ学部			
授業概要		「憲法とは何か」「現代社会において憲法はどのような重要性を持つのか」「人権にはいかなるものがあるのか」「国家のあり方に関する基本原理やルールとは」こうした基本的問題について解説してゆく。全体の構成としては、まず憲法とは何かについて概説した後に、前半部では人権に関する項目、後半部では統治機構に関する項目を主題として講義を行う。				3 「人権」 人権の概念や性質、また人権がどのように分類できるかに関して解説する。 予復修課題：[復修]資料を見て自由権・参政権・社会権の特徴について整理しておくこと。		
授業到達目標		〔1〕憲法が現代社会や国民の生活においてどのような意味を持つのか説明できる。 〔2〕人権および憲法に関する諸問題について学び、社会現象と関連づけて思考できる。 〔3〕憲法に規定されている統治機構とその原理について説明できる。				4 「法人・子供の権利」 基本的人権が制限されうる場合の事項として解説する。 予復修課題：[復修]法人の「人権享有主体性」について説明できるようになっておくこと。		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						5 「外国人の人権」 外国人の権利はどの程度保障されているのか概説する。 予復修課題：[復修]外国人の権利に関し、参政権・社会権・入国の自由についてまとめておくこと。		
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						6 「包括的基本権」 「新しい人権」に関して述べ、特に幸福追求権との関連について解説する。 予復修課題：[復修]憲法第13条は「新しい人権」とどのように関連するか整理しておくこと。		
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						7 「公共の福祉」 特に公共の福祉と人権に関する制約について述べ、二重の基準にも言及する。 予復修課題：[復修]「一元的内在制約説」の考え方について理解しておくこと。		
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						8 「法の下での平等」 形式的平等と実質的平等、法適用の平等と法内容の平等などについて述べる。 予復修課題：[復修]「法の下での平等」に関わる実際の事例について配布資料を読んでまとめておくこと。		
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				9 「生存権」 生存権に関して、生活保護などの事例を引用しながら概説する。 予復修課題：[復修]「プログラム規定説」と「法的権利説」について理解しておくこと。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	講義においては、空所のある資料を配布し、授業を受けながら該当する箇所に記入してゆく形式をとるため、復修として、完成した資料をよく読んで理解し、図書館などで憲法に関する書籍を参考にしながら学習項目の知識を深めておくこと。予修として、次回授業のテーマについて調べておくこと。(所要学習時間：2時間程度)				10 「教育を受ける権利・人権に関する各種事項」 教育に関する権利、また表現の自由や学問の自由など人権の各種事項に言及する。 予復修課題：[復修]「教育権の所在」に関する問題について説明できるようになっておくこと	
1. 小テスト、感想文など		%					11 「国民主権・権力分立」 国民主権と民主制、権力分立の原理と特質、また行政国家現象について概説する。 予復修課題：[復修]「権力分立」の4つの特質について、資料を読んでまとめておくこと。	
2. 中間テスト		%					12 「国会」 国会の地位、二院制、衆議院と参議院、国会の権能などについて解説する。 予復修課題：[復修]授業内容をもとに衆議院と参議院の機能と役割を比較検討しておくこと。	
3. 課題レポートなどの提出物		%					13 「内閣」 行政権と内閣、内閣総理大臣と国務大臣、内閣不信任決議などについて述べる。 予復修課題：[復修]「内閣不信任決議」と「衆議院の解散」について理解しておくこと。	
4. 授業中の発表、討論		%					14 「裁判所」 司法権と裁判所、最高裁判所と下級裁判所、司法権の限界などについて概説する。 予復修課題：[復修]資料をもとに裁判所の種類、国民審査、司法権の独立について整理しておくこと。	
5. 授業への参加意欲		30 %					15 「授業総括・まとめのテスト」 予復修課題：これまでの講義と配布資料を中心にしっかりと復修しておくこと。	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめテスト		70 %	ミニッツペーパー [第4回、第8回、第12回]					
2. 論文、まとめレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書		講義の際、資料を配布する。						
参考書		初宿正典ほか『いちばんやさしい憲法入門(第5版)』有斐閣[2017]、芦部信喜『憲法(第7版)』岩波書店[2019]等						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	暮らしと経済 The Economy and Daily Life			単位数	授業内容*	
担当者	甘 長青 (KAN Chousei)			2	1 第1章 経済学ってなんだろう (経済学、希少性、財・サービス、ニーズと欲求、最適化行動、生産要素、インセンティブ、価値、価値の逆説、効用) (テキスト12-18頁) 予復修課題: 日々の生活を連想し経済の概念を理解する。テキストを予修する目安時間: 2時間	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 第1章 経済学ってなんだろう (富、家計、市場、経済循環、経済主体、自由市場経済、経済成長と生産性、分業、特化、トレード・オフ、費用) (テキスト19-25頁) 予復修課題: 日々の生活を連想し経済の概念を理解する。テキストを予修する目安時間: 2時間	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	EER1107・ERB1107・SSB1107	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期	経済学部・スポーツ学部共通		
授業概要	インセンティブ、需要と供給、機会費用、消費者物価指数、経済成長率、所得再分配、GDP、量的緩和、マイナス金利、比較優位、消費税率引上げ、デフレーション、自由貿易等といった新聞やビジネス書によく出てくる「わかっているようで、実はわかっていない」用語やわかりにくい経済の理論や概念をやさしい言葉で解説する。また、できるだけ我々の日々の暮らしと生活に関係が深いテーマなどを通じて実社会の仕組みを理解し、より高度な経済学分野の専門知識の習得への橋渡しとすべく、基礎知識 (リテラシ-) を固めさせる計画である。					
授業到達目標	テキストにあるイラスト+簡単な説明で、経済の仕組みに明るい学生になることができる。また、「身の回りにこういう事象があったな」と学生諸君の日々の暮らしに身近な事例の経済的背景を理解することができる。さらに、一歩進んで、恋愛、就職、結婚、出産など人生の各ターニングポイントにおいて、どうしたらいいかを考え、最善の選択をするような経済的な知恵を身に付けることができる。					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	日々の日本経済、世界経済の動きを知るために新聞やテレビなどのマスコミを通じ、世の中の経済現象のおよそのトレンドを把握することを求める。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		40 %				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	学習効果を高めるために、中間テスト「第8回」を実施し、翌日に解説する。また、授業内容関連の「homework」を第8回 (中間テスト)、第15回 (まとめのテスト) を除き毎回導入する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	花岡幸子『経済用語図鑑』WAVE出版、2016年					
参考書						
15 予復修課題: 1~14回の授業内容を総復修する目安時間: 2時間						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		暮らしと経済 The Economy and Daily Life		単位数	授業内容*	
担当者		渡部 忠信 (WATANABE Tadanobu)		2	1 ガイダンス 授業の概要と進め方について 序論 国の経済の大きさはどうやって測るか? 「GDP」概念について整理する。 予復修課題: GDPの定義、GDP概念の限界	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEB1107・ERB1107・SSB1107	2 雇用の決定 「社会全体の雇用量」は、何を決め手に、どのように決まるのか?を見る。 会社が「雇おう」とし、労働者が「働こう」とするのはどんなときか。 予復修課題: 自発的失業と非自発的失業の違い	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期			
授業概要	2つのテーマを扱う。平穏な暮らしを送るためには、経済の安定は欠かせない。中でも日常生活に大きな影響を与えるのは、雇用と所得だから、国は「経済政策」を展開することで、より良い状態に近づけようとしている。そこで、こうした財政・金融政策が、どのような脈絡をたどって、最終的に雇用の創出や収入の増加に結びつくのか、について考察する。 グローバル化と、特に急速な人口減少が、経済と社会にどんな影響をもたらすかを、雇用・税・社会保障の3つの領域を素材に考察する。					
授業到達目標	財政政策と金融政策の意義・効果・特徴を理解する。 財・貨幣・労働の3つの市場の内容・相互関係を説明できるようになる。 人口減少の原因と影響を理解する。 雇用・年金・税等、将来社会人として生活していく上で必要な基本常識を身に付ける。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				7 財政政策1 「財政政策」とは、何を意図するものか、また、どのような種類があり、実施には、いかなる手続が必要なのか、長所・短所は何か?について見る。 予復修課題: 財政政策の長所・短所		
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				8 財政政策2 政府支出の拡大は、どれくらいGDPを増加させるか?また、そのとき消費が果たす役割は何か?について考える。 予復修課題: 政府支出乗数・租税乗数		
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				9 投資の決定 会社は、何を判断材料にして、設備投資を行うのか?を見る。また、市場利子率が、どこでどう決まるのか?についても簡単に触れる。 予復修課題: 貨幣&債券需要・貨幣供給・利子率3者の関係		
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	教材は、配布物(40ページ程度)を使用する。空欄式になっているので、毎回、出席して、キチンと補充すること。 予復修については、配布物中の「小問」から指定する。 UNIVERSAL PASSPORTに「要点」を記載するので、次の授業までに確認すること。 予復修取組時間: 1時間程度			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		10 %				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		60 %	小テスト 上記の留意事項 参照。進行に			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	応じて適時実施			
3.		%	レポート 8・14回			
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし。講義レジュメを使用する。					
参考書						
				10 金融政策1 「金融政策」とは、何を意図し、どのような手段を用いて行われるものか?また、中央銀行は、貨幣の量をどうやって左右するか?を扱う。 予復修課題: 金融緩和の3手段		
				11 金融政策2 金融政策の限界性について見たあと、財政・金融両政策の比較を行う。 不況が深刻化した局面で有用なのは、果たしてどちらの政策か? 予復修課題: 金融政策が無効になるのは、どんな状況か		
				12 人口転換 日本の「人口転換」について考察した上で、人口減少が、我が国の社会・経済にどのような影響を与えるか?について考える。 予復修課題: 戦後～現在までの日本の人口変動についてのまとめ		
				13 雇用保障 日本の雇用の特徴を、労働・社会政策の行政実務をふまえて考察する。 女性・高齢者・外国人の労働市場参加がなぜ求められているか?を考える。 予復修課題: 日本の長期雇用システムの特徴・長所・短所		
				14 社会保障 日本の社会保障の特徴を、労働・社会政策の行政実務をふまえて考察する。 現役世代と高齢者向けの比重の適否、制度の持続可能性について考える。 予復修課題: 日本の年金制度の問題点(雇用者保険と地域保険それぞれについて)		
				15 まとめとテスト これまでの授業の内容を総復修して、理解度の確認を行う。 予復修課題: 授業中に指示した個所のまとめと復修しておくこと。		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		人権・同和教育 Antidiscrimination and Human-Rights Education		単位数	授業内容*	
担当者		大和 裕美子 (YAMATO Yumiko)		2	1 ガイダンス 講義の進め方、評価方法、提出物等について説明する 予復修課題： シラバスを読み、高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 人権とは何か 人権の歴史と理念、日本国憲法の自由権と社会権 予復修課題： 人権の理念について高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)	
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 日本国憲法と人権(1) 日本国憲法制定の背景 予復修課題： 日本国憲法と制定の背景について高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)
配当年次		1-2年生	開講学期 前期			
授業概要		本授業は人権の歴史と現状を学びながら知識を深めるとともに、主体的に日常生活のなかに潜むさまざまな人権問題に気づき、問題を問題として見抜く感覚を身につけることを目標とする。個人的問題であるように見えるものは社会的問題でもある。差別や偏見などで苦しむ人びとの心の痛みに共感し分かち合い、多様な価値観を受け入れ、互いを尊重する社会の担い手となることをめざす。				
授業到達目標		1)人権に関する知識を深めることができる。 2)人権感覚を身につけることができる。 3)社会における事象を人権という視点から考えることができる。 4)自己の考えを文章で表現することができる。 5)批判的・論理的思考力を身につけることができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)予修・復修を行ない、積極的に授業に参加すること。			
1. 小テスト、感想文など		%	2)授業では、テーマに沿った映像を視聴し理解を深める。			
2. 中間テスト		%	3)普段から新聞に目を通し、人権に関する記事をスクラップすること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	1)予修・復修ミニテストの実施(2~14回)。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書 とくに指定しない。適宜レジュメ、プリント等を配付する。						
参考書 網野善彦『歴史を考えるヒント』新潮選書2001年/朴三石『知っていますか朝鮮学校』岩波ブックレット2012年						
				11 部落問題と人権(1) 被差別部落の歴史 予復修課題： これまで被差別部落について学んだことをまとめる(予復修の目安時間：2時間)		
				12 部落問題と人権(2) 同和問題への取り組み 予復修課題： 同和問題に関する国、地方行政の取り組みについて調べる(予復修の目安時間：2時間)		
				13 部落問題と人権(3) 同和問題の現状と課題 予復修課題： 同和問題に関する国、地方行政の取り組みについて調べる(予復修の目安時間：2時間)		
				14 まとめ(1) これまでの授業全体を振り返る 予復修課題： これまで配布されたレジュメを振り返る(予復修の目安時間：2時間)		
				15 まとめ(2) まとめのテストと解説 予復修課題： これまで配布されたレジュメを振り返る(予復修の目安時間：2時間)		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		人権・同和教育 Antidiscrimination and Human-Rights Education		単位数	授業内容*			
担当者		大和 裕美子 (YAMATO Yumiko)		専任	1 ガイダンス 講義の進め方、評価方法、提出物等について説明する 予復修課題： シラバスを読み、高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEB1108・ERB1108・SSB1108	2 人権とは何か 人権の歴史と理念、日本国憲法の自由権と社会権 予復修課題： 人権の理念について高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)			
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通			
配当年次		1-2年生	開講学期 後期					
授業概要		本授業は人権の歴史と現状を学びながら知識を深めるとともに、主体的に日常生活のなかに潜むさまざまな人権問題に気づき、問題を問題として見抜く感覚を身につけることを目標とする。個人的問題であるように見えるものは社会的問題でもある。差別や偏見などで苦しむ人びとの心の痛みに共感し分かち合い、多様な価値観を受け入れ、互いを尊重する社会の担い手となることをめざす。				3 日本国憲法と人権(1) 日本国憲法制定の背景 予復修課題： 日本国憲法と制定の背景について高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)		
授業到達目標		1)人権に関する知識を深めることができる。 2)人権感覚を身につけることができる。 3)社会における事象を人権という視点から考えることができる。 4)自己の考えを文章で表現することができる。 5)批判的・論理的思考力を身につけることができる。				4 日本国憲法と人権(2) 女性の人権の制定と戦後における女性の権利 予復修課題： 憲法に関する新聞記事を収集する(予復修の目安時間：2時間)		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						5 日本国憲法と人権(3) 日本国憲法第9条を考える 予復修課題： 憲法に関する新聞記事を収集する(予復修の目安時間：2時間)		
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				6 戦争と人権 戦争とプロパガンダ 予復修課題： アジア・太平洋戦争について高校までに学んだ内容を振り返っておく(予復修の目安時間：2時間)		
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				7 平和と人権 平和という概念および人権との関連について考える 予復修課題： 指定された資料を読む(予復修の目安時間：2時間)		
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				8 在日コリアンと人権(1) 在日コリアンの歴史 予復修課題： なぜ在日コリアンと呼ばれる人びとが日本に住むようになったか調べる(予復修の目安時間：2時間)		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				9 在日コリアンと人権(2) 在日コリアンに対する差別と人権(ヘイトスピーチ) 予復修課題： ヘイトスピーチについて調べる(予復修の目安時間：2時間)		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)予習・復習を行ない、積極的に授業に参加すること。			10 在日コリアンと人権(3) 在日コリアンに対する差別と人権(朝鮮学校) 予復修課題： 朝鮮学校について調べる(予復修の目安時間：2時間)		
1. 小テスト、感想文など		%	2)授業では、テーマに沿った映像を視聴し理解を深める。			11 部落問題と人権(1) 被差別部落の歴史 予復修課題： これまで被差別部落について学んだことをまとめる(予復修の目安時間：2時間)		
2. 中間テスト		%	3)普段から新聞に目を通し、人権に関する記事をスクラップすること。			12 部落問題と人権(2) 同和問題への取り組み 予復修課題： 同和問題に関する国、地方行政の取り組みについて調べる(予復修の目安時間：2時間)		
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング				13 部落問題と人権(3) 同和問題の現状と課題 予復修課題： 同和問題に関する国、地方行政の取り組みについて調べる(予復修の目安時間：2時間)	
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		40 %	1)予習・復習ミニテストの実施(2~14回)。				14 まとめ(1) これまでの授業全体を振り返る 予復修課題： これまで配布されたレジュメを振り返る(予復修の目安時間：2時間)	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					15 まとめ(2) まとめのテストと解説 予復修課題： これまで配布されたレジュメを振り返る(予復修の目安時間：2時間)	
7.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書		とくに指定しない。適宜レジュメ、プリント等を配付する。						
参考書		網野善彦『歴史を考えるヒント』新潮選書2001年/朴三石『知っていますか朝鮮学校』岩波ブックレット2012年						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		人間と哲学 Humanity and Philosophy		単位数	授業内容*	
担当者		野見山 待子 (NOMIYAMA Machiko)		2	1 認識に関する哲学の歴史を確認する。 予復修課題： 事前に、自分が見ている世界と、他人が見ている世界は同じか、それはなぜか、考えてみる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		非常勤講師	2 「生得観念説」について理解する。 なぜ私たちは三角形が分かるのか？ 予復修課題： 自筆の講義ノートの作成と整理(分からないところを調べたり、質問を考えたりも含め120分)	
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	EEB1109・ERB1109・SSB1109	
配当年次		1-2年生	開講学期 前期	経済学部・スポーツ学部共通		
授業概要		たとえば、「自分が見ている世界と、他人が見ている世界は同じだろうか」と問われたら、あなたはどのようにこたえるだろうか。世界はすでに存在しているので、同じものを見ているはずだとこたえるだろうか、それとも、すでに存在する世界を感じるのはひとそれぞれなので違うものを見ているとこたえるだろうか、それとも、世界はあらかじめ存在しているのではなく、自分が見たい世界を見ているのだとこたえるだろうか。本講義では、この世界を人はどう捉えているのかを、さまざまな哲学者の考えを学びながら、考えていく。				
授業到達目標		第一に、各哲学者の言葉や文脈を理解し、それを自分の言葉で説明することができる。 第二に、各哲学者の考える世界と人間との関係を自分の問題として引き受け、考えることができる。 第三に、習得した知識を用いて、世界を知るとはどういうことが自分なりに考えることができ、自分や他者の生きる世界を主体的に生きる姿勢を身につけることができる。				
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	自筆の講義ノートを作り上げること。 毎講義時にショートライティング(講義内容の振り返りなど)を提出すること。			
1. 小テスト、感想文など		30 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		60 %	シンク・ペア・シェア(講義内容の質問に対し個人で考え回答した後、ペアもしくは少人数で議論し、さらにクラスで共有する)毎講義			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		使用しない。				
参考書		授業中に適宜紹介する。				
		13 現象学について理解する。 悲しい時に見る海と、楽しい時に見る海は、同じ海だろうか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「志向性」について)(120分)				
		14 ハイデガーの「現象は光のうちで視られうる」について理解する。 誰もいない森の中で樹が倒れたら音はするの？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「視覚と光」について)(120分)				
		15 講義の振り返りおよびまとめテストを実施する。 予復修課題： 自筆の講義ノートの見直し(120分)				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		人間と哲学 Humanity and Philosophy		単位数	授業内容*	
担当者		野見山 待子 (NOMIYAMA Machiko)		2	1 「私」という存在への問いを投げかける哲学の歴史を確認する。 予復修課題： 事前に、「この私が生きる」とはどういうことか考えてみよう。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEB1109・ERB1109・SSB1109	2 合理性が重視されてきた歴史を理解する。 理性的であることは人間にとって重要か？ 予復修課題： 自筆の講義ノートの作成と整理(分からないところを調べたり、質問を考えたりも含め120分)	
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次		1-2年生	開講学期 後期			
授業概要		先が不安だといわれる現代社会において、自分らしく生きていくためにはどうすればよいのだろうか。現実と理想のはざま、私が私らしくあるためにはどうすればよいのだろうか。本講義では、「私」への問いを投げかける哲学を学習しながら、自分で自分を見つめ、自分なりに「私」という存在のあり方や意味を問う姿勢を獲得していく。				3 理性に対して感情や意志が優位な哲学の登場について理解する。 理性と感情はどちらが支配者か？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(120分)
授業到達目標		第一に、各哲学者が語る言葉や文脈を理解し、それを自分の言葉で説明することができる。 第二に、各哲学者の抱えている「私」に関する問題を、現代に生きる自分の問題として引き受け、論理的に考えることができる。 第三に、習得した知識を使って、現代の課題を検討し、現代に生きる自分のあり方を見出し、社会の中で主体的に生きる姿勢を身につけることができる。				4 ペシミズムという世界観を理解する。人は苦しくても生きるのか？ 人は苦しくても生きるのか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「ペシミズム」について)(120分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				5 キルケゴールの「絶望」について理解する。絶望するとはどういうことか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「絶望」について)(120分)
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				6 キルケゴールの「実存的苦悩」について理解する。 人はなぜ絶望するのか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「実存的苦悩」について)(120分)
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				7 キルケゴールの「宗教的実存」について理解する。 絶望している人を救うものは？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「宗教的実存」について)(120分)
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				8 ハイデガーにおける「世界内存在」について理解する。 誰かのために生きることは立派なことか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「世界内存在」について)(120分)
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	自筆の講義ノートを作り上げること。 毎講義時にショートライティング(講義内容の振り返りなど)を提出すること。			9 ハイデガーにおける「本来性」・「非本来性」について理解する。 あなたでなければならないのか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「本来性・非本来性」について)(120分)
1. 小テスト、感想文など		30 %				10 「がある」と「である」の違いを理解する。 「人間」と「ハサミ」の違いはなんだろう？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「存在と本質」について)(120分)
2. 中間テスト		%				11 サルトルにおける「人間の自由」について理解する。 自由であることは気楽なことか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「自由」について)(120分)
3. 課題レポートなどの提出物		%				12 サルトルにおける「私らしさを演じる」について理解する。 「本当の私」なんてあるのか？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「仮面」について)(120分)
4. 授業中の発表、討論		%				13 サルトルにおける「自己」と「他者」について理解する。 他人は私の自由を奪う存在か？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「他者」について)(120分)
5. 授業への参加意欲		10 %				14 人間存在の「本来性」・「非本来性」について理解する。 「この私」が生きてはどのような生き方か？ 予復修課題： 前回の講義の確認(10分)、今回の講義ノートの作成と整理(特に「生きる」について)(120分)
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				15 講義の振り返りおよびまとめテストを実施する。 予復修課題： 自筆の講義ノートの見直し(120分)
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		60 %	シンク・ペア・シェア(講義内容の質問に対し個人で考え回答した後、ペアもしくは少人数で議論し、さらにクラスで共有する)			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない		【毎講義】	
教科書		使用しない。				
参考書		授業中に適宜紹介する。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		生命と地球 Life & Earth		単位数	授業内容*	
担当者		中山 伸介 (NAKAYAMA Shinsuke)		2	1 講義の概略説明。学術的番組「地球大進化」シリーズを視聴しながら、テーマごとに授業を進め、プリントに要点を各自で記入して毎回提出することを説明する 予復修課題：ビッグバンについて調べる	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 テーマ：そして地球は誕生した(46億年前) 地球の46億年にわたる進化カレンダーおよび惑星としての地球誕生について学ぶ 予復修課題：太陽系の誕生について調べる	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 テーマ：直径400kmの隕石の衝突と生物の生存 巨大隕石の衝突がもたらした影響と絶滅を免れた生物について学ぶ 予復修課題：月と地球を構成する岩石の共通点について調べる
配当年度	1-2年生	開講学期	前期/後期			4 テーマ：凍りついた地球(22億年前&6億年前) 地球全体が凍結(全休凍結)した事実とその証拠となる迷い石の発見について学ぶ 予復修課題：氷河期の証拠である迷子石について調べる
授業概要	この講義であなたは壮大な地球の歴史を学ぶことができる。なぜ、ほ乳類は母親のお腹から産まれるようになったのか？なぜ人類は2足歩行を始めたのか？北米大陸の先住民と日本人の顔・姿が似ているのはなぜか？					
	最新の研究によって明らかにされた46億年にわたる地球の歴史とそれに伴う生物の進化を学ぶ。70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。授業では、美しいコンピュータグラフィックスを駆使した学術的番組を視聴しながら学ぶ。					
授業到達目標	地球環境の激変によって生物の進化が促されたことが説明できる。 地球の自然環境の成り立ちと、現在の自然環境の問題点を理解できる。 進化における必要条件が理解できる。					
	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	時々、ミニテストを実施することがあるのでしっかりと復修すること。 各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを希望する。			
1. 小テスト、感想文など		10 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		35 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		35 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	地球大進化(NHK出版)					
参考書	徹底図解 地球の仕組み(新星出版社)					
						11 テーマ：ほ乳類の眼の進化 恐竜絶滅後の地球環境と生態系に適応するために進化した眼のメカニズムを学ぶ 予復修課題：眼球の構造を調べる
						12 テーマ：チンパンジーとの決別(700万年前) 700万年前にアフリカでチンパンジーの祖先から分離した人類の痕跡をたどる 予復修課題：チンパンジーと人間の違いを調べる
						13 テーマ：ヒト 遙かなる冒険者 我々人類ホモサピエンスが生き残った理由をコミュニケーションの観点から探る 予復修課題：ハワイ、北米、南米の先住民と日本人のルーツの共通点について調べる
						14 まとめ これまでの講義を振り返り、要点を説明する 予復修課題：授業の感想を記述する
						15 まとめのテストおよび解説 予復修課題：まとめのテストの内容を再度、自身で解き疑問点を解消する。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	生命と地球 Life & Earth			単位数	授業内容*	
担当者	水井 雅彦 (MIZUI Masahiko)			専任	1 ガイダンス：科学の目的 講義概要の説明と、科学技術の目的について考える 予復修課題：復修：物理・科学・地学・生物など高校科目の学習範囲を調査する。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1110・ERB1110・SSB1110	2 生命の誕生 地球の誕生から生命の誕生までの変化を学ぶ 予復修課題：復修：地球の誕生から生命の誕生までを調査	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	3 環境変化と生命の進化 環境の変化などが、生命の進化に与えた影響について学ぶ。 予復修課題：復修：地球の気温は、どのように変化してきたかまとめる。	
配当年次	1-2年生	開講学期	後期	経済学部・スポーツ学部共通	4 人間誕生 人類の誕生と脳の発達について学ぶ。 予復修課題：復修：認知能力とコミュニケーションについてまとめる。	
授業概要	地球で暮らす我々人類は、衣・食・住や病気に対し科学技術を発展させ向き合ってきた。これまで学んできた数学や理科は、人類の科学技術の一部をまとめた（体系化）ものである。この科目では人類を中心に「生命と地球」をテーマに科学技術の歴史と活用を、幅広い教養としての視点で振り返る。同時に、数学や理科の発展を歴史から学び、環境や社会が抱える問題を再認識する。教養として、私たちの生活と自然科学の関わりを学ぶ。			5 食料の確保 人類の繁栄にとって、食の安定供給は重要な要素である。食について学ぶ。 予復修課題：復修：狩猟と人類の移動について歴史上の出来事をまとめる。		
授業到達目標	生命の進化と人類の発展を中心に、歴史的な関係性を理解する 科学技術と数学や理科の関わりを理解して、普段の問題解決に活用する 自然科学に関する教養を学び、状況判断に活用する			6 農業と国家 農業の発展は、集団生活や国家へと繋がる。土地管理に用いられた数学を学ぶ。 予復修課題：復修：面積・体積の計算や測量など、数学の活用をまとめる。		
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				7 農業と天文学 農業収益の増加にとって、暦の精度は重要である。暦と天文学を学ぶ。 予復修課題：復修：新暦・旧暦・月齢など、暦について調査する。		
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				8 超新星爆発とブラックホール 地球上で起こる自然災害に対して、住環境に関する科学技術を学ぶ。 予復修課題：復修：大規模な公共工事を調査する。		
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				9 産業と科学技術 最新のロボットを紹介する。 予復修課題：予修：身近になってきたロボットとの生活を調査する。		
成績評価の方法 (全体で100%)				10 明治から考える日本の産業 九州の産業遺産から、科学の進歩を考える。 予復修課題：予修：炭坑や製鉄所などについて調査する。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修における留意事項			
1. 小テスト、感想文など		%	これまで学んできた自然科学科目を、各講義のテーマに沿ってふり返ります。			
2. 中間テスト		%	数字を使い自然現象を表現する「定量的」な考え方を紹介します。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	高校入試程度の数学と理科の予修・復修を、各授業ごとに1時間程度行ってください。			
4. 授業中の発表、討論		%	評価試験は、自筆ノート持込可です。			
5. 授業への参加意欲		20 %	この講義ノートを中心に受講してください。			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	アクティブ・ラーニング			
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		60 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	必要に応じてプリント配布					
参考書	サビエンス全史 上・下 (河出書房新社)					
				11 工業技術の進歩と生活 衣食住の技術から、新たなサービスの創出 予復修課題：復修：人類の欲求と生活。		
				12 生命との共存と活用 発酵をはじめとするバイオテクノロジーの概要を学ぶ。 予復修課題：復修：生物と食品の関係をまとめる。		
				13 産業と環境問題 地球温暖化とビジネス 予復修課題：復修：気候変動と温暖化、環境ビジネスについて調査する。		
				14 これまでのまとめ 評価試験に向け、講義内容を振り返る。 予復修課題：復修：講義内容をもとに、試験対策を行う。		
				15 評価試験および解説 予復修課題：予修：14回講義内容を基に、テーマに沿った小論文作成準備		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		心の科学 The Science of Mind		単位数	授業内容*		
担当者		乗富 千代 (NORIDOMI Chiyo)		2	1 ガイダンス・心の科学とは 授業内容、講義の進め方、評価方法等の説明 予復修課題： シラバスと配付プリントを確認すること		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEB1111・ERB1111・SSB1111	2 心の発達 授業中に示すテーマについてミニツッペーパーに記述し提出する 心がどのように芽生えて、どのように発達するかについて理解する 予復修課題： 予復修:配付プリントや参考書(第2～3章)を読み愛着理論についてまとめる		
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰﾌﾞﾙｰ学部共通	3 ライフサイクルとアイデンティティ 乳幼児期から老年期までの各段階の心理的成長と青年期のアイデンティティを理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第4章)を読み発達段階を理解する	
配当年次		1-2年生	開講学期 前期/後期			4 性格 授業中に示すテーマについてミニツッペーパーに記述し提出する 性格の記述と測定法を学び、グループディスカッションによって理解を深める 予復修課題： 予復修:配付プリントや参考書(第6章)を読み性格の記述法を把握する	
授業概要		心理学は人間の思考や感情や行動、さらに人間関係などについて科学的に捉えるものである。この授業では心理学全般についての基礎的な知識について概説する。特に日常的なテーマや身近な問題に関して心理学的視点による解説をおこない、自己理解と他者理解を深めるための土台となる知識や考え方についての授業をおこなう。カウンセリングやメンタルヘルスに関して実務経験に基づいて具体的に説明する。				5 感覚と知覚 私たちの持っている感覚と知覚のはたらきを理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第10～11章)を読み、感覚と知覚の相違について知る	
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の基本的な視点について理解し、人間の心や行動について説明することができる</li> <li>心理学的知見を習得し自己理解や自己決定をするために活用することができる</li> <li>グループディスカッションなどを通して自分の意見を表現するとともに他者の考え方を柔軟に受け入れ尊重することができるようになる</li> </ul>				6 記憶と学習 授業中に示すテーマについてミニツッペーパーに記述し提出する 記憶と学習のメカニズムについて知り、日常に生かす方法を学ぶ 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第12～13章)を読み記憶の過程と種類についてまとめる	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				7 日常生活でおこなっている思考について心理学の視点から理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第14章)を参考に、思考の成り立ちを理解する	
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				8 中間のまとめとテスト これまでの講義の総括をおこない、中間のまとめテストを実施する 予復修課題： 授業開始までに、これまでの配付プリントのキーワードを中心に復修しておく	
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				9 脳のはたらきと心 脳の仕組みと機能を知り、脳と心のつながりや心のはたらきについて理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第15～16章)を読み、脳の構造と心的機能についてまとめる	
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				10 動機づけと情動 授業中に示すテーマについてミニツッペーパーに記述し提出する 人が行動する際の原動力となる動機の成り立ちを理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第5章)を読み、動機の種類と性質について整理する	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容についての理解度は、中間テストとまとめテストによって成績評価をおこなう</li> <li>ミニツッペーパーの記述内容およびグループディスカッションの参加姿勢は、授業への参加意欲として成績評価に加える</li> <li>授業の予復修を約1時間おこなうことで、より一層の理解が深まる</li> </ul>				11 知能とは何か 知能の定義や測定法について知り、人間の知能の多面性を理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第7章)を読み、知能の測定についてまとめる
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				12 社会のなかの人 授業中に示すテーマについてミニツッペーパーに記述し提出する 個人と社会との関係や影響を様々な角度から考える 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第17～18章)を読み社会的認知、社会的影響について整理する
1. まとめのテスト		30 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループディスカッション(第4回、第13回)</li> <li>ミニツッペーパー(第2回、第4回、第6回、第10回、第12回)</li> </ul>				13 ストレスとメンタルヘルス ストレスの仕組みと対処、心の健康について学び、グループディスカッションをおこなう 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第8章)を読み、ストレス対処について理解する
2. 論文、まとめのレポートなど		%					14 カウンセリングと心理療法 カウンセリングの実際と、さまざまな心理療法について知り、特徴を理解する 予復修課題： 予復修:配布プリントや参考書(第9章)を読み、カウンセリングと心理療法についてまとめる
3.		%					15 まとめのテスト これまでの講義の総括をおこない、まとめのテストを実施、解説をおこなう 予復修課題： 授業開始までに、これまでの配付プリントのキーワードを中心に復修しておく
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書		長谷川寿一ら『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ、2008年					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		共生社会を生きる Living in an Inclusive Society		単位数	LMSに提示	
担当者	木村 美奈子 (KIMURA Minako)			2	専任	1 ガイダンス ( 適宜外部講師を招聘予定。講師の都合で予定が前後する場合があります ) 授業概要説明 LMSの使い方説明・設定作業 予復修課題：LMSに提示
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEB1112・ERB1112・SSB1112		2 共生社会×協同 「協同とは」 「コミュニケーション 傾聴とミラーリング」 予復修課題：LMSに提示
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰｯ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期			
授業概要	地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すものである。本講義では、協同教育とSDGsを根幹においた授業デザインで、防災・減災、社会のマイノリティや地域が抱える社会課題をテーマに講義を行い、身近な課題に気づく力、その課題を「自分ごと」として捉え、柔軟な思考力をもって、仲間と一丸となって探求し、解決する力を養う。					
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共生」について理解し、社会の構成員として社会に貢献することができる。</li> <li>・他者とコミュニケーションをとり、協調することができる。</li> <li>・多種多様な考えを受け入れる姿勢を育て、他人ごとを自分ごととして捉えることができる。</li> <li>・柔軟な判断力と決断力をもって、自助・共助・公助のリーダーシップやフォロワーシップをとることができる。</li> </ul>					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	仲間と共に学ぶための講義であるため、グループ活動をしない学生は受講不可。			
1. 小テスト、感想文など		%	・グループ活動のため遅刻は厳禁とする。			
2. 中間テスト		%	・授業の参加意欲 = 出席点ではない。			
3. 課題レポートなどの提出物	20	%	・事前学習、事後学習、リフレクションシートは、LMSを利用する。			
4. 授業中の発表、討論	20	%	・事前事後学習時間は概ね各45分以上の学習を想定している。			
5. 授業への参加意欲	20	%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. ピアアセスメント	10	%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	本講義は個人思考を基本としたグループワークを毎時行う。「学習目的の達成に向け、共に心と力をあわせて自分と仲間のために真剣に学ぶ」ことを学習の軸とする。			
2. 論文、まとめのレポートなど	30	%				
3.		%				
再評価の実施	する		しない			
教科書	資料はLMS等で配布する予定。					
参考書	適宜示す					
						15 共生社会×九共大 「共生社会を創る人材として」 予復修課題：LMSに提示

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		日本語表現法 Japanese Phraseology			単位数	授業内容*	
担当者		大川内 夏樹 (OKAWACHI Natsuki)	鈴木 喬 (SUZUKI Takashi)	古浦 修子 (KOURA Shuko)	檀澤葉子 (KASHIZAWA Youko)	専任 & 非常勤	1 オリエンテーションおよびEメール Eメール作成方法について説明を行う。 予復修課題：ワークブック第1章を読み、授業の復修を行う。
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			EEC1101・ERC1101・SSC1101		2 漢字 文章を書く上で必要な漢字に関する基礎知識について説明する。 予復修課題：ワークブック第2章を読み、授業の予復修を行う。
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通		3 ことわざ・四字熟語・慣用句 文章を書く上で必要なことわざ・四字熟語・慣用句について説明する。 予復修課題：ワークブック第3章を読み、授業の予復修を行う。
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期				4 句読点と記号 句読点と記号の使い方について説明する。 予復修課題：ワークブック第4章を読み、授業の予復修を行う。
授業概要	大学生になると、自分の考えを文章で表現する機会が増えます。試験で自分の考えを述べる問題に解答したり、レポートを作成したりします。そのため日本語表現の基礎となる語彙や文法、表記に関する知識を身につける必要があります。また社会では状況に応じた表現能力が求められる、適切な敬語の使い方やEメールの書き方などを知っておくことが必須となります。日本語表現法では、これらの知識・技能の習得を目指します。毎回の授業では、授業内容をふまえたワークシートに取り組み、知識の定着を図ります。						5 接続表現の使い方 接続表現の使い方について説明する。 予復修課題：ワークブック第5章を読み、授業の予復修を行う
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい文章表現に必要な語彙・文法の知識を身につけることができる。</li> <li>・授業で得た知識を活かして、説得力のあるレポートを書くことができる。</li> </ul>						6 見やすい表記/小テスト 文章を書く上での見やすい表記について説明する。 予復修課題：ワークブック第6章を読み、授業の予復修を行う。
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。							
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。							
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のワークシートをすべて提出すること。</li> <li>・授業中においては、積極的に参加すること。</li> <li>・授業の予復修を約1時間おこなうと、より一層理解が深まります。</li> </ul>				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		20 %	・ワークシート [ 毎回 ]				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	・実践学習を目的とした小テスト [ 第6回、第11回 ]				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	『日本語表現法 ワークブック』						
参考書							
						15 まとめのテストおよび授業の総復修を行う。 予復修課題：ワークブックを読み、授業全体の予復修を行う。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	日本語表現法 Japanese Phraseology		単位数	授業内容*	
担当者	大川内 夏樹 (OKAWACHI Natsuki)	古浦 修子 (KOURA Shuko)	1	1	オリエンテーションおよび資料の検索 レポート等を書く上での資料の検索方法について説明を行う。 予復修課題：ワークブック第1章を読み、授業の復修を行う。
	鈴木 喬 (SUZUKI Takashi)		専任	2	レジュメを作る レジュメの作成方法について説明する。 予復修課題：ワークブック第2章を読み、授業の予復修を行う。
実務経験のある教員による授業		ナンパリング	EEC2101・ERC2101・SSC2101	3	プレゼンテーションを行う プレゼンテーションの方法について説明する。 予復修課題：ワークブック第3章を読み、授業の予復修を行う
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	4	レポートの作成1 よいレポートのポイントについて説明する。 予復修課題：ワークブック第4章を読み、授業の予復修を行う
配当年次	2年生	開講学期 前期/後期	経済学部・スポーツ学部共通	5	レポートの作成2 レポートの内容と体裁について説明する。 予復修課題：ワークブック第5章を読み、授業の予復修を行う。
授業概要	日本語表現法では、日本語表現法Iで身につけた基本的な知識を発展させて、書くこと・話すことに関するより実践的な日本語運用能力の習得を目指します。資料の検索の仕方、レジュメの作り方、プレゼンテーションの行い方、またレポートの書き方など大学生活で必要とされる技術について学びます。さらに、小論文やエントリーシートの書き方といった就職活動で求められるスキルを身につけ、敬語でコミュニケーションする力など日本語運用に関する社会人基礎力を養います。毎回の授業では、ワークシートに取り組み、知識の定着を図ります。				
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な資料を検索することができる。</li> <li>レジュメを作成してプレゼンテーションを行うことができる。</li> <li>レポートを書くことができる。</li> <li>小論文やエントリーシートなど就職活動に必要な文書を書くことができる。</li> <li>社会人として適切なコミュニケーションができる。</li> </ul>				
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回のワークシートをすべて提出すること。</li> <li>授業中においては、積極的に参加すること。</li> <li>授業の予復修を約1時間おこなうと、より一層理解が深まります。</li> </ul>			
1. 小テスト、感想文など	30 %				
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	30 %				
4. 授業中の発表、討論	%				
5. 授業への参加意欲	20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%				
7.	%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	20 %	・ワークシート [ 毎回 ]			
2. 論文、まとめのレポートなど	%	・実践学習を目的とした小テスト [ 第6回、第11回 ]			
3.	%				
再評価の実施	する	しない			
教科書	『日本語表現法 ワークブック』				
参考書					
				15	まとめ まとめのテストおよび授業の総復修を行う。 予復修課題：ワークブックを読み、授業全体の予復修を行う。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	伝わる文章力 Communicative writing skills			単位数	授業内容*	
担当者	鈴木 喬 (SUZUKI Takashi)			専任	1 オリエンテーション 「漢字検定2級」「文章検3級」の過去問(抜粋)を解く。 予復修課題: シラバスを見直し予修をする。過去問の解き直しを行うこと。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEC2102・ERC2102・SSC2102		
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	2 漢字検定・日本語検定・文章検定を用いながら、語句の正しい意味を理解する。 予復修課題: 教科書を一読し予修すること。授業で扱った問題の解き直しを行うこと。	
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期	経済学部・スポーツ学部共通		
授業概要	社会人に必要な文章理解力、文章表現力を身につけることを目的とする。具体的には、資料や文章を正確に理解する力(読解力)、手紙文を作成する力、説得力のあるわかりやすい文章を作成する力(表現力)である。この力を身につけるためには、高校卒業程度の漢字の読み書きはもちろん、熟語を理解し、正しい敬語を使用する力も必要となる。また文章を要約することも求められる。文章検定3級のテキスト等を用いながら授業を進め、社会人としての「文章力」を高めていく。				3 語彙 語句の正しい意味 漢字検定・日本語検定・文章検定を用いながら、語句の正しい意味を理解する。 予復修課題: 教科書を一読し予修すること。授業で扱った問題の解き直しを行うこと。	
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定2級レベルの漢字の読み書きができ、基本的な語彙が理解できる。</li> <li>文章から情報を正しく読み取ることができる。</li> <li>説得力のあるわかりやすい文章を作成することができる。</li> <li>手紙文の構成を理解し、正しい敬語を使って、手紙文(お礼状)を作成することができる。</li> </ul>				4 文法 動詞 日本語検定・文章検定を用いながら、動詞の正しい用法を身に付ける。 予復修課題: 教科書を一読し予修すること。授業で扱った問題の解き直しを行うこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予復修を約1時間行うこと</li> <li>毎回の確認シートは必ず提出すること</li> <li>授業中においては、積極的に参加すること</li> </ul>			
1. 小テスト、感想文など		20 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		40 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の確認シートの提出</li> <li>復修を目的としたクリッカーによる回答</li> <li>手紙文等の作成と提出(添削)</li> </ul>			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	日本漢字能力検定協会『文章検 文章読解・作成能力検定 公式テキスト3級』日本漢字能力検定協会、2017年					
参考書	授業内において随時参考書を紹介していく。					
					5 まとめのテスト まとめのテストおよび授業の総括を行う。 予復修課題: 教科書および既習内容を復修すること。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語		単位数	授業内容*		
	English		1			
担当者	高瀬 文広, 山口 晋平, 孫 菁滌, 石垣 恵一	ダニエル・ド・キ, 永松 美保, 永末 温子	専任 & 非常勤	1	イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 英語学習開始のためのアイスブレイキング 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング		EEC1102・ERC1102・SSC1102	2	名詞・代名詞1: 名詞の種類、数えられる名詞、数えられない名詞、格変化等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 1の英文、文法説明を読む、練習問題を解く 復修:読解内容、練習問題の見直し	
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3	動詞1 その1: 肯定文・否定文・疑問文 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 2前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
配当年次	1年生	開講学期	前期		4	動詞1 その2: 肯定文・否定文・疑問文 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 2後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
授業概要	将来のキャリア形成に向けて、大学では就職試験やTOEICなどに対応し得る、より質の高い英語力が求められますが、英語力向上のためには基礎固めはいつの時点でも必要不可欠です。本科目では、英語において最も重要な動詞を中心として主要文法項目を復修し、それらの文法項目から成るシンプルな英文を読む、聞く、話す、書くという4技能のバランスのとれた向上を目指します。				5	動詞2 その1: 一般動詞(規則動詞)、現在進行形、命令文 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 3前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
	授業到達目標	簡単な説明文を理解することができる。 日常生活の簡単な話題や平易な説明・指示を聞いて理解することができる。 日常生活に関する簡単な応答や意思表示をすることができる。 興味・関心のあることについて簡単な英文を書くことができる。 全体として、CEFR-J A1.3程度の到達度を目指す。				6
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				7	動詞3 その1: 一般動詞(不規則動詞)、現在進行形、命令形 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 4前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し	
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				8	動詞3 その2: 一般動詞の肯定文・否定文・疑問文、その過去形 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 4後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				9	動詞4 その1: 現在完了形の作り方、意味、用法等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 5前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し	
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)この授業は、プレイスメント・テストの成績に基づき、習熟度に応じたクラス編成で行われます。プレイスメント・テスト後に発表されるクラス分け表で指定されたクラスで受講すること。			
1. 小テスト、感想文など		%	2)授業には教科書と辞書を持参すること。			
2. 中間テスト		%	3)授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング 事前学習型授業[第2回～第14回]			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%	15			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 1から6を総合して		40 %				
2) 最終到達度の評価			総まとめ			
1. まとめのテスト		60 %	まとめのテストと総括			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	プレイスメント・テスト後に発表されるクラス分け表で指定されたテキストを各自購入すること。					
参考書	『English Learning with Athletes』、『Outstanding Monozukuri in Japan』他					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語 再履修用 English I		単位数	授業内容*	
担当者	永松 美保 (NAGAMATSU Miho)		1	1 イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 英語学習開始のためのアイスブレイキング 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		専任	2 名詞・代名詞1: 名詞の種類、数えられる名詞、数えられない名詞、格変化等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・法 学 部 共 通	
配当年次	1-2年生	開講学期	後期		
授業概要	本科目では、英語の基礎力を完全に身につけることを目標とします。基礎英文法を徹底的に学習し、様々な練習問題を解いていきます。語彙力の強化と理解度アップのために、毎回予修として、単語の意味調べや練習問題の解答を行って行くこと。また、授業の始めには、前回の学習内容をおさらいする小テストを実施します。その対策をした上で、授業に臨むこと。			3 動詞1 その1: 肯定文・否定文・疑問文 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業到達目標	テキストに出てくる単語の意味を正しく理解することができる。 テキストに出てくる英文を完全に理解することができる。 テキストに出てくる文法事項を正しく理解し、運用できる。 授業で学習した内容について、60%の正答率をもって答えることができる。			4 動詞1 その2: 肯定文・否定文・疑問文 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。			5 動詞2 その1: 一般動詞(規則動詞)、現在進行形、命令文 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修:練習問題の見直し		
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。			6 動詞2 その2: 一般動詞の肯定文・否定文・疑問文、その過去形 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修:練習問題の見直し		
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。			7 動詞3 その1: 一般動詞(不規則動詞)、現在進行形、命令形 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修:練習問題の見直し		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 授業には教科書と辞書を持参すること。		
1. 小テスト、感想文など		%	2) 授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。意味調べや練習問題の予修、及び、おさらいの小テストのための復修を毎回行ってくること。		
2. 中間テスト		%	3) 課題には自ら取り組み、必ず提出すること。		
3. 課題レポートなどの提出物		%			
4. 授業中の発表、討論		%			
5. 授業への参加意欲		%			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			
7. 1から6を総合して		40 %			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		60 %	事前学習型授業[第2回~第14回]		
2. 論文、まとめのレポートなど		%			
3.		%			
再評価の実施	する	しない			
教科書	『A Shorter Course in English Grammar Check』 南雲堂				
参考書			15 総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語		単位数	授業内容*		
	English		1			
担当者	高瀬 文広, 山口 晋平, 孫 菁滌, 石垣 恵一 森竹 希望, 作元 裕也, 黒木 隆善, 田中 雅子	ダニエル・ド・キ, 永松 美保, 永末 温子 木村 俊幸, 松下 紗耶, 村田 美和子	専任 & 非常勤	1	イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 前期に学習した内容のポイント復修 予復修課題: 予修:前期に学習した箇所を読んでおく 復修:授業で説明されたことの見直し	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング		EEC1201・ERC1201・SSC1201	2	受動態 その1:受動態の作り方、否定文、疑問文、過去形等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 7前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し	
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3	受動態 その2:受動態の作り方、否定文、疑問文、過去形等 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 7後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
配当年次	1年生	開講学期	後期		4	不定詞 その1:不定詞の用法、It is - to...等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 8前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
授業概要	将来のキャリア形成に向けて、大学では就職試験やTOEICなどに対応し得る、より質の高い英語力が求められますが、英語力向上のためには基礎固めはいつの時点でも必要不可欠です。本科目では、英語において最も重要な動詞を中心として主要文法項目を復修し、それらの文法項目から成るシンプルな英文を読む、聞く、話す、書くという4技能のバランスのとれた向上を目指します。				5	不定詞 その2:不定詞の用法、It is - to...等 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 8後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
授業到達目標	簡単な説明文を理解することができる。 日常生活の簡単な話題や平易な説明・指示を聞いて理解することができる。 日常生活に関する簡単な応答や意思表示をすることができる。 興味・関心のあることについて簡単な英文を書くことができる。 全体として、CEFR-J A1.3程度の到達度を目指す。				6	動名詞 その1:動名詞の用法等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 9前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	1)この授業は、プレイスメント・テストの成績に基づき、習熟度に応じたクラス編成で行われます。受講するクラスは、前期と同じクラスを履修すること。				
1. 小テスト、感想文など	%	2)授業には教科書と辞書を持参すること。				
2. 中間テスト	%	3)授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。				
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	%					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7. 1から6を総合して	40 %					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	60 %	事前学習型授業[第2回～第14回]				
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	前期発表のクラス分け表で指定されたテキストを各自購入すること。					
参考書	『English Learning with Athletes』、『Outstanding Monozukuri in Japan』他					
				15	総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		英語 再履修用 English		単位数	授業内容*		
担当者		永松 美保 (NAGAMATSU Miho)		川満 潤 (KAWAMITSU Jun)	専任		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング					
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・法・文学部共通		
配当年次	2年生	開講学期	前期				
授業概要	<p>本科目では、英語の基礎力を完全に身につけることを目標とします。基礎英文法を徹底的に学習し、様々な練習問題を解いていきます。語彙力の強化と理解度アップのために、毎回予修として、単語の意味調べや練習問題の解答を行って行くこと。また、授業の始めには、前回の学習内容をおさらいする小テストを実施します。その対策をした上で、授業に臨むこと。</p>				1	<p>イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 英語学習開始のためのアイスブレイキング 予復修課題：予修：なし 復修：授業で説明されたことの見直し</p>	
授業到達目標	<p>テキストに出てくる単語の意味を正しく理解することができる。 テキストに出てくる英文を完全に理解することができる。 テキストに出てくる文法事項を正しく理解し、運用できる。 授業で学習した内容について、60%の正答率をもって答えることができる。</p>				2	<p>受動態 その1：受動態の作り方、否定文、疑問文、過去形等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				3	<p>受動態 その2：受動態の作り方、否定文、疑問文、過去形等 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				4	<p>不定詞 その1：不定詞の用法、It is - to...等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				5	<p>不定詞 その2：不定詞の用法、It is - to...等 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				6	<p>動名詞 その1：動名詞の用法等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	1) 授業には教科書と辞書を持参すること。 2) 授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。意味調べや練習問題の予修、及び、おさらいの小テストのための復修を毎回行ってくること。 3) 課題には自ら取り組み、必ず提出すること。				7	<p>動名詞 その2：動名詞の用法等 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
1. 小テスト、感想文など	%					8	<p>分詞 その1：形容詞としての分詞の用法 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
2. 中間テスト	%					9	<p>分詞 その2：形容詞としての分詞の用法 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
3. 課題レポートなどの提出物	%					10	<p>比較 その1：比較、形容詞、副詞 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
4. 授業中の発表、討論	%					11	<p>比較 その2：比較、形容詞、副詞 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
5. 授業への参加意欲	%					12	<p>関係詞 その1：関係代名詞(who, which等)、関係副詞(when, where等) 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					13	<p>関係詞 その2：関係代名詞(who, which等)、関係副詞(when, where等) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
7. 1から6を総合して	40 %					14	<p>接続詞：等位接続詞、従属接続詞等(仮定法の基本含む)、群前置詞等 英語長文の音読と読解、文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題：予修：教科書の英文、文法説明を読む 練習問題を解く 復修：練習問題の見直し</p>
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング 事前学習型授業[第2回～第14回]				15	<p>総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題：予修：第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り</p>
1. まとめのテスト	60 %						
2. 論文、まとめのレポートなど	%						
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書	『English Aid』 金星堂						
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語コミュニケーション English Communication					単位数	授業内容*	
担当者	ダニエル・ドロークス	永松 美保	木梨 安子	十時 康	シルバーマン・薫・リサ	1	1 イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認)など 英語学習開始のためのアイスブレイキング 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し	
実務経験のある教員による授業			ナンバリング		EEC2103・ERC2103・SSC2103		2 Scene 1 It's So Nice to Meet You! その1 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scine 1前半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通		3 Scene 1 It's So Nice to Meet You! その2 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scine 1後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
配当年次	2年生	開講学期	前期				4 Scene 2 Is He a Popular Professor? その1 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scine 2前半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業概要	英語 および で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指します。アクティブ・ラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短会話の実践なども行います。英語圏諸国の基本的文化理解も、授業時間中に適宜行います。						5 Scene 2 Is He a Popular Professor? その2 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scine 2後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業到達目標	日常的に使われる英文や英語表現をスムーズに発音することができ、基本的な英語での質問に回答でき、テキストで学習した内容・パターンに似た短い英語会話を展開することができる。英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。						6 Scene 3 He Showed Me "a" Way その1 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scine 3前半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。								
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。								
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)この授業は、習熟度に応じたクラス編成で実施されます。クラス分け表で指定されたクラスで受講すること。					
1. 小テスト、感想文など		%	2)授業には教科書と辞書を持参すること。					
2. 中間テスト		%	3)授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。					
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング 事前学習型授業[第2回~第14回] 発話練習[第2回~第14回]					
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7. 1から6を総合して		40 %						
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		60 %						
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	指定されたクラスの教科書を各自確認し、購入すること。							
参考書	『Hello New York!』、『Speaking of People』、『First Time Working Abroad』							
							15 総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語コミュニケーション					単位数	授業内容*	
	English Communication					1		
担当者	ダニエル・ドロークス	永松 美保	木梨 安子	十時 康	シルバーマン・薫・リサ	専任 & 非常勤	1 イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認)など 前期に学習した内容のポイント復修 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し	
実務経験のある教員による授業			ナンバリング		EEC2201・ERC2201・SSC2201		2 Scene 7 How Romantic! その2 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scene 7後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通		3 Scene 8 I'm Not Feeling Well その1 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scene 8前半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
配当年次	2年生	開講学期	後期					4 Scene 8 I'm Not Feeling Well その2 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scene 8後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
授業概要	英語 および で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しつつ、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに涵養することを目指します。アクティブ・ラーニングとして、発話練習、テキストで学んだ短会話の実践なども行います。英語圏諸国の基本的文化理解も、授業時間中に適宜行います。						5 Scene 9 Tickets for a Yankees Game その1 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scene 9前半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
授業到達目標	日常的に使われる英文や英語表現をスムーズに発音することができ、基本的な英語での質問に回答でき、テキストで学習した内容・パターンに似た短い英語会話を展開することができる。英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。						6 Scene 9 Tickets for a Yankees Game その2 各対話場面の応答問題、語彙・文章・文法の学習、発音練習、会話練習 予復修課題: 予修:教科書Scene 9後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。								
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。								
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)この授業は、習熟度に応じたクラス編成で実施されます。クラス分け表で指定されたクラスで受講すること。前期に受講した人は、後期も同じクラスになります。					
1. 小テスト、感想文など		%	2)授業には教科書と辞書を持参すること。					
2. 中間テスト		%	3)授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。					
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7. 1から6を総合して		40 %						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		60 %	事前学習型授業[第2回~第14回]					
2. 論文、まとめのレポートなど		%	発話練習[第2回~第14回]					
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	指定されたクラスの教科書を各自確認し、購入すること。							
参考書	『Hello New York!』、『Speaking of People』、『First Time Working Abroad』							
							15 総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	TOEIC入門 Introduction to the TOEIC Test			単位数	授業内容*	
担当者	永末 温子 (NAGASUE Haruko) 木梨 安子 (KINASHI Yasuko)		中島 久代 (NAKASHIMA Hisayo)	1	1	イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) TOEIC Listening & Readingテストの概要説明 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		EEC1103・ERC1103・SSC1103		2	Unit 1 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 1の練習問題を解いておく 復修:Unit 1の練習問題の見直し
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期			
授業概要	本科目では、英語Iまたは英語IIと同時に進行で、TOEICに挑戦するために必要な基礎英語力を養いながら、TOEIC受験対策を実践的に行います。リスニングではPart 1(写真描写問題)とPart 2(応答問題)に頻出する英語表現とそれらの回答方法に馴れること、リーディングではPart 5(文法)に頻出する基本的な文法事項の回答方法に慣れることに、それぞれ重点を置いて学習します。				3	Unit 2 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 2の練習問題を解いておく 復修:Unit 2の練習問題の見直し
授業到達目標	学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式に慣れる。授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。TOEIC Listening & Reading IP Testでは350点程度のスコア獲得を目標とする。				4	Unit 3 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 3の練習問題を解いておく 復修:Unit 3の練習問題の見直し
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 受講者は学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験する必要があります。			
1. 小テスト、感想文など		%	2) 授業には教科書と辞書を持参すること。			
2. 中間テスト		%	3) 授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 1から6を総合して		40 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	事前学習型授業[第2~7回、第9~13回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	TOEIC IP Test受験[第8回、第14回]			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	前期『THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 350』、後期『PRIMARY TRAINER FOR THE TOEIC L&R TEST』					
参考書						
					11	Unit 9 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 9の練習問題を解いておく 復修:Unit 9の練習問題の見直し
					12	Unit 10 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 10の練習問題を解いておく 復修:Unit 10の練習問題の見直し
					13	Unit 11 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 11の練習問題を解いておく 復修:Unit 11の練習問題の見直し
					14	TOEIC Listening & Reading IP Test 予復修課題: 予修:TOEIC Listening & Reading IP Testの準備 復修:テスト後の確認
					15	総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第13回目までの授業で学んだ教科書の練習問題の総合的な振り返り

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ドイツ語		単位数	授業内容*	
	German		1		
担当者	山本 洋一 (YAMAMOTO Yoichi) 林 秀彦 (HAYASHI Hidehiko)		専任 & 非常勤	1	
	篠崎 元 (SHINOZAKI Hajime) 島浦 一博 (SHIMAURA Kazuhiro)			2	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		EEC1104・ERC1104・SSC1104	3	
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	4	
配当年次	1年生	開講学期 前期	経済学部・スポーツ学部共通	5	
授業概要	新しい外国語にチャレンジする皆さんが、基本的なドイツ語の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようになることを目指します。受講生の皆さんが、テキスト内の日常の会話シーンにひとつずつ触れながら文法体系を段階的に学習し、この新しい言語に自然に慣れ親しんでいくことができるように、簡単な会話パターンの練習や詳細な文法の説明をおりませた授業となります。ほとんどがローマ字読みで発音できる、新たに始めるのに最適なドイツ語を、一緒に学んでいきましょう。				
	ドイツ語、では、実際に使える基礎的言語能力(基本的なドイツ語の仕組みが理解でき、簡単な日常会話ができる)の獲得を目指します。ドイツ語の目標は以下の4点です。 1.ドイツ語の正確な発音ができる。2.主語に従った動詞の現在人称変化ができる。3.名詞の文法上の性別を理解し、定冠詞及び不定冠詞を用いてその区別ができる。4.既習のドイツ語運用能力の範囲で他者とのコミュニケーションが図れ、その体験を通して世界情勢にも目を向ける意識を高め、他者を思いやり、他者と共に生きる力を獲得することができる。				
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				
	【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				
	【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				
	【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	受講クラスは年度当初の履修希望調査を経て、確定される。各自指定クラスで受講すること。独和辞典を毎回の授業に必ず持参すること。独和辞典は初回の授業で紹介(推薦)する。授業内容の理解度を確保するための小テストを数回実施し、その結果を成績に反映させる。各授業の予復修には、平均1時間程度要する。			
1. 小テスト、感想文など	70 %				
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	5 %				
4. 授業中の発表、討論	10 %				
5. 授業への参加意欲	10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)	5 %				
7.	%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	%	タンデムでの会話練習			
2. 論文、まとめのレポートなど	%	ロールプレイ方式での会話実践			
3.	%	授業内容理解度確認のための小テスト			
再評価の実施	する	しない			
教科書	山本 洋一『ドイツ語一步一步』 郁文堂 2015年				
参考書	特になし				
				11	
				12	
				13	
				14	
				15	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ドイツ語 German		単位数	授業内容*	
担当者	山本 洋一 (YAMAMOTO Yoichi)	林 秀彦 (HAYASHI Hidehiko)	1	1	名詞の格変化とその用法(1) 名詞の格と不定冠詞・定冠詞 予復修課題: 復修: テキストp.26会話の練習。予修: p.27~29のポイント確認。
	篠崎 元 (SHINOZAKI Hajime)	島浦 一博 (SHIMAURA Kazuhiro)	専任 & 非常勤	2	名詞の格変化とその用法(2) 名詞の格と不定冠詞・定冠詞 予復修課題: 復修: p.27~28格変化形練習。予修: p.29~30ポイント確認。
実務経験のある教員による授業	ナンバリング		EEC1202・ERC1202・SSC1202	3	名詞の格変化とその用法(3) 人称代名詞・疑問代名詞の格変化 予復修課題: 復修: p.28~29格変化形練習。予修: p.30~31のポイント確認。
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	4	名詞の格変化とその用法(4) 1~4格の使い方 小テスト1 名詞の格変化の基本形(p.26~29 疑問代名詞まで) 予復修課題: 復修: p.29~31練習。予修: DIALOG 3a, 3b, 練習問題3-2, 3, 4。
配当年度	1年生	開講学期 後期	経済学部・スポーツ学部共通	5	名詞の格変化とその用法(5) 1~4格の使い方 DIALOG 3a, 3b タンデム練習とロールプレイ、練習問題3-2, 3, 4 の解説。 予復修課題: 復修: p.32~33の再確認と練習。予修: p.34会話ポイント確認。
授業概要	大学生になってドイツ語にチャレンジした皆さんは、これまでの授業ですでにドイツ語の基本が身につけ始めているはず。これからも、テキスト内の日常の会話シーンにひとつずつ触れながら文法体系を段階的に学習し、この新しい言語に自然に慣れ親しんでいくことができるように、簡単な会話パターンの練習や詳細な文法の説明をおりませた授業となりますが、徐々に難しい事項も学びますので、さらに頑張ってください。				
授業到達目標	ドイツ語、では、実際に使える基礎的言語能力(基本的なドイツ語の仕組みが理解でき、簡単な日常会話ができる)の獲得を目指します。ドイツ語の目標は以下の4点です。 1. 名詞の格の概念を理解し、冠詞を用いて格変化させ、実際の文中で使用できる。 2. 特殊な現在人称変化を理解し、命令文とともに実際に使用できる。 3. 基本的な前置詞の意味と格支配を理解し、実際に使用できる。 4. 既習のドイツ語運用能力の範囲で他者とのコミュニケーションが図れ、世界情勢に目を向け、他者を思いやり他者と共生する力を獲得することができる。				
	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				
	【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				
	【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				
	【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				
	成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	受講クラスは年度当初の履修希望調査を経て、確定される。各自指定クラスで受講すること。独和辞典を毎回の授業に必ず持参すること。独和辞典は初回の授業で紹介(推薦)する。授業内容の理解度を確保するための小テストを数回実施し、その結果を成績に反映させる。各授業の予復修には、平均1時間程度要する。			
1. 小テスト、感想文など	70 %				
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	5 %				
4. 授業中の発表、討論	10 %				
5. 授業への参加意欲	10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)	5 %				
7.	%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	%	タンデムでの会話練習			11
2. 論文、まとめのレポートなど	%	ロールプレイ方式での会話実践			12
3.	%	授業内容理解度確認のための小テスト			13
再評価の実施	する	しない			
教科書	山本 洋一『ドイツ語一步一步』 郁文堂		2015年		
参考書	特になし				
					15
					予復修課題: 後期の学習事項の再確認をすること。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	中国語 Chinese		単位数	授業内容*	
担当者	黄 冬柏 (HUANG Dongbai)	張 玲 (ZHANG Ling)	1	1	ガイダンス：シラバスを配付し、授業の内容や進め方、および成績評価などについて詳しく説明する。 予復修課題：中国と中国語について調べ、教科書70頁を復修すること。予復修の目安時間：各30分。
	顧 紅英 (GU Hongying)	陳 振華 (CHEN Zhenhua)	専任 & 非常勤	2	発音(1)：声調と単母音 声調と単母音の発音要領を説明し、練習を行う。(教科書p1-p3) 予復修課題：CD1-CD8を聴くこと。教科書1頁から4頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
実務経験のある教員による授業	ナンバリング		EEC1105・ERC1105・SSC1105	3	発音(2)：子音 子音の発音要領を説明し、練習を行う。(教科書p4-p5) 予復修課題：CD9-CD13を聴くこと。教科書5頁から6頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	4	発音(3)：複合母音 複合母音の発音要領を説明し、練習を行う。(教科書p6-p7) 予復修課題：CD14-CD17を聴くこと。教科書7から8頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
配当年次	1年生	開講学期	前期	5	発音(4)：発音の規則 発音の規則を説明し、挨拶の練習を行う。(教科書p8-p10) 予復修課題：CD18-CD23を聴くこと。教科書9頁から11頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
履修学部	経済学部・スポーツ学部共通			6	第1課：お名前は 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p12-p13) 予復修課題：CD24-CD25を聴くこと。教科書12頁から13頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
授業概要	この授業では、日常の表現を中心とした会話教材を使用し、発音と聞き取りの訓練を行うことによって、中国語発音の基礎と初歩的な文法を学習する。 初めて習う外国語なので、あまり難しく考えず、教科書を暗誦できるくらいにじっくり練習する。			7	文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p14-p16) 予復修課題：CD26-CD31を聴くこと。教科書14頁から15頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
授業到達目標	中国語の発音と文法の基礎的な知識を習得し、挨拶や簡単な日常会話ができる。また、中国語学習を通して、中国の文化をより深く理解できる。			8	復修と中間テスト これまで勉強した内容を復習した後、中間テストを行う。 予復修課題：教科書の単語・会話文・文法、CD1-CD31(教科書p1-p16)を復修すること。復修の目安時間：60分。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				9	第2課：私は日本からの留学生 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p17-p18) 予復修課題：CD32-CD33を聴くこと。教科書17頁から18頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。		10	文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p19-p21) 予復修課題：CD34-CD39を聴くこと。教科書19頁から20頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。		11	第3課：あなたは毎日何時に大学へ行くの 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p22-p23) 予復修課題：CD40-CD41を聴くこと。教科書22頁から23頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。		12	文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p24-p27) 予復修課題：CD42-CD48を聴くこと。教科書24頁から26頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項		13	第4課：実家は福岡市にある 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p28-p29) 予復修課題：CD49-CD50を聴くこと。教科書28頁から29頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	朗読や練習など、日常の学習が非常に大切なので、必ず予修と復修を行うこと。 中国語のリズムや抑揚を体得するには、ヒアリングが一番重要なので、教科書に付いているCDを繰り返し聴くこと。 授業中は積極的に声を出して練習すること。		14	文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p30-p32) 予復修課題：CD51-CD56を聴くこと。教科書30頁から31頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
1. 小テスト、感想文など	10%	アクティブ・ラーニング ・ミニッツペーパー：第1回・第7回・第13回 ・小テスト：第5回・第10回 ・中間テスト：第8回 ・グループ学習：第2回～第14回		15	復修、まとめ 復修や質疑応答を行った後、まとめのテストを実施し、テストを解説する。 予復修課題：教科書の単語・会話文・文法、CD32-CD56(教科書p17-p32)を復修すること。復修の目安時間：60分。
2. 中間テスト	20%				
3. 課題レポートなどの提出物	%				
4. 授業中の発表、討論	10%				
5. 授業への参加意欲	10%				
6. 自主的学習(予習・復習など)	10%				
7.					
2) 最終到達度の評価					
1. まとめのテスト	40%				
2. 論文、まとめのレポートなど					
3.					
再評価の実施	する	しない			
教科書	黄 冬柏 『やさしい中国語10課』 中国書店 2008年				
参考書	芦 益平・黄 冬柏 『漢語生活会話』 白帝社 2004年				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		中国語 Chinese		単位数	1		授業内容*		
担当者		黄冬柏 (HUANG Dongbai) 張玲 (ZHANG Ling)		専任 & 非常勤		1		ガイダンス：シラバスを配付し、授業の内容や進め方、および成績評価などについて詳しく説明する。また、中国語の内容を復修する。 予復修課題：教科書会話文・CD1-CD56(教科書p1-p32)を復修すること。復修の目安時間：60分。	
実務経験のある教員による授業		顧紅英 (GU Hongying) 陳振華 (CHEN Zhenhua)		ナンバリング		EEC1203・ERC1203・SSC1203		2	第5課：北九州の気候は 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p33-p34) 予復修課題：CD57-CD58を聴くこと。教科書33頁から34頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
授業形式		演習		科目区分		総合共通科目		3	文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p35-p37) 予復修課題：CD59-CD65を聴くこと。教科書35頁から36頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
配当年次		1年生		開講学期		後期		4	第6課：いくら 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p40-p41) 予復修課題：CD67-CD68を聴くこと。教科書40頁から41頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
授業概要		この授業では、日常の表現を中心とした会話教材を使用し、発音と聞き取りの訓練を行うことによって、中国語発音の基礎と初歩的な文法を学習する。 初めて習う外国語なので、あまり難しく考えず、教科書を暗誦できるくらいにじっくり練習する。						5	文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p42-p44) 予復修課題：CD69-CD74を聴くこと。教科書42頁から43頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
授業到達目標		中国語の発音と文法の基礎的な知識を習得し、挨拶や簡単な日常会話ができる。また、中国語学習を通して、中国の文化をより深く理解できる。						6	第7課：何を食いたい 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p45-p46) 予復修課題：CD75-CD76を聴くこと。教科書45頁から46頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)									
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。									
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。									
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。									
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		朗読や練習など、日常の学習が非常に大切なので、必ず予修と復修を行うこと。 中国語のリズムや抑揚を体得するには、ヒアリングが一番重要なので、教科書に付いているCDを繰り返し聴くこと。 授業中は積極的に声を出して練習すること。					
1. 小テスト、感想文など		10 %		アクティブ・ラーニング ・ミニッツペーパー：第1回・第7回・第13回 ・小テスト：第5回・第10回 ・スピーチ・テスト：第14回 ・グループ学習：第2回～第14回					
2. 中間テスト		20 %							
3. 課題レポートなどの提出物		%							
4. 授業中の発表、討論		10 %							
5. 授業への参加意欲		10 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %							
7.									
2) 最終到達度の評価		40 %							
1. まとめのテスト									
2. 論文、まとめのレポートなど									
3.									
再評価の実施		する		しない					
教科書		黄冬柏『やさしい中国語10課』中国書店 2008年							
参考書		芦益平・黄冬柏『漢語生活会話』白帝社 2004年							
11		文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p58-p60) 予復修課題：CD90-CD91を聴くこと。教科書58頁から59頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。		第10課：私は野球をやるのが好き 単語と本文を説明し、発音を練習する。(教科書p61-p62) 予復修課題：CD92-CD93を聴くこと。教科書61頁から62頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。					
12		文法の学習と練習問題 文法を解説し、練習問題を解く。(教科書p63-p65) 予復修課題：CD94-CD95を聴くこと。教科書63頁から64頁まで復修すること。予復修の目安時間：各30分。		スピーチ・テスト(自己紹介) 中国語で自己紹介をする。 予復修課題：付録7:自己紹介(教科書p78)に基づいて作文すること。復修の目安時間：60分。					
13		復修、まとめ		15					
14		復修や質疑応答を行った後、まとめのテストを実施し、テストを解説する。 予復修課題：教科書の単語・会話文・文法、CD57-CD95(教科書p33-p67)を復修すること。復修の目安時間：60分。							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		韓国語 I Korean I		単位数	授業内容*	
担当者		桂 林春 (KEI Limchun) 洪 鐘ヒ (HONG JongHee)		1	1 ガイダンス 講義の進め方 これからの半期の授業の概要等を説明します。 韓国語の歴史と特徴等について 予復修課題： 筆記用具、ノートの持参	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		EEC1106・ERC1106・SSC1106		
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1年生	開講学期	前期			
授業概要	本講義では、初めて韓国語を学ぶ受講生を対象に韓国語の「基本文字」と「正確な発音」の習得を目指します。そのためには韓国語の仕組みについての理解も求められます。「韓国語 I」では、文字を覚えて発音ができるまで、つまり文字を正確に読める事、正しく書ける事に重点を置きながらすすめていきます。韓国語と日本語は似ている部分も多いため学習し易いと云われていますが、初学習者にとっては、決して容易であるとは言えません。授業中の繰り返しの練習を通じて、是非「韓国語」を習得してください。					
授業到達目標	1. 韓国語の文字と発音の学習－基本文字が書けて、正確な発音で読める。 2. 単語の発音ができる。 3. 基本的な挨拶が話せる－簡単な決まり文句や挨拶ができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕						
【知識・技能】	キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えることができる。				◎	
【思考力・判断力・表現力】	本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				○	
【主体性・協働性】	自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				○	
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	* 毎回の授業終了時、講義内容を書いたペーパーの提出。			
1. 小テスト、感想文など		10 %	* UNIVERSAL PASSPORTを活用。			
2. 中間テスト		10 %	* 毎回、60分を目安に予復修をおこなうこと。			
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		40 %	クラスメートと韓国語で挨拶をする。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する ○   しない					
教科書	『レッスン韓国語 I』					
参考書	講義の中でその都度紹介します。					
1		2				
3		4				
5		6				
7		8				
9		10				
11		12				
13		14				
15						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		韓国語Ⅱ Korean Ⅱ		単位数	授業内容*	
担当者		桂 林春 (KEI Limchun) 洪 鐘ヒ (HONG JongHee)		1	1 ガイダンス 講義の進め方 これからの半期の授業の概要を案内します。 前期の復修1 予復修課題： 筆記用具、ノートの持参	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			2 基本文型「～は・・・です」 前期の復修2 身近な名詞と助詞の使い方 家族関係とその名称 予復修課題： 教科書の文章を書いて音読	
授業形式		科目区分		総合共通科目	履修学部	
配当年次		開講学期		1年生	後期	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		EEC1204・ERC1204・SSC1204		
授業概要		本授業は、基本的には前期の続きとして進めていきます。 基本文字の正確な発音や単語の読み書きを中心に学習した「韓国語Ⅰ」からレベルアップし、基礎的な文法の学習、短い文章の読み、さらに自己紹介や日常会話など、より実践的な内容を学びます。そのためには、宿題や予修・復修を欠かさずこなすことも必要になります。楽しく学習できるよう受講生皆さんの積極的な参加を求めます。時折、韓国の文化についても触れていきます。本講義を通じて隣国の言葉や文化に関する知識や理解を深めてほしい。				
授業到達目標		1. 文字を正確に書くことができる。 2. 正しい発音で短文をゆっくり読むことができる。 3. 自己紹介と簡単な会話表現ができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕						
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えることができる。				◎
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				○
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				○
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	* 毎回の授業終了時、講義内容に関するペーパーを提出すること。			
1. 小テスト、感想文など		10 %	* UNIVERSAL PASSPORTの活用。			
2. 中間テスト		10 %	* 毎回、60分を目安に予復修をおこなうこと。			
3. 課題レポートなどの提出物		10 %	* 授業中の基本マナーを守ること！			
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		40 %	ペアー・グループの会話練習			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する ○   しない				
教科書		『レッスン韓国語Ⅰ』				
参考書		講義の中でその都度紹介します。				
		15 試験の実施と解説 予復修課題： 半期の講義内容を確認する				

\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	イングリッシュ・ワークショップ English Workshop			単位数	授業内容*	
担当者	黒木 隆善 (KUROGI Takayoshi)	永松 美保 (NAGAMATSU Miho)		1	1 [夏期集中講座]オリエンテーション 自己紹介とアイスブレイキングを中心に行います。 予復修課題： 分からなかった単語をピックアップし後で調べる。次回の内容について調べておく。	
担当	ダニエル・ドロークス (DROUKIS Daniel)			専任	2 [夏期集中講座]発音練習・英語の歌 英語の発音練習と基礎知識を学び、英語の歌を実際に歌ってみる活動を行います。 予復修課題： 発音の繰り返し練習、歌の練習を各自行う。	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング	EEC1107・ERC1107・SSC1107		3 [夏期集中講座]コミュニケーションの基礎・英検2級面接練習 コミュニケーションの基礎となる時制の訓練と、英検2級の面接練習を行います。 予復修課題： 時制を意識した英文を作る練習をする。
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1年生	開講学期	後期集中			
授業概要	英語でのプレゼンテーション能力はグローバル化する現代社会において必要なスキルの1つです。本科目では、英語のコミュニケーション・プレゼンテーション能力を磨くために、ネイティブスピーカーを中心とした集中講義の形式で、英語のみを使用して様々なトピックでのトークやアクティビティを行い、学生自身の英語でアウトプットを積極的に促す授業を展開します。					
授業到達目標	CEFR-J A2.1(やりとり・発表)程度の到達度を目指します。具体的には、下記の通りです。 1. 基本情報を伝え、簡単な意見交換ができる。 2. 簡単な語句や文を使って、身近なトピックについて短い話をする事ができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1. 全て英語で行う授業ですので、日本語を使わないようにしてください。			
1. 小テスト、感想文など		10 %	2. 各回の授業において、約1時間の予復修を行うように心がけてください。			
2. 中間テスト		%	3. 分からない語句を調べるために、電子辞書等を持参してください。			
3. 課題レポートなどの提出物		%	4. 授業の具体的なスケジュール等は、第1回目の授業で説明します。			
4. 授業中の発表、討論		40 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	グループワーク[第1~4回、11回~15回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	プレゼンテーション[第11~15回]			
3.		%	実践学習[第5回~10回]			
再評価の実施	する	しない				
教科書	ありません。適宜配布プリントで対応します。					
参考書	ありません。					
					11 [コミュニケーション・プレゼンテーション] 英語でのプレゼンテーションの際に使う語句等について学びます。 予復修課題： プレゼンテーションに必要な語句の復修・プレゼンテーションに使えるような語句の確認。	
					12 [コミュニケーション・プレゼンテーション] 英語でのプレゼンテーションの作り方について学びます。 予復修課題： 分からない語句の復修・プレゼン具体的内容を固める。	
					13 [コミュニケーション・プレゼンテーション] 英語でプレゼンテーションを作成していきます。 予復修課題： 学んだ技術の反復練習・プレゼンの内容の修正を行う。	
					14 [冬期集中講座]英語でプレゼンテーション 英語でプレゼンテーションを行います。 予復修課題： プレゼンテーションの準備を行う。	
					15 [冬期集中講座]まとめ プレゼンテーションの評価を行い、総評・表彰等を行います。 予復修課題： 自分自身のプレゼンテーションの振り返りを行う	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		海外研修 English Studies Abroad		単位数	授業内容*		
担当者		田中 雅子 (TANAKA Masako)		専任			
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		EEC1301・ERC1301・SSC1301			
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽﾎｰﾙ学部共通		
配当年次	全学年	開講学期	集中				
授業概要	この科目は国際交流・留学生支援室が募集する、短期海外研修プログラムに参加した学生に単位が与えられる科目です。英語や韓国語など、各協定校における語学研修プログラムを受講し言語運用能力の向上を目指します。各協定校における語学研修プログラムでは、文法・聴解・読解・会話など、言語運用能力を向上させる4技能を、それぞれの協定校における手法で学習していきます。また、海外での学習だけでなく、その土地の文化を体験し、国際人としての教養を深めることを目指します。						
授業到達目標	短期海外研修プログラムを通して、積極的に語学学習に取り組む姿勢を身につける。 短期海外研修プログラムを通して、その土地の文化を理解することができる。						
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。							
【思考力・判断力・表現力】本学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。							
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	成績評価は研修先から発行される成績証明書と研修報告書に基づいて行います。				
1. 小テスト、感想文など		%	各協定校ごとに、プログラムの内容やスケジュールが異なります。詳細内容は、国際交流・留学生支援室にて取り扱っています。				
2. 中間テスト		%	プログラム参加にあたっては、事前研修等に出席する必要があります。詳細は、国際交流・留学生支援室にて取り扱っています。				
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	各協定校の授業の手法により異なりますが、				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	海外の大学においては積極的に行動しなければ				
3.		%	何も得られません。自ら積極的に行動するよう				
再評価の実施		する	しない	に心がけましょう。			
教科書							
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	情報処理演習 Information Processing Practice I		単位数	授業内容*	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)		ほか	専任 & 非常勤	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		EED1101・ERD1101・SSD1101		
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通
配当年次	1年生	開講学期	前期		
授業概要	インターネットやコンピュータを活用することは現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集・整理を行い、考えを主張していくことが社会人として身につけておく要素のひとつである。本科目はパソコンを実際に操作しながら初歩的なワードプロセッサや表計算・図形描画・電子メール・情報検索などを演習形式で繰り返し操作しながら体得していき、身近な情報機器を積極的に活用できるようにしていく。また、本学の情報処理施設の利用法を学ぶ最初の機会でもある。特殊な操作もあるがしっかりと習得していく。				
授業到達目標	1. コンピュータの基礎用語を理解し、基本的な利用方法を習得し説明できる。 2. 簡単なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。 3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。 4. インターネットを活用し、容易に情報を収集できる。				
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	家庭や公共な場所で利用するコンピュータとは異なる取り扱いがいくつかあり、自らが作成したファイルを消失させてしまうことが多々発生している。ファイルの保存場所について学んだことが身につけていないと、他の科目においても不利益を被ることが予想される。講義および課題に集中して臨むことで他科目の学びにも繋がる。		
1. 小テスト、感想文など		5 %			
2. 中間テスト		%			
3. 課題レポートなどの提出物		40 %			
4. 授業中の発表、討論		10 %			
5. 授業への参加意欲		20 %			
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %			
7.		%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		%	他者からの学び、他者への指導、意見交換などを通じてパソコン操作の技量を高めていく。他者の作品を自身のものと見比べながら意見交換を行い、新しい発見へと導く。		
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %			
3.		%			
再評価の実施	する	しない			
教科書	杉本くみ子・大澤栄子『情報リテラシー Office2016』実教出版 2016年				
参考書	インターネットとモラルに関する副読本				
1	本学の情報処理施設の利用法・パソコン・キーボード・マウス等の名称および操作方法 ログオン・ログオフ・アイコン・メニュー・Zドライブ・アクティブメールの取り扱い 予復修課題：シラバスを熟読しておくこと。アクティブメールが使えるようになること。				
2	メモ帳・タッチタイピング・日本語の入力方法・ワードパッド・ファイルの作成・保存方法・フォルダーの作成等の理解 予復修課題：ブラインドタッチについて調べ、指の使い方(一覧表)を理解しておく(4時間)				
3	Microsoft Wordの使用法：キーボード入力(解説・書式・フォント・文字修飾)・段落・ショートカットキー等の理解 予復修課題：ショートカットキー(Ctrlキーの使い方)について「各種」調べておく(4時間)				
4	Microsoft Wordの使用法：マウス操作(解説・左クリック右クリック・コピー&ペースト・ダブルクリック・ファイルの移動やコピー・フォルダの移動やコピー等) 予復修課題：上書き保存をするときの注意点・ファイル移動の時の注意点について調べる(4時間)				
5	ブラウザ・電子メールの利用法・検索・Microsoft Wordの使用法：図形の挿入・線画の作成・移動・拡大・挿入・消去などの理解 予復修課題：学生用メールとソーシャルネットサービスのメールの違いについて調べる(4時間)				
6	Microsoft Wordの演習課題(図形描画を含んだ作品の制作) 文書入力・表作成・図形描画とそのレイアウト設定についての理解 予復修課題：課題作成のために必要な、ここまでの内容の総括(4時間以上)				
7	Microsoft Excelの使用法：セル・シート・ブック・オートフィル・保存法・文字修飾 セルの移動・コピー・計算などの理解 予復修課題：セルに入力する語句について理解を深めること(4時間以上)				
8	Microsoft Excelの使用法：絶対参照・相対参照・セルサイズの調整・文字配置・リンクの貼り付け・オートフィルの発展的利用法 予復修課題：マウス右クリックから使えるメニューについて理解を深める(4時間以上)				
9	Microsoft Excelの使用法：エクセルの関数やシート編集について理解する。 ソート・検索・列挿入・行挿入・コピー・削除・置換などについて 予復修課題：掛け算九九表から、それよりも大きなサイズの積算表が作れるようになること(4時間以上)				
10	Microsoft Excelの演習課題 エクセルで作成した計算表(九九など)から各種の装飾や抽出を行えるようになる。 予復修課題：エクセルメニューバーにある色々な機能について調べておく(4時間以上)				
11	Microsoft PowerPointの使用法：テキスト入力・書式設定・フォントの調整・スライド作成・写真や図形の挿入等の基本操作を行う。 予復修課題：パワーポイント使用時の「色を含めた文字装飾」の選び方を調べておく(4時間以上)				
12	Microsoft PowerPointの使用法：スライド操作・各種の効果表示の取扱いについて プレゼンテーション資料作成の基本形理解とその資料印刷について理解する。 予復修課題：色相環について調べて理解しておく(4時間以上)				
13	Microsoft PowerPointの演習課題 自分の出来事を題材として3分間プレゼンテーションができる資料をつくる。 予復修課題：スライド作成時の「アピールポイントのコツ」を調べておく(4時間以上)				
14	インターネットの基礎・情報収集と著作権・情報の信頼性について・メールのマナーとモラル・情報発信と受信を行う時の注意点について 予復修課題：モラル・情報発信と受信を行う時の注意点について				
15	情報処理演習Ⅰのまとめ ワード・エクセル・パワーポイントがリンクした形での資料作成 予復修課題：オフィスソフトにおけるデータのリンクについて調べておく(4時間以上)				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	情報処理演習 Information Processing Practice II			単位数	授業内容*	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)		ほか	1	1	<p>1 本学情報処理施設の利用方法について復習(情報処理演習Ⅰの修得内容の確認)情報処理演習Ⅰや他の科目を通じて修得したスキルを資料にまとめる。 予復修課題: 前期の振り返りをしておく(「できる」を前提として進めていくので注意すること)</p> <p>2 Microsoft Wordの使用法: ビジネス文書作成の基本について ビジネス文書の検索・模倣・作成を行う。罫線の処理や複雑な書式設定を理解する。 予復修課題: ルーラーの使用方法について調べておく(4時間)</p> <p>3 Microsoft Wordの使用法: ポスターの作成を通じて印刷サイズを理解する。 複雑な図形設定や写真の拡大・縮小・図形と文字の配置などの操作を習得する。 予復修課題: 図形のレイアウトについて調べて操作できるようにしておく(4時間)</p> <p>4 Microsoft Excelでの住所録データの作成を通じたWordとのリンクについて (Excel・Word): ハガキ印刷を行う時のテクニックを習得する。 予復修課題: Wordにおけるハガキ印刷について調べておく(4時間)</p> <p>5 Microsoft Excelの使用法: エクセルによる図表作成と各種グラフの取扱いについて データを視覚化する手法である「グラフ」の作成とそのスタイル選択を身に付ける。 予復修課題: エクセルでの「数値」と「文字列」の違いを理解しておく(4時間)</p> <p>6 Microsoft Excelの使用法: リンクの貼付・データベースの使用法・基本統計関数の 使い方について 予復修課題: エクセルの操作における関数処理(sumやaverageなど)を調べておく(4時間)</p> <p>7 Microsoft Excelの使用法: 統計処理・統計グラフ・統計関数等の操作法 分散・標準偏差を求めるための操作について学ぶ。 予復修課題: エクセルの「分析ツール」の表示法と操作について調べておく(4時間)</p> <p>8 Microsoft Excelの演習課題 Excel関数を使った計算処理についてまとめを行う。 予復修課題: エクセル関数について復修を行っておくこと(4時間以上)</p> <p>9 Microsoft PowerPointの使用法: 高度な利用法について 視覚効果の利用とその功罪について理解を深める。 予復修課題: アニメーションの多用がどういふ結果を導くのかについて調べておく(4時間)</p> <p>10 Microsoft PowerPointの演習課題 自分の将来について「企画」プレゼンテーションを作成する。 予復修課題: 自己紹介・自己PRについて調べて知っておくこと(4時間以上)</p> <p>11 インターネットの発展とそれに伴う諸問題について PCとスマートフォンでのインターネット利用の類似点と相違点を知る。 予復修課題: 各種検索サイトの違いについて調べておく(4時間以上)</p> <p>12 情報のマナーとモラルや情報化社会の諸問題について 著作権に対する深い学びを行い、SNSにおける肖像権や匿名記事などに関して理解する。 予復修課題: インターネット上での「炎上」について調べておく(4時間以上)</p> <p>13 情報発信の基礎: ホームページのしくみについて htmlによる記述の基本を理解し、インターネット上のサイトが表示される仕組みを知る。 予復修課題: htmlについて調べておく(4時間以上)</p> <p>14 パソコンを利用した教育・学習について理解を深める パソコンは万能ではなく、使う人の「使用法」に依存することを改めて理解する。 予復修課題: スマホでゲームを行う時間について情報を得ておく(4時間以上)</p> <p>15 情報処理演習IIのまとめ ワード・エクセル・パワーポイントで「ほぼ同じ資料」を作成する(例:履歴書) 予復修課題: オフィスソフトの特徴を復修しておくこと(4時間以上)</p>
実務経験のある教員による授業			ナンパリング	EED1201・ERD1201・SSD1201	2	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1年生	開講学期	後期			
授業概要	<p>前期に行った情報処理演習Ⅰから発展する形で、文書作成・表計算・プレゼンテーション資料作成の技量を高めていく。その流れの中で数学的基礎知識(主として統計学)や芸術的センスのイロハ(レイアウトや色彩感覚など)も踏まえた内容を学んでいく。キー入力速度についても技能向上を求めていく。コンピュータ用語としての英語も含まれて来るので、しっかりと理解し体得していく。情報処理演習Ⅰで行った内容は既に理解し実践できるという前提で物事が進んでいくので、過去の内容の「きちんとした振り返り」が必要となる。</p>					
授業到達目標	<p>1. コンピュータの基礎用語を理解し、基本的な利用方法を習得し説明できる。 2. 簡単なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。 3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。 4. インターネットを活用し、容易に情報を収集でき、その価値や真偽の判断を実践できる。</p>					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<p>家庭や公共な場所で利用するコンピュータとは異なる取り扱いがいくつかあり、自らが作成したファイルを消失させてしまうことが多々発生している。ファイルの保存場所について学んだことが身につけていないと、他の科目においても不利益を被ることが予想される。講義および課題に集中して臨むことで他科目の学びにも繋がる。</p> <p>アクティブ・ラーニング 他者からの学び、他者への指導、意見交換などを通じてパソコン操作の技量を高めていく。他者の作品を自身のものと見比べながら意見交換を行い、新しい発見へと導く。</p>			
1. 小テスト、感想文など		5 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		40 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	杉本くみ子・大澤栄子『情報リテラシー Office2016』実教出版 2016年					
参考書	インターネットとモラルに関する副読本					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		情報処理演習 Information Processing Practice		単位数	授業内容*	
担当者		太田 成俊 (OHTA Shigetoshi)		1	1 本学の情報処理施設の利用法・パソコン等の操作法・情報処理演習 の復修。 授業のための約束事を共通理解・単位取得のために必要なことを説明しまとめる。 予復修課題： シラバスを熟読しておくこと。(15分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EED2101	2 Microsoft Wordの使用法：キーボード入力 of 解説・書式・フォント・文字修飾・文字配置などを理解する。報告書の形式を習得し、応用課題を作成する。 予復修課題： タッチタイピングに慣れるとともに、携帯を利用した文書作成も経験する。(45分)	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	2年生	開講学期	前期			
授業概要	インターネットやコンピュータを利用することは、現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集を行い、自分自身をアピールすることは社会人として身につけておく必要があります。本授業ではパソコンを実際に操作しながら、情報処理演習、を基礎にワード、エクセル、プレゼンテーション、情報検索、統計処理などを演習形式で体得し、さらに理解を深め、応用力を高めることを目標としています。このように発展的なパソコンの使用能力を身に付けるために、最低限、のどちらかの単位は修得しておく必要があります。					
授業到達目標	1. コンピュータの使用法を理解し、発展的利用法を習得し他者に説明できる。 2. 複合的なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。 3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。 4. インターネットを活用し容易に情報を習得できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	課題作成で留意すべきことは、 新しく学んだことは忘れないようメモする。 板書や教員の説明をよく聞き理解すること。 とりあえずやってみる体験すること(Do)。 エラーメッセージの原因を探る(Check)。 わからないことはすぐにだれかに聞く。 積極的に人に教えてあげること。 予復修でファイル作成をやってみる。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	特になし					
参考書	特になし					
			15 講義の振り返り：自分がパソコンでどんなことができるようになったのかを 自ら考えて、講義の感想文を作成する。 予復修課題： 講義の感想を提出する。(15分)			
			11 統計処理：作成した統計データをもとに統計処理について演習で理解する。 仮説、仮説の検証、検定の意味と方法を理解し、応用課題を作成する。 予復修課題： 統計処理を理解するための応用課題を提出する。(45分)			
			12 その他のアプリケーション：線図の作成・写真のトリミング・挿入 アニメーション・シミュレーションソフトを実行し、応用課題を作成する。 予復修課題： 線図・写真・アニメなどのビジュアルな課題を作成し提出する。(45分)			
			13 その他のアプリケーション：グラフの作成・SPI問題を解く・数的把握・ などの問題を解くためのアプリを使い、応用課題を作成する。 予復修課題： 数学的な問題を解くための応用課題を提出する。(60分)			
			14 インターネット基礎・情報の収集・著作権・信頼性・電子メールのマナー・ モラル・情報の発信・情報の重要性を理解し、応用課題を作成する。 予復修課題： 情報モラルなどの重要性を意識するための課題を提出する。(30分)			

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	情報処理演習 Information Processing Practice			単位数	授業内容*	
担当者	太田 成俊 (OHTA Shigetoshi)			1	1 本学の情報処理施設の利用法・パソコン等の操作法・情報処理演習 の復修。 授業のための約束事を共通理解・単位取得のために必要なことを説明しまとめる。 予復修課題： シラバスを熟読しておくこと。(15分)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EED2201	2 Microsoft Wordの使用法：ビジネス文書とは何か・インターネットでの検索 ビジネス文書の形式を習得し、応用課題を作成する。 予復修課題： 手順に慣れるとともに、応用課題を提出する。(30分)	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修 学部	3 Microsoft Wordの使用法：ポスター・挨拶文・はがき文面作成。 ポスター・挨拶文・はがきなどの応用課題を作成する。 予復修課題： 挨拶文の文案を調べる。応用課題を提出する。(30分)	
配当年次	2年生	開講学期	後期	経済学部・スポーツ学部共通	4 Microsoft Wordの使用法：図形の挿入・数式の挿入・グラフの挿入 いろいろなWordの応用法を理解し、応用課題を作成する。 予復修課題： 内容をよく理解し、この単元の応用課題を提出する。(45分)	
授業概要	インターネットやコンピュータを利用することは、現代社会においては必要不可欠であり、それらを用いて情報収集を行い、自分自身をアピールすることは社会人として身につけておく必要があります。本授業ではパソコンを実際に操作しながら、情報処理演習、を基礎にワード、エクセル、プレゼンテーション、情報検索、統計処理などを演習形式で体得し、さらに理解を深め、応用力を高めることを目標としています。このように発展的なパソコンの使用能力を身に付けるために、最低限、のどちらかの単位は修得しておく必要があります。					
	授業到達目標 1. コンピュータの使用法を理解し、発展的利用法を習得し他者に説明できる。 2. 複合的なレポート作成とそのプレゼンテーションができる。 3. コンピュータを積極的に利用し、日常生活に活用できる。 4. インターネットを活用し容易に情報を習得できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	課題作成で留意すべきことは、 新しく学んだことは忘れないようメモする。 板書や教員の説明をよく聞き理解すること。 とりあえずやってみる体験すること(Do)。 エラーメッセージの原因を探る(Check)。 わからないことはすぐにだれかに聞く。 積極的に人に教えてあげること。 予復修でファイル作成をやってみる。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	11 検索ソフト：Internet Explorer, Wikipedia, Googleマップ,などを体験し、どんなものでも調べ、調べた結果を課題にまとめる。 予復修課題： この単元についての応用課題を提出する。(60分)			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	12 パソコンの構造：CPU・メモリ・ハードディスク・キーボード・マウスなど、日々進歩しているパソコンのことを調べ、課題にまとめる。 予復修課題： この単元についての応用課題を提出する。(60分)			
3.		%	13 パソコンの構造：パソコンと携帯の違いを調べる。現在の状況と、未来予想図を考えたり、調べたりして、結果を課題にまとめる。 予復修課題： この単元についての応用課題を提出する。(60分)			
再評価の実施	する	しない	14 パソコンの構造：OS,アプリケーション,ハードディスク,各種メモリ モラル・情報の発信・情報の重要性を理解し、応用課題を作成する。 予復修課題： この単元についての応用課題を提出する。(60分)			
教科書	特になし					
参考書	特になし					
15 講義の振り返り：自分がパソコンでどんなことができるようになったのかを自ら考えて、講義の感想文を作成する。 予復修課題： 講義の感想を提出する。(15分)						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	職業とコミュニケーション Career Development and Communication				単位数	授業内容*	
担当者	スポーツ学部教員				専任	1	学部長講話 「本学スポーツ学部で学ぶことの意義」 オリエンテーション8履修登録、卒業要件、生活習慣)、職業選択について考える。 予復修課題: 学ぶことと働くことの関連についてレポートにまとめる。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSF1201	2	外部講師 様々な分野、業種で活躍している学外の講師の講話を聴く。 予復修課題: 講話の内容をレポートにまとめる。
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	スポーツ学部	3	外部講師 様々な分野、業種で活躍している学外の講師の講話を聴く。 予復修課題: 講話の内容をレポートにまとめる。
配当年次	1年生	開講学期	後期			4	外部講師 様々な分野、業種で活躍している学外の講師の講話を聴く。 予復修課題: 講話の内容をレポートにまとめる。
授業概要	<p>本学卒業後の進路(職業選択等)に向けて、大学では何を学び、どのような大学生活を過ごすのか、そしてどういう人生を送りたいのかについて考える。</p> <p>様々な分野、業種で活躍している学外の講師の話を聴き、社会での行き方や働くことの意義を考える。また、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、働く上での「コミュニケーションの重要性」を理解する。</p>					5	外部講師 様々な分野、業種で活躍している学外の講師の講話を聴く。 予復修課題: 講話の内容をレポートにまとめる。
授業到達目標	<p>職業について考えることができる。</p> <p>働く上での「コミュニケーションの重要性」を知る(会話力だけではない)ことができる。</p> <p>卒業生から見える「職業選択のあり方」を知ることができる。</p>					6	外部講師 様々な分野、業種で活躍している学外の講師の講話を聴く。 予復修課題: 講話の内容をレポートにまとめる。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。							
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。							
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業開始時に詳細を説明する。				
1. 小テスト、感想文など		5 %	外部講師の都合で変更となる場合がある。				
2. 中間テスト		%	予・復修で60分の学修を目安とすること。				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		45 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	・グループディスカッション[第14回]				
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %	・プレゼンテーション[第12~13回]				
3.		%	・グループワーク[第9~12回]				
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
						15	学部長講話 「まともと振り返り」 クラスタイム レポート作成(1年次の振り返りと2年次に向けての考え) 予復修課題: レポートの内容について考えをまとめてくる。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		水井 雅彦 (MIZUI Masahiko)		ほか	専任 & 非常勤	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF2301・ERF2301・SSF2101		
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	2年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	この授業では、大学から社会へ出るための準備を行います。 受講者の個性を適性検査で再認識し、社会に貢献する方法を考える 本学先輩から就職活動に関する体験談を聴き、社会に出るための情報を整理します インターンシップや企業訪問に関するマナーや知識を身につけます 就職試験を想定し、数学基礎に関する演習を実施します					
	受講者が自身の将来像を描き、自己分析から自分自身を知る 社会に関心を持ち、採用活動に関わる情報を取得できる 採用活動に関するスケジュールを理解し、現在、どんな活動ができるか理解する 採用試験で問われる数学の実力を理解し、一般的な正答率まで引き上げる					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	後期15回の講義を行います。 この科目は大学から社会に出るための準備を念頭に進めます。そこで、社会と同様に遅刻と欠席に対して厳しく採点します。 性格診断を基に、自己分析を体験します。 自身の長所・短所の理解などから進めます。 まずは全国平均を目標に、数学力を高めます。 予復修課題取組時間：1時間程度			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	SPI演習 [第2・4・7・9回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	SPI模擬試験 [第14回]			
3.		%	就職総合適性検査 [第3回]			
再評価の実施	する	しない	講演と情報共有 [第5・6・7・8・10・12回]			
教科書	「1日10分」から始めるSPI基礎(大和書房)					
参考書	適時プリントを配付する。					
1	ガイダンス・就職登録表などの記入・採用活動のスケジュール【全体】 講義内容や注意点、キャリア支援課からの情報提供、採用活動の流れを説明する。 予復修課題：					
2	キャリアデザインとは、SPI演習(割合) 各クラスにて、キャリアデザインの必要性や受講者の将来像を模索する。 予復修課題：復修：理想の10年後を想定し、今できることを考える					
3	就職総合適性検査【全体】 自己分析に必要な受講者の個性を再確認するため、性格診断試験を実施する。 予復修課題：復修：試験で解けなかった、また、難しいと感じた数学・言語の問題把握					
4	社会人基礎力とは、SPI演習(濃度) 社会人基礎力の説明から、社会で求められる能力について再認識する。 予復修課題：復修：受講者が得意とする能力を再確認し、どんな社会貢献が可能か考える					
5	社会人講話：北九州男女参画センター・ムーブ【全体】 「働く」をキーワードに、仕事の遣り甲斐や労働環境について考える。 予復修課題：復修：「働く意義」を再確認する					
6	先輩の職業体験談【全体・分散】 本学4年生の内定獲得までの体験談を、講演とディスカッションで共有する。 予復修課題：復修：2年・3年・4年と、特定の時期にしかできない活動を確認					
7	自己分析1(就職総合適性検査の活用)、SPI演習(商い) 性格診断試験の結果から、受講者の性格を再認識する。 予復修課題：復修：数学・言語問題の得点を把握し、得点向上のための学習計画をたてる					
8	OB・OG講演会【全体・分散】 本学の卒業生で社会で活躍する先輩から、受講生へのメッセージを講演する。 予復修課題：復修：改めて「将来像」を描き、文章で具体化する					
9	自己分析2(学修ポートフォリオ)、SPI演習(速さ) 第7回を振り返りながら、大学の「学び」をポートフォリオへ落とし込む。 予復修課題：復修：ポートフォリオを充実させる					
10	業界研究・マナー講座【全体】 11回に実施する学内業界研究会へ向け、その意義とマナーについて講義する。 予復修課題：復修：就活マナーを認識し、興味のある業界の情報検索を行う					
11	学内業界研究会【全体】 企業の会社概要や採用情報を受講する。勤務条件や仕事の特色などに注目する。 予復修課題：復修：メモした説明内容を整理する					
12	インターンシップ体験談【全体・分散】 インターンシップの説明と、本学の参加者体験談を聴く。 予復修課題：復修：1～3月に開催されるインターンの情報を集め参加計画を作る					
13	SPI講座1 割合、濃度、商い、の振り返り 予復修課題：復修：演習問題の復修と、問題集による自習を行う。					
14	SPI講座2・基礎力試験 速さ、の振り返り 基礎力試験(20問40分) 予復修課題：予修：学習内容を復修し、SPI模擬試験を実施					
15	まとめ・3年生に向けて 採用活動のタイムスケジュールを再確認し、インターンへの参加を検討する。 予復修課題：復修：1～3月に開催されるインターンへの参加準備					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	キャリアデザイン 再履修用 Career Design		単位数	授業内容*	
担当者	園田 裕虎 (SONODA Hirotora)		1	1 ガイダンス: キャリアデザインとは 再授業を受けるにあたっての抱負など 講義ガイダンスと、2年生の後期に取り組むべきことは何か 予復修課題: 復修: 受講するうえでの注意事項をまとめる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		専任	2 夏休みの振り返り: 自己紹介と夏休みの体験から得たことの2分間スピーチ 予復修課題: 復修: 夏休みの反省とスピーチの改善点を文書化する。	
授業形式	実習	科目区分 総合共通科目	履修学部	3 コミュニケーショントレーニング: エントリーシートの課題に対するグループディスカッション 予復修課題: 復修: エントリーシートの課題から企業が何を求めているか考え、文書化する。	
配当年次	3-4年生	開講学期 通年	経済学部・スポーツ学部共通	4 コミュニケーショントレーニング: エントリーシートの課題に対するグループディスカッションのまとめ 予復修課題: 復修: 今、自分が何をしなければならないかを文書化する。	
授業概要	この授業では、社会を理解し、職業人としての意識付けを明確にするために、仕事・就職を中心に将来の自分の姿を思い描き、社会人としての満足について説明します。また、グループワークに取り組み、プレゼンテーション能力の向上を目指します。自分の職業に対する適性について詳しく分析する就職活動へ向けた準備を進めます。さらに、インターンシップへの参加の準備も支援します。				
授業到達目標	1) 将来に向け、充実した大学生活を送るための基礎づくりができるようになる。 2) 問題発見・解決、提案(コミュニケーション)、実行などの就業力を身に付けることができる。 3) 自己分析を通じた自己理解能力を身に付けることができる。 4) 働く意味の認識でき、将来計画を立てる能力を身に付けることができる。 5) 参加型授業による自己認識と学校だけでは得られない職業観を身に付けることができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 個人ワークやグループワークなどにより、「読む・書く・聞く・話す」能力を高める活動が中心となる。		
1. 小テスト、感想文など		%	2) 授業が、前の授業の内容と関連・連続することが多いので、欠席しないようにする。		
2. 中間テスト		%	3) 受講者の人数などを考慮して、座席指定を行う場合がある。		
3. 課題レポートなどの提出物		50 %	4) 毎回、1時間以上の予復修を必ず行う。		
4. 授業中の発表、討論		10 %	アクティブ・ラーニング		
5. 授業への参加意欲		20 %	・ 課題解決型学習[第1,5,7,8,10,13,14,15回]		
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %	・ グループディスカッション[第3,4,12,13回]		
7.		%	・ プレゼンテーション[第2,9,11,回]		
2) 最終到達度の評価					
1. まとめのテスト		%	11 コミュニケーショントレーニング: 題材は各クラスで設定 予復修課題: 予修: 何を題材にするか下調べしておく。		
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %	12 コミュニケーショントレーニング: 題材は各クラスで設定 予復修課題: 予修: 各クラスで適宜提示。(追加の調べなど)		
3.		%	13 自己分析 自分が影響を受けた人物についてのワーク 予復修課題: 復修: 得たこと、及び今、自分が何をしなければならないかを文書化する。		
再評価の実施	する	しない	14 自己分析 自分が影響を受けた人物についてのワーク 予復修課題: 自分が影響を受けた人物について振り返っておく		
教科書	15 キャリアデザイン <再履修クラス>のまとめ 予復修課題: 予修: キャリアデザイン <再履修クラス>の内容を整理し、振り返る。				
参考書	適宜プリントなどを配付する。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		インターンシップ (企業研修)		単位数	授業内容*	
担当者		尾上 百合加 (ONOUE Yurika)		2	1 インターンシップについて考え、インターンシップで「何を学び、何を得るのか」について理解を深める 予復修課題： インターンシップとアルバイトの違いを考えておく	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		専任	2 事前研修 1 自己紹介書の書き方について理解する 予復修課題： 自身の特徴を詳しく書き出しておく	
授業形式		実習	科目区分	総合共通科目	3 事前研修 2 行動様式やマナーについて理解する 予復修課題： 自身の言葉遣いの長所短所を書き出しておく	
配当年次		2年生	開講学期	集中	4 事前研修 3 実習先別にガイダンスを行い、インターンシップ先の業務を理解する 予復修課題： 実習先の情報を収集しておく	
履修学部		経済学部・スポーツ学部共通		5 職場体験 1 (実習先での活動①) インターンシップ先における課題を見つけ、解決策を考える① 予復修課題： 当日の実習内容の振り返りを行う		
授業概要		本授業は、夏期(冬期・春期)期間中の3日～7日程度、希望する企業・事業所等で就業体験(インターンシップ)を行います。期間は実習先によって異なります。単にインターンシップに参加することが目的ではなく、就業体験を通じて働くことを軸とした価値形成を育み、大学在籍中に自らの将来の人生設計(キャリア開発)を描くための気づきを得ます。				
授業到達目標		①就業体験を通じて、実社会の経済活動がどのように動いているのか実態を把握する。 ②社会人として基本的なマナー、態度、スキル、知識を身につけることができる。 ③卒業後のキャリアについて「仕事」「働く」ことを具体的に検討することができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕						
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				○
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				◎
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	現在、就職活動のスケジュールが大きく変化しており、2年生でインターンシップに行くことは、決して珍しいことではありません。実際に企業に行くことに不安を感じるかもしれませんが、皆さんがインターンシップ先で戸惑うことなく実習できるように、事前研修を行いますので、ぜひチャレンジしてみてください。 ※予復修課題の取組時間：約30分程度			
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	第5回～12回 職場体験			
2. 論文、まとめのレポートなど		25 %	第15回 活動報告会			
3.		%				
再評価の実施		する	しない	○		
教科書		大学指定のインターンシップ研修冊子を用いる。				
参考書						
		15 事後研修 3 活動報告会 予復修課題： 自身の成長点を振り返っておく				

\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座B【TOEIC】 Upskilling Course B (Preparation for the TOEIC Test I)			単位数	授業内容*			
担当者	永末 温子 (NAGASUE Haruko)		高本 孝子 (TAKAMOTO Takako)		専任	1	プレースメントテスト イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング			2	Unit 1 Traveling 人物写真、動詞(自動詞・他動詞) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 1の練習問題を解いておく 復修:Unit 1の練習問題の見直し	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3	Unit 2 Daily Life & Shopping 動作・動きを表す表現、設問の読み方 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 2の練習問題を解いておく 復修:Unit 2の練習問題の見直し	
配当年次	2-3年生	開講学期	前期			4	Unit 3 At Restaurants 動作・動きを表す表現、比較級・最上級、スキミング力 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 3の練習問題を解いておく 復修:Unit 3の練習問題の見直し	
授業概要	TOEICのスコアは就職活動時に利するのみならず、社会人としての様々な場面でのキャリア形成にも非常に有効です。本科目では、TOEIC 初級・中級者向けに、試験の特色を把握し、各パートの問題形式に慣れるため、重要な文法事項・語彙・語句で構成された比較的易しい問題を使って、実践的な受験対策を行います。また、学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestとTOEIC Listening & Reading IP Testの受験を目指します。					5	Unit 4 Job Hunting 依頼の表現、関係詞・分詞、ダブルパッセージ 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 4の練習問題を解いておく 復修:Unit 4の練習問題の見直し	
授業到達目標	学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式に慣れる。授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。TOEIC Listening & Reading IP Testでは400点程度のスコア獲得を目標とする。					6	Unit 5 At the Office 1 /Unit 6 At the Office 2 オフィス内で使われる語句 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit5&6の練習問題を解いておく 復修:Unit 5&6の練習問題の見直し	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							7	Unit 7 Review Test 1 Unit1~Unit 6の総復習 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:なし 復修:Unit7の練習問題の見直し
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。							8	TOEIC Bridge IP Test 予復修課題: 予修:TOEIC Bridge IP Testの準備 復修:テスト後の確認
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。							9	Unit 8 Doing Business Online 言い換え表現、Howで始まる疑問文、仮定法基礎 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 8の練習問題を解いておく 復修:Unit 8の練習問題の見直し
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。							10	Unit 9 Housing 動作・動きを表す表現、前置詞、用紙や表(Part7)の読み方 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 9の練習問題を解いておく 復修:Unit 9の練習問題の見直し
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				11	Unit 10 Making Deals & Contracts 言い換え表現、動名詞とto不定詞の違い 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 10の練習問題を解いておく 復修:Unit 10の練習問題の見直し
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)受講者は学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験する必要があります。				12	Unit 11 Public Service 効率的な選択肢の幅の狭め方、付加疑問文、接続詞 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 11の練習問題を解いておく 復修:Unit 11の練習問題の見直し
2) 最終到達度の評価			2)授業には教科書と辞書を持参すること。 3)授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。 4)第1回目の授業でプレースメントテストを行い、習熟度に応じたクラス編成を行います。				13	Unit 12 Banking & Finance 物が主語になる場合、副詞と形容詞 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit12の練習問題を解いておく 復修:Unit 12の練習問題の見直し
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 事前学習型授業[第2~7回、第9~13回] TOEIC IP Test受験[第8回、第14回]				14	TOEIC Listening & Reading IP Test 予復修課題: 予修:TOEIC Listening & Reading IP Testの準備 復修:テスト後の確認
2. 中間テスト		%					15	総まとめ
3. 課題レポートなどの提出物		%					まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第13回目までの授業で学んだ教科書の練習問題の総合的な振り返り	
4. 授業中の発表、討論		%	再評価の実施		する	しない		
5. 授業への参加意欲		%	教科書 プレースメントテスト以降にクラス編成とともに掲示します。各自確認して購入してください。					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	参考書 『Lightning Up the TOEIC Test』、『Score Booster for the TOEIC L&R Test Beginner』					
7. 1から6を総合して		40 %						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スキルアップ講座C【TOEIC】 Upskilling Course C (Preparation for the TOEIC Test II)		単位数	授業内容*	
担当者		永末 温子 (NAGASUE Haruko)		ほか	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF2201・ERF2201・SSF2201		
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	2-3年生	開講学期	後期			
授業概要	<p>本科目では、スキルアップ講座Bに続き、TOEIC初級・中級者が各パートに必要な英語力をさらに高めるため、頻出する語彙・語句や文法知識を身につけるとともに、問題に対してより早く正確に解答するコツを身につける実践的な受験対策を行います。また、学内で実施されるTOEIC Bridge IP Testと TOEIC Listening &amp; Reading Testの受験を目指します。</p>					
授業到達目標	<p>学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening &amp; Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式にさらに慣れる。授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。TOEIC Listening &amp; Reading IP Testでは450点程度のスコア獲得を目標とする。</p>					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 受講者は学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestおよびTOEIC Listening & Reading IP Testを受験する必要があります。			
1. 小テスト、感想文など		%	2) 授業には教科書と辞書を持参すること。			
2. 中間テスト		%	3) 授業の予修・復修には、毎回一時間以上はかけること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%	4) 第1回目の授業でプレースメントテストを行い、習熟度に応じたクラス編成を行います。			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 1から6を総合して		40 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	事前学習型授業[第2~7回、第9~13回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	TOEIC IP Test受験[第8回、第14回]			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	プレースメントテスト以降にクラス編成とともに掲示します。各自確認して購入してください。					
参考書	『Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test Level 400』他					
1	プレースメントテスト イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し					
2	Unit L-1/Unit R-1 Part(1)人物が写っている写真、Part(5)品詞(名詞・形容詞) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-1,R-1の練習問題を解いておく 復修:Unit L-1,R-1の練習問題の見直し					
3	Unit L-2/Unit R-2 Part(1)人物が写っていない写真、Part(5)品詞(動詞・副詞) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-2,R-2の練習問題を解いておく 復修:Unit L-2,R-2の練習問題の見直し					
4	Unit L-3/ Unit R-3 Part(2)疑問文で始まる疑問文、Part(5)代名詞・動詞の形 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-3, R-3の練習問題を解いておく 復修:Unit L-3,R-3の練習問題の見直し					
5	Unit L-4/ Unit R-4 Part(2)機能別疑問文、Part(5)動詞の形(時制) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-4,R-4の練習問題を解いておく 復修:Unit L-4,R-4の練習問題の見直し					
6	Unit L-5/ Unit R-5 Part(2)選択疑問文・Yes/NO疑問文、Part(5)前置詞・接続詞 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-5,R-5の練習問題を解いておく 復修:Unit L-5,R-5の練習問題の見直し					
7	Unit L-6/ Unit R-6 リスニングPart(2)の総復習、Part(6)長文穴埋め問題 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-6,R-6の練習問題を解いておく 復修:Unit L-6,R-6の練習問題の見直し					
8	TOEIC Bridge IP Test 予復修課題: 予修:TOEIC Bridge IP Testの準備 復修:テスト後の確認					
9	Unit L-7/ Unit R-7 Part(3)会話問題(全体問題・詳細問題の区別)、Part(7)広告 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-7,R-7の練習問題を解いておく 復修:Unit L-7,R-7の練習問題の見直し					
10	Unit L-8/R-8 Part(3)会話問題(職業・提案)、Part7(チャット・Eメール) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-8,R-8の練習問題を解いておく 復修:Unit L-8,R-8の練習問題の見直し					
11	Unit L-9/Unit R-9 Part(3)会話問題(トピック・目的・依頼) Part7(Eメール) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit 9の練習問題を解いておく 復修:Unit 9の練習問題の見直し					
12	Unit L-10&11/ Unit R-10&11 Part4説明文問題(アナウンス)、Part7(手紙、告知) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L 10&11 R10&11の練習問題を解いておく 復修:Unit L10&11,R10&11の練習問題の見直し					
13	Unit L-12/ Unit R-12 Part4説明文問題(グラフィック)、Part7(ダブルメッセージ) 文法説明、練習問題の解答・解説、リスニング 予復修課題: 予修:教科書Unit L-12,R-12の練習問題を解いておく 復修:Unit L12,R-12の練習問題の見直し					
14	TOEIC Listening & Reading IP Test 予復修課題: 予修:TOEIC Listening & Reading IP Testの準備 復修:テスト後の確認					
15	総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第13回目までの授業で学んだ教科書の練習問題の総合的な振り返り					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

# 総合共通科目(2015～2018年度入学生)

## 《総合共通科目の教育目標》

### 【知識・技能】

キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。  
また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。

### 【思考力・判断力・表現力】

本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。

### 【主体性・協働性】

自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。  
また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。

## 《卒業に要する単位》

2015～2018年度入学生

履修区分		最低修得単位数	要卒単位数	
総合共通コア科目		必修1単位	30単位	
教養教育科目	基礎領域	2単位以上		}6単位以上
	文化・芸術領域			
	歴史・社会領域			
	人間・環境領域			
言語・異文化理解科目	日本語	必修2単位		}8単位以上
	英語	必修2単位		
	ドイツ語			
	フランス語			
	中国語			
	韓国語			
	異文化理解領域			
情報教育科目		必修2単位		2単位以上
キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	必修4単位	}4単位以上	
	キャリア発展領域			

# シラバス一覧 B 《 総合共通科目 》

科目区分・科目名		配当年次・学期		読替え科目 (シラバス一覧A) 参照	掲載 ページ		
総合共通コア科目	福原学	1	前	「福原学」	/		
基礎領域	ステップアップ講座A(数学基礎)	1	前・後	/	/		
	ステップアップ講座B(英語基礎)	1	前・後	「TOEIC入門」	/		
	文化・芸術領域	文学の世界	1・(2)	前・後	「ことばと日本文化」	/	
		ことばの世界	1・(2)	前	/	/	
		芸術の世界	1・(2)	前・後	/	56-57	
		日本人論	1・(2)	前	「スポーツの文化」	/	
		情報文化論	1・(2)	後	「情報文化論」	/	
		歴史・社会領域	歴史を考える	1・(2)	前・後	/	58
			法と生活	1・(2)	前・後	/	59
	現代国家と法(日本国憲法)		1・(2)	前・後	「現代国家と法(日本国憲法)」	/	
	政治と国際問題		1・(2)	前・後	「歴史と国際情勢」	/	
	暮らしと経済		1・(2)	前・後	「暮らしと経済」	/	
	人権・同和教育	1・(2)	前・後	「人権・同和教育」	/		
	人間・環境領域	人間と哲学	1・(2)	前・後	「人間と哲学」	/	
		科学を考える	1・(2)	前・後	/	60-62	
		宇宙の科学	1・(2)	前・後	「生命と地球」	/	
		生命と環境	1・(2)	前・後	/	63	
		心の科学	1・(2)	前・後	「心の科学」	/	
	言語・異文化理解科目	日本語	日本語表現法	1	前・後	「日本語表現法」	/
			日本語表現法	2	前・後	「日本語表現法」	/
英語		英語	1	前・(後)	「英語」	/	
		英語	1	(前)・後	「英語」	/	
		英語	2	前	/	64	
		英語	2	後	/	65	
		英語コミュニケーション	2	前	「英語コミュニケーション」	/	
		英語コミュニケーション	2	後	「英語コミュニケーション」	/	
ドイツ語		ドイツ語	1	前	「ドイツ語」	/	
		ドイツ語	1	後	「ドイツ語」	/	
フランス語	フランス語	1	前	/	66		
	フランス語	1	後	/	67		

科目区分・科目名		配当年次・学期		読替え科目 (シラバス一覧A) 参照	掲載 ページ	
言語・異文化理解科目	中国語	中国語	1	前	「中国語」	/
		中国語	1	後	「中国語」	/
	韓国語	韓国語	1	前	「韓国語」	/
		韓国語	1	後	「韓国語」	/
	異文化理解領域	異文化を考える	1・(2)	前・後	「ことばと異文化」	/
		海外研修	1~4	集中	「海外研修」	/
	情報教育科目	情報処理演習	1	前	「情報処理演習」	/
情報処理演習		1	後	「情報処理演習」	/	
情報処理演習		2	前	「情報処理演習」	/	
情報処理演習		2	後	「情報処理演習」	/	
キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	職業とコミュニケーション	1	後	「職業とコミュニケーション」	/
		キャリアデザイン	2	前後	「キャリアデザイン」	/
		キャリアデザイン	3	前	/	68-72
		キャリアデザイン	3	後	/	73-77
	キャリア発展領域	スキルアップ講座A	3	後	/	78
		スキルアップ講座B	3・(4)	前	「スキルアップ講座B(TOEIC)」	/
		スキルアップ講座C	3・(4)	後	「スキルアップ講座C(TOEIC)」	/
		スキルアップ講座D	3	後集中	/	79
		スキルアップ講座E	4	後集中	/	80
		スキルアップ講座F	3	前	/	81
		スキルアップ講座G	3・(4)	前	/	82
		スキルアップ講座H	3・(4)	後	/	83
		スキルアップ講座	3	集中	/	84
		スキルアップ講座I	3・(4)	後	/	85
スキルアップ講座K	3・(4)	前	/	86		
スキルアップ講座L	3・(4)	後	/	87		

授業科目名 (Subject)	芸術の世界 The World of Art		単位数	授業内容*	
担当者	武 夢茹 (WU Mengru)		2	1 本講義のねらい、レポートの書き方、評価方法について説明する。 アジア美術の特色について解説する。日本の美術館について紹介する。 予復修課題：授業内で紹介する文献を読み、アジア美術の固有性について理解を深める。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		非常勤講師	2 東アジアの美術作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 東アジア美術の特色について解説する。 予復修課題：授業内で紹介する文献を読み、近代東アジアの美術交流について理解を深める。	
授業形式	講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	3 東アジアの美術作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 東アジアの植民地期の歴史について解説する。 予復修課題：授業内で紹介する文献を読み、美術家の制作動機について理解を深める。	
配当年次	1-2年生	開講学期 前期	経済学部・スポーツ学部共通	4 東アジアの美術作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 九州の美術家について紹介する。 予復修課題：授業内で紹介する文献を読み、戦争と美術の関係について考える。	
授業概要	19～21世紀にアジアの美術家が制作した美術作品を鑑賞することで、植民地の歴史や近代国家の成立、宗教や文化の特色について理解を深める。 授業では毎回5～10点の絵画や彫刻をスライドに写し、学生が作品の主題や表現様式、作品から受ける印象や作者が何を伝えようとしているのかについて意見を述べる。作品が制作された時代背景について知ることで、より深い解釈ができるようになることを目指す。				
授業到達目標	美術作品の主題や様式に注目しながら作品を鑑賞する方法を身に付けることができる。 作品から自分が感じたことを言葉で説明することができるようになる。 コメントカードやグループワークを通して、作品には多様な解釈があることを知る。 アジアの近代史、植民地やナショナリズム、風俗や文化について社会人として基礎的な知識を身に付けることができる。 現代アジアの多様な文化や社会問題について考えを深めることができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	この授業では、スライドに写された美術作品を観察し、何がどのように表現されているのかを考え、そこから何を感じるのかについて自分の意見を述べるのが重要です。		
1. 小テスト、感想文など		10 %	グループに別れて美術館で展示された作品や		
2. 中間テスト		%	グループミュージアムで見つけた作品について		
3. 課題レポートなどの提出物		40 %	レポートを書きます。		
4. 授業中の発表、討論		%	予復修の目安時間：各1時間程度		
5. 授業への参加意欲		10 %			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			
7.		%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		%	レポートはグループワークで取り組むことを推奨します。フィールドワークで美術館に行くことを推奨します。毎回の授業で学生が自分の意見を発表する機会を設けます。		
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %			
3.		%			
再評価の実施	する	しない			
教科書	なし				
参考書	なし				
				11 南アジアの美術作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 南アジアの風俗や文化、宗教について解説する。 予復修課題：授業内で紹介する文献を読み、宗教と美術の関係について理解を深める。	
				12 九州の美術家の作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 九州やアジアの美術館について紹介する。 予復修課題：まとめのレポートに取り組む。	
				13 九州の美術家の作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 九州やアジアの美術館について紹介する。 予復修課題：まとめのレポートに取り組む。	
				14 近代日本の美術作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 近代日本の美術制度について解説する。 予復修課題：まとめのレポートに取り組む。	
				15 近代日本の美術作品を鑑賞し、意見を述べ合う。 近代日本の洋画教育について解説する。 予復修課題：まとめのレポートを提出。授業内で紹介する文献を読み、美術制度に対する理解を深める。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		芸術の世界 The World of Art		単位数	授業内容*	
担当者		江本 紫織 (EMOTO Shiori)		2	1 オリエンテーション 授業の概要、到達目標、評価方法を説明する。また、現時点での「芸術」観を確認する。 予復修課題：「芸術」とは何か、どのような事例があるか考えてくること。(予修)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		非常勤講師	2 「芸術」とは何か 芸術の様々な事例を紹介する。 予復修課題：事前に指示した事例を調べ、整理しておくこと。(予修)	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・文学部共通	3 「芸術」とは何か 第2回の事例を参照しながら、「芸術」の歴史、概念について学ぶ。 予復修課題：第2回で取り上げた事例の共通点、違いを考えておくこと。(予修)
配当年次	1-2年生	開講学期	後期			4 写真の歴史 技術の変遷に注目し、写真の歴史について学ぶ。 予復修課題：写真について知っていること、わからないことをまとめておくこと。(予修)
授業概要	私たちは日々、様々な写真を撮影、観賞しています。数多くある写真の中で、「芸術」とは何か、どのように「楽しむ」ことができるのでしょうか。 本授業では、様々な時代、ジャンルの写真を見るを通して、写真を中心とした芸術作品との関わり方、楽しみ方を考えます。 また、写真だけでなく、関連する芸術概念や写真論、様々なジャンルの作品を紹介します。					5 写真論概要 写真を理論的に説明する方法・内容について学ぶ。提出課題について説明する。 予復修課題：授業で取り上げた写真論に合致する事例を考えること。(復修)
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品について、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>授業で得た知識や他者の意見を踏まえて、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>写真の歴史、性質を理解し、写真によって伝えることを実践できる。</li> <li>芸術との自分なりの関わり方、楽しみ方を見つけることができる。</li> </ul>					6 写真と芸術 写真と芸術の関係について概要を学ぶ。 予復修課題：芸術写真に該当する事例を考えてくること。(予修)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	* 講義に臨む前には、シラバスに記載されている「予復修課題」に取り組んでください(所要時間：各1時間程度)。予修課題の提出をコメントペーパー内で求めることがあります。 * 本授業では、実際に写真作品を制作し、相互評価を行います(所要時間：5~10時間程度)。撮影に使用できる機器(スマートフォン等)があり、操作できることが望ましいです。			
1. 小テスト、感想文など		30 %	アクティブ・ラーニング コメントペーパーの提出(不定期、約6回)。実践学習(授業で学んだ事例を踏まえて、実際に写真を撮影し、相互に評価を行う。進捗状況について定期的な報告を求める。)			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		40 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし					
参考書	なし					
			11 写真の加工・修正 フィルム写真、デジタル写真それぞれの加工・修正の方法と効果を学ぶ。 予復修課題：授業で学んだ加工・修正を試し、使い分けられるようにすること。(復修)			
			12 写真と演出 特定のメッセージ、世界観を伝える・構築する写真の性質について学ぶ。 予復修課題：指示した写真をポイントに従って観賞し、考えをまとめておくこと。(予修)			
			13 写真と演出 人物や場面を演じる、演出する 予復修課題：指示した写真をポイントに従って観賞し、考えをまとめておくこと。(予修)			
			14 まとめ 写真と芸術の関係についてまとめを行う。課題を提出し、相互に評価する。 予復修課題：提出課題を仕上げてくること。(予修)			
			15 まとめ 引き続き、提出課題を相互に評価する。また、まとめのレポートについて説明する。 予復修課題：自身の提出課題と他の学生からの評価を照らし合わせてみること。(復修)			

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		歴史を考える Aspects of History		単位数	授業内容*	
担当者		松尾 登史子 (MATSUO Toshiko)		2	1 歴史を学ぶ : オリエンテーション 大学の教養教育になぜ歴史科目があるのか、そもそもなぜ私たちは歴史を学ぶのか。 予復修課題: 配付物やノート等で授業内容の確認をし、自らの目標設定をおこなうこと。(予復修取組時間:1時間程度)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		非常勤講師	2 歴史を学ぶ : 歴史を知ること 歴史を知ることとはどういうことか。自分は歴史に無関係ではないということを知る。 予復修課題: 自分の先祖について関心をもち、調べてみること。(予復修取組時間:1時間程度)	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期			
授業概要	私達が経験から学んで未来に生かすように、社会でもそうありたい。これが教育の場で歴史を学ぶ一つの大切な理由です。歴史とは幾多の人々の人生が織りなす壮大な織物であり、私達はこれを知り考えることにより、様々なことを学び得ます。本授業では、なぜ歴史を学ぶのか、歴史とは何か、いかに歴史と関わるべきか、ということを共に考えていきます。発掘調査の実務経験から「過去の痕跡」を扱う考古学を取上げるなど実践的分野や方法論にも触れるので、自ら考えて自らの答えに到達しようとする積極的姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。				3 歴史を学ぶ : 歴史学の歴史 人類の歴史認識の始まりとはどのようなものであったのか。 予復修課題: 配付物やノート等で授業内容の復修をすること。(復修取組時間:0.5時間程度)	
授業到達目標	授業の際には以下の5項目を念頭に、自らの研鑽をめざして参加してください。 1) 歴史は暗記ものという認識を改め、歴史とは人間社会の歩みの総体であると認識できる 2) 私達自身が歴史の土台の上に存在し、自らが歴史の主体(主人公)であると理解できる 3) 日常生活において、身近な郷土の歴史に関心をもち、歴史への知的好奇心を持てる 4) 社会生活において、歴史という人類共通の遺産を大切に受け継いでいく意識を持てる 5) 授業では、知識を得るのみならず様々な考え方や価値観を認め、自らの思考力を養える				4 歴史を学ぶ : 歴史学の形成 歴史学の形成過程を辿る。 予復修課題: 配付物やノート等で授業内容の復修をすること。(復修取組時間:0.5時間程度)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業では、話をしっかり聞いて大筋を把握し、それについて自分で考え、自分の意見が持てるようになることを重視します。話を聞くための要点をまとめたレジュメを毎回用意するので、それに沿って話を聞くこと。板書はあくまで話をする際の補助とみなすので、必ずしも体系的に書くとは限らず、常に自ら考えてノートをとること。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	小テスト [第5回、第10回、第15回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	コメントカード [計5回程度]			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	授業中に適宜紹介する。					
					11 歴史と私たち : 歴史を継承する責任 私たちが前世代から受け継ぐべきものについて考える。 予復修課題: 前世代から引き継がれた社会に生きる私達の役割と責任につき考えること。(予復修取組時間:1時間程度)	
					12 歴史と私たち : 歴史を継承する責任(続) アジア・太平洋戦争の概要と実態を理解する。 予復修課題: 年記者の戦争体験談などに積極的に関心を寄せること。(予復修取組時間:1時間程度)	
					13 歴史と私たち : 補足 アジア・太平洋戦争を当時の若者の目線からみて、その実態と彼らの思いを知る。 予復修課題: 戦時中の若者の立場を想像し、思いを馳せてみること。(復修取組時間:1時間程度)	
					14 歴史と私たち : 歴史遺産を継承する責任 歴史遺産をどのように受け継いでいくべきか。文化財保護のあり方について考える。 予復修課題: 地域の歴史遺産に関心をもつこと。(予復修取組時間:1時間程度)	
					15 歴史と私たち : 第三部のまとめ、小テスト 予復修課題: 第三部の復修をしておくこと。(予復修取組時間:2時間程度)	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		法と生活 Law and Life		単位数	授業内容*	
担当者		塩盛 俊明 (SHIOMORI Toshiaki)		2	1 法とは何か 法学を学ぶための基礎知識を学ぶ 予復修課題：小・中・高校までの社会科で学習した日本国憲法について簡潔に復修しておいてください。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		非常勤講師	2 家族と法(1) 婚姻と家族を取り巻く法律の仕組みを学ぶ 予復修課題：自分を中心に、どこまでの繋がりを「家族」と呼ぶかについて考えてきてください。	
授業形式		講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・法 <sup>o</sup> -学部共通	3 家族と法(2) 相続を巡る法律の仕組みを学ぶ 予復修課題：自分が「相続」の当事者となった場合に生じ得る問題を考えてきてください。
配当年次		1-2年生	開講学期 前期/後期			4 財産と法(1) 契約の仕組みの基礎を学ぶ 予復修課題：物の売り買いの場面で、お互いにどのような義務や利益が生じるかについて考えてきてください。
授業概要		「社会あるところ法あり」という言葉が表すように、人間が集まり一定の社会が形作られるところには一定のルールが必要になります。また、社会と一口に言っても、家庭、学校、職場(労働)、経済取引、医療現場、スポーツなど、様々な部分的な社会の場面が考えられます。この講義では、そのような具体的な場面を例に取りながら、実際に生活の中でどのように法が関わっているのかを学び、学生がこの先社会生活を営む中で役に立つ知識を涵養し、それらを活かすことができるように考える力を身につけていきます。				5 財産と法(2) 契約の仕組みを学ぶ 予復修課題：未成年者や高齢者を不利な取引からどう守れるかについて考えてきてください。
授業到達目標		学生が社会生活を営む中で直面しうる問題を認識できる。 それらに対して法的にどのように対応しうるのかを知り、理解できる。 これらの知識を別の事例にも応用していく能力を身につける。				6 経済取引と法 経済活動を巡る法律の仕組みを学ぶ 予復修課題：家電製品などの注意や警告を読み、それらが必要な法律上の理由について考えてきてください。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	講義に臨む前にシラバスに表示されている「予復修課題」に取り組むとともに、講義で配布されたレジュメや板書の復修を毎回行ってください(予復修取組時間：1時間程度)。			
1. 小テスト、感想文など		20 %	不定期にその日の講義内容を踏まえた問いを盛りこんだコメントペーパーの提出を求めることがあります。これを小テストの一種として成績評価に加味します。			
2. 中間テスト		%	アクティブ・ラーニング 上記コメントペーパーを用いて、講義で学んだ知識を自ら考え、アウトプットします。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		70 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書 大谷實『エッセンシャル法学』第7版 成文堂						
				11 医療と法 医療を巡る法律の仕組みを学ぶ 予復修課題：病院を受診した際の医師とのやり取りにどんな特徴があるか考えてきてください。		12 少年と法 少年法と少年非行について学ぶ 予復修課題：少年による非行について考え、それをどう防ぐかについて考えてきてください。
				13 国際社会と法 国際社会と法について学ぶ 予復修課題：日本と諸外国との関係について考え、何が重要かを考えてきてください。		14 法と生活 講義全体を振り返りつつ、法と生活の関わりを確認します。 予復修課題：過去の配布レジュメを復修し、当日持参してください。
				15 まとめのテストおよび解説 これまでの講義のまとめのテストとその解説をします。 予復修課題：これまでの講義のノートのみを、内容をよく理解してきてください。		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	科学を考える【物理】 Aspects of Science (Physics)			単位数	授業内容*	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング					
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期			
授業概要	初等中等教育で学ぶ「物理」は「物理学」の領域に絞り込んだ形で学ぶことが多い。しかしながら身近な所(生活様式全般)から先端科学技術の領域に至るまで、物理の範疇は「化学・学・生物」を含んだ広大な領域になっている。社会で・世間で起こる様々な事象を物理の眼で理解することは、大学生の教養力として不可欠な要素の一つになる。物理化学・化学物理学・生物物理学・物理生物学等を含む学際領域についても知り、学ぶことが目的である。地球物理学・宇宙物理学の領域は「宇宙の科学」の内容なのでここでは取り扱わない。					
	日常生活で体感していることを物理の言葉で説明できる。化学・生物が物理と密接に関連していることを、具体例を挙げて説明できる。エネルギーという言葉が「体内における作用」にも関与していることが説明できる。スポーツと物理の関係性から、競技を「物理の眼」で理解することができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】	キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】	本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】	自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	化学・生物・運動・材料・栄養などを含む多岐に亘る分野を物理の目線で取り扱うので、深い学びが必要となる。「物理」という学問領域が、化学や生物とともにあらゆる領域に関与していることに気づくことを求める。体感的に理解している日常の出来事を物理の視点で理解し説明できるようになることを求める。				
1. 小テスト、感想文など	10 %					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	10 %					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	%					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	80 %	新出用語や具体的な出来事などをインターネットから引用していく。検出したものが他者との比較によって「確からしい」と判別できる力を伸ばしていくことを求めている。				
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	真貝寿明 日常の「なぜ」に答える物理学 森北出版(2015)					
1	教養物理の概念について 初等中等教育における「物理」とは異なる見地に立って物理を考えていく。 予復修課題: 物理現象とは何かについて調べてまとめる(4時間)					
2	登山とアイススケートと圧力鍋 沸点や融点の考え方を理解する。 予復修課題: 高山での炊飯が難しい理由について調べておく(4時間)					
3	樹木と水道と血流 水が送られてくる仕組みから血圧について理解する。 予復修課題: 水撒き用のホースの先を潰すと遠くまで水が飛ぶ理由を調べておく(4時間)					
4	炭酸飲料水と呼吸と酸素欠乏 気体が液体に溶解するためにはある一定値以上の圧力が必要であることを知る。 予復修課題: 炭酸水の作り方について知り、飽和酸素濃度について調べておく(4時間)					
5	柔らかい道具と硬い道具 作用反作用はどこでも利用されていることを考えていく。 予復修課題: 競技用のボールの空気圧が一定の範囲を求める理由を理解する(4時間)					
6	遠投とホームランとロケット 放物線について理解を深め、放出角度と到達距離の関係を理解する。 予復修課題: 室伏広治氏(ハンマー投げ競技者)の物理に関する記事を読み、理解する(4時間)					
7	独楽とフィギュアスケートとハンマー投げ 生活の中で遠心力を知っているからこそ、その理論を理解する。 予復修課題: フィギュアスケートでの回転速度と姿勢の関係について調べておく(4時間)					
8	衣服の色と日焼けと光エネルギー 日焼け止めクリームが役立つ原理を理解する。 予復修課題: 虹の7色の波長について学び、日焼け止めクリームとの関連を調べておく(4時間)					
9	アインシュタインと一円玉 核分裂反応がもたらすエネルギーは質量損失から起こることを理解する。 予復修課題: エネルギーの単位であるジュールとカロリーの違いについて調べておく(4時間)					
10	水力と火力と原子力 同じエネルギーを得るための効率はどうなっているのかを理解する。 予復修課題: 水力発電所と火力発電所の仕組みの違いを調べておく(4時間)					
11	1個とひと箱と物質量 原子物理の世界は非常に小さいがゆえに「物質量」という単位が必要である 予復修課題: アボガドロ数の由来について調べておく(4時間)					
12	運動とエネルギーと食事 三大栄養素がもたらす活動エネルギーについて理解する。 予復修課題: アデノシン三リン酸(ATP)がエネルギー産生に関わっていることを理解する(4時間)					
13	ドミノ倒しと代謝サイクル 途中で途切れるとその先が進まないことを物理と化学の両面から理解する。 予復修課題: タンパク質合成やTCAサイクルについて理解を深める(4時間)					
14	運動と汗と蒸発熱 暑くなっても汗をかかないとなぜ危ないのかを熱伝導と熱容量から理解する。 予復修課題: 蒸発熱について理解する。(4時間)					
15	教養物理のまとめ 化学・生物・材料・栄養との関連について問う 予復修課題: 過去14回の内容を再確認しておく(4時間以上かかります)					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	科学を考える【生物】 Aspects of Science (Biology)			単位数	授業内容*	
担当者	西尾 恵里子 (NISHIO Eriko)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング					
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰｯ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	後期			
授業概要	<p>「人」が社会で活動する時に必要な情報としての「人体の仕組みと働き」を取り上げる。食生活、健康、医療など、あふれすぎた情報に惑わされて、物事の本質を見逃してしまうことが少なくない。食や健康の話題を通じて、人間の社会活動に必要な生物学を学ぶ。</p>			<p>1 実生活における生物学：ガイダンスをする。学習する内容、成績評価、到達目標、留意事項などについて説明する。 予復修課題：教科書 p. 1～4まで読んでくること</p>		
授業到達目標	<p>1) 三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)の代謝過程における相互関係について説明できる。 2) 「エイズウィルスはなぜ怖い」、「ホルモン投与の危険性」などよく耳にする事柄について、誰にでもわかるように説明できる。 3) 分子生物学の今後について、考察できるようになる。</p>			<p>2 食べ物からエネルギーをつくる(三大栄養素)：体内でエネルギーを供給する栄養素は、糖質、脂質、タンパク質である。体内でこれらの栄養素が相互に変換されることを学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 23～27まで読み、不明な語句を調べてくること</p>		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で登場するキーワードは新聞・雑誌・テレビなどのメディアで登場するものが多い。日常生活の中から、授業に関連するものを自ら探す理解度は高まる。</li> <li>・授業時間後の重要箇所の理解度を確認する。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。</li> <li>・毎回予復修課題を60分以上すること。</li> </ul>			
2) 最終到達度の評価			<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト[第6回、第11回、第15回]</li> </ul>			
再評価の実施	する	しない				
教科書	小野廣紀・内藤通孝 著 『わかる生物学』 化学同人、2016年					
参考書	城田知子ら 著 『イラスト栄養学総論』 東京教学舎、2018年					
		<p>3 食べ物からエネルギーをつくる(解糖系、クエン酸回路)：三大栄養素の中でも糖質は最も重要なエネルギー源である。生物がグルコースからエネルギーを作り出す反応を学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 27～31まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>4 食べ物からエネルギーをつくる(脂肪)：有酸素運動や空腹時が続くと血糖は下がり、糖質からのエネルギー供給が不足する。遊離脂肪酸を使って補う仕組みを学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 31～32まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>5 食べ物から体をつくる(タンパク質)：生体内では、タンパク質は骨や筋肉、酵素やホルモン、血液成分などを構成している。タンパク質が食物から合成される仕組みを学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 33～35まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>6 食べ物から体をつくる(脂質)小テスト1：脂質は皮下脂肪組織、生体膜の構成成分などとして重要である。脂質の消化・吸収について学ぶ。小テスト1を行う。 予復修課題：教科書 p. 35～39まで読んでくること、小テスト1を行うので復修しておくこと</p>				
		<p>7 細胞から体ができる(細胞の構造と機能)：生物は細胞からできている。ここでは、細胞膜、細胞内小器官といわれる核、ミトコンドリア、ゴルジ体、小胞体などについて学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 5～10まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>8 細胞から体ができる(組織)：上皮組織、支持組織、骨組織、神経組織について学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 11～16まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>9 体の調節の仕組み(恒常性)：生物は外部環境が変化しても、生体内の内部環境は変化しないような調節機構を持っている。神経系および内分泌系による調節について学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 53～60まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>10 体の調節の仕組み(免疫系)：免疫系は細菌やウイルス、異種タンパク質などの異物が生体へ侵入するのを防いだり、排除を行っている。免疫の分類や仕組みなどを学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 60～66まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>11 体の調節の仕組み(まとめと小テスト2、3) 体の調節の仕組みについての小テスト2と3を行う。 予復修課題：体の調節の仕組みの小テスト2、3を行うので復修しておくこと</p>				
		<p>12 遺伝子組換え：遺伝子組換え技術の原理、利用する意義を学ぶ。 遺伝子組換え作物の紹介をする。 予復修課題：遺伝子組換え作物を調べてくること</p>				
		<p>13 子供が親に似る遺伝のなぞ：アルコールの分解過程と遺伝子の関係について学ぶ。 複対立遺伝子について学ぶ。 予復修課題：教科書 p. 69～73まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>14 遺伝子の本体DNA：遺伝現象の本体であるDNAの解明の歴史をたどり、現在の分子生物学に至る過程を見ていく。DNA二重らせんの発見、遺伝情報の調節を学ぶ。 予復修課題：教科書 p.82～91まで読み、不明な語句を調べてくること</p>				
		<p>15 全体のまとめと小テスト4：全体のまとめを行う。 第12～14回目の授業の小テストを行う。 予復修課題：第12～14回目の授業の小テスト4を行うので復修しておくこと</p>				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	科学を考える【化学】 Aspects of Science (Chemistry)			単位数	授業内容*	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)			2	1 科学の中の化学 科学の中では化学はどのような位置づけにあるのかを知る。 予復修課題：台所の化学について調べてまとめる(4時間以上)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 食と化学 その1(アミノ酸とタンパク質) アミノ酸とタンパク質の関係を学び、アミノ酸の構造と機能について知る 予復修課題：豚肉について調べ、優良食品であることをまとめておく(4時間)	
授業形式	講義	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	後期			
授業概要	初等中等教育で学ぶ「化学」は「化学式」「化学反応式」などの「化学語」が中心にあり、特殊な科目とみられることが多い。しかしながら身近なところ(実生活)から先端科学技術や医療の領域に至るまで、化学は「物理・生物・環境」を含めた広い領域で必要とされる分野になっている。社会で・世間で起こる様々な事象を化学の眼で理解することは、大学生の教養力として不可欠な要素の一つである。建造物や衣料品、流通など一見「化学」とは縁遠いような物も化学目線で考えると理解しやすいものもある。複合的に化学を学ぶことが目的である。					
授業到達目標	1. 日常生活で体感していることを化学の言葉で説明できる。 2. 物理・生物が化学と密接に関連していることを、具体例を挙げて説明できる。 3. 食と健康の関係が化学であることを理解し、簡単な言葉で説明できる。 4. 素材の違いが製品の違いや性質の違いに結びつくことを、例を挙げて説明できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	物理・生物・土木・衣料・栄養などを含む多岐に亘る分野を化学の目線で取り扱うので、深い学びが必要となる。「化学」という学問領域が、物理や生物とともにあらゆる領域に関与していることに気づくことを求める。化学式や化学反応式を用いずに化学を理解し、説明できるようになることを求める。				
1. 小テスト、感想文など	10 %					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	10 %					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	%					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	80 %	新出用語や具体的な出来事などをインターネットから引用していく。検出したものが他者との比較によって「確からしい」と判別できる力を伸ばしていくことを求めている。				
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	山本善史 『みんなの健康：食品、化学の基礎知識』 オーム社 (2006)					
	15 日常生活全般を化学の言葉で説明できるかどうかについて振り返る(試験あり) 予復修課題：過去14回の内容を再確認しておく(4時間以上)					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	生命と環境 Life and the Environment		単位数	授業内容*	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)		2	1 環境の概念について 環境に関する内容が多岐にわたり、それらが相互に関連していることを理解する。 予復修課題：環境問題というキーワードでレポートを作成する(4時間)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		専任	2 生命体を構成する元素について 生命現象を理解するうえで「元素」について詳しく知る。 予復修課題：周期表について復修をしておく(4時間)	
授業形式	講義	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・ｽｰﾌﾟ学部共通	
配当年次	1-2年生	開講学期	前期/後期	3 河川と海洋と水質汚濁 「水がきれい」ということがどういう意味を持っているのかを理解する。 予復修課題：水の透明度について調べてまとめておく(4時間)	
授業概要	生命体はその種を問わず、日々の環境の中で生活している。望ましい生活環境は種によって異なるので、自然保護活動が自然環境破壊に繋がることもありうる。この講義では生物に求められる環境とはなにか、環境の変化によってどういう影響が及ぶのかなど、生物と環境の関係について身近な話題を素材として学んでいく。その上で「人間にとっての環境」がいかに地球環境を破壊しているのかについても実感を伴う形で学んでいく。		4 生活と排水と浄化 水道水の消毒や排水浄化について理解を深め、薬品の大切さを知る。 予復修課題：日本の上水道に関する法律を調べて各自の理解に応じてまとめておく(4時間)		
授業到達目標	生活環境と科学の関連性を説明できる 人間の社会活動が生命体の生存環境に影響を与えていることが説明できる 人間にとって有益なことが害悪となって返ってきていることを例を挙げて説明できる		5 肥料と収穫と除草剤 植物の生育メカニズムから「農業」を理解する。 予復修課題：除草剤について調べてまとめておく(4時間)		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	自然科学や社会科学の幅広い範囲が講義内容に登場してくるので、講義を聞くだけでは理解し難い部分が多くなる。新聞や雑誌、ニュースなどの話題をしっかりと得ながら、身近な環境に関する話題をベースにして生命との関わりを理解できるようにする。			
1. 小テスト、感想文など	10 %	アクティブ・ラーニング 新出用語や具体的な出来事などをインターネットから引用していく。検出したものが他者との比較によって「確からしい」と判別できる力を伸ばしていくことを求めている。			
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	10 %				
4. 授業中の発表、討論	%				
5. 授業への参加意欲	%				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%				
7.	%				
2) 最終到達度の評価					
1. まとめのテスト	80 %				
2. 論文、まとめのレポートなど	%				
3.	%				
再評価の実施	する	しない			
教科書					
参考書					
15 生命と環境に関する学びのまとめ 生物・化学・栄養との関連について問う 予復修課題：過去14回の内容を再確認しておく(4時間以上かかります)					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語 English		単位数	授業内容*	
担当者	川満 潤 (KAWAMITSU Jun) 村田 美和子 (MURATA Miwako)		1	1	イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 英語学習開始のためのアイスブレイキング 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し
実務経験のある教員による授業	ナンバリング			2	Unit 1: Welcome to Japan その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 1前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	3	Unit 1: Welcome to Japan その2 予復修課題: 予修:教科書Unit 1後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
配当年次	2年生	開講学期 前期	経済学部・スポーツ学部共通	4	Unit 2: That Sounds Like Fun その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 2前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
授業概要	本科目では、英語 および英語 で固めた基礎を土台として、日常生活で使われる英文の理解をさらに深め、運用できる力を4技能を通してバランスよく涵養することを目指します。授業で学んだ文法事項を使い、日常生活で使える英文の作成や日常生活に関わる200-300語程度の長文理解のための学習を行います。英語圏諸国の基本的文化理解も適宜行います。				
授業到達目標	修得した文法知識や表現方法を使って日常的に使われる英文や、やや複雑な英語表現を理解することができ、簡単な英文を作成することができる。また学習によって得られた知識を基に200-300語程度の英文を読解することができる。英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。			7		
【思考力・判断力・表現力】本学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。			8		
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。			9		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)授業には教科書と辞書を持参すること。 2)授業の予修・復修には、毎回1時間以上はかけること。		
1. 小テスト、感想文など		%			
2. 中間テスト		%			
3. 課題レポートなどの提出物		%			
4. 授業中の発表、討論		%			
5. 授業への参加意欲		%			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			
7. 1から6を総合して		40 %			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		60 %	事前学習型授業 [ 第2回 ~ 第14回 ]		
2. 論文、まとめのレポートなど		%			
3.		%			
再評価の実施	する	しない			
教科書	『ENGLISH FIRST BASIC』(金星堂)				
参考書					
				10	Unit 3: We Leave on Friday Morning その2 予復修課題: 予修:教科書Unit 3前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
				11	Unit 3: We Leave on Friday Morning その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 3後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
				12	Unit 4: You Know a Lot About Trains その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 4前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
				13	Unit 4: You Know a Lot About Trains その2 予復修課題: 予修:教科書Unit 4後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
				14	Unit 5: I Didn't Want to Leave その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 5前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
				15	Unit 5: I Didn't Want to Leave その2 予復修課題: 予修:教科書Unit 5前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
				16	Unit 6: You're Working Late その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 6前半の文法説明を読む、練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
				17	Unit 6: You're Working Late その2 予復修課題: 予修:教科書Unit 6後半の文法説明を読む、練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
				18	Unit 7: I'm Sure He'll Understand 予復修課題: 予修:教科書Unit 7の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
				19	総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	英語 English		単位数	授業内容*	
担当者			1	1	イントロダクション(教科書の確認、授業時の注意、評価方法の確認など) 英語学習開始のためのアイスブレイキング 予復修課題: 予修:なし 復修:授業で説明されたことの見直し
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		2	Unit 8: I'll Remember That その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 8前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	3	Unit 8: I'll Remember That その2 予復修課題: 予修:教科書Unit 8後半の練習問題を解く 復修:練習問題の見直し
配当年次	3-4年生	開講学期 後期	経済学部・スポーツ学部共通	4	Unit 9: Hiro Forgot その1 予復修課題: 予修:教科書Unit 9前半の英文、文法説明を読む 復修:読解内容、練習問題の見直し
授業概要	本科目では、英語 および英語 で固めた基礎を土台として、日常生活で使われる英文の理解をさらに深め、運用できる力を4技能を通してバランスよく涵養することを目指します。授業で学んだ文法事項を使い、日常生活で使える英文の作成や日常生活に関わる200-300語程度の長文理解のための学習を行います。英語圏諸国の基本的文化理解も適宜行います。				
授業到達目標	修得した文法知識や表現方法を使って日常的に使われる英文や、やや複雑な英語表現を理解することができ、簡単な英文を作成することができる。また学習によって得られた知識を基に200-300語程度の英文を読解することができる。英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。授業で学習した問題において、得点の60%程度の取得を目指す。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業内容は、変更されることがあります。卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係、成績評価の方法、再評価の実施、アクティブ・ラーニング、履修における留意事項を含め、初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。			
1. 小テスト、感想文など	%				
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	%				
4. 授業中の発表、討論	%				
5. 授業への参加意欲	%				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%				
7.	%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	%				
2. 論文、まとめのレポートなど	%				
3.	%				
再評価の実施	する	しない			
教科書					
参考書					
				15	総まとめ まとめのテストと総括 予復修課題: 予修:第14回目までの授業で学んだ練習問題の総合的な振り返り

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	フランス語 再履修用		単位数	授業内容*	
	French		1		
担当者	渡辺 佳奈 (WATANABE Kana)		非常勤講師		
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通
配当年次	1年生	開講学期	前期		
授業概要	<p>初心者を対象にしたフランス語です。基礎フランス語文法、初歩のフランス語会話表現を講義します。フランス語の仕組みを説明した後、フランス語の文章を読み、CDでフランス人の発音を聞き、練習問題を行います。また、実際に受講生同士あるいは教員との会話練習を通してフランス語でのコミュニケーションを実践します。講義ではフランス文化も紹介し、異文化に対する理解を深めます。</p>				
授業到達目標	<p>1. フランス語の文章を音読することができる。 2. 自己紹介や物を説明するなど、平易な会話をフランス語で行うことができる。 3. 動詞êtreやavoir、規則動詞の活用、形容詞、冠詞、疑問文、否定文などの練習問題に答えることができる。</p>				
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中においては積極的に参加し、発言を行ってください。</li> <li>・授業の予復修を約1時間行くと一層理解が深まります。</li> </ul>		
1. 小テスト、感想文など		20 %			
2. 中間テスト		%			
3. 課題レポートなどの提出物		%			
4. 授業中の発表、討論		%			
5. 授業への参加意欲		20 %			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			
7.		%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		60 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、ペアもしくは少人数のグループでフランス語の会話練習を行います。</li> <li>・小テスト[第6回、第10回、第14回]</li> </ul>		
2. 論文、まとめのレポートなど		%			
3.		%			
再評価の実施	する	しない			
教科書	藤田裕二『パリ ボルドー』朝日出版社				
参考書					
1	オリエンテーション		0課「フランス語の発音と綴り字」：アルファベット、単母音、複母音 予復修課題：予修：知っているフランス語をメモしておく。		
2	0課「フランス語の発音と綴り字」：鼻母音、半母音、子音		予復修課題：予復修：単母音、複母音、鼻母音、半母音、子音を発音する。		
3	1課「自己紹介」：主語人称代名詞、動詞êtreの活用、国籍を表わす形容詞		予復修課題：予修：予定範囲を音読する。復修：既に行った範囲を音読する。		
4	1課「自己紹介」：国籍について質問し合う、11頁のディアログ、世界の中のフランス語について		予復修課題：予修：11頁のディアログの内容を予想する。復修：指定内容を暗唱する。		
5	1課「自己紹介」：自己紹介文を作る、11頁のディアログを部分的に変えてロールプレイを行う		予復修課題：予修：自己紹介文をフランス語で作る。復修：今までの範囲を総復修する。		
6	小テスト		2課「物を指し示す」：名詞と不定冠詞、指示代名詞ce 予復修課題：予修：予定範囲のフランス語を発音の法則にて読めるのか確認しておく。		
7	2課「物を指し示す」：名詞の後ろに置く形容詞、名詞の前に置く形容詞、形容詞を使用して2文を1文にする練習		予復修課題：復修：今までの文法事項で不明な点がないかを確認、整理をする。		
8	2課「物を指し示す」：15頁のディアログ、フランスの中のクールジャパン、CDのネイティブの音声を真似てみる		予復修課題：予修：15頁のディアログを音読する。復修：自分の単語帳を作る。		
9	3課「尋ねる」：規則動詞(-er動詞)の活用、定冠詞、街にあるものを定冠詞をつけて発音する練習		予復修課題：予修：予定範囲のフランス語を発音の法則にて読めるのか確認しておく。		
10	小テスト		3課「尋ねる」：不定冠詞と定冠詞の違い、モンパルナス地区について 予復修課題：復修：今までの文法事項で不明な点がないかを確認、整理をする。		
11	3課「尋ねる」：19頁のディアログ、19頁のディアログを自分たち用に変える、自分たち用に変えたディアログを発表		予復修課題：予修：ディアログ作成に使えるような単語を選んでおく。		
12	4課「買い物をする」：指示形容詞ce、動詞avoirの活用、数字1～30、名詞に指示形容詞をつける練習、「～はもっていますか」と尋ねる練習		予復修課題：予修：予定範囲を音読する。復修：既に行った範囲を音読する。		
13	4課「買い物をする」：第1群規則動詞を否定形にする練習、質問に対して否定で答え練習、パリの市場でおすすめのものは何か		予復修課題：復修：今までの文法事項で不明な点がないかを確認、整理をする。		
14	小テスト		4課「買い物をする」：25頁のディアログ、朝市で買い物をする 予復修課題：予復修：数字にユーロを付けた場合の発音を練習する。		
15	前期の総括		まとめのテスト 予復修課題：今までの範囲を復修し、難しかった所を質問できるようメモしておく。		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	フランス語 再履修用		単位数	授業内容*	
	French		1	1 オリエンテーション フランス語 の復修 予復修課題： 予修:覚えているフランス語(単語や文)をメモしておく。	
担当者	渡辺 佳奈 (WATANABE Kana)		非常勤 講師	2 5課「物事や人について尋ねる」：動詞allerと近接未来、疑問代名詞queとqui、ペアで「～に行きますか?」「はい、行きます」の会話練習 予復修課題： 予修:予定範囲を音読し、わからない単語を調べる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			3 5課「物事や人について尋ねる」：不規則動詞、ペアで「あなたは何をしていますか?」「私は～をしています」の応答練習、フランスの主要都市 予復修課題： 予修:予定範囲を音読する。 復修:既に行った範囲を音読する。	
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	4 5課「物事や人について尋ねる」：疑問詞を使い質問文を作る、パリの鉄道の駅、29頁のディアローグ、29頁のディアローグでフランス語の速さを調整してみる 予復修課題： 復修:5課の総復修を行う。	
配当年次	1年生	開講学期 後期	経済学部・スポーツ学部共通	5 6課「場所を尋ねる」：所有形容詞、名詞に様々な所有形容詞をつける練習、疑問形容詞、名詞に疑問形容詞を付ける練習 予復修課題： 予修:予定範囲を音読する。 復修:指定内容を暗唱する。	
授業概要	フランス語 で学んだことを復修しつつ、基礎フランス語文法、初歩のフランス語会話表現の知識を増やしていく講義となります。フランス語の仕組みを解説した後、文法の練習問題を行い、Cdでネイティブの発音を聞きながら、耳をならしていく作業を行います。また、受講生同士あるいは教員との会話練習を通してフランス語でのコミュニケーションを実践します。講義ではフランス文化も紹介し、異文化に対する理解を深めます。				
授業到達目標	1. フランス語の文章を音読することができる。 2. 質問をし、答えるという会話をフランス語で行うことができる。 3. 重要な動詞や助動詞の活用、所有形容詞、疑問形容詞、補語人称代名詞などの練習問題に答えることができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	・授業中においては積極的に参加し、発言を行ってください。 ・授業の予復修を約1時間行うと一層理解が深まります。			
1. 小テスト、感想文など	20 %				
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	%				
4. 授業中の発表、討論	%				
5. 授業への参加意欲	20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%				
7.	%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	60 %	・毎回、ペアもしくは少人数のグループでフランス語の会話練習を行います。			
2. 論文、まとめのレポートなど	%	・小テスト[第6回、第10回、第14回]			
3.	%				
再評価の実施	する	しない			
教科書	藤田裕二『パリ ボルドー』朝日出版社				
参考書					
				15 前期の総括 まとめのテスト 予復修課題： 今までの範囲を復修し、難しかった所を質問できるようメモしておく。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		堀口 英則 (HORIGUCHI Hidenori) 尾上 百合加 (ONOUE Yurika)		1	1 進路希望調査とナビ会社登録【全体】 進路希望調査を実施し、受講者の進路確認を行う。合わせてナビ会社の利用登録を実施 予復修課題：復修：配付資料を参考に、採用活動を再確認する。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF3101・ERF3101・SSF3101	2 授業ガイダンス 就職環境の説明 前期授業の目的・評価について 授業目的の理解とモチベーションを喚起・夏季インターンシップへの参加と差別化 予復修課題：復修：ナビ会社のWebサイトから、インターン情報を入手しまとめる。	
授業形式		実習		科目区分 総合共通科目	3 グループディスカッションGD テーマ：ロジカルシンキング 砂漠ゲーム 予復修課題：復修：他者の良い意見を参考に、自身で再度検討する。	
配当年次		3年生		履修学部	4 インターンシップ案内(協議会・マイナビ・リクナビ)【全体・分散】 インターンシップの説明と注意点、参加情報の取り方などを講義する。 予復修課題：復修：夏のインターン参加に向けた計画作成	
開講学期		前期		経済学部・スポーツ学部共通	5 グループディスカッションGD テーマ：ロジカルシンキング イタメシ店の利益減少 予復修課題：復修：他者の良い意見を参考に、自身で再度検討する。	
授業概要		この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。 就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む 企業・職業を勝ち取り、社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの 就職活動を強力にサポートします。 前期授業のキャリアデザイン では、夏季インターンシップへの参加を目指します。				
授業到達目標		自己分析(夏季インターンシップのためのエントリーシート作成)ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査により自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング(人と協力して成果を上げる力)を取得することができる				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業はチームビルディングを学ぶためにグループディスカッション形式で行われることが多くあります。そのため遅刻早退はみとめられません。また、前期後期とも授業終了後に定期試験は実施しませんので、普段の授業の出席やレポート、受講態度の評価が全てです。			
1. 小テスト、感想文など		30 %	予復修課題取組時間：1時間程度			
2. 中間テスト		%	アクティブ・ラーニング			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %	模擬試験 [第12・14回]			
4. 授業中の発表、討論		%	グループディスカッション [第3・5・13回]			
5. 授業への参加意欲		40 %	実践学習 [第4・10・11回]			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	論文講座 [第7回]			
7. 授業・インターンへの意欲態度		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		適宜資料を配付				
参考書						
		11 学内業界研究セミナー 【全体】 金融・商社・メーカー・運輸など、各業界が実施するインターンの説明 予復修課題：復修：興味ある業種・企業などのキーワードから、参加できるインターンを探す				
		12 SPI模試【全体・分散】 文化放送キャリアパートナーズ(SPI模試) 予復修課題：予修：就職模擬試験への学習				
		13 グループディスカッションGD テーマ：価値観・マトリックス 予復修課題：復修：他者の良い意見を参考に、自身で再度検討する。				
		14 クレペリンテスト クレペリンテスト 予復修課題：復修：繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する。				
		15 インターンシップマナー説明【全体・分散】 インターンへ向けた服装・挨拶・連絡方法に関するマナー講座 予復修課題：復修：夏のインターンに向けた登録と準備				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		西尾 恵里子 (NISHIO Eriko)		林山 誠晴 (HAYASHIYAMA Masaharu)	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF3101・ERF3101・SSF3101		
授業形式		実習		科目区分 総合共通科目		
配当年次		3年生		履修学部 経済学部・スポーツ学部共通		
開講学期		前期				
授業概要		この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む企業・職業を勝ち取り、社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの就職活動を強力にサポートします。前期授業のキャリアデザインでは、夏季インターンシップへの参加を目指します。				
授業到達目標		自己分析(夏季インターンシップのためのエントリーシート作成)ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査により自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング(人と協力して成果を上げる力)を取得することができる				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業は就職活動に必要な基礎知識を学び、今、何が出来るか?、何を行動するか?判断できることを目標とします。SPI試験に対する演習を取り入れます。就職活動で求められる書類作成を学びます。小テスト、レポート、授業への参加意欲が、評価対象です。遅刻も厳しく対応します。予復修課題取組時間:1時間程度			
1. 小テスト、感想文など		30 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 授業・インターンへの意欲態度		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	模擬試験 [第12・13回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	グループディスカッション [第14回]			
		%	実践学習 [第4・10・11回]			
再評価の実施		する	しない			
論文			論文講座 [第7回]			
教科書		適宜資料を配付				
参考書						
1		進路希望調査とナビ会社登録【全体】 進路希望調査を実施し、受講者の進路確認を行う。合わせてナビ会社の利用登録を実施 予復修課題: 復修:配付資料を参考に、採用活動を再確認する。				
2		授業ガイダンス 就職環境の説明 前期授業の目的・評価について 授業目的の理解とモチベーションを喚起・夏季インターンシップへの参加と差別化 予復修課題: 復修:ナビ会社のWebサイトから、インターン情報を入手しまとめる。				
3		将来設計図、SPI演習(割合) 大学卒業から、30代、40代と各年代ごとの生活・就労状況を描く。SPI演習(割合) 予復修課題: 復修:長期的な将来設計を考える				
4		インターンシップ案内(協議会・マイナビ・リクナビ)【全体・分散】 インターンシップの説明と注意点、参加情報の取り方などを講義する。 予復修課題: 復修:夏のインターン参加に向けた計画作成				
5		大学生生活と目標、SPI演習(濃度) 大学生活における「学び」を考え、今、何を行動すべきか考察。SPI演習(濃度) 予復修課題: 復修:学生生活での具体的な行動計画を作成				
6		就職情報検索、SPI演習(商い) 利用者登録を行った就職ナビサイトを活用し、企業情報を検索。SPI演習(商い) 予復修課題: 復修:気になる企業情報を検索し、就職手帳に記録する				
7		論作文、SPI演習 自己分析に関する論作文を考える 予復修課題: 復修:作文と、「論ずる」ことの違いを振り返る				
8		自己PR作成、面談、SPI演習(速さ) 例文を参考に自己PRを作成し、その評価と併せ面談を実施。SPI演習(速さ) 予復修課題: 復修:例文を参考に、自己PRを作成				
9		自己PR作成、面談、SPI演習(速さ) 例文を参考に自己PRを作成し、その評価と併せ面談を実施。SPI演習(速さ) 予復修課題: 復修:例文を参考に、自己PRを作成				
10		4年生インターンシップ体験談【全体・分散】 先輩のインターンシップ体験談を聴き、参加計画に活かす 予復修課題: 復修:体験談のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす				
11		学内業界研究セミナー【全体】 金融・商社・メーカー・運輸など、各業界が実施するインターンの説明 予復修課題: 復修:興味ある業種・企業などのキーワードから、参加できるインターンを探す				
12		SPI模試【クラス実施】 文化放送キャリアパートナーズ(SPI模試) 予復修課題: 復修:繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する。				
13		クレペリンテスト 予復修課題: 予修:就職模擬試験への学習				
14		グループディスカッション体験 堀口先生によるグループディスカッション体験 予復修課題: 復修:選考方法(グループワーク)に対する調査				
15		インターンシップマナー説明【全体・分散】 インターンに向けた服装・挨拶・連絡方法に関するマナー講座 予復修課題: 復修:夏のインターンに向けた登録と準備				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	1		授業内容*	
担当者		水井 雅彦 (MIZUI Masahiko)		ほか		専任		1 進路希望調査とナビ会社登録【全体】 進路希望調査を実施し、受講者の進路確認を行う。合わせてナビ会社の利用登録を実施 予復修課題：復修：配付資料を参考に、採用活動を再確認する。
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF3101・ERF3101・SSF3101		2 授業ガイダンス 就職環境の説明 前期授業の目的・評価について 授業目的の理解とモチベーションを喚起・夏季インターンシップへの参加と差別化 予復修課題：復修：ナビ会社のWebサイトから、インターン情報を入手しまとめる。		
授業形式		実習		科目区分 総合共通科目		履修学部 経済学部・スポーツ学部共通		3 将来設計図、SPI演習（割合） 大学卒業から、30代、40代と各年代ごとの生活・就労状況を描く。SPI演習（割合） 予復修課題：復修：長期的な将来設計を考える
配当年次		3年生		開講学期 前期		4 インターンシップ案内（協議会・マイナビ・リクナビ）【全体・分散】 インターンシップの説明と注意点、参加情報の取り方などを講義する。 予復修課題：復修：夏のインターン参加に向けた計画作成		
授業概要		この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。 就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む 企業・職業を勝ち取り、社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの 就職活動を強力にサポートします。 前期授業のキャリアデザイン では、夏季インターンシップへの参加を目指します。						5 大学生活と目標、SPI演習（濃度） 大学生活における「学び」を考え、今、何を行動すべきか考察。SPI演習（濃度） 予復修課題：復修：学生生活での具体的な行動計画を作成
授業到達目標		自己分析（夏季インターンシップのためのエントリーシート作成）ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査により自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング（人と協力して成果を上げる力）を取得することができる						6 就職情報検索、SPI演習（商い） 利用者登録を行った就職ナビサイトを活用し、企業情報を検索。SPI演習（商い） 予復修課題：復修：気になる企業情報を検索し、就職手帳に記録する
卒業認定・学位授与の方針（DP）と授業到達目標との関係（特に関係する 関係する）		卒業認定・学位授与の方針（DP）と授業到達目標との関係（特に関係する 関係する）						7 SPI演習 SPI演習を振り返り、割合、濃度、商い、の復習と、小テストを実施 予復修課題：復修：苦手個所の演習問題
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						8 自己PR作成、面談、SPI演習（速さ） 例文を参考に自己PRを作成し、その評価と併せ面談を実施。SPI演習（速さ） 予復修課題：復修：例文を参考に、自己PRを作成
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						9 自己PR作成、面談、SPI演習（速さ） 例文を参考に自己PRを作成し、その評価と併せ面談を実施。SPI演習（速さ） 予復修課題：復修：例文を参考に、自己PRを作成
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						10 4年生インターンシップ体験談【全体・分散】 先輩のインターンシップ体験談を聴き、参加計画に活かす 予復修課題：復修：体験談のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす
成績評価の方法（全体で100%）		履修における留意事項						11 学内業界研究セミナー【全体】 金融・商社・メーカー・運輸など、各業界が実施するインターンの説明 予復修課題：復修：興味ある業種・企業などのキーワードから、参加できるインターンを探す
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		授業は就職活動に必要な基礎知識を学び、今、何が出来るか？、何を行動するか？ 判断できることを目標とします。 SPI試験に対する演習を取り入れます。 就職活動で求められる書類作成を学びます。 小テスト、レポート、授業への参加意欲が、評価対象です。遅刻も厳しく対応します。 予復修課題取組時間：1時間程度				12 SPI模試【クラス実施】 文化放送キャリアパートナーズ（SPI模試） 予復修課題：復修：繰返し単純作業に関する自身の適性を検討する。
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング				13 インターンシップマナー説明【クラス実施】 インターンへ向けた服装・挨拶・連絡方法に関するマナー講座 予復修課題：復修：夏のインターンに向けた登録と準備
1. まとめのテスト		%		模擬試験 [第12・14回]				14 クレペリンテスト【クラス実施】 クレペリンテスト 予復修課題：予修：就職模擬試験への学習
2. 論文、まとめのレポートなど		%		グループディスカッション [第15回]				グループディスカッション体験
再評価の実施		する		しない				15 堀口先生によるグループディスカッション体験 予復修課題：復修：選考方法（グループワーク）に対する調査
教科書		適宜資料を配付						
参考書								

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		田中 雄二 (TANAKA Yuji) 花田 道子 (HANADA Michiko)		1	1 進路希望調査とナビ会社登録【全体】 進路希望調査を実施し、受講者の進路確認を行う。合わせてナビ会社の利用登録を実施 予復修課題： 復修：配付資料を参考に、採用活動を再確認する	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSF3101	2 授業ガイダンス 就職環境の説明 前期授業の目的・評価について 授業目的の理解とモチベーションを喚起・夏季インターンシップへの参加と差別化 予復修課題： 教員採用試験に関する情報を得ておく(具体的な数字を伴った探し方)	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	3 将来設計図(14か月間をどのように捉えるか) 直近のキャリア形成につながる「教員採用試験日」から逆算して考えていく 予復修課題： 約400日で行うのかをA4一枚にまとめる(実行できることを書く)	
配当年次	3年生	開講学期	前期	履修学部	4 保健体育科教員の仕事を考える 保健体育科教員は中学校高等学校でどのような役割を持つのかを具体的に考える 予復修課題： 中等教育期間を振り返り、保健体育の先生との出来事を書き出しておく	
授業概要	この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。 就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む 企業・職業を勝ち取り、社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの 就職活動を強力にサポートします。 前期授業のキャリアデザイン では、夏季インターンシップへの参加を目指します。					
授業到達目標	自己分析(夏季インターンシップのためのエントリーシート作成)ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査により自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング(人と協力して成果を上げる力)を取得することができる					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業は就職活動に必要な基礎知識を学び、今、何が出来るか?、何を行動するか?判断できることを目標とします。			
1. 小テスト、感想文など		30 %	SPI試験に対する演習を取り入れます。			
2. 中間テスト		%	就職活動で求められる書類作成を学びます。			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %	小テスト、レポート、授業への参加意欲が、評価対象です。遅刻も厳しく対応します。			
4. 授業中の発表、討論		%	予復修課題取組時間：1時間程度			
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 授業・インターンへの意欲態度		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	模擬試験 [第12・14回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	グループディスカッション [第14回]			
		%	実践学習 [第4・8・11回]			
再評価の実施		する	論文講座 [第7回]			
再評価の実施		しない				
教科書	適宜資料を配付					
参考書						
			11 学生時代の学外活動を考える 学校ボランティアの必要性和重要性について考える 予復修課題： 学校ボランティアにはどのような活動があるのかを調べておく			
			12 SPI模試【クラス実施】 文化放送キャリアパートナーズ(SPI模試) 予復修課題： 復修：繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する			
			13 クレペリンテスト クレペリンテスト 予復修課題： 予修：就職模擬試験への学習			
			14 グループディスカッション体験 堀口先生によるグループディスカッション体験 予復修課題： 復修：選考方法(グループワーク)に対する調査			
			15 教員希望者のインターンシップ(教育実習)を考える 教育実習で何を学ぶのか、それを通じてどのように成長するのかを考える 予復修課題： 「インターン」「インターンシップ」という言葉の本質を調べておく			

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン 再履修用 Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		園田 裕虎(SONODA Hirotora)		1	1 ガイダンス キャリアデザイン (再) 調査票の記入: 今期とキャリアデザイン (再) 受けるにあたっての抱負など 予復修課題: 予修: 単位取得状況や就学・生活状況をまとめておく。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			2 コミュニケーショントレーニングのための自己分析ワーク 予復修課題: 分析の結果をまとめる。	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	4年生	開講学期	前期			
授業概要	この授業では、これまでの自己分析をもとに将来(未来)設計を行い、その実現のために必要なスキルアップを目指します。自らの能力を生かすことのできる進路を検討し、卒業後の具体的な目標について考え、自らの就職活動の計画を作成する中で、自分の課題を明確にできるようにします。					
	また、グループワークに取組み、コミュニケーション力と企画運営能力の向上を目指します。それぞれの目標とする業界について個人研究することも求めます。					
授業到達目標	1) 将来に向け、充実した大学生活を送るための基礎づくりができる。					
	2) 問題発見・解決、提案(コミュニケーション)、実行などの就業力を身に付けることができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)	3) 自己分析を通じた自己理解能力を身に付けることができる。					
	4) 働く意味の認識と将来計画を立てる能力を身に付けることができる。					
【知識・技能】	キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
	【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
【主体性・協働性】	自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
	成績評価の方法 (全体で100%)					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修における留意事項			
1. 小テスト、感想文など		%	1) 個人ワークやグループワークなどにより、「読む・書く・聞く・話す」能力を高める活動が中心となる。			11 ディスカッション資料の作成 (Word使用) 予復修課題: 予修: ディスカッションのテーマを考えて、何をどのようにするかメモを作成しておく。
2. 中間テスト		%	2) 授業が、前の授業の内容と関連・連続することが多いので、欠席しないようにする。			12 ディスカッションのためのPower Point作成 予復修課題: 予修: Power Point作成の準備。
3. 課題レポートなどの提出物		50 %	3) 受講者の人数などを考慮して、座席指定を行う場合がある。			13 作成したPower Pointに基づきプレゼンテーションとディスカッション 予復修課題: 復修: プレゼンテーションの反省点を整理しておく。
4. 授業中の発表、討論		10 %	4) 毎回、1時間以上の予復修を必ず行う。			14 作成したPower Pointに基づきプレゼンテーションとディスカッション 予復修課題: 復修: 得たことや反省点をメモに整理しておく。
5. 授業への参加意欲		30 %	アクティブ・ラーニング			15 キャリアデザイン (再) のまとめとキャリアデザイン (再) を受けての自己評価 キャリアデザイン (再) を受けての自己評価 (第1回目の授業の抱負に基づく) 予復修課題: 予修: キャリアデザイン (再) の内容を整理し、振り返る。
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	・ 課題解決型学習[第1,2,3,4,6,7,8,10,11,12,15回]			
7.		%	・ グループディスカッション[第13,14回] ・ プレゼンテーション[第5,9,13,14回]			
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	適宜プリント、テキストなどを配付する。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	キャリアデザイン Career Design			単位数	授業内容*	
担当者	堀口 英則 (HORIGUCHI Hidenori)	尾上 百合加 (ONOUE Yurika)		1	1 初回ガイダンス、クレペリンテスト解説 講義ガイダンス。クレペリンが実施される業種・企業など、基本情報を整理する。 予復修課題：復修：繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		EEF3201・ERF3201・SSF3201	2	グループディスカッションGD テーマ：ロジカルシンキング いろは銀行 予復修課題：復修：他者の良い意見を参考に、自身で再度検討する。	
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	
配当年次	3年生	開講学期	後期			
授業概要	この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路（教員・公務員・スポーツ就職希望者は除く）を獲得するためのものです。就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む企業・職業を勝ち取り社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの就職活動を強力にサポートします。 後期授業のキャリアデザインでは、学内で実施される業界研究や学外での就活イベントで差別化できる意欲・能力の習得を目指します。					
授業到達目標	自己分析（履歴書・エントリーシート作成）ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査による自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング（人と協力して成果を上げる力）を取得することができる					
卒業認定・学位授与の方針（DP）と授業到達目標との関係（特に関係する 関係する）						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法（全体で100%）			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業はチームビルディングを学ぶためにグループディスカッション形式で行われることが多くあります。そのため遅刻早退はみとめられません。また、前期後期とも授業終了後に定期試験は実施しませんので、普段の授業の出席やレポート、受講態度の評価が全てです。				
1. 小テスト、感想文など	30 %	予復修課題取組時間：1時間程度				
2. 中間テスト	%	アクティブ・ラーニング				
3. 課題レポートなどの提出物	30 %	実践学習 [第5・9・13回]				
4. 授業中の発表、討論	%	体験学習 [第6・11・12回]				
5. 授業への参加意欲	40 %	グループディスカッション [第2・4回]				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%	模擬試験 [第10回]				
7. 授業・インターンへの意欲態度	%					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	適宜資料を配付					
参考書						
3	SPI模試の診断結果解説 ライフラインチャート 前期第12回で実施したSPI模試の診断結果解説。併せて、ライフラインチャート2回目。 予復修課題：復修：数学・言語の得点向上に対する計画作成と学習					
4	グループディスカッションGD テーマ：マトリックス 平和中学校 予復修課題：復修：他者の良い意見を参考に、自身で再度検討する。					
5	内定者活動報告会【全体・分散】 内定者による講演とディスカッションを聴講し、受講者の活動に活かす。 予復修課題：復修：体験談のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす					
6	学内合説のためのマナー講座【全体・分散】 by青山商事 スーツ着こなし、靴やバッグなどの注意点など。 予復修課題：復修：面接練習を想定し、「身だしなみ」の準備を行う。					
7	履歴書作成 本学指定の履歴書を想定し、記入の注意点などを学ぶ。 予復修課題：復修：受講者履歴書の「雛形」作成					
8	学内業界研究セミナー説明 諸注意 ES記入 学内企業セミナーに向けた情報共有と注意点の確認を行う。 予復修課題：予修：聴講する企業の選択と、その企業調査					
9	学内企業セミナー 【全体】 就職活動本番と同様に、スーツ着用でセミナーへ参加する。 予復修課題：復修：説明内容のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす					
10	キャリアアプローチ診断 ベネッセ 適性検査を受ける。 予復修課題：予修：数学、言語の就職試験対策					
11	面接練習会 集団面接、学内業界研究セミナーの説明【全体・分散】 採用試験での面接を想定し、その練習会を行う。 予復修課題：復修：上手くできた点、失敗した点など、練習で気づいた点に対応					
12	面接練習会 集団面接、学内業界研究セミナーの説明【全体・分散】 採用試験での面接を想定し、その練習会を行う。 予復修課題：復修：説明内容のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす					
13	学内業界研究セミナー 【全体】 就職活動本番と同様に、スーツ着用でセミナーへ参加する。 予復修課題：復修：説明内容のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす					
14	クラス別講義【全体・分散】 各クラスの理解度に応じた講義内容を実施する。 予復修課題：復修：知識や情報など、不足している点を再確認する。					
15	就職活動についての諸注意 キャリア科目最後の講義として、合同企業セミナーや学内イベントに対する講義。 予復修課題：就職活動に向けた準備確認と行動計画の作成 そして実行					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		西尾 恵里子 (NISHIO Eriko)		林山 誠晴 (HAYASHIYAMA Masaharu)	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF3201・ERF3201・SSF3201		1 初回ガイダンス、クレペリンテスト解説 講義ガイダンス。クレペリンが実施される業種・企業など、基本情報を整理する。 予復修課題：復修：繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する。
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	2 業界研究 志望する業界の知識を得ることで、企業を選ぶ目を養う。 予復修課題：復修：興味ある分野の業界研究と、その結果を就活手帳に残す	
配当年次	3年生	開講学期	後期	経済学部・スポーツ学部共通		3 SPI模試の診断結果解説 ライフラインチャート 前期第12回で実施したSPI模試の診断結果解説。併せて、ライフラインチャート2回目。 予復修課題：復修：数学・言語の得点向上に対する計画作成と学習
授業概要	この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。 就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む企業・職業を勝ち取り、社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの就職活動を強力にサポートします。 後期授業のキャリアデザインでは、学内で実施される業界研究や学外での就活イベントで差別化できる意欲・能力の習得を目指します。					
授業到達目標	自己分析（履歴書・エントリーシート作成）ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査による自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング（人と協力して成果を上げる力）を取得することができる					
卒業認定・学位授与の方針（DP）と授業到達目標との関係（特に関係する 関係する）						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法（全体で100%）			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業は就職活動に必要な基礎知識を学び、今、何が出来るか？、何を行動するか？判断できることを目標とします。			
1. 小テスト、感想文など		30%	SPI試験に対する演習を取り入れます。			
2. 中間テスト		%	就職活動で求められる書類作成を学びます。			
3. 課題レポートなどの提出物		30%	レポート、課題作成など授業への参加意欲が評価対象です。遅刻も厳しく対応します。			
4. 授業中の発表、討論		%	予復修課題取組時間：1時間程度			
5. 授業への参加意欲		40%				
6. 自主的学習（予習・復習など）		%				
7. 授業・インターンへの意欲態度		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	実践学習 [第9・10・13回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	体験学習 [第5・11・12回]			
		%	グループディスカッション [第6回]			
再評価の実施		する	模擬試験 [第7回]			
しない						
教科書 適宜資料を配付						
参考書						
			15 就職活動についての諸注意 キャリア科目最後の講義として、合同企業セミナーや学内イベントに対する講義。 予復修課題：就職活動に向けた準備確認と行動計画の作成 そして実行			

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者		水井 雅彦 (MIZUI Masahiko)		ほか	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEF3201・ERF3201・SSF3201		1 初回ガイダンス、クレペリンテスト解説 講義ガイダンス。クレペリンが実施される業種・企業など、基本情報を整理する。 予復修課題：復修：繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する。
授業形式	実習	科目区分	総合共通科目	履修学部	2 業界研究 志望する業界の知識を得ることで、企業を選ぶ目を養う。 予復修課題：復修：興味ある分野の業界研究と、その結果を就活手帳に残す	
配当年次	3年生	開講学期	後期	経済学部・スポーツ学部共通		3 SPI模試の診断結果解説 ライフラインチャート 前期第12回で実施したSPI模試の診断結果解説。併せて、ライフラインチャート2回目。 予復修課題：復修：数学・言語の得点向上に対する計画作成と学習
授業概要	この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。 就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む企業・職業を勝ち取り、社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの就職活動を強力にサポートします。 後期授業のキャリアデザインでは、学内で実施される業界研究や学外での就活イベントで差別化できる意欲・能力の習得を目指します。					
授業到達目標	自己分析（履歴書・エントリーシート作成）ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査による自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング（人と協力して成果を上げる力）を取得することができる					
卒業認定・学位授与の方針（DP）と授業到達目標との関係（特に関係する 関係する）						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法（全体で100%）			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業は就職活動に必要な基礎知識を学び、今、何が出来るか？、何を行動するか？判断できることを目標とします。			
1. 小テスト、感想文など		30 %	SPI試験に対する演習を取り入れます。			
2. 中間テスト		%	就職活動で求められる書類作成を学びます。			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %	レポート、課題作成など授業への参加意欲が評価対象です。遅刻も厳しく対応します。			
4. 授業中の発表、討論		%	予復修課題取組時間：1時間程度			
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習（予習・復習など）		%				
7. 授業・インターンへの意欲態度		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	実践学習 [第9・10・13回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	体験学習 [第5・11・12回]			
		%	履歴書作成 [第4・6回]			
再評価の実施		する	模擬試験 [第7回]			
教科書		適宜資料を配付				
参考書						
		11 面接練習会 集団面接、学内業界研究セミナーの説明【全体・分散】 採用試験での面接を想定し、その練習会を行う。 予復修課題：復修：上手くできた点、失敗した点など、練習で気づいた点に対応				
		12 面接練習会 集団面接、学内業界研究セミナーの説明【全体・分散】 採用試験での面接を想定し、その練習会を行う。 予復修課題：復修：上手くできた点、失敗した点など、練習で気づいた点に対応				
		13 学内企業セミナー 【全体】 就職活動本番と同様に、スーツ着用でセミナーへ参加する。 予復修課題：復修：体験談のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす				
		14 クラス別講義【全体・分散】 各クラスの理解度に応じた講義内容を実施する。 予復修課題：復修：知識や情報など、不足している点を再確認する。				
		15 就職活動についての諸注意 キャリア科目最後の講義として、合同企業セミナーや学内イベントに対する講義。 予復修課題：就職活動に向けた準備確認と行動計画の作成 そして実行				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	キャリアデザイン Career Design		単位数	授業内容*	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji) 花田 道子 (HANADA Michiko)		1	1 初回ガイダンス、クレペリンテスト解説 講義ガイダンス。クレペリンが実施される業種・企業など、基本情報を整理する。 予復修課題：復修：繰返し・単純作業に関する自身の適性を検討する。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		SSF3201	2 就職活動に対する意識を高める 志望する自治体の採用状況や受験の動向を知り、対策を考える 予復修課題：今年の日程を基に、9か月後までの未来予想図を描いておく	
授業形式	実習	科目区分 総合共通科目	履修学部	3 SPI模試の診断結果解説 ライフラインチャート 前期第12回で実施したSPI模試の診断結果解説。併せて、ライフラインチャート2回目。 予復修課題：復習：数学・言語の得点向上に対する計画作成と学習	
配当年次	3年生	開講学期 後期	スポーツ学部	4 履歴書作成（履歴書の基本を知る） 本学指定の履歴書を想定し、記入の注意点などを学ぶ。 予復修課題：復修：受講者履歴書の「難形」作成	
授業概要	この授業は自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものです。 就職先などどこだっていいと考えるのではなく、厳しい就職戦線を戦ってでも自らが望む企業・職業を勝ち取り社会人のスタートを希望する場所からスタートするために皆さんの就職活動を強力にサポートします。 後期授業のキャリアデザインでは、学内で実施される業界研究や学外での就活イベントで差別化できる意欲・能力の習得を目指します。				
	自己分析（履歴書・エントリーシート作成）ができる グループディスカッションでのロール体験ができる 論理的思考力が取得できる 適性検査による自己理解ができる インターンシップのためのレディネスを取得することができる チームビルディング（人と協力して成果を上げる力）を取得することができる				
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				
【知識・技能】	キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				
	【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				
	【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				
	成績評価の方法（全体で100%）				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修における留意事項		
1. 小テスト、感想文など		30%	授業は就職活動に必要な基礎知識を学び、今、何が出来るか？、何を行動するか？判断できることを目標とします。		
2. 中間テスト		%	SPI試験に対する演習を取り入れます。		
3. 課題レポートなどの提出物		30%	就職活動で求められる書類作成を学びます。		
4. 授業中の発表、討論		%	レポート、課題作成など授業への参加意欲が評価対象です。遅刻も厳しく対応します。		
5. 授業への参加意欲		40%	予復修課題取組時間：1時間程度		
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	アクティブ・ラーニング		
7. 授業・インターンへの意欲態度		%	実践学習 [第9・13回]		
2) 最終到達度の評価			体験学習 [第5・11回]		
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション [第6回]		
2. 論文、まとめのレポートなど		%	模擬試験 [第7回]		
再評価の実施	する	しない	面接練習会 集団面接、学内業界研究セミナーの説明【全体・分散】		
教科書	適宜資料を配付				
参考書	11 採用試験での面接を想定し、その練習会を行う 予復修課題：復修：上手くできた点、失敗した点など、練習で気づいた点を対応				
12 8回から12回までの振り返り 一般企業就職活動に関する体験から、進路指導を考える 予復修課題：「進路指導」に関する教職科目の振り返りを行っておく					
13 学内企業セミナー【全体】 就職活動本番と同様に、スーツ着用でセミナーへ参加する 予復修課題：復修：説明内容のメモを纏め、受講生の採用活動に活かす					
14 模擬試験 昨夏に実施された採用試験（出題はランダム）にチャレンジする 予復修課題：採用試験の傾向に大きな違いがあることを、比較対比して知っておく					
15 進路選択に関する諸注意 教育実習から採用試験までの期間における、一般就職活動への制約について解説する 予復修課題：キャリア支援課を訪問し、上級生の教員志望者の動向を確認しておく					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャリアデザイン 再履修用 Career Design		単位数	授業内容*		
担当者		園田 裕虎(SONODA Hirotora)		1	1 ガイダンス キャリアデザイン (再) 調査票の記入: 今期とキャリアデザイン (再) 受けるにあたっての抱負 予復修課題: 予修: 単位取得状況や就学・生活状況をまとめておく。		
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			2 マナー、エチケット、礼儀、礼義について調べ、メモを作成 (Word) 予復修課題: 予修: マナー、エチケット、礼儀、礼義について、日ごろの様相を考えておく。		
授業形式		科目区分 総合共通科目		履修学部	3 マナー、エチケット、礼儀、礼義についてのメモ作成 (Word)と プレゼンテーション資料作り (Power Point) 予復修課題: 復修: 再度、メモとプレゼンテーションの見直しを行う。		
配当年次		4年生		開講学期	後期		
授業概要		この授業では、これまでの自己分析をもとに将来 (未来) 設計を行い、その実現のために必要なスキルアップを目指します。自らの能力を生かすことのできる進路を検討し、卒業後の具体的な目標について考え、自らの就職活動の計画を作成する中で、自分の課題を明確にできるようにします。また、グループワークに取組み、コミュニケーション力と企画運営能力の向上を目指します。それぞれの目標とする業界について個人研究することも求めます。		経済学部・スポーツ学部共通		4 マナー、エチケット、礼儀、礼義についてのプレゼンテーションと ディスカッション 予復修課題: 復修: プレゼンテーションの内容を再度見直す。	
授業到達目標		1) 将来に向け、充実した大学生活を送るための基礎づくりができる。 2) 問題発見・解決、提案 (コミュニケーション)、実行などの就業力を身に付けることができる。 3) 自己分析を通じた自己理解能力を身に付けることができる。 4) 働く意味の認識と将来計画を立てる能力を身に付けることができる。 5) 参加型授業による自己認識と学校だけでは得られない職業観を身に付けることができる。				5 時、場所、目的に合わせた服装について調べ、まとめる (Word) 予復修課題: 予修: 時、場所、目的に合わせた服装について、日ごろの状況を考えておく。	
		卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)				6 時、場所、目的に合わせた服装についてのプレゼンテーション資料作り (Power Point) 予復修課題: 予修: プレゼンテーションの作成の準備。	
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				7 時、場所、目的に合わせた服装についてプレゼンテーション (Power Point) 予復修課題: 予修: プレゼンテーションの準備 復修: プレゼンテーションの成果を再度振り返ってみる。	
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				8 ライフラインチャートの作成 予復修課題: 予修: 今までの、人生の振り返りを行っておく。	
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				9 ライフラインチャートを基にしたスピーチ 予復修課題: 復修: 得たことを文書化する。スピーチの反省と改善点を再度まとめる。	
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				10 キャリアポートフォリオの作成 予復修課題: 予修: 大学での目標・目的と今後の計画について整理しておく。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		1) 個人ワークやグループワークなどにより、「読む・書く・聞く・話す」能力を高める活動が中心となる。		11 キャリアポートフォリオの作成 予復修課題: 予復修: 大学での目標・目的と今後の計画について再整理。	
1. 小テスト、感想文など		%		2) 授業が、前の授業の内容と関連・連続することが多いので、欠席しないようにする。		12 キャリアポートフォリオの作成 予復修課題: 復修: キャリアポートフォリオの再吟味。	
2. 中間テスト		%		3) 受講者の人数などを考慮して、座席指定を行う場合がある。		13 キャリアポートフォリオを基にして1年間の反省 (文書化) 予復修課題: 予修: 文書化のための要点を整理しておく。	
3. 課題レポートなどの提出物		50 %		4) 毎回、1時間以上の予復修を必ず行う。		14 キャリアポートフォリオを基にしてのスピーチ 予復修課題: 予修: スピーチの準備 復修: スピーチの結果を再度振り返ってみる。	
4. 授業中の発表、討論		10 %		アクティブ・ラーニング		15 キャリアデザイン (再) のまとめ キャリアデザイン (再) を受けての自己評価 (第1回目の授業の抱負に基づく) 予復修課題: 予修: キャリアデザイン (再) の内容を整理し、振り返っておく。	
5. 授業への参加意欲		30 %		・課題解決型学習 [第1, 2, 3, 5, 6, 8, 10, 11, 12, 13, 15回]			
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%		・グループディスカッション [第4回]			
7.		%		・プレゼンテーション [第4, 7, 9, 14回]			
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %					
3.		%					
再評価の実施		する		しない			
教科書							
参考書		適宜プリントなどを配付する。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座A【ITパスポート】 Upskilling Course A (IT Passport)			単位数	授業内容*	
担当者	三原 徹治 (MIHARA Tetsuji)			1	1 授業ガイダンス & ITパスポート試験概説 授業方法、評価方法などについてガイダンス。ITパスポート試験の概要紹介。 予復修課題：【予修】シラバスの熟読 【復修】履修を継続するか否かを真剣に検討	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			2	2 ストラテジ系（経営全般）【1】 企業活動 予復修課題：【復修】授業中に示す『本日のキーワード』について納得いくまで復修	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 ストラテジ系（経営全般）【2】 法務、経営戦略マネジメント 予復修課題：【復修】授業中に示す『本日のキーワード』について納得いくまで復修
配当年次	3年生	開講学期	後期			4 ストラテジ系（経営全般）【3】 技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ 予復修課題：【復修】授業中に示す『本日のキーワード』について納得いくまで復修
授業概要	<p>情報化社会という概念が生まれた頃、情報技術はそのままIT (Information Technology)と呼ばれていたが、現在ではICT (Information and Communication Technology)と表現され、情報技術の役割や内容も大きく変化している。独立行政法人・情報処理推進機構が実施する国家試験ITパスポート試験は、情報化社会を生き抜いていくための情報技術の基礎的知識を測るものである。本科目では、ITパスポート試験の頻出テーマを題材に、「情報社会を生きる社会人としての常識」をレクチャーと演習により身につけていく。</p>					
授業到達目標	<p>情報社会の現状および趨勢を理解し、情報社会における自らのスキルレベルを明確に自覚することができる。 自らの情報スキルレベルを向上させることへのモチベーションを高めることができる。 ITパスポート試験の過去問題に対して60%以上正答することができる。</p>					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<p>「授業への参加意欲」項目の評価は授業出席回数で測ります。 第2～14回授業中にその回の授業内容に応じた小テストを実施し、その点数を単純に積み上げたものを「小テスト、感想文など」項目の評価に用います。 復修時間の目安は2時間です。</p>			
1. 小テスト、感想文など		80 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	<p>納得いくまでの復修【2～14回】 小テスト・ミニツッペーパー【毎回】</p>			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	特定の教科書は使用せず、プリント資料を配布します。					
参考書						
					15	授業全体のまとめ 予復修課題：【予修】本授業の到達目標についての根拠のある自己評価

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スキルアップ講座D【教員養成】 Upskilling Course D (Teacher Training I)		単位数	1		授業内容*	
担当者		田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)				専任		<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>・現職の保健体育科教諭などを招聘し、授業づくりや生徒指導、特別活動の内容などについて講話やグループワーク、模擬授業を実施する。詳細は日程や内容などが決定次第、説明を行う。</p> <p>・夏期および冬期に宿泊型の講座を実施する。詳細は日程や内容などが決定次第、説明を行う。</p>
実務経験のある教員による授業		ナンバリング				2		
授業形式		演習		科目区分 総合共通科目		履修学部		
配当年次		3年生		開講学期 後期集中		スポーツ学部		
授業概要		<p>本科目は、将来、保健体育科教員を志望する学生に対して、夏期および冬期等に、教員採用試験の専門教養（保健体育）試験対策、実技試験対策、面接及び模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。</p>						
授業到達目標		<p>自ら教員採用試験の情報を収集し、その対策を思考することができる。 積極的に学修したり、実技に取り組んだり、仲間と協力したりすることができる。 保健体育科教員の職業を理解し、“良い保体科教員”になろうとする姿勢を身に付ける。</p>						
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】		キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】		本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】		自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		<p>・日程や内容等の詳細は別途、掲示する。 ・夏期と冬期の両講座とも受講して単位認定となる。 ・主に集団討論や場面指導の予復修を行う。予復修の目安は120分とする。</p>				
1. 小テスト、感想文など		%						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7. 総合評価		50 %						
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%		<p>・集団討論や場面指導に対してグループディスカッションを行う。</p>				
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3. 総合評価		50 %						
再評価の実施		する		しない				
教科書								
参考書								

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スキルアップ講座 E【教員養成】 Upskilling Course E (Teacher Training II)		単位数	授業内容*	
担当者	高田 俊也 (TAKADA Toshiya)			1	1	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング				2	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	スポーツ学部	
配当年次	4年生	開講学期	前期集中			
授業概要	本科目は、将来、保健体育科教員を志望する学生に対して、教員採用試験までに、教員採用試験の専門教養(保健体育)試験対策、実技試験対策、面接及び模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。					
授業到達目標	1 自ら教員採用試験の情報を収集し、その対策を思考することができる。 2 積極的に学修したり、実技に取り組んだり、仲間と協力したりすることができる。 3 保健体育科教員の職業を理解し、“良い保体科教師”になろうとする姿勢を身に付ける。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	日程や内容の詳細は別途、アナウンスする。教員採用試験までに開講される講座の70%以上受講、及び一次試験合格により単位認定となる。			
1. 小テスト、感想文など		%	予復修の目安は120分以上とする。主に筆答試験、集団討論や場面指導の予復修を行う。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 総合評価		50 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング 集団討論や場面指導に対してグループディスカッションを行う。			
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3. 総合評価		50 %				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						

授業日程：決定次第、掲示板に掲示する。各自確認すること。

授業内容：筆答試験のための模擬試験、模擬授業、面接、討論指導等を実施する。詳細については、第1回目の授業にて説明をおこなう。

予復修課題：模擬試験の類似問題の予修と間違えた問題の復修  
模擬授業の準備  
面接や討論の反省復修

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座F (マナー・プロトコル検定) Upskilling Course F (The Manners and Protocol Certificate)		単位数	授業内容*	
担当者	落合 弘子 (OCHIAI Hiroko)	澤田 小百合 (SAWADA Sayuri)	1	専任	1 序章：マナーとは何か、キャリアデザインでマナーやプロトコルを学ぶ意義について理解を深める。(澤田) 予復修課題：指定教科書の1頁を記入しておく。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				2 第1章：マナーの歴史と意味、日本の礼儀作法、西洋のマナーの歴史を知ること、現代に伝わる礼儀作法・マナーの意義について理解を深める。(落合) 予復修課題：教科書のマナーと歴史の意味を読み時代背景を調べておく。
授業形式	演習	科目区分 総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3 第2章：国際人としてのプロトコル、国際基準の外交儀礼を知り、他国文化との違いを受け入れ、尊重する心を養うことができるようになる。(落合) 予復修課題：プロトコルの原則、社交の場でのコミュニケーションについて調べておく。
配当年次	3年生	開講学期	前期		4 第3章：社会人に必要なマナー、社会人として好感と信頼を持たれる身だしなみのポイントを知る。また、TP0に応じた服装のマナーについて理解を深める。(澤田) 予復修課題：教科書のチェックシートを記入し自分自身を確認する。
授業概要	「マナー」や「プロトコル」の基本は、「しきたり」や「形式」以前のあり方です。日常生活の中で育む他者への配慮と自分自身を律する心遣いこそがもっとも大切であり、そうした考え方や習慣を身につけておくことで社会人としての人生そのものが豊かで、実りのあるものとなります。本講では正しいマナーを身につけ、「マナー・プロトコル検定試験」3級合格を目指します。担当者は、様々な企業や大学で研修講師、マナープロトコル講師の実績があり、この経験をもとに授業を展開します。				
	マナー・プロトコル検定試験3級の資格を取得(履歴書にも記載できる)することができる。自分の立ち居振る舞いに自信がもてるようになり、人間関係がスムーズに行なえ、コミュニケーション力を高めることができる。マナーを学ぶ事を通して、社会人に求められる知識・技能・態度等を身につけることができる。マナーの歴史を知ることにより、日本文化をより深く理解できる。				
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				
	【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。				
	【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。				
	【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。				
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業内容は、変更されることがあります。卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係、成績評価の方法、再評価の実施、アクティブ・ラーニング、履修における留意事項を含め、初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。			
1. 小テスト、感想文など	%				
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	%				
4. 授業中の発表、討論	%				
5. 授業への参加意欲	%				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%				
7.	%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	%				
2. 論文、まとめのレポートなど	%				
3.	%				
再評価の実施	する	しない			
教科書	NPO法人日本マナー・プロトコル協会編『マナー&プロトコルの基礎知識』				
参考書	改定版「さすが!」といわせる大人のマナー講座				
					11 第8章：「婚」のしきたり、結婚式の基本的なマナーを知り、その場に臨んだときに困らない知識を習得する。(落合) 予復修課題：練習問題を解いておく。
					12 第9章：「葬」のしきたり、葬儀の基本的なマナーを知り、その場に臨んだときに困らない知識を習得する。(落合) 予復修課題：練習問題を解いておく。
					13 第7章「冠」のしきたり、第10章「祭」のしきたり、日本の伝統的な通過儀礼と年中行事の意義を知り、それらのしきたりを継承していく重要性について理解を深める。(落合) 予復修課題：練習問題を解いておく。
					14 マナー基礎の総まとめ、キャリアデザインでのマナーを確実に理解しているか、自分自身の理解度を確認しポイントを振り返る。(落合・澤田) 予復修課題：3級の模擬試験を実際に体験する。
					15 マナー基礎の総まとめ、キャリアデザインでのマナーを確実に理解しているかを検定試験を実施して確認する。マナー・プロトコル3級検定。(落合・澤田) 予復修課題：マナー・プロトコル3級の合格に向けて予修する。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座G【公務員養成】 Upskilling Course G (Public Servant Training I)			単位数	授業内容*		
担当者	岩崎 靖 (IWASAKI Yasushi)			1	1	ガイダンス 予復修課題：次回テーマの学習	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEF3102・ERF3102・SSF3102	2	整数の性質 予復修課題：次回テーマの学習	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	3	代数 不定方程式、比の利用 予復修課題：次回テーマの学習
配当年次	3-4年生	開講学期	前期			4	代数 速度 予復修課題：次回テーマの学習
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員の職種、業務を正しく理解する。</li> <li>公務員になるために必要な知識を習得し、それをアウトプットできる能力を養成する。</li> </ul>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的思考を身につけ、問題解決に実践できる。</li> <li>数的処理能力を身につけ、問題を数値モデル化できる。</li> </ul>						
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
	<p>【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。</p>						
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自、次週のテーマについての予修が必要になります。</li> <li>ガイダンス時に紹介する参考書などを利用し、3時間程度の予修をして講義に参加してください。</li> </ul>				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	事前学習型授業(初回を除き毎回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	小テスト(第8回、第14回)				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	なし					15	まとめのテストと解説
参考書	各学生の志望により異なるため、ガイダンス時に説明する。					15	予復修課題：まとめ問題演習(講義内でプリント配布)

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座H【公務員養成】 Upskilling Course H (Public Servant Training II)				単位数	授業内容*		
担当者	岩崎 靖 (IWASAKI Yasushi)				1	ガイダンス	1	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEF3203・ERF3203・SSF3203	非常勤講師	予復修課題： 次回テーマの学習	2	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	経済学部・スポーツ学部共通	さまざまな方程式	2	
配当年次	3-4年生	開講学期	後期			予復修課題： 次回テーマの学習	3	
授業概要	・前期スキルアップ講座Gの発展的講座として、より高い数的処理能力の養成とともに、公的奉仕者となり得る人間力を養成する。						速度	3
授業到達目標	・数的処理を通じて、高い現場学習能力を身につけることができる。 ・問題に対して、道筋を立て、解決することができる。						予復修課題： 次回テーマの学習	4
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。								
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。								
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。								
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・各自、次週のテーマについての予修が必要になります。 ・ガイダンス時に紹介する参考書などを使い、5時間程度の予修の後、講義に参加してください。					
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 事前学習型授業 (初回を除き毎回)					
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		20 %						
6. 自主的学習 (予習・復習など)		20 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		60 %						
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	なし						11	
参考書	各学生の志望により異なるため、ガイダンス時に説明する。						12	
予復修課題： 次回テーマの学習							13	
予復修課題： 次回テーマの学習							14	
予復修課題： 次回テーマの学習							15	
予復修課題： まとめ問題演習 (講義内でプリント配布)								

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座Ⅰ（健康関連資格） Upskilling Course I (Health Care Certificates I)			単位数	授業内容*	
担当者	樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)		藤崎 道子 (FUJISAKI Michiko)		専任 & 非常勤	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング			
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	スポーツ学部	
配当年次	3年生		開講学期	後期集中		
授業概要	この科目は、健康関連資格のうち、実技系統のGFI (REI, SEI, ADI, AQWI, AQDI, WEI) ・健康運動実践指導者を目指す者に対して、スキルの向上を図るものである。 各資格の実技試験対策、筆記試験対策を行うものである。 なお、現予定ではGFI種目のWEIは別途対応であるが、希望者数しだいで時間数を変動させることとする。 ルーブリックによる成績評価基準を用いる（資格・種目により異なる）。					
	有酸素運動を最適な説明とともに実践できる。 レジスタンス運動を最適な説明とともに実践できる。 ストレッチングを最適な説明とともに実践できる。 すべての健康運動実践に生かせるだけの知識を有する。 健康運動の基礎を最適な説明とともに実践できる。					
	卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。					
	【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。					
	【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
	成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			
	1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	集中講義ゆえ、順番が前後することがある。 日程掲示をよく確認のこと。一部種目は前期より行う可能性がある。また、受講者の希望資格と種目により内容を変更することがある。 全授業終了後単位を希望する者に履修登録を認め、成績評価を行う。 予復修で180分の学修を目安とすること。		
	2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
	1. まとめのテスト		%	資格対策の演習であるのですべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、実技は特に受講生同士の学び合いを重視している。		
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	各種資格用テキストを適宜使用する。購入していない者については、別途指示する。					
	1	GFIの実技試験対策 (藤崎)	REI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	2	GFIの実技試験対策 (藤崎)	REI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	3	GFIの実技試験対策 (藤崎)	REI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	4	GFIの実技試験対策 (藤崎)	SEI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	5	GFIの実技試験対策 (藤崎)	SEI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	6	GFIの実技試験対策 (藤崎)	SEI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	7	GFIの実技試験対策 (藤崎)	AQWI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	8	GFIの実技試験対策 (藤崎)	AQWI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	9	GFIの実技試験対策 (藤崎)	AQDI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	10	GFIの実技試験対策 (藤崎)	AQDI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	11	健康運動実践指導者・GFIの実技試験対策 (藤崎)	健康運動実践指導者・ADI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	12	健康運動実践指導者・GFIの実技試験対策 (藤崎)	健康運動実践指導者・ADI	予復修課題: テキスト・プリント指示通り練習のこと		
	13	GFIの筆記試験対策 (樋口)	共通	予復修課題: 練習問題を与える。テキスト関連部分を熟読のこと		
	14	GFIの筆記試験対策 (樋口)	種目別	予復修課題: 練習問題を与える。テキスト関連部分を熟読のこと		
	15	GFIの筆記試験対策 (樋口)	種目別	予復修課題: 練習問題を与える。テキスト関連部分を熟読のこと		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座J【健康関連資格】 Upskilling Course J (Health Care Certificates II)				単位数	授業内容*	
担当者	樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)				1	1	健康づくり施策概論 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(2章)を熟読しまとめること。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング					2	健康管理概論 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(1章)を熟読しまとめること。
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	ｽﾎｰﾝ学部	3	生活習慣病概論 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(3章)を熟読しまとめること。
配当年次	3-4年生	開講学期	後期			4	運動生理学 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(4章)を熟読しまとめること。
授業概要	この科目は、健康関連資格のうち、認定要件が筆記試験のみである健康運動指導士を目指す者に対して、知識の向上を図るものである。 想定試験問題の作成を課し、討論することもある。					5	機能解剖とバイオメカニクス 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(5章)を熟読しまとめること。
授業到達目標	健康運動指導士認定試験に確実に合格するレベルの実力を身につける。					6	健康づくり運動の理論と実践 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(6・9章)を熟読しまとめること。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。							
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。							
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	健康運動指導士試験合格を念頭においた科目である。取り入れた授業を行うため、受験希望者以外の安易な受講はお奨めしない。				
1. 小テスト、感想文など		%	履修登録および単位認定については、「海外研修」等と同じく、全授業終了後単位を希望する者に履修登録を認め、成績評価を行う。				
2. 中間テスト		%	前期やる気支援(試験対策)受講が望ましい。				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %	予復修で180分の学修を目安とすること。				
4. 授業中の発表、討論		15 %	アクティブ・ラーニング				
5. 授業への参加意欲		15 %	想定試験問題の作成を課し、討論する。				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下巻 南江堂(過年度のものでも可)					11	救急処置 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(10章)を熟読しまとめること。
参考書						12	行動変容の理論と実践 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(13章)を熟読しまとめること。
						13	運動と心の健康増進 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(14章)を熟読しまとめること。
						14	栄養摂取と運動 小テストと解説 予復修課題：テキスト関連部分(15章)を熟読しまとめること。
						15	総括 まとめのテストと解説を行う。個々の弱点を洗い出す 予復修課題：予修:直前ポイント資料確認のこと。復修:弱点強化に努めること。

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座K【AT養成】 Upskilling Course K (AT Training I)				単位数	授業内容*	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)				1	1	AT試験出題部分の確認と模擬問題の作成 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
実務経験のある教員による授業	ナンパリング					2	ATテキストの解説1 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部		3	ATテキストの解説2 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
配当年次	3-4年生	開講学期	前期	スポーツ学部		4	ATテキストの解説3 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
授業概要	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に向けた知識の習得を目指す。					5	ATテキストの解説4 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
授業到達目標	アスレティックトレーナーに必要な基礎知識を習得することができる。					6	ATテキストの解説5 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。						7	ATテキストの解説6 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
【思考力・判断力・表現力】本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。						8	ATテキストの解説7 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。						9	ATテキストの解説8 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
成績評価の方法 (全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレティックトレーナー資格要件科目が単位修得済みであることが望ましい。</li> <li>・アスレティックトレーナー資格試験のための対策講座である。</li> <li>・予復修必須である。</li> </ul>	11	ATテキストの解説10 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
1. 小テスト、感想文など		20 %				12	ATテキストの解説11 テキスト 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
2. 中間テスト		%				13	AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
3. 課題レポートなどの提出物		%					AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
4. 授業中の発表、討論		%					AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
5. 授業への参加意欲		%					AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
7.		%			AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間		
2) 最終到達度の評価					アクティブ・ラーニング 第1・12回の授業で模擬問題を作成する。		
1. まとめのテスト		80 %			14	AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間	
2. 論文、まとめのレポートなど		%			15	AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間	
3.		%				AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間	
再評価の実施	する	しない					
教科書	アスレティックトレーナー試験で指定されている成書						
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スキルアップ講座L【AT養成】 Upskilling Course L (AT Training II)				単位数	授業内容*		
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)				1	専任	1 AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				2		2 AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間	
授業形式	演習	科目区分	総合共通科目	履修学部	スポーツ学部			
配当年次	3-4年生	開講学期	後期					
授業概要	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に向けた知識の習得を目指す。						3	3 AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
授業到達目標	アスレティックトレーナーに必要な基礎知識を習得することができる。						4	4 AT試験出題部分の確認と模擬試験 予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。								
【思考力・判断力・表現力】本学必修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。								
【主体性・協働性】自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。								
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・アスレティックトレーナー資格要件科目および「スキルアップ講座K」が単位修得済みであることが望ましい。					
1. 小テスト、感想文など		20 %	・実技も行なうため、半袖、短パンを常に準備しておくこと。					
2. 中間テスト		%	・アスレティックトレーナー養成のため試験対策講座である。					
3. 課題レポートなどの提出物		%	・予修復修必須である。					
4. 授業中の発表、討論		%	アクティブ・ラーニング					
5. 授業への参加意欲		%	筆記試験対策として模擬試験を行う。					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	実技試験対策としてロールプレイを行う。					
7.		%	(第1回～第15回)					
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		80 %						
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	アスレティックトレーナー試験で指定されている成書							
参考書								
							15	予復修課題： 配付資料、参考書を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:2時間 実技試験対策

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

# 専門教育科目

## 《専門教育科目の教育目標》

### 【知識・技能】

学士（スポーツ学）として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。

### 【思考力・判断力・表現力】

実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。

### 【主体性・協働性】

専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。

## 《卒業に要する単位》

2016～2020年度入学生

履修区分		最低修得単位数		要卒単位数
共通科目		必修8単位	30単位以上	76単位
専攻コース科目	所属コース科目	22単位以上		
	他コース科目 *		22単位以上	
専門演習科目		必修12単位		
スポーツ実技科目		12単位以上		

\* 他コース科目で修得した単位は、専門教育科目区分の修得単位ではあるが、要卒単位数を超えて修得した単位となるので、自由選択科目区分に算入される。

## 《卒業に要する単位》

2015年度以前入学生

履修区分		最低修得単位数		要卒単位数
共通科目		必修6単位	24単位以上	76単位
専攻コース科目	所属コース科目	20単位以上	28単位以上	
	他コース科目			
専門演習科目		必修14単位		
スポーツ実技科目		10単位以上		

# シラバス一覧C 《 専門教育科目 》

2016～2020年度入学生(1)

科目区分・科目名		配当年次・学期	掲載ページ
共通科目	解剖生理学	1年 前	97
	衛生学及び公衆衛生学	1年 前	98
	スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	1年 前	99
	スポーツ指導論	1年 前	100
	スポーツ生理学	1年 後	101
	スポーツバイオメカニクス	1年 後	102
	スポーツ社会学	1年 後	103
	スポーツ心理学	1年 後	104
	スポーツ医学	2年 前	105
	スポーツ栄養学	2年 後	106
	体力トレーニング論	3年 前	107
	発育発達老化論	3年 後	108
	スポーツの歴史と文化	4年 後	109
	スポーツ統計学	3年 前	110
	レクリエーション論	4年 前	111
	トレーニング実習	1年 前・後	112
	体力測定評価法実習	1年 前・後	113
	救急法実習	2年 前・後	114
	テーピング実習	3年 後	115
	運動生理学実験	3年 前	116
	スポーツ動作解析法	3年 前	117
	スポーツクラブのマネジメント	3年 後	118
	スポーツワークショップ	2～4年 集中	
	キャリアアドバンス公務員講座Ⅰ※	3年 前	
	キャリアアドバンス公務員講座Ⅱ※	3年 後	
	キャリアアドバンス教員養成Ⅰ※	3年 後	
	キャリアアドバンス教員養成Ⅱ※	4年 前	
	キャリアアドバンス健康指導者養成Ⅰ※	3年 後	
キャリアアドバンス健康指導者養成Ⅱ※	4年 前		
キャリアアドバンスAT養成Ⅰ※	4年 前		
キャリアアドバンスAT養成Ⅱ※	4年 後		

※2019年度入学生対象科目

科目区分・科目名		配当年次・学期	掲載ページ
専攻コース科目	スポーツ総合コース	スポーツ学概論	1年 前 119
		コーチング各論A	2年 前 120-123
		コーチング各論B	2年 後 124-127
		コーチング実習	3年 前 128
		コーチングシステム論	2年 後 129
		トレーニング計画論	2年 前 130
		スポーツ戦術論	4年 前 131
		スポーツ方法論	3年 前 132
		レジスタンストレーニング実習	2年 前 133
		メンタルトレーニング演習	2年 後 134
		スポーツパフォーマンス測定実習	3年 前 135
		スポーツゲーム分析演習	3年 後 136
		スポーツ栄養指導演習	4年 後 137
		地域スポーツ論	3年 前 138
		障害者とスポーツ	3年 後 139

科目区分・科目名		配当年次・学期	掲載ページ
専攻コース科目	スポーツ教育コース	スポーツ教育概論	1年 後 140
		学校体育のマネジメント	3年 前 141
		学校体育指導演習	3年 前 142
		器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	2年 前 143
		陸上競技指導法	2年 後 144
		水泳指導法	3年 前 145
		球技指導法A	2年 後 146-148
		球技指導法B	3年 後 149-151
		ダンス指導法	3年 前 152
		武道指導法	3年 後 153
		学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)	3年 前 154
		学校保健Ⅱ(小児保健・精神保健を含む。)	3年 後 155
		学校保健指導演習	3年 後 156
		社会体育論	2年 前 157
		ジュニアスポーツ論	3年 前 158
		ジュニアスポーツ指導演習	3年 後 159

# シラバス一覧C 《 専門教育科目 》

2016～2020年度入学生(2)

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ	
専攻 コース 科目	スポーツ トレー ナー コース	アスレティックトレーナー概論	1年 後	160	
		機能解剖学	2年	前	161
		機能解剖学		後	162
		スポーツ傷害論	2年	前	163
		スポーツ傷害論		後	164
		コンディショニング論	2年	前	165
		コンディショニング演習		後	166
		身体機能評価法	3年	後	167
		スポーツ傷害評価法		前	168
		リハビリテーション論	3年	前	169
		アスレティックリハビリテーション論		後	170
		アスレティックリハビリテーション演習	4年	前	171
		スポーツ内科学	3年	後	172
		アスレティックテーピング		前	173
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年	集中	174
		アスレティックトレーニング現場実習		集中	175
		アスレティックトレーニング現場実習		集中	176
		アスレティックトレーニング現場実習		集中	177
アスレティックトレーニング現場実習	集中	178			
アスレティックトレーニング現場実習	集中	179			

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ	
専攻 コース 科目	健康 フィット ネス	介護と福祉のフィットネスプログラム	3年	後	190
		健康栄養指導演習		後	191
		アクアエクササイズ	2年	後	192
		エアロビックエクササイズ	3年	前	193
		健康産業施設実習	3・4年	集中	194

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ	
専攻 コース 科目	スポーツ 政策 コース	スポーツ政策概論	1年	後	195
		スポーツ政策各論	2年	前	196
		スポーツ組織論	2年	前	197
		地域スポーツ政策演習	2年	後	198
		地域スポーツ指導演習	4年	前	/
		生涯スポーツ論	2年	前	199
		生涯学習と社会体育	2年	後	200
		生涯スポーツと社会体育の指導者	3年	前	/
		生涯スポーツと社会体育の計画・立案	3年	後	/
		生涯スポーツと社会体育の経営	3年	後	/
		スポーツ社会教育演習	4年	前	/
		スポーツ社会教育実習	3年	集中	/
		生涯学習支援方法論	3年	前	/
		ボランティア活動と生涯スポーツ	3年	後	/

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ	
専攻 コース 科目	健康 フィット ネス コース	健康フィットネス概論	1年	後	180
		健康づくり運動理論	2年	前	181
		健康づくり運動実技		後	182
		運動器の構造と機能	2年	前	183
		健康医科学論		前	184
		スポーツカウンセリング論	3年	前	185
		運動生理学	2年	後	186
		生活習慣病概論	3年	前	187
		運動負荷試験		前	188
		運動プログラムの管理		後	189

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ	
専攻 コース 科目	演習	スポーツゼミナール	3年	通年	201-256
		卒業研究	4年	通年	257-314

# シラバス一覧 C 《 専 門 教 育 科 目 》

2016～2020年度入学生 (3)

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ
ス ポ ー ツ 実 技 科 目	体操(体づくり運動を含む。)	1年	前・後	315
	器械運動	2年	前・後	316
	陸上競技A	1年	前・後	317
	陸上競技B	2年	前・後	318
	水泳	2年	前・後	319
	バスケットボール	1年	前・後	320
	バレーボール	2年	前・後	321
	サッカー	1年	前・後	322-323
	ハンドボール	3年	前	324
	ラグビー		前	325
	ソフトボール・野球		前・後	326
	テニス		前・後	327
	バドミントン	2年	前・後	328
	ダンス		前・後	329
	剣道		前・後	330
	柔道		前・後	331
	レクリエーション実技	3年	前	332
	エアロビックダンス	2年	後	333
	キャンプ	1-4年	集中	334
	マリンスポーツ	1-4年	集中	335-336
スノースポーツ	1-4年	集中	337	

## 科目順次性を考慮して履修する必要がある科目（2016年度以降入学生用）

特定の科目を履修するにあたり、その科目を受講するのに十分な知識を得ることを目的として、事前に履修し単位修得することを推奨する科目があります。

下記の表の（A）列の科目を履修する前に、それぞれの科目の（B）列の科目を履修し単位修得することを推奨します。

(A)科目順次性を考慮して履修する科目 ←			(B)事前に修得しておくことが望ましい科目		
科目	配当年次		科目	配当年次	
	学年	前・後		学年	前・後
体力トレーニング論	3	前	スポーツ生理学	1	後
健康栄養指導演習	3	後	スポーツ栄養学	2	後
スポーツ栄養指導演習	4	前	スポーツ栄養学	2	後
健康づくり運動実技	2	後	健康づくり運動理論	2	前
運動プログラムの管理	3	後	運動負荷試験	3	前
運動生理学実験	3	前	スポーツ生理学	1	後
			体力測定評価法実習	1	前/後
メンタルトレーニング演習	2	後	スポーツ心理学	1	後
レジスタンストレーニング実習	2	前	トレーニング実習	1	前/後
コーチング各論A	2	前	スポーツ学概論	1	後
コーチング各論B	2	後	スポーツ学概論	1	後
コンディショニング演習	2	後	コンディショニング論	2	前
アスレティックリハビリテーション論	3	後	リハビリテーション論	3	前
アスレティックリハビリテーション演習	4	前	アスレティックリハビリテーション論	3	後

# シラバス一覧 D 《 専 門 教 育 科 目 》

2015年度以前入学生 (1)

科目区分・科目名		配当年次・学期		読替え科目 (シラバス一覧C)参照	掲載 ページ	
共 通 科 目	スポーツ学概論	1年	前	「スポーツ学概論」		
	解剖生理学		前	「解剖生理学」		
	スポーツ生理学		後	「スポーツ生理学」		
	スポーツバイオメカニクス		後	「スポーツバイオメカニクス」		
	スポーツ医学	2年	前	「スポーツ医学」		
	衛生学及び公衆衛生学	1年	前	「衛生学及び公衆衛生学」		
	スポーツ運動学（運動方法学を含む。）		前	「スポーツ運動学（運動方法学を含む。）」		
	スポーツ心理学		後	「スポーツ心理学」		
	発育発達老化論	2年	後	「発育発達老化論」		
	スポーツ指導論	1年	前	「スポーツ指導論」		
	スポーツ栄養学	3年	後	「スポーツ栄養学」		
	体カトレーニング論		前	「体カトレーニング論」		
	スポーツ社会学		後	「スポーツ社会学」		
	スポーツ流体力学		前	閉講		
	スポーツ経営管理学		前	閉講		
	スポーツ史		後	閉講		
	障害者とスポーツ		後	「障害者とスポーツ」		
	スポーツ統計学		前	「スポーツ統計学」		
	スポーツ哲学	4年	前	閉講		
	トレーニング実習	1年	前・後	「トレーニング実習」		
	体力測定評価法実習		前・後	「体力測定評価法実習」		
	救急法実習	2年	前・後	「救急法実習」		
	テーピング・マッサージ実習	3年	前・後	閉講		
運動生理学実験	前		「運動生理学実験」			
スポーツ動作解析法	前		「スポーツ動作解析法」			
専 攻 コ ー ス 科 目	ス ポ ー ツ 教 育 コ ー ス	スポーツ教育概論	1年	後	「スポーツ教育概論」	
		学校体育論	2年	前	閉講	
		学校体育のマネジメント	4年	前	「学校体育のマネジメント」	
		学校保健指導演習	3年	後	「学校保健指導演習」	
		学校体育指導演習		前	「学校体育指導演習」	
		学校保健（学校安全を含む。）		前	「学校保健（学校安全を含む。）」	
		学校保健（小児保健・精神保健を含む。）		後	「学校保健（小児保健・精神保健を含む。）」	
		社会体育論	2年	前	「社会体育論」	

# シラバス一覧 D 《 専門教育科目 》

2015年度以前入学生 (2)

科目区分・科目名		配当年次・学期		読替え科目 (シラバス一覧C)参照	掲載 ページ
スポーツ教育コース	レクリエーション論	4年	前	「レクリエーション論」	
	ジュニアスポーツ論	3年	前	「ジュニアスポーツ論」	
	ジュニアスポーツ指導演習		後	「ジュニアスポーツ指導演習」	
	器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	2年	前	「器械運動指導法(体づくり運動を含む。)」	
	陸上競技指導法		後	「陸上競技指導法」	
	水泳指導法	3年	前	「水泳指導法」	
	球技指導法A	2年	後	「球技指導法A」	
	球技指導法B	3年	後	「球技指導法B」	
	ダンス指導法		前	「ダンス指導法」	
	武道指導法		後	「武道指導法」	
専攻コース科目 コーチングコース	コーチング概論	1年	後	閉講	
	コーチング各論	2年	前・後	「コーチング各論A」「コーチング各論B」	
	コーチング実習	3年	前	「コーチング実習」	
	コーチングシステム論	2年	後	「コーチングシステム論」	
	トレーニング計画論	2年	前	「トレーニング計画論」	
	スポーツ戦術論	3年	前	「スポーツ戦術論」	
	球技論	3年	後	閉講	
	武道論	3年	後	閉講	
	舞踊論	3年	後	閉講	
	レジスタンストレーニング実習	2年	前	「レジスタンストレーニング実習」	
	メンタルトレーニング演習	3年	後	「メンタルトレーニング演習」	
	スポーツトレーニング実験実習	4年	前	「スポーツトレーニング実験実習」	
	スポーツゲーム分析演習	3年	後	「スポーツゲーム分析演習」	
	スポーツ栄養指導演習	3年	後	「スポーツ栄養指導演習」	
	地域スポーツ論	3年	前	「地域スポーツ論」	
	スポーツクラブのマネジメント	3年	後	「スポーツクラブのマネジメント」	
スポーツトレーナーコース	アスレティックトレーナー概論	1年	後	「アスレティックトレーナー概論」	
	機能解剖学	2年	前	「機能解剖学」	
	機能解剖学	2年	後	「機能解剖学」	
	スポーツ傷害論	2年	前	「スポーツ傷害論」	
	スポーツ傷害論	2年	後	「スポーツ傷害論」	
	コンディショニング論	2年	前	「コンディショニング論」	
	コンディショニング演習	2年	後	「コンディショニング演習」	

# シラバス一覧 D 《 専 門 教 育 科 目 》

2015年度以前入学生 (3)

科目区分・科目名		配当年次・学期		読替え科目 (シラバス一覧C) 参照	掲載 ページ
専攻 コース 科目	スポーツ トレー ナー コース	身体機能評価法	2年 後	「身体機能評価法」	
		スポーツ傷害評価法	3年 前	「スポーツ障害評価法」	
		リハビリテーション論	3年 前	「リハビリテーション論」	
		リハビリテーション論	3年 後	閉講	
		アスレティックリハビリテーション論	4年 前	閉講	
		スポーツ内科学	3年 後	「スポーツ内科学」	
		アスレティックテーピング	3年 前	「アスレティックテーピング」	
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年 集中	「アスレティックトレーニング現場実習」	
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年 集中	「アスレティックトレーニング現場実習」	
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年 集中	「アスレティックトレーニング現場実習」	
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年 集中	「アスレティックトレーニング現場実習」	
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年 集中	「アスレティックトレーニング現場実習」	
		アスレティックトレーニング現場実習	3・4年 集中	「アスレティックトレーニング現場実習」	
		健康 フィッ トネ ス コース	健康フィットネス概論	1年 後	「健康フィットネス概論」
	健康づくり運動理論		2年 前	「健康づくり運動理論」	
	健康づくり運動実技		2年 後	「健康づくり運動実技」	
	スポーツカウンセリング論		2年 前	「スポーツカウンセリング論」	
	運動生理学		3年 後	「運動生理学」	
	運動プログラムの管理		3年 後	「運動プログラムの管理」	
	生活習慣病概論		3年 前	「生活習慣病概論」	
	介護予防と運動療法		3年 後	閉講	
	運動負荷試験		3年 前	「運動負荷試験」	
	健康栄養指導演習		3年 後	「健康栄養指導演習」	
	アクアエクササイズ		2年 後	「アクアエクササイズ」	
	福祉レクリエーション実技	3年 後	「福祉レクリエーション実技」		
健康産業施設実習	3・4年 集中	「健康産業施設実習」			
健康運動指導特論	4年 前	閉講			
専 門 演 習 科 目	スポーツ学演習入門A	2年 前	閉講		
	スポーツ学演習入門B	2年 後	閉講		
	スポーツ学演習	3年 前	「スポーツゼミナール」		
	スポーツ学演習	3年 後	「スポーツゼミナール」		
	卒業研究	4年 通年	「卒業研究」		

# シラバス一覧 D 《 専 門 教 育 科 目 》

2015年度以前入学生 (4)

科目区分・科目名		配当年次・学期		読替え科目 (シラバス一覧C)参照	掲載 ページ
ス ポ ー ツ 実 技 科 目	体操(体づくり運動を含む。)	1年	前・後	「体操(体づくり運動を含む。)」	
	器械運動	2年	前・後	「器械運動」	
	陸上競技A	1年	前・後	[陸上競技A]	
	陸上競技B	2年	前・後	「陸上競技B」	
	水泳	2年	前・後	「水泳」	
	バスケットボール	1年	前・後	「バスケットボール」	
	バレーボール	2年	前・後	「バレーボール」	
	サッカー	1年	前・後	「サッカー」	
	ハンドボール	3年	前・後	「ハンドボール」	
	ラグビー	3年	前・後	「ラグビー」	
	ソフトボール・野球	3年	前・後	「ソフトボール・野球」	
	テニス	3年	前・後	「テニス」	
	剣道	2年	前・後	「剣道」	
	柔道	2年	前・後	「柔道」	
	ダンス	2年	前・後	「ダンス」	
	レクリエーション実技	3年	前・後	「レクリエーション実技」	
	エアロビックエクササイズ	2年	前・後	「エアロビックダンス」	
	エアロビックエクササイズ	3年	前	「エアロビックエクササイズ」	
	キャンプ	1-4年	集中	「キャンプ」	
	マリンスポーツ	1-4年	集中	「マリンスポーツ」	
スノースポーツ	1-4年	集中	「スノースポーツ」		

授業科目名 (Subject)		解剖生理学 Human Anatomy and Physiology		単位数	授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		2	1 オリエンテーション、人体の構造と機能 (解剖生理学とは、基礎用語の解説) 授業の概要と到達目標を確認する。人体部位名称と位置・方向を示す用語を理解する。 予復修課題: 配布資料 (人体部位の名称、人体の位置・方向を示す用語)を読み、まとめる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSH1101	2 人体の構造と機能 (細胞) 人体の階層性、細胞の構造と機能について理解する。 予復修課題: 配布資料 (細胞の構造と機能)を読み、まとめる。	
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	
配当年次	1年生	開講学期	前期			
授業概要	解剖学と生理学は、人体の構造と機能を学ぶ学問であり、両者は統合させて理解する必要がある。効率の良いスポーツ活動を行うために、またスポーツ医学関連分野を学ぶために必要な知識を得ることを目標とし、基本的事項を重視しながら幅広い分野にわたり授業を展開する。ただしスポーツ学部であるので、神経系と筋骨格系に特に重きを置く。					
授業到達目標	単純に器官や器官系の名称だけでなく、人間を全体像としてみながら、各器官の働きについて相互関係を理解して説明できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	毎回、資料を配布する。配布資料は、毎回必ず持参すること。			
1. 小テスト、感想文など		10 %	参考書は、図書館に配架されているので、必要に応じて、利用すること。			
2. 中間テスト		%	予復修で180分の学修を目安とする。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	第2回~第14回の講義開始直後に理解度確認のため、小テストを行うのでしっかりと復習をすること。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	とくに指定しない。適宜資料を配布する。					
参考書	奈良信雄著 『エスカパーシク解剖生理学』 同文書院 2008年 他					
11 骨格筋の概念、おもな骨格筋の名称および構造と機能について理解する。		予復修課題: 配布資料 (運動器系の構造と機能 骨格筋)を読み、まとめる。				
12 筋収縮のメカニズムについて理解する。		予復修課題: 配布資料 (運動器系の構造と機能 骨格筋)を読み、まとめる。				
13 神経系の概念、中枢神経系の構造と機能について理解する。		予復修課題: 配布資料 (神経系の構造と機能)を読み、まとめる。				
14 末梢神経系(脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経)について理解する。		予復修課題: 配布資料 (神経系の構造と機能)を読み、まとめる。				
15 人体の構造と機能、各器官系の構造と機能についてまとめる。		予復修課題: すべての配布資料を読み、まとめる。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	衛生学及び公衆衛生学 Hygienics and Public Health				単位数	授業内容**	
担当者	樋口 善之 (HIGUCHI Yoshiyuki)				2	1 オリエンテーション 講義の進め方、履修上の留意事項等を説明する。 予復修課題： シラバスを読んでおくこと	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSH1102	2 疫学概論I 疫学について、過去の事例を紹介し、そのポイントを解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3 疫学概論II 疫学的研究方法として、記述疫学、分析疫学のポイントについて解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
配当年次	1年生	開講学期	前期			4 疫学概論III 疫学に関する講義の総括 予復修課題： 疫学パート全体の復修をし、配付資料をまとめる。	
授業概要	人間と環境（物理的・化学的・生物的・社会的）の相互反応の中に健康と疾病の問題を見だし、その中で解決を図ろうとする現代的な健康施策について、衛生学的・公衆衛生的な見地から貢献の保持・増進について講義する。併せて、疫学的研究方法論についても触れる。						
授業到達目標	衛生学・公衆衛生学に関わる基本理念や用語の理解（健康管理の歴史や予防医学、衛生学、保健統計、地域保健、国際保健、産業保健、学校保健、環境保健）等の内容を理解し、説明することができる。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	シラバスをよく読み、学ぶ目的意識を明確にしておくこと。また、健康課題とは何か、自分の考えを述べるができるよう、主体的に講義内容を捉えて欲しい。 なお、書く時間の予修・復修には各60分以上をあてるようにすること。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 健康課題とその解決方法についてのグループワークを予定している。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		15 %					
5. 授業への参加意欲		15 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		70 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	教科書は指定せず、適宜資料を配付する。						
参考書	国民衛生の動向2019/2020、New予防医学・公衆衛生学、基礎から学ぶ楽しい疫学						
						5 国民衛生の動向I 国民全体の健康水準の評価方法について解説する。 予復修課題： 参考書等を読んで予修し、配付資料を基に復修しておく。	
						6 国民衛生の動向II 前回の講義に引続き、国民全体の健康水準、特に疾病の動向について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						7 国民健康づくり運動の歴史と健康日本21 現在の健康日本21に至るまでの健康づくり施策の経緯について概説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						8 医療計画、二次医療圏、地域包括ケア 地域医療・地域保健に関わる現代的な課題について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						9 地域保健 地域保健について関連法規を含め解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						10 食品保健 食品衛生・食中毒予防および食と健康にかかわる諸制度について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						11 環境保健 大気汚染、とくにPM2.5等の浮遊粒子状物質による健康影響等について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						12 産業保健 産業保健の役割や産業衛生の三管理について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						13 国際保健 国際保健に関わる歴史・取組・今後の課題について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						14 健康の社会的決定要因 ソーシャルキャピタル等の健康の社会的決定要因について解説する。 予復修課題： 前回の内容について配付資料を基に復修しておく。	
						15 まとめ まとめのテストおよびこれまでの講義の統括をする。 予復修課題： これまでの授業の配付資料等を整理し、まとめておく。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ運動学 (運動方法学を含む。)				単位数	授業内容**		
Kinematics						2	1 ガイダンス 1)授業の進め方 2)評価について 3)講義の概要説明 4)受講における注意事項 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)		
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)				専任	2 運動学の領域 スポーツ運動の構造 1)スポーツ運動の構成要素 2)スポーツ運動の概念 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によってスポーツ運動の概念に関する内容を受講時に指示する		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング				SSH1103	3 スポーツ運動の構造 1)スポーツ運動の分類 2)スポーツ運動の基本構造 3)局面構造 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によってスポーツ運動の基本構造に関する内容について受講時に指示する		
授業形式		講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	4 スポーツ運動の構造 1)非循環運動の局面構造 2)循環運動の局面構造 3)運動組み合わせの局面構造 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって局面構造に関する内容について受講時に指示する		
配当年次		1年生	開講学期	前期			5 スポーツ運動の構造 1)運動局面の細分化 2)局面の関係(導入局面と主要局面) 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
授業概要		スポーツにおける技術は、“理想的な運動”と考えることができ、練習を通して基本原則に叶ったものがそれを達成することができる。多くのスポーツ種目において正しい運動(技術)を行うことは、成果をあげるために重要である。スポーツ運動に対する認識を深めるために、スポーツ運動の本質や特性についての理論を統合し指導現場における教育活動及び競技力向上のための理論を学習する。					6 スポーツ運動の構造 1)3局面の関係 2)まとめ(小テスト) 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動の3局面の関係に関する内容について受講時に指示する		
授業到達目標		1. スポーツ運動の構造を理解し、具体的な運動を挙げて分析することができる。 2. スポーツ運動の特性を理解しそれぞれの特性を具体的な方法や動作を表現することができる。 3. スポーツ運動の学習における段階とそれぞれの特徴を理解し説明できる。					7 スポーツ運動の特性 1)運動の先取り 2)運動リズム 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動の先取りまたは運動リズムに関する内容について受講時に指示する		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							8 スポーツ運動の特性 1)運動弾性 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動弾性に関する内容について受講時に指示する		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							9 スポーツ運動の特性 1)運動伝導 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動電動に関する内容について受講時に指示する		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							10 スポーツ運動の特性 1)運動定常性 2)運動正確性 3)運動の大きさ 4)運動の経済性 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							11 スポーツ運動の特性 1)まとめ(小テスト) 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によってスポーツ運動の質的的特性に関する内容について受講時に指示する		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					12 スポーツ運動の学習 1)運動学習における基本的前提条件 2)運動学習の一般原則 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動学習における基本的前提条件に関する内容について受講時に指示する		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考える。積極的に参加し、板書・スライドを写すだけにならないよう努めること。授業時間後の重要箇所の理解度を確認するため復修を行うこと。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。					13 スポーツ運動の学習 1)運動学習の第一段階 2)運動学習の第二段階 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動学習に関する内容について受講時に指示する	
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング					14 スポーツ運動の学習 1)運動学習の第三段階 2)まとめ(小テスト) 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって運動学習に関する内容について受講時に指示する	
1. 小テスト、感想文など		20 %	講義科目であるが、授業中の質疑や受講生同士の意見交換は重要視する。					15 全体のまとめテスト・解説 予復修課題： テスト結果を踏まえ質疑や理解度によって指示する	
2. 中間テスト		%							
3. 課題レポートなどの提出物		%							
4. 授業中の発表、討論		10 %							
5. 授業への参加意欲		%							
6. 自主的学習(予習・復習など)		%							
7.		%							
再評価の実施		する	しない						
教科書		特に指定しない。参考図書は、第1回目の講義で説明します。							
参考書		クルト・マイネル『スポーツ運動学』 大修館書店 1981年初版発行							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ指導論 Theory of Sports Coaching				単位数	授業内容**	
担当者		木寺 英史 (KIDERA Eishi)				2	1 オリエンテーション (授業の進め方の確認・概要)	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング					2 予復修課題: 配布プリント (スポーツとは何か) を読解する。 スポーツとは (スポーツの概念)	
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース		3 予復修課題: 配布プリント (スポーツの概念) を読解する。 スポーツとは (現代スポーツの様相)	
配当年次	1年生	開講学期	前期				4 予復修課題: 配布プリント (現代スポーツの様相) を読解する。 コーチングと指導 (スポーツの一義的目的とは)	
授業概要	本講義では、スポーツ指導およびコーチングのための基礎を学習する。指導やコーチングは、スポーツを理念の明確にすることから始まる。スポーツの概念・現状 (様相) を十分理解し、その上で、指導法・コーチング法の基礎、さらには教育としてのスポーツなどを考究する。						5 予復修課題: 配布プリント (スポーツの勝敗を考える) を読解する。 コーチングの現状と課題 (上達論とコーチング)	
	授業到達目標	スポーツに対する自論を明確に説明できる。 スポーツ指導とコーチングの概念や差異が把握できる。 スポーツ学習についての評価が説明できる。						6 予復修課題: 配布プリント (スポーツにおける上達論とは) を読解する。 スポーツ指導 (競技スポーツ指導とその限界)
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							7 予復修課題: 配布プリント (コーチング) を読解する。 スポーツ指導 (指導者の資質と課題)	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							8 予復修課題: 配布プリント (コーチング) を読解する。 スポーツとモラル (フェアプレーとドーピング)	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							9 予復修課題: 配布プリント (松井選手の連続敬遠を考える) を読解する。 体育とスポーツ (教育としてのスポーツ指導)	
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				10 予復修課題: 配布プリント (コーチング) を読解する。 体育とスポーツ (スポーツと人間形成)	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	自身の専門種目に関する問題意識を持って授業に参加すること。 予復修を最低60分は行い授業のぞむこと。				11 予復修課題: 配布プリント (スポーツと教育) を読解する。 体育とスポーツ (学習指導)	
1. 小テスト、感想文など		%					12 予復修課題: 配布プリント (体育と評価) を読解する。 スポーツと学習評価 (評価の意味・目的)	
2. 中間テスト		%					13 予復修課題: 配布プリント (体育と評価) を読解する。 スポーツと学習評価 (評価の方法)	
3. 課題レポートなどの提出物		%					14 予復修課題: 配布プリント (体育と評価) を読解する。 授業の総括とテスト及び受講レポート作成	
4. 授業中の発表、討論		%					15 予復修課題: 配布プリントを整理する。	
5. 授業への参加意欲		30 %						
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング グループディスカッションを取り入れる。					
1. まとめのテスト		50 %						
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ生理学 Sports Physiology				単位数	授業内容**	
担当者	得居 雅人 (TOKUI Masato)				2	1	授業概要の説明：スポーツ運動の成り立ちについて学び、スポーツ生理学の学問分野とこの授業の内容の概要について知る。 予復修課題：教科書p1～71を読み、授業の全体像を把握する(約1時間)
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSH1201	2	筋収縮とエネルギー供給系1：筋の構造と筋収縮の仕組み、筋収縮のエネルギーについて学ぶ。 予復修課題：教科書p1～6を読み、ノートにまとめる(約1時間)
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3	筋収縮とエネルギー供給系2：筋収縮のエネルギー源とエネルギー供給系の特徴を学ぶ。 予復修課題：教科書p7～11を読み、ノートにまとめる(約1時間)
配当年度	1年生	開講学期	後期			4	筋線維の種類と特徴：筋線維の種類と特徴、およびトレーニングによる変化を学ぶ。 予復修課題：教科書p12～20を読み、ノートにまとめる(約1時間)
授業概要	スポーツ運動は筋収縮の総体として発現し、身体諸器官の滑らかな調節と連携により遂行されている。本講義では、スポーツ運動の調節のための生理的变化やスポーツトレーニングの継続による中・長期的変化について学び、スポーツ運動時の生体の適応システムを総合的に理解する。					5	神経系の役割1：神経系の構造と機能を学ぶ。 予復修課題：教科書p21～26を読み、ノートにまとめる(約1時間)
授業到達目標	本講義で学習するスポーツ運動時の身体の生理的なはたらきや変化、トレーニング効果について記述して説明することが出来る。					6	神経系の役割2：神経系のはたらきによる、運動や筋力発揮の調節の仕組みを学ぶ。 予復修課題：教科書p26～31を読み、ノートにまとめる(約1時間)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7	筋の収縮様式と筋力1：筋の収縮様式とパフォーマンス発揮様式を学ぶ。 予復修課題：教科書p32～36を読み、ノートにまとめる(約1時間)
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8	筋の収縮様式と筋力2：筋のトレーニング効果を学ぶ。 予復修課題：教科書p36～43を読み、ノートにまとめる(約1時間)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9	運動と循環：循環器の構造と運動時のはたらきと、トレーニングによる変化について 予復修課題：教科書p44～50を読み、ノートにまとめる(約1時間)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合			4年間で学ぶスポーツ科学の基礎となる科目です。積極的な学習態度と予修・復修の励行を望みます。			
1. 小テスト、感想文など	%						
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	10 %						
4. 授業中の発表、討論	%						
5. 授業への参加意欲	10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	80 %			授業中にレポート作成を行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど	%						
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書	勝田茂、入門運動生理学・第4版、杏林書院、2015年					11	運動と呼吸2：運動時の酸素摂取動態について学ぶ。 予復修課題：教科書p56～60を読み、ノートにまとめる(約1時間)
参考書						12	運動と呼吸3：有酸素運動と無酸素運動の特徴を学ぶ。 予復修課題：教科書p60～64を読み、ノートにまとめる(約1時間)
						13	運動とホルモン：ホルモンの概要と運動との関係を学ぶ。 予復修課題：教科書p65～75を読み、ノートにまとめる(約1時間)
						14	これまでの講義を総括し、生理的観点から見たスポーツ運動の全体を理解する。 予復修課題：授業全体を振り返り、自分なりの練習問題を作成・解答する。
						15	まとめのテスト・解説。 予復修課題：まとめのテスト・解説。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics				単位数	授業内容**	
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)				2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSH1202		
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース		
配当年次	1年生	開講学期	後期				
授業概要	バイオメカニクスは力学、生理学、解剖学などの基礎知識を活用し、身体運動の仕組みを明らかにしようとする学問である。本講義では基礎となる諸学科の知識の上に身体運動の法則と歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを学び、利用することができるようにする。				1	スポーツバイオメカニクスの概要 講義内容の説明、授業評価の仕方、参考文献の紹介 予復修課題：次週のテーマに関する参考書の該当部分をよく読んでくること。	
授業到達目標	スポーツバイオメカニクスの学問分野における専門用語を理解できる。 身体運動に関わる基礎的な物理法則が理解できる。 歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを説明できる。				2	筋の構造と機能 筋の基本構造とその機能的特性、羽状筋と紡錘状筋の形態的、機能的特徴について 予復修課題：次週までに本日の課題プリントの内容について調べ、解答を作成してくる。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	毎回出される課題プリントの解答を作成し、翌週持参すること。				
1. 小テスト、感想文など		%	プリントについて予復修を30分以上行うこと。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		90 %	ミニッツペーパー[第2~14回]				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	なし						
参考書	スポーツバイオメカニクス入門(杏林書院)、スポーツバイオメカニクス(朝倉書店)				11	跳ぶ 跳躍のメカニズム、弾性エネルギーの蓄積・再利用について 予復修課題：次週までに課題プリント(ジャンプ高の決定要因と最高到達点)の解答を作成してくる。	
					12	泳ぐ 浮力と重力、推進力と抗力について 予復修課題：次週までに課題プリント(浮力の大きさ)の解答を作成してくる。	
					13	投げる、打つ 投打運動のメカニズム、むち動作について 予復修課題：次週までに課題プリント(むち動作、反発係数)の解答を作成してくる。	
					14	飛ぶ 抗力と揚力、ボールの偏向に関わる力について 予復修課題：次週まで課題プリント(ボールの偏向)の解答を作成してくる。	
					15	まとめのテスト 講義の総括 予復修課題：1~14回目までの内容に関する練習問題(プリント)を反復してくる。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ社会学 Sociology of Sport			単位数	授業内容**	
担当者		内田 満 (UCHIDA Mitsuru)		田代 利恵 (TASHIRO Rie)		専任	
実務経験のある教員による授業				ナンパリング		SSH1203	
授業形式		講義		科目区分		共通科目	
配当年次		1年生		開講学期		後期	
コース区分*				全コース			
授業概要		<p>現代社会においてスポーツはめざましい発展を遂げている。一方、スポーツは常に社会との関係において発展し、またこうしたスポーツの繁栄の裏側にはドーピングや体罰など様々な問題が潜んでいる。本講義では、スポーツの歴史的発展をふまえた上で、大きく4つの視点「スポーツと教育」「スポーツと経済」「スポーツと政治」「スポーツと現代社会」を設定し、スポーツと社会の関係、そして現代社会におけるスポーツの役割について考察する。</p>					
授業到達目標		<p>(1) スポーツと社会の関係を理解し、社会学的視座によって批判的に捉えることができる。 (2) スポーツや社会の課題を発見し、その課題を解決する道について論理的に表現することができる</p>					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		・ミニッツペーパーのコメント、数回実施する小レポート、まとめのレポートによって総合的に評価する			
1. 小テスト、感想文など		%		・スポーツのドキュメンタリー番組等を視聴し日頃からスポーツと社会の問題を意識するよう努めること			
2. 中間テスト		%		・予復修を120分程度おこなうこと			
3. 課題レポートなどの提出物		30%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング			
1. まとめテスト		%		・ミニッツペーパー(10回程度実施)			
2. 論文、まとめのレポートなど		60%		・レポート			
3.		%					
再評価の実施		する		しない			
教科書 山田 明 編著『未来を拓くスポーツ社会学』みらい出版、2020年							
参考書							
1		オリエンテーション 講義の概要・進め方・評価方法の説明、スポーツ社会学とは何か 予復修課題：シラバスを確認し、スポーツ社会学について調べる					
2		スポーツとは何か スポーツの歴史、近代スポーツの誕生 予復修課題：スポーツの定義、歴史について調べる					
3		スポーツと教育(1) スポーツの本質と文化としてのスポーツ 予復修課題：スポーツと教育に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
4		スポーツと教育(2) スポーツ指導、体罰の問題 予復修課題：スポーツと教育に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
5		スポーツと教育(3) アスリートのセカンドキャリア 予復修課題：スポーツと教育に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
6		スポーツと経済(1) スポーツアマチュアリズム 予復修課題：スポーツと経済に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
7		スポーツと経済(2) スポーツイベントと経済 予復修課題：スポーツと経済に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
8		スポーツと経済(3) メディアとスポーツ 予復修課題：スポーツと経済に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
9		スポーツと政治(1) ポスト・グローバリゼーション 予復修課題：スポーツと政治に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
10		スポーツと政治(2) オリンピックとナショナリズム 予復修課題：スポーツと政治に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
11		スポーツと政治(3) 地域スポーツにおける官民連携 予復修課題：スポーツと政治に関する文献等を読み、自分なりの考えをまとめる					
12		スポーツと現代社会(1) エクストリームスポーツ 予復修課題：エクストリームスポーツについて調べる					
13		スポーツと現代社会(2) 障がい者スポーツ 予復修課題：アダプテッドスポーツについて調べる					
14		スポーツと現代社会(3) エンデュランススポーツ 予復修課題：エンデュランススポーツについて調べる					
15		総括、まとめのレポート提出 予復修課題：これまでの授業の内容を振り返り、まとめる					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ心理学 Sports Psychology		単位数	授業内容**	
担当者		伊藤 友記 (ITO Tomoki)		2	1	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2	
授業形式		講義	科目区分	SSH1204	3	
配当年度		1年生	共通科目	全コース	4	
授業概要		開講学期	後期	コース区分*	5	
授業到達目標					6	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合			12	
1. 小テスト、感想文など		10 %			13	
2. 中間テスト		%			14	
3. 課題レポートなどの提出物		10 %			15	
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 講義ノート		20 %				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		50 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		杉原隆『新版 運動指導の心理学 運動学習とモチベーションからの接近』大修館書店、2008				
参考書		日本スポーツ心理学会編『最新 スポーツ心理学 その軌跡と展望』大修館書店、2004				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ医学 Sports Medicine			単位数	授業内容**	
担当者		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuuta)			2	1 ガイダンス (授業の進め方、スケジュールの確認、課題レポートの説明など) 予復修課題: 本授業のシラバスを読む	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSH2101	2 スポーツと頭頸部外傷 学修内容: 脳震盪や慢性硬膜下血腫、頸部外傷などの頭頸部外傷について学ぶ 予復修課題: 頭頸部外傷についての資料を予復修する	
授業形式		講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	
配当年次		2年生	開講学期	前期			
授業概要	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の知識は、捻挫、打撲、骨折、脱臼、靭帯損傷などの整形外科的疾患、呼吸循環器系疾患、感染症など多岐に渡る。本科目ではこれら分野に関する概要を説明すると共に、スポーツ現場で求められるスポーツ指導者としての適切な対応について学習する。						
	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ外傷・障害について説明することができる。スポーツ指導者が知っておくべきスポーツに関連した内科的疾患について説明することができる。スポーツ活動に関連して発生するスポーツ外傷・障害や内科的疾患に対する適切な対応を説明することができる。						
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業における配布資料やノートの整理など適切に行うこと				
1. 小テスト、感想文など		%	各授業ごとに1時間を目安に予復を行うこと				
2. 中間テスト		%	課題レポートを全て提出すること				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		80 %	課題レポートの詳細は授業の中で説明する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書 スポーツ医学【内科】 (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ) 化学同人 (2014/4/9)							
						11 スポーツと健康 学修内容: 糖尿病や高血圧などスポーツに関連する内科的疾患について学ぶ 予復修課題: 高齢者のスポーツ医学や内科的疾患についての資料を予復修する	
						12 スポーツと感染症 学修内容: 風邪症候群やインフルエンザなど感染症について学ぶ 予復修課題: 感染症についての資料を予復修する	
						13 スポーツと熱中症 (レポート) 学修内容: 暑熱環境で発生する熱中症について学ぶ 予復修課題: 熱中症についての資料を予復修する	
						14 講義内容の総復修 予復修課題: これまでの講義内容について復修する。	
						15 まとめのテスト 全講義で学修した内容の確認テストを行う 予復修課題: これまでの講義内容について復修する。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ栄養学 Sports Nutrition			単位数	授業内容**	
担当者		樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)			2	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSH2201		
授業形式		講義	科目区分	共通科目	全コース		
配当年次		2年生	開講学期	後期	コース区分*		
授業概要		健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。本授業は栄養学の基礎知識を修得した後、スポーツ活動時の栄養補給・食事計画など実践的な知識を修得することを目標とする。運動時の水分補給に適した飲料、サプリメント等については、実物例を挙げながら授業を行う。					
授業到達目標		健康を保つための栄養補給を理解して実践できる。 科学的根拠に基づき、競技特性やトレーニングスケジュールに適した栄養補給を実践できる。 水分補給について正しい知識を得て、実践できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	過去の配布資料も毎回必ず持参すること。 電卓準備のこと。 予復修で180分の学修を目安とすること。				
1. 小テスト、感想文など		25 %					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		5 %					
5. 授業への参加意欲		5 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	ミニッツペーパー(第4回)、小テスト(第4・6回)を行う。配当年次からも知識主体となるが、食事アセスメントの実践記入(第12回)も行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		毎回プリントを配布する。					
参考書		健康運動指導士養成講習会テキスト 下巻 南江堂(過年度のものでも可)					
1		オリエンテーション、栄養とは何か 栄養と栄養素の意味、五大栄養素の働き、我が国の問題点 予復修課題: 我が国の栄養上の問題点を確認のこと。					
2		糖質の栄養 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題: 糖質についてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。					
3		脂質の栄養 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題: 脂質についてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。					
4		タンパク質の栄養 食べ物としての消化と生体内代謝、小テスト、ミニッツペーパー 予復修課題: タンパク質についてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。					
5		ビタミンの栄養 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題: ビタミンについてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。					
6		ミネラルの栄養 食べ物としての消化と生体内代謝、小テスト 予復修課題: ミネラルについてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。					
7		消化と吸収の機構 解剖生理学的内容から三大栄養素の消化吸収まで 予復修課題: 解剖生理学の内容に照らして予復修のこと。参考書15-2					
8		食生活と健康運動 生活習慣病予防のために 予復修課題: 生活習慣病について予修のこと。配布Power Point資料を復修のこと。					
9		身体活動量の定量法とその実際(1) 要因加算法、計算演習 予復修課題: 身体活動量の定量法について予修のこと。配布プリントの演習問題を復修のこと。					
10		身体活動量の定量法とその実際(2) 呼気分析法の計算方法、計算演習 予復修課題: 該当ライフステージを予修のこと。演習内容を文章で書けるように復修のこと。					
11		栄養・食事アセスメント(1) マネジメントとは何か、アセスメントとは何か 予復修課題: 定義を確認のこと。栄養ケア・マネジメント、スポーツ栄養マネジメントについて調べる。					
12		栄養・食事アセスメント(2) 食事調査法、食事アセスメントの実践記入演習 予復修課題: 各調査法の特徴を確認のこと。					
13		スポーツ選手の栄養・食事計画と献立 エネルギー量・タンパク質量を中心に 予復修課題: 食事摂取基準について予修のこと。講義内容を文章で書けるように復修のこと。					
14		運動時の水分補給・塩分補給、サプリメント 水分補給の実例、サプリメントの実例 予復修課題: 夏場の水分補給について予修のこと。講義内容を文章で書けるように復修のこと。					
15		総まとめ まとめのテストと解説を行う 予復修課題: 対策をしてテストに臨むこと。テストに関する質問は質問日を待たず即刻解決のこと。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		体力トレーニング論 Physical Training Theory		単位数	授業内容**		
担当者		小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)		2	1 ガイダンス (授業内容および進め方について) トレーニングの目的 予復修課題: 講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 体力とは 体力の分類, 測定分析方法 予復修課題: 講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認		
授業形式		講義	科目区分	共通科目	SSH3101	3 トレーニングの準備 トレーニングを実践するにあたって 予復修課題: 講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認	
配当年次		3年生	開講学期	前期	コース区分*	全コース	4 トレーニング理論と方法 トレーニングの種類・原則 予復修課題: 講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
授業概要		本講義では一般的体力の向上を目指した、体力トレーニングの基礎を学ぶ。身体の機能や特徴に関する知識をふまえて、トレーニング科学の理解を深めること、さらに実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する際に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。					5 トレーニングの種類 筋力と筋量増量のトレーニング条件と効果 予復修課題: 講義内容を説明できるようまとめる
授業到達目標		体力を分類することができる。 各種トレーニングの特徴や身体の適応の効果について説明することができる。 トレーニングを実践するために運動処方方法について説明することができる。 対象の年代の違いによるトレーニング方法や効果の差異を具体的に説明することができる。					6 トレーニングの種類 筋パワーと筋持久力トレーニング条件と効果 予復修課題: 講義内容を説明できるようまとめる
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツ生理学、解剖生理学を修得しておくことが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		%	各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。				
2. 中間テスト		30 %					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			理解度や状況に応じて内容を変更することがある。				
			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		20 %	課題学習 第7回目 第14回目				
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %	プレゼンテーション				
3.		%	ディスカッション				
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書 高松薫 『体力トレーニング論』大修館書店 2019年							
			11 発育発達期のプログラム プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジのプログラム、骨年齢とパワーの発達 予復修課題: 発育期のトレーニングについて説明できるように復修する				
			12 加齢とトレーニング 高齢者のトレーナビリティー 予復修課題: 高齢者のトレーニングの観点、内容を説明できるように復修する				
			13 トレーニング計画と実践 ピリオダイゼーション (期分け) について 予復修課題: 目的に応じたトレーニングを計画できるように復修する				
			14 課題レポート作成【思考力等】 予復修課題: 授業で学んだ内容を関連付けて説明できるように復修する				
			15 まとめのテストおよび解説【知識】 予復修課題: 授業で学んだ内容をすべて説明できるようにまとめる				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		授業内容**	
<b>発育発達老化論</b> <b>Growth, Development, and Aging</b>		単位数	2
担当者		非常勤講師	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング SSH3201	
授業形式	講義	科目区分	共通科目
配当年次	3年生	開講学期	後期
授業概要 スポーツ活動の広がり、スポーツ指導における対象者の多様化を伴っている。本講義は、この多様化した対象者に対してスポーツ・運動指導上の重要な点、優れたスポーツ指導者の資質として身につけなければならない内容について講義する。発育発達期では年齢段階に応じた身体諸機能の特性、スポーツ活動（運動）が子どもの心身に与える種々の影響について講義する。		コース区分*	全コース
授業到達目標	形態の発育について説明することができる。 筋の発育、筋力の発達について説明することができる。 パワーの発達について説明することができる。 発育期の身体的特徴とケガの関係について説明することができる。 中高年の体力の衰えを説明することができる。		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)			
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。			
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	体力トレーニング論を修得しておくことが望ましい。 各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。	
1. 小テスト、感想文など	%		
2. 中間テスト	30 %		
3. 課題レポートなどの提出物	20 %		
4. 授業中の発表、討論	%		
5. 授業への参加意欲	20 %		
6. 自主的学習(予習・復習など)	%		
7.	%		
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング	
1. まとめのテスト	30 %	課題学習	
2. 論文、まとめのレポートなど	%	【7回目、14回目】	
3.	%		
再評価の実施	する	しない	
教科書			
参考書			
1	発育発達期の身体的特徴と体力(1) 形態の発育、発育の区分 予復修課題：形態の発育とその区分について説明できるよう復修する	2	発育発達期の身体的特徴と体力(2) 筋の発育の特徴、筋力・持久力の発達 予復修課題：筋の発育、筋力・持久力の発達について説明できるように復修する
3	発育期の運動発達(1) 神経・筋コントロール機能の発達 予復修課題：神経・筋機能の発達の特徴、順序を説明できるように復修する	4	発育期の運動発達(2) 運動技能の発達 予復修課題：走、跳、投技能の発達の特徴と順序について説明できるように復修する
5	発育期の運動プログラム(1) 児童期の発育と運動プログラム 予復修課題：児童期における適切な運動プログラムを説明できるよう復修する	6	発育期の運動プログラム(1) 中学校期、高校期の発育と運動プログラム 予復修課題：中学校期、高校期における適切な運動プログラムを説明できるように復修する
7	中間レポート作成【思考力等】 6週目までの授業内容に関する課題作成 予復修課題：ここまでの内容を関連付けて説明できるように復修する	8	中間テスト【知識】 6週目までの授業内容に関するテスト 予復修課題：ここまでの内容(知識面)をすべて説明できるように復修する
9	発育期のスポーツ傷害 発育期の身体的特徴と障害の関係 予復修課題：発育期の障害発生のメカニズムを説明できるように復修する	10	中高年の身体的特徴と体力(1) 加齢による身体諸機能の変化 予復修課題：加齢による身体諸機能の変化を説明できるように復修する
11	中高年の身体的特徴と体力(2) 中高年のトレーナビリティ 予復修課題：中高年の体力の維持・増進のためのプログラムを説明できるように復修する	12	発育期の心理的特性(1) 幼児期、児童期の心理的発育 予復修課題：幼児期、児童期の心理的発育の特性について説明できるように復修する
13	発育期の心理的特性(2) 運動有能感、運動無力感 予復修課題：運動有能感、無力感と運動経験の関係について説明できるように復修する	14	後半レポート作成【思考力等】 9週目以降の内容に関する課題作成 予復修課題：9週目以降の内容を関連付けて説明できるように復修する
15	後半テスト【知識】 9週目以降の授業内容に関する課題作成 予復修課題：9週目以降の内容(知識面)をすべて説明できるようにまとめる		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツの歴史と文化 Sports History & Culture			単位数	授業内容**	
担当者		萩原 悟一 (HAGIWARA Goichi)			2	1 オリエンテーション 授業内容、評価方法の説明 予復修課題：シラバスの読み込み	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			SSH4101	2 近代スポーツの成立過程 1 スポーツの意味概念の理解・前近代のスポーツの概要 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修	
授業形式		講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	
配当年次		4年生	開講学期	後期			
授業概要		現代社会における様々なスポーツ事象の課題・問題点を日本及び海外のスポーツの歴史と文化を知ることによって正しく導き出し、これらの課題解決の方法を模索できるようにすることを授業の目的とする。そのため、授業では、まず、近代スポーツの起源とその成立過程を知る。次に近代オリンピック、プロフェッショナルスポーツ、スポーツ用品産業、学校体育、スポーツ政策などの領域における歴史と特徴を学ぶ。				3 近代スポーツの成立過程 2 サッカー、ラグビー、水泳などの成立 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修	
授業到達目標		体育・スポーツの文化的価値とは何かについて説明できる 体育・スポーツの歴史と文化を具体的に説明できる 体育・スポーツの歴史と文化に関する課題を見つけることができる				4 近代スポーツの成立過程 3 クーベルタンのスポーツ・教育思想と近代オリンピック大会 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					5 スポーツと文化・歴史(1) スポーツによる社会変化 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					6 スポーツと文化・歴史(2) スポーツによる政策 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					7 スポーツと文化・歴史(3) スポーツ・社会問題 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	シラバスの内容は授業の進行具合で変更する場合がある。 グループディスカッションには積極的に参加すること。				
1. 小テスト、感想文など		10 %					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	グループワークを適宜実施する				
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		特に使用しない					
参考書		適宜指示する					
		8 現代のスポーツ 1 スポーツ産業の歴史・文化 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		9 現代のスポーツ 2 スポーツ用品・機器の進化の歴史 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		10 現代のスポーツ 3 オリンピックの変遷(スポンサースポーツへの変革) 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		11 現代のスポーツ 4 スポーツメディアの歴史 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		12 現代のスポーツ 5 スポーツ施設の歴史 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		13 現代のスポーツ 6 スポーツサービスの歴史(プロ、大学スポーツ) 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		14 現代のスポーツ 7 これからのスポーツ産業の未来 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					
		15 スポーツと文化・歴史の今後 授業で行った内容をハイライトでまとめる 予復修課題：1時間程度の授業プリントの予修・復修					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ統計学 Introduction to Sports Statistics				単位数	授業内容**		
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)				2	1 スポーツ統計学の概要について 統計学の中の「スポーツ統計学」について知る。 予復修課題：各人の競技における「スポーツ統計学」について調べてまとめる。(4時間)		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSH3102	2 統計学の基本関数を用いることで生じる矛盾 総和・平均・最大値・最小値・中央値は「単純計算で求めるものではない」ことを知る。 予復修課題：分布・外れ値・誤差について調べてまとめておく。(3時間)		
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3 統計学における数学の基礎 シグマ・インテグラルについて学び直し、類似と相違、そして使い分けを理解する。 予復修課題：離散量と連続量の取り扱い方の違いについて調べてまとめておく。(4時間)		
配当年次	3年生	開講学期	前期			4 身長と体重の関係から何がわかるのか 2種類の測定値から分かる関連性について学ぶ(その1) 予復修課題：散布図と相関係数について調べてまとめておく。(3時間)		
授業概要	統計学は小学校の算数以来、身近なところにある学問領域のひとつである。発育発達や公衆衛生等、単なる事象の認識だけでなく統計学を土台として現象理解を求められる分野は多い。競技やトレーニングにおいて、日々の結果(の集合体)がどういう特性を持っているのかを理解する上でも統計学を身につけておくことは大切となってくる。 本講義では小・中・高で学んだ統計学を基にして、スポーツにおける統計がどういう意味をもたらすのかを理解し、それを活用できるようになることを目的とする。							
	授業到達目標	1)スポーツ・体育で取り扱うデータの統計処理ができる。 2)目的に応じた統計グラフの選定ができる。 3)Excelを利用して統計解析ができる。 4)統計データの有意性を判断できる。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	統計学は数式を多く利用するので、その数式の意味するところを理解する必要がある。またその数式を手計算で解いていたら膨大な時間がかかるので計算機(パソコン：表計算ソフト)を用いることになる。表計算ソフトを自在に操ることができるようになることも必須となる。					
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 講義中に行う全ての課題を「表計算ソフト」を用いて実際に計算してみる。手計算で解いた時と、表計算ソフトの関数を用いて計算した時に同じ解が得られることも確認すること。					
2. 中間テスト		20 %						
3. 課題レポートなどの提出物		30 %						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		40 %						
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	スポーツ統計学概論、その他図書館にある統計学関連の書籍							
参考書								
	11		12		13		14	
	15		16		17		18	
	19		20		21		22	
	23		24		25		26	
	27		28		29		30	
	31		32		33		34	
	35		36		37		38	
	39		40		41		42	
	43		44		45		46	
	47		48		49		50	
	51		52		53		54	
	55		56		57		58	
	59		60		61		62	
	63		64		65		66	
	67		68		69		70	
	71		72		73		74	
	75		76		77		78	
	79		80		81		82	
	83		84		85		86	
	87		88		89		90	
	91		92		93		94	
	95		96		97		98	
	99		100		101		102	
	103		104		105		106	
	107		108		109		110	
	111		112		113		114	
	115		116		117		118	
	119		120		121		122	
	123		124		125		126	
	127		128		129		130	
	131		132		133		134	
	135		136		137		138	
	139		140		141		142	
	143		144		145		146	
	147		148		149		150	
	151		152		153		154	
	155		156		157		158	
	159		160		161		162	
	163		164		165		166	
	167		168		169		170	
	171		172		173		174	
	175		176		177		178	
	179		180		181		182	
	183		184		185		186	
	187		188		189		190	
	191		192		193		194	
	195		196		197		198	
	199		200		201		202	
	203		204		205		206	
	207		208		209		210	
	211		212		213		214	
	215		216		217		218	
	219		220		221		222	
	223		224		225		226	
	227		228		229		230	
	231		232		233		234	
	235		236		237		238	
	239		240		241		242	
	243		244		245		246	
	247		248		249		250	
	251		252		253		254	
	255		256		257		258	
	259		260		261		262	
	263		264		265		266	
	267		268		269		270	
	271		272		273		274	
	275		276		277		278	
	279		280		281		282	
	283		284		285		286	
	287		288		289		290	
	291		292		293		294	
	295		296		297		298	
	299		300		301		302	
	303		304		305		306	
	307		308		309		310	
	311		312		313		314	
	315		316		317		318	
	319		320		321		322	
	323		324		325		326	
	327		328		329		330	
	331		332		333		334	
	335		336		337		338	
	339		340		341		342	
	343		344		345		346	
	347		348		349		350	
	351		352		353		354	
	355		356		357		358	
	359		360		361		362	
	363		364		365		366	
	367		368		369		370	
	371		372		373		374	
	375		376		377		378	
	379		380		381		382	
	383		384		385		386	
	387		388		389		390	
	391		392		393		394	
	395		396		397		398	
	399		400		401		402	
	403		404		405		406	
	407		408		409		410	
	411		412		413		414	
	415		416		417		418	
	419		420		421		422	
	423		424		425		426	
	427		428		429		430	
	431		432		433		434	
	435		436		437		438	
	439		440		441		442	
	443		444		445		446	
	447		448		449		450	
	451		452		453		454	
	455		456		457		458	
	459		460		461		462	
	463		464		465		466	
	467		468		469		470	
	471		472		473		474	
	475		476		477		478	
	479		480		481		482	
	483		484		485		486	
	487		488		489		490	
	491		492		493		494	
	495		496		497		498	
	499		500		501		502	
	503		504		505		506	
	507		508		509		510	
	511		512		513		514	
	515		516		517		518	
	519		520		521		522	
	523		524		525		526	
	527		528		529		530	
	531		532		533		534	
	535		536		537		538	
	539		540		541		542	
	543		544		545		546	
	547		548		549		550	
	551		552		553		554	
	555		556		557		558	
	559		560		561		562	
	563		564		565		566	
	567		568		569		570	
	571		572		573		574	
	575		576		577		578	
	579		580		581		582	
	583		584		585		586	
	587		588		589		590	
	591		592		593		594	
	595		596		597		598	
	599		600		601		602	
	603		604		605		606	
	607		608		609		610	
	611		612		613		614	
	615		616		617		618	
	619		620		621		622	
	623		624		625		626	
	627		628		629		630	
	631		632		633		634	
	635		636		637		638	
	639		640		641		642	
	643		644		645		646	
	647		648		649		650	
	651		652		653		654	
	655		656		657		658	
	659		660		661		662	
	663		664		665		666	
	667		668		669		670	
	671		672		673		674	
	675		676		677		678	
	679		680		681		682	
	683		684		685		686	
	687		688		689		690	
	691		692		693		694	
	695		696		697		698	
	699		700		701		702	
	703		704		705		706	
	707		708		709		710	
	711		712		713		714	
	715		716		717		718	
	719		720		721		722	
	723		724		725		726	

授業科目名 (Subject)	レクリエーション論 Theory of Recreation				単位数	授業内容**	
担当者	花田 道子 (HANADA Michiko)				2	1 ガイダンス 講義の概要や進め方、成績評価の方法などについて説明する。 予復修課題： 授業概要等をしっかりと読んでくること。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSH4102	2 レクリエーションとは レクリエーション概念の意味や歴史、社会的意義の変遷について理解を深める。 予復修課題： レクリエーションの言葉の語源について調べてくること。	
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3 レクリエーションと現代社会 現代においてレクリエーションが求められる社会背景について理解を深める。 予復修課題： 余暇について調べてくること。	
配当年次	4年生	開講学期	前期			4 レクリエーションと現代社会 少子高齢化の進む日本社会におけるレクリエーションのあり方 予復修課題： 超高齢社会にレクリエーションはどのような役割を果たすことができるか？	
授業概要	「レクリエーションとは何か」という問いを起点に、レクリエーションの概念およびその現代における意義と課題について理解を図る。自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成や、レクリエーション教室を企画・報告するなどの実習を交えつつ、「行なう」と「支える」の両面の立場から、レクリエーション活動の意味について説明する。					5 レクリエーションと現代社会 まちづくりや地域活性化に向けたレクリエーションの活用 予復修課題： 各自治体で展開されているスポーツ振興について調べてくること。	
授業到達目標	レクリエーションが現代社会において、そして自分たちにとってどのような意味を持つのかを説明できる。 自分がこれからの人生でどのようにレクリエーション活動を行なっていくのかを考え、計画することができる。 レクリエーション支援者の立場と役割について理解し、自身が支援者となった場合の姿勢や心構えを述べるることができる。					6 ライフサイクルとアイデンティティ理論について エリクソンのアイデンティティ論とレクリエーションの関係 予復修課題： アイデンティティとは何か？調べてくること。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	成績は授業参加の様子、講義毎の小レポート、論述形式の最終試験によって総合的に評価する。				
1. 小テスト、感想文など		30 %	講義内容および成績評価方法について、履修人数や講義の進度など、状況に応じて変更が生じる可能性がある。変更が生じた場合には適宜、UNIVERSAL PASSPORTで指示する。				
2. 中間テスト		%	各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなう				
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング				
4. 授業中の発表、討論		%	グループディスカッション [ 第2回、第7回、第8回 ] グループワーク [ 第9回、第10回、第11回、第12回 ] 模擬授業 [ 第13回、第14回 ]				
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		40 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	なし 必要に応じて適宜指示あるいは資料を配布する。						
参考書	日本レクリエーション協会, 2007, 『レクリエーション支援の基礎』						
						15 講義のまとめ 内容の総括および現代におけるレクリエーションの意義の確認 予復修課題： 現代におけるレクリエーションの意義について復修してくること。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	トレーニング実習 Practice of Resistance Training				単位数	授業内容**			
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		福本 隆男 (FUKUMOTO Takao)		1	1	ガイダンス (授業内容, 評価方法の説明) ウォーミングアップ・クールダウン 予復修課題: ウォーミングアップの重要性について (予復修時間: 1時間程度)		
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		SSH1105	2	各種トレーニングマシンの取り扱い方法について, 体組成測定 予復修課題: マシンを用いたエクササイズの特長について (予復修時間: 1時間程度)		
授業形式	実習	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3	各種トレーニングマシンを用いた1RMの推定 1RMに基づいたトレーニングプログラムの作成 予復修課題: 各種エクササイズの方法について (予復修時間: 1時間程度)		
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期			4	フリーウェイト: ハングクリーン 予復修課題: フリーウェイトの特長について (予復修時間: 1時間程度)		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種トレーニングマシンやフリーウェイト (特に, ハイクリーン, デッドリフト, スクワット) について, 正しい基本動作の修得および注意点の理解を高める.</li> <li>各種エクササイズの主働筋を理解し, 自分自身のトレーニング目標 (筋量向上, 筋力向上, 筋持久力向上) に対して, 各エクササイズの最大挙上重量 (1RM) に基づいたトレーニングプログラムを作成し, 実施する.</li> </ul>					5	フリーウェイト: ハイクリーン 予復修課題: ハイクリーンの方法, 注意点について (予復修時間: 1時間程度)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる.</li> <li>各種トレーニングマシンを用いたエクササイズを正しい方法で行える.</li> <li>各種フリーウェイトを正しいエクササイズ方法で行える. (特に, ハイクリーン, デッドリフト, スクワット)</li> <li>各種エクササイズの注意点と主働筋を理解できる.</li> </ul>					6	フリーウェイト: デッドリフト 予復修課題: デッドリフトの方法, 注意点について (予復修時間: 1時間程度)		
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)									
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ, 総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し, 専門知識と技能を身につけている.						7	予復修課題: スクワットの方法, 注意点について (予復修時間: 1時間程度)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養, および専門分野の知識・技能を用いて, 職業人として適切な企画・計画力, 的確な判断力を有し, それらを実践できる力を身につけている. また, 礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ, 地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている.						8	中間テスト: ハイクリーン 体組成測定 予復修課題: これまでのトレーニング方法についての振り返り (予復修時間: 1時間程度)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として, 自らを律し, 主体的に物事を考え, 自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている. また, 地域や社会の一員として, 自ら進んで他者との協働を通じ, 積極的にボランティア活動等を実践し, 社会貢献できる力を身につけている.						9	フリーウェイト: ベンチプレス 予復修課題: ベンチプレスの方法, 注意点について (予復修時間: 1時間程度)		
成績評価の方法 (全体で100%)					履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>単なる授業への出席ではなく, 積極的な参加を評価する (出席点はなく, 参加点)</li> <li>授業は, トレーニングウェア, 室内シューズで参加する (初回から). 実技に不必要なもの (ピアス, ネックレス等) は所持しない.</li> <li>最終到達度は, 実技テスト等 (40点), 口頭試問 (10点) とする. 実技テストで最低設定重量を挙上できない場合, 失格とする.</li> </ul>					11	静的レジスタンストレーニング 予復修課題: 静的レジスタンストレーニングの方法, 注意点について (予復修時間: 1時間程度)
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング					12	サーキットトレーニング テスト種目の振り返り 予復修課題: サークットトレーニングの方法, 注意点について (予復修時間: 1時間程度)
1. まとめのテスト		50 %	自身の目的に応じたトレーニングプログラムを作成し, それに沿ったトレーニングを行い, 効果の評価を行う.					13	最終テスト: ハイクリーン 体組成測定, 各種トレーニングマシンを用いた1RMの推定 予復修課題: これまでのトレーニング方法についての振り返り (予復修時間: 1時間程度)
2. 論文, まとめのレポートなど		%						14	最終テスト: フリーウェイトより1種目 体組成測定, 各種トレーニングマシンを用いた1RMの推定 予復修課題: これまでのトレーニング方法についての振り返り (予復修時間: 1時間程度)
3.		%						15	最終テスト: 口頭試問 体組成測定, 各種トレーニングマシンを用いた1RMの推定 予復修課題: トレーニング効果の評価 (予復修時間: 1時間程度)
再評価の実施	する	しない							
教科書									
参考書	篠田邦彦ほか, 『NSCA決定版 ストレngth&コンディショニング』, ブックハウスHD, 2018								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので, 授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		体力測定評価法実習 Measurement & Assessment for the Physical Fitness			単位数	授業内容**	
担当者		森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito) 得居 雅人 (TOKUI Masato)		1	1 体力測定評価法実習の概要		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSH1106	2 予復修課題：シラバスの確認, 体力とは何かを考える 講義：体力と運動能力(構成要素)・体力構成要素の測定法について		
授業形式	実習	科目区分	共通科目	コース区分*	3 予復修課題：体力を構成する要素について 実習：フィールドテスト		
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期		4 予復修課題：屋外での体力測定方法について 実習：フィールドテスト		
授業概要	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習ではスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力及び健康生活に必要な体力の測定技法を修得することを目的とする。また得られたデータを統計学的に処理し、体力を客観的に評価する方法を学ぶ。						
	授業到達目標 体力とはなにかを説明できる。 体力測定(機能・形態)を測定することの意義が説明できる。 各年代に応じた各種体力(機能測定・形態計測)を測定できる。 測定したデータを客観的な指標を用いて評価できる。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業への単なる“出席”ではなく、“参加”を評価対象とする。				
1. 小テスト、感想文など		%	予復修の課題について、1回の授業につき				
2. 中間テスト		10 %	予修として30分程度、復修として30分程度、				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %	合計60分を目安に、各自で学習を行うこと。				
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	演習において、各種測定を効率よく、かつ正確に測定できる方法についてグループで意見交換して工夫する。授業全体を通して、「体力とは何か」自身の考えをまとめる。(第14回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	別途、指示する						
参考書	別途、指示する						
			5 予復修課題：本授業を通して、「体力とはなにか」を再考する				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		救急法実習 First Aid and CPR		単位数	授業内容**		
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)	迫田 真輔 (SAKODA Shinsuke)		専任 & 非常勤	1	【ガイダンス】 実習の概要と注意事項、評価方法 【スポーツ現場における救急法】 スポーツ現場における救急法の特徴 予復修課題： 事前に教科書p8-11を読んでおく	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング		SSH2102	2	【スポーツ外傷の処置】 RICE処置の理論と実際 予復修課題： 事前に教科書p12-22		
授業形式	実習	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3	【傷のあるスポーツ外傷の処置】 創の種類と対処法 予復修課題： 事前に教科書p24-50
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期			4	【固定法】 三角巾、弾性包帯、シーネ等を用いた固定法と松葉杖歩行 予復修課題： 事前に教科書p51-59
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。また、医師による授業回がある。救急法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的問題に焦点を当てその対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用方法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについての講義を受ける。						
授業到達目標	スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことができる。						
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実習に適した服装および靴で授業に臨むこと。ドクター担当分の授業については、通常の間割とは別に実施する。詳細については別途、掲示するので各自で確認すること。(各授業における予復修時間の目安：4時間)				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	2~4および7~11回目の授業では救急場面を想定した実践学習を行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	また、5回目の授業内容をもとに自身の考えをレポートにまとめることとする。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナーテキスト 救急処置						
参考書							
					11	【頭部外傷】 脳震盪の評価と管理 予復修課題： 事前に教科書p83-97	
					12	【内科的疾患に対する救急処置】 熱射障害、寒冷障害などへの対処法 予復修課題： 事前に教科書p101-115	
					13	【内科的疾患に対する救急処置】 風邪症候群やインフルエンザの病態と対処法 予復修課題： 事前に教科書p101-115	
					14	全授業の振り返りと復修 予復修課題： 13回目までの授業内容を復修し、必要に応じて質問項目をまとめておく	
					15	まとめのテストと解説 予復修課題： 14回目までの授業内容を復修しておく	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		テーピング実習 Basic Taping Laboratory			単位数	授業内容**	
担当者		佐藤 孝二 (SATO Koji)			1	1 ガイダンス 予復修課題：なし	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			SSH3202		2
授業形式	実習	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース		2
配当年次	3年生	開講学期	後期				2
授業概要	本講義では、スポーツ現場で多用されているテーピングの有効性について解説し、実際にテーピングの実習を行うことでテーピング「する側」「される側」の両者について体感する。						3
	本講義では、テーピングの有効性について理解するとともに、それに伴う弊害についても理解を深めながら実習を行う。						3
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						3
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業で利用するテーピングは事前に各自で準備をすること。詳細は1回目の授業で説明をする。				11
1. 小テスト、感想文など		%	実習に適した服装及び靴(動きやすい服装)で授業に臨むこと。				12
2. 中間テスト		30 %	各授業ごとに1時間を目安に予復修を行い、実際に現場で実施していただくことを望みます。				13
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング				14
4. 授業中の発表、討論		%	該当部位のテーピング実施後、学生が自らの実施内容について発表し、討議する。				14
5. 授業への参加意欲		20 %					15
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					15
7.		%					15
2) 最終到達度の評価						14	
1. まとめのテスト		50 %					14
2. 論文、まとめのレポートなど		%					14
3.		%					14
再評価の実施	する	しない					15
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 予防とコンディショニング (財)日本体育協会						15
参考書							15
						予復修課題： テスト勉強	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		運動生理学実験 Experiment of Exercise Physiology				単位数	授業内容**	
担当者		森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)				1	1 運動生理学実験の概要	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング					2 予復修課題： シラバスの確認, スポーツ生理学(1年次)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
授業形式		実験	科目区分	共通科目	コース区分*	SSH3103	2 予復修課題： 解剖生理学(循環器, 自律神経)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
配当年次		3年生	開講学期	前期			2 安静時指標の測定① (心拍数, 血圧, 自律神経)	
授業概要		効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習では健康生活に必要な体力, およびスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力の測定技法を修得することを目的とする。また実験方法に関する留意点についても学び, より正確な実験データの収集を行う。					3 予復修課題： 体力測定評価法実習(体組成)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
授業到達目標		①安静および各種作業に各種生理的指標を測定することの意義が説明できる。 ②各種生理的指標の測定により体力レベルの評価ができる。 ③各種生理的指標の測定により運動強度の評価ができる。 ④実験で得られたデータを処理し, レポートにまとめることができる。					3 運動時の心拍数測定	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]							4 予復修課題： スポーツ生理学(運動と循環)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ, 総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し, 専門知識と技能を身につけている。				○	5 心拍数を用いた運動強度の評価	
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養, および専門分野の知識・技能を用いて, 職業人として適切な企画・計画力, 的確な判断力を有し, それらを実践できる力を身につけている。また, 礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ, 地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				◎	5 予復修課題： スポーツ生理学(運動と循環)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として, 自らを律し, 主体的に物事を考え, 自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また, 地域や社会の一員として, 自ら進んで他者との協働を通じ, 積極的にボランティア活動等を実践し, 社会貢献できる力を身につけている。				○	6 各種作業時の酸素摂取量測定 (1) ・確認課題①	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					7 予復修課題： スポーツ生理学(運動と循環, 運動と呼吸)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業は身体活動を伴うので, 運動をできる服装と体育館用シューズを必ず用意すること。				7 最大酸素摂取量の測定 (1)	
1. 小テスト, 感想文など		%					8 予復修課題： スポーツ生理学(運動と循環, 運動と呼吸)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
2. 中間テスト		%					9 最大酸素摂取量の測定 (2) ・運動時の心電図測定	
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					9 予復修課題： スポーツ生理学(運動と循環, 運動と呼吸)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
4. 授業中の発表, 討論		%					10 無酸素性パワーの測定・確認課題②	
5. 授業への参加意欲		20 %					10 予復修課題： スポーツ生理学(運動とエネルギー代謝)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					11 筋力・筋パワーの測定	
7.		%					11 予復修課題： スポーツ生理学(運動とエネルギー代謝)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					12 実験方法について・確認課題③	
1. まとめのテスト		%	実験時, 機器の正確・丁寧な操作, 適切な実験計画の立案と実施をグループ内で絶えず意見交換しながら実施する。				12 予復修課題： 体力測定評価法実習(体力測定の注意点)の復修 (予復修時間:1時間程度)	
2. 論文, まとめのレポートなど		50 %					13 実験①	
3.		%					13 予復修課題： 実験データの整理 (予復修時間:1時間程度)	
再評価の実施		する	しない	○				
教科書		別途, 指示する					14 実験②	
参考書							14 予復修課題： 実験データの整理 (予復修時間:1時間程度)	
							15 授業のまとめ・最終確認課題	
							15 予復修課題： 実験データのまとめとこれまでの授業の復修 (予復修時間:1時間程度)	

\*コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので, 授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ動作解析法 Motion analysis of sports ezercise				単位数	授業内容**	
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)				1	オリエンテーション 1 講義概要の説明、班分け 予復修課題： 事前配布資料をよく読んで次週に授業に臨むこと。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSH3104	2 二次元動作解析の原理 二次元動作解析の原理の説明、前年度データの閲覧 予復修課題： 次週のプリントを事前に読み、骨のランドマークについて理解しておくこと。	
授業形式	実習	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3 動作解析の準備 マーカーの貼付、撮影エリアの設定、ビデオカメラの使用法 予復修課題： 次週のプリントを事前に読み、撮影方法を確認しておくこと。	
配当年次	3年生	開講学期	前期			4 歩行課題の撮影 速度の異なる2種類の歩行のビデオ撮影（速い歩行、遅い歩行） 予復修課題： 次週のプリントを事前に読み、映像解析ソフトの使い方を予修しておくこと。	
授業概要	身体運動における熟練や練習成果を客観的に分析することがスポーツ指導では重要である。本実習ではスポーツ動作の撮影を行い、身体各部の座標化を行ったのち、「動き」を定量化して、自らが設定したテーマに関する比較結果に関する発表を行うことができるようにする。						5 映像の取り込みとデジタイズ(1) 映像解析ソフトウェアの使い方 予復修課題： 次週のプリントを事前に読み、映像解析ソフトの使い方を予修しておくこと。
	授業到達目標 平面的な運動を対象とした二次元動作解析の原理を理解できる。ビデオ撮影、座標化、データ分析といった動作解析の手順を理解し、実践することができる。データ分析の結果を図表に示し、そのメカニズムを説明することができる。						6 映像の取り込みとデジタイズ(2) 速い歩行と遅い歩行の映像の座標化 予復修課題： 次週のプリントを事前に読み、データ分析法について予修しておくこと。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本演習はスポーツバイオメカニクスの応用的実習であることから、スポーツバイオメカニクスの単位を修得済みであることが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		%	プリントについて予復修を30分以上行うこと。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		50 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	グループワーク[第3~14回]				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	実践学習[第3~14回]				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	なし						
参考書							
						11 自由課題の映像撮影 2種類の比較すべき試行を撮影 予復修課題： データ解析に用いる動作局面、評価指標を決定してくこと。	
						12 デジタイズ 自由課題動作の座標化 予復修課題： デジタイズが授業内で終わらなかった場合は、次週までに完了させておくこと。	
						13 データ分析 自由課題動作のデータ分析 予復修課題： データ分析が授業内で終わらなかった場合は、次週までに完了させておくこと。	
						14 レポート作成準備 レポート作成の準備、資料収集(グラフ、写真、スティックピクチャ等) 予復修課題： レポート課題2を作成してくこと。	
						15 レポートの提出 レポートの提出と内容確認 予復修課題： レポートの内容不備があった場合、修正して再提出を行うこと。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツクラブのマネジメント Sports Club Management				単位数	授業内容**	
担当者	高橋 八十弥 (TAKAHASHI Yasomi)		内田 満 (UCHIDA Mitsuru)		専任 & 非常勤	オリエンテーション 1 地域のスポーツを取り巻く環境と総合型地域スポーツクラブ育成の背景 予復修課題：自分自身の子供の頃の運動習慣や中・高等学校での部活についてノートにまとめる。	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		SSH3203	2 総合型地域スポーツクラブの特徴について 予復修課題：スポーツ基本法の概要について調べてノートにまとめる。	
授業形式	講義	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース	3 総合型地域スポーツクラブの組織マネジメントについて ビジョンとミッション並びに組織運営のマネジメント 予復修課題：Universal Passport に掲載の関連資料で予復修を実施すること	
配当年次	3年生	開講学期	後期			4 クラブ運営に必要なスタッフについて スタッフの役割分担とスポーツボランティアのマネジメント 予復修課題：1回目から4回目についての課題レポートを提出	
授業概要	総合型地域スポーツクラブ等の指導者は、単に競技選手の技術や体力を向上させるだけでなくクラブの運営や各種プログラムの企画等のマネジメント能力も大変重要です。本授業ではスポーツクラブでの実務経験を授業に活かして総合型地域スポーツクラブ等の育成に関する社会背景や国のスポーツ政策やクラブの事業特性や戦略等を具体的に説明します。また、クラブのヒト・モノ・カネ・情報を活かした経営戦略等のマネジメントの基礎知識を理解することにより地域のスポーツ振興並びに地域の活性化を目指します。					5 活動拠点の確保について(実務経験・市町村の健康スポーツ施設の運営等について) 学校施設・公共スポーツ施設を拠点とした活動(P P P、指定管理者制度等について) 予復修課題：Universal Passport に掲載の関連資料で予復修を実施すること	
授業到達目標	総合型地域スポーツクラブのマネジメントに関する基礎知識を修得する事により、実際のクラブ運営を实践できる基礎的能力を獲得し、地域の人々の体力づくり、健康づくりや生き甲斐づくりへの貢献や生涯スポーツ振興を通じて地域の活性化に寄与できることをを目標とする。					6 活動拠点の確保について 公共施設・企業施設を拠点とした活動とクラブハウスの必要性と確保について 予復修課題：1回目から6回目までの重要箇所をピックアップしてまとめ、小テストに備える。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	1 課題レポートは全て提出すること		11 スポーツクラブの事業について プロスポーツの事例(ヨーロッパ) 予復修課題：ヨーロッパのスポーツ状況を調べノートにまとめること。			
1. 小テスト、感想文など	20 %	2 授業中の質問には積極的に発言すること		12 スポーツクラブの事業特性 外側、内側ステークホルダーとの関係 予復修課題：Universal Passport に掲載の関連資料で予復修を実施すること			
2. 中間テスト	%	3 約1時間の予復修を望みます。		13 スポーツファイナンスの特性 ファイナンス重視の背景とスポーツファイナンスの特性と課題 予復修課題：スポーツクラブ育成の阻害要因と促進要因について調べてノートにまとめること			
3. 課題レポートなどの提出物	20 %			14 これからの総合型地域スポーツクラブについて 予復修課題：これまでの課題レポートや小テストの内容を再度見直しをすること。			
4. 授業中の発表、討論	10 %			15 講義の総括 予復修課題：各授業の重要ポイントをノートにまとめ総復修を実施すること。			
5. 授業への参加意欲	10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	40 %	毎回、LITE(レビュー、クイック等)を実施。					
2. 論文、まとめのレポートなど	%	レポート(第4回、第10回)					
3.	%	小テスト&ミニッツペーパー(第7回)					
再評価の実施	する	しない	グループワーク(第8回)				
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	公認アシスタントマネージャー養成テキスト、スポーツ指導者養成テキスト等						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツワークショップ【高齢社会の世代間交流】				単位数	授業内容**		
	Sport Workshop				2			
担当者	青山 優子 (AOYAMA Yuuko)				専任			
実務経験のある教員による授業	ナンバリング				SSH2301			
授業形式	演習	科目区分	共通科目	コース区分*	全コース			
配当年次	2-4年生	開講学期	前期集中					
授業概要	<p>少子高齢社会に突入した今日、人々が安定した生活を送るには「健康」をキーワードとして、世代間が交流を図り、互いに理解し助け合うことはその礎となります。</p> <p>そこで本科目においては、健康長寿社会の構築に向けて北九州市で40年の活動実績がある団体「高齢社会をよくする北九州女性の会」の協力を得て、高齢者の生活や健康問題などに直接触れながら、本校学生の資質を最大限に生かして課題解決にあたります。</p> <p>講座は学内での講義と学外での実習から構成されます。</p>						1	オリエンテーション（講義） 本講座の内容や評価方法さらに学外での演習マナーについて理解する 予復修課題：少子高齢社会について調べる（レポート提出）
	授業到達目標	<p>①少子高齢社会について学び、世代間の交流が重要であることを理解できる。</p> <p>②様々なシチュエーションにおいて、個別に健康課題について考えることができる。</p> <p>③運動普及や支援については常に積極的に受け止め、望ましい実践ができる。</p> <p>④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。</p> <p>⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。</p>						2
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						3	高齢者の健康課題について（講義と演習） 高齢者の健康課題について学び、持ち寄った運動方法を実践する 予復修課題：学んだ運動方法について実践指導ができるようにする	
【知識・技能】 学士（スポーツ学）として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						○	4	「高齢社会をよくする北九州女性の会」について（代表：富安兆子氏講義） 当団体の活動内容について学ぶ 予復修課題：当団体の活動を十分理解する
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						◎	5	学外での実践（1）—高齢者通所施設（デイサービス）における高齢者との交流— 予復修課題：感想および今後の課題について記録する
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						◎	6	学外での実践（2）—高齢者入所施設（軽費老人センター）における高齢者との交流— 予復修課題：感想および今後の課題について記録する
成績評価の方法(全体で100%)						7	今後の活動計画を立てる（講義と演習） 予復修課題：学外実習に向けて十分な準備をする	
履修における留意事項						8	学外での実践（3）—運動普及実践— 身体計測・血圧測定・心拍数測定・体力測定・軽運動（タオルを用いた運動）の実施 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する	
1) 授業到達目標への到達努力の評価						9	学外での実践（4）—運動普及実践— 血圧測定・心拍数測定・椅子着座の運動・立位の運動・パートナーの運動実践 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する	
1. 小テスト、感想文など 20 %						主に実践活動であるため、指示された事前準備（予復修を含む）は決して怠らないこと。グループ活動が多くなるため、誰とでも積極的にコミュニケーションを取れる姿勢で参加すること。	10	学外での実践（5）—運動普及実践— 血圧測定・心拍数測定・椅子着座の運動・立位の運動・パートナー及びグループの運動実践 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する
2. 中間テスト %							11	学外での実践（6）—運動普及実践— 血圧測定・心拍数測定・椅子着座の運動・立位の運動・パートナー及びグループの運動実践 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する
3. 課題レポートなどの提出物 %							12	学外での実践（7）—運動普及実践— 血圧測定・心拍数測定・椅子に着座しての運動及び立位の運動実践 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する
4. 授業中の発表、討論 20 %							13	学外での実践（8）—運動普及実践— 身体計測・血圧測定・心拍数測定・体力測定・運動の実施 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する
5. 授業への参加意欲 20 %							14	学外での実践（9）反省会（振り返り） 「高齢社会をよくする北九州女性の会」代表者との振り返り 予復修課題：実施内容及び今後の課題を記録して、次回の準備を十分する
6. 自主的学習(予習・復習など) 20 %							15	まとめ プレゼンテーション 講座を振り返りプレゼンテーションを実施する。 予復修課題：プレゼンテーションの準備を十分する
7. %								
2) 最終到達度の評価						アクティブラーニング		
1. まとめのテスト %						授業の殆どがアクティブラーニングであり、その都度フィードバックを行う。さらにアクティブラーニングの内容については設定したもの以外に、受講者の希望を取り入れる。		
2. 論文、まとめのレポートなど 20 %								
3. %								
再評価の実施	する	しない	○					
教科書	後日明記する							
参考書	後日明記する							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツワークショップ【幼児・児童期の身体発達を探る】			単位数	授業内容**	
Sport Workshop					2	1 オリエンテーション（講義） 本講座の内容や評価方法さらに学外での演習マナーについて理解する 予復修課題：乳幼児期の身体の発育発達の特徴について調べる(レポート提出)	
担当者		青山 優子 (AOYAMA Yuuko)			専任	2 乳幼児期の発育発達について（講義） 心と体の発育発達について学ぶ 予復修課題：児童期の身体の発育発達の特徴について調べる(レポート提出)	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			SSH2301	3 児童期の発育発達について（講義） 心と体の発育発達について学ぶ 予復修課題：訪問する現場の情報を集める(ホームページ参照などして)	
授業形式		演習	科目区分	共通科目	コース区分*	4 保育所・幼稚園・小学校現場でのオリエンテーション（演習） 実践現場の様子を理解する 予復修課題：測定法について十分復修しておく	
配当年次		2-4年生	開講学期	前期集中		5 学外での実践（1）体力・運動能力の測定 予復修課題：記録を整理する	
授業概要		スポーツ教育を学びスポーツを柱に教員を志すものにとって、人の発育発達について十分理解を深め、発達の側面から様々な手だてを構築できることが望ましいと考えます。そこで本科目においては、心身の発達の基礎が形成される乳幼児～児童期までの身体発達の向上に向けた有効的な活動内容や具体的支援について、子どもの「主体性」「発達の側面」などキーワードとした運動遊びの実践から学びます。その為に保育所・幼稚園・小学校にて「遊び」を実践し、さらに体力運動能力を測定してこの時期の身体発達についての理解を深めます。					6 学外での実践（2）体力・運動能力の測定 生活習慣の調査 予復修課題：記録を整理する
授業到達目標		①乳幼児期から児童期までの発育発達について学び、「遊び」の重要性を理解できる。 ②それぞれの発達段階に適した「運動遊び」を学び、個別に指導ができる。 ③体力・運動能力を測定し、結果を読みとり課題に向けて望ましい指導実践ができる。 ④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。 ⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。					7 学外での実践（3）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					○	8 学外での実践（4）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					◎	9 学外での実践（5）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					◎	10 学外での実践（6）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する	
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	主に実践活動であるため、指示された事前準備(予復修を含む)は決して怠らないこと。実践の対象は子どもであることから、常に笑顔で対応することが望ましい。よって、自らの体調を十分管理しベストコンディションで実践に望むこと。幼児教育・児童教育に特に関心の深い者が履修することが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		20 %					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	授業の殆どがアクティブラーニングであり、その都度フィードバックを行う。さらにアクティブラーニングの内容については設定したもの以外に、受講者の希望を取り入れる。				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない	○			
教科書		後日明記する					
参考書		後日明記する					
		11 学外での実践（7）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する					12 学外での実践（8）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する
		12 学外での実践（8）—「運動遊び」の実践— 予復修課題：子どもの様子や特に気づいたことについて記録する					13 学外での実践（9）体力・運動能力の測定 予復修課題：測定記録を整理する
		13 学外での実践（9）体力・運動能力の測定 予復修課題：測定記録を整理する					14 報告書の作成 子どもの体力・運動能力・生活習慣についての報告書を作成する 予復修課題：作成した測定結果(図または表)から考察を深めておく
		14 報告書の作成 子どもの体力・運動能力・生活習慣についての報告書を作成する 予復修課題：実践現場へ報告書を提出する					15 報告書の作成 子どもの体力・運動能力・生活習慣についての報告書を作成する 予復修課題：実践現場へ報告書を提出する

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ学概論 Introduction to Sports			単位数	授業内容**	
担当者	船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)	森 誠護 (MORI Seigo)		2	1	授業オリエンテーション(授業内容および進め方について) スポーツとは? 予復修課題: 自身の専門競技についてのイメージをまとめる
	小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)			専任	2	スポーツの変遷と役割 スポーツとは? 体育とは? 予復修課題: スポーツに関する文献を読む
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		SSJ1101		3	競技スポーツの始まり オリンピックやワールドカップの歴史と背景 予復修課題: スポーツに関する文献を読む
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	4	スポーツの技術と動作 予復修課題: 各自専門競技のスポーツ動作について調べてくる
配当年次	1年生	開講学期	前期	スポーツ総合	5	スポーツの技術と動作 予復修課題: 各自専門競技のスポーツ動作について調べてくる
授業概要	本講義ではパフォーマンス向上を目指した、スポーツ科学の基礎を学ぶ。スポーツとは何か、選手の立場、指導者の立場、観客の立場に立ち、各々具体的な内容を幅広くとりあげる。さらに、解剖学、体力学、スポーツ動作学の基礎的な知識をふまえ、将来スポーツに携わる人材として必要な知見を身につける。				6	トレーニングの理論と方法 予復修課題: 各自専門競技のトレーニングについて調べてくる
授業到達目標	○スポーツパフォーマンス向上に必要な原則を理解している。 ○スポーツ指導者、コーチとして必要な知識を身につけている。 ○スポーツの社会的役割および教育的役割を理解している。				7	トレーニングの理論と方法 予復修課題: 各自専門競技のトレーニングについて調べてくる
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					8	トレーニングの理論と方法 対象者別のトレーニング時の留意点 予復修課題: 発育発達に沿ったトレーニングの原則を調べてくる
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					9	指導計画の立案 予復修課題: 自分のトレーニング計画を作成する
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					10	コーチの役割 予復修課題: コーチとは何かを考え、その考えをまとめる
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					11	スポーツと医科学 予復修課題: スポーツを支える医科学サポートについて理解する
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			12	スポーツと医科学 予復修課題: スポーツを支える医科学サポートについて理解する
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	・講義で学んだ知識を実践に活用する意識を持ち、授業に臨むこと ・各授業毎に60分程度の予復修をおこなうこと ・学生の理解状況に応じて、内容や進度を変更することがある。			13	スポーツを取り巻く環境 予復修課題: スポーツを取り巻く環境について理解し、考える
1. 小テスト、感想文など	10 %				14	スポーツの今後と課題 予復修課題: まとめのテストの対策を行う
2. 中間テスト	%				15	まとめのテスト・解説 予復修課題: まとめのテストを整理する
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	10 %					
5. 授業への参加意欲	10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	50 %	・ミニレポート				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	・グループディスカッション				
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	授業時に指示					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 A Coaching Materials A			単位数	授業内容**	
担当者	川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)			専任	1	ガイダンス 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 講義の概要説明コーチについて (総論) 予復修課題: 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング			SSJ2101	2	コーチの心得 1) コーチングフィロソフィー 2) 取り組むべき事柄 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽ	総合	
配当年次	2年生	開講学期	前期				
授業概要	球技(ボールゲーム)の体系化とバスケットボールのコーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。バスケットボールの特性、基本的な攻撃・防御の方法について学習し、その上で段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく。また、様々な具体的なバスケットボールの戦術を検証する。				3	コーチの心得 1) コーチのやっではない事柄 2) 指導方法 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
授業到達目標	1. コーチの心得を理解する 2. バスケットボールの基本的な技術・戦術や攻撃方法・防御方法を理解し、戦術の目的を分析することができる。 3. バスケットボールのコーチングにおける基本的な事項(チームの管理・練習計画・練習方法等)を理解し、具体的な計画や方法を考えることができる。				4	バスケットボールの理解 1) バスケットボールの特性 2) バスケットボールの競争目的 3) 攻撃・防御の目的 4) 攻撃・防御の二面性 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に自らの意見を発言し他の受講生との情報交換に努めること。 授業時間後には重要箇所の理解度を確保するため、復習を行うこと。 また、疑問点は質問し、早期の解決を図る。 1日1時間の予修、復修時間を確保すること				
1. 小テスト、感想文など		30 %					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		40 %	毎講義にて小テストを実施し、授業の振り返りを行なう。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
15	ゲームにおけるコーチング 1) ゲームにおけるリスクマネジメント 全体のまとめ 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する						
15	ゲームにおけるコーチング 1) ゲームにおけるリスクマネジメント 全体のまとめ 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	コーチング各論 A Coaching Materials A				単位数	授業内容**	
担当者	後藤 平太 (GOTO Heita)				2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ2101		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*			
配当年次	2年生	開講学期	前期	コース区分*	3	総合	
授業概要	サッカーのコーチに必要な要素を学習し、サッカーの試合で用いる多種の戦術や試合中に選手が行う運動量や運動強度に関する知識を習得する。さらに、試合の分析結果を基に、長期的・短期的な練習計画を作成し、実行するための授業を展開する。				3	オリエンテーション 15回の授業内容や評価方法についての説明を行う 予復修課題： 特になし	
授業到達目標	1. コーチに必要な資質やコミュニケーションの方法を理解する 2. サッカーの戦術的知識を習得する 3. 長期、中期、短期の指導計画を作成することができる 4. 試合の分析結果を基に目標を設定し、練習計画を作成することができる				4	名コーチの性格や資質 名コーチは、それぞれ多様な性格や資質を持ち合わせていることについて講義する 予復修課題： 復修：講義内容を基に問題を10題作成する	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業ごとに1時間程度の予復修を行うことを望む。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		40 %	グループディスカッション(第2-4、7-9回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	調査学習(第11回)				
3.		%	プレゼンテーション(第12-14回)				
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
15 講義全体のまとめ まとめテストの実施と講義の総括 予復修課題： 予修：まとめテストに備え、全講義の復修を行う							
7 サッカーの戦術(1) サッカーの戦術の決定や変更を行うにあたって考慮しないといけない項目など 予復修課題： 復修：講義内容を基に問題を10題作成する							
8 サッカーの戦術(2) サッカーの戦術の決定や変更を行うにあたって考慮しないといけない項目など 予復修課題： 復修：講義内容を基に問題を10題作成する							
9 サッカーのシステム 4-4-2、4-3-3や3-5-2フォーメーションについて説明を行う 予復修課題： 復修：講義内容を基に問題を10題作成する							
10 外部講師の講演 プロサッカークラブの指導者に仕事内容や日々の生活についての講話を聴く 予復修課題： 復修：感想文を作成し、提出する							
11 試合の分析とプレゼン作成 試合映像を見て分析を行い、それを基にプレゼンを作成する 予復修課題： 復修：発表用スライドの作成と発表の練習							
12 試合分析と練習計画の作成および発表(1) 1人か2人組で発表を行う 予復修課題： 復修：発表用スライドの作成と発表の練習							
13 試合分析と練習計画の作成および発表(2) 1人か2人組で発表を行う 予復修課題： 復修：発表用スライドの作成と発表の練習							
14 試合分析と練習計画の作成および発表(3) 1人か2人組で発表を行う 予復修課題： 復修：発表用スライドの作成と発表の練習							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 A Coaching Materials A		単位数	授業内容**	
担当者	疋田 晃久 (HIKITA Akihisa)			2	1 オリエンテーション (シラバスの確認・本科目の目標、内容、流れ、ルール、評価方法について) 予復修課題：シラバスの内容を熟読しておくこと。60分	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング			専任	2 スポーツ学概論の復習とコーチングの考え方 (スポーツ学概論の復習とコーチの心得について) 予復修課題：コーチングとティーチングの違いを調べておくこと。60分	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ2101	3 スポーツ学概論の復習とコーチングの考え方 (スポーツ学概論の復習とコーチの心得について) 予復修課題：スポーツ学概論で学んだことを復習しておくこと。60分	
配当年次	2年生	開講学期	前期	コース区分*	4 コーチングを行う上でのメンタルの考え方 (コーチングは人と人のコミュニケーション。コーチングの心を考える) 予復修課題：コミュニケーションスキルについて、重要なポイントを調べておくこと。60分	
授業概要	スポーツ学概論で学習した内容を基礎として、陸上競技の種目の特性に応じた具体的な指導方法やコーチングのあり方を学習する。また、これまでの研究で明らかにされてきた知見を概観し、基礎的な知識を身に付ける。 その基礎的な知識をもとに、具体的なコーチング計画の立案方法を身に付ける。				5 コーチングを行う上でのメンタルの考え方 (コーチングは人と人のコミュニケーション。コーチングの心を考える) 予復修課題：コミュニケーションスキルについて、重要なポイントを調べておくこと。60分	
授業到達目標	スポーツ科学で明らかにされた客観的事象を知識として身に付ける。 陸上競技の各種目の運動構造を理解し、説明することができる。 陸上競技の各種目のトレーニング手段と方法を理解し、指導計画を立案することができる。				6 コーチングを行う上で知っておきたいトレーニング7大原則 (陸上競技は専門分野の違いでトレーニングが大きく違うことを理解する) 予復修課題：各専門分野のトレーニングの特性を調べておくこと。60分	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 短距離種目をバイオメカニクス・運動生理的・方法学等の多角的視点で考える (短距離種目の運動構造の特徴と要求される体力的側面を理解する) 予復修課題：走種目の運動構造・体力的な特徴について、調べておくこと。60分	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					8 走り幅跳びをバイオメカニクス・運動生理的・方法学等の多角的視点で考える (走り幅跳びの運動構造の特徴と要求される体力的側面を理解する) 予復修課題：走り幅跳びの運動構造・体力的な特徴について、調べておくこと。60分	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					9 走り高跳びをバイオメカニクス・運動生理的・方法学等の多角的視点で考える (走り高跳びの運動構造の特徴と要求される体力的側面を理解する) 予復修課題：走り高跳びの運動構造・体力的な特徴について、調べておくこと。60分	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	競技者もしくは指導者を目指すものとして実践的課題・問題意識を追求する姿勢を以て授業にのぞむこと。 スポーツ学概論の単位を修得済みであることが望ましい。 過去に陸上競技の専門実技経験者であることが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	ICTレポート			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	[第1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,15回]計12回			
3.		%	グループディスカッション[第12,13回]計2回			
再評価の実施		する	プレゼンテーション[第14回]計1回			
しない						
教科書						
参考書	15 講義の総括 (講義全体のまとめ・まとめレポート作成) 予復修課題：前回講義までの学習内容をまとめて、レポート作成が出来るように準備しておくこと。60分					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 A Coaching Materials A		単位数	授業内容**	
担当者		小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)		2	1 授業オリエンテーション (授業内容および進め方について) 球技スポーツとは? 予復修課題: 自身の専門球技についてのイメージをまとめる	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 球技スポーツの変遷と役割 ネット型, ゴール型, ベースボール型の分類に応じて 予復修課題: 専門球技の歴史を調べてくる	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ2101	3 テニスの歴史 4 大大会の起源と発展 予復修課題: 4大大会と同等の大会について調べてくる
配当年次		2年生	開講学期	前期	コース区分*	4 競技スポーツとしてのテニス プロスポーツとしてのテニスの成り立ち 予復修課題: プロ化の条件について調べてくる
授業概要		スポーツ学概論で学習した内容に基づき、ネット型球技であるテニスの種目特性に応じた具体的なトレーニング法やコーチングのあり方について学ぶ。また、他の球技種目と共通する動作や応用できるトレーニング方法について、ディスカッションしながら知見を深める。				5 競技スポーツとしてのテニスの特性 他の球技と比較して 予復修課題: 自身の球技の特性を調べてくる
授業到達目標		○球技スポーツであるテニスの特性を理解する ○スポーツの基本動作についての理解を深め、テニスに応用することができる ○コーチングの留意点についての知識を身につける				6 テニスの技術特性 サーブのバイオメカニクス 予復修課題: 各自専門競技の技術特性について調べてくる
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・スポーツ学概論の単位を修得済みであることが望ましい。 ・学生の理解状況に応じて、内容や進度を変更することがある。 ・学んだ内容を実践で応用する態度を期待する ・各授業毎に60分程度の予復修をおこなうこと			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		20 %	・ミニレポート			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	・グループディスカッション			
3.		%	・プレゼンテーション			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書 授業時に指示.						
11		タレント発掘の現状 予復修課題: 各自専門競技で求められる能力について調べてくる				12
12		タレント発掘の現状 予復修課題: 各自専門競技で求められる能力について調べてくる				13
13		テニスのコーチングとは? コーチとして身につけておくべき知識・技能とは? 予復修課題: 他競技のコーチングとの相違点について調べてくる				14
14		テニス競技の今後と課題 予復修課題: まとめのテストの対策を行う				15
15		まとめのテスト・解説 予復修課題: まとめのテストを整理する				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 B Coaching Materials B		単位数	授業内容**	
担当者	山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)			2	1 ガイダンス, 体操競技の歴史 オリエンテーション・受講上の注意・体操競技の特性 予復修課題: オリンピック大会の公式競技になる以前の体操競技についてまとめる.	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 採点規則と技の表記・技の構造 (運動形態的構成要素) 予復修課題: 体操競技の歴史に関するクイズ問題を考える.	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ2201	3 技の構造 (運動技術的構成要素)・技の理想像と技術開発 予復修課題: いくつかの技について, その技の理想像と思われる選手の映像を収集する.	
配当年次	2年生	開講学期	後期	コース区分*	4 技の指導の基礎理論(技の体系・系統性・段階性) 予復修課題: 基本技の応用についての考えを要約し, 提出する.	
授業概要	体操競技の指導者として有すべき専門性について学習する。体操競技には数多くの「技」があり、その多くを身に付けなければ競技会に出場することができない。故に、効率的に技を習得させるためのコーチング理論が必要となる。その鍵概念となる、技の「系統性」と「段階性」について、技の構造体系論的立場から理解をすすめていく。					
	授業到達目標 (1)技の構造体系論を理解する。 (2)体操競技のトレーニングの方法論を理解する。 (3)技の系統性と段階性について例をあげて説明できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予習内容を基に授業を行う週もあるため、授業準備を怠らないようしてもらいたい。各授業ごとに1時間を目安に予復修を行うことを望みます。			
1. 小テスト、感想文など		25 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		25 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	実践学習: 学習した知識と運動感覚へ転用する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	金子明友 『体操競技のコーチング』 大修館書店(1974年)					
参考書	15 予復修課題: 体操競技の技の指導における基礎的理論に関する参考資料を要約する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 B Coaching Materials B			単位数	授業内容**	
担当者		木寺 英史 (KIDERA Eishi)			2	1	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	オリエンテーション (授業の進め方の確認)	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ2201	予復修課題: コーチング各論の内容について大まかに復修する	
配当年次		2年生	開講学期	後期	コース区分*	2	
授業概要		武道や武術に伝承されるコーチングについて学習する。 武道や武術などの稽古法をスポーツに活かすコーチングを学ぶ。			ｽｽﾞ 総合	3	
授業到達目標		剣道・柔道・弓道・空手・合気道など、日本の伝統的な身体運動文化に伝承されている コーチング法を理解することができる。 合理的身体動作法を知り、現代のコーチングに応用できる能力を身に付ける ことができる。				4	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						5	
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						6	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						7	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						8	
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				9	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	武道や武術に伝わるコーチング法は スポーツのそれとは、考え方や方法が 大きく異なっている。自身の専門種 目に関する問題意識を持って授業に参 加すること。 予復修を最低60分は行い授業のぞむこと。			10	
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング グループディスカッションを取り入れる。			11	
再評価の実施		する	しない			12	
教科書						13	
参考書		『錯覚のスポーツ身体学』 木寺英史 東京堂出版 2011				14	
						15	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 B Coaching Materials B			単位数	授業内容**	
担当者	森 誠護 (MORI Seigo)			2	専任		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ2201			
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ 総合		
配当年次	2年生	開講学期	後期				
授業概要	<p>本講義では、水泳コーチ基礎理論・競泳競技・コーチの役割と安全管理の3本を柱にコーチングの重要な要素について講義し、トレーニングの意図と目的について検討する。</p> <p>また、水泳は「健康スポーツ」の実践としても行われることから、水泳・水中運動の側面からもアプローチする。</p>					1	ガイダンス及びオリエンテーション 授業の進め方の確認 予復修課題：シラバスの確認(1時間)
授業到達目標	1. 水の特性や各泳法の技術特性を理解する。 2. 選手のレベルに応じたトレーニング計画を作成することができる。 3. 水泳コーチの役割と安全管理について説明することができる。					2	水泳コーチの基礎理論・水泳競技の概説 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	本授業は、「公認水泳コーチ」の資格取得に必要な科目である。また、「公認水泳コーチ」の資格試験には教科書が必要となるため、資格取得を目指している学生は以下に記す教科書を購入しておくこと。					
1. 小テスト、感想文など	25 %	購入後は、授業だけでなく、資格取得に向けた自学自習に勤めること。					
2. 中間テスト	%	アクティブ・ラーニング 毎講義にて小テストを実施し、授業の振り返りを行なう。					
3. 課題レポートなどの提出物	%						
4. 授業中の発表、討論	%						
5. 授業への参加意欲	25 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト	50 %						
2. 論文、まとめのレポートなど	%						
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書	(公財)日本水泳連盟編『水泳コーチ教本』大修館書店(2014年)						
参考書							
						3	水泳のバイオメカニクス 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						4	水泳の生理学 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						5	水泳の心理学・栄養学 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						6	水泳の医学(メディカルスタッフの役割) 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						7	競泳競技概説 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						8	競泳のパフォーマンス評価 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						9	競泳のトレーニング(計画の立て方・内容) 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						10	競泳のトレーニング(プログラムの立て方・陸上トレーニング) 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						11	競泳のコーチング(資質・チームづくり・トレーニングのコーチング) 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						12	競泳のコーチング(合宿・競技会・対象および年齢・部活) 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						13	水泳コーチに必要な法律の基礎知識 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						14	プール管理と応急手当 小テスト 予復修課題：課題確認と次回の内容確認(4時間)
						15	授業の総括(まとめのテスト) 予復修課題：総復修(7時間)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング各論 B Coaching Materials B		単位数	授業内容**	
担当者	俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ2201		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾌﾟ 総合	
配当年次	2年生	開講学期	後期	コース区分*		
授業概要	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための工夫を試みる。					
	本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。更に、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)					
授業到達目標	スポーツ科学を取り入れたコーチング知識を身につけることができる。 戦術・戦略について解説ができる。 コーチングを通じて人材育成の基礎を理解できる。 チームビルディングについての技能を活用できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業時は積極的に発言し、他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考えること。				
1. 小テスト、感想文など	10 %	授業終了後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての予復修(60分)を行い、理解度を確認すること。				
2. 中間テスト	%	疑問点は質問し、早期の解決を図る事。				
3. 課題レポートなどの提出物	20 %	授業内容に変更がある場合は、授業開始時に説明を行う。				
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	指導現場での問題点を抽出し、新たな指導法を考案する。				
2. 論文、まとめのレポートなど	30 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
1	オリエンテーション 講義概略の説明と受講上の注意および評価方法の説明。 予復修課題： シラバスを確認しておくこと。					
2	コーチングの語源 コーチングの歴史について 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
3	コーチング1 コーチングとティーチングの違いについて。 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
4	コーチング2 山本五十六の人材育成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
5	チームビルディング1 チーム作り 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
6	チームビルディング2 ファシリテーター 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
7	観察力について1 スパイク、ブロック、ディグ、セッター。 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
8	観察力について2 スパイク、ブロック、ディグ、セッター。 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
9	戦略について1 ローテーションの理解 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
10	戦略について2 アタックフォーメーション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
11	ブロックフォロー スパイクの攻撃態勢からのポジショニングと合わせ方。 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
12	フロアディフェンス マンアップとマンダウン 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
13	指導計画の立て方1 指導計画の重要性 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
14	指導計画の立て方2 心体技 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					
15	総括 指導方法についてのディスカッション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示をする。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング実習 Experiment for Sports Coach			単位数	授業内容**		
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)			1	1 授業内容説明 (受講生に対してガイダンスを行う) 予復修課題: 実習受講に関する目的や注意事項を確認する		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 授業内容の確認 予復修課題: 実習受講に関する目的や注意事項を確認する		
授業形式		実習	科目区分	専攻コース科目	SSJ3101	3 授業実施校・団体との協議 予復修課題: 日程・期間・内容について実習先担当者との交渉		
配当年次		3年生	開講学期	前期集中	コース区分*	4 実習(1) 予復修課題: 実習先担当者とのコーチング内容の打ち合わせ等		
授業概要		コーチング各論で学んだコーチング方法について、実習形式でコーチングを体験する。また、コーチングの課題や自らの問題点を考え、よりよいコーチングのための工夫を試みる。実習は、学内外の競技団体において競技力向上を目指した活動を定期的に行うこととする。					5 実習(2) 予復修課題: 実習計画・内容・目標の確認	
授業到達目標		各競技特性を理解したコーチングの実際を理解する 競技力向上に向けたコーチングの計画的な方法を理解する コーチングの課題や問題点を知り、解決法を自ら考える					6 実習(3) 予復修課題: 実習記録の記入	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 実習(4) 予復修課題: 実習記録の記入			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					8 実習(5) 予復修課題: 実習記録の記入			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					9 実習(6) 予復修課題: 実習記録の記入			
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実習についての条件・詳細はガイダンス時に説明する					
1. 小テスト、感想文など		%	専門的に競技を行っている者を実習させる コーチング各論を履修済みか、履修中であること					
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		15 %						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		15 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	14 予復修課題: 実習記録の記入 実習まとめ					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %						
3. 実習先の評価		50 %						
再評価の実施		する	しない	15 反省および実習ノート整理・提出 予復修課題: 実習レポートの作成				
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	コーチングシステム論 Coaching System				単位数	授業内容**	
担当者	内田 満 (UCHIDA Mitsuru)				専任	1 本授業の目的・概要・評価方法などの説明を行う	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング SSJ2202					2 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ 総合	2 コーチとは何か/コーチングとは何か	
配当年次	2年生	開講学期	後期			3 予復修課題：コーチの言葉の由来を調べて、レポートする	
授業概要	スポーツにおけるコーチとは、プレーヤー自身が「なりたい」と思う自分に近づくために、その活動をサポートする存在である。また近年では、コーチの社会人としての資質が求められてもいる。その構造化(システム化)は必要なことでもあり、その構築について学ぶ。コミュニケーション、モチベーション、積極的傾聴など、コーチング理論の基礎から学生自身のスポーツ種目に応用した学習を行う。					3 コーチングの諸要素と資質/倫理	
						4 予復修課題：スポーツ界におけるハラスメントについて調べて、レポートする	
授業到達目標	1. コーチングのシステム化を理解し、自身の種目に応用できる 2. 人間教育としてのコーチングの重要性を理解する 3. コーチ自身が社会の模範であることを理解する					4 プレイヤーズファーストの視点	
						5 予復修課題：プレイヤーにとっての「楽しい」とは何かについてレポートする	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						5 コミュニケーションスキルとしての「コーチング」	
						6 予復修課題：コミュニケーションについて調べ、レポートする	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						6 スポーツの価値とアンガ-マネジメント	
						7 予復修課題：アンガ-マネジメントについて調べ、レポートする	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						7 発育発達期における心の成長とコーチング	
						8 予復修課題：コーチングとティーチングの違いについてレポートする	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						8 スポーツにおける動機づけ	
						9 予復修課題：モチベーションについて調べ、レポートする	
成績評価の方法(全体で100%)						9 積極的傾聴の理論と実践	
						10 予復修課題：積極的傾注の手法について調べ、レポートする	
履修における留意事項						10 チームビルディングとコーチング評価	
						11 予復修課題：チームビルディングについて調べ、レポートする	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業形式は講義形式とグループによるワークショップを基本とする。その中で、自分なりの意見(哲学)をまとめたり、グループとしてのコミュニケーションを深め、組織的な意見集約を行う。課題は10回程度を予定しており、その都度提示する。課題に応じ、授業でフィードバックする。 予復修時間：2時間程度			11 女性スポーツにおけるコーチングの注意点	
1. 小テスト、感想文など		10 %				12 予復修課題：FAT(女性アスリートの3兆候)について調べて、レポートする	
2. 中間テスト		%	アクティブ・ラーニング グループワーク：2~11回目 プレゼンテーション：12~14回目 ワークショップ：1回目			12 コーチングシステムの作成：種目を絞ってシステムを構築する	
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				13 予復修課題：マニュアルについて学んでおく	
4. 授業中の発表、討論		20 %	再評価の実施			13 コーチングシステムの作成：内容の精査	
5. 授業への参加意欲		30 %				14 予復修課題：コーチングレポートの作成	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	する			14 グループで作成したコーチングシステムの発表	
7.		%				15 予復修課題：プレゼン資料の準備	
2) 最終到達度の評価			しない			15 本授業のまとめとしての試験を行う(60分)。終了後、試験内容を中心に解説と振り返りを行う。	
1. まとめのテスト		%				予復修課題：試験に必要な資料のまとめなどを行っておく。	
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	教科書 必要に応じて資料を配付する				
3.		%					
再評価の実施		する	参考書 スポーツリーダー養成テキスト、日本スポーツ協会編				
教科書		必要に応じて資料を配付する					
参考書		スポーツリーダー養成テキスト、日本スポーツ協会編					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	トレーニング計画論 Theory of training plan				単位数	授業内容**	
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)				2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ2102		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ 総合		
配当年次	2年生	開講学期	前期				
授業概要	長期にわたりトレーニングを続けるために必要なトレーニング計画の立て方や、トレーニング効果を評価するための方法について学び、利用できるようにする。 対象が一般人ではなく、競技者である場合に特有の問題についても、指導システムという観点からスケジュール、トレーニング内容、指導者など考慮すべき内容について学習する。				1	オリエンテーション 講義内容、成績評価の仕方について 予復修課題：現在の自分のトレーニング(1週間分)をレポート用紙1枚にまとめておくこと。	
授業到達目標	トレーニングプログラム作成のための目標設定、トレーニング変数、期分け理論について説明することができる。 各種の体力テスト方法と体力テストにより評価される能力の関係を説明することができる。 長期的に競技者の育成を行う際に考慮すべき事項について理解し、説明することができる。				2	トレーニング計画とその実際(1) トレーニング目標の設定 予復修課題：自分が行っている競技のニーズ分析を行ってこること。	
					3	トレーニング計画とその実際(2) トレーニングプログラム 予復修課題：自分の1RMから考えられるトレーニング強度と回数を調べてこること。	
					4	トレーニング計画とその実際(3) トレーニングプログラムの作成 予復修課題：講義内容をふまえ、1週間のトレーニングプログラムを作成してこること。	
					5	トレーニング計画とその実際(4) ピリオダイゼーション理論 予復修課題：講義内容をふまえ、1シーズンのトレーニング計画を作成してこること。	
					6	トレーニング計画とその実際(5) 疲労と回復 予復修課題：レポート課題1作成のための文献収集をおこなっておくこと。	
					7	トレーニング計画とその実際(6) レポート課題1(トレーニング計画の作成) 予復修課題：レポート課題1を作成し、次回の授業で提出すること。	
	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				8	体力テストとその活用(1) 測定と評価 予復修課題：測定評価に関わる書籍を1冊読んでこること。	
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				9	体力テストとその活用(2) 体力要素と体力テスト 予復修課題：筋力、パワー、持久力に関する測定方法について調べ、まとめてこること。	
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				10	体力テストとその活用(3) 体力テストの活用 予復修課題：Tスコア、Zスコアについてその利用法を調べてこること。	
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				11	体力テストとその活用(4) レポート課題2 予復修課題：レポート課題2を作成し、次回の授業で提出すること。	
	成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	本講義では実際にトレーニングプログラムを作成できるようにすること、トレーニング結果の評価を行うことができるようにすることを目的としており、これに関連する2回のレポート提出は必須である。 プリントについて予復修を30分以上行うこと。					
1. 小テスト、感想文など	%						
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	40 %						
4. 授業中の発表、討論	%						
5. 授業への参加意欲	10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	50 %	実践学習[第7回、第11回]					
2. 論文、まとめのレポートなど	%						
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
					15	まとめのテスト 講義の総括 予復修課題：まとめのテストに向けて授業全体の復修を行ってこること。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ戦術論 Theory of Sports Tactics			単位数	授業内容**	
担当者		川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)			2	1 オリエンテーション 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 講義の概要説明 4) 受講における注意事項 予復修課題: 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 ゲームの理論と戦術・戦略 1) ゲームの理論 2) 戦術論の歴史 3) 戦術と戦略 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ4101	3 ゲームの理論と戦術・戦略 1) 戦略の事例 2) 戦術決定の諸条件 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
配当年次		4年生	開講学期	前期	コース区分*	4 スポーツにおける戦術 1) スポーツにおける戦術の変遷 2) スポーツにおける戦術の意義 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
授業概要		プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。 スポーツの戦術は、試合で勝利するために個人やチームの持つ能力を合理的に活用し、最高のパフォーマンスを発揮するための方法である。スポーツにおける戦術行動の意義と重要性を認識するために様々なスポーツ種目に共通する指導上の手がかりを学習する。そして、技術や戦術の分析能力、科学的知見、経験等がスポーツ戦術に必要なことを理解し、競技力向上のための技術と戦術の関わりについて学習する。			5 スポーツにおける戦術 1) スポーツ科学における戦術 2) スポーツ戦術の事例 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
授業到達目標		1. スポーツにおける戦術・戦術行動の意義や重要性を理解し、様々な戦術を分析することができる。 2. 戦術行動の前提条件やスポーツ戦術に必要な科学的知見・分析能力・経験等を理解した上で、戦術プランを立案することができる。			6 戦術行動の前提条件 1) 戦術行動に必要な能力 2) 戦術行動の構造 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 戦術行動の前提条件 1) 戦術行動の段階 2) 戦術と他の競技力因子の関係 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			8 戦術行動の評価 1) 戦術に関わる諸能力 2) 試合観察 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。			9 戦術プランの立案 1) 戦術プラン立案のための前提条件 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。			10 戦術プランの立案 1) 個人またはチームの特性 2) 選手の特性による戦術行動の類型 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 戦術プランの立案 1) 個人競技のレースプランを立案する 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考える。			12 戦術プランの立案 1) 球技のゲームプランを立案する 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
1. 小テスト、感想文など		20 %	授業時間後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての復習を行い理解度を確認すること。			13 戦術プランの実践 1) 戦術プラン変更のタイミング 2) 試合における戦術の評価 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
2. 中間テスト		%	疑問点は質問し、早期の解決を図ること。			14 戦術トレーニング 1) 戦術トレーニングの方法論 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
3. 課題レポートなどの提出物		10 %	1日1時間の予修、復修時間を確保すること			15 全体のまとめテストおよびテスト 予復修課題: スキルテストおよびゲーム中での技術スキル評価を行う	
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		50 %	到達度把握のため、ボールハンドリング測定をその都度実施する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		参考図書として、グロッサー/ノイマイヤー「スポーツ戦術入門」大修館書店					
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ方法論 Sports Method Theory		単位数	授業内容**	
担当者		後藤 平太 (GOTO Heita) 俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)		2	1 ガイダンス及びオリエンテーション 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 授業の概要説明 4) 受講における注意事項 予復修課題: 評価や受講の注意事項についてよく理解する	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 スポーツの特性について考える 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ 総合
配当年次		3年生	開講学期	前期		
授業概要	スポーツの競技力向上を念頭に置いたコーチング学の立場から様々なスポーツ種目を対象に方法論を学習する。そのために各種目の競技力構造を十分に理解した上で、競技力養成のための技術トレーニング、戦術トレーニング、体力トレーニング、心的・知的トレーニングの方法について理解を深めていく。さらにそれらの方法論に則ったトレーニング計画や試合準備について学習する。					
	3 コーチング学とは何か 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する					
授業到達目標	1. スポーツの特性を理解し、説明・記述できるようになる。 2. スポーツ指導方法の理論的な発展について説明できるようになる。 3. 各種スポーツの競技力構造について類型化できるようになる。 4. スポーツ競技力養成のための方法論について様々な視点から説明できるようになる。					
	4 スポーツの指導を考える 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復習を行なうこと。また、疑問点は適宜質問し早期の解決を図ること。予修・復修については、毎時間60分程度の課題を指示する。			
1. 小テスト、感想文など		15 %	アクティブ・ラーニング ミニッツペーパー(第2-6回) 調査学習(第9回) グループディスカッション(第9-14回) プレゼンテーション(第10&13回)			
2. 中間テスト		20 %				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		25 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		コーチング学への招待(大修館書店)				
参考書						
15 まとめの試験と講義の総括 予復修課題: 総復修						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		レジスタンストレーニング実習 Resistance Training		単位数	授業内容**	
担当者		長谷川 伸 (HASEGAWA Shin) 山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei)		1	1 授業の概要についての説明 クリーン&ジャーク、スナッチの説明、成績評価の説明 予復修課題：トレーニング実習で習得したハイクリーンの練習をしておくこと。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 トレーニングプログラムの作成(1) トレーニングノート作成、体組成の測定、1RMの測定法についての説明 予復修課題：次回の授業までに1RMの測定法を確認しておくこと。	
授業形式		科目区分 専攻コース科目		SSJ2103	3 トレーニングプログラムの作成(2) 1RMの推定とトレーニングプログラムの作成 予復修課題：測定により得られた1RMより自らのトレーニング強度を決定してくること。	
配当年次		開講学期		コース区分*	4 ハイクリーン ハイクリーンのフォーム確認と練習 予復修課題：ハイクリーンを男子60kg、女子40kgまで挙げられるようにしてくること。	
授業概要		前期		ｽｽﾞ 総合	5 プッシュジャーク(1) プッシュジャークの説明と練習 予復修課題：シャフト(プレートなし)によるプッシュジャークのフォーム練習を行ってくること。	
授業到達目標		前期			6 プッシュジャーク(2) プッシュジャークの挙上重量を高める。 予復修課題：男子40kg、女子30kgのプッシュジャークを練習してくること。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 スプリットジャーク(1) スプリットジャークの説明と練習 予復修課題：シャフト(プレートなし)によるスプリットジャークのフォーム練習を行ってくること。	
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			8 スプリットジャーク(2) スプリットジャークの挙上重量を高める。 予復修課題：男子50kg、女子30kgのプッシュジャークを練習してくること。	
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。			9 プッシュジャーク、スプリットジャークの復習 2種類のジャークの挙上重量を高める。 予復修課題：2種類のジャークを男子55kg、女子35kgまで挙げられるようにしてくること。	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。			10 スナッチ(1) スナッチの説明と練習(シャフト：男子20kg、女子15kg) 予復修課題：シャフト(プレートなし)によるスナッチのフォーム練習を行ってくること。	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 スナッチ(2) スナッチの挙上重量を高める。 予復修課題：男子40kg、女子20kgのスナッチを練習してくること。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合			12 フォームの撮影 レポート課題に使用するクリーン&ジャーク、スナッチのビデオ撮影 予復修課題：男子45kg、女子25kgのスナッチを練習してくること。	
1. 小テスト、感想文など		%			13 実技テスト(クリーン&ジャーク) クリーン&ジャークのテストと体組成測定 予復修課題：講義開始時と現在の体組成データを表にまとめてくること。	
2. 中間テスト		%			14 実技テスト(スナッチ) スナッチのテストと1RMの測定 予復修課題：講義開始時と現在の種目別1RMを表にまとめてくること。	
3. 課題レポートなどの提出物		%			15 レポート課題提出、実技再テスト レポート課題の提出 予復修課題：トレーニング効果とリフティングの自己評価をレポートにまとめること。	
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		40 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %				
3.		%				
再評価の実施		する しない				
教科書						
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		メンタルトレーニング演習 Seminar of Mental Training			単位数	授業内容**	
担当者	伊藤 友記 (ITO Tomoki)			専任	1	メンタルトレーニングとは ・スポーツ競技場面におけるメンタルトレーニングについて概観する 予復修課題： 競技場面における心理的側面の自身の関心事についてレポートを作成する。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ2203	2	競技力向上とメンタルトレーニング ・競技力向上におけるメンタルトレーニングの位置づけについて学ぶ 予復修課題： 自身の競技生活とMTの関わりについてレポートを作成する。	
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ	総合	
配当年次	2年生	開講学期	後期				
授業概要	メンタルトレーニング(MT)は、自己の能力を最大限に発揮するために、運動遂行時の精神状態を最適にコントロールするための心理的技法である。具体的にはリラクゼーション技法、イメージの活用、目標設定技法などがあげられる。本授業ではそれらの技法を実際に体験し、自らが体得するとともに、指導場面にも活かしていけることも目指す。またMTの可能性と限界、スポーツカウンセリングとの関連についても触れる。				3	メンタルトレーニング・プログラム作成の原則 ・メンタルトレーニングを作成する上での原則について学ぶ 予復修課題： MTを作成する際の原則について理解を深め、具体例を考える。	
授業到達目標	1. 各種の心理的技法の内容について具体例をあげて説明ができる。 2. 自身の競技遂行におけるメタ面の課題を分析し、学習した心理的技法を日常のトレーニングに活用できる。 3. 指導の立場に立ったときのことを想定し、チームあるいは個人選手を対象としたメンタルトレーニングプログラムを立案できる。 4. メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの関係性について説明ができる。				4	メンタルトレーニング実施上の原則 ・メンタルトレーニング実施上の原則について学ぶ 予復修課題： MTを実施する際の原則について理解を深め、具体例について考える。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					5	自己の心理的特徴を知る(自己分析) ・メンタルトレーニングの導入として必ず必要となる自己分析について学ぶ 予復修課題： MT実施に備え、自身の心理的課題について自己分析し、カルテを作成する。	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					6	メンタルトレーニング技法の基礎 ・行動変容技法、目標設定技法について理論と方法を学ぶ 予復修課題： 目標設定技法について正しい実施方法を学ぶため、実際の目標設定課題を実施する。	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					7	メンタルトレーニング技法の基礎 ・リラクゼーション技法、自律訓練法の具体的な方法を学ぶ 予復修課題： 自宅にて筋弛緩法、呼吸法のリラクゼーショントレーニングを実施する。	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					8	メンタルトレーニング技法の基礎 ・バイオフィードバック法、注意集中技法について学ぶ 予復修課題： 引き続き、自宅にてリラクゼーショントレーニングを実施する。	
成績評価の方法(全体で100%)					9	メンタルトレーニング技法の基礎 ・イメージ技法、スポーツビジョントレーニングについて学ぶ 予復修課題： スポーツビジョントレーニングへの理解を深めるため、日常生活にSVTを取り入れる。	
履修における留意事項					10	メンタルトレーニング技法の基礎 ・暗示技法、ポジティブシンキングの方法について学ぶ 予復修課題： 積極的思考の方法を学び、日常における自身の思考について振り返りのレポートを作成する。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	・実習を伴うため欠席は減点する ・教科書に沿って進めるので必ず購入すること ・配布資料や講義の内容を基に、講義ノートを作成すること。必ず大学ノート(A4版またはB5版)を使用すること。 講義ノートの作成と、次時の講義内容についての下調べには、毎時120分程度を要する。 ・スポーツ心理学を受講済みが望ましい			11	メンタルトレーニング・プログラムの立案 ・学習したことを基に、実際のチームや自身に対するMTプログラムを立案する 予復修課題： 自身の課題にあわせたオリジナルのMTプログラムを作成する。	
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング ・提出課題、講義の感想、次時の講義内容に関する下調べ等を随時課し、それらも評価の対象とする。(評価%は左記参照) ・講義ノートの提出も適宜求め評価します。			12	メンタルトレーニングの実践例 ・メンタルトレーニングの実践例か実施上の留意点や問題点について学ぶ 予復修課題： 自身のMTプログラムの実施経過について記録する。	
再評価の実施	する	しない			13	メンタルトレーニングとスポーツカウンセリング ・メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの関係性について学ぶ 予復修課題： 自身のMTプログラムの実施経過について記録する。	
教科書	日本スポーツ心理学会編『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』大修館書店、2016				14	メンタルトレーニングとスポーツカウンセリング ・メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの実践事例から学ぶ 予復修課題： 自身のMTプログラムの実施経過について記録する。	
参考書					15	講義の振り返り まとめのテスト 予復修課題： 講義内容について振り返り、競技や日常場面への適用を考えてみる。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツパフォーマンス測定実習 Measurement for Sports Performance			単位数	授業内容**		
担当者		得居 雅人 (TOKUI Masato)			1	1 オリエンテーション、授業の概要の説明		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 予復修課題：自分の過去のトレーニング歴を振り返り、測定や評価を行った経験について考えて来る。 グルーピング、授業の進め方、測定器具の扱い		
授業形式		実習	科目区分	専攻コース科目	SSJ3103	3 予復修課題：自分の過去のトレーニング歴を分析する。		
配当年次		3年生	開講学期	前期	コース区分*	4 瞬発力の測定と分析		
授業概要		トレーニングの現場では、目標を決め、実行し、それを評価することによってトレーニング効果を明確にすることが求められる。トレーニング科学の発達により、評価すること、すなわち様々な身体、体力、技能要素の測定データを収集することが、現場レベルで容易に行なうことが可能になった。本実習では、トレーニング現場で役立つ測定法・評価法を学び、現場と研究室の橋渡しをできる力を身につける。					5 予復修課題：データの整理と次回の予修	
授業到達目標		1)授業で行なった測定法を実際に実施することが出来る。 2)測定法について記述して説明できる。 3)測定データを解析し評価できる。					6 予復修課題：データの整理と次回の予修	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 予復修課題：データの整理と次回の予修			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					8 予復修課題：データの整理と次回の予修			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					9 予復修課題：データの整理と次回の予修			
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	グループで実習をしながら進みます。協力し、積極的な態度で臨むことを期待します。毎回60分の予修が必要です。					
1. 小テスト、感想文など		%						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		30 %						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		20 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	授業時に測定したデータの整理を行い、次回の授業の基礎理論を学習する。					
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書								
参考書								
		15 予復修課題：データの整理						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゲーム分析演習 Sports games Analisyse			単位数	授業内容**	
担当者	八板 昭仁 (YAITA Akihito)			専任	1	授業内容説明 1) ガイダンス 2) 履修上の注意 3) ゲーム分析について 予復修課題: ゲーム分析の文献を読んでみる	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ3201	2	スポーツゲーム分析とは 1) ゲーム分析の必要性 2) ゲーム分析の方法 予復修課題: ゲーム分析について理解を深める	
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ	ｽｽﾞ 総合	
配当年次	3年生	開講学期	後期				
授業概要	競技スポーツにおける客観的な指標によって競技力やパフォーマンスを評価する必要性が高まっている。本科目においては「ボールゲーム」を対象としてゲーム観察による客観的なデータ収集とその分析方法を演習し、ゲーム分析の意義について理解を深める。授業においては、ゲーム映像の活用と表計算ソフトの利用によって多くのデータを収集した上で、それらを統計的に分析し、結果を競技種目の特性や現状を考慮した解釈による評価方法を学習する。						
	授業到達目標	スポーツにおける「ゲーム分析」の意義を理解している スポーツにおける「ゲーム分析」の基本的な方法を理解している 分析した情報を解釈し、客観的に伝えることができる					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ボールゲームを対象としてゲーム分析を行うので、ボールゲームの専門的な競技の知識が必要になる。この件について留意して履修してほしい。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		15 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		5 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	データ数を多くして分析を行う際に、分析項目をグループワークによって検討する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	分析レポートは、受講生の前でプレゼンテーションする。				
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
					15	作成したレポートの発表 予復修課題: 作成したプレゼンテーション資料を確認し、発表練習を行う	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ栄養指導演習 Practice in Guidance of Sports Nutrition		単位数	授業内容**	
担当者		宗 まりこ (SO Mariko)		2	1 アスリートにおける栄養サポートの重要性 栄養サポートの実例 予復修課題：なぜこの授業が設定してあるのか考えること。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ4102	2 アスリートの身体組成と体重管理 トップアスリートの身体組成実例 予復修課題：参考書のプリント関連部分は確認のこと。	
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ	総合
配当年次	4年生	開講学期	後期	コース区分*		
授業概要	スポーツ選手は常に栄養士・管理栄養士から適切な栄養指導が受けれるとは限らない。スポーツ指導者やトレーナーは選手に対して栄養指導や栄養アドバイスができる能力も求められる場合がある。本演習は栄養指導向上のため、実践演習に重きを置くが、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成カリキュラムのテキストに沿った内容である。栄養指導や保健指導の経験を活かした授業を展開する。					
	スポーツ栄養学を理解し、スポーツ現場で個人または集団に実践的な栄養サポートを行う際に必要な知識と技法を修得することによって、スポーツ選手への栄養指導や助言ができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	過去の配布資料も毎回必ず持参すること。スポーツ栄養学を事前に修得しておくことが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		20 %	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格必修科目ではないが、テキスト購入者は持参のこと。			
2. 中間テスト		%	教科書等を活用し、授業の予修・復修を1時間程度おこなうこと。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		5 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	プリントを配布する					
参考書	『スポーツ・健康栄養学』化学同人(2014)					
11 サプリメント利用時の留意点		予復修課題：定義を確認のこと。				
12 試合前、試合当日、試合後の食事		予復修課題：各期の特徴を確認のこと。				
13 栄養教育と栄養指導の実際(1)		予復修課題：演習内容を文章で書けるようにしておくこと				
14 献立作成		予復修課題：演習内容を文章で書けるようにしておくこと				
15 総まとめ		授業の解説およびまとめのテスト				
		予復修課題：テストに関する質問は質問日を待たず即刻解決のこと。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		地域スポーツ論 Community Sports		単位数	授業内容**	
担当者		内田 満 (UCHIDA Mitsuru)		2	1 本授業の目的・概要・評価方法などの説明を行う 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 グループワークを行うための班分けやワークショップの目的などを説明する。 またスポーツの歴史についての概要を講義する。 予復修課題：学域・職域・商域・家庭・地域について調べ、レポートする	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ3104	3 スポーツの歴史 ~ 戦前・戦後期におけるスポーツの歴史について説明する。 またグループで、戦争とスポーツとの関わりについて討議する。 予復修課題：我が国におけるスポーツと暴力の親和性について意見をまとめる
配当年度		3年生	開講学期	前期	コース区分*	4 スポーツの歴史 ~ 戦後期におけるスポーツとコミュニティスポーツについて説明する。 また競技スポーツと生涯スポーツのイメージについてグループ討議をする。 予復修課題：体育指導委員制度について調べ、レポートする
授業概要		これまで日本のスポーツは職域や学域によって発展してきたとされる。しかし、その形態は限界を向かえつつあり、地域へのシフトが行政的にも計画されている。その政策の一つが総合型地域スポーツクラブであり、地域住民を主体とした形式、非営利での実施をベースにしたものである。授業は担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会から(15年)した経験を活かし、展開する。				
授業到達目標		1. スポーツの歴史的な背景を学び、我が国のスポーツ環境や地域スポーツを理解する 2. 地域スポーツの未来について創造できるようになる 3. 生涯スポーツについてマネジメントする能力を身につける				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業形式は講義形式とグループによるワークショップを基本とする。その中で、自分なりの意見(哲学)をまとめたり、グループとしてのコミュニケーションを深め、組織的な意見集約を行う。課題は10回程度を予定しており、その都度提示する。課題に応じ、授業でフィードバックする。 予復修時間：2時間程度			
1. 小テスト、感想文など		10%	アクティブ・ラーニング グループワーク：3~11回目 プレゼンテーション：12~14回目 ワークショップ：1~3回目			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20%				
4. 授業中の発表、討論		20%				
5. 授業への参加意欲		30%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			11 学校運動部活動・スポーツボランティア・障がい者スポーツについて説明する。 これらが地域スポーツとどう関係し、仕事として成立する方法をグループ討議する。 予復修課題：事業計画について、意見をまとめておく。			
1. まとめのテスト		%	12 事業計画：主にCANVASシートを使いグループでクラブをつくる 予復修課題：ISO26000について学んでおく			
2. 論文、まとめのレポートなど		20%	13 事業計画：主にクラブのPRについて作り込みを行う 予復修課題：SNSを活用した動画の作成法について学んでおく			
3.		%	14 他のグループの総合型地域スポーツクラブについて、評価する 予復修課題：事業計画のまとめ			
再評価の実施		する	15 本授業のまとめとしての試験を行う(60分)。終了後、試験内容を中心に解説と振り返りを行う。 予復修課題：試験に必要な資料のまとめなどを行っておく。			
教科書		必要に応じて資料を配付する				
参考書		関春南「戦後日本のスポーツ政策 その構造と展開」大修館書店、1997年				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		障害者とスポーツ Person with disabilities and sports		単位数	授業内容**	
担当者		高木 富士男 (TAKAKI Fujio)		2	1 ガイダンス：授業概要と受講上の留意点を理解する。 障がい者とスポーツについて考える。 予復修課題：今までの障がい者との関わりを整理してくる。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSJ3202	2 障がい者について理解を深め、障がい者とスポーツについて考える。 予復修課題：障がい者が実施しているスポーツを調べてくること。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽ 総合	
配当年次	3年生	開講学期	後期			
授業概要	障がいの有無にかかわらず、全ての方にスポーツ指導ができる人材を養成する。 障がいの病態と特性を説明し、障がい者が親しんでいるスポーツ種目について具体例をあげながら説明する。また、障がい者のスポーツ大会やスポーツに使用する補装具についても説明する。					
	障がいを理解し、障がい者が実施しているスポーツを学ぶことで、障がい者と共にスポーツを楽しむことができる。また、障がいの特性に応じてスポーツを創造できるようになる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・日頃から、「障がい者」と「スポーツ」に関する情報収集に努めることで、授業内容をより一層理解することができるようになります。 ・毎授業でプリントを配布するので、授業後に提出してください。提出プリントは授業への参加意欲の評価に使用します。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	障がいの特性に応じたスポーツを毎時限考えます。特定の課題を提示するので、それを2人組やグループで解決・創造していきます。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし					
参考書	障がい者スポーツ指導教本 初級・中級 / (公財) 日本障がい者スポーツ協会編 / ぎょうせい / 2016					
					15 予復修課題：障がい者スポーツ指導者制度を調べてくること。	
					14 予復修課題：障がい者が使用する補装具を調べてくること。 全国障がい者スポーツ大会について理解を深める。	
					13 障がい者の使用する補装具について理解を深める。 予復修課題：障がい者が使用する補装具を調べてくること。	
					12 知的障がい・精神障がいについて理解を深める。 知的障がい者・精神障がい者のスポーツ実施上の留意点を理解する。 予復修課題：知的障がい・精神障がいについて調べてくること。	
					11 身体障がい(内部障がい)について理解を深める。 身体障がい(内部障がい)者のスポーツ実施上の留意点を理解する。 予復修課題：内部障がいについて調べてくること。	
					10 身体障がい(聴覚障がい)者のスポーツを知り、新たなスポーツを創造する。 予復修課題：聴覚障がい者が日常生活で困ることを考えてくること。	
					9 身体障がい(聴覚障がい)について理解を深める。 予復修課題：聴覚障がい者のスポーツを調べてくること。	
					8 身体障がい(視覚障がい)者のスポーツを知り、新たなスポーツを創造する。 予復修課題：視覚障がい者が日常生活で困ることを考えてくること。	
					7 身体障がい(視覚障がい)について理解を深める。 予復修課題：視覚障がい者のスポーツを調べてくること。	
					6 身体障がい(肢体不自由)者のスポーツを知り、新たなスポーツを創造する。 予復修課題：肢体不自由者のスポーツを調べてくること。	
					5 身体障がい(肢体不自由)について理解を深める。 予復修課題：肢体不自由者が日常生活で困ることを考えてくること。	
					4 リハビリテーションにおけるスポーツの意義について考える。 予復修課題：障がい者が実施しているスポーツを調べてくること。	
					3 障がいスポーツの歴史を知る。 予復修課題：障がい者が実施しているスポーツを調べてくること。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ教育概論 Sport Pedagogy		単位数	授業内容**	
担当者	青山 優子 (AOYAMA Yuko)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ1201		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟｰﾂ教育	
配当年次	1年生	開講学期	後期			
授業概要	<p>体育・スポーツ学は、人間が健康で文化的な生活ができるよう身体の育成を目指した学問領域です。しかし近年の科学技術の発展による環境の変化に伴い、ヒトの日常生活から身体活動が極端に減少し、健やかな身体の育成にあたっては様々な課題が生じています。一方、スポーツをする機会や観る機会は増え様々な情報も安易に入手でき、スポーツ環境は豊になったともいえます。このような環境の中で、長寿社会を健康で前向きに生きる糧であるスポーツライフをそれぞれのライフステージでスポーツ教育の観点からアプローチします。</p>					
	<p>保健体育教師やスポーツ指導者としての豊かな感性や専門性を学修するとともに、現場に通じる積極的な姿勢を身につける為、以下の課題を目標とします。          スポーツの捉え方、関わり方等を深く説明することができる。          スポーツ教育に関しての考え方を深め、それぞれのライフステージ実践できる。          スポーツを取り巻く諸課題について考えを深め、スポーツを通して社会貢献できる。          保健体育教師・スポーツ指導者としての考え方を理解し、実践に向けての行動ができる。</p>					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】	学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
【思考力・判断力・表現力】	実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<p>勉学に集中できる姿勢で臨んで下さい。 ( unnecessaryなものを机上に置かない)          提出物は、丁寧に作成して下さい。          自主的学修の評価として、学生の黒板への板書や意見発表を重要視するため、予修した内容は積極的に発表して下さい。          自主学習は1~2時間程度の推薦書簡の読書を実施して下さい。</p>				
2) 最終到達度の評価		<p>アクティブ・ラーニング          予習の内容は学生が授業始めに黒板に板書してその内容を契機に授業を展開する。          課題についてグループワークやプレゼンテーションを実施します。</p>				
再評価の実施	する	しない				
教科書	「体育科教育学入門」高橋健夫他 大修館書店		「スポーツの今を考える」友添秀則 創文企画			
参考書	「教養としての体育原理」「スポーツインテグリティの探求」友添秀則他 大修館書店					
1	オリエンテーション (科目の目標、授業方法、評価について解説) 予復修課題：スポーツの語源を調べる(予修)					
2	スポーツの意義について スポーツの発生やその歴史を探り、スポーツの意義について考える。 予復修課題：「体育」と「スポーツ」の概念について調べる(予修)					
3	「体育」と「スポーツ」の概念 「体育」「スポーツ」の捉え方の歴史の変遷を通して、身体教育について考える。 予復修課題：「体育」「スポーツ」の概念をまとめてレポート提出(復修)					
4	学校体育の成立と展開 我が国における学校体育の成立と展開について、歴史的背景を通して学ぶ。 予復修課題：「知育・徳育・体育」について調べる(予修)					
5	スポーツ規範 フェアプレイとスポーツマンシップの発生を探りその意義について考える(G.W.)。 予復修課題：ドイツの「ゴールデンプラン」、イギリスの「スポーツフォアオール」について調べる(予修)					
6	社会の変化とスポーツ 諸外国におけるスポーツ振興政策について学ぶ。 予復修課題：スポーツ基本法を調べる(予修)					
7	社会の変化とスポーツ 我が国におけるスポーツ基本法について学修する 予復修課題：2~7回の講義をキーワードを中心にまとめる(復修)					
8	中間テスト 中間テストを実施した後、1~7回の講義のまとめを行う。 予復修課題：回答用紙を見直し、2~7回の講義を再度まとめる					
9	スポーツ教育と人間形成 スポーツ教育の特徴を探り、主にスポーツを通して育つ人間形成について考える。 予復修課題：スキヤモンの発育曲線について調べる(予修)					
10	生涯スポーツ(幼児期におけるスポーツ教育) 幼児期の発達の特徴を押さえ、運動の重要性について学修する。 予復修課題：生涯スポーツについて調べる					
11	生涯スポーツ(学童期・思春期におけるスポーツ教育) 学校体育の目標と内容について、発達の側面から読みとる。 予復修課題：高齢化社会について調べる(予修)					
12	生涯スポーツ(青年期・壮年期・高齢者のスポーツ教育) 高齢者や障害者にとって、スポーツを実施することの意味合いについて考える。 予復修課題：近代オリンピックの歴史について調べる(予修)					
13	障害者スポーツ 障害者スポーツの歴史を押さえ、パラリンピック東京大会を糧に今後を展望する 予復修課題：2020東京パラリンピックオリンピックについて、自分なりの総括を試みる					
14	古代・近代・そして2020のオリンピック 2020オリンピックパラリンピック東京大会を振り返る 予復修課題：生涯スポーツについて自分なりにまとめ、さらにスポーツ教育の課題を挙げる。					
15	現在におけるスポーツ教育の意義と諸課題について(グループワーク) 今後のスポーツ教育のあり方についてディスカッションをする。 予復修課題：まとめのレポート提出					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	学校体育のマネジメント Management of Physical Education			単位数	授業内容**	
担当者	高田 俊也 (TAKADA Toshiya)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ3105		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟ 教育	
配当年次	3年生	開講学期	前期			
授業概要	教育現場における運動学習を進める上で教師の教授技術は重要である。中でも実際の運動活動の時間(経験)を保障する上でマネジメント技術は最も重要で、準備・後片付けのみならず、授業中の説明や安全管理、学習者の学習意欲促進のための演出(教材、教具、用具、器具等)のため、どのように計画すれば良いのか理解する。					
	1 運動学習を進める上で教師の役割を具体的に説明することができる。 2 運動学習の指導におけるマネジメント理論・方法を説明することができる。 3 マネジメントの変化と学習者の獲得された運動学習の成果との関係を説明することができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	運動が苦手な人にとって用具等のマネジメントが如何に重要であるかを理解するためにも日々授業外でのアイデア等を思考する時間を確保すること。			
1. 小テスト、感想文など		30 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	運動が好きになるや出来るようになるためにどのような指導の工夫が必要かグループディスカッションを行い実際に試行したりする。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	保健体育科教育法 の資料					
1	オリエンテーション(本科目の全般的な内容や流れことについて紹介する) (科目の目標、内容、授業方法等の説明) 予復修課題: 保健体育科教育法 の資料を事前に再度読んでおく。予復修の目安時間:120分					
2	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について 1 グルーピングを中心とした理論形成 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
3	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について 2 グルーピングを中心とした実践経験 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
4	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について 3 グルーピングを中心とした理論と実践の統合 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
5	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について 4 個人特性と技能獲得の関係を中心とした理論形成 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
6	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について 5 個人特性と技能獲得の関係を中心とした実践経験 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
7	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について 6 個人特性と技能獲得の関係を中心とした理論と実践の統合 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
8	攻防分離系連携ブレイン型ゲームを例とした指導方法の工夫について まとめ 個人特性に応じた用具や場作りの工夫、グルーピングを中心として 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
9	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について 1 状況判断能力を中心とした理論形成 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
10	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について 2 状況判断能力を中心とした実践経験 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
11	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について 3 戦術学習を中心とした理論形成 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
12	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について 4 戦術学習を中心とした実践経験 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
13	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について 5 単純な動きから複雑な動きへの指導を中心とした理論形成 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
14	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について 6 単純な動きから複雑な動きへの指導を中心とした実践経験 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					
15	攻防相乱系陣取りゲーム型ゲームを例とした指導方法の工夫について まとめ 戦術学習を中心とした理論と実践の統合 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:120分					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		学校体育指導演習 Instruction Methods for Physical Education			単位数	授業内容**	
担当者		田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)			2	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSJ3106		
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟｰｽ 教育		
配当年次	3年生	開講学期	前期	コース区分*			
授業概要	本演習では、体育授業を行うための単元構造図、学習指導案の作成、それらに基づいた模擬授業の実践を行う。第1回目の模擬授業では特に、マネジメント、学習規律、肯定的人、人間関係、情緒的開放といった体育授業の基礎的条件に着目する。第2回目の模擬授業では特に、明確な学習目標、興味を引く内容、教材、場づくり、教師の指導性といった内容的条件に着目する。また、模擬授業の分析、省察を行い、学習指導案の修正、改善を図り、よりよい授業実践につなげていく。						
	授業到達目標	【知識・技能】「子首指導要領の目標及び内容を説明し、単元計画及び子首指導案に活かすことができる。 【応用】「判断力・表現力」運動技術の構造的な習得性について理解し、教材づくりに活用できる。 【主体性・協働性】教材研究に主体的に取り組むことにも、他者と協働して授業の分析、評価、診断、省察を行うことができる					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	学習指導要領の内容をできるだけ把握しておくこと。				
1. 小テスト、感想文など		%	授業開始の時刻、提出物の期限は必ず守ること。				
2. 中間テスト		%	模擬授業及び協議会が主となるため、積極的に授業に参加すること。				
3. 課題レポートなどの提出物		50 %	予復修は、1時間程度かけて取り組むこと。				
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	目的、楽しさ、安全、運動力の4つの要素を満たす体育授業教材・下位教材の開発にかかるグループワーク【第3,4,5,10,14回】				
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	中学校学習指導要領解説(保健体育)						
参考書	高等学校学習指導要領解説(保健体育)						
1	オリエンテーション 本演習について、体育に関する教育的課題、体育の目標、内容に関する講義 予復修課題：体育における資質・能力の三つの柱について調べてくる						
2	体育授業を通して育成する資質・能力、単元構造図、学習指導案、教材について 資質・能力の三つの柱、目標、内容、評価を一体化した単元構造図に関する講義 予復修課題：配付された単元構造図に関する資料の振り返り						
3	模擬授業スケジュール、担当決定、単元構造図作成演習 模擬授業の準備、実践に向けたグループ分け、領域・種目の決定、単元構造図作成演習 予復修課題：グループメンバーとともに単元構造図、学習指導案の作成を行う						
4	単元構造図作成演習 各グループで決定した校種、学年、領域、種目の単元構造図の作成演習 予復修課題：グループメンバーとともに単元構造図、学習指導案の作成を行う						
5	単元構造図、学習指導案作成、模擬授業準備、教材研究 単元構造図、学習指導案作成の続き、模擬授業に向けた教材開発演習 予復修課題：教材研究の続き						
6	模擬授業1-1、協議会 1-A、1-Bによる模擬授業と協議会 予復修課題：学習指導案の修正、改善、リフレクションシートのまとめ						
7	模擬授業1-2、協議会 2-A、2-Bによる模擬授業と協議会 予復修課題：学習指導案の修正、改善、リフレクションシートのまとめ						
8	模擬授業1-3、協議会 3-A、3-Bによる模擬授業と協議会 予復修課題：学習指導案の修正、改善、リフレクションシートのまとめ						
9	第1回目の模擬授業の振り返り、修正版教材シート提出 リフレクションシートの結果に基づいた模擬授業の振り返り、教材シートの修正 予復修課題：第1回目の模擬授業に関するレポート作成						
10	第2回目の模擬授業に向けた準備 第2回目の模擬授業に向けた教材研究 予復修課題：教材研究の続き						
11	模擬授業1-A、1-B、協議会 1-A、1-Bによる模擬授業と協議会 予復修課題：学習指導案の修正、改善、リフレクションシートのまとめ						
12	模擬授業2-A、2-B、協議会 2-A、2-Bによる模擬授業と協議会 予復修課題：学習指導案の修正、改善、リフレクションシートのまとめ						
13	模擬授業3-A、3-B、協議会 3-A、3-Bによる模擬授業と協議会 予復修課題：学習指導案の修正、改善、リフレクションシートのまとめ						
14	第2回目の模擬授業の振り返り、修正版教材シート提出 リフレクションシートの結果に基づいた模擬授業の振り返り、教材シートの修正 予復修課題：第2回目の模擬授業に関するレポート作成						
15	授業の振り返り、まとめ これまでの授業内容の振り返りとまとめ、レポート提出 予復修課題：1回目と2回目のレポート内容を比較し、要約する						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		器械運動指導法(体づくり運動を含む。)		単位数	授業内容**		
担当		山下 龍一郎(YAMASHITA Ryuichiro)		1	オリエンテーション 1 授業の進め方・成績評価の方法・諸注意 予復修課題：シラバスに目を通し、器械運動の種目特性について考える。(約1時間)		
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		専任	器械運動の学習指導の進め方 2 器械運動の特性を理解する。技の類縁性、補助の意義について。 予復修課題：器械運動感覚づくりに関する参考資料を基に、演習問題に回答し提出する。(約1時間)		
実務経験のある教員による授業		SSJ2104		3 マット運動授業の進め方 マット運動の基本技の技術及び単元計画作成の留意点について学ぶ。 予復修課題：マット運動の基本技の練習方法について要約し、提出する。(約1時間)			
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	4 マット運動：接転技群の学習 前転技群・後転技群の基本技術について学ぶ。 予復修課題：マット運動の基本技の技術ポイントについて要約し、提出する。(約1時間)		
配当年次	2年生	開講学期	前期	スポーツ教育	5 マット運動：はねおき技群の学習 首はねおき・頭はねおきの基本技術について学ぶ。 予復修課題：マット運動の発展技の練習方法について要約し、提出する。(約1時間)		
授業概要	器械運動の各種目(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)には多くの技が存在するが、それらの技は運動技術的に類縁性を有する技群にまとめることができる。授業においては、それぞれの技の基本技術や系統性を理解することで効果的に技を習得していけることを理解する。また、補助の方法や練習の場づくりに関する知識を身につけ、指導における実践的な能力を高める。なお、本授業は講義と実技を合わせて行う。						
授業到達目標	1. 各器械種目の基本技ができるようになる。 2. それぞれの技の基本技術を指導できるようになる。 3. 補助法について理解し、適切に実践できるようになる。 4. 練習の場づくりを工夫することができるようになる。 5. 学習段階におけるつまづきとその対処法について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予習における演習課題を基に授業を展開するため、各授業ごとに1時間を目安に予復修を行うことを望みます。				
1. 小テスト、感想文など		50 %					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		20 %	ロールプレイ：ある運動の未習熟者の動きの模倣を行うことを通じ、欠点を有する学習者の動きの本質を理解できるようにする。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	【第3回～第14回】				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	「器械運動の授業づくり」高橋健夫ほか、大修館書店、1992						
参考書	「高等学校学習指導要領解説 体育・保健体育編」文部科学省、2009						
11 平均台運動：ポーズ・ターンの学習 姿勢保持やターンの技術について学ぶ。 予復修課題：平均台運動の基本技の技術ポイントについて要約し、提出する。(約1時間)		12 鉄棒運動授業の進め方 鉄棒運動の基本技の技術及び単元計画作成の留意点について学ぶ。 予復修課題：鉄棒運動の基本技の練習方法について要約し、提出する。(約1時間)		13 鉄棒運動：支持回転技群の学習 前方支持回転・後方支持回転の技術について学ぶ。 予復修課題：鉄棒運動の基本技の技術ポイントについて要約し、提出する。(約1時間)		14 鉄棒運動：足かけ回転技群の学習 膝掛け上がり・膝掛け回転の技術について学ぶ。 予復修課題：鉄棒運動の発展技の練習方法について要約し、提出する。(約1時間)	
15 平均台運動：歩・走・跳躍グループの学習 平均台上での動きの基本について学ぶ。 予復修課題：平均台運動の基本技の練習方法について要約し、提出する。(約1時間)		15 鉄棒運動：け上がりの学習 け上がりの技術・指導手順について学ぶ。 予復修課題：鉄棒運動の発展技の技術ポイントについて要約し、提出する。(約1時間)					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	陸上競技指導法 Instruction methods for Track and Field				単位数	授業内容**	
担当者	山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei)		疋田 晃久 (HIKITA Akihisa)		1	オリエンテーション (本科目の目標、内容、評価について) 予復修課題：シラバスを読むこと(予復修時間:60分)	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		専任	自己記録の測定 (学習指導要領における陸上競技の種目において、自分がどの程度できるのかを確認) 予復修課題：学習指導要領及びその解説を事前に読むこと(予復修時間:60分)	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	SSJ2204		2	
配当年度	2年生	開講学期	後期	コース区分*		3	
授業概要	学習指導要領解説にある中学校・高等学校の各種目の技能についての確認を行い、種目の基礎知識や種目の特性に合った具体的な指導方法を学習させることで陸上競技の指導力向上を目指す。また、講義で学習した指導方法を実践し、お互いに技能の習得を目指すことで、指導法の実践力向上を目指す。					4	
授業到達目標	陸上競技の運動を理解し、説明・記述・実演できる 陸上競技の指導計画(指導案)の作成ができる 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる 指導方法等の学習した知識を生かして、互いの競技力を向上させることができる					5	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 陸上競技A・Bを履修(履修中)していることが望ましい。		陸上競技の班別指導の実技		
1. 小テスト、感想文など		%	2) 陸上競技指導法の冊子を配布する。配布された冊子は毎回必ず持参すること。		(指導計画に基づいた指導実践)		
2. 中間テスト		%			予復修課題：班別指導計画を作成すること、また該当する種目の指導方法を復習すること(予復修時間:60分)		
3. 課題レポートなどの提出物		30 %			陸上競技の班別指導の実技		
4. 授業中の発表、討論		%			(指導計画に基づいた指導実践)		
5. 授業への参加意欲		30 %			予復修課題：班別指導計画を作成すること、また該当する種目の指導方法を復習すること(予復修時間:60分)		
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			自己記録の測定		
7.		%			(学習指導要領における陸上競技の種目において、自分がどの程度向上できたかを確認)		
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		予復修課題：配布資料に記入した各種目の指導内容を確認しておくこと(予復修時間:60分)		
1. まとめのテスト		%	レポート[第3~8回]		陸上競技の授業における実践と課題		
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %	グループワーク[第9回]		(現職教員の講話を聴く)		
3. 実技技能の向上		10 %	模擬授業[第10~12回]		予復修課題：授業実施上の留意点等について事前に質問項目を考えておく(予復修時間:60分)		
再評価の実施	する	しない			まとめのレポート		
教科書					15 (授業の総括及びまとめレポート)		
参考書					予復修課題：配布資料のノートを完成させる(予復修時間:60分)		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		水泳指導法 Instruction Methods for Swimming		単位数	授業内容**	
担当者		重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)		1	1 ガイダンス及びオリエンテーション 授業の進め方・評価方法の確認 予復修課題：シラバスの確認・授業内容の把握(1時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 クロールの指導法 クロールの初心者への指導法について学習する。 予復修課題：クロール泳法でのプル動作の確認(1時間)	
実務経験のある教員による授業		SSJ3107			3 クロールの指導法 クロールの中級者・上級者への指導法について学習する。 予復修課題：クロール泳法でのキック動作、手足と呼吸のタイミングの確認(1時間)	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾌﾟ	4 平泳ぎの指導法 平泳ぎの初心者への指導法について学習する。 予復修課題：平泳ぎでのプル動作の確認(1時間)
配当年次	3年生	開講学期	前期			5 平泳ぎの指導法 平泳ぎの中級者・上級者への指導法について学習する。 予復修課題：平泳ぎでのキック動作の確認(1時間)
授業概要	水泳指導の種類は多岐にわたるが、本授業では初心者・初級・中級・上級レベルとして、小学生・中学生・高校生を対象とした水泳指導法を中心に学習する。 初心者水泳指導法としての「水慣れ」から「浮く・進む」から、上級者の4種目をより速く泳ぐまでの指導法を理解するとともに、学習者のレベルに応じた水泳指導の工夫の仕方を習得する事を目的とする。					6 背泳ぎの指導法 背泳ぎの指導法について学習する。 予復修課題：泳姿勢とプル及びキック動作の確認(1時間)
授業到達目標	1. 小学生・中学生・高校生を対象に水泳指導ができる。 2. 泳法指導の順序性や学習者のレベルに応じた適切な指導法を実践できる。 3. 水泳指導における安全の確保ができる。 4. 学習指導計画(指導案)を正しく作成することができる。 5. 学習指導計画(指導案)を基に実技指導をすることができる。					7 バタフライの指導法 バタフライの指導法について学習する。 予復修課題：手足のタイミングの取り方と呼吸法(1時間)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 水泳を修得済みであることが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		%	2) 実技指導が中心となるため、各自で水着等の準備をしておくこと。			
2. 中間テスト		%	3) 模擬授業は受講生同士で行うため、欠席をしないように心掛けること。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	4) 指導の際は、教員の指示に従うこと。			
4. 授業中の発表、討論		20 %	5) その他、詳細な留意事項は第1回目に説明を行なう。			
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	第2回～第7回の授業では、各泳法における到達度把握のため、泳力測定をその都度実施する。また、視聴覚教材を用いて、上級者の泳法観察等も実施する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	「中学校学習指導要領解説 保健体育編」「高等学校学習指導要領解説 体育・保健体育編」					
					15	予復修課題：これまでの授業を復修すること(1時間)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		球技指導法 A Instruction methods for Ballgame A		単位数	授業内容**	
担当者		川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)		1	オリエンテーション 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 授業の概要説明 予復修課題: シラバスを熟読しておくこと	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		専任	授業の教材として球技を考える 2) 1) 球技の特徴 2) 球技の分類 3) 球技の授業 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する	
実務経験のある教員による授業		SSJ2205				授業の教材として球技を考える 3) 1) 球技の授業 2) 球技を教材とする目的 3) ゴール型球技の理解 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟｰﾂ教育	授業の教材として球技を考える 4) 1) ゴール型球技の攻防の概念 2) ゴール型球技のゲームの局面 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する
配当年次	2年生	開講学期	後期			球技の授業を考える 5) 1) 球技授業実施上の問題点 予復修課題: グループワークに必要な資料収集と調査
授業概要	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「バスケットボール」である。					
授業到達目標	1. 球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようになる。 2. 球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 3. 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復修を行うこと。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。			
1. 小テスト、感想文など		%	以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	毎講義にて小テストを実施し、授業の振り返りを行なう。			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	中学校学習指導要領解説「保健体育編」文部科学省、2008					
参考書	「高等学校学習指導要領解説 体育・保健体育編」文部科学省、2009					
						15) まとめの試験と講義の総括 予復修課題: これまでの授業を復修する

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		球技指導法 A Instruction methods for Ballgame A		単位数	授業内容**	
担当者	後藤 平太 (GOTO Heita)			1	オリエンテーション 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 授業の概要説明 予復修課題：授業で提示する(履修における留意事項参照)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 サッカーの基礎技術の指導法 ドリブル、パス、1対1の守備などの指導法を学び、指導の練習する 予復修課題：授業で提示する(履修における留意事項参照)	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	SSJ2205	3 サッカーの基礎技術の指導法 ドリブル、パス、1対1の守備などの指導法を学び、指導の練習する 予復修課題：授業で提示する(履修における留意事項参照)	
配当年次	2年生	開講学期	後期	コース区分*	4 サッカーの基礎技術の指導法 ドリブル、パス、1対1の守備などの指導法を学び、指導の練習する 予復修課題：授業で提示する(履修における留意事項参照)	
授業概要	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の習得を図る。また段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、サッカーに焦点を当て、現場での指導方法を重点的に学ぶ。					
授業到達目標	1. 球技運動を理解し、説明・実演できるようになる。 2. サッカーの基礎技術を理解する。 3. サッカーの基礎的な守備の方法を理解する。 4. サッカーの基礎技術や守備に関する実技指導ができるようになる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	第一回目の授業は教室で行います。 第二回目以降はすべてサッカーグラウンドで行います。 サッカー実技の単位を取得していることが望ましい。 授業で配布される資料を基に、各授業ごとに1時間程度の予復修を行う。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		40 %				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		30 %	模擬授業(第2~8、10~14回)			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	実践学習(第2~14回)			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
15 まとめのテストのフィードバックと講義の総括 予復修課題：授業で提示する(履修における留意事項参照)						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	球技指導法 A Instruction methods for Ballgame A				単位数	授業内容**	
担当者	田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)				専任	1 オリエンテーション (本科目の目標、内容、方法、評価などについて説明する。) 予復修課題： 配付された資料の読み返しなど。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング SSJ2205				2 ゴール型球技(ハンドボール)の特性を知る (学習指導要領に記載されている内容を確認し、指導内容について説明する) 予復修課題： 配付された資料の読み返しなど。		
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾌﾟ	3 ハンドボールの基礎技術(ボール操作)の習得 (パスやシュートなど基本的な投げ方について指導する) 予復修課題： 授業内容を振り返り、指導ポイントをまとめる。	
配当年次	2年生	開講学期	後期			4 ハンドボールの基礎技術(シュート)の習得 (ステップシュート・ジャンプシュートについて指導する) 予復修課題： 授業内容を振り返り、指導ポイントをまとめる。	
授業概要	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ハンドボール」である。						
	授業到達目標 1.球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようになる。 2.球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 3.ゴール型球技について、学習指導要領に基づいた指導内容を理解する。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・授業時間や提出期限などルールを守ること。 ・意欲的に授業に参加すること。 予復修の目安は120分。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	・教員の発問に対してグループワークを行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	・グループワークは、主にディスカッション形式で進める。【第3-10回】				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省、2017						
参考書	「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」文部科学省、2018						
			11 実技テスト (様々な実技テストを行う) 予復修課題： 実技テストの内容を振り返り、良い点・悪い点について考える。				
			12 リーグ戦、各チームの課題(技術・戦術)の発見 (試合を行い、各チームの課題を見つける) 予復修課題： 学習内容(指導案)を考えるための資料を収集する。				
			13 課題解決のための学習内容(指導案)の考案・実施、リーグ戦 (各チームの課題をもとに学習内容を考案し実施する) 予復修課題： 学習内容(指導案)を考えるための資料を収集する。				
			14 課題解決のための学習内容(指導案)の考案・実施、リーグ戦 (各チームの課題をもとに学習内容を考案し実施する) 予復修課題： 学習内容(指導案)を考えるための資料を収集する。				
			15 まとめの試験、リーグ戦 (まとめのテストを行う、各チームの課題をもとに学習内容を考案し実施する) 予復修課題： これまでの授業内容、考案した学習内容を振り返る。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		球技指導法 B Instruction methods for Ballgame B		単位数	授業内容**				
担当者		小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)		1	1 オリエンテーション 予復修課題： テニスの技術用語について調査。				
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ3203		2	2 ネット型競技の指導について ラケットワーク, ボレー 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)		
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	3 ネット型競技の特性の理解 ボレー, ストローク(フォアハンド) 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)		
配当年次	3年生	開講学期	後期			4	4 ネット型競技における基本的な技術を学ぶ(移動なし) ストローク(フォアハンド, バックハンド) 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)		
授業概要	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、よりよい指導を行うための工夫を試みる。 本講義では、テニスを題材に指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。また、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。						5	5 ネット型競技における基本的な技術を学ぶ(移動あり) ストローク(フォアハンド, バックハンド) 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
授業到達目標	球技(テニス)運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。 球技(テニス)の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 立案した指導計画(指導案)を基に、テニスの実技指導ができるようになる。						6	6 ネット型競技における基本的な技術指導を学ぶ ストローク(フォアハンド, バックハンド) 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							7	7 生きたボールへの対応(狭い範囲内) ストロークからラリーへ 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							8	8 生きたボールへの対応(広い範囲内) ストロークからラリーへ 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							9	9 上方向のスイングの修得 基礎練習 サービス, スマッシュ 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							10	10 上方向へのスイングの技術指導 基礎練習 サービス, スマッシュ 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				11	11 テニスの指導実践 ゲーム形式 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考える。 授業時間後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての復修を行い理解度を確保すること。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。 予復修は120分を目安とする。						12	12 指導実践に関するグループ討論 ゲーム形式 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)
1. 小テスト、感想文など	20 %	アクティブ・ラーニング 実践学習, ピアコーチング						13	13 テニスの指導実践 ゲーム(団体戦) 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)
2. 中間テスト	%							14	14 テニスの指導実践 ゲーム(団体戦) 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)
3. 課題レポートなどの提出物	10 %							15	15 本科目の総括 テニスの面白さについてディスカッション 予復修課題： テニス選手の試合鑑賞。(TV,ニュース可)
4. 授業中の発表、討論	20 %								
5. 授業への参加意欲	20 %								
6. 自主的学習(予習・復習など)	%								
7.	%								
2) 最終到達度の評価									
1. まとめのテスト	%								
2. 論文、まとめのレポートなど	30 %								
3.	%								
再評価の実施	する	しない							
教科書	(公財)日本テニス協会『テニス指導教本』大修館書店 2015年								
参考書									

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		球技指導法 B Instruction methods for Ballgame B		単位数	授業内容**	
担当者		俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)		1	1 オリエンテーション 予復修課題： シラバスを確認しておくこと。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ3203		2 ネット型競技の指導について バレーボールの技術用語，安全対策 予復修課題： 技術用語と安全対策について
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3 バレーボール競技の特性 試合時間，プレー時間，勝敗を左右する3つの数字と8つの原則 予復修課題： ラリーポイント制について得点の内容を理解しておくこと。	
配当年次	3年生	開講学期	後期	コース区分*	4 チーム全体の基本目標 1 効果的なサーブ，ハイセットの得点力 予復修課題： サーブの種類とその特徴，ハイセットの得点力の獲得に必要な要因の理解	
授業概要	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための工夫を試みる。 本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。更に、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)					
	球技運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。 球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し、他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考えること。			
1. 小テスト、感想文など		10 %	授業終了後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての予復修(60分)を行い、理解度を確認すること。			
2. 中間テスト		%	疑問点は質問し、早期の解決を図る事。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	授業内容に変更がある場合は、授業開始時に説明を行う。			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	指導現場での問題点を抽出し、新たな指導法を考案する。【第7回，8回】			
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
		15 指導方法についてのディスカッション 予復修課題： 年代に応じた基本的な考え方を整理しておくこと。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		球技指導法 B Instruction methods for Ballgame B		単位数	授業内容**			
担当者		田島 さと (TASHIMA Sato)		1	1 オリエンテーション (授業の概要、授業の目的、成績評価の方法、諸注意等)			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		非常勤講師	2 予復修課題: シラバスを熟読しておくこと。オリエンテーションの内容を再度確認する。			
実務経験のある教員による授業		SSJ3203		2 ネット型競技の指導について				
授業形式		実習	科目区分 専攻コース科目	コース区分*	2 予復修課題: 中学校・高等学校学習指導要領解説の球技ネット型について熟読すること。			
配当年次		3年生	開講学期 後期	コース区分*	3 ネット型競技の分類、特性の理解			
授業概要		対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、よりよい指導を行うための工夫を試みる。 本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。また、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。				3 バトミントンの特性と基本技術の理解1 (ストローク、フライトの種類) 予復修課題: ストローク、フライトの種類について調べておくこと。		
授業到達目標		球技 (バドミントン) 運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。 球技 (バドミントン) の指導計画 (指導案) の作成ができるようになる。 立案した指導計画 (指導案) を基に、実技指導ができるようになる。				4 指導計画の全体、授業の工夫、授業実施上の問題点、事故・傷害の防止対策について バトミントンの特性と基本技術の理解2 (コート範囲、サービスエリア範囲の確認) 予復修課題: ショートサービスとスマッシュの基本技術について調べておくこと。		
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						5 バトミントンの実技指導1 (基本技術の習得) (グリップの種類、フォーム確認、シャトルツス、基本ストロークの確認、サービス) 予復修課題: ラケットの握り方 (グリップの種類) について調べておくこと。		
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						6 バトミントンの実技指導2 (基本技術の習得) (ロングサービス、ハイクリアー、フォアハンド、バックハンド) 予復修課題: ロングサービスとハイクリアーの基本技術について調べておくこと。		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						7 バドミントンの実技指導3 (応用技術の習得) (ロングサービス、ハイクリアー、ヘアピン、半面シングルス ) 予復修課題: ヘアピンの基本技術について調べておくこと。		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						8 バドミントンの実技指導4 (応用技術の習得、問題点と改善点について) (ロングサービス、ハイクリアー、ヘアピン、ドライブ、半面シングルス ) 予復修課題: ロングサービスとハイクリアーの指導ポイントについて調べておくこと。		
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				9 バドミントンの指導実践 (シングルス) 課題レポート提出 (ルール・審判法・マナーの習得、コートの範囲・サービスエリアの確認) 予復修課題: シングルスゲームのルールについて調べておくこと。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考える。				10 バドミントンの指導実践 (スマッシュ、シングルの進め方) 予復修課題: シングルのルールを復修し、スマッシュの基本技術について調べておくこと。	
1. 小テスト、感想文など		10 %	授業時間後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての復修を行い理解度を確認すること。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。授業後はUNIVERSAL PASSPORTを確認する。授業内容に変更がある場合は、授業開始時に説明を行う。予復修時間: 30分				11 バドミントンの指導実践 (スマッシュノック、シングルス) 予復修課題: スマッシュの基本技術について復修しておくこと。	
2. 中間テスト		%					12 バドミントンの指導実践 (スマッシュノック、問題点と改善点について、シングルス) 予復修課題: スマッシュの指導ポイントについて調べておくこと。	
3. 課題レポートなどの提出物		25 %					13 バドミントンの指導実践 (ダブルス) まとめレポート提出 (ルール・審判法・マナーの習得、コートの範囲・サービスエリアの確認) 予復修課題: ダブルスゲームのルールについて調べておくこと。	
4. 授業中の発表、討論		10 %					14 バドミントンの指導実践 (ダブルスゲームの進め方) 予復修課題: ダブルスのサービスの順番、サービスを打つ位置について復修しておくこと。	
5. 授業への参加意欲		30 %					15 講義の総括、バドミントンの指導実践 (ダブルス) 予復修課題: ダブルスゲームのルールについて復修しておくこと。	
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	・調査学習 [ 第3回、第4回、第8回、第12回 ]					
2. 論文、まとめのレポートなど		25 %	・実践学習 [ 第5回～第15回 ]					
3.		%	・グループワーク [ 第9回～第15回 ]					
再評価の実施		する	・ミニッツペーパー [ 第12回、第15回 ]					
しない								
教科書								
参考書		中学校学習指導要領解説 保健体育編 文科省 2018、高等学校学習指導要領解説 体育・保健体育編 文科省 2019						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ダンス指導法 Teaching Methods in Dance		単位数	授業内容**	
担当者		鄭 英美 (JUNG Youngmi)		1	1 オリエンテーション (本科目の全般的な内容や流れことについて紹介する) 本科目の到達目標、授業の進め方、評価方法について 予復修課題: シラバスを熟読しておく。予復修の目安時間: 30分	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 ダンス領域の教科目標と内容 科目の種類、特性、教育的価値 予復修課題: 学習指導要領解説のダンスの内容に目を通しておく。予復修の目安時間: 120分	
実務経験のある教員による授業		SSJ3108		専任	3 学習指導要領解説のダンスの内容に目を通しておく。予復修の目安時間: 120分 よいダンスの授業について考える。 予復修課題: よいダンスの授業について各自の考えをまとめる 予復修の目安時間: 120分	
授業形式		実習	科目区分 専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟｰﾂ教育	4 典型教材の理解 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: ダンスウォームアップとは何か。 予復修の目安時間: 120分
配当年次		3年生	開講学期	前期		5 ダンスウォームアップの必要性と指導法 ダンス活動に必要な体づくり 予復修課題: 教材研究の必要性について考えておく。 予復修の目安時間: 120分
授業概要		ダンスの授業への動機づけとなる授業の展開の仕方を、模擬指導を参考にしながら指導者としての在り方を学習する。 ダンスウォームアップを指導するための指導技術を習得する。 現代的なリズムのダンス、フォークダンス、創作ダンスそれぞれの指導計画(学習指導案)の作成と指導計画に基づく模擬指導を行い、指導技術の習得と向上を目指す。				6 ダンスの教材研究) 教材研究の必要性と基礎知識、グループ分け・教材選択 予復修課題: 各グループの教材選択(教材の調査、指導案の作成) 予復修の目安時間: 120分
授業到達目標		1. ダンスの特性、学習内容、指導法について理解し説明できる。 2. ダンスの指導計画(学習指導案)を作成できる。				7 ダンスの教材研究) (教材分析、学習内容(発表)) 予復修課題: 指導案の検討・修正 予復修の目安時間: 120分
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 ダンスの教材研究) 学習評価、指導案(学習内容)発表 予復修課題: 指導案の修正・完成 予復修の目安時間: 120分
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 指導計画に基づく模擬指導及び総合評価 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: 個人の指導案のまとめ(提出) 予復修の目安時間: 120分
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 指導計画に基づく模擬指導及び総合評価 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: 各グループの課題に取り組む。予復修の目安時間: 120分
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				11 指導計画に基づく模擬指導及び総合評価 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: 各グループの課題に取り組む。予復修の目安時間: 120分
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ダンスの指導計画(学習指導案)を作成できる 実際に模擬授業ができるようにすること			12 指導計画に基づく模擬指導及び総合評価 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: 各グループの課題に取り組む。予復修の目安時間: 120分
1. 小テスト、感想文など		%				13 指導計画に基づく模擬指導及び総合評価 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: 各グループの課題に取り組む。予復修の目安時間: 120分
2. 中間テスト		%				14 指導計画に基づく模擬指導及び総合評価 (現代的な)リズムのダンス、フォークダンス、創作ダンス 予復修課題: 各グループの課題に取り組む。予復修の目安時間: 120分
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				15 まとめのテストおよび講義の総括 授業全体について反省点、問題点、改善点などについて検討する(自由討論)アンケート 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間: 300分
4. 授業中の発表、討論		50 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	ダンス領域の中から(単元分野)を決め、			
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %	グループ(2・3人)で教材研究、模擬授業を			
3.		%	実施する。他グループの授業に対しても積極的に			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		評価・フィードバックを行う。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		武道指導法 Teaching of Budo		単位数	授業内容**	
担当者		本多 壮太郎 (HONDA Sotaro)		1	オリエンテーション 1 本授業について、体育における武道領域の目標及び内容について 予復修課題：各種武道の授業上の課題について5つ以上挙げてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSJ3204	2 武道に関する教育的課題について 武道の授業中に起こる事故やその未然防止について 予復修課題：各種武道の事故の未然防止のための対策について5つ以上挙げてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3 武道の授業展開について 中学校第1学年を想定した第1時間目の授業内容の紹介と検討 予復修課題：授業内容の振り返りを行い、改善策をまとめてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)	
配当年次	3年生	開講学期	後期		4 武道の授業展開について 中学校第1学年を想定した第2・3時間目の授業内容の紹介と検討 予復修課題：授業内容の振り返りを行い、改善策をまとめてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)	
授業概要	学校体育における武道領域の授業展開において必要な単元構想力、授業設計力、教材開発力、実践的指導力の修得を図る。各種武道(剣道・柔道)における個人技能及び対人技能を安全に楽しく習得させるための実技と演習を行う。				5 武道の授業展開について 中学校第1学年を想定した第4・5時間目の授業内容の紹介と検討 予復修課題：授業内容の振り返りを行い、改善策をまとめてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)	
授業到達目標	<p>【知識・技能】予復修課題に記載される武道の目標及び内容を説明でき、単元計画及び予復修課題に活かすことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】未習の剣道の技術修得や自覚の向上について理解し、教員への活用できる。</p> <p>【主体性・協働性】教員研九に主体的に取り組みこころに、他者と協働して授業の分析、評価・診断、省察を行うことができる</p>				6 武道の授業展開について 中学校第1学年を想定した第6・7時間目の授業内容の紹介と検討 予復修課題：授業内容の振り返りを行い、改善策をまとめてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 武道の授業展開について 中学校第1学年を想定した第8・9時間目の授業内容の紹介と検討 予復修課題：授業内容の振り返りを行い、改善策をまとめてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)		
【思考力・判断力・表現力】実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 中間まとめ これまでの学習(授業展開)の振り返り、課題レポートについて 予復修課題：これまでの学習に関するレポートを作成する(予復修時間の目安:30～60分程度)		
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 武道の授業展開について 中学校第2学年以降を想定した授業内容の紹介と検討 予復修課題：授業内容の振り返りを行い、改善策をまとめてくる(予復修時間の目安:30～60分程度)		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	学習指導要領武道領域の内容をできるだけ把握しておくこと。			
1. 小テスト、感想文など		%	授業開始の時刻、提出物の期限は必ず守ること。			
2. 中間テスト		%	模擬授業及び協議会が主となるため、積極的に授業に参加すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		50 %	教員志望の学生としての自覚をもって臨むこと。			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	目的、楽しさ、安全、運動力の4つの要素を満たす武道授業教材・下位教材の開発にかかるグループワーク			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	中学校学習指導要領解説(保健体育)、高等学校学習指導要領解説(保健体育)					
				10 これまで提案してきた改善策を基にした教材の考案 予復修課題：教材研究の続き(予復修時間の目安:30～60分程度)		
				11 武道の教材研究 考案した教材の発表、協議会 予復修課題：協議会を踏まえた教材の修正、改善(予復修時間の目安:30～60分程度)		
				12 武道の教材研究 考案した教材の発表、協議会 予復修課題：協議会を踏まえた教材の修正、改善(予復修時間の目安:30～60分程度)		
				13 武道の教材研究、最終レポートについて 考案した教材の発表、協議会 予復修課題：協議会を踏まえた教材の修正、改善(予復修時間の目安:30～60分程度)		
				14 武道の教材研究、最終レポートについての確認 考案した教材の発表、協議会 予復修課題：協議会を踏まえた教材の修正、改善(予復修時間の目安:30～60分程度)		
				15 まとめ、レポート提出 これまでの授業の振り返り、レポートの提出 予復修課題：配布したプリントとレポートの内容を比較検討する(予復修時間の目安:30～60分程度)		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		学校保健 (学校安全を含む。)			単位数	授業内容**	
School Health		佐藤 茂夫 (SATO Shigeo)			2	オリエンテーション	
担当者					非常勤講師	1 当講義の進め方、予修、授業、復修の完全学習を行うことの重要性を理解すること。 予復修課題：学校保健・安全の意義について、自学自修を行うこと。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSJ3109	2 学校保健学概論、学校保健の歴史と現代的課題 健康観の歴史の変遷とWHOの健康憲章、健康の哲学性について講義する。 予復修課題：復修、健康観と健康憲章。予修、学校保健の構造について行うこと。	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3 学校保健の構造、学校保健関係職員と学校保健組織活動 学校保健教育と保健管理、養護教諭と学校保健三師の職務を講義する。 予復修課題：復修、学校保健の構造と関係職員の職務。予修、保健学習の課題を思考すること。	
配当年次		3年生	開講学期	前期		4 保健学習(保健科教育)の現状と課題 保健学習の目的とその教材構造化の3点と「うまい授業の3点」を講義する。 予復修課題：復修、教材構造化の3点とうまい授業の3点。予修、性教育の意味を思考すること。	
授業概要		<p>発育・発達期にある児童・生徒の健康・安全に関する現代的課題を把握し、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康の保持増進に必要な具体的方策を立案できる資質を涵養する。</p> <p>講義は学校保健の意義と目的から、学校保健の運営・組織活動、保健教育と安全教育、保健管理と安全管理の現状について講義を展開し、セーフティプロモーションについての理解を深める。また、基礎医学的な内容を理解することで、健康の本質を追究できる保健体育教師の育成を目指す。</p>			5 保健学習1「小・中学校の保健学習」 学習指導要領における小学校、中学校の保健学習の内容を講義する。 予復修課題：復修、小学校時代、中学校時代の保健学習を思い出すこと。		
授業到達目標		<p>1.健康とは何か、その本質と哲学性を追求することができる。</p> <p>2.教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の内容を理解する。</p> <p>3.学校保健教育と保健管理の内容を理解し、推進することができる。</p> <p>4.保健教育と保健管理、安全教育と安全管理の進め方を理解し、推進することができる。</p> <p>5.児童・生徒の健康と生活上の諸問題について、課題意識を持ち、解決を図ることができる。</p> <p>6.基礎医学(心臓疾患、腎臓疾患、皮膚疾患、口腔保健)の内容を理解し、説明できる。</p>			6 保健学習2「高等学校の保健学習」 学習指導要領における高等学校の保健学習の内容を講義する。 予復修課題：復修、高等学校時代の保健教科書ノートにより内容を自学自修のこと。		
		卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)			7 保健管理1 口腔保健と眼、耳、鼻の学校保健管理 口腔保健、むし歯、歯周病の予防、眼疾患、耳鼻科領域の講義を行う。 予復修課題：復修は、口腔保健、眼、鼻・耳等の健康管理、予修は心臓疾患を自学自修のこと。		
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			8 保健管理2 心臓疾患と学校保健管理 心臓の構造や心臓疾患等を理解し、その疾患を有する児童・生徒への対応を講義する。 予復修課題：復修、心臓の構造と心臓疾患を理解すること。予修、腎臓疾患を自学自修のこと。		
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。			9 保健管理3 腎臓疾患と学校保健管理 腎臓の役割と腎臓疾患を理解し、腎臓疾患を有する児童・生徒への対応を講義する。 予復修課題：復修、腎臓疾患を理解すること。予修は、皮膚疾患とアレルギーを自学自修のこと。		
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。			10 学校安全、自己災害の発生要因と安全教育・安全管理 安全の意味、ハインリッヒのドミノ理論、危機回避について講義する。 予復修課題：復修、ハインリッヒのドミノ理論を理解する。予修、学校の危機管理を思考すること。		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 学校安全教育、安全教育と安全学習 学校における安全教育の内容について講義する。 予復修課題：復修、過去の学校での安全教育内容を思い出して纏めておくこと。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事前に教科書で毎回の授業内容を下調べしておくこと。			12 学校の危機管理及び救急処置 自然災害への対処、不審者への対応と救急処置への心構えを講義する。 予復修課題：復修、実際の自然災害について思考する。予修、食育基本法を読んでおくこと。	
1. 小テスト、感想文など		5 %	自分の小中高校時代の学校における体験を学校保健の立場から振り返ること。			13 学校給食(その歴史、食品衛生管理)と食育 学校給食の歴史、食品衛生管理と食育基本法について講義する。 予復修課題：復修、食育の理念を思考すること。予修、ヘルスプロモーションの理念を自学自修のこと。	
2. 中間テスト		15 %	授業は毎回課題についてのレポート作成作業を同時進行するので、確実に丁寧に全力で作成すること。			14 学校保健とヘルスプロモーション 学校保健活動を促進するために、ヘルスプロモーションスクールの構築を講義する。 予復修課題：復修、ヘルスプロモーションスクールの構築を思考すること。	
3. 課題レポートなどの提出物		5 %	予復修時間は、1時間程度とする。			15 単位認定試験を行う。各講義課題を明確にして、試験に臨むこと。 理解不能な箇所をそのままにせず、必ず質問に来ること。 予復修課題：解答出来なかった箇所を反省すること。	
4. 授業中の発表、討論		5 %	アクティブ・ラーニング				
5. 授業への参加意欲		10 %	保健体育の教員として身に付けなければならない講義内容である。自分が教員となるための必要な内容であることを理解して、講義に参加すること。				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		40 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書		教員養成系大学保健協議会編「第七次改定 学校保健ハンドブック」ぎょうせい出版					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	学校保健 (小児保健・精神保健を含む。)				単位数	授業内容**		
	School Health				2	1	学校保健の現代的課題(学校保健安全法をふまえて)	
担当者	佐藤 茂夫(SATO Shigeo)				非常勤講師		予復修課題: 学校保健 で学んだ内容の再確認と学校保健 の内容確認(予復修時間:1時間程度)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ3205	2	保健教育1「喫煙防止教育」	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*			予復修課題: 今まで受けた喫煙防止教育の内容と時期を確認し課題をまとめる。(予復修時間:1時間程度)	
配当年次	3年生	開講学期	後期				保健教育2「飲酒防止教育」	
授業概要	学校保健安全法によって位置づけられている学校における保健活動を学ぶ。学校保健 で学んだ基礎の発展的課題である保健教育を中心に、特に発育期にある児童・生徒の今日的な健康課題について、保健体育科教員として学習と指導が出来るような知識と技術を学ぶ。加えて、精神的な心の健康問題についても「いじめ・不登校」問題を中心に児童・生徒、教職員の健康課題について学び、学校が安全で安心して学べる場としての確保の重要性を基礎に、学校環境、学校安全についても知識をより深め、学校における保健体育教員への期待に応える。						3	予復修課題: 今まで受けた飲酒防止教育の内容と時期を確認し課題をまとめる。(予復修時間:1時間程度)
							4	保健教育3「薬物乱用防止教育」
							5	予復修課題: 今まで受けた薬物乱用防止教育の内容と時期を確認し課題をまとめる。(予復修時間:1時間程度)
							6	保健教育4「性・エイズ教育」
授業到達目標	学校保健の意義、目的、重要性を説明できる。 学校保健安全法における業務遂行内容を説明できる。 保健教育における児童・生徒の危険行動防止の具体的内容を説明できる。 学校保健における精神保健の重要性と学校における課題について説明できる。 学校保健における学校環境衛生の重要性と課題を説明できる。 学校保健における学校安全の重要性と課題を説明できる。						7	予復修課題: 今まで受けた性・エイズ教育の内容と時期を確認し課題をまとめる。(予復修時間:1時間程度)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係( 特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事前に教科書で授業内容を下調べしておくこと 自分の小中高校時代の学校における体験を学校保健の立場から振り返ること。 授業で毎回資料を配布するが、重要な語を空欄としているので、記載すること。 保健体育の教員として身に付けなければならない講義内容である。自分が教員となるための必要な内容であることを十分理解する事					
1. 小テスト、感想文など		5 %	アクティブ・ラーニング 調査学習(教員採用試験の事例) ディベート法の実施(喫煙と飲酒の年齢) ロールプレイの実施(薬物乱用防止教育) 危険予知訓練の体験と発表					
2. 中間テスト		15 %						
3. 課題レポートなどの提出物		5 %						
4. 授業中の発表、討論		5 %						
5. 授業への参加意欲		10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		40 %						
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	教員養成系大学保健協議会編「第五次改定 学校保健ハンドブック」ぎょうせい出版							
参考書								
							15	予復修課題: 今まで受けた学校保健 の内容を確認し、課題をまとめる。(予復修時間:1時間程度)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		学校保健指導演習 Instruction Methods for School Health			単位数	授業内容**	
担当者		鄭 英美 (JUNG Youngmi)			2	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSJ3206		
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟｰﾂ教育		
配当年次	3年生	開講学期	後期				
授業概要	<p>本科目は、学校における様々な保健活動で必要とされる技能の獲得や資質の向上をめざして演習形式で授業を展開していく。とくに、保健主事の役割や具体的な活動内容、さらには学校保健組織活動の実態についてふれながら、年間保健指導計画や保健だよりの作成、保健学習の教材開発などを試みていきながら、受講学生の保健体育科教員としての力量形成を図る。</p>						
	<p>保健主事の任務や職務内容について理解し説明できる。 学校保健指導計画や保健だよりの機能を理解し、作成できる。 中学校「保健分野」、高等学校「保健科目」の構造と内容を説明できる。 「保健」の学習指導案がきちんと作成でき、授業の運営ができる。</p>						
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
<p>【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p>							
<p>【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。</p>							
<p>【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。</p>							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	中学校「保健分野」、高等学校「保健科目」の構造と内容を説明できる。				
1. 小テスト、感想文など		10 %	単元計画や指導案が書けるようになる。				
2. 中間テスト		%	模擬授業を実施				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		50 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	保健の分野から(単元)を選択し、				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	グループ(2・3人)で教材研究を行い、				
3.		%	模擬授業を実施する。他グループの授業に対しても積極的に評価・フィードバックをする。				
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
1	オリエンテーション (本科目の全般的な内容や流れことについて紹介する) (科目の目標、内容、授業方法等の説明) 予復修課題: シラバスを熟読しておく。予復修の目安時間:30分						
2	「学校保健の歴史」 戦後のわが国で展開されてきた学校保健実践 (わが国における保健管理、保健教育実践について解説) 予復修課題: 前時の資料の理解等。予習内容は別途支持する。予復修の目安時間:120分						
3	現在の学習指導要領における保健の内容 (平成29年より改正された学習指導要領・保健分野について解説) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領解説「総説」「総則」の熟読。予復修の目安時間:120分						
4	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「心身の機能の発達」等の熟読。予復修の目安時間:120分						
5	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「精神機能の発達」等の熟読。予復修の目安時間:120分						
6	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「身体の環境」等の熟読。予復修の目安時間:120分						
7	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「飲料水、空気の衛生管理」の熟読。予復修の目安時間:120分						
8	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「交通事故防止、自然災害」の熟読。予復修の目安時間:120分						
9	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「応急手当」の熟読。予復修の目安時間:120分						
10	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「疾病の予防」の熟読。予復修の目安時間:120分						
11	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学習指導要領「医薬品の有効利用」の熟読。予復修の目安時間:120分						
12	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。保健主事の職務内容についてまとめる。予復修の目安時間:120分						
13	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。保健室の機能についてまとめる。予復修の目安時間:120分						
14	保健教材の作成及び模擬授業 (保健分野の模擬授業や模擬指導の実施・学生、教員による総合評価) 予復修課題: 前時の資料の理解等。学校保健安全計画を作成する。予復修の目安時間:120分						
15	授業の総括 授業全体について反省点、問題点、改善点などについて検討する(自由討論)アンケート 予復修課題: 前時の資料の理解等。予復修の目安時間:300分						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	社会体育論 Theory of out-of-school Physical Education				単位数	授業内容**	
担当者	田代 利恵 (TASHIRO Rie)				2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ2105		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽｽﾞ教育		
配当年次	2年生	開講学期	前期				
授業概要	本講義では現代社会における社会体育の必要性と社会体育の理論と実際を中心に講義する。特にスポーツ政策の中での位置づけ、法的根拠、社会的課題とスポーツの関係性と意義について、地方公共団体での政策実務の経験をふまえた講義を展開する。				1	オリエンテーション 授業の進め方、目標、評価方法等 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
授業到達目標	社会体育の定義及び歴史の変遷を理解する。現代社会における社会体育の必要性と課題について説明できる。行政の施策の中での社会体育の位置づけについて、俯瞰的に捉えることができる。				2	社会体育とは何か 社会体育と社会教育、社会体育の定義 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)					3	社会体育と学校体育 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					4	社会体育とスポーツ政策 国・自治体におけるスポーツ政策 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					5	地域スポーツ 地域スポーツの重要性と課題 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					6	ヘルスプロモーションとスポーツ 厚生労働省とスポーツ庁の連携 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
成績評価の方法(全体で100%)					7	子どものスポーツ 子どものスポーツ実施率向上とスポーツ政策 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
履修における留意事項					8	高齢者の運動・スポーツ 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
1) 授業到達目標への到達努力の評価 評価割合					9	障がい者のスポーツ 障がい者スポーツの現状と課題 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
1. 小テスト、感想文など %					振り返りシート(授業で配布)を記入し、提出する。 評価は、振り返りシート(課題)、出席状況中間及びまとめのテストの総合評価とする。	10	
2. 中間テスト %						スポーツ施設の運営	
3. 課題レポートなどの提出物 50 %						スポーツ施設の課題とマネジメント 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
4. 授業中の発表、討論 %						11	
5. 授業への参加意欲 10 %						スポーツイベントと地域社会 スポーツイベントの社会的効果 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
6. 自主的学習(予習・復習など) %						12	
7. %						スポーツ振興を担う人材 スポーツ指導者の現状と課題 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
2) 最終到達度の評価					13	スポーツとプロモーション 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
1. まとめテスト 40 %					アクティブ・ラーニング		
2. 論文、まとめレポートなど %					授業中に実施する振り返りシートを通して、自分の考え・意見を表現する力をつける。		
3. %					振り返りシートは、10回程度実施する。		
再評価の実施	する	しない			14	連携によるスポーツ振興の事例 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
教科書	必要に応じ、資料等を配布する				15	全体の総括 まとめテスト 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ジュニアスポーツ論 Junior Sports Theory				単位数	授業内容**	
担当者	花田 道子 (HANADA Michiko)	乙木 幸道 (OTOKI Koudou)		専任& 非常勤	2	1 ●ガイダンス 講義概要について詳細に説明します。ジュニアスポーツとは・・・ 予復修課題： 発育発達老化論の教科書を予習	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング		SSJ3110			2 ●ジュニアスポーツ指導員の役割 (その1) 指導者養成の歴史とジュニア期の子ども達の現状 予復修課題： 世界の子ども観の歴史とその違い	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	球	3 ●ジュニアスポーツ指導員の役割 (その2) 【小テスト①】 日本スポーツ協会の今後の取り組み (ジュニアスポーツ指導員に求められていること) 予復修課題： 文部科学省と日本スポーツ協会の関係, 日本スポーツ協会の歴史	
配当年次	3年生	開講学期	前期			4 ●ジュニア期のスポーツの考え方 (その1) 子どものライフスタイルの変化と体の問題 (子どもの体力低下について) 予復修課題： 今から30年前の子どもの体力と今の子どもの体力の違い (両親との差が約30年)	
授業概要	年齢段階の発育・発達およびその個人差を理解し、それに応じたプログラムを選択、指導することが必要である。理解なく、誤った指導を行なった場合、子どもにとって重大なスポーツ障害を発症させる可能性がある。本講義では、乳幼児期から青年期までの発育・発達に応じたスポーツプログラムについて体系的に学習し、ジュニアスポーツを指導するものとして必要な能力を身につけた学生の育成を目指す。						
授業到達目標	遊びや運動の方法や注意点について性、年齢あるいは、意欲に応じた指導方法を考えられる知識を得ることができる。 また、ジュニア期のスポーツ指導者として多様なニーズに対応した基礎敵知識と指導法を習得することができる。						
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 [◎特に関係する ○関係する]							
【知識・技能】	学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					◎	
【思考力・判断力・表現力】	実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					◎	
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					○	
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	発育発達老化論の単位修得済みであることが望ましい					
1. 小テスト、感想文など	20 %	学修の理解度を確保するための試験を3週に1回実施します					
2. 中間テスト	10 %	各授業ごとに1時間を目安に					
3. 課題レポートなどの提出物	%	予復修をおこなうことを望みます。					
4. 授業中の発表、討論	5 %						
5. 授業への参加意欲	5 %						
6. 自主的学習 (予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	60 %	小テスト [第3回、第6回、第9回、第12回]					
2. 論文、まとめのレポートなど	%	事前学習型授業 [第11回]					
3.	%	調査学習 [毎回の授業の中で質問を行います]					
再評価の実施	する	しない	○				
教科書	(日本スポーツ協会) 『公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト』						
参考書							
						11 ●子どもの発達とコミュニケーションスキル (その2) 【レポート課題】 子どもたちのコミュニケーションの基本。子どもに「聞く耳」を持たせるには? 予復修課題： 近年のジュニア期における生活スタイルの大きな変化は何ですか?	
						12 ●動きの発達とスキルの獲得 【小テスト④】 近年の子どもの抱える問題とその対策。ごっこ遊びとスポーツ。自発的な運動の奨励 予復修課題： 不活動小児の具体的活動量	
						13 ●スポーツスキルの獲得と実際 児童期から青年前期の投球・捕球作の獲得。コーディネーション能力とは 予復修課題： 小児期の投動作と捕球動作の写真を基に動作の発達状態を把握する	
						14 ●まとめ講義20分後に 持込不可で60分のまとめのテスト 第13講義で実施した最終テストの解説 予復修課題： 全小テスト内容を確認する	
						15 ●テスト結果公表&答え合わせ+解説 (纏め) まとめのテストと4回の小テスト70点以下は再試験。再試験は40分 予復修課題： 全小テスト内容を確認する	

\*コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ジュニアスポーツ指導演習 Instruction Methods for Junior Sports		単位数	授業内容**	
担当者	花田 道子 (HANADA Michiko)	乙木 幸道 (OTOKI Koudou)		2		1 ガイダンス 【講義】 講義概要について詳細に説明します。ジュニア期の身体的特徴 予復修課題：ジュニアスポーツ論の資料を確認しておく
実務経験のある教員による授業		ナンパリング	SSJ3207			2 ジュニアスポーツの考え方 (ジュニアスポーツ指導員に求められていること) 【講義】 日本スポーツ協会の今後の取り組み・子どものライフスタイルの変化と体の問題 予復修課題：子どもの体力低下についての情報をネットで検索
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3 ジュニア期のスポーツと運動発達 運動発達のとらえ方・発達を規定する要因 【講義】 生涯発達からみたジュニア期のスポーツ・発達における個人差 予復修課題：発育発達を考えた子どものスポーツ指導とはなに？
配当年次	3年生	開講学期	後期			4 発達障害とは(広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害について) 【講義】 子どもの発達途上における生体の機能の一部が成熟しない状態の分類と概要 予復修課題：発達障害の分類はいくつあるか調べておく
授業概要	本科目は、ジュニアスポーツの指導場面において必要とされる、コーディネーショントレーニングの指導方法について、主に理論学習や模擬指導を実施する。 また、子どもたちが自主的に運動(活動)を行えるようなゲームを紹介する。					
	「走る」「跳ぶ」「投げる」等の運動動作を理解し、説明・記述・実践できる。 多種多様なゲームの指導ができる。 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる。 模擬指導に積極的に参加し、その後の討論で意見を述べることができる。 指導の組み立てと時間配分が的確にできる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ジュニアスポーツ論も履修することが望ましい 各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます。				
1. 小テスト、感想文など	%					11 模擬授業 ジュニア期を対象としたレクリエーションゲーム No2 【実技】 狭い場所で用具を使わないゲームの紹介 予復修課題：演習専用のホームページ内のビデオから、狭い場所で行うゲームを確認しておく
2. 中間テスト	%					12 模擬授業 コーディネーション能力を向上させるゲーム No3 【実技】 体育館などの広い場所でおこなうゲームの紹介 予復修課題：演習専用のホームページ内のビデオから、広い場所で行うゲームを確認しておく
3. 課題レポートなどの提出物	30 %					13 紹介したゲームのまとめ グループワークトレーニング 【講義】 グループ討議の注意点 予復修課題：演習専用のホームページ内の説明ビデオのゲーム名をすべて覚えておく
4. 授業中の発表、討論	20 %					14 まとめと筆記試験(60分) 第2~5講義についてのまとめと、第6~12実技で実施したゲームについて資料で説明 予復修課題：第2~5講義についてのまとめと、第6~12実技で実施したゲームについて覚えておく
5. 授業への参加意欲	30 %					15 筆記試験結果発表と再試験(50分) 筆記試験の結果が60点以下の学生は講義の後、再試験を実施する 予復修課題：発達障害、コーディネーショントレーニングの分類、ジュニア期の運動発達を確認しておく
6. 自主的学習(予習・復習など)	10 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	5 %	実践学習 [第5回~第12回]				
2. 論文、まとめのレポートなど	5 %	グループワーク [第5回~第12回]				
3.	%	小テスト [第13回]				
再評価の実施	する	しない				
教科書	(日本スポーツ協会)『公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト』					
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックトレーナー概論 Introduction of Athletic Training				単位数	授業内容**		
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)				2	1	ガイダンス (授業の概要と計画、成績評価の方法など) 予復修課題: 特になし	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング SSJ1202				専任	2	アスレティックトレーナーの歴史 (日本と諸外国) 予復修課題: 事前に教科書 P2~25 を読んでおく	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	日本におけるトレーナーに関する各種資格について 予復修課題: 事前に教科書 P95~98 を読んでおく	
配当年次	1年生	開講学期	後期			4	公認アスレティックトレーナー検定試験の概要 予復修課題: 事前に教科書 P9~16 を読んでおく	
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。 本講義ではアスレティックトレーナーの歴史や役割について概略を説明する。 また、日本スポーツ協会の公認アスレティックトレーナー資格に焦点を当て 検定試験の内容や受験資格に関して説明する。					5	公認アスレティックトレーナーの役割 (スポーツ外傷・障害の予防) 予復修課題: 事前に教科書 P38 を読んでおく	
授業到達目標	アスレティックトレーナーの歴史や役割の概略を学ぶことで アスレティックトレーナー関連科目の学びの意義と目的を明確にすることが出来る。					6	公認アスレティックトレーナーの役割 (スポーツ現場における救急処置) 予復修課題: 事前に教科書 P39 を読んでおく	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )						7	公認アスレティックトレーナーの役割 (アスレティックリハビリテーション) 予復修課題: 事前に教科書 P40 を読んでおく	
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8	公認アスレティックトレーナーの役割 (コンディショニング) 予復修課題: 事前に教科書 P41 を読んでおく	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						9	公認アスレティックトレーナーの役割 (検査・測定と評価) 予復修課題: 事前に教科書 P42 を読んでおく	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						10	公認アスレティックトレーナーの役割 (健康管理と組織運営) 予復修課題: 事前に教科書 P44,95~136 を読んでおく	
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			11	公認アスレティックトレーナーの役割 (教育的指導) 予復修課題: 事前に教科書 P46 を読んでおく	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	通常授業の中で小テストやレポートの作成を行う。 教科書の購入は任意であるが、授業の理解度を深めるために事前に読んでおくことを勧める。 教科書は図書館にもあります。 (各授業における予復修時間の目安: 4時間)				12	公認アスレティックトレーナーと倫理 予復修課題: 事前に教科書 P137~170 を読んでおく	
1. 小テスト、感想文など	15 %					13	公認アスレティックトレーナーの実際の活動 予復修課題: 事前に教科書 P47~94 を読んでおく	
2. 中間テスト	%					14	講義の総括 (質問の受け付けも実施) 予復修課題: 13回目までの内容を復修、また配布資料を用意して授業に参加すること	
3. 課題レポートなどの提出物	15 %					15	講義の総括とまとめのテスト 予復修課題: 14回目までの授業内容を参考に自主学修をしておくこと	
4. 授業中の発表、討論	%							
5. 授業への参加意欲	10 %							
6. 自主的学習 (予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング 15回目を除く全ての授業終了時に授業内容の復習および自身の考えをまとめることを目的にレポートを作成する。						
1. まとめのテスト	60 %							
2. 論文、まとめのレポートなど	%							
3.	%							
再評価の実施	する	しない						
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーテキスト アスレティックトレーナーの役割							
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	機能解剖学 Functional Anatomy I				単位数	授業内容**		
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)				2	1	オリエンテーション (授業の進め方、スケジュールの確認、課題レポートの説明など) 予復修課題: 本授業のシラバスを読む	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング SSJ2106				専任	2	体表の区分、運動の表し方 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p2~7の通読	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	骨の構造と機能、関節の構造と機能 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p8~14の通読	
配当年次	2年生	開講学期	前期			4	靭帯の構造と機能 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p14~16の通読	
授業概要	本科目では人体の動きを理解する上で必要となる骨、関節、筋、神経などの解剖学的用語について学ぶと共に、運動学的側面から人体の機能についての理解を深める。また、スポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導と関連づけて学ぶことにより、アスレティックトレーニングやストレングス&コンディショニングについての基礎知識を身に付ける。なお、本科目では主に運動器の解剖と機能概論および上肢の基礎解剖と運動について学ぶ。						5	筋・腱の構造と機能 (骨格筋の構造~筋収縮の様式) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p16~18の通読
授業到達目標	人体の解剖学的構造を理解し、身体の動きと構造の関連を適切な専門用語を用いて説明することができる。 機能解剖学の基礎知識を用いて上肢におけるスポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導について考えることができる。						6	筋・腱の構造と機能 (筋 腱複合体~筋収縮と関節運動の関係) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p18~20の通読
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )								
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7	骨格筋の神経支配 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p20~26の通読	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8	上肢帯の運動 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p55~60の通読	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9	肩関節の運動 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p61~64の通読	
成績評価の方法 (全体で100%)						10	肘関節の運動 (肘関節の骨格~肘関節の運動) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p65~70の通読	
履修における留意事項						11	肘関節の運動 (肘関節の筋・神経~肘関節の血管) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p71~77の通読	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	各授業においてUNIVERSAL PASSPORTを必ず確認すること				12	手関節・手の運動 (遠位橈尺関節、手関節) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p78~83の通読	
1. 小テスト、感想文など	%	各授業における配布資料やノートの整理など適切に行うこと				13	手関節・手の運動 (手関節・手の筋) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p83~86の通読	
2. 中間テスト	%	各授業ごとに1時間を目安に予復を行うこと				14	手関節・手の運動 (手関節・手の血管と神経) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p86~89の通読	
3. 課題レポートなどの提出物	45 %	課題を全て提出すること				15	まとめのテストと解説 予復修課題: これまでの講義内容について復修する。	
4. 授業中の発表、討論	%	教科書は必ず購入すること						
5. 授業への参加意欲	15 %							
6. 自主的学習 (予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめテスト	40 %	講義内容の中から自ら4つの課題を決めレポートを作成する (課題レポート)。						
2. 論文、まとめレポートなど	%	課題の詳細は授業の中で説明する。						
3.	%							
再評価の実施	する	しない						
教科書	公認アスレティックトレーナーテキスト 運動器の解剖と機能 (公益財団法人 日本スポーツ協会)							
参考書	身体運動の機能解剖 医道の日本社; 改訂版 (2002/5/1)							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		機能解剖学 Functional Anatomy		単位数	授業内容**	
担当者		篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		2	1 オリエンテーション (授業の進め方、スケジュールの確認、課題レポートの説明など) 予復修課題: 本授業のシラバスを読む	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 脊柱の運動 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p27～31	
授業形式		講義	科目区分 専攻コース科目	SSJ2206	3 頸椎の運動 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p32～40	
配当年次		2年生	開講学期 後期	コース区分*	4 胸椎と胸郭の運動 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p41～44	
授業概要	本科目では人体の動きを理解する上で必要となる骨、関節、筋、神経などの解剖学的用語について学ぶと共に、運動学的側面から人体の機能についての理解を深める。また、スポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導と関連づけて学ぶことにより、アスレティックトレーニングやストレングス&コンディショニングについての基礎知識を身に付ける。なお、本科目では主に体幹と下肢における基礎解剖と運動について学ぶ。					
	5 腰椎・仙椎・骨盤の運動 (腰椎・仙椎・骨盤の骨格～腰椎・仙椎・骨盤の運動) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p45～48					
授業到達目標	人体の解剖学的構造を理解し、身体の動きと構造の関連を適切な専門用語を用いて説明することができる。 機能解剖学の基礎知識を用いて体幹におけるスポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導について考えることができる。 機能解剖学の基礎知識を用いて下肢におけるスポーツ外傷・障害、リハビリテーション、トレーニング指導について考えることができる。					
	6 腰椎・仙椎・骨盤の運動 (腰椎・仙椎・骨盤の筋、腰椎・仙椎・骨盤の血管と神経) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p49～54					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )				7 股関節の機能解剖と運動 (解剖～関節の動き) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p20～26の通読		
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 股関節の機能解剖と運動 (解剖～関節の動き) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p94～95		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 膝関節の運動 (膝関節の骨格～膝関節の構造) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p96～102		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 膝関節の運動 (肘関節の運動～膝関節の血管と神経) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p102～105		
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業においてUNIVERSAL PASSPORTを必ず確認すること			
1. 小テスト、感想文など		%	各授業における配布資料やノートの整理など適切に行うこと			
2. 中間テスト		%	各授業ごとに1時間を目安に予復を行うこと			
3. 課題レポートなどの提出物		45 %	課題を全て提出すること			
4. 授業中の発表、討論		%	教科書は必ず購入すること			
5. 授業への参加意欲		15 %				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		40 %	講義内容の中から自ら4つの課題を決めレポートを作成する (課題レポート)。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	課題の詳細は授業の中で説明する。			
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		公認アスレティックトレーナーテキスト 運動器の解剖と機能 (公益財団法人 日本スポーツ協会)				
参考書		身体運動の機能解剖 医道の日本社; 改訂版 (2002/5/1)				
		11 足関節・足部の運動 (足関節・足部の骨格、足関節・足部の関節) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p106～110				
		12 足関節・足部の運動 (足関節・足部の運動、足関節・足部の筋) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p110～117				
		13 足関節・足部の運動 (足関節・足部の筋、足関節・足部の神経と血管) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p112～119				
		14 足関節・足部の運動 (足のアーチと足の形) 予復修課題: 教科書「運動器の解剖と機能」p119～123				
		15 まとめのテストと解説 予復修課題: これまでの講義内容について復修する。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ傷害論 Athletic Injuries I				単位数	授業内容**		
担当者	迫田 真輔 (SAKODA Shinsuke)				2	1	ガイダンス (授業の進め方、スケジュールの確認、課題レポートの説明など) 予復修課題: シラバスを確認する	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ2107	2	スポーツ外傷・障害総論 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p2~5	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	頸部 (頸椎捻挫、バーナー症候群) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p6~10	
配当年次	2年生	開講学期	前期			4	頸部 (頸椎椎間板ヘルニア、頸部のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p10~19	
授業概要	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害の基礎知識について主に体幹と上肢を中心に解説する。						5	腰・背部・骨盤 (腰椎椎間板ヘルニア~筋・筋膜性腰痛症) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p20~26
	スポーツ外傷・障害の概要を理解し説明できるようになる。 スポーツにおいて発生する体幹部および上肢のスポーツ外傷・障害の病態や特性を理解し説明できるようになる。 スポーツ外傷・障害の基礎知識を基にアスレティックトレーニング、トレーニング指導、もしくは、自らの怪我の予防や競技復帰などについて考えられるようになる。						6	腰・背部・骨盤 (鼠径部痛症候群) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p27~41
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						7	腰・背部・骨盤 (骨盤・股関節のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p42~48
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8	肩部 (肩関節前方脱臼、腱板損傷) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p49~54	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						9	肩部 (肩関節脱臼~肩のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p54~58	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						10	肘関節 (MCL損傷~骨膜ひだ障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p59~65	
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			11	肘関節 (肘のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p65~69	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	教科書を必ず購入し持参すること 各授業における配布資料やノートの整理など適切に行うこと 各授業ごとに1時間を目安に予復を行うこと 課題レポートの作成においては少なくとも数週間の時間が掛かることを想定し取り組むこと				12	手・手指 (手関節捻挫、TFCC損傷) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p70~77	
1. 小テスト、感想文など	%					13	手・手指 (手指捻挫、手・手指のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p77~84	
2. 中間テスト	%							
3. 課題レポートなどの提出物	50 %							
4. 授業中の発表、討論	%							
5. 授業への参加意欲	50 %							
6. 自主的学習 (予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング				14	講義内容の総復修 予復修課題: これまでの講義内容について復修する。		
1. まとめのテスト	%	課題レポートの作成に取り組み、且つ自ら選択した内容について取り組むこととする 詳細は別途指示する				15	まとめのテストと解説 予復修課題: これまでの講義内容について復修する。	
2. 論文、まとめのレポートなど	%							
3.	%							
再評価の実施	する	しない						
教科書	公認アスレティックトレーナーテキスト 「スポーツ外傷・障害の基礎知識」							
参考書	新版 スポーツ整形外科学 南江堂; 1版、スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 文光堂; 第2版							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ傷害論 Athletic Injuries		単位数	授業内容**	
担当者		迫田 真輔 (SAKODA Shinsuke)		2	1 ガイダンス (授業の進め方、スケジュールの確認、課題レポートの説明など) 予復修課題: シラバスを確認する	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ2207	2 大腿部 (大腿四頭筋肉ばなれ~大腿部のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p85~95	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3 大腿部 (大腿四頭筋肉ばなれ~大腿部の打撲) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p95~110	
配当年次	2年生	開講学期	後期		4 膝関節 (大腿部のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p101~110	
授業概要	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害の基礎知識について下肢のスポーツ外傷・障害、重篤な外傷、スポーツ整形外科的メディカルチェックなどについて解説する。					
	5 膝関節 (スポーツ障害でのanterior knee pain~内側柵障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p111~118					
授業到達目標	スポーツ外傷・障害の概要を理解し説明できるようになる。 スポーツにおいて発生する下肢のスポーツ外傷・障害や重篤な外傷の病態を理解し説明できるようになる。 スポーツ外傷・障害の基礎知識を基にアスレティックトレーニング、トレーニング指導、もしくは、自らの怪我の予防や競技復帰などについて考えられるようになる。					
	6 下腿部 (腓腹筋肉ばなれ~コンパートメント症候) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p119~129					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)				7 足・足関節 (足関節・足部捻挫~疲労骨折) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p130~142		
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 足・足関節 (過剰骨・種子骨障害~足・足関節のその他の外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p143~156		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 重篤な外傷 (頭蓋骨骨折~脳振とう) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p157~166		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 重篤な外傷 (脊髄損傷~大出血) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p167~176		
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	教科書を必ず購入し持参すること 各授業における配布資料やノートの整理など適切に行うこと 各授業ごとに1時間を目安に予復を行うこと 課題レポートの作成においては少なくとも数週間の時間が掛かることを想定し取り組むこと			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング 課題レポートの作成に取り組み 課題レポートはスポーツ外傷・障害に関連し、且つ自ら選択した内容について取り組むこととする 詳細は別途指示する			
再評価の実施	する	しない	11 重篤な外傷 (その他の外傷) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p177~198			
教科書	公認アスレティックトレーナーテキスト 「スポーツ外傷・障害の基礎知識」					12 年齢・性別による特徴 (女性に特徴的なスポーツ外傷・障害~高齢者に特徴的なスポーツ外傷・障害) 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p119~218
参考書	新版 スポーツ整形外科学 南江堂; 1版、スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 文光堂; 第2版					13 スポーツ整形外科的メディカルチェック 予復修課題: 教科書「スポーツ外傷・障害の基礎知識」p213~218
14 講義内容の総復修 予復修課題: これまでの講義内容について復修する						
15 まとめのテストと解説 予復修課題: これまでの講義内容について復修する						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	コンディショニング論 Theory of Physical Conditioning				単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)				2	1 ガイダンス コンディショニングの概念 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング SSJ2108				専任	2 コンディショニングとコンディショニング コンディショニングとは何かを考える 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾞﾂ	3 遠征時のコンディショニング 海外遠征・国内遠征時のコンディショニング 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
配当年次	2年生	開講学期	前期			4 コンディショニングの評価 評価方法を学ぶ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業概要	本科目では、スポーツ現場におけるコンディショニングの定義および手法を学ぶ。コンディショニングとコンディショニングを考え、セルフコンディショニングを含んだ概念を理解することで自身の競技あるいは将来サポートする場合に役立てていく。					5 コンディショニングの身体的要素 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業到達目標	コンディショニングとコンディショニングの意味を説明できる。 コンディショニングの必要性やその実施方法を説明できる。 指導者またはアスレティックトレーナーになるための基礎知識を身につけ、スポーツ現場で実践できるようになることを目標とする。 自身の競技にも役立たせる。					6 コンディショニングの環境的要素 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 コンディショニングの心理的要素 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8 トレーニング計画とコンディショニング ピリオダイゼーションと超回復およびトレーニングの原理原則 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9 ケーリングダウンおよびアクティブリカバリー 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・「機能解剖学」、「スポーツ医学」 「スポーツ傷害論」、「スポーツ傷害論」 履修していることが望ましい。 ・AT希望者はAT教本6を必ず持参すること ・AT希望者以外も広く受講を認める				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		70 %					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	各回グループディスカッションを実施する				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	コンディショニングの評価を継続して行う				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	公認アスレティックトレーナーテキスト6 予防とコンディショニング 日本スポーツ協会						
参考書	競技者の外傷予防 医歯薬出版						
						15 まとめと総括 予復修課題：これまでの学習範囲に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コンディショニング演習 Physical Conditioning Laboratory			単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)			専任	1	コンディションとコンディショニングの概要 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング			SSJ2208	2	スポーツマッサージ演習 下腿と大腿部 予復修課題： 上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	スポーツマッサージ演習 腰背部 予復修課題： 上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
配当年次	2年生	開講学期	後期			4	ストレッチング演習 スタティックストレッチング パートナーストレッチング 予復修課題： 上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
授業概要	本講義は「コンディショニング論」で学んだ手法などを実践し、その注意点について学ぶ。また、競技者を想定し、これまで学んだ知識・技術を活用し、さまざまなプログラムの立案・設計を行う。					5	ストレッチング演習 PNFストレッチング演習 予復修課題： 上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
授業到達目標	講義・演習により学習したコンディショニング方法を実施できる。コンディショニングプログラムを作成することができる。					6	ストレッチング演習 ダイナミックストレッチングとムーブメントプレパレーション 予復修課題： 上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・「解剖生理学」「コンディショニング論」「スポーツ傷害論」「スポーツ傷害論」「スポーツ医学」「スポーツ生理学」「体力測定評価法実習」などを履修・修得していることが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		%	・必ず教科書を持参すること。				
2. 中間テスト		%	・実技も行なうため、相応しい服装を準備しておくこと。				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	コンディショニングプログラムを作成し				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	実践する。(第12回～第14回)				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	公認アスレティックトレーナーテキスト6 予防とコンディショニング 日本スポーツ協会						
参考書	競技者の外傷予防 医歯薬出版						
						15	まとめと総括 予復修課題： これまでの学習範囲に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		身体機能評価法 Measurement and Evaluation of Human Performance			単位数	授業内容**		
担当者	吉井 剛 (YOSHII Takeshi)			2	1	オリエンテーション 講義内容の説明と、授業を受ける上での諸注意を説明 予復修課題：シラバスを読んでおくこと		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ2209	2	【機能評価とは】 身体評価を実施するうえでの、基本的内容の説明 予復修課題：教科書の注文を行うこと		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	【身体測定】 上肢・下肢・体幹などの長さの求め方の説明 予復修課題：上肢・体幹などの長さの求め方についての予修をすること	
配当年次	2年生	開講学期	後期			4	【身体測定】 上肢・体幹などの長さの求め方と測定 予復修課題：上肢・体幹などの長さの求め方と測定の実技に備えること	
授業概要	アスレティックトレーナーとして必要な検査・測定法を学習し、その得られたデータ・を統合させコンディショニングの維持、外傷の予防、怪我からの復帰など選手に対して最善の状態に持っていくために必要な知識・技術の学習を行う。						5	【周径測定】 下肢などの長さの求め方と測定 予復修課題：下肢などの長さの求め方と測定の実技に備えること
	各種の評価法の理解と実施が出来るようになること 身体機能評価で得られたデータ・を統合できるようになること 動作分析ができるようになること						6	【筋力評価】 筋力評価法の実施の仕方の説明 予復修課題：筋力評価法についての予修をすること
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						7	【筋力評価】 筋力評価法の実施 予復修課題：筋力評価法の実技に備えること
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8			【関節可動域測定】 関節可動域測定法の実施の仕方の説明 予復修課題：関節可動域測定法についての予修をすること
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9			【関節可動域測定】 関節可動域測定法の実施 予復修課題：関節可動域測定法の実技に備えること
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10			【柔軟性・タイトネス測定】 柔軟性・タイトネス測定の理解と測定 予復修課題：柔軟性・タイトネス測定の検査方法を理解し、実技に備えること
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	教科書を持参すること		11			【アライメント評価】 身体のアライメントの説明と実施 予復修課題：身体のアライメントの検査方法を理解し、実技に備えること
1. 小テスト、感想文など		%	解剖学・運動学の授業を受けている者		12			【歩行・走行について】 基本的な動きについての説明 予復修課題：歩行・走行に関して教科書を読んでおくこと
2. 中間テスト		%	アスレティックトレーナーを目指す者		13			実技テスト これまで学習した実技テストを実施 予復修課題：実技試験に対するの対策をすること
3. 課題レポートなどの提出物		20 %			14			実技テストと全講義の振り返り 予復修課題：実技試験に対するの対策をすること
4. 授業中の発表、討論		%			15			まとめのテスト 講義全体のまとめとテストを実施 予復修課題：まとめの確認を行うこと
5. 授業への参加意欲		30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング					
1. まとめテスト		40 %	小テスト(第2回目・第4回目)					
2. 論文、まとめレポートなど		%						
3. 実技テスト		10 %						
再評価の実施	する	しない						
教科書	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第5巻検査・測定と評価 (財)日本スポーツ協会							
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ傷害評価法 Assessment of Sports Injuries				単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)				2	1 傷害評価の概要 アスレティックトレーナーに必要な評価 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	機能評価に必要な検査測定	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	SSJ3111	2 HOPS (問診, 視診, 触診, スペシャルテスト (整形外科的検査)) 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
配当年次	3年生	開講学期	前期			3 筋タイトネステストと全身関節弛緩性テスト 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業概要	本講義はスポーツ現場でみられる外傷・障害に対する関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科的検査などの理学検査を用いた評価法を学ぶ。					4 アライメントおよび関節可動域、徒手筋力検査法 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業到達目標	評価に必要な検査・測定が実施できる。 主訴および受傷機転から必要な検査を選択し、実践することができる。 競技者におもいやりを持ち接することができる。 競技者と必要な会話をすることができる。					5 膝関節・下腿部の評価 関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科的検査など 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・「機能解剖学」「機能解剖学」「スポーツ傷害論」「スポーツ傷害論」「身体機能評価法」が単位修得済みであることが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		30 %	・必ず教科書 (AT教本5) を持参すること。				
2. 中間テスト		%	・実技も行なうため、半袖、短パンを常に準備しておくこと。				
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		50 %	実践学習を行うとともに、総合評価演習にてロールプレイを実施する。(第11-14回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する		しない				
教科書	日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナーテキスト				測定と評価		
参考書					15 予復修課題：これまでの学習範囲に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	リハビリテーション論 Rehabilitation Theory				単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)				2	1 アスレティックリハビリテーションの定義と概要 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ3112	2 機能評価の考え方とリスク管理の基礎知識 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3 アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
配当年次	3年生	開講学期	前期			4 筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。	
授業概要	本講義は、3年生後期のアスレティックリハビリテーション論、4年生前期のアスレティックリハビリテーション演習に続く最初の講義である。アスレティックリハビリテーションとは何かを理解し、現場で行われるアスレティックリハビリテーションの前段階であるメディカルリハビリテーションの理論・方法を学ぶ。						5 関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
	復帰初期段階までのリハビリテーションを理解し実践できるようなる。物理療法、運動療法、補装具の使用方法を理解する。						6 神経筋協調性回復、向上エクササイズ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )						7 全身持久力回復、向上エクササイズ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
	【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8 身体組成の管理に用いるエクササイズ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						9 再発予防、外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						10 各種物理療法における基礎知識とその実践 (概論、温熱・寒冷療法) 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項				11 各種物理療法における基礎知識とその実践 (電気・超音波療法、鍼、灸、マッサージ) 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・「機能解剖学」「機能解剖学」「スポーツ傷害論」「スポーツ傷害論」「身体機能評価法」が単位修得済みであることが望ましい。				12 補装具とその使用目的 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
1. 小テスト、感想文など		%	・必ず教科書 (AT教本5) を持参すること。				13 リハビリテーションプログラム作成に向けた評価とエクササイズ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
2. 中間テスト		20 %	・実技も行なうため、半袖、短パンを常に準備しておくこと。				
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング 実践学習を行うとともに、総合評価演習にてロールプレイを実施する。(第6-14回)				14 講義のまとめ 予復修課題：これまでの内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					15 まとめと総括 予復修課題：これまでの内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		30 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナーテキスト アスレティックリハビリテーション						
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックリハビリテーション論 Athletic Rehabilitation Theory				単位数	授業内容**	
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)				2	1 ガイダンス (本講義およびアスレティックリハビリテーションの概要について) 予復修課題: 事前に機能解剖学、スポーツ傷害論、リハビリテーション論を復修しておくこと	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 予復修課題: 事前に専門科目テキスト7 p103-116の内容を学修しておく 2 頸椎捻挫に対するアスレティックリハビリテーション	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	SSJ3208	3 予復修課題: 事前に専門科目テキスト7 p117-132の内容を学修しておく 3 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション	
配当年次	3年生	開講学期	後期			4 予復修課題: 事前に専門科目テキスト7 p133-143の内容を学修しておく 4 肩関節前方脱臼に対するアスレティックリハビリテーション	
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。 本講義では、部位および傷害別におけるアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。 具体的には傷害発生のメカニズムから再発予防までを考慮したアスレティック リハビリテーションプログラムの概要や作成方法について学ぶ。					5 予復修課題: 事前に専門科目テキスト7 p144-153の内容を学修しておく 5 投球障害肩に対するアスレティックリハビリテーション	
授業到達目標	各部位および傷害別におけるアスレティックリハビリテーションの概要を理解し、 安全かつ効果的なプログラムを作成できるようになる。					6 予復修課題: 事前に専門科目テキスト7 p154-160の内容を学修しておく 6 外傷性肘MCL損傷に対するアスレティックリハビリテーション	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・本講義を受講する者は 「機能解剖学」、「機能解剖学」、 「スポーツ傷害論」、「スポーツ傷害論」、 「アスレティックトレーナー概論」、 「リハビリテーション論」を受講中 もしくは受講修了者であることが望ましい。 ・教科書持参のうえで、受講をすること。 (各授業における予復修時間の目安: 4時間)				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング 本講座は事前学習型授業である。そのため、 右に記した各授業における予復修課題を実施 した上で授業に参加することが望ましい。				
再評価の実施	する	しない					
教科書	日本スポーツ協会「公認アスレティックトレーナーテキスト アスレティックリハビリテーション」						
参考書	山本利春「競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング」 文光堂						
15 予復修課題: 事前に10~14回目までの内容を復修しておくこと							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックリハビリテーション演習 Seminar of Athletic Rehabilitation				単位数	授業内容**	
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)				2	1 授業ガイダンス (授業の流れ、成績評価の方法など) アスレティックリハビリテーションの考え方 予復修課題: 事前に教科書p2~17を読んでおくこと	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 運動療法の基礎知識 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識 予復修課題: 事前に教科書p18~102を読んでおくこと	
SSJ4103	授業形式	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾞﾂ	3 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: 頸部・腰部 予復修課題: 事前に教科書p103~132を読んでおくこと	
配当年次	4年生	開講学期	前期			4 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: 肩関節 (野球: 投球障害肩含む) 予復修課題: 事前に教科書p133~153, 322~325を読んでおくこと	
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験をもとに授業を展開する。 各種スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの流れを理解する。 また、傷害発生のメカニズムから再発予防、また各競技の特性を理解したうえで プログラミングならびに適時各エクササイズの実践を行う。					5 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: 肘・手関節 予復修課題: 事前に教科書p154~178を読んでおくこと	
授業到達目標	競技現場における安全で効果的なアスレティックリハビリテーションを 実践・指導することが出来る。 各スポーツ傷害および競技特性を踏まえて適切なプログラミングが出来る。 競技復帰だけではなく再発予防という観点からも指導が出来る。					6 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: 足関節 予復修課題: 事前に教科書p179~187を読んでおくこと	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: 膝MCL・ACL 予復修課題: 事前に教科書p188~211を読んでおくこと	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: 大腿屈筋群 予復修課題: 事前に教科書p212~219, 276~285を読んでおくこと	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9 外傷ごとのリハビリプログラムと実践: その他 予復修課題: 事前に教科書p220~255を読んでおくこと	
成績評価の方法 (全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・本講義を受講する者は 「機能解剖学」、「機能解剖学」、 「スポーツ傷害論」、「スポーツ傷害論」、 「アスレティックトレーナー概論」、 「リハビリテーション論」、 「アスレティックリハビリテーション論」、 の受講終了者であることが望ましい。 (各授業における予復修時間の目安: 4時間)			10 アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性 予復修課題: 事前に教科書p256~275を読んでおくこと	
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			11 競技特性に基づいたリハビリ: 水泳、バレーボール 予復修課題: 事前に教科書p286~289, 306~310を読んでおくこと	
1. まとめのテスト		%	2~8、および9~14回目の授業時にグループ			12 競技特性に基づいたリハビリ: サッカー、バスケットボール、ハンドボール 予復修課題: 事前に教科書p290~297, 298~305, 311~321を読んでおくこと	
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	ワークと実践学習を行う。また、10回目と			13 競技特性に基づいたリハビリ: ラグビー、柔道、レスリング 予復修課題: 事前に教科書p326~332, 333~338を読んでおくこと	
3.		%	15回目の授業時にレポートを作成する。			14 競技特性に基づいたリハビリ: 体操競技、スキー、スケート 予復修課題: 事前に教科書p339~355を読んでおくこと	
再評価の実施	する	しない	15 全講義の総括とまとめのレポート作成 予復修課題: 14回目までの講義内容について復修し、理解を深めておくこと				
教科書	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション						
参考書	山本利春「競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング」 文光堂						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ内科学 Sports Medicine				単位数	授業内容**	
担当者	下野 大 (SHIMONO Dai)				非常勤 講師	1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 循環器疾患・呼吸器疾患を中心とした解説を行う。 予復修課題：アスリートで注意すべき循環器疾患を調べ、まとめる。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ3209	2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 消化器疾患・血液疾患・代謝疾患などを中心とした解説を行う。 予復修課題：アスリートで起こる貧血の原因について調べ、まとめる。
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	内科的障害と予防 突然死・熱中症について、予防法を含めた解説を行う。 予復修課題：熱中症予防のための運動指針(日本スポーツ協会)を調べ、まとめる。
配当年次	3年生	開講学期	後期			4	内科的障害と予防 気管支喘息・過換気症候群・オーバートレーニング症候群について解説を行う。 予復修課題：オーバートレーニング症候群の症状・予防対策を調べ、まとめる。
授業概要	スポーツには、成績を競う競技スポーツの側面だけではなく、健康増進を目的の行う健康スポーツの側面がある。 また、スポーツにおける健康障害には、整形外科的な障害だけでなく、内科的障害もある。 本講義では、高齢者・有疾病者を含むすべての人々が安全にスポーツを行うことができるよう内科的な知識を習得し、その実践を行えるようになることを目的とする。					5	感染症に対する対応策 感染症の分類を行い、呼吸器感染症を中心に解説を行う。 予復修課題：感染症の分類方法を調べ、まとめる。
授業到達目標	内科的疾患およびスポーツによってもたらされる内科的しょうがいを理解し、安全にスポーツを行えるように指導することができる。 メディカルチェックの内容・方法を理解し、実践することができる。 ドーピングコントロールについて知識を習得し、適切なアドバイスをできるようになる。 スポーツによる内科的障害を理解し、その予防計画を立案できる。					6	感染症に対する対応策 血液感染症・皮膚感染症などについて解説を行う。 予復修課題：血液感染症の予防方法について調べ、まとめる。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	講義の際にプリントを配布する。 講義毎の内容の予復修を行うこと。 各講義ごとに、約1時間の予復修を行うことを望みます。		11		年齢・性別による特徴 女性に多いスポーツ障害などについて解説を行う。 予復修課題：female athlete triadについて調べ、それぞれの予防方法についてまとめる。	
1. 小テスト、感想文など	%			12		年齢・性別による特徴 成長期・高齢期におけるスポーツ障害などについて解説を行う。 予復修課題：高齢者スポーツにおける注意点を考察し、まとめる。	
2. 中間テスト	%			13		内科的メディカルチェック スポーツを行う際の内科的メディカルチェックについて解説を行う。 予復修課題：内科的メディカルチェックの内容を調べ、まとめる。	
3. 課題レポートなどの提出物	5 %			14		ドーピングコントロール ドーピングの定義、TUEについて解説を行う。 予復修課題：ドーピングの定義と予防対策について調べ、まとめる。	
4. 授業中の発表、討論	%			15		まとめのテスト・講義の総括 講義の総括として、運動指導者として身につけるべき内科的知識のまとめを行う。 予復修課題：講義中に配布したプリントを見直し、要点をまとめる。	
5. 授業への参加意欲	15 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	5 %						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング 知識習得を目的とした講義であり、 アクティブラーニングは導入していないが、 講義の際には積極的な発言を求める。					
1. まとめテスト	75 %						
2. 論文、まとめレポートなど	%						
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書	講義中にプリントを配布する。						
参考書	赤間高雄編 スポーツ医学【内科】 化学同人 2014年						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックテーピング Athletic Taping				単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)				1	専任	1 テーピングの理論 ・テーピングの目的、効果、注意事項等の説明・ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ3113		2 足関節のテーピング ・基本的なテーピングの巻き方を学習する・ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		スポーツ	3 足関節のテーピング ・基本的なテーピングの巻き方を学習する・ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、不明な点は調べる。
配当年次	3年生	開講学期	前期				4 足関節のテーピング ・競技特性・傷害特性に応じたテーピングの巻き方を学習する・ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、実技を予復修する。
授業概要	スポーツ外傷の予防、保護、再発防止などに用いられるテーピングの基本的な巻き方とスポーツ競技特性や外傷の種類を考慮した応用的な巻き方について実習を行う。						5 足部のテーピング ・基本的かつ競技特性・傷害特性に応じたテーピングの巻き方を学習する・ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、実技を予復修する。
授業到達目標	本講義では日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格試験を念頭においているが、テーピング技術だけでなく競技者に思いやりを持ち、こころのこもったテーピング技術の獲得を目指す。 選手に応じて適切なテーピングの種類・方法を選択できるようになる。 なお、足関節の再発予防のテーピングは1分30秒以内に巻ける圧倒的な技術を身につける！ 選手に本当に巻くという気持ちを持ち、使えるテーピングが巻けるか評価する。						6 下腿部のテーピング ・基本的かつ競技特性・傷害特性に応じたテーピングの巻き方を学習する・ 予復修課題：上記内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、実技を予復修する。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・必ず教科書を持参すること。 ・本講は公認AT資格受験を前提とした授業内容である。AT実技資格に沿った評価基準にて実技試験を行う。 ・足関節のテーピングに関してはそれとは別の評価方法により実技試験を行う。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論	10	%					
5. 授業への参加意欲	10	%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	80	%	実践学習を行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	すべての講義において実践する。				
3.		%	(第1回-第15回)				
再評価の実施	する	しない					
教科書	日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナーテキスト 予防とコンディショニング						
参考書	競技者の外傷予防, 医歯薬出版, 小林直行						
						15	まとめと総括 予復修課題：これまでの内容に関し予復修2時間を目安に教科書指定範囲を読み、実技を予復修する。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックトレーニング現場実習 Internship in Athletic Training				単位数	授業内容**		
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuta)		1	様々な競技を見学し、競技特性やアスレティックトレーナーの関わりについて考える		
実務経験のある教員による授業			ナンバリング	SSJ3301	専任	予復修課題：アスレティックトレーナーに関する学び全般の復修をしておく		
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		2	見学実習 (30時間)	
配当年次	3-4年生	開講学期	前期集中					
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行うことが必要である。日本スポーツ協会の指定実習内容は 見学実習(30時間)、 検査・測定、評価実習(30時間)、 スポーツ現場実習(30時間)、 アスリハ実習(30時間)、 総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習はこのカテゴリーの見学実習(30時間)に相当する。							3
	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。 5種類のスポーツ競技を見学し、競技特性や想定されるスポーツ外傷・障害をまとめることができる。							4
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							5
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							6
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						7		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						8		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			9		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	公認アスレティックトレーナー資格の受験要件科目であるため、資格取得を希望し、その他の受験要件科目の履修を終えているか、履修中である者のみ現場実習を行うことができる。 (各実習における予復修時間の目安：4時間)				10		
1. 小テスト、感想文など	%					11		
2. 中間テスト	%					12		
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					13		
4. 授業中の発表、討論	20 %					14		
5. 授業への参加意欲	40 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				14		
1. まとめのテスト	%	毎実習終了時にグループディスカッションを行う。また、15回目の実習終了後にはレポートを作成し、自身の活動の振り返りと次への課題を確認する。				15		
2. 論文、まとめのレポートなど	%							
3.	%							
再評価の実施	する	しない	見学実習で学んだことを振り返りレポートにまとめる。					
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト					15		
参考書						予復修課題：現場実習報告書を完成させ、提出する。		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックトレーニング現場実習 Internship in Athletic Training				単位数	授業内容**
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuta)		1	1 各種の外傷・障害に対して検査・測定、評価し、それらを適切に記録する 予復修課題：各種の外傷・障害に対する検査・測定、評価の方法を予修しておく
実務経験のある教員による授業			ナンバリング	SSJ3302	2	<p style="text-align: center;">検査・測定、評価実習 (30時間)</p>
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3	
配当年次	3-4年生	開講学期	前期集中		4	
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行うことが必要である。日本スポーツ協会の指定実習内容は 見学実習(30時間)、 検査・測定、評価実習(30時間)、 スポーツ現場実習(30時間)、 アスリハ実習(30時間)、 総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習はこのカテゴリーの 検査・測定、評価実習(30時間)に相当する。					
	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。主要なスポーツ外傷・障害に対して検査・測定、評価し、それらを適切に記録することができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
	成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	公認アスレティックトレーナー資格の受験要件科目であるため、資格取得を希望し、その他の受験要件科目の履修を終えているか、履修中である者のみ現場実習を行うことができる。 (各実習における予復修時間の目安：4時間)				
1. 小テスト、感想文など	%	<p style="text-align: center;">アクティブ・ラーニング</p> 毎実習終了時にグループディスカッションを行う。また、15回目の実習終了後にはレポートを作成し、自身の活動の振り返りと次への課題を確認する。				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト					
参考書	予復修課題：現場実習報告書を完成させ、提出する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		アスレティックトレーニング現場実習 Internship in Athletic Training		単位数	授業内容**		
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)	西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuta)		1	専任	1 外傷・障害の評価と応急処置、またストレッチング指導やテーピングを行う 予復修課題：外傷・障害の評価と応急処置、ストレッチングやテーピングについて予修をしておく	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング	SSJ3303	2		<p style="text-align: center;">スポーツ現場実習 (30時間)</p>	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目		ｽﾎﾞﾄﾚ		
配当年次	3-4年生	開講学期	前期集中				
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行うことが必要である。日本スポーツ協会の指定実習内容は 見学実習(30時間)、 検査・測定、評価実習(30時間)、 スポーツ現場実習(30時間)、 アスリハ実習(30時間)、 総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習はこのカテゴリーのスポーツ現場実習(30時間)に相当する。						
	3 4						
授業到達目標	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。						
	5 6						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
9 10							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	公認アスレティックトレーナー資格の受験要件科目であるため、資格取得を希望し、その他の受験要件科目の履修を終えているか、履修中である者のみ現場実習を行うことができる。 (各実習における予復修時間の目安：4時間)				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	毎実習終了時にグループディスカッションを行う。また、15回目の実習終了後にはレポートを作成し、自身の活動の振り返りと次への課題を確認する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	14				
3.		%	15				
再評価の実施	する	しない	スポーツ現場実習で学んだことを振り返り、次の実習の課題を確認する。				
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト						
参考書	予復修課題：現場実習報告書を完成させ、提出する。						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックトレーニング現場実習 Internship in Athletic Training				単位数	授業内容**		
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuta)		1	1 外傷・障害に対して適切なアスレティックリハビリテーションを処方し、指導をする 予復修課題： 外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの処方と指導を予修しておく		
実務経験のある教員による授業			ナンバリング	SSJ3304	2	アスリ八実習 (30時間)		
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3			
配当年次	3-4年生	開講学期	後期集中		4			
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行うことが必要である。日本スポーツ協会の指定実習内容は 見学実習(30時間)、 検査・測定、評価実習(30時間)、 スポーツ現場実習(30時間)、 アスリ八実習(30時間)、 総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習はこのカテゴリーのアスリ八実習(30時間)に相当する。				5			
	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。 主なスポーツ外傷・障害に対して適切なアスレティックリハビリテーションを処方し指導することができる。				6			
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				7			
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8			
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9			
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10			
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項						11
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	公認アスレティックトレーナー資格の受験要件科目であるため、資格取得を希望し、その他の受験要件科目の履修を終えているか、履修中である者のみ現場実習を行うことができる。 (各実習における予復修時間の目安：4時間)						12
1. 小テスト、感想文など	%							13
2. 中間テスト	%							14
3. 課題レポートなどの提出物	20 %							
4. 授業中の発表、討論	20 %							
5. 授業への参加意欲	40 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				14		
1. まとめのテスト	%	毎実習終了時にグループディスカッションを行う。また、15回目の実習終了後にはレポートを作成し、自身の活動の振り返りと次への課題を確認する。				15		
2. 論文、まとめのレポートなど	%							
3.	%							
再評価の実施	する	しない	アスリ八実習で学んだことを振り返り、次の実習の課題を確認する。					
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト				15	予復修課題： 現場実習報告書を完成させ、提出する。		
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		アスレティックトレーニング現場実習 Internship in Athletic Training		単位数	授業内容**	
担当者		辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka) 西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuta)		1	1 外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションを処方し、外傷発生から競技復帰に至る全てを指導する 予復修課題：外傷・障害の評価、全期間におけるアスリハの指導について予修しておく	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSJ3305	2	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	3	
配当年次	3-4年生	開講学期	後期集中		4	
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行うことが必要である。日本スポーツ協会の指定実習内容は 見学実習(30時間)、 検査・測定、評価実習(30時間)、 スポーツ現場実習(30時間)、 アスリハ実習(30時間)、 総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習はこのカテゴリーの 総合実習(60時間)の前半に相当する。					
	5 学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。					
授業到達目標	6 主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションを処方し、外傷発生から競技復帰に至る全てを指導することができる。					
	7 卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8		総合実習(前半) (30時間)
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	公認アスレティックトレーナー資格の受験要件科目であるため、資格取得を希望し、その他の受験要件科目の履修を終えているか、履修中である者のみ現場実習を行うことができる。 (各実習における予復修時間の目安：4時間)			
1. 小テスト、感想文など		%	11			
2. 中間テスト		%	12			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	13			
4. 授業中の発表、討論		20 %	14			
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	毎実習終了時にグループディスカッションを行う。また、15回目の実習終了後にはレポートを作成し、自身の活動の振り返りと次への課題を確認する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	14			
3.		%				
再評価の実施	する	しない	15 総合実習(前半)で学んだことを振り返り、次の実習の課題を確認する。			
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト					
参考書	予復修課題：現場実習報告書を完成させ、提出する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックトレーニング現場実習 Internship in Athletic Training				単位数	授業内容**		
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuta)		1	1	外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションを処方し、外傷発生から競技復帰に至る全てを指導する 予復修課題：外傷・障害の評価、全期間におけるアスリハの指導について予修をしておく	
実務経験のある教員による授業			ナンバリング	SSJ3306		2	総合実習(後半) (30時間)	
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*				
配当年次	3-4年生	開講学期	後期集中					
授業概要	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行うことが必要である。日本スポーツ協会の指定実習内容は 見学実習(30時間)、 検査・測定、評価実習(30時間)、 スポーツ現場実習(30時間)、 アスリハ実習(30時間)、 総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習はこのカテゴリーの 総合実習(60時間)の後半に相当する。							3
	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場での応用力を身につけることを目的とする。 主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションを処方し、外傷発生から競技復帰に至る全てを指導することができる。							4
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							5
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							6
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						7		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						8		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			9		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	公認アスレティックトレーナー資格の受験要件科目であるため、資格取得を希望し、その他の受験要件科目の履修を終えているか、履修中である者のみ現場実習を行うことができる。 (各実習における予復修時間の目安：4時間)				10		
1. 小テスト、感想文など	%					11		
2. 中間テスト	%					12		
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					13		
4. 授業中の発表、討論	20 %					14		
5. 授業への参加意欲	40 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %							
7.	%							
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング							
1. まとめのテスト	%	毎実習終了時にグループディスカッションを行う。また、15回目の実習終了後にはレポートを作成し、自身の活動の振り返りと次への課題を確認する。						
2. 論文、まとめのレポートなど	%							
3.	%							
再評価の実施	する	しない	アスレティックトレーニング現場実習 ~ で学んだ全てのことを振り返り、自分の到達点を確認する。 予復修課題：現場実習報告書を完成させ、提出する。				15	
教科書	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト							
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	健康フィットネス概論 Introduction to Health Fitness				単位数	授業内容**	
担当者	森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)				2	オリエンテーション 1 授業の目的・目標、授業の進め方、受講人数の確認、健康とは何か 予復修課題：「健康とは何か」及び次週の授業内容を予修しておくこと(予修時間1.5時間)。	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング				専任	健康づくり施策概論 参考書 士2-	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ1203		2 1.健康と健康増進の概念、2.我が国の現状と健康づくり施策 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
配当年次	1年生	開講学期	後期	コース区分*	フィットネス	3 健康づくり施策概論 参考書 士2- 2.健康づくり施策と健康運動指導士の社会的役割 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業概要	生活習慣病のような文明病は、個々の意識の向上と社会的システムの構築によって十分克服できるものとする。そこで本講義では、健康とは何か、フィットネスに対する関心の高まりの社会的背景、健康とフィットネスとの関係、運動のプログラムなどについて学習するとともに、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格の受験に必要な基本的知識を学習する。					4 健康づくり施策概論 参考書 者1 3.メタボリックシンドローム、4.介護予防について、5.メディカルチェック 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割を説明できる。</li> <li>健康づくりのための各種方法を説明できる。</li> <li>運動が身体に及ぼす影響を説明できる。</li> </ul>					5 健康づくりのための身体活動基準2013とアクティブガイド 参考書 士2- 1.背景と目的、2.改定作業の手順と方法、3.基準の検討a. 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業の資料は事前に配布しますので、事前に読んで予習をすることによって理解が一層深まります。また、授業で学んだ箇所を読みなおすことで、さらに理解が深まります。				
1. 小テスト、感想文など		10 %	授業内容の土は健康運動指導士、者は健康運動実践指導者用テキストの該当章を章を示していますので、資格取得希望者は、参考にしてください。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		70 %	小テスト、練習問題を単元の区切りごとに実施します。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	各章の終わりにミニツッパーパーを実施する。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	資料を配布します。						
参考書	健康運動実践指導者養成用テキスト 健康・体力づくり事業財団編						
	15					予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康づくり運動理論 Health Promotion Exercise (Theory)		単位数	授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		2	1 オリエンテーション、健康の概念と健康を支える3要素について 健康づくり関連資格の概要、健康の概念と健康を支える3要素について理解する。 予復修課題：配布資料 (健康の概念と健康を支える3要素)を読み、まとめる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 運動条件と反応・運動強度 トレーニングの条件・原理原則・効果の特異性について理解する。 予復修課題：配布資料 (運動条件と反応・運動強度)を読み、まとめる。	
授業形式		講義	科目区分 専攻コース科目	SSJ2109	3 運動条件と反応・運動強度 トレーニングの記述、脱トレーニング、トレーニングと栄養・休養の関連を理解する。 予復修課題：配布資料 (運動条件と反応・運動強度)を読み、まとめる。	
配当年次		2年生	開講学期 前期	コース区分*	4 筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果 レジスタンストレーニングによる筋力・筋量増強のメカニズムについて理解する。 予復修課題：配布資料 (筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果)を読み、まとめる。	
授業概要		運動は、主に生活習慣病の予防・治療にとって食事療法・薬物療法と並んで有効な手段である。しかし、運動の仕方を間違えるとかえって病状を悪化させることもある。ある目的をもって運動しようとするとき、その目的を達成するのに最も適した運動の内容を決めることを「運動処方 (Exercise Prescription)」という。本講義は、健康を回復・保持・増進するための方法として、運動の原理・原則について学び、実際に運動処方 (運動プログラム) を作成するときの基礎知識を習得させる。				
授業到達目標		運動不足から発症する生活習慣病を予防・治療することを目的とした運動を処方するための基礎知識を理解し、健康づくり運動指導者に求められる資質を高める。				
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本授業は健康運動指導士・健康運動実践指導者資格に準拠した内容であるので、資格を取得する意志をもって授業に参加すること。			
1. 小テスト、感想文など		10 %	各授業時間の終了後、各重要箇所の理解度を高めるために、図書館等を利用して、復修をすること。毎回、資料を配布する。配布資料は、毎回必ず持参すること。			
2. 中間テスト		%	予復修で180分の学修を目安とすること。			
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	第2回～第14回の講義開始直後に理解度確認のため、小テストを行うのでしっかりと復習をすること。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書 とくに指定しない。適宜資料を配布する。						
参考書 健康運動指導士養成講習会テキスト 健康・体力づくり事業財団						
11 障がい者の運動能力の特徴と運動		障がい者の運動能力の特徴と運動の必要性、適切なトレーニング条件について理解する。 予復修課題：配布資料 (障がい者の運動能力の特徴と運動)を読み、まとめる。				
12 運動プログラム作成の基礎と運動プログラム作成		対象の特性や運動目的に応じたトレーニングプログラムについて理解する。 予復修課題：配布資料 (運動プログラム作成の基礎)を読み、まとめる。				
13 運動プログラム作成		対象の特性や運動目的に応じたプログラムを作成する。 予復修課題：配布資料 (運動プログラム作成の基礎)を読み、まとめる。				
14 プログラム構成能力・実演能力・指導能力、運動を継続させる動機づけの理解。		予復修課題：配布資料 (運動プログラム指導の基礎)を読み、まとめる。				
15 まとめのテストと解説		運動処方の基礎知識を理解し、健康づくり指導者としての資質を高める。 予復修課題：すべての配布資料を読み、まとめる。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康づくり運動実技 Health Promotion Exercise [Skill]		単位数	授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		1	1 オリエンテーション、健康づくり運動プログラムについて 配布資料 (健康づくり運動)の必要性・効果を理解、安全かつ効果的な運動プログラムを立案する能力を高める。 予復修課題: 教科書第6章(1~4)、配布資料 (健康づくり運動)を読み、まとめる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ2210	2 ウォーミングアップとクーリングダウン ウォーミングアップの目的と効果、重要性を理解し、説明できる。 予復修課題: 教科書第8章A(1~6)を読み、まとめる。	
授業形式	実技	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	フィットネス	
配当年次	2年生	開講学期	後期			
授業概要	健康づくりのために運動を行なうことは、現代社会においては必要不可欠であり、そのための運動指導者の役割や使命は大きなものになってきています。本実習では、運動指導者として最低限必要とされるスキルを身に付けながら、健康づくり運動として捉えられている運動(特に陸上運動としてのストレッチング・ジョギング・ウォーキング・レジスタンスエクササイズ)についての知識と理解を深め、さらに実践力を高めていきます。 「健康運動実践指導者」資格取得を目指して学びを深めていきます。					
	健康づくり運動の指導者として求められる知識と指導技術を習得する。特に、運動効果を高めるためのフォームや対象者に応じた運動の組み立て方、指導現場における安全管理のノウハウについて身につける。具体的には、健康づくり運動を 適正な動作・フォームで実演できる 目的を理解し説明できる 適切な表現で伝達できる ポイントや注意点を指導できる 対象者を観察し動きの修正や動機付けができる技能を身に付ける。					
授業到達目標	健康づくり運動の指導者として求められる知識と指導技術を習得する。特に、運動効果を高めるためのフォームや対象者に応じた運動の組み立て方、指導現場における安全管理のノウハウについて身につける。具体的には、健康づくり運動を 適正な動作・フォームで実演できる 目的を理解し説明できる 適切な表現で伝達できる ポイントや注意点を指導できる 対象者を観察し動きの修正や動機付けができる技能を身に付ける。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本授業は健康運動指導士・健康運動実践指導者資格に準拠した内容であるので、資格を取得する意志をもって授業に参加すること。「健康づくり運動理論」の単位修得済であることが望ましい。健康運動実践指導者実技試験に準拠した実技テスト(現場指導シュミレーション)を実施するので、実技の予復修が重要となる。 予復修で180分の学修を目安とすること。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		20%	実技指導の技能を習得するためロールプレイ型(指導者とクライアントを想定)の実技練習を2人組・5~6人グループで行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	健康運動実践指導者 養成用テキスト		健康・体力づくり事業財団			
参考書						
11		レジスタンスエクササイズの理論と実際 配布資料 (自体重レジスタンスエクササイズ) レジスタンスエクササイズにより期待できる運動効果について説明できる。 予復修課題: 教科書第6章(7)、第8章Fを読み、まとめる。プログラム内容確認。				
12		レジスタンスエクササイズ指導法 (2人組指導シュミレーション) 安全で効果的な実施方法を理解し、資料 を参考にプログラム内容を確認し練習する。 予復修課題: 資料 を参考にプログラム内容を確認し、実技を復修する。				
13		自重レジスタンスエクササイズの指導シュミレーション練習で指導技能を高める。 予復修課題: 資料 を参考にプログラム内容を確認し、予修(練習)を繰り返し、実技テストに備える。				
14		自重レジスタンスエクササイズの指導シュミレーションテストで指導技能を高める。 予復修課題: 資料 を参考にプログラム内容を確認し、予修(練習)を繰り返し、テストに備える。				
15		まとめのテストと解説 健康づくり運動指導者に求められる資質(知識・技能)を理解し、実践力を高める。 予復修課題: 教科書該当箇所および配布資料について再確認する。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	運動器の構造と機能 Structure and Function of the Musculoskeletal System				単位数	授業内容**	
担当者	西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuuta)				2	1 ガイダンス (授業の進め方、スケジュールの確認、課題レポートの説明など) 予復修課題: 本授業のシラバスを読む (シラバスを印刷し持ってくること)	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング				専任	2 運動器の基礎 学習内容: 体表区分、骨・関節の構造と機能 など 予復修課題: 体表区分、骨・関節の構造と機能についての資料を予復修すること。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	SSJ2110	3 運動器の基礎 (レポート1) 学習内容: 筋・靭帯・腱の構造と機能、骨格筋の神経支配 など 予復修課題: 筋・靭帯・腱の構造と機能、骨格筋の神経支配についての資料を予復修すること。	
配当年度	2年生	開講学期	前期			4 上肢の構造と機能 学習内容: 肩関節・肘関節・手関節/指の構造と機能 など 予復修課題: 肩関節・肘関節・手関節/指の構造と機能についての資料を予復修すること。	
授業概要	本科目では、人体の骨格や筋肉の構造など、ヒトの運動にかかわる身体の構造とその機能について基本的な知識を身に付けることを目的とする。また、トレーニング指導や運動処方を行う際に必要な運動学的知識についても学ぶ。					5 上肢の構造と機能 学習内容: 肩関節・肘関節・手関節/指の構造と機能 など 予復修課題: 肩関節・肘関節・手関節/指の構造と機能についての資料を予復修すること。	
授業到達目標	ヒトの運動にかかわる基本的な身体の構造とその機能を理解し説明することができる。ヒトの筋肉や骨、靭帯など基本的な部位を触ることができる。基本的な運動学の知識を基に、適切なトレーニング指導や運動処方について考えることができる。					6 上肢の構造 学習内容: 上肢の主要な部位の触診 など 着脱可能な服装で受けること 予復修課題: 上肢の触診の仕方についての資料を予復修すること。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 上肢の機能 (レポート2) 学習内容: 上肢の主要な機能の評価 など 着脱可能な服装で受けること 予復修課題: 上肢の機能の評価についての資料を予復修すること。		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					8 体幹の構造と機能 学習内容: 体幹の構造と機能 など 予復修課題: 体幹の構造と機能についての資料を予復修すること。		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					9 体幹の構造と機能 (レポート3) 学習内容: 体幹の触診と機能の評価 など 着脱可能な服装で受けること 予復修課題: 体幹の触診の仕方や機能の評価についての資料を予復修すること。		
成績評価の方法 (全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業における配付資料やノートの整理など適切に行うこと				
1. 小テスト、感想文など		%	各授業ごとに1時間を目安に予復を行うこと				
2. 中間テスト		%	課題レポートを全て提出すること				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	身体の部位を触るため着脱可能な衣服で参加すること				
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		80 %	課題レポートの詳細は授業の中で説明する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	身体運動の機能解剖 医道の日本社; 改訂版 (2002/5/1)						
参考書							
					11 下肢の構造と機能 学習内容: 足関節・足部の構造と機能 など 予復修課題: 足関節・足部の構造と機能についての資料を予復修すること。		
					12 下肢の構造 学習内容: 下肢の主要な部位の触診 など 着脱可能な服装で受けること 予復修課題: 下肢の触診の仕方についての資料を予復修すること。		
					13 下肢の機能 (レポート4) 学習内容: 下肢の主要な機能の評価 など 着脱可能な服装で受けること 予復修課題: 下肢の機能の評価についての資料を予復修すること。		
					14 講義内容の総復修 予復修課題: これまでの講義内容について復修すること。		
					15 まとめのテストと解説 全講義で学習した内容の確認テストを行う 予復修課題: これまでの講義内容について復修すること。		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康医科学論 Medical Science for Health		単位数	授業内容**	
担当者		浦橋 斉悟 (URAHASHI Seigo)		2	1 スポーツと健康 1 健康の概念と制度 予復修課題： 配付物、テキスト関連部分(土1章-1)(者1章)を熟読し、まとめること。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ2111	2 スポーツと健康 2 介護予防概論 予復修課題： 配付物、テキスト関連部分(土1章-3)を熟読し、まとめること。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3 アスリートの健康管理 予復修課題： テキスト関連部分(者1章)を熟読のこと。
配当年次	2年生	開講学期	前期			4 スポーツ活動中に発生する外傷、障害の受傷機転、症状、徴候について1 予復修課題： 配付物、テキスト関連部分(土7章-2)(者9章)を熟読し、まとめること。
授業概要	健康の概念、またスポーツ活動と健康の関連について医科学の面から学ぶ。 スポーツは、健康増進に寄与すると考えられるが、スポーツ活動に伴う医科学的諸問題も存在する。それらの諸問題、特にスポーツ外傷や障害、内科的障害の特性や対応策について講義する。 本授業は現役の医師の経験を活かした授業を展開する。					
	授業到達目標 本講義を通してスポーツ・健康運動現場において見られる様々な外傷・障害、内科的障害の概要を理解し、それらの予防と対応ができる。 またスポーツ現場における安全管理者としてスポーツ活動の現場の安全性の向上を図り、スポーツ医科学の専門家と連携をとることができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	原則として授業開始後の入室は認めない。 予復修で180分の学修を目安とすること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		80 %	小テストをほぼ毎回取り入れている。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	健康運動指導士または健康運動実践指導者用テキスト(南江堂)*過去のものでも可					
						11 アンチドーピング 予復修課題： テキスト関連部分を熟読のこと。
						12 スポーツと栄養 予復修課題： テキスト関連部分を熟読のこと。
						13 アスリートの栄養摂取と食生活 予復修課題： テキスト関連部分を熟読のこと。
						14 まとめ1 予復修課題： テキストを全体的に復修のこと。
						15 まとめ2 まとめのテスト及び解説を行う。 予復修課題： テストに関する質問は質問日を待たず即刻解決のこと。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツカウンセリング論 Sports Counseling		単位数	授業内容**	
担当者	伊藤 友記 (ITO Tomoki)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ3114		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	フィットネス	
配当年次	3年生		開講学期	前期		
授業概要	<p>スポーツカウンセリングは、選手へのカウンセラーによる心理的支援、あるいは両者の共同作業によって、選手の自己の内的変容や成長が促される営みである。選手の内的変容や成長に伴って、安定した競技力の発揮や向上にもつながることが期待できる。</p> <p>本講義は、スポーツカウンセリングの基礎的な理論及び方法について学び、自身の競技実践また将来の指導実践において役立つ知見を学習する。</p>					
授業到達目標	<p>1. スポーツ場面において競技者が抱える不安や受傷体験など、その意味について臨床学的に考察することができる。</p> <p>2. カウンセラーの基本的態度について理解し、説明することができる。</p> <p>3. カウンセリングの継続や中断の意味について理解し、説明することができる。</p> <p>4. カウンセリングのベースとなっている理論について説明することができる。</p> <p>5. スポーツカウンセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明することができる。</p>					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への参加意欲評価として欠席は減点する</li> <li>配布資料や講義の内容を基に、講義ノートを作成すること。必ず大学ノート(A4版またはB5版)を使用すること。</li> <li>講義ノートの作成と、次時の講義内容についての下調べには、毎時120分程度を要する。</li> <li>原則として、「スポーツ心理学」を履修済みであること。</li> </ul>				
1. 小テスト、感想文など	10 %	<p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提出課題、講義の感想、次時の講義内容に関する下調べ等を随時課し、それらも評価の対象とする。(評価%は左記参照)</li> <li>講義ノートの提出も適宜求める。</li> </ul>				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	10 %					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7. 講義ノート	20 %					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	50 %					
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	スポーツと心理臨床 アスリートのこころとからだ、鈴木壯、創元社、2014					
参考書	スポーツカウンセリング入門、内田直、講談社、2011					
1	<p>スポーツカウンセリングとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツカウンセリングについて概観する</li> </ul> <p>予復修課題：競技場面における心理的側面の自身の関心事についてレポートを作成する。</p>					
2	<p>心の健康論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体の健康に対して、心の健康についての考えを学ぶ</li> </ul> <p>予復修課題：スポーツカウンセリングに対する印象と期待についてレポートを作成する。</p>					
3	<p>健康づくり運動とカウンセリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくり運動における心の問題とカウンセリングの介入の可能性を学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：健康づくり現場におけるトレーナーの役割について調べる。</p>					
4	<p>ストレスアセスメントと対処法(喫煙問題を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>喫煙行動について、行動変容理論からの介入の可能性を学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：喫煙行動の実態と、その健康被害について調べる。</p>					
5	<p>ストレスアセスメントと対処法(喫煙問題を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>喫煙行動の再発防止について、行動変容理論からの介入の可能性を学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：喫煙行動と介入の可能性について自身の考えをレポートする。</p>					
6	<p>スポーツカウンセリングの適用と倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツカウンセリングの適用場面とその倫理について学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：カウンセリングの適用場面について調べ、どのような所で行われているかを調べる。</p>					
7	<p>スポーツカウンセリングにおける見立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリング開始時における見立て(アセスメント)について学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：アセスメントに用いられる心理テストなどを実施し、その結果についてレポートする。</p>					
8	<p>運動行動変容の理論と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動行動変容の理論について学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：自身の家族などの運動行動について聞き取りなどを行う。</p>					
9	<p>運動行動変容の理論と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動行動変容の実際について学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：自身の家族などの運動行動について聞き取りなどを行う。</p>					
10	<p>運動行動変容の理論と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動行動変容の実際について学ぶ。</li> </ul> <p>予復修課題：日常における自身の運動行動についてレポートを作成する。</p>					
11	<p>スポーツカウンセリングの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツカウンセリングの事例を読み、その実際を理解する。</li> </ul> <p>予復修課題：配布された事例研究を読み、感想レポートを作成する。</p>					
12	<p>スポーツカウンセリングの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツカウンセリングの事例を読み、その実際を理解する。</li> </ul> <p>予復修課題：配布された事例研究を読み、感想レポートを作成する。</p>					
13	<p>スポーツカウンセリングの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツカウンセリングの事例を読み、その実際を理解する。</li> </ul> <p>予復修課題：配布された事例研究を読み、感想レポートを作成する。</p>					
14	<p>スポーツカウンセリングとメンタルトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの実践事例から学ぶ</li> </ul> <p>予復修課題：自身のスポーツカウンセリングへのこれからの関心についてレポートを作成する。</p>					
15	<p>講義の振り返り</p> <p>まとめのテスト</p> <p>予復修課題：講義内容について振り返り、競技や日常場面への適用を考えてみる。</p>					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		運動生理学 Exercise Physiology		単位数	授業内容**	
担当者		森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)		2	1 オリエンテーション (授業概要、基礎知識、運動生理学とは) 予復修課題: 次週の授業内容を予修しておくこと(予修時間1.5時間)。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		専任	2 1.呼吸器系の構造と機能 2.運動時の換気 予復修課題: 本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。 参考書 4-1	
SSJ2211		SSJ2211				
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	フィットネス	
配当年次	2年生	開講学期	後期			
授業概要	運動生理学は運動及び特殊な環境下での身体機能の一時的、持続的変化について学び、研究する学問である。運動・健康に携わる指導者にとって必要な知識を学習し、身体活動時の生理的変化を科学的な立場から考察できる資質を養うことが目的である。本授業では骨格筋系、神経系、呼吸器系、循環器系等の運動時のメカニズム及び特殊環境下での身体適応について学習する。					
授業到達目標	健康運動指導士試験に合格できるレベルを到達目標とする。運動及び環境の変化が身体に及ぼす効果を論理的に説明できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業の資料は事前に配布しますので、事前に読んで予習をすることによって理解が一層深まります。また、授業で学んだ箇所を読みなおすことで、さらに理解が深まります。			
1. 小テスト、感想文など		20 %	1年次に学習した解剖生理学とスポーツ生理学の該当箇所を復修しておくこと。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	小テスト、練習問題を単元の区切りごとに実施します。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	資料を配布します。					
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト(上) 健康・体力づくり事業財団編					
11		内分泌系と運動		4. ,さまざまなホルモンの作用と運動及び運動トレーニングに伴う変化 予復修課題: 本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。 参考書 4-5		
12		運動と免疫能		1.免疫系の概要 2.体力と感染リスクの関連 3.運動が免疫能に及ぼす影響 予復修課題: 本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。 参考書 4-6		
13		環境と運動		1.体温調節の基礎 2.運動時の体温調節を変化させる要因 3.高温・寒冷下での運動 予復修課題: 本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。 参考書 4-7		
14		環境と運動		4.低酸素環境が身体諸機能と運動パフォーマンスに与える影響 5.水中環境と運動 予復修課題: 本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。 参考書 4-7		
15		まとめ、まとめのテスト、まとめのテストの解説、授業の総括		予復修課題: 前13回の復修(3時間以上)をしておくこと		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		生活習慣病概論 Introduction to Lifestyle-related Diseases		単位数	授業内容**	
担当者		下野 大 (SHIMONO Dai) 寺脇 悠一 (TERAWAKI Yuichi)		2	1 生活習慣病概論 コースガイドおよび生活習慣病の定義・病態について解説する。 予復修課題：参考図書第1章～第2章を読み、内容をまとめる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSJ3115	2 メタボリックシンドローム メタボリックシンドロームの定義・病態・治療について解説する。 予復修課題：参考図書第3章1を読み、内容をまとめる。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3 肥満・肥満症 肥満症の定義・病態について解説する。 予復修課題：参考図書第3章2を読み、内容をまとめる。
配当年次	3年生	開講学期	前期			4 肥満・肥満症 肥満症の治療を、運動療法を含めて解説する。 予復修課題：参考図書第3章2を読み、内容をまとめる。
授業概要	「生活習慣病」とは、運動や食事・喫煙・飲酒・睡眠などの生活習慣が、発症および進行に 関与する疾患群であり、代表的なものとしては、糖尿病・高血圧症・脂質異常症・肥満症・ メタボリックシンドローム・虚血性心疾患・ロコモティブシンドロームなどがあげられる。 これらの疾患について概説するとともに、基礎的な医学的知識を習得することを目標とする。 また、これらの疾患を改善させる「運動療法」についても知識を深める。					
	授業到達目標 生活習慣病の定義やその病態を理解し、それぞれの疾患についての診断・治療などについて 理解できる。 運動療法を行うにあたって、基本的な医学的知識を身につける。 有疾病者において、運動を安全に行うことができる。 効果的かつ安全な運動プログラムを立案できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健 康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人 として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節 を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身に つけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主 体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、 自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身に つけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業においてプリントを配布する。 授業毎の復修を60分を目安に行うこと。 講義の理解度を高めるため、 1時間程度の予修を行うことを望みます。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		5 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		15 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		75 %	内科的知識の習得を目的とするため			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	アクティブラーニングは実施していないが、			
3.		%	講義の際に積極的な発言を求める。			
再評価の実施	する		しない			
教科書	授業毎にプリントを配布する。					
参考書	健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト上巻 南江堂					
			11 運動器退行性疾患 変形性関節症・変形性脊椎症・骨粗鬆症の病態・治療について解説する。 予復修課題：参考図書第3章8を読み、内容をまとめる。			
			12 呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息) COPD・運動誘発性喘息の成因・病態・治療について解説する。 予復修課題：参考図書第3章9を読み、内容をまとめる。			
			13 がん(悪性新生物) がんの成因・病態および生活習慣との関連について解説する。 予復修課題：参考図書第3章10を読み、内容をまとめる。			
			14 認知症 認知症の成因・病態について解説する。 予復修課題：参考図書第3章11を読み、内容をまとめる。			
			15 まとめのテスト・講義の総括 講義の総括として、運動指導者として必要な知識のまとめを行う。 予復修課題：参考図書第1章～第3章の内容を復修する。			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		運動負荷試験 Exercise Testing		単位数	授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		下野 大 (SHIMONO Dai)	専任 & 非常勤	
実務経験のある教員による授業				ナンバリング	SSJ3116	
授業形式		演習		科目区分	専攻コース科目	コース区分*
配当年次		3年生		開講学期	前期	コース区分*
授業概要		<p>本授業は運動時に発症する潜在的な疾患に対する診断と評価及び運動療法や薬物療法に対する効果判定に必要な運動負荷試験の知識と技術を学ぶ。</p> <p>運動負荷には専用の自転車エルゴメーター及びトレッドミルを使用し、運動強度を自動設定して標準12誘導の心電図を計測する。測定された心電図波形を解析し、心電図評価を実施する。</p> <p>運動負荷試験実習およびその判定・評価では、日本医師会認定健康スポーツ医が指導を行う。</p>				
授業到達目標		<p>1. 運動負荷試験を対象別に実施できる。</p> <p>2. 基本的には異常心電図を判別できる。</p> <p>3. 運動負荷試験の事故発生に対して適切な処置がとれる。</p>				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	医師監視の下での実験実習とレポートを主な評価対象とする。			
1. 小テスト、感想文など		%	予復修で180分の学修を目安とすること。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 実験実習への取り組み		30 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	安静時心電図測定、運動負荷試験の検者・被検者を必ず体験する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト下巻 南江堂(2020)				
参考書						
1		オリエンテーション、メディカルチェックの重要性 内科的メディカルチェックの重要性を理解し、メディカルチェックの内容が説明できる。 予復修課題：教科書第11章3を読み、まとめる。				
2		運動負荷試験の実際 運動負荷試験の目的と運動負荷試験の適応について理解する。 予復修課題：教科書第12章1 A・Bを読み、まとめる。				
3		運動負荷試験の実際 運動負荷試験の禁忌と運動負荷試験の中止基準について理解する。 予復修課題：教科書第12章1 C・Dを読み、まとめる。				
4		運動負荷試験の実際 運動負荷試験で見られる症状・徴候と意義について理解する。(狭心痛・血圧・心電図) 予復修課題：教科書第12章1 Eを読み、まとめる。				
5		運動負荷試験の実際 運動負荷試験の危険性と安全対策について理解する。 予復修課題：教科書第12章1 Fを読み、まとめる。				
6		最大下運動での最大酸素摂取量の推定(計算演習) 運動負荷試験時の歩・走行速度と心拍数から最大酸素摂取量を推定する方法を理解する。 予復修課題：教科書第8章1 D、第12章3 Fを読み、まとめる。				
7		標準12誘導安静時心電図について 安静時心電図の読み方・判定・評価、安静時心電図記録方法について理解する。 予復修課題：教科書第11章2 Eを読み、まとめる。				
8		標準12誘導安静時心電図の測定実習(記録) 受講者全員が検者・被検者を体験する。 安静時心電図の読み方・判定・評価、安静時心電図記録方法について理解し、実践する。 予復修課題：安静時心電図に関するレポートをまとめる。				
9		運動負荷試験の実際 運動負荷試験の方法(測定機器、プロトコール、測定項目、実施手順)について理解する。 予復修課題：教科書第12章1 Gを読み、まとめる。				
10		運動負荷試験の実際 (産業医の立場から) メディカルフィットネス施設を含む医療現場における運動負荷試験について理解する。 予復修課題：配布資料(運動負荷試験の実際)を読み、まとめる。				
11		運動負荷試験の実際 (演習) 運動負荷試験実習時の測定機器別プロトコール・測定項目・実施手順について確認する。 予復修課題：配布資料(運動負荷試験の実際)を読み、まとめる。				
12		運動負荷試験実習 受講者全員が検者・被検者を体験する。マスター2階段試験 日本スポーツ協会公認スポーツドクター・ 予復修課題：配布資料(マスター2階段試験の実際)を読み、まとめる。				
13		運動負荷試験実習 受講者全員が検者・被検者を体験する。 トレッドミル・自転車エルゴメータ試験(実験) 予復修課題：配布資料(トレッドミル・自転車エルゴメータ試験の実際)を読み、まとめる。				
14		運動負荷試験の実際 (演習) 運動負荷試験結果の判定・評価について理解する。 予復修課題：配布資料(運動負荷試験の判定・評価)を読み、まとめる。				
15		まとめのテストと解説、安静時心電図および運動負荷心電図レポートの評価と解説 運動負荷試験の知識・技術に関して理解し、実践する能力を高める。 予復修課題：安静時心電図測定、運動負荷心電図測定に関するレポートを作成、提出する。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		運動プログラムの管理 Exercise Program Management			単位数	授業内容**	
担当者					2	1 オリエンテーション 予復修課題：運動負荷試験および運動生理学実験の内容を復修する。(予復修時間:4時間程度)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング SSJ3210			専任	2 運動プログラムの基本(1) 予復修課題：参考書 11-1(予復修時間:4時間程度)	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	フィットネス	3 運動プログラムの基本(2) 予復修課題：参考書 11-1, 11-5(予復修時間:4時間程度)	
配当年次	3年生	開講学期	後期			4 運動プログラムの基本(3) 予復修課題：参考書 11-1, 11-5(予復修時間:4時間程度)	
授業概要	本授業は健康運動指導士にとって必要な健診結果の読み方、メディカルチェック、心電図の読み方、生活習慣病改善のための運動プログラムの作成の理論、服薬者の運動プログラムに関する基礎知識の習得と具体的な運用法について学ぶ。						5 運動プログラム作成の基本(まとめ)・確認テスト 予復修課題：参考書 11-1, 11-5(予復修時間:4時間程度)
授業到達目標	1. 健康診断(含・特定健診)、メディカルチェックの内容および重要性を理解する。 2. 心電図の基本的特性および重要性を理解する。 3. メタボリックシンドロームおよび各種生活習慣病予防・改善に向けた運動プログラムが作成できる。 4. 服薬者の運動管理ができるようになる。						6 運動プログラム作成前のチェック(1) 予復修課題：参考書 11-2(予復修時間:4時間程度)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業内容は、変更されることがあります。 卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係、成績評価の方法、再評価の実施、アクティブ・ラーニング、履修における留意事項を含め、初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	15 本授業のまとめ 予復修課題：参考書 11章(予復修時間:4時間程度)						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		介護と福祉のフィットネスプログラム Fitness Programs for Nursing and Welfare			単位数	授業内容**	
担当者		森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)			2	1 オリエンテーション、介護と福祉の概要 授業の目的・目標、授業の進め方、受講人数の確認、本授業の概要 予復修課題：介護と福祉の意味について予修すること	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			専任	2 介護予防概論 参考書 *8-4 介護予防の考え方、介護予防事業とその対象者、地域支援事業における介護予防事業 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業形式		講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ3211	3 認知症予防理論 認知症に関わる社会的課題 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
配当年次		3年生	開講学期	後期	コース区分*	4 健康づくり施策概論 3.メタボリックシンドローム、4.介護予防について、5.メディカルチェック 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業概要		本授業は介護予防のための運動やレクリエーションに対する考え方から実践までを学ぶ。 高齢者を対象に運動プログラムの知識と技術を幅広く学ぶ。			フィットネス	5 介護予防に関する体力測定法とその評価(1) 参考書 *8-4 介護予防における体力測定の意義、一次予防事業で活用できる高齢者のための体力測定 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業到達目標		介護予防事業の体力測定評価を実践することができる。 対象や目的に合わせた運動プログラムを立てることができる。 対象や目的に合わせたレクリエーション活動のプログラムを立案、実施することができる。				6 介護予防に関する体力測定法とその評価(2) 参考書 *8-4 二次予防事業における体力測定の項目と方法、高齢者の身体活動能力に関するエビデンス 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						7 介護予防と運動(1) 参考書 *9-7 我が国の高齢化の現状と介護予防の重要性、介護予防における運動の意義 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 介護予防と運動(2) 参考書 *9-7 介護予防における運動の意義、身体加齢変化の特徴、運動指導において配慮すべき点 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 高齢者筋力向上トレーニング(1) 参考書 *9-7 ストレッチング、レジスタンス運動、ボディワーク 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 高齢者筋力向上トレーニング(2) 参考書 *9-7 小道具(タオル、ボールなど)を使ったトレーニング、貯筋運動 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				11 転倒予防トレーニング 参考書 *9-7 姿勢、ウォーキング、スクエアスップエクササイズ 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業の資料は事前に配布しますので、事前に読んで予習をすることによって理解が一層深まります。また、授業で学んだ箇所を読みなおすことで、さらに理解が深まります。教室変更、持ち物・服装等の指示が時々ありますので、聞き漏らさないようにして下さい。			12 高齢者レクリエーション(1) レクリエーションとは、指先を使った遊び、腕を使った遊び、椅子を使った遊び、他 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			13 高齢者レクリエーション(2) 指先を使った遊び、腕を使った遊び、椅子を使った遊び、他 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
1. まとめのテスト		%	グループ単位で介護指導に関する様々な活動を行います。			14 指導実習 高齢者の運動メニューを作成し、指導する(班別行動) 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	各単元の終わりにミニッツペーパーを実施します。			15 振り返りとまとめ レポートの作成 予復修課題：前13回の復修(3時間以上)をしておくこと	
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		資料を配布します。					
参考書		健康運動指導士養成講習会テキスト(下) 健康・体力づくり事業財団編					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康栄養指導演習 Practice in Guidance of Nutrition for Health			単位数	授業内容**	
担当者		樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)			2	1 オリエンテーション、健康栄養指導とは何か(1) 歴史的背景、栄養サポートの実例 予復修課題： 予修：なぜこの授業が設定してあるのか考えること。復修：施策についてまとめること。参考書15-6	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 健康栄養指導とは何か(2) 日本人の栄養摂取状況、小テスト、ミニッツペーパー 予復修課題： 成功した施策と失敗した施策の違いをまとめること。参考書15-6	
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	SSJ3212	コース区分*	フィット入	
配当年次	3年生	開講学期	後期				
授業概要	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。生活習慣病予防や有患者に対する運動指導においても、その効果を発揮するためには食生活への指導が不可欠である。本演習は栄養指導能力向上のため、前半は健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士養成カリキュラムのテキストに準じて授業を進め、後半はフードモデルによる演習を重視する。						
	ヒトのライフステージごとに、食生活を通して健康を保持・増進するために必要な理論および実践的な知識や技法を習得し、健康づくりのための栄養・食生活の助言ができる。						
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					3 生活習慣病と食生活 肥満のメカニズム、食事摂取基準、特定健診・特定保健指導、小テスト 予復修課題： 参考書のプリント関連部分(15-1)をまとめること。参考書15-1		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					4 栄養素の機能と代謝(1) 糖質、脂質、小テスト 予復修課題： 参考書のプリント関連部分(15-3)をまとめること。参考書15-3		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					5 栄養素の機能と代謝(2) タンパク質、ビタミン、ミネラル 予復修課題： 参考書のプリント関連部分(15-3)をまとめること。参考書15-3		
成績評価の方法(全体で100%)					6 消化と吸収の機構 吸収機構を中心に 予復修課題： 参考書のプリント関連部分(15-2)をまとめること。参考書15-2		
履修における留意事項					7 身体活動量の定量(1) 要因加算法実習、小テスト 予復修課題： 要因加算法について予修のこと。演習問題を復修のこと。参考書15-4		
1) 授業到達目標への到達努力の評価					8 身体活動量の定量(2) 運動基準、運動指針の歴史的背景 予復修課題： 運動基準、身体活動基準についてまとめること。参考書15-4		
評価割合		過去の配布資料も毎回必ず持参すること。電卓準備のこと。スポーツ栄養学を履修していることが望ましい(発展的内容である)。予復修で180分の学修を目安とすること。			9 幼児期の栄養と食生活、栄養指導 食育基本法、フードモデルによる選択演習 予復修課題： 該当ライフステージを予修のこと。演習内容を文章で書けるように復修のこと。		
1. 小テスト、感想文など		15 %		10 学童期の栄養と食生活、栄養指導 学校給食法、フードモデルによる選択演習 予復修課題： 該当ライフステージを予修のこと。演習内容を文章で書けるように復修のこと。			
2. 中間テスト		%		11 思春期の栄養と食生活、栄養指導 フードモデルによる選択演習 予復修課題： 該当ライフステージを予修のこと。演習内容を文章で書けるように復修のこと。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %		12 成人期の栄養と食生活、栄養指導 フードモデルによる選択演習、小テスト 予復修課題： 該当ライフステージを予修のこと。演習内容を文章で書けるように復修のこと。			
4. 授業中の発表、討論		5 %		13 高齢期の栄養と食生活、栄養指導 フードモデルによる選択演習 予復修課題： 該当ライフステージを予修のこと。演習内容を文章で書けるように復修のこと。参考書15-5			
5. 授業への参加意欲		5 %		14 栄養・食事アセスメント(1) 栄養マネジメントへつなげる 予復修課題： 健康栄養指導の面からまとめること。参考書15-5			
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %		15 栄養・食事アセスメント(2)および総まとめ まとめのテスト(文章題)と解説を行う 予復修課題： 対策をしてテストに臨むこと。テストに関する質問は質問日を待たず即刻解決のこと。			
7.		%					
2) 最終到達度の評価					アクティブ・ラーニング		
1. まとめテスト		%		ミニッツペーパー(第2回)、小テスト(第2・3・4・7・12回)を行う。第9~13回は、演習課題を班毎に提出・次回解説の流れである。			
2. 論文、まとめレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト 下巻 南江堂(過年度のものでも可)						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		アクアエクササイズ Aqua Exserise		単位数	授業内容**	
担当者	衛藤 志津代 (ETOU Shizuyo)			1	1 (陸) 自己紹介、講義全体の概要 (プール) 健康・体力づくりで用いられているレッスンを受講体験行う 予復修課題：自分が必要とする授業であるか、考えてくる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			非常勤講師	2 (陸) 講義の詳細を確認 色々な水中ウォーキングを実践してみる。 予復修課題：前歩き・横歩き・後ろ歩き・ツイストの動きを練習してくる	
授業形式	実技	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	フィットネス	3 (陸) DVDで水中ウォーキングテスト課題を確認する。キューイングについて学ぶ 水中ウォーキング(前歩き・横歩き・後ろ歩き・ツイスト)を指導練習 予復修課題：前歩き・横歩き・後ろ歩き・ツイストの指導を練習してくる
配当年次	2年生	開講学期	後期			4 (陸) 指導の循環について学ぶ 水中ウォーキング(前歩き・横歩き・後ろ歩き・ツイスト)を指導練習 予復修課題：前歩き・横歩き・後ろ歩き・ツイストの指導を練習してくる
授業概要	健康・体力づくりの指導を、プールという環境を利用し、水の特性を理解した上で、ウォーミングアップ、有酸素運動、筋力トレーニング、リラクゼーション、レクリエーションを水中ウォーキングやアクアダンスエクササイズの手法で学び、実演、指導が出来るようになっていきます。					5 (陸) 本日のテストの実施方法を伝える 水中ウォーキング(前歩き・横歩き・後ろ歩き・ツイスト)を指導テスト 予復修課題：次のテストに向けて予修
授業到達目標	水中で行うエクササイズのプログラムを作成することができる。 水中で運動をおこなっている方を陸の上から実演し指導ができる。 健康運動実践指導士、日本フィットネス協会のアクアエクササイズ実技試験合格レベルの実演、指導ができる。					6 (陸) DVDで水中レジスタンス5種目を確認する その後、グループになり練習 予復修課題：水中レジスタンス5種目の指導を練習
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 (陸) 水中の特性(水圧・浮力・抵抗)について学ぶ。 水中と陸で水中レジスタンス(5種目)を指導練習 予復修課題：水中レジスタンス5種目の指導を練習		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 水中レジスタンス5種目の指導を練習 グループになり指導者役の練習 予復修課題：水中レジスタンス5種目の指導を練習		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 水中レジスタンス5種目の指導を練習うち2種目をテスト 予復修課題：次のテストに向けて予修		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実技主体なため、毎回出席をすることで実演、指導能力を習得していく。 健康運動実践指導士、日本フィットネス協会認定アクアエクササイズ実技試験合格レベルを目指す為、細かくテストを行うことで習得レベルを確認していく。 予復修時間の目安は、30分です。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		60 %				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		20 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	15 予復修課題：アクアエクササイズの資格を来年取得できるようにまとめておく					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	エアロビックエクササイズ Aerobic Exerise				単位数	授業内容**	
担当者	衛藤 志津代 (ETOU Shizuyo)				1	1 オリエンテーション (自己紹介、授業内容の確認) エアロビックダンスの体験 予復修課題: 自分が必要とする授業であるか、考えてくる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ3117	2 エアロビックダンスの歴史、特徴、効果、プログラムの基本構成など学ぶ 運動強度の変化の要因を学ぶ 予復修課題: ステップの展開練習	
授業形式	実技	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3 プログラミングと指導 様々なプログラミング法と展開方法、指導の循環について理解する 予復修課題: ステップの展開練習	
配当年次	3年生	開講学期	前期集中			4 プログラム作成と指導練習 運動強度を上げるプログラムを作成し、グループで練習の後、発表ディスカッション 予復修課題: 作成したプログラムを練習	
授業概要	エアロビックダンスのプログラミング法を中心に学びます。 同時にエアロビックダンス1で取得している、動作や指導のスキルも高め、インストラクターとして総合的にレベルを高めていく。					5 プログラム作成と指導練習 運動強度を上げるプログラムテスト 予復修課題: 運動強度を下げるプログラム	
授業到達目標	安全で効果的なプログラムを作成し、実演することができる。 エアロビックダンスの楽しさを伝えられる指導力を身につけることができる。 グループエクササイズでありながらも、参加者一人一人に合った指導ができる。					6 プログラム作成と指導練習 運動強度を下げるプログラムを作成し、グループで練習の後、発表ディスカッション 予復修課題: 作成したプログラムを練習	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実技主体なため、毎回出席をすることで実演、指導能力を習得していく。 日本フィットネス協会 (GFI) エアロビックダンスエクササイズインストラクター取得レベルまで仕上げる。 予復修時間の目安は、30分です。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		60 %					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		20 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
					15	まとめ 予復修課題: 授業の総括をまとめてくる	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康産業施設実習 Internship in Health and Fitness		単位数	授業内容**	
担当者	梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSJ3307		
授業形式	実習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	フィットネス	
配当年次	3-4年生	開講学期	前期集中			
授業概要	夏期休暇を中心として10日間のインターンシップを実施する。実習先は健康運動指導士が在籍するスポーツクラブ、メディカル施設等の健康産業施設とする。 実習内容は、運動プログラム作成、運動指導及び指導補助、施設管理、事業運営など現場で行われているすべての業務とする。					
授業到達目標	実習を遂行し、報告書としてまとめることができる。 まとめた内容を人前で発表・報告することができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	健康運動指導士・健康運動実践指導者資格取得希望者のみ実習に参加できる。			
1. 小テスト、感想文など		%	「事前指導」「事後指導」とも全出席のこと。			
2. 中間テスト		%	「事前指導」は前期、「事後指導」は後期の実施となる。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	予復修で180分の学修を目安とすること。			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	10日間かつ80時間以上の現場実習を体験する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %				
3. 施設からの評価と実習日誌		30 %				
再評価の実施	する	しない				
教科書	資格取得マニュアルを配布します。					
参考書						
1	オリエンテーション 配布資料 (実習の概要、趣旨、スケジュール) 実習概要・趣旨・スケジュールを確認し、健康関連資格取得・実習参加の意志決定。 予復修課題: 健康関連資格取得・実習参加の意志を明確にするため熟考する。					
2	事前指導(1) 配布資料 (実習施設について、申込書・エントリーシート) 実習先を確認し、書類(申込書・エントリーシート)を作成する。 予復修課題: 資料 を熟読し、健康関連資格取得・実習参加の意志決定する。					
3	事前指導(2) 配布資料 (学生確認用実習概要、実習依頼用電話のかけ方) 資料 を参考に実習希望施設を確定し、実習依頼(事前面談)の手順を確認する。 予復修課題: 資料 を参考に実習希望施設(第1~3候補)を検討する。事前面談を依頼する。					
4	事前指導(3) 配布資料 (実習施設宛て実習概要、実習依頼書・回答書) 事前面談のアポイントメントが取れた者は、訪問準備を行う。未決定者は面談依頼継続。 予復修課題: 訪問決定者は実習依頼書・回答書を作成し、施設訪問実施。					
5	事前指導(4) 配布資料 (実習日誌、誓約書、契約書) 実習施設決定者は実習開始までに必要な書類等の準備を行う。施設未決定者は依頼継続。 予復修課題: 実習施設決定者は施設の受入・指導担当者と連絡を取り、実習準備を進める。					
6	現場実習(1) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
7	現場実習(2) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
8	現場実習(3) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
9	現場実習(4) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
10	現場実習(5) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
11	現場実習(6) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
12	現場実習(7) 健・体財団の基準に適合した施設で10日間かつ80時間以上の実習を実施する。 予復修課題: 施設の指示に従うこと。実習日誌を必ず作成し、指導担当者に提出する。					
13	事後指導(1) 必要書類(実習日誌、報告書)を完成し、提出する。 予復修課題: 実習日誌、実習報告書の作成					
14	事後指導(2) 報告会の準備を進め、プレゼンテーション資料を完成させる。 予復修課題: 報告会プレゼンテーション資料作成の準備。					
15	事後指導(3) 報告会を行う。 予復修課題: 報告会プレゼンテーション資料の完成と発表練習を行う。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ政策概論 Introduction to Sport Policy				単位数	授業内容**	
担当者	田代 利恵 (TASHIRO Rie)				2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSJ1204		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟ 政策		
配当年次	1年生	開講学期	後期				
授業概要	政策に関する基礎的な事項、国・地方の政策の中でのスポーツ政策の位置付けについて地方公共団体におけるスポーツ政策実務の経験をふまえた講義を展開する。社会環境の変化の中で、行政の視点だけではなく、さまざまなステークホルダーの視点から現代に求められるスポーツ政策のあり方について理解を深める。						
	国・地方自治体のスポーツ政策の現状と課題が理解・説明できる。スポーツ行政の組織・主要施策について理解できる。スポーツ以外の分野との連携、スポーツがもたらす効果について理解できる。						
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	振り返りシート(授業で配布)を記入し、提出する。					11 スポーツによる地域活性化 スポーツまちづくり、スポーツツーリズム 予復修課題: 授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう
1. 小テスト、感想文など	%	評価は、振り返りシート(課題)、受講態度 まとめのテストの総合評価とする。					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	40 %						
4. 授業中の発表、討論	%						
5. 授業への参加意欲	20 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	40 %	授業中に実施する振り返りシートを通して、自分の考え・意見を表現する力をつける。					12 パートナーシップによるスポーツ振興 予復修課題: 授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう
2. 論文、まとめのレポートなど	%	振り返りシートは、10回程度実施する。					
3.	%						13 スポーツ施設の現状と課題 予復修課題: 授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう
再評価の実施	する	しない					
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。						
参考書							
	15 授業の総括(振り返り)、まとめのテスト 予復修課題: 授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツ政策各論 Theory of Sport Policy				単位数	授業内容**	
担当者	田代 利恵 (TASHIRO Rie)				2	1 オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、目標の確認等 予復修課題：シラバスの確認、授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 スポーツ政策の実際 行政におけるスポーツ政策の現状と課題 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ2112	専任	3 学校体育とスポーツ政策 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
配当年次	2年生	開講学期	前期	コース区分*	専任	4 地域スポーツとコミュニティ 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
授業概要	政策に関する基礎的な事項、国・地方の政策の中でのスポーツ政策の位置付けについて地方公共団体におけるスポーツ政策実務の経験をふまえた講義を展開する。社会環境の変化の中で、行政の視点だけではなく、さまざまなステークホルダーの視点から現代に求められるスポーツ政策のあり方について理解を深める。				専任	5 健康づくりとスポーツ 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
授業到達目標	国・地方自治体のスポーツ政策の現状と課題が理解・説明できる。 スポーツ行政の組織・主要施策について理解できる。 スポーツ以外の分野との連携、スポーツがもたらす効果について理解できる。				専任	6 スポーツによる地域・経済活性化 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	振り返りシート(授業で配布)を記入し、提出する。				
1. 小テスト、感想文など		%	評価は、振り返りシート(課題)、受講態度				
2. 中間テスト		%	まとめのテストの総合評価とする。				
3. 課題レポートなどの提出物		40 %	スポーツ政策概論の単位を修得済みである				
4. 授業中の発表、討論		%	ことが望ましい				
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		40 %	授業中に実施する振り返りシートを通して、				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	自分の考え・意見を表現する力をつける。				
3.		%	振り返りシートは、10回程度実施する。				
再評価の実施	する	しない					
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。						
参考書							
				15 予復修課題：授業の内容について予修・復修を120分程度おこなう			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ組織論 Sport Organization		単位数	授業内容**		
担当者	内田 満 (UCHIDA Mitsuru)			2	1	本授業の目的・概要・評価方法などの説明を行う 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング	SSJ2113	2	組織とは何か/制度とは何か? 予復修課題：組織の形態について調べ、レポートする	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		3	予復修課題：組織の形態について調べ、レポートする
配当年次	2年生	開講学期	前期			4	予復修課題：チームとクラブの違いについて調べ、レポートする
授業概要	近年、スポーツ界においても組織力を高めることが指摘されている。これまでのスポーツは属人的な組織が多く、例えばチームなどの場合は指導者に意思決定を委ねたり、協会的な組織も一部の人材によって意思決定が行われるなどしている。そこで、本授業では担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事（20年）と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事（15年）した経験を活かし、スポーツ人における組織づくりを学んでいく。					5	予復修課題：3つのセクターについて調べ、レポートする
	1. 組織論を理解し、個人としての自分と組織人としての自分を認識することができる 2. スポーツ組織の社会的な課題を指摘し、解決策を立てることができる 3. 組織におけるコミュニケーションスキルを身につけることができる					6	予復修課題：チームとクラブの違いについて調べ、レポートする
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7	予復修課題：運営と経営の違いについて調べ、レポートする
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業形式は講義形式とグループによるワークショップを基本とする。その中で、自分なりの意見(哲学)をまとめたり、グループとしてのコミュニケーションを深め、組織的な意見集約を行う。課題は10回程度を予定しており、その都度提示する。課題に応じ、授業でフィードバックする。 予復修時間：2時間程度					
1. 小テスト、感想文など	10 %	アクティブ・ラーニング グループワーク：2～11回目 プレゼンテーション：12～14回目 ワークショップ：1回目					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	20 %						
4. 授業中の発表、討論	20 %						
5. 授業への参加意欲	30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		予復修時間：2時間程度					
1. まとめのテスト	%	グループワーク：2～11回目					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %	プレゼンテーション：12～14回目					
3.	%	ワークショップ：1回目					
再評価の実施	する	しない					
教科書	必要に応じて資料を配付する						
参考書							
15	本授業のまとめとしての試験を行う(60分)。終了後、試験内容を中心に解説と振り返りを行う。 予復修課題：試験に必要な資料のまとめなどを行っておく。						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	地域スポーツ政策演習 Community Sport Policy				単位数	授業内容**	
担当者	内田 満 (UCHIDA Mitsuru)				2	専任	1 本授業の目的・概要・評価方法などの説明を行う 予復修課題： 授業内容に関する情報収集
実務経験のある教員による授業	○ ナンバリング SSJ2213						2 政策とは何か／公共政策・社会政策・経済政策について 予復修課題： 政策とは何かについて調べ、レポートする
授業形式	演習	科目区分	専攻コース科目	コース区分*		球	政策
配当年次	2年生	開講学期	後期				
授業概要	スポーツ政策の分野は量的にも質的にも、その研究は著しく少ないと指摘されている。実際の行政政策の場においても、その専門家が存在することは皆無に等しい。各分野の専門家は存在しても、政策の専門家がコーディネートすることは少なく、またソーシャルアイデアとして政策を策定することも難しい。授業は担当教員がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会から(15年)し、行政政策に関わった経験を活かしながら展開する。						3 スポーツ基本法について 予復修課題： スポーツ基本法について調べ、レポートする
授業到達目標	1. 地域スポーツ政策の実際を学び理解することができる 2. スポーツプロダクトとしてのソーシャルアイデアを学び、自身で計画できるようになる 3. 我が国に必要なスポーツ政策を立案できるようになる						4 我が国のスポーツ政策の歴史について① 予復修課題： スポーツ推進委員制度について調べ、レポートする
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕							
【知識・技能】	学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				○		5 我が国のスポーツ政策の歴史について② 予復修課題： 保健体育審議会について調べ、レポートする
【思考力・判断力・表現力】	実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				◎		6 スポーツ基本計画とスポーツ立国戦略について 予復修課題： スポーツ基本計画について調べ、レポートする
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				○		7 都道府県のスポーツ計画の実際／条例について 予復修課題： 具体的な計画を調べて、レポートする
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業形式は講義形式とグループによるワークショップを基本とする。その中で、自分なりの意見(哲学)をまとめたり、グループとしてのコミュニケーションを深め、組織的な意見集約を行う。課題は10回程度を予定しており、その都度提示する。課題に応じ、授業でフィードバックする。 予復修時間：2時間程度					
1. 小テスト、感想文など	10 %	アクティブ・ラーニング グループワーク：2～11回目 プレゼンテーション：12～14回目 ワークショップ：1回目					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	20 %						
4. 授業中の発表、討論	20 %						
5. 授業への参加意欲	30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト	%						
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %						
3.	%						
再評価の実施	する ○	しない					
教科書	必要に応じて資料を配付する						
参考書							
							11 行政組織の成り立ちと予算執行について 予復修課題： 行政について学んでおく
							12 スポーツ計画づくり① 目的と理念の作り方 予復修課題： アイデアをいくつか用意しておく
							13 スポーツ計画づくり② 計画のまとめ 予復修課題： グループでのレポートまとめ
							14 スポーツ計画づくり③ 発表と評価 予復修課題： レポートの修正など
							15 本授業のまとめとしての試験を行う(60分)。終了後、試験内容を中心に解説と振り返りを行う。 予復修課題： 試験に必要な資料のまとめなどを行っておく。

\*コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず〈UNIVERSAL PASSPORT〉で確認してください。

授業科目名 (Subject)		生涯スポーツ論 Theory of life long sports		単位数	授業内容**	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)		2	1 ガイダンス、「生涯スポーツとは何か」 生涯スポーツに関する基礎知識を概説する。 予復修課題：シラバスを熟読して内容を理解し、講義後に内容を深める。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 「学校体育と生涯スポーツ」 学校体育と生涯スポーツの関係性を検討する。 予復修課題：学校体育と生涯スポーツの関係性を調べ、講義後に内容を深める。	
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	SSJ2114	3 「成人教育と生涯スポーツ」 成人教育と生涯スポーツの関係性について検討する。 予復修課題：成人教育と生涯スポーツの関係性を調べ、講義後に内容を深める。	
配当年次	2年生	開講学期	前期	コース区分*	4 「高齢者と生涯スポーツ」 高齢者における生涯スポーツの必要性を検討する。 予復修課題：高齢者における生涯スポーツの必要性を調べ、講義後に内容を深める。	
授業概要	本授業では、生涯学習の視点からスポーツとすべての世代との関係性を検討する。その際、ライフステージを通じたスポーツの享受と社会全体における多様な機会、例えば、学校教育、成人教育、高齢者対象のプログラム、地域社会でのスポーツクラブでのスポーツ環境の重要性について学ぶことを目的とする。				5 「ライフステージにおける生涯スポーツ(総括)」 講義(1~4回)を振り返り、ライフステージと生涯スポーツの関係性を整理する。 予復修課題：講義(1~4回)を振り返り、講義後に内容を深める。	
授業到達目標	(1) 生涯スポーツに関する基礎基本を理解し、説明ができる。 (2) 各ライフステージにおける生涯スポーツの重要性を理解し、説明ができる。 (3) 地域社会を基盤としたスポーツ振興の重要性について理解し、説明ができる。				6 「生涯スポーツにおけるマネジメント」 生涯スポーツにおけるマネジメントについて検討する。 予復修課題：生涯スポーツのマネジメントについて調べ、講義後に内容を深める。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	成績評価は、参加意欲、授業中の課題提出、まとめのテストの総合評価とする。 本授業は、社会教育主事任用資格関連の科目であり、主体的な受講態度が望まれる。 各回の予修及び復修について 予修(2時間)、復修(2時間)とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめテスト		50 %	生涯スポーツの理解、実践、支援の視点で プレゼンテーション及び討論を通じ内容を深めていく。			
2. 論文、まとめレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない	プレゼン【第15回】、討論【第1回~第14回】			
教科書	なし。					
参考書	資料等を適宜配布する。					
					15 総括とまとめのテスト 課題レポートのプレゼン及び提出(全員)、まとめのテスト。 予復修課題：レポートのプレゼン準備、まとめのテスト後に内容を深める。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		生涯学習と社会体育 Lifelong Learning and Out of School Physical Education		単位数	授業内容**	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)		2	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSJ2214		
授業形式	講義	科目区分	専攻コース科目	コース区分*	ｽﾎﾟ政策	
配当年次	2年生	開講学期	後期			
授業概要	生涯スポーツ及び社会体育の概念や意義(使命と役割)を理解しながら、少子高齢化や国民の健康スポーツに関するニーズを踏まえて、その実現に寄与できる知識と態度を涵養する。また生涯スポーツ及び社会体育を効果的に実現するための行政の在り方について、各機能相互の連携・協働とその体系化について学ぶとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に注目を集めているパラスポーツ(障がい者スポーツ)の視点から生涯スポーツ及び社会体育における人権意識の涵養についても講義する。					
	授業到達目標	生涯スポーツ及び社会体育の概念について理解し、説明できる。 生涯スポーツ及び社会体育の意義について理解し、説明できる。 生涯スポーツ及び社会体育の関係性について理解し、説明できる。 生涯スポーツ及び社会体育と行政(生涯学習行政、社会教育行政)との連携・協働について理解し、説明できる。 生涯スポーツ及び社会体育と人権の関係性について理解し、説明できる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係( 特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	毎回の授業で10分間の課題を実施。評価は課題・出席(意欲)・まとめのテストにおける総合評価とする。予修・復修の時間については、それぞれ2時間とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめテスト		50 %	授業中に実施する10分間課題(新聞等を読んでコメントを書く)を活用して受講生の意見を共有する。【第1回~第14回】			
2. 論文、まとめレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書						
1	ガイダンス 現代社会における生涯スポーツ及び社会体育の現状について概説する。 予復修課題： シラバスの確認、生涯スポーツ及び社会体育の現状について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
2	生涯スポーツの概念と意義(使命と役割) 生涯スポーツの概念、意義(使命と役割)について概説する。 予復修課題： 生涯スポーツの概念と意義(使命と役割)について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
3	社会体育の概念と意義(使命と役割) 社会体育の概念、意義(使命と役割)について概説する。 予復修課題： 社会体育の概念と意義(使命と役割)について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
4	国民のニーズに応える生涯スポーツ及び社会体育 国民のニーズに応える生涯スポーツ及び社会体育の在り方について検討する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育に関する国民のニーズについて調べ、講義後ノートに整理し深める。					
5	生涯スポーツと社会体育の関係性 生涯スポーツと社会体育の関係性について整理する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育の関係性について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
6	生涯スポーツと生涯学習行政 生涯スポーツと生涯学習行政について検討する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び生涯学習行政について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
7	社会体育と社会教育行政 社会体育と社会教育行政について検討する。 予復修課題： 社会体育及び社会教育行政について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
8	生涯スポーツ及び社会体育における連携・協働 官民 生涯スポーツ及び社会体育における連携・協働(官民)について概説する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育における連携・協働(官民)について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
9	生涯スポーツ及び社会体育における連携・協働 民民 生涯スポーツ及び社会体育における連携・協働(民民)について概説する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育における連携・協働(民民)について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
10	生涯スポーツ及び社会体育における施設の整備 生涯スポーツ及び社会体育における施設の整備について検討する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育における施設について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
11	生涯スポーツ及び社会体育に関わる人材養成 生涯スポーツ及び社会体育に関わる人材養成について検討する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育における人材養成について調べ、講義後ノートに整理し深める。					
12	人権意識を涵養する生涯スポーツ及び社会体育の取り組み 人権意識を涵養する生涯スポーツ及び社会体育の取り組みについて整理する。 予復修課題： 人権意識を涵養する生涯スポーツ及び社会体育の取り組みについて調べ、講義後ノートに整理し深める。					
13	生涯スポーツ及び社会体育で普及するパラ(障がい者)スポーツ 生涯スポーツ及び社会体育で普及するパラ(障がい者)スポーツについて検討する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育で普及するパラ(障がい者)スポーツについて調べ、講義後ノートに整理し深める。					
14	生涯スポーツ及び社会体育とスポーツボランティア 生涯スポーツ及び社会体育におけるスポーツボランティアの意義について検討する。 予復修課題： 生涯スポーツ及び社会体育とスポーツボランティアについて調べ、講義後ノートに整理し深める。					
15	講義の総括・まとめのテスト 本講義の内容を総括したうえで、まとめのテストを実施する。 予復修課題： 講義を振り返り、生涯スポーツ及び社会体育について考えを深める。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)				4	1	筋力の測定(1) 等尺性筋力、力-角度関係 予復修課題：測定データについてレポート作成
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2	筋力の測定(2) 等尺性筋力、RFD 予復修課題：前回授業分のデータを含めレポート作成
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	3	筋力測定(等尺性)に関する文献抄読 予復修課題：1~3回目授業分レポートの作成・提出
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4	筋力の測定(3) 等速性筋力、力-速度関係 予復修課題：測定データについてレポート作成
授業概要	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。					5	筋力の測定(4) 等速性筋力、筋持久力 予復修課題：前回授業分のデータを含めレポート作成
授業到達目標	等速性筋力測定器(サイベックス)が使用できるようになる。 キネアナライザー等の分析ソフトが使用でき、分析に必要な作図ができるようになる。 各自のテーマに沿った文献を収集することができるようになる。					6	筋力測定(等速性)に関する文献抄読 予復修課題：4~6回目授業分レポートの作成・提出
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	以下の科目を修得しておくことが望ましい				
1. 小テスト、感想文など		%	スポーツ生理学				
2. 中間テスト		%	体力トレーニング論				
3. 課題レポートなどの提出物		%	各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。				
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	測定・計測				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	【1~14回目】				
3. プレゼンテーション		20 %	プレゼンテーション				
再評価の実施	する	しない	【15回目】				
教科書							
参考書							
	15 予復修課題：筋力、パワー、床反力の関係等についてプレゼンテーション資料を作成する						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*		
授業概要	本授業は、4年次の卒業研究に結びつくものとして捉えている。取り扱う領域は、運動生理学、環境生理学、体力医学で、研究の基礎を学ぶ。また健康運動指導士の受験に必要な知識をテキストを輪読しながら習得する。					
	様々な研究者の文献を読みこなすことで、研究への取り組み方、研究手法、レポートのまとめ方などを習得し、答の見つからないテーマに対していかに自分なりの答え(結論)を導き出すか、といった研究する態度を身につける。 健康運動指導士講習会用テキストを輪読することで、健康運動指導士の素養を身につける。					
	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
	成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項		
	1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各自の進捗状況によって毎回の授業内容が変わります。		
	1. 小テスト、感想文など		%	状況によっては夏季及び冬季休暇中にも活動してもらいます。		
	2. 中間テスト		%			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	毎回ディスカッションを行います。			
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	資料を配布します。					
参考書						
1	オリエンテーション、研究する姿勢について 授業の目的・目標、授業の進め方、受講人数の確認、健康とは何か 予復修課題：資料の復修(2時間)、文献の検索と学習(2時間)					
2	文献の検索方法について(図書館) 予復修課題：文献の検索と学習(4時間)					
3	文献抄読及び科学研究とは何かを学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
4	文献抄読及び研究の手法について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
5	文献抄読及び研究の手順について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
6	文献抄読及び調査・実験の手技 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
7	文献抄読及び調査・実験の手技 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
8	文献抄読及び調査・実験の手技 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
9	文献抄読及びデータの取り扱いについて学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
10	文献抄読及びデータの統計的解析 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
11	文献抄読及びデータの統計的解析 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
12	文献抄読及びデータの統計的解析 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
13	文献抄読及び図表の作成方法 について学びます。 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
14	文献抄読及び図表の作成方法 について 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。					
15	まとめ 予復修課題：前13回の復修(3時間以上)をしておくこと					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	得居 雅人 (TOKUI Masato)			4	専任	1 オリエンテーション、卒業研究に至る2年間のスケジュール、自己紹介1 予復修課題：これまでの学習や体験から興味あるテーマを考えて来る。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 自己紹介2、プレゼンテーション 予復修課題：自己紹介のパワーポイントを作成する
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 文献検索 予復修課題：これまでの学習や体験から興味あるテーマを考えて来る。
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 文献検索、論文講読 予復修課題：論文を検索し、持参する。
授業概要	本演習は、卒業研究を作成するための基礎的能力を養い、研究の方向性を明確にすることを目的とする。前期は、論文を収集し講読することにより専門分野への理解を深める。また、運動生理・バイオメカニクス分野の実験方法とデータの解析方法を学ぶ。					5 文献検索、論文講読 予復修課題：論文を検索し、持参する。
授業到達目標	収集した先行研究を要約し、概要をまとめることができる。					6 文献検索、論文講読 予復修課題：論文を検索し、持参する。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 実験の方法(運動生理学)を学ぶ。 予復修課題：スポーツ生理学を復修する。
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8 データ解析の方法を学ぶ。 予復修課題：データをまとめる。
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9 実験の方法(バイオメカニクス)を学ぶ。 予復修課題：スポーツバイオメカニクスを復修する。
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	受け身にならず、自ら前に進む姿勢で臨んで欲しい。 毎回60分の予修が必要である。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	40 %					
5. 授業への参加意欲	40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	測定とデータの整理・考察を行い、論文を講読する。				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	論文を要約し発表する。				
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
					15	予復修課題：発表の準備をする。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		田中 雄二 (TANAKA Yuji)		4	1 オリエンテーション：卒業研究に向けた活動について概説を行う 研究とは何か、論文作成とは何かについて学ぶ。 予復修課題：理科系の作文技術、等を読んで理解しておく(読んで要約すると5時間以上かかります)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 学術論文の構成：論文の形態について学ぶ 学術論文を読む。その記述スタイルについて学び取る。 予復修課題：当該時間に取り扱った学術論文を参考に、類似物を探す(図書館等を活用。4時間)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3 学術論文の検索：論文の検索方法について学び、実践する 図書館・インターネットを用いて学術論文検索方法を知る。実際に探してみる。 予復修課題：テーマを決めて論文を検索・収集する(検索、閲覧、複写を行うと4時間以上かかります)	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*	4 研究テーマの考え方：先行研究を知り、自身の関心を知る 先行研究について知り、テーマ設定の方法について考えを深めていく。 予復修課題：先行研究となる論文を探しておく。インターネットで関連情報も調べておく(4時間)	
授業概要	スポーツゼミナール(前期)では、卒業研究に向けたスポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。				5 テーマ設定その1：スポーツ学部での学びの中から興味関心のある領域を定める。 2年間の学びや携わった競技を踏まえながら、研究領域設定を行う。 予復修課題：自身の興味関心についてA4レポート1枚にまとめておく(具体的に記述。4時間)	
授業到達目標	研究論文作成に関わる能力を習得する。 研究論文テーマの設定ができる。 テーマ設定の理由が説明できる。 研究目的を箇条書きで示すことができる。 先行研究の文献検索ができる。				6 テーマ設定その2：研究領域設定について討論する テーマ設定について発表する。他者の話を聞きながら、自身の設定方法を振り返る。 予復修課題：検討内容をもとに、先行研究論文を探す。(具体性に富むものを見出す。4時間以上)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ゼミ生それぞれの進捗状況によって内容を 変更することがあります。研究とは何か、に ついて理解を深め、先行研究の論文探しやそ の内容把握に努め、自身が探求したいテーマ を、自らの思考で見出だしていくことを求め ていきます。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	10 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
					11 論文の著述方法について：諸言とは何かを理解する 学術論文の「諸言」「はじめに」という項目について理解を深める 予復修課題：参考文献を熟読し、理解するよう努める(4時間)	
					12 研究の遂行その1：方法論を定める 先行研究を足掛かりとして、研究の遂行方法を定める。 予復修課題：研究手法について理解していく(予復習4時間以上)	
					13 研究の遂行その2：必要な手段を確立する アンケート調査・インタビュー等、遂行手段に必要な手立てを理解する。 予復修課題：先行研究について理解を深める(4時間)	
					14 研究の遂行その3：研究に取り掛かるための準備を行う テーマの絞り込みを行う。先行研究との立ち位置の違いを把握する。 予復修課題：先行研究について理解を深める(4時間)	
					15 前期まとめの報告：取り組み方法の報告会 後期に繋がる流れについて大局的に説明する。 予復修課題：これまでの流れを説明できるようにしておく(4時間)	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*		
授業概要	スポーツの世界における栄養指導の理想は、スポーツ選手の食事調査を行い 問題点を把握し 介入指導を行い 改善結果を得ることである。卒業研究に向けて、食事調査手法の検討とともに栄養学の知識を修得し、栄養指導のできるスポーツ指導者やトレーナーを目指す礎をすることを本演習の目的とする。					
	研究をデザインすることの意義が理解できる。 栄養素の基礎を理解し、説明できる。 食事調査結果から問題点の把握ができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	過去の配布資料も毎回必ず持参すること。学外活動(調査・指導等)にも積極的に参加することが望ましい。2年次のスポーツ栄養学を履修しておくことが望ましい。また、ゼミ生の興味テーマにより内容を変更する場合がある。予復修で180分の学修を目安とすること。			
1. 小テスト、感想文など		10 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		15 %				
4. 授業中の発表、討論		5 %				
5. 授業への参加意欲		5 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		15 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	研究指導教員との授業であるので、すべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、発表と討議(第11・12回)があるのが特長である。			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	プリントを配布する。					
参考書						
1	オリエンテーション、研究デザイン ブレインストーミング 予復修課題：予修：研究とは何か考えてくること。復修：演習の進め方の理解に努めること。					
2	研究テーマの背景と論文の構成(1) 予復修課題：予修：指示された文献を熟読のこと。復修：該当構成箇所についてまとめること。					
3	研究テーマの背景と論文の構成(2) 予復修課題：予修：指示された文献を熟読のこと。復修：該当構成箇所についてまとめること。					
4	研究テーマの背景と論文の構成(3) 予復修課題：予修：指示された文献を熟読のこと。復修：該当構成箇所についてまとめること。					
5	文献抄読(1) 予復修課題：班毎に指示された文献内容をまとめること。					
6	文献抄読(2) 予復修課題：班毎に指示された文献内容をまとめること。					
7	文献抄読(3) 予復修課題：班毎に指示された文献内容をまとめること。					
8	文献検索とまとめ方 CiNiiの使い方実践 予復修課題：予修：図書館の検索システムを扱うこと。復修：参考文献の書き方をまとめること。					
9	プレゼンテーション技法(1) グラフ作成 予復修課題：予修：Excelのグラフ作成機能を扱うこと。復修：グラフの作り方をまとめること。					
10	プレゼンテーション技法(2) Power Point作成 予復修課題：予修：Power Pointを扱うこと。復修：発表媒体をまとめること。					
11	発表と討議(1) 予復修課題：班毎にテーマについてまとめること。他班のテーマについてもまとめること。					
12	発表と討議(2) 予復修課題：班毎にテーマについてまとめること。他班のテーマについてもまとめること。					
13	食事調査(1) FFQ回答、打ち込み、BDHQ回答 予復修課題：食物摂取頻度調査、食事歴法についてまとめること。					
14	食事調査(2) FFQ解析 予復修課題：食物摂取頻度調査、食事歴法についてまとめること。					
15	総まとめ まとめのレポート作成を行う 予復修課題：予修：指示テーマについてまとめること。復修：夏季休業中の指示に従い実施のこと。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*		
授業概要	スポーツ科学の研究分野で用いられる主要な測定法について実習を行い、データを取得しデータ処理、プレゼンテーション資料の作成を行うことができるようにする。実験計画からデータ取得、データ解析の過程を経験することにより、卒業研究を自力で進めるための力を身につけることを目指す。					
	身体の形態や機能を数値化するため、実験機材の使用法を身につけること。取得したデータを解析し、その意味を理解するとともに他者に対して説明できること。データの意味を解釈し、プレゼンテーションを行うことができること。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実習形式で授業を進めるため、授業開始時間までに、実習準備をおこなっておくこと。本演習では実験への参加、レポート提出は必須である。			
1. 小テスト、感想文など		%	毎週のテーマに関する文献調査を行って授業に参加すること(30分程度)。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	実践学習[第2~5回、第8~12回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	グループワーク[第6~7回、第13~14回]			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし					
参考書						
1	授業内容の説明 自己紹介、班分け 予復修課題：等速性筋力について調べ、レポート用紙1枚にまとめてくること。					
2	等速性筋力の測定 サイベクスの使用方法説明、測定練習 予復修課題：等速性筋力とスポーツパフォーマンスの関係についての研究テーマを考えてくること。					
3	膝関節屈曲/伸展筋力の測定 全員で膝関節筋力の測定を行いデータを収集する。 予復修課題：各班で話し合いを行い、研究計画を作成してくること。					
4	等速性筋力と競技パフォーマンスの関係(1) 班別に等速性筋力測定のプロトコルを作成し、予備実験、データ収集を行う。 予復修課題：班ごとに5名程度の筋力測定データを収集しておくこと。					
5	等速性筋力と競技パフォーマンスの関係(2) 班別に競技パフォーマンスの測定法を決定し、プロトコルを作成する。 予復修課題：班ごとに5名程度の競技パフォーマンスデータを収集しておくこと。					
6	プレゼンテーション資料の作成 等速性筋力と競技パフォーマンスの関係についてのプレゼンテーション資料を作成する。 予復修課題：発表原稿の作成と発表練習を行ってくること。					
7	プレゼンテーション 各班の研究テーマについての発表を行い、質問を受ける。 予復修課題：プレゼンテーション、質問内容を踏まえ、レポート2枚にまとめてくること。					
8	形態計測 マルチン人体計測器を用いた人体計測の仕方 予復修課題：人体計測データをレポート用紙1枚にまとめてくること。					
9	体組成測定 体成分測定装置を用いた体組成の測定 予復修課題：体組成データをレポート用紙1枚にまとめてくること。					
10	筋厚測定 超音波診断装置を用いた筋厚の測定(測定位置の決定、超音波診断装置の使い方) 予復修課題：筋厚と競技パフォーマンスの関係についての研究テーマを考えてくること。					
11	筋厚と競技パフォーマンス(1) 各班の研究テーマに合わせ、筋厚測定を実施する。 予復修課題：競技パフォーマンスの測定法を調べ、準備をしてくること。					
12	筋厚と競技パフォーマンス(2) 各班の研究テーマに合わせ、競技パフォーマンスの測定を実施する。 予復修課題：筋厚と競技パフォーマンスの関係について取得したデータを整理してくること。					
13	プレゼンテーション資料の作成 筋厚と競技パフォーマンスの関係についてのプレゼンテーション資料を作成する。 予復修課題：発表原稿の作成と発表練習を行ってくること。					
14	プレゼンテーション 各班の研究テーマについての発表を行い、質問を受ける。 予復修課題：プレゼンテーション、質問内容を踏まえ、レポート2枚にまとめてくること。					
15	前期のまとめ レポートの回収、図書館での文献収集の仕方の説明 予復修課題：前期に課題に関連する研究論文を1編探し、その内容をレポートにまとめてくること。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**		
担当者	木寺 英史 (KIDERA Eishi)			4	1	オリエンテーション 予復修課題：なし	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				2	レポートと論文の違い 予復修課題：配付資料を復修する。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)				
授業概要	日本の武道(武術)および伝承的身体運動文化について、その研究の概略を考究する。					3	文章を書くということ 予復修課題：配付資料を復修する。
						4	武道論(学)研究の概要 予復修課題：配付資料を復修する。
授業到達目標	武道(武術)および伝承的身体運動文化に関する研究の概要を知るとともに代表的な文献に触れ、研究に取り組む能力を身につける。					5	身体運動文化研究の概要 予復修課題：配付資料を復修する。
						6	文献紹介および解説 予復修課題：配付資料を復修する。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	文献研究であることを十分理解して履修すること。 各時間90分以上の予復修を行うこと。					
1. 小テスト、感想文など	%						
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	%						
4. 授業中の発表、討論	30 %						
5. 授業への参加意欲	30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %						
7.	%						
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%	ゼミ内討論会を実施する。					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %	研究課題の発表を行う。					
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
					15	前期授業のまとめ 予復修課題：研究課題の発表練習及び配付資料を作成する。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	山田 明 (YAMADA Akira)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	スポーツ学演習 では、後期のスポーツ学演習 で本格的に取り組む卒業研究作成の基礎構築を目的とする。本ゼミは、スポーツを中心に据え、社会教育・生涯学習・スポーツ行政の視点からその関連性をテーマに各自の問題意識を深めていく。具体的には、各自のテーマ設定、研究方法、先行研究等について、講義、ゼミ生の調査及びプレゼンテーション、討論等を通して進めていく。					
	スポーツと社会教育・生涯学習・スポーツ行政の関連性を把握することができる。スポーツを活用することによる社会の発展を構想することができる。スポーツを活用することによる各自の構想を実践する見通しを持つことができる。論文執筆に向けて、思考力や表現力を高めることができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各自、問題意識をもって参加すること。成績は、授業中の発表・出席状況(意欲)レポート等の提出における総合評価とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	卒業論文作成のための基礎力をつけるため、文献や資料の収集からフィールドワークまで積極的に視野を広げていく。			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書						
1	オリエンテーション ～講義の概要や進め方、成績評価の方法等～ 予復修課題： シラバスの確認、問題意識の確認(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
2	課題テーマの設定 ～課題テーマの設定方法(講義と演習)～ 予復修課題： 各自、課題テーマを検討(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
3	課題テーマの設定 ～ゼミ生によるプレゼンテーション～ 予復修課題： 各自の課題テーマの発表準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
4	課題テーマの設定 ～ゼミ生による討論～ 予復修課題： プレゼン内容の整理と討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
5	研究方法 文献研究の方法 ～講義と演習～ 予復修課題： 問題意識に沿った文献や情報を収集(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
6	研究方法 データ研究の方法 ～講義と演習～ 予復修課題： 事前に配布した資料の精読(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
7	研究方法 ～章立ての方法(講義と演習)～ 予復修課題： 事前に配布した資料の精読(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
8	研究論文作成上の留意点 ～講義と演習～ 予復修課題： 事前に配布した資料の精読(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
9	先行研究の調査方法 ～講義と演習～ 予復修課題： 事前に配布した資料の精読(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
10	先行研究の調査 ～ゼミ生各自で調査～ 予復修課題： 各自で先行研究を調査(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
11	先行研究の調査 ～ゼミ生各自で調査～ 予復修課題： 各自で先行研究を調査(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
12	先行研究のプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーション～ 予復修課題： 先行研究プレゼン準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
13	先行研究のプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーション～ 予復修課題： 先行研究プレゼン準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
14	先行研究のプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーション～ 予復修課題： 先行研究プレゼン準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
15	本演習の総括(振り返り) 予復修課題： 本演習で学んだ内容を確認し(予修2時間)、演習後、総括し深める(復修2時間)。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	八板 昭仁 (YAITA Akihito)			4	専任	1 ガイダンス 1)授業の進め方 2)評価について 3)講義の概要説明 4)受講における注意事項 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 論文の書き方 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 論文の書き方 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 論文の書き方 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
授業概要	卒業研究論文を作成するための基礎知識を学習する。バスケットボールを中心として球技の特性と基本的な戦術行動について解説する。その中から各受講生の興味に応じた研究内容を探ってゆく。その上で、研究方法の手段について総合的に学習し、自らが取り組もうとしている課題の解決方法を習得する。					5 資料収集の方法 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
授業到達目標	バスケットボール(球技)を研究教材としての視点から特性を理解し複数の分析方法を使ってデータを収集することができる。資料(データ)整理の方法を理解し使うことができる。論文・レポートの構成を理解し、収集した資料(データ)をレポートにまとめることができる。					6 資料収集の方法 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復習を行うこと。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	40 %					
5. 授業への参加意欲	30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど	10 %	調査内容・調査結果については適時プレゼンテーションを行う。				
再評価の実施	する	しない				
教科書	特に指定しない。参考図書は、第1回目の講義で説明する。					
参考書						
						11 資料整理の方法 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
						12 資料整理の方法 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
						13 プレゼンテーション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
						14 プレゼンテーション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
						15 レポート作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	卒業研究を進めていく上で必要な基礎的能力を修得し、自身の卒業研究テーマの方向性を見出すことが、本演習のねらいである。具体的には、収集した資料について討論することにより専門分野への理解を深め、実験方法やデータ処理・評価方法を学習することをおし卒業研究テーマの方向性を明確にしていく。					
授業到達目標	健康・体力関連分野の研究概要を知る。 実験方法に習熟する。(形態計測・身体組成測定法・血圧測定法・酸素摂取量測定法など)研究資料(専門書・研究論文)を収集できる。 資料の概要をまとめて、プレゼンテーションできる。 研究データを統計処理できる。 卒業研究テーマの方向性を示すことができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係( 特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	プレゼンテーションをおこなう際には、資料(レジュメまたはパワーポイント)を提出すること。 予復修で180分の学修を目安とすること。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	%					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7. 実験・調査・解析方法の習熟度	20 %					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	卒業研究テーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	とくに指定しない。適宜、資料配布。					
参考書	健康・スポーツ科学のための研究方法 出村慎一著 杏林書院					
1	ガイダンス、健康・体力と運動の関連性についての研究概要 健康・体力科学分野の研究概要を知り、卒業研究の方向性について考える。 予復修課題：配布資料(健康・体力と運動の関連性についての文献)を熟読する。					
2	形態計測・身体組成測定法 (講義・実習・評価) 形態測定(身長・体重計測法、BMI算出とその評価)について理解、実施・評価する。 予復修課題：配布資料(身体組成測定法)の熟読し、要約する。					
3	形態計測・身体組成測定法 (講義・実習・評価) 身体組成測定法(皮脂厚法・インピーダンス法)について理解、実施・評価する。 予復修課題：配布資料(身体組成測定法)の熟読し、要約する。					
4	研究資料の収集・整理の仕方 図書館を利用した文献検索の仕方と実際の資料収集 図書館を利用した文献検索(書籍)の仕方と実際の資料収集について理解、実践する。 予復修課題：興味ある書籍を検索、借用し、内容をまとめる。					
5	研究資料の検索・整理の仕方 図書館を利用した文献検索(論文)の仕方と実際の資料収集について理解、実践する。 予復修課題：興味ある論文を検索、出力、内容をまとめる。					
6	運動負荷試験 ・1 血圧測定とその評価について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(血圧測定法資料)を熟読し、要約する。					
7	運動負荷試験 ・2 心電図測定とその評価について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(心電図測定法資料)を熟読し、要約する。					
8	運動負荷試験 ・1 安静時血中乳酸測定とその評価について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(安静時血中乳酸測定法資料)を熟読し、要約する。					
9	運動負荷試験 ・2 運動時血中乳酸測定とその評価について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(運動時血中乳酸測定法資料)を熟読し、要約する。					
10	運動負荷試験 ・1 安静時酸素摂取量測定とその評価について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(安静時酸素摂取量測定法資料)を熟読し、要約する					
11	運動負荷試験 ・2 運動時酸素摂取量測定とその評価について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(運動時酸素摂取量測定法資料)を熟読し、要約する					
12	データの整理の仕方 基礎統計・相関・回帰分析について理解し、実践する。 予復修課題：配布資料(スポーツ統計の基礎)を熟読し、要約する					
13	データの整理の仕方 T検定・分散分析について理解し、実践する。 予復修課題：配布資料(スポーツ統計の基礎)を熟読し、要約する					
14	各自興味を抱いて収集した文献についてプレゼンテーションとディスカッションをおこな い卒業研究テーマの方向性を示す ・1 予復修課題：プレゼンテーション資料を作成する。					
15	各自興味を抱いて収集した文献についてプレゼンテーションとディスカッションをおこな い卒業研究テーマの方向性を示す ・2 予復修課題：プレゼンテーション資料を作成する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**		
担当者	伊藤 友記 (ITO Tomoki)			4	1	授業の概要及び進め方 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2	課題図書の見直し及び紹介 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3	課題図書の輪読、概要の発表 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)		4	課題図書の輪読、概要の発表 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。	
授業概要	<p>本授業は、4年次に取り組む卒業論文に向けて、スポーツ心理学、臨床スポーツ心理学の基本的知識を幅広く概観していき、各自の心理学領域における興味・関心を高めていく。具体的には課題図書の輪読、文献購読を中心に行いながら各自が概要をまとめ、自身の考えを織り込みながら互いに発表しあうことにより、自らの興味・関心を浮き彫りにしていくと同時に、論理的思考能力を養っていく。</p>					5	課題図書の輪読、概要の発表 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
授業到達目標	<p>1. 課題図書、文献の概要について簡潔にまとめることができる。 2. 課題図書、文献の内容について理解するとともに自身の考えを述べるができる。 3. 心理学的なもの、臨床学的な事象の捉え方について理解し、自身の日常場面に取り入れることができる。 4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べるができる。</p>					6	課題図書の輪読、概要の発表 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題図書に沿って進めるので必ず購入する</li> <li>・各自が発表担当する章だけではなく、毎時間前後には予修・復修を怠らないこと。課題の予修・復修には毎時120分程度を要する。</li> </ul>					
1. 小テスト、感想文など	%	<p style="text-align: center;">アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自担当した章の内容をプレゼンテーションし、ディスカッションする。</li> </ul>					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	20 %						
4. 授業中の発表、討論	40 %						
5. 授業への参加意欲	40 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト	%						
2. 論文、まとめのレポートなど	%						
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書	杉原 隆著 『運動指導の心理学』 大修館書店 2008						
参考書						15	予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)				4	1 オリエンテーション 1) 講義内容の説明 2) グループ分け 予復修課題: その他の活動の確認	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 研究論文の書き方、文献の検索	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	予復修課題: 卒業研究の基本的構成の説明	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			3 論文の構成について 予復修課題: 書籍および研究論文の探索方法	
授業概要	スポーツゼミナールでは、バスケットボールを中心とした戦術・戦略を理解し、卒業研究に向けた基礎知識を学習する。授業は主に自分で調べた文献の内容を理解し、他の受講者に説明し、質疑応答を行う。研究の目的、進め方、文献検索、課題、問題点を明確にして発表できるようにする。				4 テーマ設定の方法について 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する。		
					5 資料(データ)収集方法について 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する		
授業到達目標	1) スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。 2) 卒業研究に向けたテーマの探索。 3) 文献の内容を理解し、自身の考えを述べるができる。				6 資料(データ)収集方法について 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する		
					7 関心のある書籍・論文の検索 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 関心のある書籍・論文の検索 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 課題テーマについての討論会 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 課題テーマについての討論会 予復修課題: 興味ある論文についてA4用紙1枚に要約する			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	卒業研究の準備に興味を持ち取り組む。積極的に授業に参加をする。授業外にも卒業研究に向け取り組む1日1時間の予修、復修時間を確保すること				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		40 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	毎講義にて小テストを実施し、授業の振り返りを行なう。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	第14回、第15回で発表を実施する。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	15 予復修課題: 本演習で学んだことの総括、後期のスポーツゼミナールに向けての課題の説明						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	鄭 英美 (JUNG Youngmi)			4	専任	1 オリエンテーション ゼミでの活動内容および流れ 予復修課題：自分の関心分野を探す。前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 研究論文とは 研究論文を進めていく上で必要な基礎知識 予復修課題：自分の関心分野を探す。前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 研究方法の種類 研究論文を進めていく上で必要な基礎知識 予復修課題：自分の関心分野を探す 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 研究論文作成の流れ 研究論文を進めていく上で必要な基礎知識 予復修課題：各自の関心分野とその理由のまとめ(自由形式) 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分
授業概要	本授業では卒業研究を進めていく上で必要な基礎知識を修得し、自身の関心研究分野を見つけ卒業研究テーマの方向性を見出し、研究論文のテーマの設定が出来る。					5 研究論文作成の流れ 研究論文を進めていく上で必要な基礎知識 予復修課題：各自の関心分野の主題(トピックス)について検索 予復修の目安時間:120分
授業到達目標	研究論文の作成にかかわる基礎能力を習得する。 先行研究の文献収集ができる。 研究論文のテーマの設定ができる。 研究論文のテーマ設定の理由(理論的背景及び研究目的の説明ができる。)					6 自身の関心分野について紹介 卒業研究テーマの方向性を見出す。(みんなの前で発表) 予復修課題：各分野に対して関心を持った理由についてまとめ 予復修の目安時間:120分
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	2/3以上出席すること 関心分野、テーマ探しに積極的に取り組む			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	関心・興味のある分野から自らテーマを決める			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	学内外の学術セミナーや発表会に参加し、積極的に発表をする			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
15 予復修課題：以降の研究活動の計画						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ科学分野での様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。					
	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	プレゼンテーション			
3.		%	コーチング			
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
1	オリエンテーション (自己紹介、前期に取り組む課題の説明等) 予復修課題: 授業内容に関する情報収集					
2	文献検索 (参考図書、論文、新聞等の検索方法の紹介) 予復修課題: 授業内容に関する情報収集					
3	文献検索 (プレゼンテーションに向けた準備) 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集					
4	プレゼンテーション (概論、プレゼンテーションのポイント) 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集					
5	プレゼンテーション (各自興味のある分野についての調査を行い、発表する) 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集					
6	プレゼンテーション 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集					
7	プレゼンテーション 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集					
8	論文講読 興味を持った分野に関する論文を読む。 予復修課題: 用語の検索, 事前調査					
9	論文講読 興味を持った分野に関する論文を読む。 予復修課題: 用語の検索, 事前調査					
10	論文講読 興味を持った分野に関する論文を読む。 予復修課題: 用語の検索, 事前調査					
11	論文講読 興味を持った分野に関する論文を読む。 予復修課題: 用語の検索, 事前調査					
12	テーマ設定・資料収集 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集, まとめ					
13	テーマ設定・資料収集 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集, まとめ					
14	テーマ設定・資料収集 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集, まとめ					
15	テーマ設定・資料収集 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集, まとめ					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)		4	1 ガイダンス (演習の概要、成績評価について、自己紹介など) 予復修課題: 各自の本演習における目的や到達目標を明確にしておく	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 アスレティックトレーナーに求められること 予復修課題: アスレティックトレーナーの役割について予修しておくこと	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3 解剖学の確認: 肩関節 予復修課題: 肩関節における主要な骨・筋・靭帯について予修しておくこと	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*	4 解剖学の確認: 肘関節、前腕、手 予復修課題: 肘関節、前腕、手における主要な骨・筋・靭帯について予修しておくこと	
授業概要	アスレティックトレーニング領域を中心に基礎的な理論習得と実践活動を通しての技術習得を目的とする。特に実習・演習への積極的な参加を通じて、自身の活動からの学びを重視する。					
授業到達目標	スポーツ指導者ならびにアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を習得することが出来る。また、学習を通じて自身の課題や目標を明確にする素養を身に付けることが出来る。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実践活動と、その報告をまとめたレポートを成績の判定資料とする。			
1. 小テスト、感想文など		%	また、実習への参加意欲も重要視するため			
2. 中間テスト		%	主体的な取り組みに期待する。			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %	(各授業における予復修時間の目安: 4時間)			
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	13回目以降の授業では、前期の総括として			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	各自ならびにグループごとのプレゼンテーションを行う。			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし					
参考書	適時、指示をします					
			5 前期の復修と後期に向けての課題の確認 予復修課題: 前期の復修および後期の目標をまとめておくこと			
			6 解剖学の確認: 股関節 予復修課題: 股関節における主要な骨・筋・靭帯について予修しておくこと			
			7 解剖学の確認: 膝関節 予復修課題: 膝関節における主要な骨・筋・靭帯について予修しておくこと			
			8 解剖学の確認: 下腿、足関節 予復修課題: 下腿、足関節における主要な骨・筋・靭帯について予修しておくこと			
			9 解剖学の確認: 足部 予復修課題: 足部における主要な骨・筋・靭帯について予修しておくこと			
			10 各種トレーニングの実践・メディシンボールなど 予復修課題: メディシンボールを用いたエクササイズを説明・実践出来るように予修しておく			
			11 各種トレーニングの実践: バランスボール、バランスディスクなど 予復修課題: バランスボールやバランスディスクを用いたエクササイズを説明・実践出来るように予修しておく			
			12 各種トレーニングの実践: ラダー、ミニハードルなど 予復修課題: ラダーやミニハードルを用いたエクササイズを説明・実践出来るように予修しておく			
			13 各種トレーニングの実践: チューブ、徒手抵抗など 予復修課題: チューブエクササイズや徒手抵抗トレーニングを説明・実践出来るように予修しておく			
			14 前期の総括 予復修課題: サークットトレーニングの種類や実践法について予修しておく			
			15 前期の総括 予復修課題: 自身の専門競技における道具についてまとめておくこと			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)		4	1 オリエンテーション 受講上の注意 予復修課題：シラバスを確認し、取り組む姿勢の整理をしておくこと(予復修時間420分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 バレーボール競技の特性 矛と盾 予復修課題：攻撃と防御の相対性について整理すること(予復修時間420分)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 自身およびチームの競技力向上に内在する問題と課題の把握 関連する先行研究と文献の収集 予復修課題：文献抄読(予復修時間420分)	
配当年次		3年生	開講学期 通年(前期)		4 自身およびチームの競技力向上に内在する問題と課題の把握 関連する先行研究と文献の収集 予復修課題：文献抄読(予復修時間420分)	
授業概要		本授業におけるスポーツゼミナールでは、バレーボール競技を中心とした競技特性と基本的な戦術行動を解説し、自身の競技実践を通して競技力向上に関わる実態を把握し課題の解決に向けた実践研究的側面から考究する。			5 自身およびチームの競技力向上に内在する問題と課題の把握 関連する先行研究と文献の収集 予復修課題：文献抄読(予復修時間420分)	
授業到達目標		バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した先行研究・資料をまとめることができる。 競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。 バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。			6 自身およびチームの競技力向上に内在する問題と課題の把握 関連する先行研究と文献の収集 予復修課題：文献抄読(予復修時間420分)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 自身およびチームの競技力向上に内在する問題と課題の把握 関連する先行研究と文献の収集 予復修課題：文献抄読(予復修時間420分)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 競技力向上に伴う課題や問題解決法に関する構想の設計 研究計画と研究ノートの作成 予復修課題：先行研究のレジュメと引用文献の記録(予復修時間420分)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 競技力向上に伴う課題や問題解決法に関する構想の設計 研究計画と研究ノートの作成 予復修課題：先行研究のレジュメと引用文献の記録(予復修時間420分)		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツ実践の場は失敗と成功を繰り返し問題解決が遂行される場である。			
1. 小テスト、感想文など		%	競技者・指導者を目指す者として、実践的課題や問題解決を追求する姿勢を常に持ち実践現場にフィードバックできるよう意識して取り組むこと。したがって実践者であることが望ましい。尚、各授業の進捗状況によって予定を変更する場合がある。			
2. 中間テスト		%	アクティブ・ラーニング 卒業研究に向けて主体的に取り組み、他のゼミ性と共に考察を重ね、その能力を養う。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		15 卒業研究の作成準備について確認する 予復修課題：夏季休暇期間中の指示に従い実施すること(予復修時間420分)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)		4	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	4年次に行う卒業研究に向けて、研究の手法や発表の方法を学ぶとともに、先行研究を調べながら、自分の関心あるテーマについて深く掘り下げていく。心理学や教育に関わる領域を中心に、それぞれの研究の方向性を決めていく。					
	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	発表や課題は必ず行うこと 積極的な姿勢で臨むこと 欠席する場合は、特別な事情がない限り、事前に説明し、指導教員の承認を得ること 予復修は2時間程度を目安とする。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング (全回)各自が調べてきた内容について、発表及びディスカッション、フィードバックを行う。			
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
1	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
2	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
3	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
4	論文の書き方について、それぞれが集めた文献をもとに、まとめ方について理解する。 予復修課題：論文の書き方について調べ、まとめる。					
5	論文の書き方について、それぞれが集めた文献をもとに、書式などについて理解する。 予復修課題：論文の書き方について調べ、まとめる。					
6	心理学の研究法(質問紙調査法、実験法、面接法など)について、概要を発表する。 予復修課題：各自担当の研究法について調べ、まとめる。					
7	心理学の研究法(質問紙調査法、実験法、面接法など)について、概要を発表する。 予復修課題：各自担当の研究法について調べ、まとめる。					
8	心理学の研究法(質問紙調査法、実験法、面接法など)について、概要を発表する。 予復修課題：各自担当の研究法について調べ、まとめる。					
9	心理学の研究法(質問紙調査法、実験法、面接法など)について、概要を発表する。 予復修課題：各自担当の研究法について調べ、まとめる。					
10	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
11	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
12	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
13	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
14	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
15	まとめ これまで発表してきた内容について、各自整理し、今後の研究の方向性について考える。 予復修課題：これまでの発表資料を整理する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	後藤 平太 (GOTO Heita)			4	専任	1 オリエンテーション 15回の授業内容や評価方法についての説明を行う 予復修課題： 特になし
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 文献抄読 各自が興味のある論文を検索し、それを読み理解する 予復修課題： 講義中に読んだ論文をプレゼンテーションのスライドを作りやすいようにまとめる
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 文献抄読 各自が興味のある論文を検索し、それを読み理解する 予復修課題： 講義中に読んだ論文をプレゼンテーションのスライドを作りやすいようにまとめる
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 文献抄読 各自が興味のある論文を検索し、それを読み理解する 予復修課題： 講義中に読んだ論文をプレゼンテーションのスライドを作りやすいようにまとめる
授業概要	スポーツ科学(サッカー)の分野に適した試合録画・分析法を学ぶ。また、この分野での最先端の知識を身につけるとともに、学術論文の書き方やプレゼンの方法を学習することを目的とする。					5 プレゼンテーション作成 第2回から4回の講義で検索した論文でプレゼンテーションのスライドを作成する 予復修課題： 講義で指摘された部分の修正を行う
授業到達目標	試合録画・分析法を習得することができる。 スポーツ科学(サッカー)の分野の最先端の知識を習得することができる。 パワーポイントによるプレゼンの方法を習得することができる。 学術論文の書き方を学習する。					6 プレゼンテーション作成 第2回から4回の講義で検索した論文でプレゼンテーションのスライドを作成する 予復修課題： 講義で指摘された部分の修正を行う
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	各授業ごとに1時間程度の予復修を行うことを望む。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	30 %					
4. 授業中の発表、討論	30 %					
5. 授業への参加意欲	40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	調査学習(第2~4回)				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	プレゼンテーション(第5~13回)				
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
						14 体力測定・分析法 50メートル走・10m×5・ヨーヨーテストや試合分析方法について学ぶ 予復修課題： 講義で行った測定や分析に関してまとめる
						15 体力測定・分析法 50メートル走・10m×5・ヨーヨーテストや試合分析方法について学ぶ 予復修課題： 講義で行った測定や分析に関してまとめる

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei)				4	専任	1 オリエンテーション 予復修課題：シラバスの確認をすること(予復修時間:60分)
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSL3101		2 自身のコーチング・トレーニング実践に内在する問題・課題の把握 関連する先行研究・文献を収集する 予復修課題：文献の検索と収集をすること(予復修時間:240分)
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			3 自身のコーチング・トレーニング実践に内在する問題・課題の把握 関連する先行研究・文献を収集する 予復修課題：文献の検索と収集をすること(予復修時間:240分)
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)				4 自身のコーチング・トレーニング実践に内在する問題・課題の把握 関連する先行研究・文献を収集する 予復修課題：文献の検索と収集をすること(予復修時間:240分)
授業概要	卒業研究に取り組むにあたって求められる基礎知識の習得を目指し、実践現場(コーチング、トレーニング)に活かすことのできる人材育成を目的とする。研究領域は、コーチング論・トレーニング学である。ここでは、自身のコーチング・トレーニング実践を通して感じた素朴な疑問を見つけ、その疑問の実態を把握し、疑問に対する仮説を考え、仮説を立証する研究方法を調べることができるようになることを求める。また、小論文トレーニングを行い、論文を書く力を養成する。						5 自身のコーチング・トレーニング実践に内在する問題・課題の把握 関連する先行研究・文献を収集する 予復修課題：文献の検索と収集をすること(予復修時間:240分)
授業到達目標	コーチング論・トレーニング学に関連する先行研究・資料を収集できる。 収集した先行研究・資料をまとめることができる。 トレーニング実施上の課題や問題点を明らかにすることができる。						6 問題解決法に関する構想の設計 予復修課題：先行文献の紹介レジュメを作成すること(予復修時間:240分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	コーチング論・トレーニング学の研究領域は、トレーニングを実践する選手やコーチが現場で感じたことや気づきを理論化し、一般化する試みの中で発展してきた。したがって、自分自身が実践者である(部活動・クラブチーム等で活動している)ことが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		50 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	調査学習[第2~5回]				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	グループワーク[第6~15回]				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	村木征人『スポーツ・トレーニング理論』ブックハウスHD、1998						
参考書							
							11 研究計画をたてる 予復修課題：研究計画書を作成すること(予復修時間:270分)
							12 研究計画をたてる 予復修課題：研究計画書を作成・修正すること(予復修時間:270分)
							13 研究計画をたてる 予復修課題：研究計画書を作成・修正すること(予復修時間:270分)
							14 予備実験・調査 予復修課題：研究計画書を作成・修正すること(予復修時間:270分)
							15 予備実験・調査 予復修課題：研究計画書を作成・修正すること(予復修時間:270分)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	森 誠護 (MORI Seigo)				4	1 オリエンテーション 授業の概要、授業目的、授業の進め方の説明 予復修課題：シラバスの確認(1時間)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 科学サポート方法及びパフォーマンス評価方法について(1) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	3 科学サポート方法及びパフォーマンス評価方法について(2) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 科学サポートにおけるデータ分析方法 予復修課題：講義内で指示する(4時間)	
授業概要	本授業では、水泳を中心とした科学的サポートや体力測定の方法とその分析方法を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。						5 パフォーマンス評価の実践(1) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)
授業到達目標	1. 科学サポート・体力測定法・分析法を習得する。 2. 分析したデータについて考察することができる。 3. 各自興味のある分野について資料を収集する。						6 パフォーマンス評価(1)のデータ分析及びレポート作成 予復修課題：講義内で指示する(4時間)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 積極的に参加すること。 2) 必要に応じて予復修をしておくこと。 3) 自ら興味のあるテーマを検討すること。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		40 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	実験実習形式の授業を展開し、その都度、課題レポートを作成する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
						15 まとめ 予復修課題：レポート提出(7時間)	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		疋田 晃久 (HIKITA Akihisa)		4	1 オリエンテーション (シラバスの確認。授業の進め方と受講上の注意・ルール確認) 予復修課題：シラバスを熟読してくる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究テーマの方法、学術論文の基本的な構成、文献検索方法 (文献検索を実施し、文献を取得する。) 予復修課題：UNIVERSAL PASSPORT添付の本学図書館利用を熟読してくる。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)		3 文献抄読(基礎) (文献を選択し、内容をまとめる。) 予復修課題：興味のある分野を選択して、文献を調べておくこと。	
授業概要	卒業研究(陸上競技の中でも投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投-を中心とした分野)に取り組むにあたり、陸上競技の特性や基本的な競技力向上に関わる動作やトレーニング・コーチングについての先行研究を抄読し、理解を深める。				4 文献抄読(専門) (自分の興味あるテーマに近い文献を選択し、内容をまとめる。) 予復修課題：興味のある分野を選択して、文献を調べておくこと。	
授業到達目標	スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身に付ける。 投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。 投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。				5 文献抄読(専門) (自分の興味あるテーマに近い文献を選択し、内容をまとめる。) 予復修課題：興味のある分野を選択して、文献を調べて、まとめられるようにしておくこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					6 文献抄読(専門) (自分の興味あるテーマに近い文献を選択し、内容をまとめる。) 予復修課題：興味のある分野を選択して、文献を調べて、まとめられるようにしておくこと。	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					7 図表の見方・作成 (様々な文献において、図表がどのようにまとめられているか観察する。) 予復修課題：図表の見方を調べる。また図表の作成方法を調べておくこと。	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					8 データの集計方法 (様々な文献において、データがどのように集計されているか観察する。) 予復修課題：文献データの集計方法を調べておくこと。	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	競技者もしくは指導者を目指すものとして実践的課題・問題意識を追求する姿勢を以て授業にのぞむこと。			
1. 小テスト、感想文など		%	3年、前期スポーツ統計学を履修すること。			
2. 中間テスト		%	研究の為に、陸上競技の実技を伴う場合があるので、実技能力を有することが望ましい。			
3. 課題レポートなどの提出物		20%	予復修課題については、各講義4時間程度。			
4. 授業中の発表、討論		40%				
5. 授業への参加意欲		20%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	調査学習[第2,3,4,5,6回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		20%	グループディスカッション[第11,12回]			
3.		%	フィールドワーク[第13,14回]			
再評価の実施	する		しない			
教科書						
参考書						
					11 研究計画 (卒業研究を進める上で、どのような準備が必要であるか計画する。) 予復修課題：UNIVERSAL PASSPORT添付の「卒業研究の手引き」を熟読してくる。	
					12 研究計画 (卒業研究を進める上で、どのような準備が必要であるか計画する。) 予復修課題：UNIVERSAL PASSPORT添付の「卒業研究の手引き」を熟読してくる。	
					13 予備実験・調査 (研究計画を元に予備実験の進め方を考える。) 予復修課題：興味のあるテーマについて、どのような予備実験が必要なのか調べておくこと。	
					14 予備実験・調査 (研究計画を元に予備実験の進め方を考える。) 予復修課題：興味のあるテーマについて、どのような予備実験が必要なのか調べておくこと。	
					15 研究テーマの概要作成 (研究テーマの概要をまとめる。) 予復修課題：テーマの概要について、まとめられるように文献などを検索しておくこと。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)		4	1 オリエンテーション, 関心のある研究分野に関する確認 予復修課題: 関心のある事例について報告できるように考えをまとめる.	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 運動学の独自性: 統計学との対比 運動の安定性に着目して統計学との境界線を理解する 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3 運動学の独自性: スポーツバイオメカニクスとの対比 コツの指導事例を対象に, スポーツバイオメカニクスとの接点と相違点を学ぶ. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*	4 運動学の独自性: 運動生理学との対比 運動修正の事例を対象として運動生理学との接点と相違点を学ぶ, 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.	
授業概要	卒業研究を進める上での基礎的能力を養成することが目的である. 研究を進める上での理論的基礎となる発生運動学の概要について学習する.					
授業到達目標	収集した先行研究について要約することができる. 発生運動学の基礎的概念について事例を上げて説明できるようになる.					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予修における演習課題を基に授業を展開するため、必ず予修をして授業に望むこと。 各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		40 %				
4. 授業中の発表、討論		40 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
			5 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする. まとめ(プレゼンの反省)			
			6 運動学の独自性: 解剖学との対比 地平性について学習し, 解剖学との接点と相違点を理解する. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.			
			7 運動学の独自性: 心理学との対比 なじみの地平, 技の狂いに関する事例を取り上げ, 心理学との接点と相違点を理解する. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.			
			8 運動学の独自性: 身体知 始原身体知に関する例証について理解する. 予復修課題: マイネルススポーツ運動学のpp.106-109を読み, 要約する.			
			9 運動学の独自性: 身体知 自身の運動学習の事例と始原身体知との関連性についてのプレゼン及び討議. 予復修課題: プレゼン資料作成			
			10 運動学の独自性: 身体知 討議の続き(指摘箇所に関する回答と再討議) 予復修課題: 指摘箇所に関する回答をまとめる.			
			11 文献(身体知の形成: 下巻)の読み合わせと討議 第8回に行った始原身体知に関する事例の再検討を行う. 予復修課題: プレゼン資料作成			
			12 文献(身体知の形成: 下巻)の読み合わせと討議 始原身体知事例の再プレゼンテーション 予復修課題: プレゼン資料の修正			
			13 文献(身体知の形成: 下巻)の読み合わせと討議 始原身体知に関する様々な事例について検討し, 理解を深める. 予復修課題: 進捗状況に応じて指示する.			
			14 始原身体知の欠落事例と望ましいコツ提示の検討 予復修課題: 始原身体知について端的にまとめ, 次回授業時に発表できるようにする. 始原身体知の欠落事例と望ましいコツ提示に関するプレゼン			
			15 予復修課題: プレゼン資料の作成 まとめ(プレゼンの反省)			
			予復修課題: プレゼン資料の修正			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	田代 利恵 (TASHIRO Rie)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	本ゼミナールでは、スポーツに関連した政策に関する研究テーマを扱う。ここでのスポーツ政策とは、スポーツを公共政策の課題の克服の手段として考える。卒業研究に向けて、文献・資料の集め方、レジュメ・レポートの作成方法などの基礎的な技法を学んだ後、相互に学びあうグループ討議を行うほか、調査した結果をまとめ発表する。各自の関心領域に応じたスポーツ政策の事例研究を文献調査やヒアリング調査により行う。					
	授業到達目標	論理的に思考し分析する能力や、課題解決に向けた提案能力を高める。スポーツ政策における事例やその効果について、説明することができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け身の姿勢ではなく積極的に取り組むこと</li> <li>・課題については期日を厳守してください</li> <li>・全出席を基本とします</li> <li>・中間レポートを提出を求めます</li> </ul> 予復修課題には120分程度取り組むこと			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング ディスカッション(第8~10講) プレゼンテーション(第9、10講)			
再評価の実施		する	しない			
教科書	適宜資料を配布します					
参考書						
1	オリエンテーション 自己紹介、ゼミの進め方 予復修課題：シラバスの確認、関心領域についての情報収集					
2	スポーツ政策の実際 公共政策の基本的な考え方とスポーツ政策の事例紹介 予復修課題：関心領域についての情報収集と発表準備					
3	関心を持つテーマの紹介 興味を持ったテーマに関して新聞記事や文献などを使って紹介する 予復修課題：情報収集と発表の準備					
4	関心を持つテーマの紹介 興味を持ったテーマに関して新聞記事や文献などを使って紹介する 予復修課題：情報収集と発表の準備					
5	文献・資料の集め方 文献検索の方法など 予復修課題：関心テーマについての文献・資料収集					
6	文献・資料の集め方 テーマの絞り込み方など 予復修課題：関心テーマについての文献・資料収集					
7	レジュメの書き方 予復修課題：発表用レジュメの作成					
8	ディスカッションの進め方 ディスカッションの注意点、アサーティブトレーニング 予復修課題：発表用レジュメの作成、発表の練習					
9	レジュメ作成演習 個人発表、ディスカッション 予復修課題：レジュメの修正、文献・資料収集					
10	レジュメ作成演習 個人発表、ディスカッション 予復修課題：レジュメの修正、文献・資料収集					
11	レポートの書き方 予復修課題：文献・資料の収集					
12	レポートの書き方 予復修課題：収集した文献・資料の整理、中間レポートの作成					
13	スポーツ政策の実際 予復修課題：収集した文献・資料の整理、中間レポートの作成					
14	現地調査の方法 調査計画、ヒアリングの方法 予復修課題：中間レポートの作成、現地調査の検討、情報収集					
15	まとめ 予復修課題：中間レポート提出、後期に向けた準備					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	内田 満 (UCHIDA Mitsuru)				4	1 オリエンテーション (自己紹介、前期に取り組む課題の説明等) 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 文献検索 (参考図書、論文、新聞等の検索方法の紹介) 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	3 文献検索 (プレゼンテーションに向けた準備) 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 プレゼンテーション (概論、プレゼンテーションのポイント) 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
授業概要	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ政策・社会学・マネジメント分野での研究・発表方法を学ぶ。 これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会から従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。					5 プレゼンテーション (各自興味のある分野についての調査を行い、発表する) 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
授業到達目標	自身に興味のあるスポーツ分野を社会現象として客観的に捉える その現象が研究分野としてどのように探究されているかを調べる その情報を理解し、プレゼンをしながら、他人と共有する そこからさらに自身の興味を高め、次年度の研究材料を見つける 論文作成の方法論について学ぶ					6 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	グループワーク：9~11回目				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	プレゼンテーション：3~5回目				
3.		%	ワークショップ：6~8回目				
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
			15 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める。 予復修課題：興味を持った分野に関する情報収集、まとめ				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)			4	1 オリエンテーション 講義の進め方、評価、概要説明、受講における注意事項。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 スポーツへの関わり方 多くの職業を知る。何事も尽くすことが原則であることを学ぶ。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 メディカルチェック 整形外科メディカルチェック（筋タイトネス・全身関節弛緩性等）の手法を学ぶ。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
配当年次	3年生	開講学期	通年（前期）		4 スポーツを職業としている関係者に話を聞く 予復修課題：その仕事をあらかじめ予修しておく。	
授業概要	本講義では将来職業としてスポーツに関わりたい人を対象として、多くの関わり方を学びスポーツ観戦や競技者、関係者から話を聞きながら自分の世界を広げていく。また、アスレティックトレーナーとしての領域であるスポーツ外傷・障害の知識、コンディショニングの知識・技術の経験を増やすだけでなく、スポーツ選手への関わり方を実体験を通して学んでいく。あわせて、卒業研究に向けて文献検索の方法や研究手法も学ぶ。					
	授業到達目標 スポーツの関わり方を知る。 競技者、スポーツ関係者とコミュニケーションを取ることができる。 アスレティックトレーナーとしてのこころを身につけることができる。 問題意識を持つようになることができる。					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士（スポーツ学）として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	積極的に参加し、コミュニケーションを取ること。			
1. 小テスト、感想文など		%	課題、発表等は必ず行うこと。			
2. 中間テスト		%	予復修課題の取組時間：60分以上			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	発表の準備を行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する		しない			
教科書	その都度プリント等を配付する。					
参考書						
					11 研究方法、研究計画の立て方 evidenceとexperienceについて。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
					12 研究方法、研究計画の立て方 文献の検索の仕方。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
					13 研究手法、研究計画の立て方 研究計画の立て方。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
					14 文献抄読会 予復修課題：各自文献を調べる。	
					15 文献抄読会 予復修課題：各自文献を調べる。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)			4	専任	1 オリエンテーション 授業の進め方, 評価について, 講義の概要説明, 受講における注意事項 予復修課題: 興味のある文献の一部を要約する.
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 スポーツと科学の関係について 予復修課題: 興味のある文献の一部を要約する.
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 研究の進め方について 予復修課題: 興味のある文献の一部を要約する.
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)			4 研究紹介 スポーツ選手の熟達化について 予復修課題: 興味のある文献の一部を要約する.
授業概要	授業(保健体育)やコーチングの現場において, 教師・指導者は生徒・選手に対して様々な指導やアプローチを行っている. このことから教師・指導者について様々な観点から分析を行い, 指導現場に活かすことが重要である. 本演習では, 保健体育科教員や部活動指導者の現状や問題点を明らかにし, 教員や指導者に必要な資質や能力など, 指導現場に必要な要素について理解を深めることを目的とする.					5 研究紹介 保健体育科教員の熟達化について 予復修課題: 興味のある文献の一部を要約する.
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のある分野の資料を収集することができる.</li> <li>収集した資料をまとめ, 現状や問題点をまとめることができる.</li> <li>論理的なプレゼンテーション・ディスカッションができるようになる.</li> <li>WordやExcel, PowerPointの基本的な操作ができるようになる.</li> </ul>					6 研究紹介 スポーツ指導者の熟達化について 予復修課題: 興味のある文献の一部を要約する.
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ, 総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し, 専門知識と技能を身につけている.						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養, および専門分野の知識・技能を用いて, 職業人として適切な企画・計画力, 的確な判断力を有し, それらを実践できる力を身につけている. また, 礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ, 地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている.						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として, 自らを律し, 主体的に物事を考え, 自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている. また, 地域や社会の一員として, 自ら進んで他者との協働を通じ, 積極的にボランティア活動等を実践し, 社会貢献できる力を身につけている.						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>全出席を原則とする.</li> <li>授業時間や提出期限などルールを守ること.</li> <li>意欲的に授業に参加すること.</li> <li>予復修の目安は120分とする.</li> </ul>				
1. 小テスト, 感想文など	%	<b>アクティブ・ラーニング</b> ・学生が作成してきたレポートを基にグループディスカッションを行う. ・パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行い, 学生同士で評価をする.				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表, 討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	%	予復修課題: 興味のあるテーマに関する文献を収集する.				
2. 論文, まとめのレポートなど	20 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない	11 文献査読 予復修課題: 興味のあるテーマに関する文献を収集する.			
教科書						12 プレゼンテーション 予復修課題: 文献をパワーポイントにまとめ, 発表の準備をする.
参考書						13 プレゼンテーション 予復修課題: 文献をパワーポイントにまとめ, 発表の準備をする.
						14 プレゼンテーション 予復修課題: 文献をパワーポイントにまとめ, 発表の準備をする.
						15 まとめ 予復修課題: これまでの講義を振り返り内容をまとめる.

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので, 授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**		
担当者	高田 俊也 (TAKADA Toshiya)			4	専任	1	オリエンテーション (自己紹介、前期に取り組む課題の説明等) 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2	自らの経験にある疑問や課題に対して、その解決のために必要な仮説を構想 1 予復修課題：自らのこれまでの経験について考察し、それに関する情報収集	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*				
配当年次	3年生	開講学期	通年(前期)					
授業概要	4年次に取り組む卒業研究に向けて、体育・スポーツ科学分野、特に学校教育現場の事象に関わった様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。						3	自らの経験にある疑問や課題に対して、その解決のために必要な仮説を構想 2 予復修課題：自らのこれまでの経験について考察し、それに関する情報収集
							4	自らの経験にある疑問や課題に対して、その解決のために必要な仮説を構想 3 予復修課題：自らのこれまでの経験について考察し、それに関する情報収集
	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。						5	課題解決に向けた仮説のプレゼンテーション 1 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集
							6	課題解決に向けた仮説のプレゼンテーション 2 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						7	課題解決に向けた仮説のプレゼンテーション 3 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8	課題解決に向けた仮説のプレゼンテーション 4 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						9	課題解決に向けた仮説のプレゼンテーション 5 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						10	課題解決に向けた仮説のプレゼンテーション 6 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、情報収集	
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1 ゼミに積極的に参加すること。			11	先行研究の分析 1 興味を持った分野に関する論文を読み、解釈する 予復修課題：文献検索や文献講読、分析	
1. 小テスト、感想文など		%	2 課題はすべて提出すること。			12	先行研究の分析 2 興味を持った分野に関する論文を読み、解釈する 予復修課題：文献検索や文献講読、分析	
2. 中間テスト		%	3 全出席を前提とする。。			13	先行研究の分析 3 興味を持った分野に関する論文を読み、解釈する 予復修課題：文献検索や文献講読、分析	
3. 課題レポートなどの提出物		30 %	予復修は120分を目安とする			14	テーマ構想、資料収集 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める 予復修課題：興味を持った分野に関する情報収集、まとめ	
4. 授業中の発表、討論		30 %				15	テーマ構想、資料収集 興味を持った分野に関して、論文の内容をもとに、資料を集める 予復修課題：興味を持った分野に関する情報収集、まとめ	
5. 授業への参加意欲		40 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション					
2. 論文、まとめのレポートなど		%	プレゼンテーション					
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**	
担当者		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuuta)			4	1 ガイダンス(演習の概要、成績評価について、スケジュールの確認、自己紹介など) 予復修課題: 各自の本演習における目的や到達目標を明確にしておくこと、シラバスを読むこと	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルを学ぶ 予復修課題: スポーツに携わる人に関わる書籍を読むこと	
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルを学ぶ 予復修課題: スポーツに携わる人に関わる書籍を読むこと	
配当年次		3年生	開講学期	通年(前期)		4 アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルを学ぶ 予復修課題: スポーツに携わる人に関わる書籍を読むこと	
授業概要		アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルやトレーナーの知識やスキルを身に付けた社会人を育てる事を目的とする。また、学生アスレティックトレーナー教育やアスレティックトレーナー活動での経験を活かし、授業展開を行います。				5 アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルを学ぶ 予復修課題: スポーツに携わる人に関わる書籍を読むこと	
授業到達目標		アスレティックトレーナーとしての必要なヒューマンスキルを身につけることができる。様々な現場でアスレティックトレーナーの知識やスキルを使うことができる。				6 アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルを学ぶ 予復修課題: スポーツに携わる人に関わる書籍を読むこと	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	アスレティックトレーニングやコンディショニング領域に関心のある者やアスレティックトレーナーの資格取得を目指す者が望ましい各授業ごとに2時間を目安に予修復修を行うこと				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		80 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書		15 予復修課題: 前期に実施した授業の復修を行うこと					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)			4	専任	1 動作解析(1) 2次元動作解析 予復修課題: 測定データについてレポート作成、解析ソフトを使用できるように復修する
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 動作解析(2) 3次元動作解析 予復修課題: 前回授業分のデータを含めレポート作成
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 動作解析(3) 3次元動作解析 予復修課題: 1~3回目授業分レポートの作成・提出
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4 動作解析に関する文献抄読 予復修課題: 1~4回目授業分レポートの作成・提出
授業概要	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。					5 形態計測・体組成(2) 予復修課題: 測定データについてレポート作成
授業到達目標	等速性筋力測定器(サイベックス)が使用できるようになる。 キネアナライザー等の分析ソフトが使用でき、分析に必要な作図ができるようになる。 各自のテーマに沿った文献を収集することができるようになる。					6 形態計測・体組成(2) 予復修課題: 前回授業分のデータを含めレポート作成
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	以下の科目を修得しておくことが望ましい				
1. 小テスト、感想文など	%	スポーツ生理学				
2. 中間テスト	%	体力トレーニング論				
3. 課題レポートなどの提出物	%	各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。				
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	測定・計測				
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %	【1~14回目】				
3. プレゼンテーション	20 %	プレゼンテーション				
再評価の実施	する	しない	【15回目】			
教科書						
参考書						
15 予復修課題: 卒業研究テーマ決定のためのプレゼンテーション資料を作成する						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**		
担当者	森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)			4	専任	1	文献抄読 予復修課題：資料の復修(2時間)、文献の検索と学習(2時間)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2	文献抄読 予復修課題：文献の検索と学習(4時間)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3	文献抄読を行なうとともに、研究計画の立案方法について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4	文献抄読を行なうとともに、研究計画の立案方法について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業概要	本授業は、前期に開講されるスポーツゼミナールに引き続き文献抄読が主になるが、ここでは卒業研究のテーマを決定し、具体的な内容に取り掛かることが主な目標である。					5	文献抄読を行なうとともに、研究に必要な書類の作成について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
	卒業研究のテーマを決定する。					6	文献抄読を行なうとともに、研究に必要な書類の作成について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7	文献抄読を行なうとともに、インフォームドコンセントについて説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8	文献抄読を行なうとともに、研究の準備について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9	文献抄読を行なうとともに、研究の準備について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10	文献抄読を行なうとともに、科学論文の書き方について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			11	文献抄読を行なうとともに、科学論文の書き方について説明 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	各自の進捗状況によって毎回の授業内容が変わります。					12	文献抄読を行なうとともに、研究テーマ(分野・領域)決定の準備 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。
1. 小テスト、感想文など	%	状況によっては夏季及び冬季休暇中にも活動してもらいます。					13	文献抄読を行なうとともに、研究テーマ(分野・領域)決定の準備 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。
2. 中間テスト	%	アクティブ・ラーニング 毎回ディスカッションを行います。					14	文献抄読を行なうとともに、研究テーマ(分野・領域)を決定 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。
3. 課題レポートなどの提出物	20 %						15	まとめ 予復修課題：本時の復修(1.5時間)と次時の予修(1.5時間)をしておくこと。
4. 授業中の発表、討論	20 %							
5. 授業への参加意欲	20 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)	10 %							
7.	%							
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト	%							
2. 論文、まとめのレポートなど	30 %							
3.	%							
再評価の実施	する	しない						
教科書	資料を配布します。							
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**		
担当者	得居 雅人 (TOKUI Masato)			4	1	実験計画の作成。 予復修課題：計画作成。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2	実験計画の作成。 予復修課題：計画作成。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3	実験計画の作成。 予復修課題：計画作成。	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4	予備実験。 予復修課題：実験準備。	
授業概要	本演習は、卒業研究を作成するための基礎的能力を養い、研究の方向性を明確にすることを目的とする。後期は、先行研究を詳細に検討し予備実験を実施、自らの研究計画を取りまとめる。					5	予備実験。 予復修課題：実験準備。
	予備実験を計画し実施できる。 自ら研究計画をとりまとめ、発表することができる。					6	予備実験。 予復修課題：実験準備。
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7	データ解析。 予復修課題：データまとめ。
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8	データ解析。 予復修課題：データまとめ。	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9	データ解析。 予復修課題：データまとめ。	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10	研究計画の明確化。 予復修課題：研究計画立案。	
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			11	研究計画の明確化。 予復修課題：研究計画立案。
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	受け身にならず、自ら前に進む姿勢で臨んで欲しい。 毎回60分の予修が必要である。				12	研究計画の明確化。 予復修課題：研究計画立案。
1. 小テスト、感想文など	%					13	研究計画の明確化。 予復修課題：研究計画立案。
2. 中間テスト	%					14	研究計画の発表。 予復修課題：発表の準備をする。
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					15	研究計画の発表。 予復修課題：発表の準備をする。
4. 授業中の発表、討論	40 %						
5. 授業への参加意欲	40 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%	予備実験とデータの整理・考察を行い、					
2. 論文、まとめのレポートなど	%	研究計画を完成させる。					
3.	%	研究計画を発表する。					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	田中 雄二 (TANAKA Yuji)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	スポーツゼミナール(後期)では、卒業研究に向けたスポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。					
	研究論文作成に関わる能力を習得する。 研究論文テーマの設定ができる。 テーマ設定の理由が説明できる。 研究目的を箇条書きで示すことができる。 先行研究の文献検索ができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ゼミ生それぞれの進捗状況によって内容を 変更することがあります。研究とは何か、に ついて理解を深め、先行研究の論文探しやそ の内容把握に努め、自身が探求したいテーマ を、自らの思考で見出だしていくことを求め ていきます。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	10 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
1	オリエンテーション：卒業研究に向けた準備について スポーツゼミナール(前期)の内容を振り返る。 予復修課題：研究遂行・論文作成の基本を振り返る(4時間)					
2	研究対象の具体化：タイトルを確定するための準備 研究対象を確定する。設定テーマからタイトルをどのように定めるか考えていく。 予復修課題：テーマに沿った先行研究の振り返りを行う(4時間)					
3	研究対象設定の考え方1：設定領域の妥当性 何をどこまで明らかにするのか、概略を示す。 予復修課題：テーマと内容の再確認を行う(4時間)					
4	研究対象設定の考え方2：作業仮説の検討 作業仮説について学ぶ。 予復修課題：作業仮説とは何かについて調べてまとめる(4時間)					
5	研究対象設定の考え方3：作業仮説の妥当性 各人の作業仮説について検討を行う。 予復修課題：他者の作業仮説についても知る(4時間)					
6	研究対象設定の考え方4：作業仮説についての討論 研究対象領域外の人(他のゼミ生)の意見を求め、それについて考える。 予復修課題：他者の作業仮説について概要を理解する(4時間)					
7	研究対象設定の考え方5：研究手法についての検討 研究手法についての妥当性を理解していく。 予復修課題：前期に行った研究手段について再考していく(4時間)					
8	研究対象設定の考え方6：仮タイトルに基づいた方針 ここまでの学びについてまとめ、発表する。 予復修課題：進捗状況報告資料を作成する(4時間以上かかります)					
9	研究手法の詳細検討1：研究遂行手段を明確にする アンケート等、先行研究を模倣した「手続き手法」を確立していく。 予復修課題：先行研究と同様の手続きについて学び取る(4時間)					
10	研究手法の詳細検討2：研究遂行手段の妥当性 選択した研究遂行手段が妥当であるか否か、詳細について確認していく。 予復修課題：他の研究遂行手段について調べる(4時間)					
11	研究手法の詳細検討3：研究領域と研究遂行手段の関係 他者の研究遂行手段についても学んでいく。違いを明確にしていく。 予復修課題：他者の研究について理解をしていく(4時間)					
12	研究手法の詳細検討4：設定領域の妥当性との関連を考える 他者の意見を取り入れながら、研究遂行手段について再確認する。 予復修課題：当該研究における他の遂行手段も検索しておく(4時間以上かかります)					
13	研究遂行の準備1：研究に取り掛かるための準備 学術論文を参考にしながら、何をどこまで行うのかについて明確に示す。 予復修課題：プレゼンテーション資料を作成する(4時間)					
14	研究遂行の準備2：研究手段の詳細について発表 担当順に発表を行う。 予復修課題：プレゼンテーション資料を作成する。他者の内容を理解する。(4時間)					
15	まとめ 収集・作成した資料をまとめ、論文作成に備える。 予復修課題：これからの動きについて口頭で回答できるようにしておく(4時間以上かかります)					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)			4	専任	1 オリエンテーション、研究デザイン ブレインストーミング 予復修課題：予修：研究デザインとは何か考えてくること。復修：演習の進め方の理解に努めること。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 栄養サポート活動の実際(1) 予復修課題：班毎に指示事例についてまとめること。
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 栄養サポート活動の実際(2) 予復修課題：班毎に指示事例についてまとめること。
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4 栄養計算の実際(1) 予復修課題：班毎に指示事例についてまとめること。
授業概要	スポーツゼミナール(前期)に引き続き、卒業研究に向けて研究に必要な知識、基本的考え方、手法を学ぶ。より多くの栄養学的知識を修得し、食事調査を実体験し、栄養指導のできるスポーツ指導者像やトレーナー像を描けるようになることを本演習の目的とする。					
	卒業研究のビジョンを明確に述べることができる。 一般成人の料理の適量が理解できる。 食事調査票の記入や集計ができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
	成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	過去の配布資料も毎回必ず持参すること。学外活動(調査・指導等)にも積極的に参加することが望ましい。2年次のスポーツ栄養学を履修しておくことが望ましい。また、ゼミ生の興味テーマにより内容を変更する場合がある。予復修で180分の学修を目安とすること。				
1. 小テスト、感想文など	10 %					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	15 %					
4. 授業中の発表、討論	5 %					
5. 授業への参加意欲	5 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	15 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	研究指導教員との授業であるので、すべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、発表と討議(第11・12回)、先輩の卒業研究の討議(第14回)があるのが特長である。				
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	プリントを配布する。					
参考書						
	15 総まとめ まとめのレポート作成を行う 予復修課題：予修：卒業研究テーマについてまとめること。復修：春季休業中の指示に従い実施のこと。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)			4	1	スポーツゼミナール(後期)の講義内容の説明 予復修課題: 次週から始まる筋電図の実習に備え、筋電図に関する情報収集を行ってこよう。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101	2	筋電図について 筋電図に関する説明とデータ取得の予備実験 予復修課題: 筋電図を用いた研究論文を1編探し、読んでこよう。
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	スポーツ科学の研究分野で用いられる主要な測定法について実習を行い、データを取得しデータ処理、プレゼンテーション資料の作成ができるようにする。 実験計画からデータ取得、データ解析の過程を経験することにより、卒業研究を自力で進めるための力を身につけさせることを目指す。				3	筋電図の記録 電極の貼付、機材の使用方法について 予復修課題: 各班で行う実験計画を作成してこよう。
授業到達目標	身体の形態や機能を数値化するため、実験機材の使用法を身につけること。 取得したデータを解析し、その意味を理解するとともに他者に対して説明できること。 データの意味を解釈し、プレゼンテーションを行うことができること。				4	筋電図データの取得 各班の課題に対する筋電図データの取得 予復修課題: データ処理の方法について研究論文を読んで確認してこよう。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					5	筋電図データの解析 筋電図解析ソフトの使用法とデータ解析 予復修課題: 取得データに関するグラフの作成を行ってこよう。
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					6	プレゼンテーション 各班の研究テーマに関するプレゼンテーション 予復修課題: プレゼンテーション内容をレポート2枚にまとめてこよう。
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					7	動作解析について 映像解析に関する説明 予復修課題: 動作解析に関する論文を1編探し、読んでおくこと。
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達力の評価	評価割合	実習形式で授業を進めるため、授業開始時間までに、実習準備をおこなっておくこと。 本演習では実験への参加、レポート提出は必須である。		8	撮影準備 体表マーカーのつけ方、動作解析用のビデオ撮影法 予復修課題: 各班で行う実験計画を作成してこよう。	
1. 小テスト、感想文など	%	毎週のテーマに関する文献調査を行って授業に参加すること(30分程度)。		9	映像撮影 各班の課題に対する映像撮影 予復修課題: データ処理の方法について研究論文を読んで確認してこよう。	
2. 中間テスト	%			10	映像の座標化(デジタイズ) 動作解析ソフトの使用法とデジタイズ 予復修課題: 研究論文をもとにデータの解析に用いる指標や動作局面を決めてこよう。	
3. 課題レポートなどの提出物	30 %			11	デジタイズとデータ解析 デジタイズ作業とデータ分析ソフトウェアの使用法 予復修課題: 取得データのグラフ化	
4. 授業中の発表、討論	20 %			12	プレゼンテーション 各班の研究テーマに関するプレゼンテーション 予復修課題: プレゼンテーション内容をレポート2枚にまとめてこよう。	
5. 授業への参加意欲	30 %			13	卒業研究のテーマ決定について(1) 研究データの集め方 予復修課題: 翌週までに興味をもった研究論文を3編集めてこよう。	
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %			14	卒業研究のテーマ決定について(2) 研究論文の読み方 予復修課題: 翌週までに研究論文3編の内容をまとめてこよう。	
7.	%			15	卒論発表会 ゼミ卒論発表会で4年生の卒論発表練習に参加 予復修課題: 4年生の研究発表を見た感想をまとめてこよう。	
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	実践学習[第2~5回、第8~11回]				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	グループワーク[第6回、第12回]				
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし					
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**		
担当者		木寺 英史 (KIDERA Eishi)			4	1 オリエンテーション 予復修課題：なし		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 論文の書き方 予復修課題：配付論文を読む。		
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3 論文の書き方 予復修課題：配付論文を読む。		
配当年次		3年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 史資料収集の方法 予復修課題：史資料を収集する。		
授業概要	日本の武道(武術)および伝承的身体運動文化について、その研究の概略を考究し、各自の研究課題を決定する。						5 史資料収集 予復修課題：史資料を収集する。	
	武道(武術)および伝承的身体運動文化に関する研究方法の概要を知り、研究課題の設定、史資料収集の方法を学び、それらを系統だてて発表することができる。						6 史資料収集 予復修課題：史資料を収集する。	
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						7 史資料収集 予復修課題：配付資料を復習する。	
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8 論文課題・研究方法の検討 予復修課題：配付資料を復習する。	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						9 論文課題・研究方法の検討 予復修課題：発表資料を作成する。		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						10 論文課題・研究方法の検討 予復修課題：発表資料を作成する。		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			11 論文課題・研究方法の発表、討論 予復修課題：発表資料を作成する。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツ史・スポーツ哲学を履修しておくことが望ましい。 各時間90分以上の予復修を行うこと。			12 論文課題・研究方法の発表、討論 予復修課題：発表資料を作成する。		
1. 小テスト、感想文など		%				13 論文課題・研究方法の発表、討論 予復修課題：発表資料を作成する。		
2. 中間テスト		%				14 論文課題・研究方法の発表、討論 予復修課題：発表資料を作成する。		
3. 課題レポートなどの提出物		%				15 後期ゼミのまとめ 予復修課題：なし		
4. 授業中の発表、討論		30 %						
5. 授業への参加意欲		30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	研究課題決定に向けて、随時討論会を開催する。					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	山田 明 (YAMADA Akira)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*		
授業概要	スポーツ学演習では、前期のスポーツ学演習で構築した卒業研究作成の基礎力を基盤に論文作成について本格的に取り組むことを目的とする。各自の問題意識・研究方法・先行研究の確認、文献調査・データ分析等を実施する。なお論文作成上の留意点については、演習中、適宜指導する。ゼミ生のプレゼンテーション、討論を中心に進める。					
	各自のテーマにそった研究計画をたて、見直しをもって論文作成に取り組むことができる。文献調査やデータ分析ができるスキルを身につける。プレゼンテーションや討論を通じてコミュニケーション能力を身につける。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各自、問題意識をもって参加すること。成績は、授業中の発表・出席状況(意欲)レポート等の提出における総合評価とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	卒業論文作成のための基礎力をつけるため、文献や資料の収集からフィールドワークまで積極的に視野を広げていく。			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書						
1	オリエンテーション ～演習の概要や進め方、成績評価の方法等～ 予復修課題：シラバスの確認、問題意識の確認(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
2	課題テーマについてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：各自、課題テーマを検討(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
3	課題テーマについてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の発表準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
4	課題テーマについてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
5	研究方法についてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
6	研究方法についてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
7	研究方法についてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
8	先行研究についてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
9	先行研究についてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
10	先行研究についてのプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
11	文献調査・データ分析(現状)のプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
12	文献調査・データ分析(現状)のプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
13	文献調査・データ分析(現状)のプレゼンテーション ～ゼミ生によるプレゼンテーションと討論～ 予復修課題：プレゼン・討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
14	総括討論 ～ゼミ生による討論～ 予復修課題：討論の準備(予修2時間)、演習後、内容を振り返り深める(復修2時間)。					
15	本演習の総括(振り返り) 予復修課題：本演習で学んだ内容を確認し(予修2時間)、演習後、総括し深める(復修2時間)。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	八板 昭仁 (YAITA Akihito)				4	1 ガイダンス 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 講義の概要説明 4) 受講における注意事項 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 資料収集 1) 先行研究調査 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	3 資料収集法演習 1) ゲーム分析法 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4 資料収集法演習 1) データ入力 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)	
授業概要	前期のスポーツ学演習で学習した内容を基礎としてレポートを作成する。 また、卒業研究論文作成の具体的なテーマ選定及びその解決方法について知識を深め、資料(データ)収集については実験・VTR撮影等の方法を実習する。それらを理解した上で研究テーマとなるバスケットボールや他の球技についての知識を深める。 レポート作成やプレゼンテーションを通して卒業研究論文作成方法について総合的に学習する。					5 資料収集法演習 1) データ解析 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
授業到達目標	卒業論文のテーマを選定し、その目的及び研究方法をプレゼンテーションできる。 また、データ収集・データ整理の方法を理解し手順を計画することができる。					6 資料収集法演習 1) 技術分析法 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に自らの意見を発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考え授業時間後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての復習を行い理解度を確認すること。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。 以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。 調査内容・調査結果については適時プレゼンテーションを行う。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		30 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %					
		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	特に指定しない。参考図書は、第1回目の講義で説明する。						
参考書							
						11 プレゼンテーションの方法 1) パワーポイント作成の方法 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
						12 プレゼンテーションの方法 1) 口頭発表 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
						13 プレゼンテーションの方法 ポスター発表 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
						14 プレゼンテーション 1) 仮テーマの調査結果について 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
						15 プレゼンテーション 1) 仮テーマの調査結果について 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*		
授業概要	卒業研究を進めていく上で必要な基礎的能力を修得し、自身の卒業研究テーマの方向性を見出すことが、本演習のねらいである。具体的には、収集した資料について討論することにより専門分野への理解を深め、実験方法やデータ処理・評価方法を学習することをおし卒業研究テーマの方向性を明確にしていく。					
授業到達目標	健康・体力関連分野の研究概要を知る。 実験方法に習熟する。(形態計測・身体組成測定法・血圧測定法・酸素摂取量測定法など)研究資料(専門書・研究論文)を収集できる。 資料の概要をまとめて、プレゼンテーションできる。 研究データを統計処理できる。 卒業研究テーマの方向性を示すことができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	プレゼンテーションをおこなう際には、資料(レジュメまたはパワーポイント)を提出すること。 予復修で180分の学修を目安とすること。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	%					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7. 実験・調査・解析方法の習熟度	20 %					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	卒業研究テーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	とくに指定しない。適宜、資料配布。					
参考書	健康・スポーツ科学のための研究方法 出村慎一著 杏林書院					
1	卒業研究の方向性と健康・体力・運動の関連性について 前期終了時に示した卒業研究の方向性の再確認と健康・体力・運動の関連性について討論 予復修課題：前期に作成したプレゼンテーション資料について熟読する。					
2	各種体力測定法 文部科学省新体力テストについて理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(体力測定法)の熟読し、要約する。					
3	各種体力測定法 サイベックスを用いた等速性筋力測定法について理解し、実習する。 予復修課題：配布資料(体力測定法)の熟読し、要約する。					
4	実験・測定方法(運動生理学分野)と解析・評価のまとめ これまでで学修した実験・測定方法と解析・評価の確認と卒業研究テーマとの関連を検討。 予復修課題：これまでの配布資料について整理、再確認する。					
5	論文のまとめ方 論文作成の手順(テーマ決定、資料収集、実験計画立案・実施、解析、執筆)を知る。 予復修課題：配布資料(論文作成の手順)を熟読し、要約する。					
6	プレゼンテーション資料作成法(レジュメ) 収集した資料からプレゼンテーション資料(レジュメ)を作成する方法を理解する。 予復修課題：配布資料(レジュメ資料作成法)を熟読し、要約する。					
7	資料(文献)収集と整理 検索し収集した資料(論文)を要約し、プレゼンテーション用レジュメを作成する。 予復修課題：文献検索の仕方を再確認し、実践する。					
8	各自興味を抱いて収集した文献についてプレゼンテーションとディスカッションをおこなう .1 予復修課題：文献を収集し、プレゼン資料(レジュメ)を作成する。					
9	各自興味を抱いて収集した文献についてプレゼンテーションとディスカッションをおこなう .2 予復修課題：文献を収集し、プレゼン資料(レジュメ)を作成する。					
10	論文のまとめ方 論文の構成(緒言、方法、結果、考察、まとめ、参考・引用文献)について理解する。 予復修課題：配布資料(論文の構成)を熟読し、要約する。					
11	プレゼンテーション資料作成法(パワーポイント) 資料(論文)を要約し、プレゼンテーション用パワーポイントを作成する。 予復修課題：配布資料(パワーポイント資料作成法)を熟読し、要約する。					
12	資料(文献)収集と整理 収集した資料から文献カード作成による整理法、文献リスト作成法を理解する。 予復修課題：配布資料(文献カードの作成法と文献リストの作り方)を熟読し、要約する。					
13	各自興味を抱いて収集した文献についてプレゼンテーションとディスカッションをおこなう .1 予復修課題：文献を収集し、プレゼン資料(レジュメとパワーポイント)を作成する。					
14	各自興味を抱いて収集した文献についてプレゼンテーションとディスカッションをおこなう .2 予復修課題：文献を収集し、プレゼン資料(レジュメとパワーポイント)を作成する。					
15	まとめ 卒業研究テーマ発表・確認し、4年次の論文作成の準備を進める。 予復修課題：卒業研究テーマに関する資料を作成する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	伊藤 友記 (ITO Tomoki)			4	専任	1 興味・関心の見つけ方 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 文献検索の方法 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 研究論文の構成、レジュメのまとめ方 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4 研究論文の構成、レジュメのまとめ方 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
授業概要	本授業はスポーツゼミナール(前期)で培った心理学なものの見方、臨床学的な事象の捉え方を基に各自が興味・関心のある原著論文を選択しレジュメにまとめて発表することにより、具体的な心理学研究法について学んでいく。また、ディスカッションを通して、他人の考えを理解し自身の考えを深めていくことにより、論理的思考能力をより一層高めていくことを目指す。					5 論文購読、発表 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
授業到達目標	1. 自身の興味・関心に根差した文献を探し出すことができる。 2. 研究論文をレジュメにまとめ、その内容を理解し、他人にわかりやすく説明することができる。 3. 文献購読を通して、心理学的研究の方法論について説明することができる。 4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べるることができる。					6 心理学研究法を学ぶ 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・全出席を前提とする。 ・各自が発表担当する章だけではなく、毎時間前後には予修・復修を怠らないこと。課題の予修・復修には毎時120分程度を要する。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		40 %				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	・各自担当した章の内容をプレゼンテーションし、ディスカッションする。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	国土館大学 『体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方』 アイ・エム 2003					15 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)				4	専任	1 論文作成の手順について 講義内容の説明 予復修課題：その他の活動の報告
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSL3101		2 研究計画の作成 予復修課題：卒業研究関連事項の説明
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			3 研究計画の作成 予復修課題：はじめに～これまでの研究概要～研究目的を発表する
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)				4 研究計画の作成 予復修課題：色んな観点からの調査方法について
授業概要	スポーツゼミナールでは、卒業研究に向けて論文構成の検討方法を身につける。学生の研究テーマに関する資料や関連する文献および研究資料を収集した内容を題材にしてディスカッションする。研究テーマの考察やまとめることを学習する。						5 実験および資料収集 予復修課題：色んな観点からの調査方法について
授業到達目標	1・卒業研究に向けて各自設定した課題論文が作成できる。 2・課題論文のプレゼンテーションができる。 3・卒業研究のテーマが設定できる。						6 実験および資料収集 予復修課題：データの取集方法を復修しレポートを提出する
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							7 実験および資料収集 予復修課題：結果の出力、考察、データの発表方法について
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							8 実験および資料収集 予復修課題：結果の出力、考察、データの発表方法について復修しレポートを提出する
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							9 課題論文作成 予復修課題：結果の出力、考察、データの発表方法について復修しレポートを提出する
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合			卒業研究の準備に興味を持ち取り組む。積極的に授業に参加をする。授業外にも卒業研究に向け取り組む1日1時間の予修、復修時間を確保すること			
1. 小テスト、感想文など	%						
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	20 %						
4. 授業中の発表、討論	40 %						
5. 授業への参加意欲	%						
6. 自主的学習(予習・復習など)	40 %						
7.	%						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%			毎講義にて小テストを実施し、授業の振り返りを行なう。			
2. 論文、まとめのレポートなど	%			第14回、第15回で発表を実施する。			
3.	%						
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
							11 テーマ設定・資料収集 予復修課題：結果の出力、考察、データの発表方法について復修しレポートを提出する
							12 課題論文作成 予復修課題：結果の出力、考察、データの発表方法について復修しレポートを提出する
							13 課題論文作成 予復修課題：結果の出力、考察、データの発表方法について復修しレポートを提出する
							14 課題論文発表 予復修課題：卒業研究のテーマに沿った文献研究の発表の準備を行う
							15 課題論文発表 まとめ 予復修課題：総括

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		鄭 英美 (JUNG Youngmi)		4	1 オリエンテーション ゼミでの活動内容および流れ(個人の計画の発表) 予復修課題: スポーツ学演習 で決めた資料の確認 予復修の目安時間:120分	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 (個人の計画の発表)、研究方法の種類 自身の研究テーマに必要な研究方法を探す。 予復修課題: 研究の必要性と目的についての初案 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 研究の必要性と目的の作成 自信の研究内容について 予復修課題: 研究の必要性と目的についての修正 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分	
配当年次		3年生	開講学期 通年(後期)		4 研究の必要性と目的の作成 自信の研究内容についてまとめ、発表 予復修課題: 研究問題、研究仮説の初案 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分	
授業概要	前期のスポーツ学演習 の引き続き、卒業研究に向けてを進めていく。 また、研究論文作成の流れや研究方法などについて理解し、実際に自身の研究計画を立て発表する。					
	5 研究問題、研究仮説の作成 自信の研究内容に基づいて 予復修課題: 研究問題、研究仮説の修正 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分					
授業到達目標	研究方法を決め、自身の研究方法について理解できる。 研究の必要性と目的のまとめができる。 研究架設の設定や質問用紙の作成ができる。 研究計画書を作成し、人の前で発表ができる。					
	6 研究問題、研究仮説の作成 自信の研究内容に基づいて 予復修課題: 自身の研究方法のまとめ 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	2/3以上出席すること 関心分野、テーマ探しに積極的に取り組む			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	関心・興味のある分野から自らテーマを決める			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	学内外の学術セミナーや発表会に参加し、			
3.		%	積極的に発表をする			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
			11 本人の論文の価値について(効果) 先行論文との違いについて説明できる 予復修課題: 研究計画書の修正 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分			
			12 研究計画書の作成 研究の流れについて 予復修課題: 研究計画書の修正 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分			
			13 研究テーマについて討論会 研究の流れについて 予復修課題: 研究計画書のまとめ 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分			
			14 研究計画書の発表 研究の流れについて 予復修課題: 以降の研究活動についてレポート 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分			
			15 質問用紙(アンケート用に配布) 予復修課題: 追加・修正分を基に最終の研究計画書の完成 予復修の目安時間:120分			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**	
担当者	小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)			4	1 前期に調べた内容のプレゼンテーション 他者のプレゼンテーションをもとにディスカッション 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング SSL3101			専任	2 前期に調べた内容のプレゼンテーション 他者のプレゼンテーションをもとにディスカッション 予復修課題：授業内容に関する情報収集	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	前期に引き続き4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ科学分野での様々な研究・発表方法を学ぶ。 自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。					
	前期の内容をさらに深めるため、海外の文献などにも触れる。そのなかで、自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。				
1. 小テスト、感想文など	%					卒業研究に向けたレビューの作成
2. 中間テスト	%					自身の興味ある分野について調査、検討 予復修課題：先行研究の調査
3. 課題レポートなどの提出物	30 %					卒業研究に関するプレゼンテーション
4. 授業中の発表、討論	30 %					自身のプレゼンテーションと他者のプレゼンテーションを比較する 予復修課題：先行研究の調査
5. 授業への参加意欲	20 %					卒業研究に関するプレゼンテーション
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					自身のプレゼンテーションと他者のプレゼンテーションを比較する 予復修課題：先行研究の調査
7.	%					卒業研究に関するプレゼンテーション
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				卒業研究に関するプレゼンテーション
1. まとめのテスト	%	グループディスカッション				自身のプレゼンテーションと他者のプレゼンテーションを比較する 予復修課題：先行研究に関する情報収集,まとめ
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %	プレゼンテーション				
3.	%	コーチング				
再評価の実施	する	しない				まとめ
教科書						15 予復修課題：興味を持った分野に関する情報収集,まとめ
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**		
担当者		辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)		4	1 ガイダンス (演習の概要、スケジュール、成績評価についてなど) 予復修課題: 各自の本演習における目的や到達目標を明確にしておく		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 プレ実験の内容の検討 (文献検索方法なども指導する) 3つのグループに分かれてプレ実験を実施する 予復修課題: 興味のある分野や実験ならびに調査方法などについてまとめておく		
授業形式		科目区分 専門演習科目		SSL3101	3 プレ実験の内容の決定 (担当グループ、係などを決める) 予復修課題: 先行研究をもとに具体的な実験方法の提示が出来るように準備を進める		
配当年度		3年生		コース区分*	4 グループごとにおけるプレ実験に向けた準備 (文献紹介や具体的な方法の検討など) 予復修課題: 先行研究をもとに具体的な実験方法の提示が出来るように準備を進める		
開講学期		開講学期 通年 (後期)			5 グループごとにおけるプレ実験に向けた準備 (文献紹介や具体的な方法の検討など) 予復修課題: 先行研究をもとに具体的な実験方法の提示が出来るように準備を進める		
授業概要		卒業研究論文を作成するための基礎的な準備を目的として論文検索やデータ収集・処理の方法を学ぶ。 また、グループごとに立てた目的に対して実験 (調査)、分析、発表を行い4年次の卒業研究に向けた予備学習を行う。				6 グループ1によるプレ実験 予復修課題: グループ内で決めた役割をもとに準備を進めておく	
授業到達目標		スポーツ指導者ならびにアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を習得することが出来る。また、アスレティックトレーニング領域を中心に自らの興味に関連した卒業研究論文の課題を設定し、実践することが出来る。				7 グループ1によるプレ実験 予復修課題: グループ内で決めた役割をもとに準備を進めておく	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】		学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	実践活動と、その報告をまとめたレポートや発表内容を判定資料とする。 また、実習への参加意欲も重要視するため主体的な取り組みに期待する。 (各授業における予復修時間の目安: 4時間)				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	2~7回目、および10~13回目の授業でグループワークを行う。また、14回目の授業では				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	グループごとにプレゼンテーションを行う。				
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		なし					
参考書		適時、指示をします					
		15 予復修課題: 中間発表会の感想をまとめ、自身の卒業研究の取り組みを明確にしておく					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	本授業におけるスポーツゼミナールでは、バレーボール競技を中心とした競技特性と基本的な戦術行動を解説し、自身の競技実践を通して競技力向上に関わる実態を把握し課題の解決に向けた実践研究的側面から考究する。					
	授業到達目標 バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した先行研究・資料をまとめることができる。 競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。 バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	スポーツ実践の場は失敗と成功を繰り返し問題解決が遂行される場である。		11 プレゼンテーション・ディスカッション 個々の進捗状況の報告と議論 予復修課題: 報告資料の準備(予復修時間420分)		
1. 小テスト、感想文など	%	競技者・指導者を目指す者として、実践的課題や問題解決を追求する姿勢を常に持ち実践現場にフィードバックできるよう意識して取り組むこと。したがって実践者であることが望ましい。尚、各授業の進捗状況によって予定を変更する場合がある。		12 プレゼンテーション・ディスカッション 個々の進捗状況の報告と議論 予復修課題: 報告資料の準備(予復修時間420分)		
2. 中間テスト	%			13 プレゼンテーション・ディスカッション 個々の進捗状況の報告と議論 予復修課題: 報告資料の準備(予復修時間420分)		
3. 課題レポートなどの提出物	%			14 プレゼンテーション・ディスカッション 個々の進捗状況の報告と議論 予復修課題: 報告資料の準備(予復修時間420分)		
4. 授業中の発表、討論	10 %			15 総括 卒業研究の作成準備について確認する 予復修課題: テーマについてまとめること(予復修時間420分)		
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	実践的課題や問題解決の糸口となる視点をゼミ内において討論する。				
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	4年次に行う卒業研究に向けて、研究の手法や発表の方法を学ぶとともに、先行研究を調べながら、自分の関心あるテーマについて深く掘り下げていく。心理学や教育に関わる領域を中心に、それぞれの研究の方向性を決めていく。					
	<b>【知識・技能】</b> 自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 <b>【思考力・判断力・表現力】</b> 先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 <b>【主体性・協働性】</b> 関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】	学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。 <b>【主体性・協働性】</b> 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	発表や課題は必ず行うこと 積極的な姿勢で臨むこと 欠席する場合は、特別な事情がない限り、事前に説明し、指導教員の承認を得ること 予復修は2時間程度を目安とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	(全回)各自が調べてきた内容について、発表及びディスカッション、フィードバックを行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
1	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
2	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
3	自分が研究したいテーマについて、調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き、質問や意見を伝える。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
4	データの読み取り方やまとめ方について、文献をもとに理解する。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
5	データの読み取り方やまとめ方について、文献をもとに理解する。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
6	データの読み取り方やまとめ方について、文献をもとに理解する。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
7	データの読み取り方やまとめ方について、文献をもとに理解する。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
8	データの読み取り方やまとめ方について、文献をもとに理解する。 予復修課題：各自の研究したいテーマについて調べ、まとめる。					
9	卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					
10	卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					
11	卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					
12	卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					
13	卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					
14	卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					
15	まとめ 卒業研究に向けて、レビューを作成する。 予復修課題：レビューに必要な情報を集め、まとめる。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**	
担当者	後藤 平太 (GOTO Heita)			4	専任	1	オリエンテーション 15回の授業内容や評価方法についての説明を行う 予復修課題： 特になし
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2	試合録画と分析法 サッカーの試合を録画する方法とその映像を分析する方法を学ぶ 予復修課題： 講義中に与えられた試合の分析を行う
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3	試合録画と分析法 サッカーの試合を録画する方法とその映像を分析する方法を学ぶ 予復修課題： 講義中に与えられた試合の分析を行う
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4	試合録画と分析法 サッカーの試合を録画する方法とその映像を分析する方法を学ぶ 予復修課題： 講義中に与えられた試合の分析を行う
授業概要	スポーツ科学(サッカー)の分野に適した試合録画・分析法を学ぶ。また、この分野での最先端の知識を身につけるとともに、学術論文の書き方やプレゼンの方法を学習することを目的とする。					5	卒業論文の書き方・論文引用 論文引用の多種の方法や表記の仕方について学ぶ 予復修課題： 前期に発表した論文の引用方法などについてまとめる
授業到達目標	試合録画・分析法を習得することができる。 スポーツ科学(サッカー)の分野の最先端の知識を習得することができる。 パワーポイントによるプレゼンの方法を習得することができる。 学術論文の書き方を学習する。					6	卒業論文の書き方・論文引用 論文引用の多種の方法や表記の仕方について学ぶ 予復修課題： 前期に発表した論文の引用方法などについてまとめる
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7	卒業論文の書き方・緒言 緒言の書き方やこのセクションに含まれる項目について学ぶ 予復修課題： 前期に発表した論文の緒言をみて、書いてある内容の項目をまとめる
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8	卒業論文の書き方・緒言 緒言の書き方やこのセクションに含まれる項目について学ぶ 予復修課題： 前期に発表した論文の緒言をみて、書いてある内容の項目をまとめる
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9	卒業論文の書き方・方法 方法の書き方やこのセクションに含まれる項目について学ぶ 予復修課題： 前期に発表した論文の方法をみて、書いてある内容の項目をまとめる
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業ごとに1時間程度の予復修を行うことを望む。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	実践学習(第2~4回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	グループディスカッション(第5~14回)				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
						15	まとめ 講義の総括を行う 予復修課題： 特になし

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei)				4	専任	1 オリエンテーション 予復修課題：シラバスの確認をすること(予復修時間:60分)
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSL3101		2 予備実験・調査 実験計画書の書き方を学習する 予復修課題：実験計画書を作成する(予復修時間:240分)
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			3 予備実験・調査 実験計画書の書き方を学習する 予復修課題：実験計画書を作成する(予復修時間:240分)
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)				4 予備実験・調査 実験計画書の書き方を学習する 予復修課題：実験計画書を作成する(予復修時間:240分)
授業概要	卒業研究に取り組むにあたって求められる基礎知識の習得を目指し、実践現場(コーチング、トレーニング)に活かすことのできる人材育成を目的とする。研究領域は、コーチング論・トレーニング学である。ここでは、自身のコーチング・トレーニング実践を通して感じた素朴な疑問を見つけ、その疑問の実態を把握し、疑問に対する仮説を考え、仮説を立証する研究方法を調べることができるようになることを求める。また、小論文トレーニングを行い、論文を書く力を養成する。						5 予備実験・調査をまとめる 報告の仕方について学習する 予復修課題：実験報告書を作成する(予復修時間:240分)
授業到達目標	コーチング論・トレーニング学に関連する先行研究・資料を収集できる。 収集した先行研究・資料をまとめることができる。 トレーニング実施上の課題や問題点を明らかにすることができる。						6 予備実験・調査をまとめる 報告の仕方について学習する 予復修課題：実験報告書を作成する(予復修時間:240分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	コーチング論・トレーニング学の研究領域は、トレーニングを実践する選手やコーチが現場で感じたことや気づきを理論化し、一般化する試みの中で発展してきた。したがって、自分自身が実践者である(部活動・クラブチーム等で活動している)ことが望ましい。					
1. 小テスト、感想文など	%						
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	%						
4. 授業中の発表、討論	30 %						
5. 授業への参加意欲	50 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	調査学習[第2~5回]					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %	グループワーク[第6~9回]					
3.	%	プレゼンテーション[第10~15回]					
再評価の実施	する	しない					
教科書	村木征人『スポーツ・トレーニング理論』ブックハウスHD、1998						
参考書							
							10 プレゼンテーション・ディスカッション プレゼンテーションの作成方法を学習する 予復修課題：プレゼンテーションを作成する(予復修時間:270分)
							11 プレゼンテーション・ディスカッション プレゼンテーションの作成方法を学習する 予復修課題：プレゼンテーションを作成する(予復修時間:270分)
							12 プレゼンテーション・ディスカッション プレゼンテーションの作成方法を学習する 予復修課題：プレゼンテーションを作成する(予復修時間:270分)
							13 プレゼンテーション・ディスカッション プレゼンテーションの仕方を学習する 予復修課題：プレゼンテーションを作成する(予復修時間:270分)
							14 プレゼンテーション・ディスカッション プレゼンテーションの仕方を学習する 予復修課題：プレゼンテーションを作成する(予復修時間:270分)
							15 プレゼンテーションのまとめ お互いのプレゼンテーションを評価する 予復修課題：プレゼンテーションを作成する(予復修時間:270分)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	森 誠護 (MORI Seigo)				4	1 オリエンテーション 授業の概要、授業目的、授業の進め方の説明 予復修課題：シラバスの確認(1時間)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 文献検索の方法について 予復修課題：講義内で指示する(4時間)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	3 文献抄読(1) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4 文献抄読(2) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)	
授業概要	本授業では、水泳を中心とした科学的サポートや体力測定の方法とその分析方法を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。 後期には卒業論文テーマ決定に向けて先行研究を調査し、予備実験等を実施することで、今後の研究計画を作成する。						
	5 文献抄読(3) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)						
授業到達目標	1. 先行研究を自ら調査し、卒業論文へ向けたテーマを設定する。 2. 予備実験や予備調査を計画し、実施することができる。 3. 実施した内容をまとめ、レポート作成やプレゼンテーションができる。						
	6 文献抄読(4) 予復修課題：講義内で指示する(4時間)						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 積極的に参加すること。 2) 必要に応じて予復修をしておくこと。 3) 自ら興味のあるテーマを検討すること。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 卒業研究に向けた予備実験(調査)を実施し、報告書を作成する。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		40 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%	14 予復修課題：講義内で指示する(4時間) 課題発表(1)				
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない	15 予復修課題：最終レポートの作成・提出(7時間) 課題発表(2)まとめ				
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	スポーツゼミナール Sports Seminar				単位数	授業内容**	
担当者	疋田 晃久 (HIKITA Akihisa)				4	1 オリエンテーション (シラバスの確認。授業の進め方と受講上の注意・ルール確認) 予復修課題：シラバスを熟読してくること。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 前期スポーツゼミナール復修 研究テーマの概要を確認、再考する。 予復修課題：前期講義で作成したテーマ概要を熟読しておくこと。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL3101	3 前期スポーツゼミナールの復修 研究テーマの概要を確認、再考する。 予復修課題：前期講義で作成したテーマ概要を熟読しておくこと。	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			4 研究計画の考察 (関連する先行研究の収集を行う。) 予復修課題：先行研究の文献の検索を行っておくこと。	
授業概要	卒業研究(陸上競技の中でも投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投-)を中心とした動作やトレーニング・コーチングについての分野)に取り組むにあたり、前期スポーツゼミナールで決めた研究テーマの概要を明確にする手段を理解する。 陸上競技の特性や基本的な競技力向上に関わる動作についての各種測定やアンケート調査等をデータとしてまとめ、報告を行う。 前期スポーツゼミナールで決めた研究テーマの概要を明確にする					5 研究計画の考察 (関連する先行研究の収集を行う。) 予復修課題：先行研究の文献の検索を行っておくこと。	
授業到達目標	スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身に付ける。 投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。 投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。					6 研究計画の考察 (関連する先行研究の収集を行う。) 予復修課題：先行研究の文献の検索を行って収集しておくこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	競技者もしくは指導者を目指すものとして実践的課題・問題意識を追求する姿勢を以て授業にのぞむこと。 講義で学んだ内容を積極的に実践現場で活かすこと。 研究の為に、投擲競技の実技を伴う場合があるので、実技能力を有することが望ましい。 予復修課題については、各講義4時間程度。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 調査学習[第4,5,6回] プレゼンテーション[第10,11,12,13,14回] ディスカッション[第10,11,12,13,14回]				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
			15 演習のまとめ (ディスカッションで出た意見をまとめ、卒業論文作成の準備について確認する。) 予復修課題：卒業論文に向けて、ディスカッションした内容をまとめておくこと。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**		
担当者		山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)		4	1 オリエンテーション, 始原身体知の復習 予復修課題: 関心のある始原身体知の内容について報告できるように考えをまとめる.		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 コツに関する運動学的理解 コツの形成位相(習熟段階)について学習する. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.		
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 コツに関する運動学的理解 コツ形成のメカニズムについて, 動きの比較, 価値意識, 触発に着目して学習する. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.		
配当年次		3年生	開講学期 通年(後期)		4 コツに関する運動学的理解 自身のコツ形成の事例についてショートプレゼンを行い, 討議する. 予復修課題: ショートプレゼンの内容についてノートにまとめる		
授業概要		研究を進める上での理論的基礎となる発生運動学について個別事例を例証として理解できるようにする.				5 カンに関する運動学的理解 道具の操作に関するカンについて学習する. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.	
授業到達目標		運動学的分析方法を個別運動学に置き換えて説明できるようになる. 身体知について事例を上げて説明できるようになる.				6 カンに関する運動学的理解 触れていないモノに対するカンについて学習する. 予復修課題: 授業内容について端的にまとめ, 次回授業において説明できるようにする.	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け, 総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し, 専門知識と技能を身につけている.							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養, および専門分野の知識・技能を用いて, 職業人として適切な企画・計画力, 的確な判断力を有し, それらを実践できる力を身につけている. また, 礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ, 地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている.							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として, 自らを律し, 主体的に物事を考え, 自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている. また, 地域や社会の一員として, 自ら進んで他者との協働を通じ, 積極的にボランティア活動等を実践し, 社会貢献できる力を身につけている.							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予修における演習課題を基に授業を展開するため, 必ず予修をして授業に望むこと. 各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます.				
1. 小テスト, 感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		40 %					
4. 授業中の発表, 討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション				
2. 論文, まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							
		11 自身の運動学習の事例について, コツとカンに関するプレゼンテーションを行う. 予復修課題: プレゼン資料の作成					
		12 第11回講義のプレゼンに関する討議 予復修課題: プレゼン資料の修正					
		13 第12回講義の討議において指摘された箇所を修正し再プレゼンを行う. 予復修課題: 卒業研究の研究分野について自身の考えをまとめる					
		14 卒業研究テーマに関する討議と意見交換 予復修課題: 指摘された内容への回答をまとめる.					
		15 まとめ(卒業研究の研究分野の決定) 予復修課題: 授業の進捗状況に応じて指示する.					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので, 授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	田代 利恵 (TASHIRO Rie)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	本ゼミナールでは、スポーツに関連した政策に関する研究テーマを扱う。 4年次の卒業論文執筆に向けて、論理的な考え方のトレーニングや研究方法について学ぶ。 各自の関心領域に応じたスポーツ政策に関する事例研究を文献調査等により行い、卒業論文のテーマ設定や研究計画を立てる。					
	授業到達目標	論理的に思考し分析する能力や、課題解決に向けた提案能力を高める。 スポーツ政策における事例やその効果について、説明することができる。 研究計画を立て、卒業論文執筆に向けた準備ができている。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	・受け身の姿勢ではなく積極的に取り組むこと ・課題については期日を厳守してください ・全出席を基本とします 予復修課題には120分程度取り組むこと				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	30 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	ディスカッション(第10~14講)				
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %	プレゼンテーション(第10~14講)				
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	適宜資料を配布します					
参考書						
1	オリエンテーション 前期の振り返り、後期授業の進め方 予復修課題：前期授業内容の復習					
2	研究方法論文献精読 予復修課題：文献の読み込み、まとめ					
3	研究テーマの発表 予復修課題：論文で「何を問うのか」考えをまとめる					
4	研究テーマの発表 予復修課題：論文で「何を問うのか」考えをまとめる					
5	研究方法論文献精読 予復修課題：文献の読み込み、まとめ					
6	研究方法論文献精読 予復修課題：文献の読み込み、まとめ					
7	研究テーマ、研究計画の構想づくり 予復修課題：収集した文献のまとめ、研究テーマ、研究計画の検討					
8	プレゼンテーションの基本 パワーポイントの使い方 予復修課題：事前にパワーポイントの操作に慣れておく					
9	プレゼンテーションの基本 シートの作成、構成 予復修課題：					
10	研究テーマと研究計画の構想発表・質疑 プレゼンテーションとディスカッション 予復修課題：研究テーマと研究計画のプレゼンテーション準備					
11	研究テーマと研究計画の構想発表・質疑 プレゼンテーションとディスカッション 予復修課題：研究テーマと研究計画のプレゼンテーション準備、ゼミレポートの作成					
12	研究テーマと研究計画の構想発表・質疑 プレゼンテーションとディスカッション 予復修課題：研究テーマと研究計画のプレゼンテーション準備、ゼミレポートの作成					
13	研究テーマと研究計画の構想発表・質疑 プレゼンテーションとディスカッション 予復修課題：研究テーマと研究計画のプレゼンテーション準備、ゼミレポートの作成					
14	研究テーマと研究計画の構想発表・質疑 プレゼンテーションとディスカッション 予復修課題：プレゼンテーションとディスカッション					
15	まとめ 後期のまとめ、ゼミレポートの提出 予復修課題：研究テーマと研究計画の修正、研究テーマに関する文献取集					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**		
担当者	内田 満 (UCHIDA Mitsuru)			専任	1	プレゼンテーション (前期に取り組む課題の説明等) 予復修課題: 授業内容に関する情報収集		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101	2	卒業研究の概要作成 (卒業研究の簡単な概要を情報共有する) 予復修課題: 自身の研究テーマに沿ったレポートを作成		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3	卒業研究概要のプレゼンテーション (プレゼンテーションと情報共有・ディスカッション) 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)		4	卒業研究概要のプレゼンテーション (プレゼンテーションと情報共有・ディスカッション) 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集		
授業概要	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ政策・社会学・マネジメント分野での研究・発表方法を学ぶ。 これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会から従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。				5	卒業研究概要のプレゼンテーション (プレゼンテーションと情報共有・ディスカッション) 予復修課題: プレゼンテーション資料の作成, 情報収集		
授業到達目標	自身に興味のあるスポーツ分野を社会現象として客観的に捉える その現象が研究分野としてどのように探究されているかを調べる その情報を理解し、プレゼンをしながら、他人と共有する そこからさらに自身の興味を高め、次年度の研究材料を見つける 論文作成の方法論について学ぶ				6	卒業研究のはじめに(導入部)の作成 (ワークショップ形式で作成) 予復修課題: 研究概要を執筆		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7	卒業研究のはじめに(導入部)の作成 (ワークショップ形式で作成) 予復修課題: 研究概要を執筆		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8	卒業研究のはじめに(導入部)の作成 (ワークショップ形式で作成) 予復修課題: 研究概要を執筆		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9	卒業研究の予備調査 (ゼミ内でのアンケート調査など) 予復修課題: 調査法の検討		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10	卒業研究の予備調査 (ゼミ内でのアンケート調査など) 予復修課題: 調査法の検討		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			11	卒業研究の予備調査 (ゼミ内でのアンケート調査など) 予復修課題: 調査法の検討	
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。			12	卒業論文の原案執筆 (予備調査などを踏まえて全体的な文章を執筆) 予復修課題: 卒業論文の執筆		
1. 小テスト、感想文など	%				13	卒業論文の原案執筆 (予備調査などを踏まえて全体的な文章を執筆) 予復修課題: 卒業論文の執筆		
2. 中間テスト	%				14	卒業論文の原案執筆 (予備調査などを踏まえて全体的な文章を執筆) 予復修課題: 卒業論文の執筆		
3. 課題レポートなどの提出物	30 %				15	卒業論文の原案執筆 (予備調査などを踏まえて全体的な文章を執筆) 予復修課題: 卒業論文の執筆		
4. 授業中の発表、討論	30 %							
5. 授業への参加意欲	20 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%	グループワーク: 9~11回目						
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %	プレゼンテーション: 3~5回目						
3.	%	ワークショップ: 6~8回目						
再評価の実施	する	しない						
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)			4	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)			
授業概要	卒業研究に向けて研究課題をみつけ、研究計画を立てる。 あわせて自分の将来設計を考えながら資格取得のサポート、将来のために自分の世界を広げるサポートをする。					
	研究計画をたてる。 自分の世界観を広げる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	積極的に参加し、コミュニケーションを取ること。			
1. 小テスト、感想文など		%	課題、発表等は必ず行うこと。			
2. 中間テスト		%	予復修課題の取組時間：60分以上			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	発表の準備を行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する		しない			
教科書	その都度プリント等を配付する。					
参考書						
1	セルフコンディショニングのポスター発表会 セルフコンディショニングの啓蒙方法を発表する。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。					
2	セルフコンディショニングのポスター発表会 セルフコンディショニングの啓蒙方法を発表する。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。					
3	セルフコンディショニングのポスター発表会 セルフコンディショニングの啓蒙方法を発表する。 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。					
4	研究計画発表 研究計画をまとめ発表する。 予復修課題：研究計画作成に関し論文を精査する。					
5	研究計画発表 研究計画をまとめ発表する。 予復修課題：研究計画作成に関し論文を精査する。					
6	研究計画発表 研究計画をまとめ発表する。 予復修課題：研究計画作成に関し論文を精査する。					
7	予備実験の準備 予復修課題：予備実験のための機器の使用確認。					
8	予備実験の準備 予復修課題：予備実験のための機器の使用確認。					
9	予備実験 予復修課題：予備実験を遂行するための準備。					
10	予備実験 予復修課題：予備実験を遂行するための準備。					
11	予備実験 予復修課題：予備実験を遂行するための準備。					
12	予備実験 予復修課題：予備実験を遂行するための準備。					
13	予備実験 予復修課題：予備実験を遂行するための準備。					
14	卒業論文の書き方 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。					
15	卒業論文の書き方 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者	田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)			4	1 オリエンテーション 授業の進め方、評価について、講義の概要説明、受講における注意事項 予復修課題：スポーツゼミナール(前期)の内容を振り返る。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 研究テーマの検討 予復修課題：興味のあるテーマに関する先行研究を探す。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3 先行研究の検討 予復修課題：先行研究をまとめて資料を作成する。	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 先行研究の検討 予復修課題：先行研究をまとめて資料を作成する。	
授業概要	4年次の卒業研究に向けて、保健体育科教員や部活動指導者の現状や問題点を明らかにし、教員や指導者に必要な資質や能力など、指導現場に必要な要素について理解を深め、自身が設定したテーマの目的や研究方法を明確にすることを目的とする。					
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究のテーマを決定することができる。</li> <li>自身のテーマにあった研究方法について理解する。</li> <li>研究計画を立てることができる。</li> </ul>					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>全出席を原則とする。</li> <li>授業時間や提出期限などルールを守ること。</li> <li>意欲的に授業に参加すること。</li> <li>予復修の目安は120分とする。</li> </ul>				
1. 小テスト、感想文など	%	<b>アクティブ・ラーニング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が作成してきたレポートを基にグループディスカッションを行う。</li> <li>パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行い、学生同士で評価をする。</li> </ul>				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	予復修課題：研究計画をパワーポイントにまとめ、発表の準備をする。					
1. まとめのテスト	%	予復修課題：研究計画をパワーポイントにまとめ、発表の準備をする。				
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない	予復修課題：研究計画をパワーポイントにまとめ、発表の準備をする。			
教科書	まとめ					
参考書	予復修課題：これまでの講義を振り返り内容をまとめる。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar			単位数	授業内容**	
担当者	高田 俊也 (TAKADA Toshiya)			4	専任		1 オリエンテーション (後期に取り込む課題の説明等) 予復修課題：興味を持った分野に関する情報収集
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSL3101		2 自らの課題解決に向けた取り組みの進捗状況のプレゼンテーション 1 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、興味を持った分野に関する情報収集	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)				
授業概要	4年次に取り込む卒業研究に向けて、前期で受講した内容を踏まえ、体育・スポーツ科学分野、特に学校教育現場の事象に関わった様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。						3 自らの課題解決に向けた取り組みの進捗状況のプレゼンテーション 2 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、興味を持った分野に関する情報収集
授業到達目標	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。						4 自らの課題解決に向けた取り組みの進捗状況のプレゼンテーション 3 他人のプレゼンテーションテーマについてディスカッション 予復修課題：プレゼンテーション資料の作成、興味を持った分野に関する情報収集
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1 ゼミに積極的に参加すること。 2 課題はすべて提出すること。 3 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション				
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %	プレゼンテーション				
3.		%					
再評価の実施	する		しない				
教科書							
参考書							
			14 卒業研究に向けて、テーマ・方法の決定、資料・データ収集 1 決定したテーマに応じて、先行研究やデータ、資料等を集める 予復修課題：自らの卒業研究に向けた取り組みを行う				
			15 卒業研究に向けて、テーマ・方法の決定、資料・データ収集 2 決定したテーマに応じて、先行研究やデータ、資料等を集める 予復修課題：自らの卒業研究に向けた取り組みを行う				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツゼミナール Sports Seminar		単位数	授業内容**	
担当者		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuuta)		4	1 ガイダンス(演習の概要、成績評価について、スケジュールの確認、自己紹介など) 予復修課題: 各自の本演習における目的や到達目標を明確にしておくこと	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 学生アスレティックトレーナーとしての活動を振り返る 予復修課題: 自身の学生アスレティックトレーナーとしての活動をまとめておくこと	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL3101	3 学生アスレティックトレーナーとしての活動を振り返る 予復修課題: 自身の学生アスレティックトレーナーとしての活動をまとめておくこと	
配当年次	3年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 学生アスレティックトレーナーとしての活動を振り返る 予復修課題: 自身の学生アスレティックトレーナーとしての活動をまとめておくこと	
授業概要	学生アスレティックトレーナーとしての実践的な活動を通して疑問や課題を見つけ、疑問や課題の解決に向けた情報収集と調査及び実験を行う事を目的とする。 また、学生アスレティックトレーナー教育やアスレティックトレーナー活動での経験を活かし、授業展開を行います。					
	5 学生アスレティックトレーナーとしての活動を通して疑問や課題を見つけることができる。 疑問や課題を解決するための情報収集ができる。 疑問や課題を解決するための調査や実験を行うことができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	アスレティックトレーニングやコンディショニング領域に関心のある者やアスレティックトレーナーの資格取得を目指す者が望ましい各授業ごとに2時間を目安に予修復修を行うこと				
1. 小テスト、感想文など	%	2) 最終到達度の評価				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	10 %					
4. 授業中の発表、討論	10 %					
5. 授業への参加意欲	80 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
再評価の実施		する	しない	アクティブ・ラーニング		
教科書	第9回の講義では、4年生の卒業研究の中間発表を聞き、自身の卒業研究の参考にすること					
参考書	14 予復修課題: プチ実験の結果を簡潔にまとめ、発表の準備をしておくこと					
15 後期のまとめ 予復修課題: 後期に実施した授業の復修を行うこと						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**			
担当者		船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)		8	1 授業の年間スケジュールについて 予復修課題：卒業研究テーマの精査			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 各自テーマに即した文献発表(1) 予復修課題：発表資料の作成、プレゼンテーションのリハーサル			
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 各自テーマに即した文献発表(2) 予復修課題：発表資料の作成、プレゼンテーションのリハーサル			
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 各自テーマに即した文献発表(3) 予復修課題：発表資料の作成、プレゼンテーションのリハーサル			
授業概要	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。							
	5 卒業研究テーマに関する実験・測定のスケジュール作成(1) 予復修課題：スケジュールの作成、対象者の決定、方法の検討							
授業到達目標	実験に必要な機器を自由自在に扱うことができるようになること。 分析ソフト(キネアナライザー)で多様な分析ができるようになること。 仮説に基づいた論理的な検証、思考ができるようになること。 卒業論文の作成を通して体系的、理論的な思考ができるようになること。							
	6 卒業研究テーマに関する実験・測定のスケジュール作成(2) 予復修課題：スケジュールの作成、対象者の決定、方法の検討							
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				7 予備実験(1) 予復修課題：予備実験に係る対象者との時間調整、方法の確認				
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 予備実験(2) 予復修課題：予備実験に係る対象者との時間調整、方法の確認、前回予備実験からの微調整				
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 予備実験(3) 予復修課題：予備実験に係る対象者との時間調整、方法の確認、前回予備実験からの微調整				
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 各自テーマの実験・測定(1) 予復修課題：1回目測定で収集したデータ処理				
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				11 各自テーマの実験・測定(2) 予復修課題：1~2回目測定で収集したデータ処理		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	以下の科目を修得しておくことが望ましい				12 各自テーマの実験・測定(3) 予復修課題：1~3回目測定で収集したデータ処理	
1. 小テスト、感想文など		%	スポーツ生理学				13 各自テーマの実験・測定(4) 予復修課題：1~4回目測定で収集したデータ処理	
2. 中間テスト		%	体力トレーニング論				14 データ処理方法 予復修課題：測定したデータを図表化	
3. 課題レポートなどの提出物		%	各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。				15 プレゼンテーション 卒業研究の「結果」までのプレゼンテーション 予復修課題：卒業研究テーマの「結果」までのプレゼンテーション資料を作成する	
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	測定・計測					
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	【1~14回目】					
3. プレゼンテーション		20 %	プレゼンテーション					
再評価の実施		する	【15回目】					
しない								
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)		8	1 オリエンテーション (各自の経験から課題探究 1 等) 予復修課題: スポーツゼミナールで考えた課題探求の方法により自らの課題を考える	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			2 各自の経験から課題探究 2 予復修課題: 課題探求の方法により自らの課題を考える	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	大学生生活の授業で学んだことを元に、スポーツゼミナールで考えた自らの課題に対し、具体的なテーマを決定し、先行研究を行い、課題解決に応じた方法を用い分析を行う。種々の取り組みは、各回の授業時間だけで終わらせることは難しいため、予復修課題としても資料の収集等、各自の進捗状況に応じて総じて各回240分程度を目安に、授業外での取り組みを行うこと。					
	3 先行研究の精査 1 予復修課題: 自らの経験による課題に関連する先行研究の精査					
授業到達目標	1 教育事象、指導方法等、各自の経験から課題を見出し、研究テーマの立案ができる。 2 考えた研究テーマの解決のための先行研究やそれに向けた研究計画を立てることができる。 3 研究計画にもとづき各種のデータを取得し、それらを分析することができる。					
	4 先行研究の精査 2 予復修課題: 自らの経験による課題に関連する先行研究の精査					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				5 研究テーマの決定 1 予復修課題: 先行研究の分析から、研究テーマを決定する		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6 研究テーマの決定 2 予復修課題: 先行研究の分析から、研究テーマを決定する		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				7 研究計画の立案 1 予復修課題: 決定したテーマにもとづく研究計画の立案		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				8 研究計画の立案 2 予復修課題: 決定したテーマにもとづく研究計画の立案と必要な方法の決定		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各自の積極的な取り組みがベースであり、この時間だけでは学習成果が得られない。そのため、この時間外にもこの課題に対し取り組むこと。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		40 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	各自の研究の視点から他のゼミ生の研究に対して、疑問を呈する等のディスカッションを行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
				15 予復修課題: 収集したデータ等の分析方法の確認		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Reserch		単位数	授業内容**	
担当者		森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)		8	1 文献抄読と研究目的について検討する。 予復修課題：文献の検索と学習(4時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 文献抄読と研究目的について検討する。 予復修課題：文献の検索と学習(4時間)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 文献抄読と研究目的について検討する。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)	
授業概要	本授業は、自ら考えたテーマに基づいて調査あるいは実験を行ない、得られたデータをもとに自らの考えを導き出し、論文として纏め上げ、また後頭あるいはポスターによる発表を経験する。また、毎回の授業で進捗状況の報告とディスカッションを行なう。					
	授業到達目標 1. 研究研究を計画しデータの収集ができる。 2. 研究発表会でプレゼンテーションができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				5 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				7 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				8 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
成績評価の方法(全体で100%)				9 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修における留意事項			
1. 小テスト、感想文など		%	授業の資料は事前に配布しますので、事前に読 で予修をすることによって理解が一層深まりま す。また、授業で学んだ箇所を読みなおすこと で、さらに理解が深まります。 計算式は、自分で問題を作ることで理解が深ま ります。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	毎回ディスカッションをします。			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	11 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)			
3.		%	12 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)			
再評価の実施		する	13 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)			
教科書		資料を配布します。				
参考書		森川ゼミ用資料「森川ゼミ講義資料」「スポーツ統計学資料」				
		14 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)				
		15 第1回中間発表会 予復修課題：予修:中間発表会の準備・復修:発表会の反省とまとめ(4時間)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**			
担当者		得居 雅人 (TOKUI Masato)		8	1 実験方法の確立 予復修課題：立案			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 実験方法の確立 予復修課題：立案			
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 実験方法の確立 予復修課題：立案			
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 実験方法の確立 予復修課題：立案			
授業概要	スポーツゼミナールで学んだ知識・技能を基に、自らの研究テーマを論文にまとめ発表する。			5 実験 予復修課題：準備				
	自らの研究テーマを科学的な方法に従い研究論文にまとめることができる。論文を明快且つ簡潔に発表することができる。			6 実験 予復修課題：準備				
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)			7 実験 予復修課題：準備				
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 実験 予復修課題：準備				
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 実験 予復修課題：準備				
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 データ解析 予復修課題：解析				
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				11 データ解析 予復修課題：解析		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	自らの興味関心に応じた研究テーマを設定し、積極的に取り組むこと。 毎回60分の予修が必要である。				12 データ解析 予復修課題：解析	
1. 小テスト、感想文など		%					13 データ解析 予復修課題：解析	
2. 中間テスト		%					14 データ解析 予復修課題：解析	
3. 課題レポートなどの提出物		%					15 データ解析 予復修課題：解析	
4. 授業中の発表、討論		20 %						
5. 授業への参加意欲		20 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	実験、解析、考察、執筆、発表。					
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		田中 雄二 (TANAKA Yuji)		8	1 オリエンテーション：卒業研究の準備 スポーツゼミナール(3年)で行ったことの確認を行い、研究に着手する。 予復修課題：前年度資料についてしっかりと説明できること。(4時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究計画の作成：スケジュールの作成 卒業研究以外の活動も踏まえながら活動計画を立案する。 予復修課題：研究計画案をまとめておく。(4時間)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 研究の取り組み1：調査実施 研究活動に着手する。 予復修課題：先行研究との対比を行う。(4時間)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 研究の取り組み2：調査実施 データ収集のための準備を行う。 予復修課題：必要に応じた周辺領域の学びを深める。(4時間以上:継続的な予復習)	
授業概要		3年次のスポーツゼミナールを通じて学んだことを土台として、研究テーマに沿って調査および解析を進めていく。その流れの中で関連する分野(統計学など)の学習も深めていく。他者の研究内容についても関心を持ち、自らのテーマに応用できそうな項目を見出す。			5 研究の取り組み3：調査実施 準備の妥当性を検討する。 予復修課題：研究に必要なデータについて検討しておく(4時間)	
授業到達目標		テーマ設定の合理性を説明できる 論文骨子の構築の妥当性を説明できる どこまでを明らかにしようとするのかについて説明できる 先行研究との関連性について説明できる			6 研究の取り組み4：調査実施 データ収集等に必要なた台作りを行う。 予復修課題：調査研究に必要な準備を行う。(4時間以上:継続的な取り組み)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 研究の取り組み5：調査実施 データ収集等を行う。 予復修課題：収集データの処理方法について学ぶ(4時間以上:継続的な予復習)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 研究の取り組み6：調査実施 データ収集等を行う(継続) 予復修課題：収集データを整理する準備を行う(4時間)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 研究の取り組み7：中間報告 ここまでの取り組みについて報告会を行う。 予復修課題：ここまでの経過をまとめておく。(4時間以上かかります)		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミ全体での指導と個別指導が混在する。			
1. 小テスト、感想文など		%	進捗状況報告に基づいて指導するので、			
2. 中間テスト		%	現況を口頭および書類で報告すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		80 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		15 中間発表 報告会を実施する。 予復修課題：報告資料を作成しておく。(4時間)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)		8	1 オリエンテーション スポーツゼミナール課題解説 予復修課題：卒業研究計画を再考のこと。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究計画立案(1) 予復修課題：予修：研究倫理規程について調べてくること。復修：個人または班毎に指示に従い実施のこと。	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 研究計画立案(2) 予復修課題：予修：配布文書(依頼・手順・承諾)を完成させること。復修：個人または班毎に指示に従い実施のこと。	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 研究計画立案(3) 予復修課題：卒業研究計画を完成させること。	
授業概要		スポーツゼミナールの内容を元に研究計画を立案する。計画に基づき調査等を行い、必要に応じてデータ処理を行う等して論文に仕上げていく。				
授業到達目標		研究論文の構成を正しく理解し、自らのテーマを研究論文にまとめることができる。研究成果をプレゼンテーションできる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	提出物等期限厳守のこと。 学外活動(調査・指導等)にも積極的に参加することが望ましい。 予復修で270分の学修を目安とすること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	研究指導教員との授業であるので、すべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、結果の検討(考察)(第13・14回)は究極の能動的学修である。			
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		プリントを配布する。				
参考書						
		11 データ処理(3) 解析 予復修課題：個人または班毎に指示に従い実施のこと。授業時間は進捗の確認と考え、時間外で進めること。				
		12 データ処理(4) 解析 予復修課題：個人または班毎に指示に従い実施のこと。授業時間は進捗の確認と考え、時間外で進めること。				
		13 結果の検討(考察)(1) 予復修課題：予修：結果の解釈をまとめてくること。復修：進捗に伴い指示する。				
		14 結果の検討(考察)(2) 予復修課題：予修：考察の方向性をまとめてくること。復修：進捗に伴い指示する。				
		15 研究計画の追加・修正の検討 夏季休業中の指示を行う 予復修課題：予修：追加案等をまとめてくること。復修：夏季休業中の指示に従い実施のこと。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)		8	1 年間スケジュールの説明 前期の研究計画作成、予備実験、データ収集、データ分析について 予復修課題： 自らの研究テーマに関連する論文3編を探してくる。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究論文の読み方 論文の読み方、まとめ方についての説明 予復修課題： 論文3編の内容をまとめてレポート用紙1枚にまとめてくる。	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 研究テーマについての発表 自らの研究テーマに関する先行研究を紹介する。 予復修課題： 発表会で出された質問、意見を踏まえて追加調査を行ってくる。	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)		4 研究計画の作成 研究計画作成に向けて検討すべき事項に関する説明 予復修課題： 研究計画案を作成し、パワーポイント5枚程度にまとめてくる。	
授業概要		スポーツ学演習で学んだ研究計画、実験、データ分析の手法を用い、自らテーマを設定し、卒業論文を作成することを目指す。 本演習では研究テーマの設定、文献収集、調査・データ収集、データ分析、論文執筆の一連の過程を独力で成し遂げられるようにする(共同研究は原則として行わない)。			5 研究計画案の発表 研究計画案に関する発表 予復修課題： 発表会で出された意見を踏まえ、研究計画案をまとめてくる。	
授業到達目標		卒業研究のテーマ設定において研究課題の問題点を説明できること。 データ収集のための実験を自らの力で遂行することができる。 データを分析し、適切な図表にまとめることができる。 論文作成に関わる形式、内容を覚え、適切な文章を書くことができる。 自ら設定した研究テーマについて、その意味や意義を他者に説明することができる。			6 実験計画の作成 実験計画の作成(被験者、測定機器、試行、指標、データ分析、スケジュール等) 予復修課題： 具体的な実験計画を作成し、レポート用紙3枚程度にまとめてくる。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 予備実験(1) 実験計画に基づき、予備実験を実施する 予復修課題： 予備実験の結果を踏まえ、実験計画の修正を行い、レポートを再提出すること。		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 予備実験(2) 実験計画に基づき、予備実験を実施する 予復修課題： 予備実験の結果を踏まえ、実験計画の修正を行い、レポートを再提出すること。		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 データ収集(1) 実験計画に基づき、データ収集を実施する(検者、被験者、補助者を分担) 予復修課題： 収集したデータを表に整理しレポートとして提出すること。		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	卒業研究では卒業論文作成に向けて、翌週までの課題を説明し、授業外での調査、執筆が中心となる。このため、授業への出席と毎回の課題提出は必須となる。 欠席してしまった場合は、研究室にて課題を確認すること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	プレゼンテーション[第3回、第5回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	実践学習[第7回~第11回]			
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		なし				
参考書						
		10 データ収集(2) 実験計画に基づき、データ収集を実施する(検者、被験者、補助者を分担) 予復修課題： 収集したデータを表に整理しレポートとして提出すること。				
		11 データ収集(3) 実験計画に基づき、データ収集を実施する(検者、被験者、補助者を分担) 予復修課題： 収集したデータを表に整理しレポートとして提出すること。				
		12 データ分析 データ分析法の説明(統計処理、作図、作表の仕方) 予復修課題： 収集したデータを統計処理し、図表に示してレポートとして提出すること。				
		13 卒業研究の書き方(1)方法-1 「方法」の書き方の説明 予復修課題： 自分の実験について、方法をレポート5枚程度にまとめてくる。				
		14 卒業研究の書き方(2)方法-2 「方法」に使用する写真、データの取得、実験機器の名称・型番の確認 予復修課題： レポートに図表を追加し、再提出すること。				
		15 卒業研究の書き方(3)緒言 「緒言」の書き方について(背景、研究史、問題点、目的) 予復修課題： 夏季休業中に研究テーマの研究史を作成してくる。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	卒業研究 Undergraduate Research				単位数	授業内容**	
担当者	木寺 英史 (KIDERA Eishi)				8	1	ガイダンス (演習の内容) 予復修課題: なし
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2	論文の書き方 予復修課題: 配布資料を理解する。
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL4101	3	論文の書き方 予復修課題: 配布資料を理解する。
配当年次	4年生	開講学期	通年 (前期)			4	論文の書き方 予復修課題: 配布資料を理解する。
授業概要	スポーツゼミナールで学んだ知識や技能を基に、研究テーマを決め論文を作成する。					5	資料収集の方法 予復修課題: 配布資料を理解する。
授業到達目標	1. 史資料の収集法を学び実践できる。 2. 収集した史資料を基に、論文を構成することができる 3. 構成を自ら考え、考察し論文を作成することができる。 4. 研究成果をまとめ、発表することができる。					6	資料収集の方法 予復修課題: 配布資料を理解する。
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7	史資料収集 予復修課題: 史資料を収集する。
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8	史資料収集 予復修課題: 史資料を収集する。
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9	史資料収集 予復修課題: 史資料を収集する。
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツゼミナールで十分に史資料を収集しておくこと。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	随時、研究の内容をプレゼンテーションし				
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %	その内容について討論を行う。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
	15 前期のまとめ・反省 予復修課題: 論文構想をまとめる。						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		8	1 オリエンテーション、卒業研究の課題について再考する 予復修課題：シラバスの確認、研究計画を見直す		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究計画の修正(必要に応じて研究計画を修正する) 卒業論文第1章「緒言」の執筆を開始する 予復修課題：研究計画について熟考する		
授業形式		科目区分 専門演習科目		SSL4101	3 研究計画の修正(ゼミ生同士で確認し合う) 予復修課題：研究計画について熟考する		
配当年次		開講学期 通年(前期)		コース区分*	4 予備実験の準備 実験機材の使用が必要な場合は、実験機材の使用方法などについても確認する 予復修課題：実験に必要な物品、機材、書類などを準備する		
授業概要		本科目では、スポーツゼミナール、にて学んだスポーツ科学分野における研究の基礎知識を基に、卒業研究を実施することを目的とする。卒業研究の過程において、科学的根拠や懐疑的思考、仮説の立て方、リサーチデザインの作成法、統計処理等について学びを深めていくことも本科目の重要課題とする。卒業研究は、「卒業研究の手引き」に則り遂行し、卒業論文および抄録の提出、卒業研究発表会での発表を必須とする。				5 予備実験の準備 予備実験の予行演習を実施しする 予復修課題：実験に必要な物品、機材、書類などを準備する	
授業到達目標		自身の卒業研究の実施内容を明確にし、他者に説明することが出来る。 自身の興味がある研究内容を深く掘り下げ、理解を深化させることができる。 自身の興味がある研究内容と異なる研究にも触れることで、視野を広げることができる。 卒業研究を教員の指導を受けながら遂行することができる。				6 予備実験の実施 卒業論文第1章「緒言」の執筆状況を適宜担当教員に報告しながら進めていく 予復修課題：実験方法や注意事項などについて詳細に確認する	
		卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				7 予備実験の実施(適宜修正を加える) 予復修課題：実験方法や注意事項などについて詳細に確認する	
		【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 統計方法の確認(T検定、ANOVAなど) 予復修課題：実験方法や注意事項などについて詳細に確認する	
		【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 統計方法の確認(統計ソフトの使い方) 予復修課題：EXCEL、SPSSなどの統計ソフトの使い方を理解する	
		【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 被験者集め 卒業論文第1章「緒言」を概ね完成させる 予復修課題：実験参加承諾書の準備など	
		成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項		11 実験開始(測定とデータの収集) 予復修課題：実験・測定がスムーズに実施できるよう準備する	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		「卒業研究の手引き」を熟読の上、取り組むこと。 研究計画に基づき、作業が進められるようタイムマネジメントを意識すること。 研究の進行状況を担当教員に報告すること。 研究計画の修正が必要な状況が生じた場合は速やかに担当教員に相談すること。		12 実験の継続(測定とデータの収集)(データの整理) 問題などが生じた場合は、適宜担当教員に相談し解決していく 予復修課題：実験・測定がスムーズに実施できるよう準備する	
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング		13 実験の継続(測定とデータの収集)(データの整理) 卒業論文第2章「方法」の執筆を開始する 予復修課題：実験・測定がスムーズに実施できるよう準備する	
1. 小テスト、感想文など		%		プロジェクト学習(卒業研究を通して、自身が興味を持った課題に対して「知ること」を探索する。)		14 実験の継続(測定とデータの収集)(データの整理) 予復修課題：実験が終わらない場合は、夏休み及び後期のスケジュールを立てる	
2. 中間テスト		%				15 実験の終了 卒業論文第1章「緒言」と第2章「方法」を夏休みに完成させることを目標とする 予復修課題：夏休みと後期に向けたスケジュール	
3. 課題レポートなどの提出物		20%					
4. 授業中の発表、討論		20%					
5. 授業への参加意欲		40%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20%					
7.		%					
再評価の実施		する しない					
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)		8	1 オリエンテーション (研究テーマ、論文構成、研究方法、先行研究) 予復修課題: 3年次スポーツゼミナール前期・後期の見直し (各120分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究テーマの確認 予復修課題: 研究テーマについてのプレゼンテーション (各120分)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 研究テーマに関する先行研究・資料収集 予復修課題: 関連資料を読む (各120分)	
配当年次		4年生	開講学期 通年 (前期)	コース区分*	4 研究テーマに関する先行研究・資料収集 予復修課題: 関連資料を読む (各120分)	
授業概要	スポーツゼミナール・で習得した研究の手順及び手法を基礎にして研究を進め、自ら定めた研究課題に関して分析・検討・考察を行い研究を深めていく。また、研究テーマ・論文構成 (章立て)・研究方法などについて、毎週の授業での発表と合評を踏まえ、各自の論文作成の進捗状況を確認していく。					
	授業到達目標 研究テーマの設定、論文構成 (章立て)、研究方法等について深めることができる。見通しをもって、着実に研究を進めることができる。毎週の授業での発表と合評で研究内容をより充実させていくことができる。					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				5 研究テーマに関する先行研究・資料収集 予復修課題: 関連資料を読む (各120分)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				6 論文の執筆 (はじめに、研究の目的、研究方法) 予復修課題: 発表準備 (各120分)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				7 論文の執筆 (はじめに、研究の目的、研究方法) 予復修課題: 発表準備 (各120分)		
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業・自主的学習 (予復修) とともに課題意識をもって取り組むこと。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	自ら定めた問題意識のある課題について、深く検討するために、フィールドワーク等で関連する情報を集め、多様な手法により検討するスキルを主体的に身に付ける。			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。				
参考書						
		15 予復修課題: 後期への準備 (各120分)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	卒業研究 Undergraduate Research				単位数	授業内容**	
担当者	八板 昭仁 (YAITA Akihito)				8	専任	1 ガイダンス 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 講義の概要説明 4) 受講における注意事項 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSL4101		2 研究計画の立案 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			3 研究計画の立案 1) プレゼンテーション 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)				4 研究計画の立案 1) プレゼンテーション 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
授業概要	研究論文の構成とまとめ方を学習し、スポーツゼミナールで学習した内容を元に研究計画を立案する。各受講生は研究のための実験・VTR撮影・測定等の課題解決方法を研鑽し、実際にデータを収集する。						5 資料収集 実験・調査・測定など 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
授業到達目標	研究論文の構成とまとめ方を理解し、卒業研究論文に着手する。						6 資料収集 実験・調査・測定など 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							7 資料収集 実験・調査・測定など 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							8 資料収集 実験・調査・測定など 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							9 資料収集 実験・調査・測定など 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
成績評価の方法(全体で100%)						履修における留意事項	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に自らの意見を発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考え				11 データ整理 データ入力等 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
1. 小テスト、感想文など		%	授業時間後には、自らの経験を踏まえ学習				12 データ整理 データ分析・統計処理等 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
2. 中間テスト		%	内容についての復習を行い理解度を確認すること。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。				13 データ整理 データ分析・統計処理等 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
3. 課題レポートなどの提出物		%	以上の予修・復修については、毎時間120分				14 プレゼンテーション 1) 中間発表会 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する(目安100分)
4. 授業中の発表、討論		%	程度の課題を指示する。				15 プレゼンテーション 1) 中間発表会 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		30 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめテスト		%	授業中は、どのような場面においても質疑や				
2. 論文、まとめレポートなど		70 %	受講生同士の意見交換を行う。				
		%	調査内容・調査結果については随時プレゼンテーションを行う。				
再評価の実施	する		しない				
教科書	特に指定しない。参考図書は随時紹介する。						
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		8	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSL4101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	研究の進め方の基礎を学ぶ。具体的には、各自の卒業論文作成のための計画を立て、それに基づく資料収集、実験・調査の計画と実施、データ処理、論文作成とそのプレゼンテーションである。また、報告会を実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高めていく。					
	卒業論文作成の計画(スケジュール)を立てることができる。 論文作成に必要な資料(文献等)を収集し、整理することができる。 実験・調査計画を立てることができる。 的確なデータ処理ができる。 卒業論文を作成し、プレゼンテーションすることができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツゼミナールで学んだ理論や測定方法を活用する。			
1. 小テスト、感想文など		%	中間報告会では、報告する内容を適切にまとめた資料(レジュメやパワーポイントなど)を準備すること。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7. 実験・調査・解析方法の習熟度		20 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	中間発表を実施する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %				
3. プレゼンテーション		10 %				
再評価の実施	する	しない				
教科書	とくに指定しない。適宜、資料配布。					
参考書	健康・スポーツ科学のための研究方法 出村慎一著 杏林書院					
1	ガイダンス 配布資料(卒業研究の手引き)		スポーツゼミナールで検討・設定した卒業研究テーマの再確認を行う。 予復修課題: スポーツゼミナールで学習・検討・設定した研究テーマを整理する。			
2	卒業論文作成計画		研究テーマに基づき、年間スケジュール作成する。 予復修課題: 研究テーマ、調査・測定・解析方法、調査・測定時期、対象について検討する。			
3	卒業論文作成計画		作成した年間スケジュールに基づき、調査・実験計画を検討・立案する。 予復修課題: 調査・実験の対象者の詳細を検討し、依頼準備を進め、具体化する。			
4	テーマに関する討論		先行研究に関する資料を収集、それらを討論、仮説の設定を準備する。 予復修課題: 先行研究に関する資料(論文、書籍)の検索と収集を行い、熟読する。			
5	テーマに関する討論		先行研究に関する資料を追加収集し、それらを討論、仮説を設定する。 予復修課題: 先行研究に関する資料(論文、書籍)の検索と収集の追加を行い、熟読する。			
6	研究方法の確立		実験・調査および解析方法の詳細について検討を進める。 予復修課題: 先行研究を参考に、実験・調査計画を検討する。			
7	研究方法の確立		実験・調査および解析方法を確立する。 予復修課題: 先行研究を参考に、実験・調査計画の詳細について検討する。			
8	研究方法の確立		確立した実験・調査および解析方法および被検者依頼状況に基づき、実験計画を具体化。 予復修課題: 先行研究を参考に、実験・調査計画の詳細について検討する。			
9	実験・調査の実施(データ収集)		計画された実験・調査を実施し、データを収集・整理する。 予復修課題: データ整理を行う。			
10	実験・調査の実施(データ収集)		計画された実験・調査を実施し、データを収集・整理する。 予復修課題: データ整理を行う。			
11	実験・調査の実施(データ収集)		計画された実験・調査を実施し、データを収集・整理する。 予復修課題: データ整理を行う。			
12	実験・調査の実施(データ収集)		計画された実験・調査を実施し、データを収集・整理する。 予復修課題: データ整理を行う。			
13	実験・調査結果の処理		確立した解析方法により、データを分析する。 予復修課題: 解析方法(統計処理法)とその手順について確認する。			
14	実験・調査結果の処理		確立した解析方法により、データを分析する。 予復修課題: 解析方法(統計処理法)とその手順について確認する。			
15	中間報告会(討論)		解析されたデータを視覚化(図表化)し、プレゼンテーションと討論を行う。 予復修課題: 解析したデータをプレゼンテーションするための資料を作成する。			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**		
担当者		伊藤 友記 (ITO Tomoki)			8	1 研究の必要性・重要性 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 研究の種類、研究の進め方 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。		
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 研究テーマの設定 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。		
配当年次		4年生	開講学期	通年(前期)		4 研究テーマの設定 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。		
授業概要		3年次までに学んだスポーツ心理学に関する知識を総合して、各自の興味関心のあるテーマに沿った卒業論文の作成及び、口頭発表の方法について習得する。スポーツゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、資料の収集や調査、パーソナリティの分析や心理学実験による解析、メンタルトレーニングの実践など、スポーツ事象への心理学的アプローチを通して、研究成果をまとめ論文として完成させる。					5 研究仮説の設定 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。	
授業到達目標		1.研究論文の作成手順を理解し自らの関心に沿った研究テーマを設定することができる。 2.テーマを探求するための研究計画を立て、実行することができる。 3.探求した内容について、研究論文としての体裁を整えて作成することができる。 4.自身の研究内容について、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。					6 研究計画の立案 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 研究計画の立案 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					8 先行研究の検索・収集、分析 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					9 先行研究の検索・収集、分析 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。			
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・全出席を前提とする。 ・毎時の予修・復修には120分程度を要する。 ・自ら積極的にテーマ設定、情報収集を行うこと。					
1. 小テスト、感想文など		%	11 研究の実施(調査、実験のデータ収集) 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。					
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		30 %						
4. 授業中の発表、討論		30 %						
5. 授業への参加意欲		10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	・随時研究に関するディスカッション、各自のテーマについての発表や質疑を行います。					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	14 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。					
3.		%						
再評価の実施		する	15 研究経過報告 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。					
教科書								
参考書		国土館大学 『体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方』 アイ・エム 2003						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	卒業研究 Undergraduate Research				単位数	授業内容**	
担当者	川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)				8	1 オリエンテーション 講義内容の説明 予復修課題：先行研究論文を読む、レポート用紙にまとめる	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 論文指導 先行研究の分析 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL4101	3 論文指導 先行研究の分析 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)			4 論文指導 先行研究の分析 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
授業概要	卒業研究では、スポーツゼミナルで得た知識をもとに卒業研究に向けたテーマを具体化にして、予備実験を実施する。また研究テーマをもとにプレゼンが実施できる知識を身につける。					5 論文指導 先行研究の分析 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
授業到達目標	)論文の構成 )研究テーマを題材にしてプレゼンテーション )研究結果を考察して論文に出来る					6 実験および資料収集 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 実験および資料収集 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8 中間発表 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9 論文指導 研究方法の検討 予復修課題：先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	卒業研究の準備に興味を持ち取り組む。積極的に授業に参加をする。授業外にも卒業研究に向け取り組む1日1時間の予復修時間を確保すること				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		40 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	毎講義にて小テストを実施し、授業の振り返りを行なう。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	第15回で発表会を実施する。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
						15 研究発表会 予復修課題：これまでの振り返りをレポート用紙にまとめる	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		鄭 英美 (JUNG Youngmi)		8	1 オリエンテーション 研究計画 研究の進め方、論文の作成方について(スポーツ学演習 の課題確認) 予復修課題：各自の研究テーマの確認、研究計画の立案の作成	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究テーマの確認、研究計画の立案 予復修課題：各自の研究テーマの確認、研究計画の立案の作成 予復修の目安時間:120分	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 研究テーマの確認、研究計画の立案 予復修課題：各自の研究テーマの確認、研究計画の立案の作成 予復修の目安時間:120分	
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)		4 研究テーマの確認、研究計画の立案 予復修課題：授業にて適時指示する(各自の研究の流れに応じて) 予復修の目安時間:120分	
授業概要	スポーツ学演習、で学んだ知識を基に、研究テーマを探索し、研究計画を立て、実際に研究(調査・実験・分析)を行い、論文に仕上げる。					
	5 自ら研究課題を見つけ、研究計画を立てられる。 自ら見つけた研究テーマ、研究計画を基に実際に研究を遂行する。 データの処理(収集・分析)をし、解析ができるようにする。 研究結果をまとめることができる。					
授業到達目標	6 研究問題、研究仮説の作成 予復修課題：授業にて適時指示する(各自の研究の流れに応じて) 予復修の目安時間:120分					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修2/ 以上出席すること 関心分野、テーマ探しに積極的に取り組む 学外調査・測定・研修・研究会などに積極的に参加すること。 指導教員の指示に積極的に従うこと。 授業への全出席を義務付ける。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング 関心・興味のある分野から自らテーマを決める 学内外の学術セミナーや発表会に参加し、積極的に発表をする			
再評価の実施	する	しない	11 研究テーマに関するデータの検討及び処理 予復修課題：研究計画書の修正 前時の資料の理解等 予復修の目安時間:120分			
教科書	12 研究テーマに関するデータの検討及び処理 予復修課題：授業にて適時指示する(各自の研究の流れに応じて) 予復修の目安時間:120分					
参考書	13 研究テーマに関するデータの検討及び処理 予復修課題：授業にて適時指示する(各自の研究の流れに応じて) 予復修の目安時間:120分					
14 前半のまとめのプレゼンテーション 予復修課題：授業にて適時指示する(各自の研究の流れに応じて) 予復修の目安時間:120分						
15 前半のまとめのプレゼンテーション 予復修課題：各自の研究の流れに応じて適時指示する						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)		8	1 ガイダンス (卒業研究に取り組むにあたって) 予復修課題: 授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究テーマ計画 3年次のスポーツゼミナールをふまえて 予復修課題: 先行研究検索	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 研究テーマ計画 興味のあるテーマに基づきグループ作成 予復修課題: 先行研究検索	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)		4 研究テーマ計画 グループでのディスカッション 予復修課題: 先行研究検索	
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かる。			5 研究の背景の検討 グループ内で興味のある分野についての調査を行い、発表する 予復修課題: 先行研究検索	
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。</li> <li>自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。</li> <li>他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。</li> </ul>			6 研究の背景の検討 グループ内で興味のある分野についての調査を行い、発表する 予復修課題: 先行研究検索	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 先行研究を参考に具体的な方法の検討 先行研究をもとに、グループ内で資料収集、調査を行う。 予復修課題: 先行研究検索		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 先行研究を参考に具体的な方法の検討 先行研究をもとに、グループ内で資料収集、調査を行う。 予復修課題: 先行研究検索		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 先行研究を参考に具体的な方法の検討 先行研究をもとに、グループ内で資料収集、調査を行う。 予復修課題: 先行研究検索		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	プレゼンテーション			
3.		%	コーチング			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
				10 実験・測定・調査に向けた準備 テーマをもとに、グループ内でスケジュール調整を行う。 予復修課題: 先行研究検索		
				11 実験・測定・調査に向けた準備 テーマをもとに、グループ内でスケジュール調整を行う。 予復修課題: 先行研究検索		
				12 実験・測定・調査に向けた準備 テーマをもとに、グループ内で準備を進める。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ		
				13 実験・測定・調査の実施 内容の精査,再検討を行う。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ		
				14 実験・測定・調査の実施 内容の精査,再検討を行う。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ		
				15 まとめ 内容の精査,再検討を行う。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)		8	1 研究テーマの決定 予復修課題：スポーツゼミナールの内容を踏まえ各自のテーマを決めておく		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 文献抄読・発表 予復修課題：各自のテーマに関する先行研究をまとめ、発表の準備をしておく		
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 文献抄読・発表 予復修課題：各自のテーマに関する先行研究をまとめ、発表の準備をしておく		
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)		4 リサーチデザインの作成 予復修課題：時系列に応じた具体的なリサーチデザインを準備しておく		
授業概要		スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、調査・実験・考察を経て論文作成を行なう。また、作成した論文の内容をプレゼンテーションする技術を学ぶ。			5 リサーチデザインの作成 予復修課題：時系列に応じた具体的なリサーチデザインを準備しておく		
授業到達目標		各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し他者に伝える技術を身につけることを目標とする。			6 調査・実験方法の検討 予復修課題：リサーチデザインの各項目について、事前に明確にしておく		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 調査・実験方法の検討 予復修課題：リサーチデザインの各項目について、事前に明確にしておく		
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			8 中間発表会(リサーチデザインの内容を約7分程度にまとめて発表する) 予復修課題：7回目までの内容をパワーポイントにまとめておく		
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。			9 中間発表会(リサーチデザインの内容を約7分程度にまとめて発表する) 予復修課題：7回目までの内容をパワーポイントにまとめておく		
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。			10 調査および実験 グループごとに経過の報告 予復修課題：各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 調査および実験 グループごとに経過の報告 予復修課題：各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミ全体での集合指導と必要に応じて個別指導を行なう。また、課題等の提出状況および出席や参加意欲を主な評価の対象とする。(各授業における予復修時間の目安：4時間)			12 調査および実験 グループごとに経過の報告 予復修課題：各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			13 調査および実験 グループごとに経過の報告 予復修課題：各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
1. まとめのテスト		%	2~3、および8~9回目にプレゼンテーションを行う。また、そのために必要な調べ学習やグループディスカッションを積極的に行う。			14 調査および実験 グループごとに経過の報告 予復修課題：各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
2. 論文、まとめのレポートなど		%				15 前期のまとめ及び後期のスケジュールと課題の確認 予復修課題：今後のスケジュール、特に夏期休暇中の予定を確認しておくこと。	
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		なし					
参考書		適時、指示をします					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者	俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)			8		1 オリエンテーション 受講上の注意 予復修課題：シラバスを確認し、取り組む姿勢の整理をしておくこと(予復修時間420分)
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSL4101	2 卒業論文作成計画 年間スケジュールの作成 予復修課題：作成に向け、年間スケジュールの立て方を整理しておくこと(予復修時間420分)
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目			3 卒業論文作成計画 年間スケジュールの確認、修正 予復修課題：スケジュール調整をしておくこと(予復修時間420分)
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*		4 テーマに関する討論 仮説の設定 予復修課題：テーマに対する仮説を文献などを参考にまとめておくこと(予復修時間420分)
授業概要	スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、バレーボール競技の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。 研究指導を通して先行研究の文献抄読からコーチングや方法学に関する知識を深め、調査、分析、考察を行う。これらを卒業論文にまとめ、卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる。					5 テーマに関する討論 仮説の検証 予復修課題：仮説の再度検討(予復修時間420分)
授業到達目標	バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した先行研究・資料をまとめることができる。 競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。 バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。 スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につけることができる。					6 研究方法の確立 調査計画書の作成 予復修課題：調査方法をまとめておくこと(予復修時間420分)
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 研究方法の確立 調査計画書の作成 予復修課題：調査方法をまとめておくこと(予復修時間420分)
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8 研究方法の確立 調査計画書の作成 予復修課題：調査方法をまとめておくこと(予復修時間420分)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9 調査の実施(データの収集) 調査法の確認 予復修課題：調査用紙の作成準備をしておくこと(予復修時間420分)
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	競技者もしくは指導者を目指す者として実践的課題や問題意識などを追求する姿勢が重要である。 自身が実践者(課外活動している)であることが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	[第4回、第5回] 討論				
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %	[第9回~第12回] データ収集および処理				
3.	%	[第15回] 中間報告会				
再評価の実施	する					11 調査結果の処理 調査等で収集したデータを処理する 予復修課題：統計処理法を復修しておくこと(予復修時間420分)
教科書						12 調査結果の処理 調査等で収集したデータを処理する 予復修課題：図表作成などができるようにしておくこと(予復修時間420分)
参考書						13 中間報告会の資料作成 プレゼンテーションの準備 予復修課題：報告資料の準備(予復修時間420分)
						14 中間報告会の資料作成 プレゼンテーションの準備 予復修課題：プレゼンテーションの準備(予復修時間420分)
						15 中間報告会 パワーポイント資料での発表 予復修課題：パワーポイント資料の作成(予復修時間420分)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		後藤 平太 (GOTO Heita)		8	1 データ収集・分析 卒業論文作成のためのデータ収集を行い、そのデータの分析を行う 予復修課題：データの分析を継続して行う	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 データ収集・分析 卒業論文作成のためのデータ収集を行い、そのデータの分析を行う 予復修課題：データの分析を継続して行う	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 データ収集・分析 卒業論文作成のためのデータ収集を行い、そのデータの分析を行う 予復修課題：データの分析を継続して行う	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 データ収集・分析 卒業論文作成のためのデータ収集を行い、そのデータの分析を行う 予復修課題：データの分析を継続して行う	
授業概要		データ収集・分析を経て、卒業論文を作成し、それをパワーポイントにまとめた後プレゼンテーションを行う。			5 データ収集・分析 卒業論文作成のためのデータ収集を行い、そのデータの分析を行う 予復修課題：データの分析を継続して行う	
授業到達目標		<p>学術論文の作成方法を習得する。 パワーポイントを使用した学術的なプレゼンテーションができる。</p>			6 データ収集・分析 卒業論文作成のためのデータ収集を行い、そのデータの分析を行う 予復修課題：データの分析を継続して行う	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 方法作成 方法のセクションを作成し、講義中に添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 方法作成 方法のセクションを作成し、講義中に添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 結果作成 グラフや表などを含めた結果のセクションを作成し、講義中に添削する 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業ごとに1時間程度の予復修を行うことを望む。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	調査学習・実践学習(第1~15回)			
2. 論文、まとめのレポートなど		100 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		11 考察作成 考察のセクションを作成し、講義中に添削する 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する				
		12 考察作成 考察のセクションを作成し、講義中に添削する 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する				
		13 考察作成 考察のセクションを作成し、講義中に添削する 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する				
		14 考察作成 考察のセクションを作成し、講義中に添削する 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する				
		15 結論作成 結論のセクションを作成し、講義中に添削する 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei)		8	1 オリエンテーション 予復修課題：研究計画書を作成すること(予復修時間:420分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究計画書の作成 研究計画書を発表し、アドバイスをもらう 予復修課題：研究計画書を修正すること(予復修時間:420分)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3 研究計画書の作成 研究計画書を発表し、アドバイスをもらう 予復修課題：研究計画書を修正すること(予復修時間:420分)	
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)	コース区分*	4 研究計画書の作成 研究計画書を発表し、アドバイスをもらう 予復修課題：研究計画書を修正すること(予復修時間:420分)	
授業概要	スポーツ・ゼミナールの学習内容を踏まえ、コーチング・トレーニング論領域に関する研究テーマを設定し、調査・実験・分析・考察を行う力を養成する。また、これらを卒業論文にまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる力を養成する。				5 予備実験・データ収集・分析 研究計画書に基づき実験・調査を行う 予復修課題：実験・調査の準備を行うこと(予復修時間:420分)	
授業到達目標	研究計画書を作成することができる 卒業論文を作成することができる テーマに関する先行研究をまとめることができる 適切な研究方法を用いてデータを収集・分析することができる				6 予備実験・データ収集・分析 実験・調査から得られたデータを整理・分析する 予復修課題：実験・調査の準備を行うこと(予復修時間:420分)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	コーチング論・トレーニング学の研究領域は、トレーニングを実践する選手やコーチが現場で感じたことや気づきを理論化し、一般化する試みの中で発展してきた。したがって、自分自身が実践者である(部活動・クラブチーム等で活動している)ことが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	調査学習[第2~4回、第13~14回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	実践学習[第5~9回]			
3. 卒業研究発表会		20 %	プレゼンテーション[第10~12回、第15回]			
再評価の実施	する	しない	13 研究計画書の修正 研究計画書を修正する 予復修課題：予備実験を受けて研究計画書を修正する(予復修時間:420分)			
教科書	村木征人『スポーツ・トレーニング理論』ブックハウスHD、1998					14 研究計画書の修正 研究計画書を修正する 予復修課題：予備実験を受けて研究計画書を修正する(予復修時間:420分)
参考書						15 中間報告会 予復修課題：卒業研究計画書をプレゼンテーションにまとめる(予復修時間:420分)

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		森 誠護 (MORI Seigo)		8	1 オリエンテーション 授業の概要、授業目的、授業の進め方の説明 予復修課題：シラバスの確認、研究テーマの検討(2時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究テーマの設定 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 研究計画の作成(1) 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 研究計画の作成(2) 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
授業概要	スポーツゼミナールで学習した知識と手法を基に自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。					
	5 研究計画の作成(3) 予復修課題：適宜指示する(6時間)					
授業到達目標	1. 各自で設定した研究テーマを基に実験(調査)を実施する。 2. 研究結果を整理し、論文を作成する。 3. 作成した論文を基にプレゼンテーション資料を作成する。					
	6 データ収集(実験・調査)(1) 予復修課題：適宜指示する(6時間)					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				7 データ収集(実験・調査)(2) 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 データ収集(実験・調査)(3) 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 データ収集(実験・調査)(4) 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 データ処理(1) 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達力の評価		評価割合	1) 積極的に参加すること。 2) 全出席を前提とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	各自、卒業研究のテーマに応じた実験及び調査を実施し、適宜、その内容について			
2. 論文、まとめのレポートなど		80 %	プレゼンテーションを実施する。			
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		15 予復修課題：資料作成・発表(10時間)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**	
担当者	疋田 晃久 (HIKITA Akihisa)			8	1 オリエンテーション (シラバスの確認。授業の進め方と受講上の注意・ルール確認) 予復修課題：シラバスを熟読してくる。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 卒業論文作成計画 (年間スケジュールの作成) 予復修課題：卒業論文作成に向けての年間スケジュールの立て方を調べておくこと。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 卒業論文作成計画 (年間スケジュールの確認・修正) 予復修課題：卒業論文作成に向けての年間スケジュールの立て方を再検討しておくこと。	
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)		4 テーマに関する討論 (先行研究の文献収集及びテーマ討論、仮説の設定からのレジメ作成) 予復修課題：テーマに対しての仮説を文献などを参考にまとめておくこと。	
授業概要	3年次までに学んだ陸上競技(特に投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投を中心とした運動法・トレーニング・コーチング)の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。この科目では、論文講読、研究指導を通して、方法学・コーチングに関する知識を深め、文献のまとめ方や学外調査や測定の方法、結果の分析方法、得られた結果のプレゼンテーション方法などを修得する事を目的とする。 また、報告会の実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高める。				5 テーマに関する討論 (先行研究の文献収集及びテーマ討論、仮説の設定からのレジメ確認・修正) 予復修課題：テーマに対しての仮説を文献などを参考にまとめておくこと。	
授業到達目標	スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を実践できる。 投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。 投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を説明できる。 実験やアンケートで得た結果を的確なデータとして処理ができる。 研究論文や発表資料を分かりやすく作成することができる。				6 研究方法の確立 (実験・調査計画書の作成) 予復修課題：テーマにあった実験・調査方法を調べておくこと。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	競技者もしくは指導者を目指すものとして実践的課題・問題意識を追求する姿勢を以て授業にのぞむこと。				
1. 小テスト、感想文など	%	講義で学んだ内容を積極的に実践現場で活かすこと。				
2. 中間テスト	%	研究の為に、投擲競技の実技を伴う場合があるので、実技能力を有することが望ましい。				
3. 課題レポートなどの提出物	10 %	予復修課題については、各講義4時間程度。				
4. 授業中の発表、討論	20 %	アクティブ・ラーニング				
5. 授業への参加意欲	30 %	グループディスカッション[第4,5回]				
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %	プレゼンテーション[第15回]				
7.	%	調査学習・実践学習[第9回]				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
					15 (パワーポイントを使用しての発表会) 予復修課題：中間報告会で討論したものを卒業論文に活かせるように、まとめておくこと。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)		8	1 ガイダンス 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(復修30分)		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 スポーツ学演習の復習 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)		
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 スポーツ学演習の復習 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)		
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)		
授業概要		スポーツゼミナールで学習した内容を基に、個々の研究テーマに応じた専門性の高い内容へ発展させる。				5 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)	
授業到達目標		自身の研究テーマの掘りどころとなる研究方法論について理解し、研究の独自性と正当性を説明できる。				6 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予修における演習課題を基に授業を展開するため、必ず予修をして授業に望むこと。各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング グループディスカッション				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		40 %					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%	11 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	12 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)				
3.		%	13 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)				
再評価の実施		する	しない	14 事例検討と討議 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)			
教科書							
参考書		15 まとめ 予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する(予修30分, 復修30分)					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		田代 利恵 (TASHIRO Rie)		8	1 オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール 予復修課題：研究テーマと研究計画の確認	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 卒業研究の進め方 卒業論文の要件、研究の進め方 予復修課題：発表用資料の作成	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 研究テーマの検討 研究テーマの発表・ディスカッション 予復修課題：発表用資料の作成、ディスカッションをふまえた修正	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 研究テーマの検討 研究テーマの発表・ディスカッション 予復修課題：発表用資料の作成、ディスカッションをふまえた修正	
授業概要		各自の研究テーマに基づいて研究を進めます。 関心領域に応じた事例研究を、文献調査やヒアリング調査等により行い、卒業論文の作成に取り組みます。			5 研究テーマの検討 研究テーマの発表・ディスカッション 予復修課題：発表用資料の作成、ディスカッションをふまえた修正	
授業到達目標		研究テーマ、研究計画に基づいて、調査を行い、論文としてまとめることができる。 グループ内の他の学生の発表から学び、かつ適切な質問ができる。 卒業研究について、わかりやすくプレゼンテーションができる。			6 研究計画について 予復修課題：研究計画の作成、修正	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 研究計画について 予復修課題：研究計画の作成、修正		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 研究計画について 予復修課題：研究計画の作成、修正、アウトライン作成		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 アウトラインの作成 予復修課題：研究テーマに関する文献収集・精読、中間発表用資料作成、アウトライン作成		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・受け身の姿勢ではなく積極的に取り組むこと ・提出物は期日を厳守してください ・フィールド調査の際には交通費などの負担が必要になることがあります ・中間報告書の提出を求めます			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	ディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %	プレゼンテーション			
3.		%	フィールド調査			
再評価の実施		する	しない			
教科書		適宜資料を配布します				
参考書		15 予復修課題：研究テーマに関する文献収集・精読、中間報告書の作成・提出				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		内田 満 (UCHIDA Mitsuru)		8	1 ガイダンス (卒業研究に取り組むにあたって) 予復修課題: 授業内容に関する情報収集	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究テーマ計画 3年次のスポーツゼミナールをふまえて 予復修課題: 先行研究検索	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 研究テーマ計画 3年次のスポーツゼミナールをふまえて 予復修課題: 先行研究検索	
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)		4 研究テーマ計画 3年次のスポーツゼミナールをふまえて 予復修課題: 先行研究検索	
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かる。 これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会から従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。			5 研究の背景の検討 グループ内で興味のある分野についての調査を行い、発表する 予復修課題: 先行研究検索	
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。</li> <li>自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。</li> <li>他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。</li> </ul>			6 研究の背景の検討 グループ内で興味のある分野についての調査を行い、発表する 予復修課題: 先行研究検索	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	グループワーク: 7~12回目			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	プレゼンテーション: 5~6回目、13~15回目			
3.		%	ワークショップ: 2~4回目、13~15回目			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
			11 実験・測定・調査に向けた準備 テーマをもとに、グループ内でスケジュール調整を行う。 予復修課題: 先行研究検索			
			12 実験・測定・調査に向けた準備 テーマをもとに、グループ内でスケジュール調整を行う。 予復修課題: 先行研究検索			
			13 実験・測定・調査の実施 内容の精査、再検討を行う。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ			
			14 実験・測定・調査の実施 内容の精査、再検討を行う。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ			
			15 実験・測定・調査の実施 内容の精査、再検討を行う。 予復修課題: 興味を持った分野に関する情報収集,まとめ			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)			8		1 オリエンテーション 講義の進め方、評価、概要説明、受講における注意事項 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。
実務経験のある教員による授業		ナンパリング	SSL4101			2 研究計画の確認、進捗状況の確認 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		3 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)			4 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
授業概要	スポーツゼミナールで学んだ知識を基に、アスレティックトレーナーやスポーツ科学、スポーツ医学の分野に関して、研究計画を作成し、卒業研究を実施する。あわせて、将来に向けての目標設定を行う。					5 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	研究課題を見つけ、研究計画をたてることができる。予備実験を実施し、本実験の準備を行うことができる。計画に沿った、行動を行うことができる。発表準備、発表を行うことができる。					6 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：そのスポーツをあらかじめ予修しておく。
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9 研究計画に沿った研究の実施 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10 研究計画に沿った研究の実施 研究とは何か 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 データ分析 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	積極的に参加し、コミュニケーションを取ること。 課題、発表等は必ず行うこと。 予復修課題の取組時間：60分以上			12 データ分析 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	1. 小テスト、感想文など	%				13 データ分析 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	2. 中間テスト	%				14 データ分析 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	3. 課題レポートなどの提出物	30 %				15 今後の進め方について 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。
	4. 授業中の発表、討論	30 %				
	5. 授業への参加意欲	40 %				
	6. 自主的学習(予習・復習など)	%				
	7.	%				
	2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング 発表の準備を行う。			
	1. まとめのテスト	%				
	2. 論文、まとめのレポートなど	%				
	3.	%				
再評価の実施	する		しない			
教科書	その都度プリント等を配付する。					
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)		8	1 オリエンテーション 予復修課題：スポーツゼミナールの内容を振り返る。		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究方法の検討 予復修課題：先行研究を基に研究方法を検討する。		
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 研究方法の検討 予復修課題：先行研究を基に研究方法を検討する。		
配当年次		4年生	開講学期 通年(前期)	コース区分*	4 研究方法の検討 予復修課題：先行研究を基に研究方法を検討する。		
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法・知識を活用して卒業研究に取り組む。 研究テーマを選択し、データの収集、論文執筆を行う。				5 調査・データ収集に向けた準備 予復修課題：データ収集の準備をする。	
授業到達目標		・研究テーマを設定し、科学的手法に沿って分析できるようになる。 ・論文の構成を覚え、文章を書くことができる。 ・自身の研究内容を発表するためのプレゼンテーション技能を身につける。				6 調査・データ収集に向けた準備 予復修課題：データ収集の準備をする。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 調査・データ収集に向けた準備 予復修課題：データ収集の準備をする。			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 調査・データ収集の実施 予復修課題：データ収集及び集計をする。			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 調査・データ収集の実施 予復修課題：データ収集及び集計をする。			
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・全出席を原則とする。 ・授業時間や提出期限などルールを守ること。 ・意欲的に授業に参加すること。 ・予復修の目安は120分とする。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング ・グループワークを行い、データ収集のための資料を作成する。また、作成した資料を提示しディスカッションを行う。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%	14 予復修課題：集計したデータの分析をする。				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない	15 予復修課題：これまでの講義を振り返り内容をまとめる。			
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuuta)		8	1 オリエンテーション (スケジュールの確認、成績評価など) 予復修課題: 各自の興味のある研究テーマを決めておくこと	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 文献抄読・発表 予復修課題: 各自の研究課題に関する先行研究をまとめ、発表の準備をしておく	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 文献抄読・発表 予復修課題: 各自の研究課題に関する先行研究をまとめ、発表の準備をしておく	
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)		4 研究デザインの作成 予復修課題: 具体的な研究デザインを考えておくこと	
授業概要	アスレティックトレーニング領域に関する研究テーマを各自で設定し、調査や実験を経て論文作成を行う。 また、自身の設定した研究についてわかりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。					
	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者にわかりやすく伝えることができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 調査・実験方法の検討 予復修課題: 研究デザインについて明確に説明できるようにしておくこと		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 中間発表 予復修課題: 研究デザインについてプレゼンテーションできるように準備しておく		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 中間発表 予復修課題: 研究デザインについてプレゼンテーションできるように準備しておく		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				10 調査及び実験 予復修課題: 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する。
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ゼミ全体での集合指導と必要に応じて個別指導を行う。 また、課題などの提出状況及び出席や参加意欲を主な評価の対象とする。 各授業ごとに2時間を目安に予修復修を行う。				11 調査及び実験 予復修課題: 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する。
1. 小テスト、感想文など	%					12 調査及び実験 予復修課題: 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する。
2. 中間テスト	%					13 調査及び実験 予復修課題: 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する。
3. 課題レポートなどの提出物	10 %					14 調査及び実験 予復修課題: 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する。
4. 授業中の発表、討論	10 %					15 前期のまとめ及び後期のスケジュールと課題の確認 予復修課題: 今後のスケジュールについて予定を確認しておくこと。
5. 授業への参加意欲	80 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	第2回、第3回では興味のあるテーマについて				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	第8回、第9回については卒業研究について				
3.	%	発表するため発表できる準備をすること				
再評価の実施	する	詳細については別途説明する				
教科書						
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)		8	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSL4101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	4年生	開講学期	通年(前期)			
授業概要	スポーツゼミナールで学んだ手法,知識を活用して卒業研究に取り組む。自らの研究テーマを絞り込み,調査や実験の計画・実施を行う。卒業論文作成に向けて,論文の骨子を作成する。					
	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ,要点をまとめ,理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し,その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ,受講生同士で意見交換や協力をしながら,学ぶことができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ,総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し,専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養,および専門分野の知識・技能を用いて,職業人として適切な企画・計画力,的確な判断力を有し,それらを実践できる力を身につけている。また,礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ,地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
【主体性・協働性】	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として,自らを律し,主体的に物事を考え,自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また,地域や社会の一員として,自ら進んで他者との協働を通じ,積極的にボランティア活動等を実践し,社会貢献できる力を身につけている。					
	成績評価の方法(全体で100%)					
履修における留意事項						
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	発表や課題は必ず行うこと 積極的な姿勢で臨むこと 欠席する場合は,特別な事情がない限り, 事前に説明し,指導教員の承認を得ること				
1. 小テスト,感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	30 %					
4. 授業中の発表,討論	30 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	(全回)各自が調べてきた内容について,発表及びディスカッション,フィードバックを行う。				
2. 論文,まとめのレポートなど	20 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
1	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
2	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
3	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
4	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 発表を聞き,質問や意見を伝える。					
5	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 発表を聞き,質問や意見を伝える。					
6	研究の目的・方法について案を作り発表する。 予復修課題: 発表を聞き,質問や意見を伝える。					
7	研究の目的・方法について案を作り発表する。 予復修課題: 発表を聞き,質問や意見を伝える。					
8	研究の目的・方法について案を作り発表する。 予復修課題: 発表を聞き,質問や意見を伝える。					
9	研究の目的・方法について案を作り発表する。 予復修課題: 発表を聞き,質問や意見を伝える。					
10	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
11	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
12	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
13	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
14	自分が研究したいテーマについて,調べてきたものを発表する。ほかの受講者の発表を聞き,質問や意見を伝える。 予復修課題: 各自の研究したいテーマについて調べ,まとめる。					
15	まとめ これまで発表してきた内容について,各自整理し,今後の論文作成の方向性を決め,発表する。 予復修課題: これまでの発表資料を整理する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので,授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**	
担当者		船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)			8	1 データ整理(1) 予復修課題: 前期「卒業研究」のデータの整理	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 データ整理(2) 予復修課題: 前期「卒業研究」のデータの整理	
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3 データ整理(3) 予復修課題: 前期「卒業研究」のデータの整理	
配当年次		4年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 統計処理(1) 予復修課題: 統計処理データの整理、SPSSの使用方法的復修	
授業概要	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。						
	授業到達目標 実験に必要な機器を自由自在に扱うことができるようになること。 分析ソフト(キネアナライザー)で多様な分析ができるようになること。 仮説に基づいた論理的な検証、思考ができるようになること。 卒業論文の作成を通して体系的、理論的な思考ができるようになること。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					5 統計処理(2) 予復修課題: 統計処理データの整理		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					6 作図、作表(1) 予復修課題: 測定データを図表化して整理		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					7 作図、作表(2) 予復修課題: 測定データを図表化して整理		
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	以下の科目を修得しておくことが望ましい				
1. 小テスト、感想文など		%	スポーツ生理学				
2. 中間テスト		%	体力トレーニング論				
3. 課題レポートなどの提出物		%	各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。				
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	測定・計測				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	【1~14回目】				
3. プレゼンテーション		20 %	プレゼンテーション				
再評価の実施		する	【15回目】				
教科書							
参考書							
		15 予復修課題: 論文のまとめ、発表資料の作成、抄録作成					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)		8	1 オリエンテーション (収集したデータ等の分析方法及び結果の確認) 予復修課題: 論文提出までのスケジュール確認	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 収集したデータ等の分析及び考察を行う 1 予復修課題: 前期に収集したデータ等の分析および考察を行う	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 収集したデータ等の分析及び考察を行う 2 予復修課題: 前期に収集したデータ等の分析および考察を行う	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 収集したデータ等の分析及び考察を行う 3 予復修課題: 前期に収集したデータ等の分析および考察を行う	
授業概要		前期の卒業研究で取り組んだことを元に、自らの課題解決に向けた論文執筆を行う。さらに、完成した論文を端的に発表できるようプレゼンテーションの準備を行う。種々の取り組みは、各回の授業時間だけで終わらせることは難しいため、予復修課題としても資料の収集等、各自の進捗状況に応じて総じて各回240分程度を目安に、授業外での取り組みを行うこと。				5 論文の執筆 1 予復修課題: 分析および考察した内容をもとに論文を執筆する
授業到達目標		1 立案した研究テーマを研究計画にしたがい論文にすることができる。 2 卒業論文をまとめ、誰しもが理解できるようにプレゼンテーション資料にまとめることができる。 3 作成したプレゼンテーションを発表することができる。				6 論文の執筆 2 予復修課題: 分析および考察した内容をもとに論文を執筆する
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 論文の執筆 3 予復修課題: 分析および考察した内容をもとに論文を執筆する		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 論文の執筆 4 予復修課題: 分析および考察した内容をもとに論文を執筆する		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 論文の修正 1 予復修課題: 作成した論文を読みなおし、加筆・修正・校正を行う		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各自の積極的な取り組みがベースであり、この時間だけでは学習成果が得られない。そのため、この時間外にもこの課題に対し取り組むこと。			
1. 小テスト、感想文など		%	2) 最終到達度の評価			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
再評価の実施				アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		%	各自の研究の視点から他のゼミ生の研究に対して、疑問を呈する等のディスカッションを行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		100 %	14 予復修課題: 作成したプレゼンテーション資料を用い、発表練習を行う			
3.		%				
教科書		する	15 予復修課題: 作成したプレゼンテーション資料を用い、発表練習を行う			
参考書		しない				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Reserch		単位数	授業内容**	
担当者		森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)		8	1 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)	
授業概要	本授業は、自ら考えたテーマに基づいて調査あるいは実験を行ない、得られたデータをもとに自らの考えを導き出し、論文として纏め上げ、また後頭あるいはポスターによる発表を経験する。また、毎回の授業で進捗状況の報告とディスカッションを行なう。					
	授業到達目標 1.研究論文を作成する。 2.研究発表会でプレゼンテーションができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：中間発表会の準備(2時間)、中間発表会の反省(2時間)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 進捗状況の報告とディスカッションを行なう。 予復修課題：文献の検索と学習、進捗状況報告の準備(4時間)		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業の資料は事前に配布しますので、事前に読 で予修をすることによって理解が一層深まりま す。また、授業で学んだ箇所を読みなおすこと で、さらに理解が深まります。			
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 毎回ディスカッションをします。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない	13 卒業研究発表会の準備 予復修課題：発表会の準備(4時間)		
教科書		資料を配布します。				
参考書		森川ゼミ用資料「森川ゼミ講義資料」「スポーツ統計学資料」				
		14 卒業研究発表会の準備 予復修課題：発表会の準備(4時間)				
		15 卒業研究発表会 予復修課題：発表会の準備(4時間)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**			
担当者		得居 雅人 (TOKUI Masato)			8	1	執筆 予復修課題：執筆		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2	執筆 予復修課題：執筆		
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3	発表準備 予復修課題：発表準備		
配当年次		4年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4	発表準備 予復修課題：発表準備		
授業概要	スポーツゼミナールで学んだ知識・技能を基に、自らの研究テーマを論文にまとめ発表する。						5	中間発表会 予復修課題：発表準備	
	自らの研究テーマを科学的な方法に従い研究論文にまとめることができる。論文を明快且つ簡潔に発表することができる。						6	中間発表会 予復修課題：発表準備	
授業到達目標		卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						7	執筆 予復修課題：執筆
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8	執筆 予復修課題：執筆
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						9	執筆 予復修課題：執筆
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						10	執筆 予復修課題：執筆
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項						11	執筆 予復修課題：執筆
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	自らの興味関心に応じた研究テーマを設定し、積極的に取り組むこと。				12	抄録作成 予復修課題：抄録作成	
1. 小テスト、感想文など		%	毎回60分の予修が必要である。				13	抄録作成 予復修課題：抄録作成	
2. 中間テスト		%	アクティブ・ラーニング 実験、解析、考察、執筆、発表。				14	発表準備 予復修課題：発表準備	
3. 課題レポートなどの提出物		%					15	卒業研究発表会 予復修課題：発表準備	
4. 授業中の発表、討論		20 %							
5. 授業への参加意欲		20 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)		%							
7.		%							
2) 最終到達度の評価									
1. まとめのテスト		%							
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %							
3.		%							
再評価の実施		する	しない						
教科書									
参考書									

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		田中 雄二 (TANAKA Yuji)		8	1 オリエンテーション：卒業論文作成の準備 前期の進捗状況確認を行う。 予復修課題：前期の内容をまとめ、論文執筆の段取りを考える(4時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文執筆について 論文の構成を考える。 予復修課題：先行研究論文の構成を把握しておく。(4時間)	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3 論文執筆 研究の目的をまとめる。 予復修課題：研究テーマとデータの関係を理解しておく。(4時間)	
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 論文執筆 研究の手法についてまとめる。 予復修課題：他の研究手法について知っておく。(4時間)	
授業概要	前期の進捗状況に基づいて、研究を継続していく。 論文を完成させることと、研究発表用資料の作成を行う。 他者の研究内容に質疑をできるように、幅広い学びを行う。				5 論文執筆 研究結果についてまとめる。 予復修課題：データの処理方法や比較方法を学んでおく。(4時間)	
授業到達目標	論文の作成ができる 発表用資料の作成ができる 一般の人が聞いても理解できる表現ができる				6 論文執筆 考察についてまとめる。 予復修課題：結果について説明できるようにしておく。(4時間)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミ全体での指導と個別指導が混在する。			
1. 小テスト、感想文など		%	課題は全て提出すること。			
2. 中間テスト		%	主体的に活動すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		80 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
					15 卒業研究発表会と卒業論文提出 卒業研究発表を行い論文を提出する。 予復修課題：プレゼンテーション資料と発表原稿の作成をしておく。(4時間)	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)		8	1 まとめの方向性の検討 予復修課題：方向性を明確にすること。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究論文執筆(1) 予復修課題：個人または班毎に指示に従い実施のこと。授業時間は進捗の確認と考え、時間外で進めること。	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 研究論文執筆(2) 予復修課題：個人または班毎に指示に従い実施のこと。授業時間は進捗の確認と考え、時間外で進めること。	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)		4 研究論文執筆(3) 予復修課題：個人または班毎に指示に従い実施のこと。授業時間は進捗の確認と考え、時間外で進めること。	
授業概要		スポーツゼミナールの内容を元に研究計画を立案する。計画に基づき調査等を行い、必要に応じてデータ処理を行う等して論文に仕上げていく。また、中間発表会および卒業研究発表会を行う。				
授業到達目標		研究論文の構成を正しく理解し、自らのテーマを研究論文にまとめることができる。研究成果をプレゼンテーションできる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	提出物等期限厳守のこと。 学外活動(調査・指導等)にも積極的に参加することが望ましい。 予復修で270分の学修を目安とすること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめテスト		%	研究指導教員との授業であるので、すべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、研究論文執筆(第2から4回、9から11回)は究極の能動的学修である。			
2. 論文、まとめレポートなど		60 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		プリントを配布する。				
参考書						
		15 卒業研究発表会とそのまとめ 予復修課題：予修：発表準備。復修：反省と検討をすること。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)		8	1 後期スケジュールの説明 卒業論文作成のためのスケジュールリング 予復修課題：各自の現在の進捗状況と今後の予定を作成し提出すること。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 「1. 緒言」、「2. 方法」の提出 「緒言」「方法」の作成上の質問への回答と論文の添削 予復修課題：「緒言」「方法」の修正を行い、次回の授業時に提出すること。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3 「3. 結果」の書き方 「結果」作成上の注意点について説明（図表の作り方、タイトルのつけ方等） 予復修課題：結果の図表を作成、図表に関する説明を記し、次回の授業で提出すること。	
配当年次	4年生	開講学期	通年（後期）	コース区分*	4 「結果」の提出 「結果」作成上の質問への回答と論文の添削 予復修課題：「結果」の修正を行い、次回の授業時に提出すること。	
授業概要	スポーツ学演習で学んだ研究計画、実験、データ分析の手法を用い、自らテーマを設定し、卒業論文を作成することを目指す。 本演習では研究テーマの設定、文献収集、調査・データ収集、データ分析、論文執筆の一連の過程を独力で成し遂げられるようにする（共同研究は原則として行わない）。					
授業到達目標	卒業研究のテーマ設定において研究課題の問題点を説明できること。 データ収集のための実験を自らの力で遂行することができる。 データを分析し、適切な図表にまとめることができる。 論文作成に関わる形式、内容を覚え、適切な文章を書くことができる。 自ら設定した研究テーマについて、その意味や意義を他者に説明することができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係( 特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	卒業研究では卒業論文作成に向けて、次週末までの課題を説明し、授業時間外でのデータ分析、論文執筆が中心となる。このため、授業への出席と毎回の課題提出は必須となる。 授業を欠席してしまった場合は、必ず研究室を尋ね、次週末までの課題を確認すること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	事前学習型授業[第2, 4, 6, 8回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	プレゼンテーション[第15回]			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	なし					
参考書						
			11 卒業論文の提出(2) 修正された卒業論文の提出と添削 予復修課題：添削結果をもとに修正版を作成し、次回授業で提出すること。			
			12 卒業論文の提出(3) 卒業論文の提出と最終確認、提出書の作成 予復修課題：最終確認を終えた論文を製本し教務課へ提出すること。			
			13 抄録の作成 卒業論文抄録の作成方法について説明 予復修課題：次回授業までに抄録を作成してくること。			
			14 卒論発表会資料の作成 卒論発表会に使用するパワーポイント、発表原稿の作成 予復修課題：発表用資料、発表原稿を完成させてくこと。			
			15 卒論発表会練習 3年生との合同ゼミにおいて、卒業研究の発表を行う。 予復修課題：質疑応答、指摘事項を踏まえ、発表資料を修正すること。			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		木寺 英史 (KIDERA Eishi)		8	1 ガイダンス (演習の内容) 予復修課題: なし	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文構成の考察 予復修課題: 論文構成を立案する。	
授業形式		演習		SSL4101	3 論文構成の考察 予復修課題: 論文構成を立案する。	
配当年次		4年生		科目区分	4 論文構成の考察 予復修課題: 論文構成を立案する。	
開講学期		通年(後期)		専門演習科目	5 論文構成のディスカッション(構成の決定) 予復修課題: 論文構成を決定する。	
コース区分*				授業概要	6 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。	
授業到達目標		スポーツゼミナールで学んだ知識や技能を基に、研究テーマを決め論文を作成する。		1. 史資料の収集法を学び実践できる。 2. 収集した史資料を基に、論文を構成することができる 3. 構成を自ら考え、考察し論文を作成することができる。 4. 研究成果をまとめ、発表することができる。	7 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	8 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。	
				【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	9 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。	
				【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。	10 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項		11 史資料収集 予復修課題: 論文を執筆する。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		12 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。		
1. 小テスト、感想文など		%		13 卒業論文の作成 予復修課題: 論文を執筆する。		
2. 中間テスト		%		14 卒業研究の発表準備 予復修課題: 論文を執筆する。		
3. 課題レポートなどの提出物		30 %		15 卒業研究発表会とまとめ 予復修課題: なし		
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%		随時、研究の内容をプレゼンテーションしその内容について討論を行う。		
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %				
3.		%				
再評価の実施		する   しない				
教科書						
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		8	1 ガイダンス、研究計画の見直し(適宜修正を加える) 予復修課題: 実験データの見直し	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 実験データの報告 卒業論文第3章「結果」の執筆を開始する 予復修課題: 実験データ報告の準備	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 統計処理の報告 予復修課題: 統計処理の報告の準備	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 統計処理を含めた結果の報告 予復修課題: 統計処理を含めた結果の報告の準備をする	
授業概要		本科目では、卒業研究を完成させることを目的とする。卒業研究の過程において、科学的根拠や懐疑的思考、仮説の立て方、リサーチデザインの作成法、統計処理等について学びを深めていくことも本科目の重要課題とする。卒業研究は、「卒業研究の手引き」に則り遂行し、卒業論文および抄録の提出、卒業研究発表会での発表を必須とする。				
授業到達目標		自身の卒業研究の実施内容を明確にし、他者に説明することが出来る。 自身の興味がある研究内容を深く掘り下げ、理解を深化させることができる。 自身の興味がある研究内容と異なる研究にも触れることで、視野を広げることができる。 卒業研究を教員の指導を受けながら完成させることができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	「卒業研究の手引き」を熟読の上、取り組むこと。			
1. 小テスト、感想文など		%	研究計画に基づき、作業が進められるようタイムマネジメントを意識すること。			
2. 中間テスト		%	研究の進行状況を担当教員に報告すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %	研究計画の修正が必要な状況が生じた場合は速やかに担当教員に相談すること。			
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	プロジェクト学習(卒業研究を通して、自身が興味を持った課題に対して「知ること」を探索する。)			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		11 卒業論文全体の確認および添削(最終確認) 予復修課題: 卒業論文の総仕上げ				
		12 卒業論文の提出 予復修課題: 卒業研究提出書の準備				
		13 抄録の作成について 予復修課題: 書式を確認し作成する				
		14 抄録の確認と修正 予復修課題: 抄録を完成させる				
		15 卒業研究発表会について 予復修課題: 卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションを作成する				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)			8	1 オリエンテーション 予復修課題：卒業研究(前期)の振り返りの予復修(各120分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 卒業論文の執筆(検討・小発表) 予復修課題：準備と振り返り(各120分)	
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3 卒業論文の執筆(検討・小発表) 予復修課題：準備と振り返り(各120分)	
配当年次		4年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 卒業論文の執筆(検討・小発表) 予復修課題：準備と振り返り(各120分)	
授業概要	前期の授業を受け、継続して研究を進める。 卒業論文を完成させ、プレゼンテーション(パワーポイントを使用)の技術を習得する。 毎週、論文作成の進捗状況を確認しつつ、中間発表の準備を行い本発表に備える。						
	授業到達目標 中間発表(パワーポイント使用)ができる。 卒業論文を完成させる。 本発表(パワーポイント使用)ができる。 抄録を完成させる。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 卒業論文の執筆(検討・小発表) 予復修課題：準備と振り返り(各120分)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					8 卒業論文の執筆(検討・小発表) パワーポイント使用 予復修課題：準備と振り返り(各120分)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					9 卒業論文の執筆(検討・小発表) パワーポイント使用 予復修課題：準備と振り返り(各120分)		
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	卒業論文を完成させる。 ゼミ生は、お互いに切磋琢磨すること。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	卒業論文の作成にあたっては、参考文献の				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	収集、アンケート調査、インタビュー等				
3.		%	積極的に活動し、自らの課題を明らかに				
再評価の実施		する	しない	する。			
教科書		教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書		15 本発表 予復修課題：準備と振り返り(各120分)					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**			
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)			8	1 ガイダンス・ディスカッション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 ディスカッション 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)			
授業形式		演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 ディスカッション 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)			
配当年次		4年生	開講学期	通年(後期)		4 ディスカッション 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)			
授業概要		これまでに収集したデータをもとに研究内容を考察し、研究論文を仕上げる。					5 ディスカッション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)		
授業到達目標		研究論文の構成とまとめ方を理解し、卒業研究論文を仕上げる。仕上げた卒業研究論文の抄録を作成する。研究成果を発表ポスターにまとめプレゼンテーションできる。					6 ディスカッション 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)									
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 研究論文の作成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						8 研究論文の作成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						9 研究論文の作成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				10 研究論文の作成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に自らの意見を発言し他の受講生の意見を聞き、物事を論理的に考え授業時間後には、自らの経験を踏まえ学習内容についての復修を行い理解度を確保すること。また、疑問点は質問し、早期の解決を図ること。					11 研究論文の作成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
1. 小テスト、感想文など		%	以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。					12 研究論文および研究論文抄録の作成 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
2. 中間テスト		%							
3. 課題レポートなどの提出物		%							
4. 授業中の発表、討論		%							
5. 授業への参加意欲		%							
6. 自主的学習(予習・復習など)		30 %							
7.		%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				13 研究論文抄録の作成 ゼミ内におけるプレゼンテーション・質疑応答 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)			
1. まとめのテスト		%	授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。					14 プレゼンテーション ゼミ内におけるプレゼンテーション・質疑応答 予復修課題： 授業の進展に応じて指示する(目安100分)	
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %	調査内容・調査結果については随時プレゼンテーションを行う。					15 プレゼンテーション 学部「卒業研究発表会」による口頭発表 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安100分)	
再評価の実施		する	しない						
教科書		特に指定しない。参考図書は随時紹介する。							
参考書									

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		8	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSL4101		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*		
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*		
授業概要	研究の進め方の基礎を学ぶ。具体的には、各自の卒業論文作成のための計画を立て、それに基づく資料収集、実験・調査の計画と実施、データ処理、論文作成とそのプレゼンテーションである。また、報告会を実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高めていく。					
	卒業論文作成の計画(スケジュール)を立てることができる。 論文作成に必要な資料(文献等)を収集し、整理することができる。 実験・調査計画を立てることができる。 的確なデータ処理ができる。 卒業論文を作成し、プレゼンテーションすることができる。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツゼミナールで学んだ理論や測定方法を活用する。 中間報告会では、報告する内容を適切にまとめた資料(レジュメやパワーポイントなど)を準備すること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				
7. 実験・調査・解析方法の習熟度		20 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	卒業論文に関するプレゼンテーションと討論を行う。			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %				
3. プレゼンテーション		10 %				
再評価の実施	する	しない				
教科書	とくに指定しない。適宜、資料配布。					
参考書	健康・スポーツ科学のための研究方法 出村慎一著 杏林書院					
1		研究状況の確認と修正(討論) 中間発表時の問題点・課題を整理して修正する。 予復修課題: 中間発表資料(前期)の再確認と修正				
2		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
3		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
4		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
5		中間報告会(討論) プレゼンテーションと討論 予復修課題: パワーポイント資料作成法(復習)、パワーポイント資料・発表原稿作成				
6		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
7		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
8		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
9		中間報告会(討論) プレゼンテーションと討論 予復修課題: パワーポイント資料・発表原稿作成・発表練習				
10		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
11		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
12		論文作成 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「参考・引用文献」「図表」 各項目について書式に基づき文章等を作成、推敲を重ねる。 予復修課題: 配布資料(論文作成手順・論文の構成等)、参考資料 を熟読				
13		プレゼンテーション資料作成(パワーポイント) プレゼンテーション資料の作成と修正 予復修課題: パワーポイント資料作成準備				
14		ゼミ内卒業論文発表会 卒業論文発表会の資料作成・修正と発表練習を行う。 予復修課題: パワーポイント資料修正・発表原稿作成、発表練習				
15		卒業論文提出(抄録及び本文) 卒業論文発表(プレゼンテーション) 予復修課題: プレゼンテーション(口頭発表)の練習				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	卒業研究 Undergraduate Research				単位数	授業内容**	
担当者	伊藤 友記 (ITO Tomoki)				8	1	資料整理の方法 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2	結果の整理、分析 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	SSL4101	3	結果の整理、分析 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)			4	結果の整理、分析 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
授業概要	3年次までに学んだスポーツ心理学に関する知識を総合して、各自の興味関心のあるテーマに沿った卒業論文の作成及び、口頭発表の方法について習得する。スポーツゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、資料の収集や調査、パーソナリティの分析や心理学実験による解析、メンタルトレーニングの実践など、スポーツ事象への心理学的アプローチを通して、研究成果をまとめ論文として完成させる。						
	授業到達目標	1.研究論文の作成手順を理解し自らの関心に沿った研究テーマを設定することができる。 2.テーマを探求するための研究計画を立て、実行することができる。 3.探求した内容について、研究論文としての体裁を整えて作成することができる。 4.自身の研究内容について、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・全出席を前提とする。 ・毎時の予修・復修には120分程度を要する。 ・自ら積極的にテーマ設定、情報収集を行うこと。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング ・随時研究に関するディスカッション、各自のテーマについての発表や質疑を行います。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	国土館大学 『体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方』 アイ・エム 2003						
						11	発表資料、抄録作成 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
						12	発表資料、抄録作成 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
						13	研究発表 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
						14	論文の提出について 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。
						15	研究成果報告 予復修課題：予修・復修課題については授業終了時に伝えるので各自取り組むこと。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者	川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)			8	1	論文作成の順序および確認事項 講義内容の説明 予復修課題： 先行研究論文を簡潔にまとめる	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング	SSL4101		2	研究テーマの指導 予復修課題： 研究テーマについて復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*			
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)				
授業概要	卒業研究では、スポーツゼミナルで得た知識をもとに卒業研究に向けたテーマを具体化にして、予備実験を実施する。また研究テーマをもとにプレゼンが実施できる知識を身につける。				3	研究テーマの指導 予復修課題： 研究テーマについて復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
	授業到達目標	)論文の構成 )研究テーマを題材にしてプレゼンテーション )研究結果を考察して論文に出来る				4	研究テーマ作成と論文指導 予復修課題： 研究テーマについて復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				5	研究テーマ作成と論文指導 予復修課題： 研究テーマについて復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6	研究テーマ作成と論文指導 予復修課題： 研究テーマについて復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				7	論文指導 データ処理方法 予復修課題： 先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				8	論文指導 データ処理方法 予復修課題： 先行研究論文を読む、次週までにレポート用紙にまとめる		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		9	論文指導 文献検索 予復修課題： 先行研究論文を簡潔にまとめる
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	卒業研究の準備に興味を持ち取り組む。積極的に授業に参加をする。授業外にも卒業研究に向け取り組む1日1時間の予修、復修を確保すること		10	論文指導 文献検索 予復修課題： 先行研究論文を簡潔にまとめる	
1. 小テスト、感想文など		%			11	論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
2. 中間テスト		%			12	論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
3. 課題レポートなどの提出物		20 %			13	論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
4. 授業中の発表、討論		40 %			14	論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
5. 授業への参加意欲		%			15	論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
6. 自主的学習(予習・復習など)		40 %				論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
7.		%				論文指導 実験結果分析 予復修課題： 実験結果内容を復修し、先行研究論文を簡潔にまとめる	
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	第15回で発表会を実施する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
					15	プレゼン(発表会) 予復修課題： これまでの振り返りをレポート用紙にまとめる	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		鄭 英美 (JUNG Youngmi)		8	1 オリエンテーション 研究計画 今学期の本授業の流れ、研究の進め方、論文の作成方について 予復修課題：各自の研究テーマの確認、研究流れの確認		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 各自の研究流れの確認、発表 予復修課題：各自の研究テーマの確認、研究計画の立案の作成 予復修の目安時間:120分		
授業形式		科目区分 専門演習科目		SSL4101	論文作成 研究データの検討		
配当年次		4年生		コース区分*	3 予復修課題：各自の研究テーマの確認、研究計画の立案の作成 予復修の目安時間:120分		
開講学期		開講学期 通年(後期)			論文作成 研究の目的について文章化		
授業概要		前期の続き。調査データの収集、分析など積極的に研究活動を行い、各自の卒業論文を完成させる。作成された卒業論文を皆の前でプレゼンテーションできる。				4 予復修課題：授業にて適時指示する(各自の研究の流れに応じて) 予復修の目安時間:120分	
授業到達目標		自ら設定した研究課題に対して、積極的に研究活動を行う。 収集した研究データについて徹底的に分析・処理し、結果を読み出す。 研究結果に対して文章化、論文を作成する。 作成された卒業論文を皆の前でプレゼンテーションする。				5 論文作成 研究の目的及び方法について文章化 予復修課題：発表資料の作成 予復修の目安時間:120分	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						6 論文作成・1次発表会 研究の目的及び方法について発表 予復修課題：データの検討 予復修の目安時間:120分	
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 論文作成 データの分析・解釈、研究の結果について文章化 予復修課題：関連ある先行研究のまとめ 予復修の目安時間:120分	
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 論文作成 データの分析・解釈・研究の結果について文章化 予復修課題：関連ある先行研究のまとめ 予復修の目安時間:120分	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 論文作成 研究の結果について文章化 予復修課題：関連ある先行研究のまとめ 予復修の目安時間:120分	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				10 論文作成 研究の結果に対する考察の作成 予復修課題：関連ある先行研究のまとめ 予復修の目安時間:120分	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		履修2/3以上出席すること 関心分野、テーマ探しに積極的に取り組む 学外調査・測定・研修・研究会などに積極的に参加すること。 指導教員の指示に積極的に従うこと。 授業への全出席を義務付ける。		11 論文作成 研究の結果に対する考察の作成 予復修課題：論文作成・2次発表資料のまとめ、作成 予復修の目安時間:120分	
1. 小テスト、感想文など		%				12 論文作成 研究の結果に対する考察の作成 予復修課題：論文作成・2次発表資料のまとめ、作成 予復修の目安時間:120分	
2. 中間テスト		%				13 論文作成・2次発表会 研究の目的・方法・結果・考察まで 予復修課題：論文作成・2次発表資料のまとめ、作成 予復修の目安時間:120分	
3. 課題レポートなどの提出物		%				14 論文作成・2次発表資料の訂正分の発表 予復修課題：論文作成・2次発表資料のまとめ、作成 予復修の目安時間:120分	
4. 授業中の発表、討論		20 %				15 論文作成・3次 最終発表 予復修課題：論文作成・3次発表資料の確認、相互フィードバック予復修の目安時間:120分	
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%		関心・興味のある分野から自らテーマを決める			
2. 論文、まとめのレポートなど		60 %		学内外の学術セミナーや発表会に参加し、積極的に発表をする			
3.		%					
再評価の実施		する		しない			
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)		8	1 ガイダンス (卒業論文作成にあたって) 予復修課題: データ収集		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文作成 緒言, 方法の作成 予復修課題: データ収集		
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 論文作成 緒言, 方法の作成 予復修課題: データ収集		
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 論文作成 データ収集の見直し 予復修課題: データ収集		
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り組む。前期から取り組んできた研究データをもとに卒業論文の作成に取り組む。				5 論文作成 データ収集の見直し 予復修課題: データ分析	
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。</li> <li>自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。</li> <li>他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。</li> </ul>				6 論文作成 データ分析の方法 予復修課題: データ分析	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 論文作成 データ分析の方法 予復修課題: データ分析			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 統計処理 統計とは? 予復修課題: データ分析			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 統計処理 統計方法の検討 予復修課題: データ分析			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	プレゼンテーション				
3.		%	コーチング				
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							
		15 まとめ 予復修課題: 全体の修正					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)		8	1 卒業研究の進捗状況の報告と後期のスケジュールの確認 予復修課題： 前期および夏期休暇中の進捗状況をまとめておく	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文作成及び個別指導 予復修課題： 各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 論文作成及び個別指導 予復修課題： 各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)		4 論文作成及び個別指導 予復修課題： 各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
授業概要		スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、調査・実験・考察を経て論文作成を行なう。また、作成した論文の内容をプレゼンテーションする技術を学ぶ。			5 論文作成及び個別指導 予復修課題： 各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
授業到達目標		各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し他者に伝える技術を身につけることを目標とする。			6 論文作成及び個別指導 予復修課題： 各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 中間発表会の準備 予復修課題： 各グループで研究活動を進めておく。また、個別指導も積極的に実施する。	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8 中間発表会(研究内容を約7分程度にまとめて発表する) 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておく	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9 中間発表会(研究内容を約7分程度にまとめて発表する) 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておく	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10 本文完成 予復修課題： 作成要項を確認のうえ、作成すること	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 抄録完成 予復修課題： 作成要項を確認のうえ、作成すること	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミ全体での集合指導と必要に応じて個別指導を行なう。また、課題等の提出状況および出席や参加意欲を主な評価の対象とする。(各授業における予復修時間の目安：4時間)			12 卒業研究発表会の準備 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておく
1. 小テスト、感想文など		%				13 卒業研究発表会の準備 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておく
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		50 %				
4. 授業中の発表、討論		25 %				
5. 授業への参加意欲		25 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			14 卒業研究発表会の準備とリハーサル 予復修課題： 事前に各グループでリハーサルを実施しておく	
1. まとめのテスト		%	8~9回目および14回目にプレゼンテーションを行う。また、そのために必要な事前学習やグループディスカッションを積極的に行う。			15 卒業研究発表会 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておく
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書		なし				
参考書		適時、指示をします				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)		8	1 オリエンテーション 受講上の注意 予復修課題： シラバスを確認し、修正、改善の整理をしておくこと(予復修時間420分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究状況の確認と修正 予復修課題： 研究状況の問題点や改善点を確認しておくこと(予復修時間420分)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 本論の執筆 調査内容に基づいた本論の執筆を行う 予復修課題： 論文作成手順、論文構成の手引き資料の熟読(予復修時間420分)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)		4 本論の執筆 調査内容に基づいた本論の執筆を行う 予復修課題： 論文作成手順、論文構成の手引き資料の熟読(予復修時間420分)	
授業概要		スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、バレーボール競技の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。 研究指導を通して先行研究の文献抄読からコーチングや方法学に関する知識を深め、調査、分析、考察を行う。これらを卒業論文にまとめ、卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる。			5 本論の執筆 調査内容に基づいた本論の執筆を行う 予復修課題： 論文作成手順、論文構成の手引き資料の熟読(予復修時間420分)	
授業到達目標		バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した先行研究・資料をまとめることができる。 競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。 バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。 スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につけることができる。			6 本論の執筆 調査内容に基づいた本論の執筆を行う 予復修課題： 論文作成手順、論文構成の手引き資料の熟読(予復修時間420分)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 本論の執筆 調査内容に基づいた本論の執筆を行う 予復修課題： 論文作成手順、論文構成の手引き資料の熟読(予復修時間420分)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 報告会(討論)修正、改善の確認 調査計画書の作成 予復修課題： 発表原稿、パワーポイント資料の作成(予復修時間420分)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 本論の執筆 調査内容に基づいた本論の執筆を行う 予復修課題： 論文作成手順、論文構成の手引き資料の熟読(予復修時間420分)		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	競技者もしくは指導者を目指す者として実践的課題や問題意識などを追求する姿勢が重要である。 自身が実践者(課外活動している)であることが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		30 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	[第14回] 卒業研究発表会			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない	13 卒業研究会資料の作成 パワーポイントを基にプレゼンテーション資料の準備 予復修課題： パワーポイント資料の作成について復修(予復修時間420分)		
教科書		14 卒業研究発表会(ゼミ内) プレゼンテーションのリハーサル 予復修課題： 時間内に収まるように調整(予復修時間420分)				
参考書		15 卒業論文提出 抄録と本分 予復修課題： 口頭発表の準備(予復修時間420分)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		後藤 平太 (GOTO Heita)		8	1 序論作成 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 序論作成 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 序論作成 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 序論作成 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する	
授業概要	データ収集・分析を経て、卒業論文を作成し、それをパワーポイントにまとめた後プレゼンテーションを行う。					
	5 序論作成 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する					
授業到達目標	6 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する					
	7 序論の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業ごとに1時間程度の予復修を行うことを望む。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	グループワーク(第1回~第15回)			
2. 論文、まとめのレポートなど		100%	調査学習・実践学習(第1回~第11回)			
3.		%	プレゼンテーション(第12回~第15回)			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		11 抄録作成 抄録の作成と添削を行う 予復修課題：授業中に行う論文添削で出てきた課題を修正する				
		12 プレゼンテーション作成と発表の練習 プレゼンテーション用のスライドを作成し、発表の練習を行う 予復修課題：発表練習で指摘された課題を修正する				
		13 プレゼンテーション作成と発表の練習 プレゼンテーション用のスライドを作成し、発表の練習を行う 予復修課題：発表練習で指摘された課題を修正する				
		14 プレゼンテーション作成と発表の練習 プレゼンテーション用のスライドを作成し、発表の練習を行う 予復修課題：発表練習で指摘された課題を修正する				
		15 卒業研究発表会 予復修課題：特になし				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei)		8	1 オリエンテーション 予復修課題：研究計画書を修正すること(予復修時間:420分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究計画書の修正 研究計画書に基づき実験・調査を行う 予復修課題：研究計画書を修正すること(予復修時間:420分)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 実験・データ収集・分析 研究計画書に基づき実験・調査を行う 予復修課題：実験・調査の準備を行うこと(予復修時間:420分)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 実験・データ収集・分析 研究計画書に基づき実験・調査を行う 予復修課題：実験・調査の準備を行うこと(予復修時間:420分)	
授業概要		スポーツ・ゼミナールの学習内容を踏まえ、コーチング・トレーニング論領域に関する研究テーマを設定し、調査・実験・分析・考察を行う力を養成する。また、これらを卒業論文にまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる力を養成する。			5 実験・データ収集・分析 研究計画書に基づき実験・調査を行う 予復修課題：実験・調査の準備を行うこと(予復修時間:420分)	
授業到達目標		研究計画書を作成することができる 卒業論文を作成することができる テーマに関する先行研究をまとめることができる 適切な研究方法を用いてデータを収集・分析することができる			6 実験・データ収集・分析 実験・調査から得られたデータを整理・分析する 予復修課題：実験・調査の結果を整理すること(予復修時間:420分)	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 実験・データ収集・分析 実験・調査から得られたデータを整理・分析する 予復修課題：実験・調査の結果を分析すること(予復修時間:420分)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 中間報告会 得られた結果と考察をまとめる。 予復修課題：中間報告会に向けてプレゼンテーションを作成すること(予復修時間:420分)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 論文執筆 研究の背景と目的を中心に作成する 予復修課題：論文を執筆すること(予復修時間:420分)		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	コーチング論・トレーニング学の研究領域は、トレーニングを実践する選手やコーチが現場で感じたことや気づきを理論化し、一般化する試みの中で発展してきた。したがって、自分自身が実践者である(部活動・クラブチーム等で活動している)ことが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	調査学習[第2回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	実践学習[第3~7回、第9~11回]			
3. 卒業研究発表会		20 %	プレゼンテーション[第8回、第12~15回]			
再評価の実施		する	しない			
教科書		村木征人『スポーツ・トレーニング理論』ブックハウスHD、1998				
参考書		15 卒業研究発表会と卒業論文提出 予復修課題：プレゼンを見直し、最終的なプレゼンを作成すること(予復修時間:420分)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		森 誠護 (MORI Seigo)		8	1 オリエンテーション 授業の概要、授業目的、授業の進め方の説明 予復修課題：シラバスの確認、研究テーマの検討(2時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 データ整理(1) 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 データ整理(2) 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 論文作成(1) 緒言 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
授業概要	スポーツゼミナールで学習した知識と手法を基に自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。					
	5 論文作成(2) 方法 予復修課題：適宜指示する(6時間)					
授業到達目標	1. 研究結果を整理し、論文を作成する。 2. 作成した論文を基にプレゼンテーション資料を作成する。 3. 卒業論文発表会にてプレゼンテーションできる。					
	6 論文作成(3) 結果 予復修課題：適宜指示する(6時間)					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				7 論文作成(4) 考察 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 論文作成(5) まとめ 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 論文作成(6) 参考・引用文献 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 中間報告会 予復修課題：適宜指示する(6時間)		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				11 論文修正 予復修課題：適宜指示する(6時間)
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 積極的に参加すること。 2) 全出席を前提とする。		12 抄録作成 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
1. 小テスト、感想文など		%			13 卒業研究発表会の資料作成 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
2. 中間テスト		%			14 卒業研究発表会の準備とリハーサル 予復修課題：適宜指示する(6時間)	
3. 課題レポートなどの提出物		%			15 卒業研究発表会 予復修課題：発表会資料作成(10時間)	
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング 卒業研究発表会へ向けたプレゼンテーションの練習を適宜実施する。				
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		80 %				
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	卒業研究 Undergraduate Research			単位数	授業内容**	
担当者	疋田 晃久 (HIKITA Akihisa)			8	1 オリエンテーション (シラバスの確認。授業の進め方と受講上の注意・ルール確認) 予復修課題：シラバスを熟読しておくこと。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			専任	2 研究状況の確認と修正(討論) (前期中間報告会の資料の再確認と修正) 予復修課題：中間報告会で討論した問題点や改善点を確認しておくこと。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 本論の執筆 (実験結果や調査結果に基づいた本論の執筆を行う) 予復修課題：論文作成手順・論文構成の手引き資料を熟読しておくこと。	
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)		4 本論の執筆 (実験結果や調査結果に基づいた本論の執筆を行う) 予復修課題：論文作成手順・論文構成の手引き資料を熟読しておくこと。	
授業概要	3年次までに学んだ陸上競技(特に投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投を中心とした運動法・トレーニング・コーチング)の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。この科目では、論文講読、研究指導を通して、方法学・コーチングに関する知識を深め、文献のまとめ方や学外調査や測定の方法、結果の分析方法、得られた結果のプレゼンテーション方法などを修得する事を目的とする。 また、報告会の実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高める。					
授業到達目標	投擲映像を見ながら、投擲技術について他者に解説することができる。 投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。 収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。 実験やアンケートで得た結果を的確なデータとして処理ができる。 研究論文や発表資料を分かりやすく作成することができる。 卒業論文を作成して、プレゼンテーションができる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	競技者もしくは指導者を目指すものとして実践的課題・問題意識を追求する姿勢を以て授業にのぞむこと。 講義で学んだ内容を積極的に実践現場で活かすこと。 研究の為に、陸上競技の実技を伴う場合があるので、実技能力を有することが望ましい。 予復修課題については、各講義4時間程度。				
1. 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング プレゼンテーション[第8,14回]				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
					15 卒業論文提出(抄録及び本文) (卒業論文発表会) 予復修課題：プレゼンテーション(口頭発表)の練習を行っておくこと。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)		8	1 ガイダンス, 卒業研究進捗状況の確認 予復修課題: 卒業研究の進捗についてまとめる		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文作成: 序論の書き方(研究の立ち位置と独自性, 研究方法, 考察, 結論への接続) 予復修課題: 序論執筆のための資料収集		
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	SSL4101	3 論文作成: 研究方法と結果, 考察の書き方について理解する 予復修課題: 先行研究の資料収集		
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)	コース区分*	4 論文執筆 論文構成を箇条書きで端的にまとめる 予復修課題: 進行状況に応じて授業中に提示する.		
授業概要	卒業論文を完成させる. 研究の核となる内容についてまとめ発表する.					5 論文執筆 論文構成の修正 予復修課題: 論文構成の修正についてまとめてくる	
授業到達目標	研究内容の独自性と限界について検討し, 研究の独自性を主張できるようになる.					6 論文作成: 参考文献収集及び執筆 箇条書きの論文構成の内容を充実させる. 予復修課題: 進行状況に応じて授業中に提示する.	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ, 総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し, 専門知識と技能を身につけている.							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養, および専門分野の知識・技能を用いて, 職業人として適切な企画・計画力, 的確な判断力を有し, それらを実践できる力を身につけている. また, 礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ, 地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている.							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として, 自らを律し, 主体的に物事を考え, 自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている. また, 地域や社会の一員として, 自ら進んで他者との協働を通じ, 積極的にボランティア活動等を実践し, 社会貢献できる力を身につけている.							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予修における演習課題を基に授業を展開するため, 必ず予修をして授業に望むこと. 各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます.				
1. 小テスト, 感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		40 %					
4. 授業中の発表, 討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	グループディスカッション				
2. 論文, まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書						15 卒論発表会の練習	
参考書						14 卒論発表会を想定した発表と意見交換を行う. 予復修課題: プレゼン資料の作成	
					13 卒論発表会用プレゼン資料の作成手順の説明 予復修課題: 卒業論文を完成させ, 提出する.		
					12 卒論発表会の練習 予復修課題: 本文中の用語の統一性について確認する.		
					11 卒論発表会を想定した発表と意見交換を行う. 予復修課題: 要修正箇所に対する回答をまとめる.		
					10 論文作成: 結論までを書き終える. 予復修課題: 修正箇所に関する回答をまとめる.		
					9 論文作成: 参考文献収集及び執筆 討議を基に, 論文内容の修正を行う. 予復修課題: 論文を書き進め, 考察までを書き終える.		
					8 論文作成: 参考文献収集及び執筆 執筆内容に関する討議を指導教員と行う. 予復修課題: 指導教員の質問に関する回答をまとめる		
					7 論文作成: 参考文献収集及び執筆 箇条書きの論文構成の内容を充実させる. 予復修課題: 進行状況に応じて授業中に提示する.		
					6 論文作成: 参考文献収集及び執筆 論文構成の修正 予復修課題: 論文構成の修正についてまとめてくる		
					5 論文執筆 論文構成を箇条書きで端的にまとめる 予復修課題: 進行状況に応じて授業中に提示する.		
					4 論文執筆 論文構成の修正 予復修課題: 先行研究の資料収集		
					3 論文作成: 研究方法と結果, 考察の書き方について理解する 予復修課題: 序論執筆のための資料収集		
					2 論文作成: 序論の書き方(研究の立ち位置と独自性, 研究方法, 考察, 結論への接続) 予復修課題: 卒業研究の進捗についてまとめる		
					1 ガイダンス, 卒業研究進捗状況の確認		

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので, 授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		田代 利恵 (TASHIRO Rie)		8	1 オリエンテーション		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	予復修課題：進捗状況の報告作成		
授業形式		演習		SSL4101	2 進捗状況の報告		
配当年次		4年生		科目区分 専門演習科目	予復修課題：進捗状況の報告作成		
開講学期		通年(後期)		コース区分*	3 論文の執筆		
授業概要		各自の研究テーマに基づいて研究を進めます。 関心領域に応じた事例研究を、文献調査やヒアリング調査等により行い、卒業論文の作成に取り組みます。				予復修課題：論文の執筆	
授業到達目標		研究テーマ、研究計画に基づいて、調査を行い、論文としてまとめることができる。 グループ内の他の学生の発表から学び、かつ適切な質問ができる。 卒業研究について、わかりやすくプレゼンテーションができる。				4 論文の執筆	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						5 論文の執筆	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						6 中間発表	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						7 中間発表	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						8 予復修課題：中間発表用の資料作成	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				9 論文の執筆	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		・受け身の姿勢ではなく積極的に取り組むこと ・提出物は期日を厳守してください ・フィールド調査の際には交通費などの負担が必要になることがあります ・中間報告書の提出を求めます		10 卒業論文案(第一稿)提出	
1. 小テスト、感想文など		%				予復修課題：論文の執筆	
2. 中間テスト		%				11 論文の推敲、修正	
3. 課題レポートなどの提出物		%				予復修課題：論文の推敲、修正	
4. 授業中の発表、討論		30 %				12 論文の推敲、修正	
5. 授業への参加意欲		20 %				予復修課題：論文の推敲、修正	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				13 卒業論文プレゼンテーション準備	
7.		%				予復修課題：卒業論文のプレゼンテーション作成	
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				卒業論文プレゼンテーション準備	
1. まとめのテスト		%		ディスカッション		14 卒業論文のプレゼンテーション作成	
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %		プレゼンテーション		予復修課題：卒業論文のプレゼンテーション作成	
3.		%		フィールド調査		15 卒業研究のプレゼンテーション	
再評価の実施		する		しない		予復修課題：卒業論文のプレゼンテーション練習	
教科書		適宜資料を配布します					
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		内田 満 (UCHIDA Mitsuru)		8	1 卒業論文の執筆 内容の精査, 再検討を行う. 予復修課題: 研究の実施、分析、論文の執筆と校正	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 卒業論文の執筆 内容の精査, 再検討を行う. 予復修課題: 研究の実施、分析、論文の執筆と校正	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 卒業論文の執筆 内容の精査, 再検討を行う. 予復修課題: 研究の実施、分析、論文の執筆と校正	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 卒業論文の執筆 内容の精査, 再検討を行う. 予復修課題: 研究の実施、分析、論文の執筆と校正	
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かるり、卒業論文を完成させる。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。			5 卒業論文の執筆 内容の精査, 再検討を行う. 予復修課題: 研究の実施、分析、論文の執筆と校正	
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。</li> <li>自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。</li> <li>他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。</li> </ul>			6 卒業論文の執筆 内容の精査, 再検討を行う. 予復修課題: 研究の実施、分析、論文の執筆と校正	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミに積極的に参加すること。 課題はすべて提出すること。 全出席を前提とする。 予復修は120分を目安とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	グループワーク			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	プレゼンテーション			
3.		%	ワークショップ			
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						
		15 卒業論文の完成 予復修課題: 卒業論文の精査				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)		8	1 オリエンテーション 後期の講義の進め方、評価、概要説明、受講における注意事項 予復修課題：授業の進展に応じて指示する。	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 研究計画の確認、進捗状況の確認 これまでの確認 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。	
授業形式	演習	科目区分	専門演習科目	コース区分*	3 卒業研究論文執筆 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。	
配当年次	4年生	開講学期	通年(後期)		4 卒業研究論文執筆 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。	
授業概要	スポーツゼミナールで学んだ知識を基に、アスレティックトレーナーやスポーツ科学、スポーツ医学の分野に関して、研究計画を作成し、卒業研究を実施する。あわせて、将来に向けての目標設定を行う。					
	5 卒業研究論文執筆 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。					
授業到達目標	研究とは何かを理解する。 物事には二面性以上の見方があるということを理解する。 発表準備、発表ができる。 文章として論文執筆ができる。					
	6 卒業研究論文執筆 予復修課題：そのスポーツをあらかじめ予修しておく。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				7 卒業研究論文執筆 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。		
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 卒業研究論文執筆 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。		
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 卒業研究論文執筆 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 卒業研究論文執筆 研究とは何か 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	積極的に参加し、コミュニケーションを取ること。			
1. 小テスト、感想文など		%	課題、発表等は必ず行うこと。			
2. 中間テスト		%	予復修課題の取組時間：60分以上			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	卒業研究論文を仕上げる。			
2. 論文、まとめのレポートなど		80 %				
3.		%				
再評価の実施	する		しない			
教科書	その都度プリント等を配付する。					
参考書	15 予復修課題：卒業研究の進展に応じて指示する。					

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**		
担当者		田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)		8	1 オリエンテーション 予復修課題：卒業研究(前期)の内容を振り返る。		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 調査結果の報告・プレゼンテーション 予復修課題：プレゼンテーションのための資料作成をする		
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 調査結果の報告・プレゼンテーション 予復修課題：プレゼンテーションのための資料作成をする		
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 調査結果の報告・プレゼンテーション 予復修課題：プレゼンテーションのための資料作成をする		
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法・知識を活用して卒業研究に取り組む。 研究テーマを選択し、データの収集、論文執筆を行う。				5 論文執筆 予復修課題：まとめたデータを基に論文を執筆する	
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを設定し、科学的手法に沿って分析できるようになる。</li> <li>論文の構成を覚え、文章を書くことができる。</li> <li>自身の研究内容を発表するためのプレゼンテーション技能を身につける。</li> </ul>				6 論文執筆 予復修課題：まとめたデータを基に論文を執筆する	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>全出席を原則とする。</li> <li>授業時間や提出期限などルールを守ること。</li> <li>意欲的に授業に参加すること。</li> <li>予復修の目安は120分とする。</li> </ul>				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング ・パワーポイントを用い、卒業論文に関するプレゼンテーションを行う。また、そのプレゼンテーションに対してディスカッションを行う。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%	14 発表会練習 予復修課題：作成した発表資料を基に発表練習をする。				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない	15 発表会練習 予復修課題：作成した発表資料を基に発表練習をする。			
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**	
担当者		西山 侑汰 (NISHIYAMA Yuuta)		8	1 卒業研究の進捗状況の報告と後期のスケジュールの確認、成績評価について 予復修課題： 前期および夏季休暇中の進捗状況をまとめておく	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	コース区分*	3 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)		4 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
授業概要		アスレティックトレーニング領域に関する研究テーマを各自で設定し、調査や実験を経て論文作成を行う。 また、自身の設定した研究についてわかりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。			5 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
授業到達目標		各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者にわかりやすく伝えることができる。			6 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 中間発表会の準備 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8 中間発表会 予復修課題： これまでの内容についてプレゼンテーションをできるように準備しておく	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					9 中間発表会 予復修課題： これまでの内容についてプレゼンテーションをできるように準備しておく	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					10 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	ゼミ全体での集合指導と必要に応じて個別指導を行う。 また、課題などの提出状況及び出席や参加意欲を主な評価の対象とする。 各授業ごとに2時間を目安に予修復修を行う。			12 論文作成 予復修課題： 各自の研究活動を進めておく。また個別指導も積極的に実施する
1. 小テスト、感想文など		%				13 卒業研究発表会の準備と抄録の作成 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておくこと
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		80 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			14 卒業研究発表会の準備とリハーサル 予復修課題： 事前に各自でリハーサルを済ませておくこと	
1. まとめのテスト		%	第8回、第9回、第15回では卒業研究の内容を発表するため発表できる準備をすること			15 卒業研究発表会 予復修課題： パワーポイントを用いて資料をまとめておくこと
2. 論文、まとめのレポートなど		%	詳細については、別途説明する。			
3.		%				
再評価の実施		する	しない			
教科書						
参考書						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		卒業研究 Undergraduate Research		単位数	授業内容**			
担当者		清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)		8	1 ガイダンス 卒業論文作成にあたって、スケジュールや書式等について確認する 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、論文作成の準備を進める。			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 論文作成 序論 方法の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、調査等を進める。			
授業形式		演習	科目区分 専門演習科目	SSL4101	3 論文作成 序論 方法の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、調査等を進める。			
配当年次		4年生	開講学期 通年(後期)	コース区分*	4 論文作成 序論 方法の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、調査等を進める。			
授業概要		スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自らの研究テーマを絞り込み、調査や実験の計画・実施を行う。前期から行ってきた資料収集や調査結果をまとめ、論文作成を行う。				5 論文作成 序論 方法 結果の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、調査の結果を整理する。		
授業到達目標		【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。				6 論文作成 序論 方法 結果の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、調査の結果を整理する。		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						7 論文作成 序論 方法 結果の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、調査の結果を整理する。		
【知識・技能】		学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 論文作成 序論 方法 結果 考察の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、結果について考察を行う。		
【思考力・判断力・表現力】		実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				9 論文作成 序論 方法 結果 考察の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、結果について考察を行う。		
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				10 論文作成 序論 方法 結果 考察の作成 予復修課題：各自の研究テーマに沿って、結果について考察を行う。		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				11 論文作成 序論 方法 結果 考察の作成 予復修課題：論文全体の流れを確認し、修正する。		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	発表や課題は必ず行うこと 積極的な姿勢で臨むこと 欠席する場合は、特別な事情がない限り、事前に説明し、指導教員の承認を得ること				12 論文作成 序論 方法 結果 考察の作成 予復修課題：論文全体の流れを確認し、修正する。	
1. 小テスト、感想文など		%					13 卒業研究発表会の準備 予復修課題：各自の研究のプレゼンを作成し発表準備を行う。	
2. 中間テスト		%					14 卒業研究発表会の準備 予復修課題：各自の研究のプレゼンを作成し発表準備を行う。	
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					15 まとめ 論文全体を通して見直しを行い、必要に応じて修正する。 予復修課題：論文を修正する。	
4. 授業中の発表、討論		30 %						
5. 授業への参加意欲		20 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	(全回)各自が調べてきた内容について、発表及びディスカッション、フィードバックを行う。					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書								
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	体操(体づくり運動を含む。)			単位数	授業内容**	
	Gymnastics			1		
担当者	山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)		古藤 木綿子 (KOTOH Yufuko)		専任 & 非常勤	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		SSK1101	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期	コース区分*		
授業概要	体操(体づくり運動)は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成されている。自他の心と体に向き合って体を動かす楽しさを味わい、心と体をほぐす運動や体力を高めるための運動の行い方を理解する。					
	1.目的に合った基本的な運動が指導できる。					
	2.ラジオ体操、ストレッチ体操の運動効果について説明ができる。					
	3.2人組、グループでお互いに工夫・協力して運動を楽しむことができる。					
	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					
	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
	成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項		
	1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予修における演習課題を基に授業を展開するため、必ず予修をして授業に望むこと。各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます。		
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		30 %				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		30 %	グループワーク：課題に対して、教師の提示し資料やヒントを基に協同して解決に取り組む。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
	1	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の方法、諸注意)				
	2	予復修課題： シラバスを読んで、体操の教育的価値について理解する。 体操1(ラジオ体操第一、第二)				
	3	予復修課題： ラジオ体操の効果、普及状況についてまとめる。 体操2(ラジオ体操、リズム体操)				
	4	予復修課題： ラジオ体操の指導上のポイントについて要約する。 体ほぐし運動(心と体の関係に気づく、体の調子を整える運動)				
	5	予復修課題： 体ほぐし運動の教育的価値と指導上の注意点について資料を要約する。 体力を高める運動(ボール、フープを用いた運動)				
	6	予復修課題： ボールを用いたなわとびの運動構造についてまとめる。 体力を高める運動(縄を用いた運動)				
	7	予復修課題： なわとびの基本的技術について資料を要約する。 体力を高める運動(ダブルダッチ)				
	8	予復修課題： ダブルダッチの基本的技術ポイントについて理解する。 体力を高める運動(ダブルダッチの発展、ペアなわとび)				
	9	予復修課題： ダブルダッチの発展技の技術ポイントに関する資料を要約する。 体力を高める運動(ペアなわとびの発展：連鎖交互とび)				
	10	予復修課題： ペアなわとびの運動構造についてまとめる。 体力を高める運動(3人組なわとび)				
	11	予復修課題： 3人組なわとびの技術ポイントについて要約する。 体力を高める運動(3人組なわとびの発展：方向転換と移動)				
	12	予復修課題： 3人組なわとびの発展技の運動構造をまとめる。 体力を高める運動(4人連鎖交互回転とび)				
	13	予復修課題： 4人連鎖交互とびの課題性について要約する。 体力を高める運動(4人組なわとび)				
	14	予復修課題： 4人組なわとびの基本的技術ポイントを要約する。 体力を高める運動(4人組なわとび：移動)				
	15	予復修課題： 4人組なわとびのコツについて役割別にまとめる。 体力を高める運動(まとめ)				
		予復修課題： 進行状況に応じて授業中に提示する。				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	器械運動 Apparatus gymnastics				単位数	授業内容**	
担当者	鄭 英美 (JUNG Youngmi)		山下 龍一郎 (YAMASHITA Ryuichiro)		1	1 オリエンテーション, 器械運動の目的, 教育的価値 授業の進め方・評価方法について確認、器械運動の目的・教育的価値について理解する。 予復修課題：シラバスに目を通し、器械運動の教育的価値について考える。	
	松浦 聡志 (MATSUURA Satoshi)					2 器械運動の導入(ストレッチ・基礎的な動き・トランポリンなど)	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		SSK2101		
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース		
配当年次	2年生		開講学期	前期/後期			
授業概要	器械運動(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)の技の基本技術と指導法について学習する。それぞれの技の運動構造を理解し、系統的・段階的に技を習得していく。また、安全に配慮し練習環境の工夫や補助法についても正しく理解する。				3 マット運動 多様なマット遊び、基本技(接転技) 予復修課題：運動感覚に関する参考資料を基に、演習問題に回答し提出する。		
授業到達目標	1. 各機械種目の基本技ができるようになる。 2. それぞれの技の基本技術を理解する。 3. 補助法について理解し、適切に実践できるようにする。				4 マット運動 発展技(倒立回転技：側方倒立回転、前方倒立回転とび) 予復修課題：マット運動の基本技に関する参考資料を要約し、提出すること。		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業で提示された各種目の基本技の習得を単位認定の条件とする。 各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなうことを望みます。				
1. 小テスト、感想文など		20 %					
2. 中間テスト		20 %					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		40 %	実践学習：実習を通じ、各技の技術だけでなく複数の技に共通する技術理論を学習する。 ミニッツペーパー：運動感覚の理解のために適宜利用する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	金子明友：「教師のための器械運動指導法シリーズ」、大修館書店						
参考書	高橋健夫：「器械運動の授業づくり」、大修館書店						
						11 跳び箱運動の感覚づくり、基本技(開脚とび、抱え込みとび、台上前転) マット運動の連続技(倒立前転、伸膝後転、側方倒立回転の組み合わせ) 予復修課題：跳び箱運動の基本技に関する参考資料を要約し、提出すること。	
						12 跳び箱運動の発展技(屈身とび、頭はねとび、屈腕前方倒立回転とび) マット運動の連続技(伸膝前転、後転倒立を含むの組み合わせ) 予復修課題：連続技に関する参考資料を要約し、提出すること。	
						13 跳び箱運動の発展技(前方倒立回転とび) マット運動の連続技(前方倒立回転かロンダートを含む連続技) 予復修課題：跳び箱運動の発展技に関する参考資料を要約し、提出すること。	
						14 跳び箱運動テスト マット運動の連続技(巧技系の技を含む組み合わせ) 予復修課題：跳び箱運動の技の重要な意識ポイントについてまとめる。	
						15 まとめのテスト、解説 予復修課題：器械運動の技に共通する重要な意識ポイントについてまとめる。	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		陸上競技A Track and Field A		単位数	授業内容**	
担当者		山口 恭平 (YAMAGUCHI Kyohei) 柴 梨沙 (SHIBA Risa)		1	1 オリエンテーション (シラバスの確認・本科目の目標、内容、流れ、ルール、評価方法について) 予復修課題：シラバスの内容について理解しておくこと。(予復修時間:60分)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSK1102		2 短距離走・リレー (短距離走の解説と視覚的学習・基礎知識の説明) 予復修課題：短距離走について学習した内容を次回までに復修しておくこと。(予復修時間:60分)
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期	コース区分*		
授業概要	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、短距離走、ハードル走、走り幅跳び、の各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。					
	授業到達目標	実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで身に付けることができる。 実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できる。 実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明することができる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1)出席を重視する。特別欠席がある場合は欠席する授業以前に届けること。			
1. 小テスト、感想文など		%	2)特別な指示がない限りは学部ジャージ・学部ポロシャツ・トレーニングシューズで参加すること。			
2. 中間テスト		40 %	3)予復修については、各講義60分程度。			
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		40 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	実践学習[第3~6回、第8~11回、第13~15回]			
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %	レポート[第2回、第7回、第12回]			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
			11 ハードル走 (記録計測) 予復修課題：前回までに習得した技術ポイントを練習しておくこと。(予復修時間:60分)		12 走り幅跳び (走り幅跳びの解説と視覚的学習・基礎知識の説明) 予復修課題：走り幅跳びについて学習した内容を次回までに復修しておくこと。(予復修時間:60分)	
			13 走り幅跳び (基本ドリル・踏切ドリル・助走距離の設定) 予復修課題：走り幅跳びの基本動作、助走距離の決定方法を調べておくこと。(予復修時間:60分)		14 走り幅跳び (短助走・中助走からの跳躍) 予復修課題：短助走・中助走の仕方について調べておくこと(予復修時間:60分)	
			15 走り幅跳び (記録測定) 予復修課題：前回までに習得した技術ポイントを練習しておくこと。(予復修時間:60分)			

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		陸上競技 B Track and Field B		単位数	授業内容**	
担当者		足田 晃久 (HIKITA Akihisa) 柴 梨沙 (SHIBA Risa)		1	1 オリエンテーション (シラバスの確認・本科目の目標、内容、流れ、ルール、評価方法について) 予復修課題：シラバスの内容を熟読しておくこと。60分	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSK2102		
授業形式		実技		科目区分 スポーツ実技科目		
配当年次		2年生		コース区分* 全コース		
開講学期		前期/後期				
授業概要		「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、短距離走、リレー、走り高跳び、砲丸投げの各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。				
授業到達目標		実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで到達させる。 実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できるようになる。 実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明できる。				
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	出席を重視する。特別欠席がある場合は原則欠席する授業以前に届けること。 特別な指示がない限りは学部ジャージ・学部ポロシャツ・トレーニングシューズで参加すること。 陸上競技場での実技の為、雨天時は教室で講義を行い、ICTレポートを提出する。			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	ICTレポート[第1,2,6,12回]計4回			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	[第1,2,6,12回]計5回			
3.		%	実践学習			
再評価の実施		する	しない [第3,4,5,7,8,9,10,11,13,14,15回]計11回			
教科書						
参考書						
		2 やり投げ (座学) (やり投げの解説と視覚的学習・基礎知識の説明) 予復修課題：やり投げについて、学習した内容を次回講義までに復修しておくこと。60分				
		3 やり投げ (実技) (基本動作、立ち投げ、クロスステップ) 予復修課題：基本的な持ち方や立ち投げ、クロスステップにおいて、重要なポイントを調べておくこと。60分				
		4 やり投げ (実技) (短助走からの投げ) 予復修課題：短助走の重要なポイントについて、調べておくこと。60分				
		5 やり投げ (実技・中間テスト) (記録測定) 予復修課題：前回講義までに修得した技術のポイントを練習しておくこと。60分				
		6 走り高跳び (座学) (走高跳びの解説と視覚的学習・基礎知識の説明) 予復修課題：走高跳びについて、学習した内容を次回講義までに復修しておくこと。60分				
		7 走り高跳び (実技) (はさみ跳び) 予復修課題：はさみ跳びの特性と高く跳躍する為のポイントを調べておくこと。60分				
		8 走り高跳び (実技) (背面跳び：助走練習・スネーク走・サークル走など) 予復修課題：背面跳びの助走の特性を調べておくこと。60分				
		9 走り高跳び (実技) (背面跳び：踏切動作と空中動作・踏みしめ・踏み込みなど) 予復修課題：前回講義までに修得した技術のポイントを練習しておくこと。60分				
		10 走り高跳び (実技・中間テスト) (記録測定) 予復修課題：前回講義までに修得した技術のポイントを練習しておくこと。60分				
		11 走り高跳び (実技・中間テスト) (記録測定) 予復修課題：前回講義までに修得した技術のポイントを練習しておくこと。60分				
		12 砲丸投げ (座学) (砲丸投げの解説と視覚的学習・基礎知識の説明) 予復修課題：砲丸投げについて、学習した内容を次回講義までに復修しておくこと。60分				
		13 砲丸投げ (実技) (砲丸の持ち方、メディシングボールの立ち投げ、パワーポジションなど) 予復修課題：砲丸の持ち方、立ち投げのポイントを調べておくこと。60分				
		14 砲丸投げ (実技) (サイドステップ動作、サイドステップ投法など) 予復修課題：サイドステップ投法のポイントについて、調べておくこと。60分				
		15 砲丸投げ (実技・中間テスト) (記録測定) 予復修課題：前回講義までに修得した技術のポイントを練習しておくこと。60分				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	水泳 Swimming				単位数	授業内容**	
担当者	森 誠護 (MORI Seigo)				1	1 ガイダンス及びオリエンテーション (1) プール使用について (2) 水着について (3) 成績評価について (4) その他 予復修課題: シラバスの確認、授業の準備 (1時間)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				2	泳力測定 50mクロールおよび3分間泳 予復修課題: クロール及び時間泳に関する情報収集 (1時間)	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース		
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期	コース区分*			
授業概要	クロールおよび平泳ぎを中心に、続けて長く、または速く泳ぐための基本的技術および知識を習得する。水の特性を知り、水中で効率的に推進力を得る方法について、実技だけでなく視覚的教材を用いて理解を深める。さらに、基本的な泳法と水の特性に関する知識を応用して、水中・水上における事故防止のための安全管理についても紹介する。						
授業到達目標	クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4泳法を習得する。 水上安全に関する知識を高める。 速く泳ぐことについては50mクロールと50m平泳ぎを対象とし、男子でクロール50秒以内、平泳ぎ65秒以内、女子でクロール55秒以内、平泳ぎ70秒以内を目標とする。 長く泳ぐことについては3分間泳を対象とし、男子で150m以上、女子で130m以上を目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 ( 特に関係する 関係する )							
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	特別な理由以外の遅刻・欠席は認めない。 原則として授業開始以降の入水は認めない。 不適切な服装での授業参加は認めない。 水着は各自で水泳用の物を準備すること。 授業への単なる "出席" でなく、"参加" を評価対象とする。 その他、詳細な留意事項については、初回のガイダンス時に説明を行なう。				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		70 %	各泳法における到達度把握のため、泳力測定をその都度実施する。また、視覚教材を用いて、上級者の泳法観察等も実施する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
			11 その他の泳法 (含・水上安全) (背泳ぎの泳ぎ方について) 予復修課題: 背泳ぎの泳ぎ方について (1時間)				
			12 その他の泳法 (含・水上安全) (バタフライの泳ぎ方について) 予復修課題: バタフライの泳ぎ方について (1時間)				
			13 その他の泳法 (含・水上安全) (着衣泳及び立泳ぎの泳ぎ方について) 予復修課題: 水中での事故防止・安全確保について (1時間)				
			泳力測定 50mクロールおよび平泳ぎ 予復修課題: その他の泳法 (含・水上安全) のまとめ (1時間)				
			泳力測定 3分間泳 予復修課題: 本授業を振り返って (1時間)				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		バスケットボール Basketball			単位数	授業内容**	
担当者		川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)			1	1 オリエンテーション	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			専任	2 予復修課題：講義概要を再確認し、ボールハンドリング技術について予修を行う ボールに慣れる(ボールコントロールの基礎技術を学習)	
実務経験のある教員による授業		SSK1103				3 予復修課題：ボールコントロール技術について復修し、ボールに慣れるようにする	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*		4 バスケットボールの基礎技術(シュート、ドリブル、パス、ピボットの理解および学習)	
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期			5 予復修課題：バスケットボールに必要な基礎技術の理解を再確認し、基礎技術の種類を事前に調べる	
授業概要	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。バスケットボールにおける基礎技術である(シュート、パス、ドリブル)を学習する。また、基礎技術の習得とともに集団技術(防御から攻撃、攻撃から防御)を学習する。そのためには、バスケットボールのフォーメーション(スクリーンプレー、ポストプレー、ナンバープレー)を学習し、バスケットボールにおける特性を理解しながら各ポジション(ガード、フォワード、センター)に分けてゲームを通じて理解を深めて学習する。						6 予復修課題：バスケットボールに必要な基礎技術の理解を再確認し、シュートの種類を事前に調べる
	1. バスケットボールの技術特性およびボールを扱う楽しさや相手との駆け引きの楽しさを学習しながら基礎技術を習得できること。 2. 学校教育および社会教育の現場においてバスケットボールの指導するにあたり必要な基礎的な知識、技術を習得できること。 3. 個々の技術を上げるための練習方法、チーム戦術を習得し指導方法を学ぶ。						7 予復修課題：バスケットボールに必要な基礎技術の理解を再確認し、ドリブルの種類を事前に調べる
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						8 予復修課題：ルールについてA4レポート用紙にまとめて提出する
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						9 チームディフェンス(マンツーマンディフェンスの要領を学習)	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						10 予復修課題：マンツーマンディフェンスについて復修し、戦術理解を深める	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						11 予復修課題：ゾーンディフェンスについて復修し、戦術理解を深める	
成績評価の方法(全体で100%)						12 トランジションオフェンス(アウトナンバーの攻め方を学習)	
履修における留意事項						13 予復修課題：ファストブレイクについて復修し、戦術理解を深める	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	特別な理由以外の遅刻・欠席は認めない。原則として授業開始以降の入室は認めない。不適切な服装での授業参加は認めない。授業への単なる"出席"でなく、"参加"を評価対象とする。			14 チームオフェンス(オンボール・スクリーンプレーの学習)	
1. 小テスト、感想文など		%	その他、詳細な留意事項については、初回のガイダンス時に説明を行なう。			15 予復修課題：スクリーンについて復修し、戦術理解を深める	
2. 中間テスト		%	予復修課題の取組時間は30分以上行うこと			16 ゲーム	
3. 課題レポートなどの提出物		10 %	アクティブ・ラーニング			17 予復修課題：ゲームでの問題点と改善点を明確にして、次週までにゲームレポートを提出する	
4. 授業中の発表、討論		20 %	到達度把握のため、ボールハンドリング測定をその都度実施する。			18 ゲーム	
5. 授業への参加意欲		20 %				19 予復修課題：ゲームでの問題点と改善点を明確にして、次週までにゲームレポートを提出する	
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %				20 スキルテストおよびゲーム中での技術スキル評価を行う	
7.		%				21 予復修課題：スキルテストおよびゲーム中での技術スキル評価を行う	
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		40 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	バレーボール Volleyball				単位数	授業内容**	
担当者	俵 尚申 (TAWARA Hisanobu)				1	オリエンテーション 1 受講上の注意、評価について 予復修課題：シラバスを確認しておくこと(予復修時間60分)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	2 基本技術の習得 オーバーハンド 予復修課題：オーバーハンドの基礎技術について(パスとトスの違い)(予復修時間60分)	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	SSK2104	3 基本技術の習得 アンダーハンド 予復修課題：オーバーハンド、アンダーハンドの基礎技術について(予復修時間60分)	
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期	コース区分*	全コース	4 基本技術の習得 スパイク 予復修課題：スパイクの基礎技術(サイドアタッカーとミドルブロッカーの違い)(予復修時間60分)	
授業概要	バレーボールは、競技スポーツとしてだけでなく生涯スポーツとしても広く親しまれラリーゲームを通して高いコミュニケーション力が必要であることを理解し、他者との情報を共有しながら競技する重要性を学習する。また、バレーボールを実践する上で、必要な体力や動作分析を行い、運動の分析や観察力を養う方法についても学習する。				5 バレーボールの教材を考える1 ドリルゲーム 予復修課題：技術の向上(復修と確認をテーマに)(予復修時間60分)		
授業到達目標	バレーボール実践について初心者に教育的な原則を段階的に実技指導ができる。他者との関わり合う技能を高め、チームで連携する技術を学び実践できる。競技スポーツ、生涯スポーツとしてバレーボールの特徴を理解し、実践できる。				6 バレーボールの教材を考える2 ドリルゲーム 予復修課題：技術の向上(復修と確認)(予復修時間60分)		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 基本技術の習得 ジャンプフローターサーブ、スパイクサーブ 予復修課題：ジャンプフローターとスパイクサーブの特徴を動画で確認しておくこと(予復修時間60分)			
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。				8 グループ戦術の習得とコミュニケーションスキル1 調査計画書の作成 予復修課題：カバーリングの必要性と声の連携について(予復修時間60分)			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。				9 グループ戦術の習得とコミュニケーションスキル2 予復修課題：得点内容の整理と補強ポイントの確認(予復修時間60分)			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事故や怪我を未然に防ぐため、授業中での装飾品は一切身につけないように。		11 ゲームアナライジング実践 予復修課題：相手の攻防の特徴に応じたゲームメイクを考案する(予復修時間60分)		
1. 小テスト、感想文など		%	各種技術の習得と合わせ、指導者の観点の視点から受講すること。		12 ゲーム(判別対抗戦) 予復修課題：指導者の観点から勝算を立てる(予復修時間60分)		
2. 中間テスト		%	1回目の受講上の注意内容を厳守すること。		13 ゲーム(判別対抗戦) 予復修課題：指導者の観点から勝算を考案する(予復修時間60分)		
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		14 予復修課題：正しいフォームからのボールコントロールと安定力を評価する(予復修時間60分)		
1. まとめのテスト		50 %	ゲーム戦術をグループ内で対戦相手の特徴に応じて組み立てていく。		15 まとめ実技テスト 及び総括 オーバーハンド、アンダーハンド、スパイク、サーブ 予復修課題：正しいフォームからのボールコントロールと安定力を評価する(予復修時間60分)		
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	サッカー Soccer				単位数	授業内容**	
担当者	後藤 平太 (GOTO Heita)				1	オリエンテーション 15回の授業内容や評価方法についての説明を行う 予復修課題：サッカーの競技規則1～4条を読み、理解する	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				専任	基礎技術の習得(1) ドリルを基に、パスやドリブル、リフティングなどの基礎技術を習得する 予復修課題：サッカーの競技規則5条を読み、理解する	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	SSK1104	専任	基礎技術の習得(2) ドリルを基に、パスやドリブル、リフティングなどの基礎技術を習得する 予復修課題：サッカーの競技規則6条を読み、理解する	
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期	コース区分*	専任	基礎技術の習得(3) ドリルを基に、パスやドリブル、リフティングなどの基礎技術を習得する 予復修課題：サッカーの競技規則7条を読み、理解する	
授業概要	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。						
授業到達目標	1) サッカーの基礎的技術を習得し、試合中に使えるようになる 2) サッカーの守り方と攻め方を含めた戦術を理解する						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。							
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。							
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業ごとに1時間程度の予復修を行うことを望む。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		40 %					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		50 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	実践学習(第2～14回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	サッカーの競技規則2019/2020						
	15 講義の総括を行う 予復修課題： 特になし						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	サッカー Soccer				単位数	授業内容**	
担当者	木下 温子 (KINOSHITA Atsuko)				1	1 オリエンテーション	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				非常勤講師	2 予復修課題：サッカーについてテレビや新聞で知識を得る(取組時間1時間程度)	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	SSK1104	2 コーディネーション、ボールフィーリング、リフティング、手つなぎシュートゲーム	
配当年次	1年生	開講学期	後期	コース区分*	全コース	2 予復修課題：リフティング3回、腿を使って真っすぐに上がるよう挑戦する(取組時間1時間程度)	
授業概要	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(パス、シュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めて行く中でリーダーシップやスポーツマンシップの向上、ルールの理解を目指す。						3
	1) 「止める」、「蹴る」、「運ぶ」の基本的技術を実践できるようになる。 2) 個人戦術、グループ戦術の基本を理解することができるようになる。 3) 基本的なルールを理解し、説明できるようになる。						3 予復修課題：リフティング5回、腿を使ってリズムカルに上がるよう挑戦する(取組時間1時間程度)
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						4
	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						4 リフティング、インサイドキック、ミニゲーム
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						5	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						5 予復修課題：リフティング7回、両腿を使って長く続けられるよう挑戦する(取組時間1時間程度)	
成績評価の方法(全体で100%)						6	
履修における留意事項						6 アジリティ、守備の原則(個人戦術)、ミニゲーム	
1) 授業到達目標への到達努力の評価						6 予復修課題：ゴールを守るための1対1のポジショニングを考える(取組時間1時間程度)	
評価割合						7	
1. 小テスト、感想文など						7 アジリティ、守備の原則(個人戦術)、ミニゲーム	
2. 中間テスト						7 予復修課題：ゴールを守るための2対1でのポジショニングを考える(取組時間1時間程度)	
3. 課題レポートなどの提出物						8	
4. 授業中の発表、討論						8 シュート、守備の原則(チーム戦術)、ゲーム	
5. 授業への参加意欲						8 予復修課題：マンツーマン、ゾーンの守備について理解する(取組時間1時間程度)	
6. 自主的学習(予習・復習など)						9	
7.						9 シュート、攻撃の原則(個人戦術)、ゲーム	
2) 最終到達度の評価						9 予復修課題：様々なシュート場面を映像などで見る(取組時間1時間程度)	
1. まとめのテスト						10	
2. 論文、まとめのレポートなど						10 ボールフィーリング、攻撃の原則(チーム戦術)、ゲーム	
3.						10 予復修課題：ゴールに向かうために有効なポジションを考える(取組時間1時間程度)	
再評価の実施	する	しない				11	
教科書						11 キャッチング、GKの基本、シュートゲーム	
参考書	『心の壁をとりのぞくサッカーアイズブレイク集』江藤高志ベールボールマガジン社2012年					11 予復修課題：ゴールの大きさ、手を使えるエリア、足を使う場面を理解する(取組時間1時間程度)	
アクティブ・ラーニング						12	
実践学習[第1回~第12回]						12 フルコートでのゲーム	
グループワーク[第13回、第14回、第15回]						12 サッカーコートの大さを体験する。(複数球使用する)	
						12 予復修課題：ルールの理解、再開方法などを整理する(取組時間1時間程度)	
						13	
						13 8v8でハーフコートゲーム(リーグ戦)	
						13 サイドから攻撃することで、センターにスペースができることを理解する	
						13 予復修課題：ポジションの役割を理解する(取組時間1時間程度)	
						14	
						14 8v8でハーフコートゲーム(リーグ戦)	
						14 オフサイド判定をすることで、コンパクトに守る	
						14 予復修課題：ルールの理解、オフサイドについて整理する(取組時間1時間程度)	
						15	
						15 8v8ハーフコートゲーム(リーグ戦)	
						15 予復修課題：ポジションの特性を理解し、自分の得意なポジションを考える(取組時間1時間程度)	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ハンドボール Handball		単位数	授業内容*	
担当者	鈴木 康信 (SUZUKI Yasunobu)			1	1 オリエンテーション ハンドボール競技の概要 予復修課題： 第1回の授業のため、予修・復修はありません。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSK3101	2 個人技能1 (ボール遊び、パス、シュート) 予復修課題： プリントを見て予修しておく事(1時間)	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	
配当年次	3年生	開講学期	前期	コース区分*		
授業概要	ハンドボールは「走・跳・投」からなっており、これらを支える基礎体力の養成に十分役立つ教材である。また、比較的小さなボールを器用な手で扱えるため、誰でも容易にプレーできる特徴を持っている。 本授業では、ハンドボールの歴史・特性・ルール及び審判法を実技の中で概説し、ゴール型ボールゲームとしての攻撃方法及び防御方法を指導する。					
	授業到達目標 ・ボールの扱いやパス、シュートといった基本技術を習得する。 ・基本技術をコンビネーションプレーへと応用できる。 ・ルールを理解し、ゲームに応用できる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業ごとに1時間を目安に予復修を行うことが望ましい。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		60 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3. 実技テスト		40 %				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
				15	まとめ 予復修課題： プリントを見て予修しておくこと。(1時間)	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ラグビー Rugby Football			単位数	授業内容**	
担当者	青山 紫雲 (AOYAMA Shiun)			1	1 オリエンテーション 内容：本科目の目標、内容、流れ、ルール、評価方法について 予復修課題：シバラスの内容を熟読しておくこと。[取組時間：約30分程度]	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSK3102	2 タグラグビーでラグビー特有の動きやルールについて理解する 内容：タグラグビーの初歩的な動きやルールをゲームを通して体験 予復修課題：学んだ動きやルールを復修し知識を深めること。[取組時間：約30分程度]	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	3 タグラグビーでラグビー特有の動きやルールについて理解する 内容：チームの特徴やルールに応じた作戦を立ててゲームに活かす 予復修課題：ルールを理解しゲームが運営出来るように準備すること。[取組時間：約45分程度]
配当年次	3年生	開講学期	前期	コース区分*		4 ラグビーの基本プレイを使って（アタック&ディフェンス） 内容：パス・キャッチ・キック・コンタクト・ラン等の基本プレイ獲得と実践 予復修課題：アタックとディフェンスを構成する基本プレイについて復修し理解を深めること。[取組時間：約30分程度]
授業概要	ラグビーワールドカップ2019日本大会は、世界中から高い関心と注目を集めて大成功を収め、日本ラグビーは大躍進を遂げた。今後国内においては青少年の育成さらには生涯スポーツとして、競技人口が増えることが期待される。そこで本科目においては、ラグビーのスポーツ特性を根底に据え、基本動作を中心にラグビーについての実践的なプレイの獲得を目的とする。さらにラグビー特有の楕円型ボールやルールを使ったゲーム作りを通して、ラグビーの魅力を理解すると共に、将来の実践指導に役立てる。					
授業到達目標	ラグビーの基本的な競技特性について理解する。 パス・キャッチ・キック・コンタクト・ラン等の基本プレイを獲得する。 複数人グループ内での個々の役割を主体的に作り出し、ゲームに活かす。 安全なコンタクトプレイのやり方を獲得する。 将来のラグビー実践指導において安全で魅力的な指導が出来るようになる。					
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業への参加・取りくみ・討論を重視する。グループワークにおける準備や振り返りにはメンバーの自覚を持ち積極的に参加する事。服装は学部ジャージ・学部ポロシャツ・トレーニングシューズで参加する事。ラグビー場での実技だが、雨天時は記念館を使用する為、インドアシューズを準備する事。各自、飲料水を持参する事。				
1. 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング 実技は13回実施予定。 授業の殆どがアクティブラーニングである。 失敗を恐れず楽しみながらプレイし、他者との積極的なコミュニケーションを取る事。				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	30 %					
5. 授業への参加意欲	30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	20 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	%					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
						11 ラグビーを構成する専門的プレイ（キック） 内容：動きとルールの理解 予復修課題：専門プレイの特徴・動き・ルールを復修し理解すること。[取組時間：約30分程度]
						12 トレーニングゲーム 内容：グループを作りチームとして対戦する。 予復修課題：チーム内での個々の役割を主体的に作り出しゲームに活かす。[取組時間：約45分程度]
						13 トレーニングゲーム 内容：グループを作りチームとして対戦する。 予復修課題：チームのコミュニケーション能力を更に向上させゲームに活かす。[取組時間：約45分程度]
						14 トレーニングゲーム 内容：グループを作りチームとして対戦する。 予復修課題：チームとしての戦略・戦術を立てて効果的にゲームに活かす。[取組時間：約45分程度]
						15 トレーニングゲーム 内容：グループを作りチームとして対戦する。 予復修課題：チーム及びメンバーとして総合的な評価を行い将来の実践指導に活かす。[取組時間：約45分程度]

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ソフトボール・野球 Softball・Baseball			単位数	授業内容**		
担当者		徳永 政夫 (TOKUNAGA Masao)			1	1 オリエンテーション (授業の進め方、成績評価の方法)		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング				2 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する。		
授業形式		実技	科目区分	スポーツ実技科目	SSK3103	2 キャッチボールの基本 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する。		
配当年次		3年生	開講学期	前期/後期	コース区分*	3 個人の防御技術 (スローイング) 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する。		
授業概要		ソフトボールは投げる、打つ、走る、捕るなどの基本的運動が多く含まれるスポーツである。本授業では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を説明し、その練習方法を紹介する。また、ゲームを通して、そのゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。					4 個人の防御技術 (キャッチング) 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する。	
授業到達目標		ソフトボールの基本的技術や戦術、練習方法を習得すること。集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになること。					5 個人の防御技術 (野手の基本技術・飛球捕球) 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する。	
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	安全管理上、ゲームにおけるチーム編成上の理由から受講者数は40名程度に制限します。初回の授業で決定しますので、必ず出席すること					
1. 小テスト、感想文など		%	予復修時間: 45分程度おこなうこと。					
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		20 %						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		50 %						
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	グループワーク [第10回、第11回、第12回					
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %	第13回、第14回]					
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書								
参考書								
		15 予復修課題: 授業の進展に応じて指示する。						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	テニス Tennis				単位数	授業内容**	
担当者	野田 霞 (NODA Kasumi)				1	1 オリエンテーション(授業概要の説明、受講に当たっての注意事項の確認など) 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				SSK3104	2 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	2 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
配当年次	3年生	開講学期	前期/後期	コース区分*		3 前回の復修・ボレー練習・フォアハンドの練習 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
授業概要	プロテニスプレーヤーとしての経験を活かし、授業を展開する。 テニスは、複数の打法を組み合わせてラリーを行うスポーツである。 従って、多数の動作を習得する必要がある、動作の分析や、運動の仕組みを学習する。 一方、対戦相手が必ず必要な競技特性から、強度のコントロールによって、生涯スポーツとしても楽しめることを理解し、テニスを通じたコミュニケーション及び、仲間との協調性など、テニス特有の他者との関わりを学ぶことを目的とする。					3 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
授業到達目標	到達目標は初心者にわかりやすく、テニス技術を教えることができるようになること。 テニスの打法全てを習得し、テニス動作の原則を理解し説明出来ること。 ルールを理解し、試合及び審判が出来るようになること。 生涯スポーツであるテニスの特徴を理解し、健康促進につながるテニスを理解すること。 対象者に沿った、試合形式や練習を提案、立案、出来るようになること。					4 前回の復修・ボレー練習・バックハンドの練習 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						5 前回の復修・ラリー練習 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						6 前回の復修・ボレーボレー・スマッシュ練習・ラリー練習 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						7 前回の復修・サーブ練習 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	出席及び、授業への意欲を評価します。 ラケット及びボールの使用により安全面を考慮する必要のある競技です。 従って、授業態度に問題のある場合は失格とします。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		40 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		30 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	テニス指導教本	公益財団法人	日本テニス協会	大修館書店	2015年	15 予復修課題：授業時に課題を出すので予修復修すること	

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		バドミントン Badminton		単位数	1		授業内容**		
担当者	田島 さと (TASHIMA Sato)			非常勤	講師			1	オリエンテーション (授業の概要、授業の目的、成績評価の方法、諸注意等) 予復修課題: シラバスを熟読しておくこと。オリエンテーションの内容を再度確認する。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSK2105		2			基本技術の習得 (グリップの種類、フォーム確認、シャトル慣れ、シャトルトス、基本ストロークの確認、サービス) 予復修課題: ラケットの握り方(グリップの種類)について調べておくこと。
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース		3		
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期	コース区分*			4		
授業概要	バドミントンは生涯スポーツに適した種目の一つであり、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、バドミントンの基本的な技術の向上を図り、競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法の習得を図る。また、戦術やルールについて理解し、中学や高校における体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について学ぶ。								
授業到達目標	バドミントンの特性を理解し、説明できる。 基本的技術や練習方法、ゲームにおける攻撃・防御の方法を実践できる。 戦術やルール・マナーについて理解し、ゲームを楽しむことができる。 一連の技術指導や試合の運営方法を実践できる。								
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)									
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。									
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。									
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。									
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	基本的に全出席が望ましい。(出席重視) やむを得ない事情を除き、遅刻・早退は認めない。			11				
1. 小テスト、感想文など	10 %	積極的な履修態度で臨むこと。			ダブルスゲーム (実践練習) (ルール・審判法・マナーの習得、コート範囲・サービスエリアの確認) 予復修課題: ダブルスゲームのルールについて調べておくこと。				
2. 中間テスト	%	実技試験、出席状況、授業態度等を総合的に評価する。			12				
3. 課題レポートなどの提出物	%	予復修取組時間: 30分程度			ダブルスゲーム (リーグ戦) (ダブルスの戦術、ショートサービス・ロングサービス練習) 予復修課題: サービスの基本技術、ダブルスルール、コート範囲、サービスエリア範囲について復修しておくこと。				
4. 授業中の発表、討論	10 %				13				
5. 授業への参加意欲	40 %				ダブルスゲーム (リーグ戦) (実技テスト: ショートサービス、ロングサービス) 予復修課題: ダブルスの戦術について理解を深める。				
6. 自主的学習(予習・復習など)	%				14				
7.	%				ダブルスゲーム (リーグ戦) (ダブルスの戦術、ダブルスのローテーション) 予復修課題: ダブルスの問題点と改善点を明記し、次週までにダブルスゲームの感想文を提出する。				
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング								
1. まとめのテスト	%	・調査学習 [第6回、第11回]			15				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	・グループワーク [第6回~第15回]			講義の総括、ダブルスゲーム (リーグ戦) (ダブルスの戦術、ダブルスのローテーション) 予復修課題: ダブルスの戦術、ローテーションについて理解を深める。				
3. 実技テスト	40 %	・ミニッツペーパー [第10回、第14回]							
再評価の実施	する	しない							
教科書									
参考書	バドミントン 基本と戦術 (PERFECT LESSON BOOK) 実業之日本社 2017年								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ダンス Dance		単位数	1		授業内容**	
担当者		藤崎 道子 (FUJISAKI Michiko)		鄭 英美 (JUNG Youngmi)		専任 & 非常勤		1 オリエンテーション：本科目の到達目標、授業の進め方、評価方法について 予復修課題：シラバスに目を通しておく。
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSK2106				2 学校体育における「ダンス」の位置づけとねらいについて。 ダンスを楽しもう！ 予復修課題：学習指導要領解説のダンスの内容に目を通しておく。
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース			
配当年次	2年生	開講学期	前期	コース区分*				
授業概要	ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したりイメージや創造性を深めることで、心豊かな人間形成につなげていくねらいがある。また音楽(リズム)に合わせて全身を動かすことでの爽快感や楽しさを味わい心身を解放していくことはストレスを発散し、"心の健康"に大きく関連してくる。本授業では多様な動きを体験し、自己の身体の動きの要素を広げていくこと。習得した動きや新しく創造した動きを基にダンス創作を行い相互に発表しあうことで、ダンスを通して他者との関わりを深める。							
	授業到達目標	1. 音楽に合わせて自由にのびのびと身体を動かすことができる。 2. さまざまな種類のダンスの基本的な動きを習得する。 3. ダンス作品を工夫して創作し、発表することができる。 4. 他のグループの作品を鑑賞し評価することができる。						
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本授業の評価はグループ発表が主であるため授業への参加意欲に乏しいものは、評価の対象とならないため留意しておくこと。					
1. 小テスト、感想文など		5 %	音楽に親しむことを毎回の予修とする。 授業で行った課題ダンスの動きを復修として各授業後に1時間練習しておくこと。					
2. 中間テスト		30 %						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		15 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	実践学習【第2～4回】					
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %	グループワーク【第5回】					
3.		40 %	テスト【第6回】					
再評価の実施	する	しない	グループワーク【第7～15回】					
教科書								
参考書 明日からトライ!ダンスの授業(大修館書籍)								
						15		ダンス評価法を学ぶ まとめ(ダンスの教育的価値についてまとめる) 予復修課題：ダンス発表時の自己フィードバックを記入してくる。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		剣道 Kendo		単位数	1		授業内容**	
担当者	木寺 英史 (KIDERA Eishi)					専任		1 オリエンテーション (授業の進め方の確認) 予復修課題: 授業の進め方について確認する。(60分)
実務経験のある教員による授業				ナンバリング		SSK2107		2 基本動作 (構え、体さばき、礼法) 予復修課題: 基本動作について調査する。(60分)
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*		全コース		3 基本動作 (構え、体さばき、礼法、素振り) 予復修課題: 課題レポートを作成する。(90分)。
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期					4 基本動作 (面・小手・胴・付きの基本打突) 予復修課題: 基本打突を習得する。(60分)
授業概要	日本の代表的な身体運動文化である剣道の特性を理解し、伝統的な修練により正しい剣道の学び方や指導法を習得する。さらに、合理的身体操作の観点から剣道技術をとらえる着眼点を身につける。							5 対人技能 (しかけ技) 予復修課題: 対人技能について確認する。(60分)
授業到達目標	剣道を正しく学ぶことによって、技能の向上だけではなく、指導法、審判法、そして礼法などを体得する。							6 対人技能 (しかけ技・連続技) 予復修課題: 対人技能について確認する。(60分)
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	出席状況および授業への積極的な取り組み、および剣道技術・指導法の習得状況などを総合的に評価する。 初心者の用具購入については別途指示する。					
1. 小テスト、感想文など		%						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		20 %						
6. 自主的学習 (予習・復習など)		30 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		30 %	グループディスカッションを取り入れる。					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書								
参考書	『錯覚のスポーツ身体学』 木寺英史 東京堂出版 2011							
								15 予復修課題: 授業の総括をする。

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		柔道 Judo		単位数	1		授業内容**			
担当者	松崎 守利 (MATSUZAKI Moritoshi)			非常勤	講師		1	授業の進め方、受講上の注意点の説明。柔道の理念の解説、柔道における外傷とその予防法について理解する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後はノートにまとめるなどして振り返りを行う。		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSK2108		2	礼法の意義、礼法、柔道のウォーミングアップ、後ろ受身を習得する。 抑込技の基準を理解する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後はノートにまとめるなどして振り返りを行う。			
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース		3	横受身、抑込技(袈裟固)を習得する。抑込技からの逃れ方も併せて習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は受身のポイントについて振り返りを行う。		
配当年次	2年生	開講学期	前期/後期				4	横受身を習得し、崩し及び投げ技の理論を理解し、膝をついた相手を支釣込足で投げる抑込技(横四方固)を習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は投技の理論について振り返りを行う。		
授業概要	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解したうえで、授業を行う。柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなど)、投げ技(手技、腰技、足技)、固め技(抑え技)の習得に取り組む。 また、武道必修化に対応できるように、柔道の授業を安全に行うための指導法、審判規定審判法についても解説する。						5	横受身、前回り受身を習得し、膝をついた相手に体落を施し、併せて体さばきを習得する抑込技(上四方固)を習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は前回り受身のポイントについて振り返りを行う。		
授業到達目標	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解し説明できるようになる。礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなどを理解し、投げ技につなげていく。特に受け身においては、事故ケガ予防の観点から自在に受け身をとれるようになる。投げ技と固め技については、安全に自由練習ができるようになるだけでなく、中学校、高等学校において授業を行う事ができる技能を身につける。更に審判規定を理解し審判ができるようになる。						6	前回り受身、基本姿勢、組み方、八方崩しを習得する。 立位から前回り受身を行う。基本動作を理解し、投技について理解を深める。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は基本動作について振り返りを行う。		
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								7	投技 膝車、体落を習得する。 投技を習得するための、かかり練習を習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は技の振り返りを行う。	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								8	投技 大外刈、大腰を習得する。 投技を習得するための練習法を習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は技の振り返りを行う。	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								9	投技 大内刈、釣込腰を習得する。 動きの中で技を施す方法を習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は技の振り返りを行う。	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								10	投技 小内刈、背負投を習得する。 動きの中で技を施す方法を習得する。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は技の振り返りを行う。	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				11	投技 投技の連絡変化を習得する。 投技から投技への連絡変化を習得し、投げ技による自由練習ができるようになる。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は技の連絡変化について、技の組み合わせを考える。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1) 柔道は、重大事故が多い種目のため、担当教員の指示に従わなかったり、受講態度に問題がある場合は、失格とする場合がある。 2) 予復修には、1時間程度取り組むこと。						12	投技 投技から固め技への連絡変化を習得する。 投技から固め技への連絡変化を習得し、自由練習で、固め技が使えるようになる。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は投げ技と固め技の連絡変化について振り返りを行う。
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング						13	受身のテストを実施する。投技、抑込技による自由練習ができるようになる。 投技と抑込技を使って、相手の動きに応じて技を施すことができるようになる。 予復修課題： 当日の課題を確認し、授業後は投技、抑込技のポイントをまとめておく。
2. 中間テスト		%								
3. 課題レポートなどの提出物		%								
4. 授業中の発表、討論		%								
5. 授業への参加意欲		50 %								
6. 自主的学習(予習・復習など)		%								
7.		%								
2) 最終到達度の評価									14	投技のテスト 審判規定の解説および審判法。 試合の安全管理などについて理解を深める。 予復修課題： 審判規定について重要なポイントをまとめる。
1. まとめのテスト		50 %							15	投技のテスト 総まとめ 審判法と試合の運営方法について習得する。 予復修課題： 授業を振り返り、柔道を授業で行うために必要な点についてまとめる。
2. 論文、まとめのレポートなど		%								
3.		%								
再評価の実施	する	しない								
教科書										
参考書										

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		レクリエーション実技 Practic Activities of Recreation			単位数	授業内容**		
担当者	花田 道子 (HANADA Michiko)			1	専任	1 ガイダンス 授業の概要や進め方、成績評価の方法などについて説明する。 予復修課題：レクリエーションとは何か？について調べてくること。		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSK3201		2 コミュニケーションワーク 緊張をほぐし打ち解けるアイスブレキングを目的とした活動を行なう。 予復修課題：アイスブレキングとは何か？について調べてくること。		
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース		3 コミュニケーションワーク ロールプレイを通じて相手を思いやるホスピタリティの意義について学ぶ。 予復修課題：ホスピタリティとは何か？について調べてくること。	
配当年次	3年生	開講学期	前期	コース区分*			4 コミュニケーションワーク 非言語的コミュニケーションにもとづいたロールプレイを行なう。 予復修課題：ノンバーバルで行うレクリエーションについて調べてくること。	
授業概要	様々なレクリエーション活動を実施し、その楽しさを体験することを通じて、コミュニケーションの促進や活動を効果的に展開するための方法、対象に合わせた内容のアレンジ方法などを学習する。こうした学習内容を踏まえて、レクリエーション活動の指導プログラムを立案、実施出来るようになることを目指す。						5 レクリエーション活動における相互作用 参加者同士の相互作用を促進するための実習を行なう。 予復修課題：ジョハリの窓について調べてくること。	
授業到達目標	レクリエーション活動の楽しさを体験、共有することができる。 レクリエーション活動の基本的な展開方法を習得する。 対象や目的に合わせたレクリエーション活動プログラムを立案・実施することができる。						6 レクリエーション活動における相互作用 参加者と支援者(指導者)の相互作用について学習する。 予復修課題：発達障害の特性について調べてくること。	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	成績は出席数、レポートなどの提出物、最終試験(班でのプログラム立案および発表)によって総合的に評価する。					
1. 小テスト、感想文など		%	授業内容および成績評価方法について、履修人数や講義の進度などの状況に応じて変更が生じる可能性がある。変更が生じた場合には適宜UNIVERSAL PASSPORTで指示する。					
2. 中間テスト		%	各授業ごとに1時間を目安に予復修をおこなう					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %	アクティブ・ラーニング					
4. 授業中の発表、討論		%	実践学習、ロールプレイ [第3回、第4回]					
5. 授業への参加意欲		30 %	グループワーク [第7回、第8回]					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%	グループディスカッション [第9回、第10回]					
7.		%	模擬授業 [第11回、第12回、第13回、第14回]					
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		%	指導実習					
2. 論文、まとめのレポートなど		%	11 班ごとに立案した活動プログラムを発表し、評価とフィードバックを行なう。 予復修課題：各班で模擬を行っておき事前の用具の準備もしっかりやっておくこと。					
3. プログラム立案・指導実習		40 %	指導実習					
			12 班ごとに立案した活動プログラムを発表し、評価とフィードバックを行なう。 予復修課題：各班で模擬を行っておき事前の用具の準備もしっかりやっておくこと。					
再評価の実施		する	しない		指導実習			
					13 班ごとに立案した活動プログラムを発表し、評価とフィードバックを行なう。 予復修課題：各班で模擬を行っておき事前の用具の準備もしっかりやっておくこと。			
教科書		なし 必要に応じて適宜指示あるいは資料を配布する。						
参考書		日本レクリエーション協会, 2007, 『レクリエーション支援の基礎』						
				14 班ごとに立案した活動プログラムを発表し、評価とフィードバックを行なう。 予復修課題：各班で模擬を行っておき事前の用具の準備もしっかりやっておくこと。				
				15 発表内容とフィードバックをもとに、班ごとにプログラムの修正を行なう。 予復修課題：各班で作成した指導案を修正して提出すること。				
				15 振りかえりとまとめ				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		エアロビックダンス Aerobic dance		単位数	授業内容**	
担当者		藤崎 道子 (FUJISAKI Michiko)		1	1 オリエンテーション (授業内容の確認) エアロビックダンス体験・エアロビックダンス概論 予復修課題: 授業の内容を日誌にまとめる	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSK2109	2 現代社会の健康問題と運動の必要性 (講義) エアロビックダンス基本動作 予復修課題: 基本動作とその注意点についてまとめる	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	3 正しい姿勢と運動強度について理解する エアロビックダンス基本動作 予復修課題: 基本動作とその注意点についてまとめる	
配当年次	2年生	開講学期	後期		4 エアロビックダンスと運動としての安全性を理解する 動作スキルを高める (動作チェック) 予復修課題: 関節運動の種類と関わる筋肉を調べる	
授業概要	エアロビックエクササイズ (有酸素運動) は生活習慣病の予防・改善に有効であるとされる運動形態であり、中でもエアロビックダンスは特にトータルの身体づくりの運動としてこれからますます重要視されてくる運動形態です。本授業では、現代を取り巻く健康問題をヒントに、その改善対策としての運動の位置付けを理解し、エアロビックダンスの特徴やその有効性、今後の可能性を学んでいきます。エアロビックダンスの良さを体感しながら、その指導ができるようになるための技能を習得していきます。					
授業到達目標	エアロビックダンスの基本となる動作を習得し、正しく動くことができる。 身ぶり・手振り・声かけなど指導者として必要とされる指導技能を習得する。 エアロビックダンスの楽しさを知ることができる。 エアロビックダンスベーシックインストラクター (ADBI) 資格取得に向けたスキルを身につけることができる。					
卒業認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)						
【知識・技能】 学士 (スポーツ学) として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法 (全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	中間テストとして実技技能試験と最終到達度確認テストとして筆記試験を実施			
1. 小テスト、感想文など		%	本授業は実技中心の形態であるが、講義も行うので必ず筆記用具を持参すること 各授業ごとに1時間を目安に予復修を行うことを望む			
2. 中間テスト		40 %				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		15 %				
6. 自主的学習 (予習・復習など)		5 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		30 %	実践学習【第1~4、12、15回】			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	ロールプレイ【第6回】			
3.		%	グループワーク【第8~10回】			
再評価の実施	する	しない	テスト【第5・11・14回】その他			
教科書						
参考書						
11		実技テスト 与えられた課題に対する指導力テスト 予復修課題: 実際の指導を行った感想、自己フィードバックレポートをまとめる				
12		エアロビックダンスを楽しもう! 様々なバリエーションのプログラムを体験する 予復修課題: 体験したプログラムの感想をまとめる				
13		エアロビックダンス理論まとめ 予復修課題: まとめのテストに向けて準備する				
14		まとめのテスト 講義の総括・これからの健康づくりを担う職業としての考え方 予復修課題: 授業の内容を日誌にまとめる				
15		エアロビックダンスを楽しもう! 対象者に応じたエアロビックダンスの提供の仕方、エアロビックダンスの活用方法 予復修課題: エアロビックダンスの可能性についてのレポートをまとめる				

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		キャンブ Camp		単位数	1		授業内容**	
担当者		梨羽 茂 (NASHIBA Shigeru)		ほか		専任		1 講義：キャンブの特性（意義と目的、組織と種類、ルールとマナー）を理解する。 自然環境での生活体験をとおし、社会性や課題解決能力を養う知識・技能の基礎を知る。 予復修課題：教科書理論編第1章を読み、ノートにまとめる。
実務経験のある教員による授業				ナンパリング		SSK1301		2 講義：キャンブの対象（人間と自然の関係）を理解する。 人間と自然の関わりを理解し、こころとからだの安全を意識したキャンブ指導を知る。 予復修課題：教科書理論編第2章を読み、ノートにまとめる。
授業形式		実技		科目区分 スポーツ実技科目		コース区分* 全コース		3 講義：キャンブの指導（キャンブ指導者の役割） キャンブ指導者の役割を理解し、求められる資質（自然・人・社会の理解、技術）を知る。 予復修課題：教科書理論編第3章を読み、ノートにまとめる。
配当年次		全学年		開講学期 前期集中				4 講義：キャンブの安全（安全の考え方、安全管理の実際）を理解する。 キャンブにおける安全の考え方を理解し、指導者に求められる安全管理、対処法を知る。 予復修課題：教科書理論編第4章を読み、ノートにまとめる。
授業概要		恵まれた自然環境と施設の中で、キャンブ指導者としての自然におけるマナーや人との関わり、野外活動の基礎から応用を体得し、さらに指導・立案・計画方法等や、さまざまな指導場面での実践方法を学ぶ。						5 実習：基本装備（個人装備・団体装備、キャンブ道具）について理解する。 キャンブを快適・安全に過ごすための個人・団体装備理解し、その使用法を知る。 予復修課題：教科書実技編第1章を読み、ノートにまとめる。
授業到達目標		キャンブの意義や目的および技能を理解し、説明・実践することができる。 自然と人との関係、指導者の役割および安全管理について理解し、説明・実践できる。 対象に応じたキャンブプログラムの企画・運営・評価のあり方を理解し、説明・実践できる。 キャンブの基礎技術・応用技術を理解し、説明・実践できる。						6 実習：キャンブの基礎実技 生活技術（テント設営・撤収法）について理解する。 テントでの生活を快適にするための設営・撤収法を理解し、実践する。 予復修課題：教科書実技編第2章を読み、ノートにまとめる。
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								7 実習：キャンブの基礎実技 生活技術（野外炊事法）について理解する。 食事を楽しく安全に行うための知識・技術を理解し、実践する。 予復修課題：教科書実技編第2章を読み、ノートにまとめる。
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								8 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ アイスブレイキング キャンパー同士のこころの壁を壊し活動へスムーズに参加する方法を理解し、実践する。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。								9 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ 人とかがかわるアクティビティ イニシアティブゲーム等でグループの信頼性や協調性を高める方法を理解し、実践する。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。								10 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ 自然とふれあうアクティビティ(水辺活動) 水辺観察活動等で自然に対する気づきや関心、理解を深める方法を知り、実践する。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				11 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ 冒険プログラム（スキングダイビング） 高度な技術や強度な身体活動を伴う自然克服活動で、課題解決能力等を養う方法を知る。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		学内で行われるガイダンス・事前講義に全て出席した者のみ、実習への参加を認める。 人・自然と関わる上で必要とされるルール・マナー・エチケットを守りながら、実習に参加できること。 実習時に必要な個人装備を準備できること。 事後講義に必ず出席すること。 予復修で180分の学修を目安とすること。				12 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ 冒険プログラム（カヌー） 高度な技術や強度な身体活動を伴う自然克服活動で、課題解決能力等を養う方法を知る。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
1. 小テスト、感想文など		%		アクティブ・ラーニング おもに実習時に個人およびグループに対し、課題解決型学習によるの問題を提示する。 (第5～14回)				13 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ 冒険プログラム（登山） 高度な技術や強度な身体活動を伴う自然克服活動で、課題解決能力等を養う方法を知る。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
2. 中間テスト		%						14 実習：キャンブの応用実技 アクティビティ 人とかがかわるアクティビティ 実習中の様々な体験から得た個々の学び・気づきをグループで分かち合う。 予復修課題：教科書実技編第3章を読み、ノートにまとめる。
3. 課題レポートなどの提出物		10%						15 講義：ふりかえり、キャンブインストラクター課程認定試験 実習をふりかえり、学び・気づきを一般化し、日常生活への適用を試みる。 予復修課題：教科書全編を読み、要点を整理する。
4. 授業中の発表、討論		20%						
5. 授業への参加意欲		20%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7. 実技の理解度・習熟度		30%						
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		%						
2. 論文、まとめのレポートなど		20%						
3.		%						
再評価の実施		する		しない				
教科書		日本キャンブ教会指導者育成委員会編、『キャンブ指導者入門』、日本キャンブ協会発行、2010年						
参考書								

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		マリンスポーツ【水上】 Marine Sports				単位数	授業内容**		
担当者		船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)				1	1 オリエンテーション1 予復修課題：泳力を高めるためのトレーニングを積んでおく		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング				専任	2 オリエンテーション2 予復修課題：リグ名称の暗記		
授業形式		実技		SSK1302			3 プレセーリング スタート5ステップの修得 予復修課題：陸上トレーニングの復習、イメージトレーニング、要点のまとめ		
配当年次		全学年		開講学期		前期集中		4 セイルアップ、ウインドアビームでの帆走 予復修課題：5ステップの復修、イメージトレーニング、要点のまとめ	
授業概要		現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっている。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施する。						5 方向転換1(ラフ&ベア) 風上、風下への方向転換 予復修課題：ラフ&ベアの復修、イメージトレーニング、要点のまとめ	
授業到達目標		海岸より出廷し、目標物を回航して戻ってくる技術を習得する。 海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。 野外スポーツに必要な天候による実施(活動)の是非に関する判断能力を身につける。						6 方向転換2(ロープタッキング) 予復修課題：ロープタッキングの復修、イメージトレーニング、要点のまとめ	
卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								7 方向転換3(タッキング) 予復修課題：タッキングの復修、イメージトレーニング、要点のまとめ	
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8 方向転換4(ジャイピング) 予復修課題：ジャイピングの復修、イメージトレーニング、要点のまとめ		9 目標物に向けた帆走、方向転換 予復修課題：方向転換のまとめ(0.5時間)	
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						10 風上・風下へのセーリング 予復修課題：風下・風下へのセーリングテクニックのまとめ		11 長距離セーリング 予復修課題：風の方向確認の方法のまとめ(0.5時間)	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						12 セーリングドリル(1) 予復修課題：海上を自由に帆走する方法のまとめ		13 セーリングドリル(2) 予復修課題：海上を自由に帆走する方法のまとめ	
成績評価の方法(全体で100%)						履修における留意事項		14 セーリングドリル(3) 予復修課題：海上を自由に帆走する方法のまとめ	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		200mほどの泳げる泳力を身につけておくことが望ましい。		15 セーリングテスト 予復修課題：決められた場所へのセーリングの練習			
1. 小テスト、感想文など		%		夏季休暇中に福津市福間海岸にて実施する					
2. 中間テスト		%		各授業毎に60分程度の予復修をおこなうことが望ましい。					
3. 課題レポートなどの提出物		%							
4. 授業中の発表、討論		%							
5. 授業への参加意欲		30 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)		%							
7.		%							
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		70 %		実技					
2. 論文、まとめのレポートなど		%		【1~15回目】					
3.		%							
再評価の実施		する		しない					
教科書									
参考書									

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	マリンスポーツ【水中】				単位数	授業内容**	
	Marine Sports (Under Water)				1		
担当者	森川 壽人 (MORIKAWA Toshihito)				専任	1 スクーバダイビングの資格について 予復修課題： 資格の取得方法、試験内容の復修、確認	
実務経験のある教員による授業	ナンバリング SSK1302					2 ダイビングの機材について 予復修課題： ダイビング機材名称の暗記、手入れ方法のまとめ	
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	3 ダイビングの生理学 予復修課題： 潜水による体内の反応、残留窒素についてのまとめ	
配当年次	全学年	開講学期	後期集中			4 ダイビングの計画と実施 予復修課題： 安全なダイビングスケジュールの組み方の確認	
授業概要	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっている。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施する。						
	○海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。 ○野外スポーツに必要な天候による実施（活動）の是非に関する判断能力を身につける。 ○オープンウォーターダイバーの資格を取得することができる。						
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】	学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					○	7 予復修課題： マスククリアーの反復練習(教員監視のもと) プール実習(マスククリアー)
【思考力・判断力・表現力】	実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。					◎	8 予復修課題： スノーケリングの反復練習(教員監視のもと) プール実習(スノーケリング)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					◎	9 予復修課題： レギュレーターの使用方の反復練習(教員監視のもと) プール実習(スクーバダイビング①)
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事前の説明会に必ず出席すること。 実技は学外(沖縄県を予定)で行うので、必要経費を徴収する。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		30 %					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3. 実技試験		40 %					
再評価の実施	する	しない	◎				
教科書	別途、指示する						
参考書	15 予復修課題： スクーバダイビング技能に関するレポート作成						

\*コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 \*\*授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず〈UNIVERSAL PASSPORT〉で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スノースポーツ Snow Sports		単位数	授業内容**	
担当者	得居 雅人 (TOKUI Masato)	ほか		1	専任	1 用具の取り扱い、スタンスとポジションの確認、転倒練習、スケーティング フットスイッチ 予復修課題：事前配付資料を読みイメージづくりをする。
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		SSK1303		2	2 登坂、片足直滑降からの停止、ワンフットチャージ 予復修課題：事前配付資料を読みイメージづくりをする。
授業形式	実技	科目区分	スポーツ実技科目	コース区分*	全コース	3 リフトの乗降、サイドスリップ(直滑降、斜滑降) 予復修課題：事前配付資料を読みイメージづくりをする。
配当年次	全学年	開講学期	後期集中			4 ジグザグ、木の葉落とし 予復修課題：事前配付資料を読みイメージづくりをする。
授業概要	スノースポーツの代表であるスキーとスノーボードを取り上げ、基礎技術を学び中級斜面を爽快かつ安全に滑走する技能を修得する。さらに、班別活動や集団生活を通して社会的スキルを身につけることも目指す。					
	スキー・スノーボードの基礎技術を修得し、中級斜面を安全に滑走することが出来る。スキー・スノーボードのターンの仕組みと基礎技術について説明出来る。安全な滑走のためのゲレンデにおけるルール・マナーについて説明出来る。					
授業到達目標	卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					
【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						
【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。						
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	ルールやマナーを逸脱した行為は重大な事故につながる危険性を伴うものであるため、実習中には十分な注意が必要である。毎時間ごとに、60分の予修が必要である。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	60 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	20 %	実技とミーティングにより、実技と理論を融合する。				
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書						
15 予復修課題：前日の反省を日誌にまとめ技能の点検をする。						

\* コース区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

\*\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

## 自由選択科目

### 《卒業に要する単位》

履修区分	最低修得単位数	要卒単位数
自由選択科目	18 単位以上	18 単位



# シラバス一覧 E 《自由選択科目》

(1)

科目区分・科目名	配当年次・学期	掲載ページ
----------	---------	-------

社会教育主事関連科目 (2018年度以前入学生対象)			
生涯学習と社会教育	3年	後	341
生涯学習・社会教育の指導者	3年	前	342
社会教育計画の立案	3年	後	343
社会教育施設の経営	3年	後	344
社会教育実習	3・4年	後集中	345
社会教育演習	4年	前	346
インターンシップ (企業研修)	2年	前	51

教職課程関連科目			
教職論	1年	前	347
教育原論	1年	後	348
教育心理学	2年	前	349
特別支援教育概論	2年	前	350
教育制度論	2年	前	351
教育史【2018年度以前入学生対象】	3年	前	352
教職総合講義	3年	前・後	353-354
教育課程論	2年	後	355
道德教育指導法	3年	後	356
教育方法論【2018年度以前入学生対象】	3年	後	357
教育方法論 (総合的な学習の時間の指導法を含む。)	3年	後	
特別活動指導法	3年	前	
生徒・進路指導論	3年	前	358
教育相談	2年	後	359
教職発展ゼミナール【2018年度以前入学生対象】	3・4年	前・後	360
学校体験活動	3年	前・後	

大学コンソーシアム関門関連科目			
科目区分・科目名	実施校	配当年次	掲載ページ
(科目名は別途掲示予定)	九州共立大	別途指定された学年	別途配付
	九州国際大		
	下関市立大		
	西日本工業大		
	北九州市立大		

科目区分・科目名	配当年次・学期	掲載ページ
----------	---------	-------

経済学部 経済・経営学科 推奨科目			
コア科目群	ミクロ経済学入門	2年	前
	マクロ経済学入門	2年	前
	会社入門	2年	前
	会計入門	2年	前
	日本経済論入門	2年	前
	経営学特講 I 【IS09001】	3年	後
	会社法	2年	前
領域科目群	環境のビジネス	2年	前
	日本経済論	2年	後
	金融論入門	2年	後
	経営史	2年	後
	スポーツビジネス	2年	後
	スポーツ施設管理【体育施設管理】	3年	前
	サービス実務総論	3年	前
実践科目群	サービス実務演習	3年	後
	研究会 A・B・C・D【FP技能検定3級】	1年	前・後
	研究会 E・G【FP技能検定2級】	2年	前・後
	研究会 E・F・G【旅行業務取扱管理者】	2年	前・後
	研究会 I・J【旅行業務取扱管理者】【2019年度入学生のみ】	2年	前
	研究会 E【サービス接遇検定】	2年	前
	研究会 G【秘書検定】	2年	後
経済学部 地域創造学科 推奨科目			
地域創造基礎科目群	ビジネスとICT	2年	後
実践科目群	職業研修 A【2019年度入学生のみ】	2年	前
	職業研修 B【2019年度入学生のみ】	2年	後
	海外地域学研修【2019年度入学生のみ】	2年	後

※経済学部『講義要項』の掲載ページ参照

# シラバス一覧 E 《自由選択科目》

(2)

科目区分・科目名	配当年次・学期	掲載 ページ
----------	---------	-----------

K-CIP科目（2019年度以降入学生対象）			
文章理解	1年	前・後	361
社会科学【基礎】	1年	前	362
人文・自然科学【基礎】	1年	後	363
数的処理 I	1年	前	364
数的処理 II	1年	後	365
数的処理 III	2年	前	366
社会科学【応用 I】	2年	前	367
社会科学【応用 II】	2年	後	368
教養基礎答練 I	2年	前	369
教養基礎答練 II	2年	後	370
(K-CIP)憲法演習	2年	前	371
(K-CIP)民法(総則、物権)演習	2年	前	372
(K-CIP)民法(債権、親族・相続)演習	2年	後	373
(K-CIP)行政法演習	2年	後	374
(K-CIP)ミクロ経済学演習	2年	前	375
(K-CIP)マクロ経済学演習	2年	後	376
(K-CIP)教職教養(教育原理・教育心理)	2年	前・後	377
(K-CIP)保健体育科 I	2年	後	378
(K-CIP)教職基礎演習	2年	後	379
(K-CIP)労働法演習	3年	前・後	/
(K-CIP)刑法演習	3年	前・後	/
(K-CIP)財政学・経済事情演習	3年	前・後	/
(K-CIP)行政学・経営学演習	3年	前・後	/
(K-CIP)政治学演習	3年	前・後	/
(K-CIP)国際関係演習	3年	前・後	/
(K-CIP)社会学・社会事情演習	3年	前・後	/
(K-CIP)会計学演習	3年	前・後	/
(K-CIP)教養科目演習(公安職 I)	3年	前	/
(K-CIP)教養科目演習(公安職 II)	3年	後	/
(K-CIP)教養科目演習(行政職)	3年	前	/
(K-CIP)専門科目演習(行政職)	3年	後	/

科目区分・科目名	配当年次・学期	掲載 ページ
----------	---------	-----------

K-CIP科目（2019年度以降入学生対象）			
(K-CIP)SPI演習(行政職 I)	3年	前	/
(K-CIP)SPI演習(行政職 II)	3年	後	/
(K-CIP)専門科目記述式演習(行政職)	3年	後	/
(K-CIP)教職教養(教育史・教育法規)	3年	前・後	/
(K-CIP)保健体育科 II	3年	前	/
(K-CIP)教職専門演習	3年	後	/
(K-CIP)一次対策(直前模試)	4年	前	/
(K-CIP)二次対策	4年	前	/
(K-CIP)総合対策講座	4年	前	/

授業科目名 (Subject)		生涯学習と社会教育 Lifelong Learning and Social Education		単位数	授業内容*			
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)		2	1 ガイダンス 我が国の生涯学習の現状と課題 予復修課題： シラバスの確認、生涯学習の現状と課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。			
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		専任	2 我が国の教育基本法から生涯学習の考え方を学ぶ 予復修課題： 教育基本法の精読、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。			
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(社会教育主事関連科目)	履修 学部	経済学部	3 第3期教育振興基本計画による生涯学習社会の構築 予復修課題： 教育振興基本計画、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
配当年次	3年生	開講学期	後期	学部	スポーツ学部	4 生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育、企業内教育等の関係性 予復修課題： 生涯学習と社会教育の関係、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
授業概要	生涯学習と社会教育の意義を理解しながら、学習者の特性と学習の継続発展について考察する。さらに生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育の関係について講義する。特に、生涯学習社会における社会教育と社会教育行政、一般行政と社会教育行政の関係など各教育機能相互の連携と体系化について学習するとともに、地方公共団体の予算編成及び執行等について講義する。					5 生涯学習ネットワーク社会の構築 ～学習関連機関の相互連携～ 予復修課題： 生涯学習ネットワーク、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
	教育基本法・教育振興基本計画について理解し説明できる。 生涯学習と社会教育の意義を説明できる。 生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育の関係性について説明できる。 社会教育と社会教育行政、一般行政と社会教育行政の関係など各教育機能相互の連携と体系化などを説明できる。 地方公共団体の予算等を説明できる。					6 生涯学習推進システム 全庁的システム ～首長部局と行政内相互の連携～ 予復修課題： 首長部局と行政内連携、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
授業到達目標	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)					7 生涯学習推進システム 民間との連携 予復修課題： 民間との連携、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
	1) 生涯学習および社会教育の本質や学習者の特性・教育相互の連携についての理解を図る。					8 生涯学習関連施策の動向 ～第6期中央教育審議会生涯学習分委会「議論の整理」の検討～ 予復修課題： 「議論の整理」の動向、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
	2) 社会教育の計画・立案についての理論と方法の理解を図る。					9 生涯学習関連施策の動向 ～青少年教育支援施策～ 予復修課題： 青少年教育施策、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
	3) 専門的な知識と実践的な能力向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上を図る。					10 生涯学習関連施策の動向 ～家庭教育支援施策～ 予復修課題： 家庭教育支援施策、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
4) 社会教育主事としての幅広い視野と社会的関心を持ち、専門的内容の理解を図る。					11 生涯学習関連施策の動向 ～成人教育支援施策～ 予復修課題： 成人教育支援施策、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。			
成績評価の方法		履修における留意事項				12 生涯学習関連施策の動向 ～高齢者教育支援施策～ 予復修課題： 高齢者教育支援施策、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)		毎回授業で10分課題(授業で提示)を実施。評価は課題・出席(意欲)・まとめのテストにおける総合評価とする。				13 学習成果の活用とボランティアの養成及び活用 予復修課題： 学習成果の活用、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
1) 授業到達目標への到達力の評価		【第1回～第14回】				14 諸外国における地域づくりと生涯学習 予復修課題： 諸外国の生涯学習、授業中課題を調べ(予修2時間)、講義後ノートに整理し深める(復修2時間)。		
1. 小テスト、感想文など						%		15 講義の総括・まとめのテスト 予復修課題： 講義を振り返り(予修2時間)、生涯学習・社会教育について考えを深める(復修2時間)。
2. 中間テスト						%		
3. 課題レポートなどの提出物						20 %		
4. 授業中の発表、討論						%		
5. 授業への参加意欲						30 %		
6. 自主的学習(予習・復習など)						%		
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング 授業中に実施する10分間の課題(新聞を読んでコメントを書く)を活用して受講生の意見を共有する。						
1. まとめテスト		50 %						
2. 論文、まとめレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。							
参考書	西岡正子『成長と変容の生涯学習』ミネルヴァ書房、2014。							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	生涯学習・社会教育の指導者 Leader of Lifelong-learning and Social Education				単位数	授業内容*	
担当者	田代 利恵 (TASHIRO Rie)				2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング						
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(社会教育主事関連科目)	履修 学部	経済学部	スポーツ学部	
配当年次	3年生	開講学期	前期				
授業概要	生涯学習・社会教育の指導者は、生涯学習ならびに社会教育活動を支援したり、活性化させたりする役割を担います。学習者を直接的に支援する「講師」や「先生」だけではなく、学習支援に関わる人も指導者ととらえ、その役割を理解し、適切な支援の方法について講義します。 地方公共団体おける経験を踏まえ、具体事例を取り入れた授業を展開します。						
	生涯学習・社会教育の基礎的な事項について説明できる。 生涯学習・社会教育の指導者の役割と求められる能力について理解し、説明することができる。 社会的課題と生涯学習・社会教育の関連について考え、的課題と解決方法を考えることができる。						
授業到達目標	<p>1) 生涯学習および社会教育の本質や学習者の特性・教育相互の連携についての理解を図る。</p> <p>2) 社会教育の計画・立案についての理論と方法の理解を図る。</p> <p>3) 専門的な知識と実践的な能力向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>4) 社会教育主事としての幅広い視野と社会的関心を持ち、専門的内容の理解を図る。</p>						
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
成績評価の方法					履修における留意事項		
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)					課題の提出があります 授業では、講義だけでなく討議を行うため、事前・事後の準備が必要となります		
1) 授業到達目標への到達努力の評価							
1. 小テスト、感想文など					%		
2. 中間テスト					%		
3. 課題レポートなどの提出物					30 %		
4. 授業中の発表、討論					20 %		
5. 授業への参加意欲					20 %		
6. 自主的学習(予習・復習など)					%		
7.					%		
2) 最終到達度の評価					アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト					30 %		
2. 論文、まとめのレポートなど					%		
3.					%		
再評価の実施	する	しない					
教科書	適宜、資料を配布します						
参考書							
	1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法 予復修課題：シラバスの確認					
	2	生涯学習と社会教育の定義・理念 予復修課題：生涯学習と社会教育についてこれまで学んだ内容を確認する					
	3	生涯学習と社会教育の指導者 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	4	指導者の役割と専門性 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	5	社会的課題と生涯学習・社会教育 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	6	地域・学校との連携 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	7	コーディネートの手法 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	8	問題解決型学習の手法 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	9	問題解決型学習の手法 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	10	リーダーとフォロワーシップ 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	11	ケース討議 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	12	ケース討議 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	13	地域課題演習 地域課題解決に向けた提案の検討 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	14	地域課題解決の提案 プレゼンテーション、質疑応答 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					
	15	総括・まとめのテスト 予復修課題：授業(教材含む)の予復修を120分程度おこなうこと					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	社会教育計画の立案 Planning of Social Education Programs		単位数	授業内容*	
担当者	永瀧 美法 (NAGAFUCHI Minori)		2	1 オリエンテーション：生涯学習社会における社会教育の意義・役割および社会教育行政の構造と課題について説明し、概論の授業で学んだであろう基礎知識を確認する。 予復修課題：概論で学んだことの復修。教科書第1章を復修として読んでおく(15分)。	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		非常勤講師	2 社会教育計画の基本1：急激な社会変化の起きている現代において、社会の問題・課題について理解を深め、それらを解決するための社会教育計画策定の実際を示す。 予復修課題：教科書第2章・1を読み、重要と思うところにアンダーラインを引く(30分)。	
授業形式	講義	科目区分 自由選択科目(社会教育主事関連科目)	履修学部	経済学部	3 社会教育計画の基本2：地域総合計画・生涯学習推進計画と社会教育計画の関係性とその作成プロセスを紹介する。また、一般行政と教育行政の現状と課題、違いも紹介する。 予復修課題：教科書第2章・2・3を読んでおく。自治体の総合計画を調べてみる(30分)。
配当年次	3年生	開講学期	後期	スポーツ学部	4 社会のニーズに対応する視点1：地域再生と「生涯学習のためのまちづくり」から「生涯によるまちづくり」への変遷とその中核をなす人材養成とネットワーク作りの意義を学ぶ 予復修課題：教科書第3章・1・2を読み、重要なところにアンダーラインを引く(30分)。
授業概要	生涯学習の意味と社会教育の役割を理解した上で、社会のニーズに対応する社会教育計画を立案するための基礎知識と企画立案の方法を伝える。 まず社会教育計画とは何かという基本的な知識について説明する。その上で社会的ニーズの内容とそのニーズに対応するための4つの視点および社会的課題について解説する。 理解を深めるために、自治体の社会教育計画や社会教育事業の事例を具体的に紹介する。それらの事例を参考にしながら、実際に計画を企画・立案する方法について講義する。グループでの話し合いやワークも取り入れる予定である。				
	生涯学習と社会教育の意義と役割を理解した上で、以下のことができるようになることを目指す。 社会教育計画の行政上の位置づけと意義について説明することができる。 社会教育計画を企画立案する際に重要ないくつかの社会的要請課題について説明できる。 社会教育計画立案の手順についてポイントを記述することができる。 実際の個別事業計画を参考にして、自分が関心あるテーマの事業計画を作成できる。 グループワーク・討議や発表を通して、地域課題について問題意識を持つことができる。				
授業到達目標	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)				
	1) 生涯学習および社会教育の本質や学習者の特性・教育相互の連携についての理解を図る。		8 社会教育調査：学習ニーズ把握のための調査方法・分析方法について概要を示す。その後アンケート及びグループインタビューの実際をロールプレイで体験する。 予復修課題：教科書第4章を読み、プリントの穴埋めをしておく(30分)。		
	2) 社会教育の計画・立案についての理論と方法の理解を図る。		9 社会教育事業計画：地域の問題課題を解決するためには、中長期的な視点が必要である。その事業計画の種類と内容、年間事業計画立案の手順と評価を事例を用いて説明する。 予復修課題：教科書第5章を読み、指定された方法でアンダーラインを引く(30分)。		
	3) 専門的な知識と実践的な能力向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上を図る。		10 青少年・高齢者対象の事業事例を素材として、学習プログラム編成の手順、事業の目的と内容・方法、事業の構成要素、学習方法・形態・PDCAサイクルについて概要を説明する。 予復修課題：教科書第6章を読み、プリントの穴埋めをしておく(30分)。		
4) 社会教育主事としての幅広い視野と社会的関心を持ち、専門的内容の理解を図る。		11 前半、事業の構成要素、学習の方法・形態を具体的に紹介し、後半、2～3人の小グループで問題解決型の個別事業計画を立案する。地域の問題の本質を探り、文章にする。 予復修課題：自治体の事業計画から興味・関心あるテーマの学習プログラムを調べる(60分)。			
成績評価の方法		履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)		「社会教育主事」任用資格取得希望者で、授業「生涯学習と社会教育」の受講修了者が望ましい。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		ミニッツ・ペーパー・課題レポートだけでなく授業中の発言、討論への積極的な参加・発言を希望します。			
1. 小テスト、感想文など 20 %		アクティブ・ラーニング			
2. 中間テスト %					
3. 課題レポートなどの提出物 30 %					
4. 授業中の発表、討論 10 %					
5. 授業への参加意欲 20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など) %					
7. %					
2) 最終到達度の評価		ミニッツ・ペーパー [第2,4,5,6,7回]			
1. まとめのテスト %		グループワーク [第11回～第14回]			
2. 論文、まとめのレポートなど 20 %		プレゼンテーション [第14,15回]			
3. %					
再評価の実施	する	しない	12 前週に引き続き、個別事業計画の立案を続ける。地域の問題を解決するヒント事例を探しその事例を複数の視点に沿ってまとめ、理解を深める。 予復修課題：教科書第9～10章を読んでおく。関心のあるテーマを絞り込んでおく(30分)。		
教科書	山本恒夫・浅井経子・山本和人編「社会教育計画」文憲堂、2007年				
参考書	13 学習プログラムの編成：2～3人のグループで、KJ法を用いながら、ヒント事例を地域の実情にあったものにアイデアを発展させ、その後、プログラムとして文字化していく。 予復修課題：個別事業計画プログラムを仕上げておく(60～90分)。				
	14 学習プログラムの編成：作成した個別事業計画プログラムを2つのグループ間で発表し相互フィードバックを行う。その結果及び教員の指摘を元に最終仕上げをする。 予復修課題：個別事業計画プログラムの最終仕上げをし、最終発表の準備をしておく(30分)。				
	15 先週選ばれた事業計画書を全員の前でプレゼンテーションし、示された指標に沿って評価を行い、成果と課題を確認する。その後、講評を行い、各自最終修正案を作成する。 予復修課題：グループごとに最終発表準備しておく(30分)。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	社会教育施設の経営 Management of Social Educational Institutions			単位数	授業内容*	
担当者	山田 明 (YAMADA Akira)			2	専任	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング					
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(社会教育主事関連科目)	履修 学部	経済学部 スポーツ学部	
配当年次	3年生	開講学期	後期			
授業概要	現代社会における急激な変化の中、今、社会教育施設の経営にはどのようなニーズがあり、そのニーズを満たす未来志向的な経営とは何かという課題が問われている。本授業では、生涯学習を支援する各社会教育施設の沿革、種類、期待される役割、さらに経営の課題等について、具体的な実践例を基にケーススタディも取り入れて実施する。					
	<p>(1) 生涯学習を支援するツールとして、社会教育施設が必要であることを理解できる。</p> <p>(2) 多様な社会教育施設の経営を学ぶことで、自らの生涯学習の振興に寄与できる。</p> <p>(3) 社会教育施設で実施されている教育方法を具体的に学ぶことで、日常的な教育活動や他者との関係づくりに役立てることができる。</p> <p>(4) 社会教育施設経営のマネジメントを、一般的な経営活動にも生かすことができる。</p>					
授業到達目標	1) 生涯学習を支援するツールとして、社会教育施設が必要であることを理解できる。					
	2) 多様な社会教育施設の経営を学ぶことで、自らの生涯学習の振興に寄与できる。					
	3) 社会教育施設で実施されている教育方法を具体的に学ぶことで、日常的な教育活動や他者との関係づくりに役立てることができる。					
	4) 社会教育施設経営のマネジメントを、一般的な経営活動にも生かすことができる。					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 生涯学習および社会教育の本質や学習者の特性・教育相互の連携についての理解を図る。						
2) 社会教育の計画・立案についての理論と方法の理解を図る。						
3) 専門的な知識と実践的な能力向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上を図る。						
4) 社会教育主事としての幅広い視野と社会的関心を持ち、専門的内容の理解を図る。						
成績評価の方法			履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)			成績評価は、出席状況、授業中の課題提出、まとめのテストの総合評価とする。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価			本授業は、社会教育主事任用資格関連の科目であり、主体的な受講態度が望まれる。各回の予修及び復修について予修(2時間)、復修(2時間)とする。			
1. 小テスト、感想文など			%			
2. 中間テスト			%			
3. 課題レポートなどの提出物			20 %			
4. 授業中の発表、討論			%			
5. 授業への参加意欲			30 %			
6. 自主的学習(予習・復習など)			%			
7.			%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめテスト			50 %			
2. 論文、まとめレポートなど			%			
3.			%			
再評価の実施	する	しない	プレゼン【第15回】、討論【第1回～第12回】			
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	改訂『社会教育法解説』(井内慶次郎ほか)、財団法人 全日本社会教育連合会					
1	ガイダンス、「社会教育施設の必要性」 社会教育の基本的な性格とその活動基盤である社会教育施設を概観する。 予復修課題： シラバスを熟読し内容を理解する(予修)、講義後に内容を深める(復修)。					
2	「社会教育施設の必要性」 生涯学習時代における生涯学習の進展と社会教育施設へのニーズを検討する。 予復修課題： 生涯学習の進展と社会教育施設を調べ、講義後に内容を深める。					
3	「公民館の役割」 社会教育施設の中核的な存在である公民館の果たしている役割を整理する。 予復修課題： 公民館の役割を調べ、講義後に内容を深める。					
4	「公民館の経営」 社会教育施設の中核的な存在である公民館の経営の課題について検討する。 予復修課題： 公民館の経営を調べ、講義後に内容を深める。					
5	「生涯学習センター(社会教育センター)の役割と経営」 生涯学習センター(社会教育センター)の役割を整理し経営の課題を検討する。 予復修課題： 生涯学習センター(社会教育センター)を調べ、講義後に内容を深める。					
6	「図書館の役割と経営」 公民館と並ぶ主要社会教育施設である図書館の役割と経営を検討する。 予復修課題： 図書館の役割と経営を調べ、講義後に内容を深める。					
7	「博物館の役割と経営」 公民館と並ぶ主要社会教育施設である博物館の役割と経営を検討する。 予復修課題： 博物館の役割と経営を調べ、講義後に内容を深める。					
8	「指定管理者制度」 社会教育施設の経営の多様化と指定管理者制度位の関係性を検討する。 予復修課題： 指定管理者制度を調べ、講義後に内容を深める。					
9	「社会教育施設の社会教育主事」 社会教育主事に求められるプログラム作成能力及び養成について検討する。 予復修課題： 社会教育主事に求められる能力について調べ、講義後に内容を深める。					
10	「社会教育施設による広報活動」 社会教育プログラムを効果的に周知するための広報戦略について検討する。 予復修課題： 社会教育施設による広報活動について調べ、講義後に内容を深める。					
11	「青少年が抱える課題と青少年教育施設」 課題を抱えた青少年を支える青少年教育施設の在り方を検討する。 予復修課題： 青少年教育施設について調べ、講義後に内容を深める。					
12	「生涯スポーツと体育・スポーツ施設の役割」 すべての世代が楽しむことができるスポーツ施設の在り方を検討する。 予復修課題： 生涯スポーツと体育・スポーツ施設について調べ、講義後に内容を深める。					
13	「ワークショップ」 本授業で興味を持ったテーマについて、レポートにまとめプレゼンの準備をする。 予復修課題： レポート・プレゼンの準備(予修)、演習後内容を深める(復修)。					
14	「ワークショップ」 本授業で興味を持ったテーマについて、レポートにまとめプレゼンの準備をする。 予復修課題： レポート・プレゼンの準備(予修)、演習後内容を深める(復修)。					
15	総括とまとめのテスト レポートのプレゼン(代表者)、レポートの提出(全員)、まとめのテスト。 予復修課題： レポート・プレゼンの完成(予修)、まとめのテスト後内容を深める(復修)。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		社会教育実習 Practical Training of Social Education		単位数	授業内容*	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)		2	専任	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング				
授業形式	実習	科目区分	自由選択科目(社会教育主事関連科目)	履修 学部	経済学部 スポーツ学部	
配当年次	3-4年生	開講学期	後期集中			
授業概要	講義・演習で学んだ知識を社会教育の現場で理解を深めるとともに、学習活動に参加することにより、教室では得ることのできない体験の機会を持つことがねらいである。実習先は、教育委員会、自治体及び民間の社会教育施設等とし実習期間は、2週間(80時間)とする。					
	地域の人々とコミュニケーションを図ることができる。履歴書・エントリーシート等実習先への提出に必要な書類を作成できる。実習を希望する施設と交渉し、承諾を取ることができる。実習先の指示に従いながら現場で実習することができる。実習日誌を通して自分の体験したことを文章にまとめ、報告することができる。実習内容をプレゼンテーションすることができる。					
授業到達目標	<p>地域の人々とコミュニケーションを図ることができる。 履歴書・エントリーシート等実習先への提出に必要な書類を作成できる。 実習を希望する施設と交渉し、承諾を取ることができる。 実習先の指示に従いながら現場で実習することができる。 実習日誌を通して自分の体験したことを文章にまとめ、報告することができる。 実習内容をプレゼンテーションすることができる。</p>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 生涯学習および社会教育の本質や学習者の特性・教育相互の連携についての理解を図る。				8		
2) 社会教育の計画・立案についての理論と方法の理解を図る。				8		
3) 専門的な知識と実践的な能力向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上を図る。				9		
4) 社会教育主事としての幅広い視野と社会的関心を持ち、専門的内容の理解を図る。				9		
成績評価の方法		履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)		自治体等の施設での2週間の実習とする。事前指導、現場実習、事後指導を必須とする。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		事前指導、現場実習、事後指導を必須とする。				
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書	【すべての回で実施】					
事前研修 ～社会教育実習の説明・留意事項・心構え等のガイダンス及び履歴書作成～ 予復修課題： シラバスを確認し、社会教育実習内容を調べ(予修2時間)、研修後留意事項を確認する(復修2時間)。				1		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				2		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				3		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				4		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				5		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				6		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				7		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				8		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				9		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				10		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				11		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				12		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				13		
実習先(社会教育関連機関)での実習 予復修課題： 翌日の実習準備(予修2時間)、実習日誌の作成及び明日の準備(復修2時間)。				14		
事後研修 予復修課題： 活動報告・実習レポート作成、プレゼン準備(予修2時間)、総括し振り返る(復修2時間)。				15		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		社会教育演習 Seminar on Social Education		単位数	授業内容*	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)		2	1 授業ガイダンス・授業ルール確認・演習の概要・グループ編成・役割分担の確認等 予復修課題： シラバスの確認、社会教育主事の職務を調べ(予修2時間)、演習後内容を深める(復修2時間)。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		専任	2 演習モデル市町村の設定 ~各自がモデルとして関わる市町村を決定~ 予復修課題： モデルとしたい市町村を調べ(予修2時間)、演習後決定したモデル市町村の資料収集をする(復修2時)。	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(社会教育主事関連科目)	履修 学部	経済学部	3 モデル市町村の概要把握 予復修課題： モデルとする市町村の概要を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。
配当年次	4年生	開講学期	前期	スポーツ学部		4 モデル市町村の現行施策等の現状分析及び把握 予復修課題： モデル市町村の施策等の現状を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。
授業概要	社会教育主事任用資格単位取得科目である。我が国の市町村段階における概要把握方法、市町村の資料を収集し、年間事業計画・個別事業計画等の企画立案をする。 演習を通して、社会教育の現場を把握する手順・手法を学び、社会教育主事としての現場力・実践力を身に付けることを目標とする。					
	授業到達目標 社会教育主事に必要な現場実践力を身に付けることができる。 市町村の概要を把握し、必要な資料収集ができる。 収集した資料に基づき、年間計画を立てることができる。 個別事業計画を立てることができる。 社会教育事業のPRのため、事業のチラシ(パンフレット)が作成できる。					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 生涯学習および社会教育の本質や学習者の特性・教育相互の連携についての理解を図る。				8 各自のモデル市町村の年間事業計画を策定 予復修課題： 年間事業計画策定に活用する資料を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。		
2) 社会教育の計画・立案についての理論と方法の理解を図る。				9 各自のモデル市町村の年間事業計画を策定 予復修課題： 年間事業計画策定に活用する資料を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。		
3) 専門的な知識と実践的な能力向上および学習者とのコミュニケーション能力の向上を図る。				10 各自のモデル市町村の個別事業計画の作成 予復修課題： 個別事業計画に活用する資料を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。		
4) 社会教育主事としての幅広い視野と社会的関心を持ち、専門的内容の理解を図る。				11 各自のモデル市町村の個別事業計画の作成 予復修課題： 個別事業計画に活用する資料を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。		
成績評価の方法		履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)		社会教育主事任用資格取得の必須科目であり、社会教育主事関連科目の総括の科目でもある。よって関連科目の「生涯学習と社会教育」・「社会教育の指導者」・「社会教育施設の経営」・「社会教育計画の立案」を履修していることを受講の前提とする。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		12 各自のモデル市町村の個別事業計画の作成 ~スポーツ事業・イベントプログラム~ 予復修課題： 個別事業計画に活用する資料を調べ(予修2時間)、演習後確認・補足する(復修2時間)。				
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		50 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない		【すべての回で実施】		
教科書	教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書	15 演習課題の報告と提出(評価) モデル市町村の現状診断、年間事業計画、個別事業計画、評価票、PRチラシ等の提出 予復修課題： 提出物の最終確認(予修2時間)、本演習を総括し振り返る(復修2時間)。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	教職論 Teaching Profession				単位数	授業内容*	
担当者	茂見 剛 (SHIGEMI Go)				非常勤 講師	1 ガイダンス～「教職論」の意義やねらいについて知ろう。 ・授業の進め方や計画について理解し、自らの目指す教師像を模索する。 予復修課題：(予修)シラバスをよく読んでおくこと(30分)。(復修)配布プリントを自分なりにまとめる(3.5時間)	
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育の基礎理論に関する科目			2 教員になるためのプロセスについて知ろう。 ・教員免許、採用試験の概要を理解する。 予復修課題：まとめプリント(免許制度)を完成させること。わからない点がないか確認していただくこと(4時間)。	
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む。)					
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM1101			
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修 学部	スポーツ学部		
配当年次	1年生	開講学期	前期				
授業概要	教職課程の初年度は、学校・教師に関する基礎的事項についての知識の習得及び理解が必要となる。教職論は、具体的に教師の仕事とは何か、学校とはどのような組織か、教師にはどのような資質・能力が求められているのか等を理解していくための教職課程の導入科目である。					3 中教審答申から見た教師に求められる資質・能力について考える。 予復修課題：(予修)自身の理想の教師像について考えをまとめる(4時間)	
授業到達目標	教師の具体的な仕事内容とそれに伴う義務と責任を理解し、表現できる。 (教員採用試験に出題されるレベルの事項について70%以上の理解) 教師としての基本的な使命感を形成し、実践できる。 学校・教師が置かれている現状を理解し、説明できる。					4 望まれる教師像について意見交流をし、自らの考えをまとめよう。 望まれる教師像について自らの考えを他者に説明し、その多様性を理解する。 予復修課題：(復修)自分の意見と、同じ班だった人との意見を比較し、改めて自身の教師像をまとめよう(4時間)。	
授業が重視する教育目標〔特に重視 重視〕							
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。							
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。							
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。							
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。							
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合					
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		60 %	第4回 グループワーク				
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	『新訂版 教育法規エッセンス』花書院、2018年。						
参考書							
						11 教師の仕事(教育課題への対応)について知ろう。 「いじめ問題」について、担任、教科担当、組織等様々な視点から事例研究を行う。 予復修課題：本時学習を基にいじめに関わる教師の構えと防止策をまとめること。	
						12 学校組織の一員としての教師 前時の内容を含め、学校では様々な場面で組織またはチーム対応が求められる。 予復修課題：後半学習のまとめプリントを仕上げて来ること。(4時間)	
						13 教員の研修と服務規程について知ろう。 研修の意義と各種研修及び服務上の規程について理解する。 予復修課題：後半学習のまとめプリントを仕上げて来ること。(4時間)	
						14 まとめのテスト及び説明 まとめのテストと説明を行い、理解度を確認する。 予復修課題：学習プリントファイルをきちんと整理していただくこと。(4時間)	
						15 本講義のまとめ 将来への展望を持とう。 高校教師の指導の実際(DVD)に学ぶ。・学習プリントファイルの点検を受ける。 予復修課題：ファイルをまとめ((4時間))忘れずに持参すること。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	教育原論 Principles of Education		単位数	授業内容*	
担当者	池田 竜介 (IKEDA Ryusuke)		2	1 オリエンテーション 授業全体の流れの説明、教育の定義や必要性について説明を行う。 予復修課題：第1回で提示する資料をもとに、人間の発達について考える(2時間)	
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育の基礎理論に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
実務経験のある教員による授業		ナンバリング	SSM1201		
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修学部	スポーツ学部
配当年次	1年生	開講学期	後期		
授業概要	本講義は、教育の必要性や目的・理念、歴史等教育に関する基礎概念に関する学習を通して教員に必要な基礎知識等を身につけることを目的としている。				
	本講義においては、教育の必要性や意義・意味について考察を深めた上で、西洋教育思想の流れとその思想が社会や日本に与えた影響に関する理解、日本における教育思想の流れと教育システムの展開や関連事項について学習する。				
授業到達目標	教育の目的や理念、思想の変遷やそれらを実現する教育システムを学ぶことを通して教育学の基本的な知識を身につけ、表現できる。				
	教育の歴史に関する基本的な知識を身につけ、現代に至るまでの教育・学校の変遷について理解し、説明することができる。 教育に関する様々な思想と実際の教育現場のかかわりを理解し実践に生かすことができる。				
授業が重視する教育目標〔特に重視 重視〕					
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。					
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。					
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。					
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。					
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。					
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	UNIVERSAL PASSPORTに配布資料・関連資料を掲載しています。予復修に活用してください。		
1. 小テスト、感想文など		%			
2. 中間テスト		%			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %			
4. 授業中の発表、討論		%			
5. 授業への参加意欲		10 %			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			
7.		%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		60 %	ミニッツペーパー[第1回~14回]		
2. 論文、まとめのレポートなど		%			
3.		%			
再評価の実施	する	しない			
教科書	プリントを適宜配布				
参考書	随時紹介する				
			11 家庭教育の変化と役割 学校制度の登場前後における家庭教育の役割について複数の視点から考察を行う。 予復修課題：家庭教育の役割について自分なりに考察しまとめておこう。(2時間)		
			12 生涯学習社会における社会教育の役割と課題 生涯学習・社会教育に関する代表的な教育学者と代表的な施策について取り上げる。 予復修課題：生涯学習社会における社会教育の役割について教員の立場から考察しよう。(2時間)		
			13 現代的な教育課題 生徒指導 いじめ、不登校、校内暴力等の変遷と対応の変化について学ぶ。 予復修課題：全ての生徒に教育を受ける権利を保障するためにどのような施策が出されているかまとめよう。(4時間)		
			14 現代的な教育課題 特別支援教育 特別支援教育に関する歴史及び思想を概観し、教員に求められる資質について考察する。 予復修課題：特別支援教育に関する施策の変化についてまとめておこう。(4時間)		
			15 講義の総括・まとめのテスト 授業全体を振り返り、まとめのテストを受ける 予復修課題：テストに向け学修内容を振り返る。(8時間) テスト後に再度学修内容を振り返る。(4時間)		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育心理学 Educational Psychology		単位数	授業内容*	
担当者	清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)			専任	1 教育心理学とは何か。 教育心理学の成り立ち、意義、主要な研究方法について知る。 予復修課題： 予:教育心理学における理論と教育実践との関わりを調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)	
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育の基礎理論に関する科目			2 発達と教育 発達の規定因としての遺伝と環境についての理論および発達段階(ピアジェ、ヴィゴツキー)に関わる理論について知る。 予復修課題： 予:心理学における発達とは何かについて調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)
施行規則に定める科目区分又は科目に含まれることが必要な事項		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				3 乳幼児期の発達 乳幼児期の心身や社会的発達の特徴、愛着の形成について知る。 予復修課題： 予:乳幼児期の発達の特徴を調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM2101		4 児童期の発達 児童期の認知や道徳性、対人関係の発達の特徴について知る。 予復修課題： 予:児童期の発達の特徴を調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修学部	スポーツ学部	
配当年次	2年生	開講学期	前期			
授業概要	認知、学習、発達の主要な理論について知り、教育場面における心理社会的課題とその支援方法について考える。					
	1)幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につけることができる。 2)各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。					
授業到達目標	1)幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につけることができる。 2)各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1)免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2)教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3)免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4)生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5)教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	毎回の復修小テストや授業後の小レポートを提出物として評価します。			
1. 小テスト、感想文など		20 %	小レポートについては、その書き方から参加意欲も把握するので、しっかり書き込んでください。			
2. 中間テスト		%	まとめのテストについては、時期が近付いたら授業の際に詳細を説明します。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめテスト		60 %	小レポート(全回)			
2. 論文、まとめレポートなど		%	復修小テスト(第2回~第14回)			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書	特定のテキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。					
参考書	西村純一・井森澄江編 2010 教育心理学エッセンシャルズ[第2版] ナカニシヤ出版ほか					
11 教師と児童・生徒 ビグマリオン効果や教師のリーダーシップに関わる理論から教師の影響力を知り、心理学的技法から児童・生徒の対人関係をふまえた指導を考える。 予復修課題： 予:信頼できる教師とはどのような教師が考える(120分)復:本時の内容を要約する(120分)		12 学級集団における人間関係 公式集団と非公式集団など集団の分類や集団規範について知り、集団レベルでの対人関係について考える。 予復修課題： 予:小・中・高・大それぞれの学習集団の特徴についてまとめる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
13 発達障害の理解 医療分野と教育分野の定義の違いなど発達障害の基礎的な知識を知る。 予復修課題： 予:発達障害について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)		14 教育評価 ブルームの教育評価の分類などを知り教育評価の目的と意義について考える。 予復修課題： 予:評価の種類について調べ、評価の意味を考える(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
15 まとめのテストと振り返り 予復修課題： 予:全講義を振り返りまとめる(120分)復:理解できていなかった部分を調べなおす(120分)。						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT

で確認してください。

授業科目名 (Subject)	特別支援教育概論 Introduction of Education for Children with Special Needs				単位数	授業内容*		
担当者	清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)				1	1 特別支援教育とは インクルーシブ教育システムの構築という視点での特別支援教育の取り組みの基本と特別支援教育に関連する制度について知る。 予復修課題： 予:共生社会について調べる(120分)。復:配付資料を振り返る(120分)。		
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育の基礎理論に関する科目			2 特別の支援を必要とする子ども1 発達障害の心理的特性や学習過程について知る。 発達障害の子どもに対する具体的支援の方法について考える。 予復修課題： 予:発達障害について調べる(120分)。復:配付資料を振り返る(120分)。		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		特別の支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する理解					3 特別の支援を必要とする子ども2 視覚障害・聴覚障害の学習、生活上の困難を知る。 視覚障害・聴覚障害の子どもに対する具体的支援の方法について考える。 予復修課題： 予:視覚障害・聴覚障害について調べる(120分)。復:配付資料を振り返る(120分)。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM2102		4 特別の支援を必要とする子ども3 肢体不自由・病弱の学習、生活上の困難について知る。 肢体不自由・病弱の子どもに対する具体的支援の方法について考える。 予復修課題： 予:肢体不自由・病弱について調べる(120分)。復:配付資料を振り返る(120分)。		
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修学部	スポーツ学部			
配当年次	2年生	開講学期	前期					
授業概要	発達障害や身体障害等の障害、また母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズをもつ幼児・児童及び生徒の特性や学習上、生活上の困難について知り、関連する制度や支援方法について確認する。							
授業到達目標	1) 幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について考えることができる。 2) 個別の教育ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解できる。 3) 幼児・児童及び生徒が学習活動の意欲・達成感を持ちながら学び、生きる力を育てるための実践的なかわりについて考えることができる。							
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)								
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。								
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。								
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。								
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。								
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。								
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達力の評価		評価割合	各回で行うディスカッションに積極的に取り組む姿勢が求められます。 専門的な用語が多いため、普段から予復修を行い、まとめのテストに備えること。					
1. 小テスト、感想文など		20 %						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		10 %						
5. 授業への参加意欲		10 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめテスト		60 %	ミニッツレポート(全回)					
2. 論文、まとめレポートなど		%	グループ・ディスカッション(第2~第7回)					
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	適宜資料を配付する。							
参考書								
						15 予復修課題：		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育制度論 Educational Systems		単位数	授業内容*	
担当者		木村 稔太 (KIMURA Kanta)		2	専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教育の基礎理論に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項				
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM2103		
授業形式		講義		科目区分		自由選択科目(教職課程関連科目)
配当年次		2年生		開講学期		前期
履修学部		スポーツ学部				
授業概要	本講義は、教育職員免許法施行規則に規定する「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項に関する科目」として大学が開設している科目であり、教員免許状取得に必須の科目である。皆さんにとって学校に通うことは「当たり前」だったと思う。しかし、なぜそれが「当たり前」であったのか。世界に目を転じれば、学校に通うことが「当たり前」でない国も存在する。日本において、教育を受けること、学校に通うことはどのような仕組みの下で成り立っているのか授業を通して考えていく。					
	教育に係る社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を習得する 教育制度について課題認識を持ち、説明できるようになる 教育改革の動向と成果に対する理解を深め、自身の考えを表現できるようになる 全体を通して教師の職務は公教育制度という枠組みの中で遂行されていることを理解し、実践に生かすことを目指してほしい。					
授業到達目標	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)					
	1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。 2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。 3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。 4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。 5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。					
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		11 教育委員会制度(1) 教育委員会とは何か? 教育委員会とは何か、定義とともにその役割について解説する。 予復修課題: 配布されたプリントをよく読み考えをまとめておくこと(4時間)		
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			12 前時の内容を確認し、予算面に関する仕組みを理解する。 予復修課題: 授業で提示する課題プリントをしっかりとめること。(4時間)	
1. まとめのテスト		60 %				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%		13 近年の教育改革と今後の方向性 近年の教育改革を概観し、今後行われる予定の教育改革について解説を行う。 予復修課題: 授業後プリントを良く見直しポイントを確認すること。(4時間)		
再評価の実施		する		14 まとめと理解度の確認 予復修課題: これまでの内容を全て確認しておくこと。(4時間)		
教科書		九州大学大学院教育法制研究室『教育法規エッセンス』、花書院、2018年(新訂版)。				
参考書		15 予復修課題: 来年度の教職課程科目について確認しておくこと。(4時間)				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育史 History of Education		単位数	授業内容*	
担当者		草野 舞 (KUSANO Mai)		2	1 オリエンテーション 本講義全体の概要や今後の授業計画等について説明を行う。 予復修課題：講義中の不明な用語等について調べる。	
教員の免許状取得のための選択科目		科目			2 近代以前の生活世界と子ども 近代以前の人々の生活やそこでの成長のプロセスについて理解を深める。 予復修課題：UNIVERSAL PASSPORTを活用し、授業の予復修を40分程度行うこと。	
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			3 『エミール』にみるルソーの教育論 ルソーが『エミール』で述べた教育（子育て）のあり方について理解を深める。 予復修課題：UNIVERSAL PASSPORTを活用し、授業の予復修を40分程度行うこと。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング			4 「子ども」は存在しなかった？ 『<子供>の誕生』のインパクトとは 中世～現代にかけての子ども観の変遷について理解を深める。 予復修課題：授業で扱った教材以外にも、子ども観の変遷をたどる手がかりになりそうなもの考えること。	
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修学部	スポーツ学部	
配当年次	3年生	開講学期	前期			
授業概要	「子どもは保護されるべき存在である」「親は子どもを育てるべきである」「子どもは学校に通うべきである」ということを「当たり前」と考える人は多いでしょう。しかし、そのような「子どもの保護」や「子育て」、「学校」の仕組みはいつから・どのような理由で始まったのでしょうか。本講義では、学校の成立やイギリスを中心とした児童保護策の展開・それに関連する法制度などについて解説を行っていきます。					
授業到達目標	教育をめぐるこれまでの法制度やそこでの子ども・家族の考えられ方について説明できる。教育についての「当たり前」の元になっているものについて考えることができる。現代の「教育課題」とされる事象について、客観的に思考することができる。					
授業が重視する教育目標（特に重視 重視）						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論（教育心理学、教育思想、教育制度等）に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	UNIVERSAL PASSPORTに関連資料を掲載します。授業の予復修を約1時間おこなうとより一層理解が深まります。			
1. 小テスト、感想文など		15 %				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		5 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		60 %	・グループワーク(第4回、第5回など)			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	・ミニツッパパー(第1回～第12回)			
3.		%				
再評価の実施	する	しない				
教科書						
参考書	P.アリエス(1980)『<子供>の誕生』みすず書房、H.カニンガム(2013)『概説 子ども観の社会史』新曜社					
15 これまでの講義の総括と、講義全体をふまえたまとめのテストを行う。 予復修課題：UNIVERSAL PASSPORTを活用し、授業の予復修を40分程度行うこと。						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	教職総合講義 A Course of Lecture on the Teaching Staff			単位数	授業内容*	
担当者	茂見 剛 (SHIGEMI Go)			2	1 オリエンテーション 講義の概要説明, 自己紹介など 予復修課題: 予修: シラバスを読んでくる(20) 復修: 講義の振り返り(40) ( )内は目安時間, 単位は分	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSM3101	2 教員採用試験対策を始める前に 受験する自治体のことを知る(教育政策, 求められる教師像など) 予復修課題: 予修: 受験する自治体について調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)	
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修 学部	スポーツ学部	
配当年次	3年生	開講学期	前期			
授業概要	本講義は、教員採用試験対策用の講義として開講されるため、教員採用試験を受験する学生を対象としております。なお、必修科目ではありません。教職教養問題で出題される内容を中心に進行する予定です。したがって、授業の形式は、基本的には、「講義演習(問題演習やグループワーク等)」の繰り返しとなります。					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が受験する自治体の問題の傾向を把握し、それに対応できるようになる。</li> <li>自分で情報を集めて分析する能力と問題の意味を理解する能力を身に付ける。</li> <li>近年の教育に関して、どのような議論が展開されているのかを理解し、自分の目指す教師像について説明ができるようになる。</li> </ul>					
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が受験する自治体の問題の傾向を把握し、それに対応できるようになる。</li> <li>自分で情報を集めて分析する能力と問題の意味を理解する能力を身に付ける。</li> <li>近年の教育に関して、どのような議論が展開されているのかを理解し、自分の目指す教師像について説明ができるようになる。</li> </ul>					
	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)					
	1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。					
	2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。					
	3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。					
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法		履修における留意事項				8 教育課程 道徳教育について 予復修課題: 予修: 道徳教育についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠に関しては重く評価します。</li> <li>必修ではありませんので、教師になりたいと本気で考えている学生を対象とします。</li> <li>グループワークなどで自分の考えを発表する機会を定期的に設ける可能性があります。</li> <li>学習した内容の理解を深めるために、論文演習などを設ける可能性があります。</li> <li>毎回の予修・復修に取り組む時間は、120分を目安とします。</li> </ul>				9 特別活動(特活)と総合的な学習/探求の時間(総合)について 予復修課題: 予修: 特活と総合についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
1) 授業到達目標への到達努力の評価		<b>アクティブ・ラーニング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の最後に講義のまとめと感想を書いてもらいます(各回: ミニツツペーパー)</li> <li>受験する自治体について調査学習を行ってもらいます(第2回, 第3回)</li> </ul>				10 教育時事 特別支援教育について 予復修課題: 予修: 特別支援教育についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
1. 小テスト、感想文など %						11 教育時事 人権教育について 予復修課題: 予修: 人権教育についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
2. 中間テスト %						12 教育時事 いじめ、体罰、不登校について 予復修課題: 予修: いじめ、体罰、不登校についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
3. 課題レポートなどの提出物 15 %						13 教育時事 学校安全、教育の情報化について 予復修課題: 予修: 教育の情報化についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
4. 授業中の発表、討論 %						14 教育時事 第三期教育振興基本計画について 予復修課題: 予修: 教育振興基本計画についての過去問を調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)
5. 授業への参加意欲 55 %						15 まとめのテスト まとめのテストの解説、講義の総括 予復修課題: 予修: これまでの講義の総復修(120)
6. 自主的学習(予習・復習など) %						
7. %						
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト 30 %						
2. 論文、まとめのレポートなど %						
3. %						
再評価の実施	する	しない				
教科書	特にありません。					
参考書	自分の受験する自治体の過去問を5年分用意できることが望ましい。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教職総合講義 A Course of Lecture on the Teaching Staff		単位数	授業内容*		
担当者		茂見 剛 (SHIGEMI Go)		2	1 オリエンテーション 講義の概要説明, 自己紹介など 予復修課題: 予修: シラバスを読んでくる(20) 復修: 講義の振り返り(40) ( )内は目安の時間, 単位は分		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		SSM3101	2 教員採用試験対策を始める前に 採用試験までの学習スケジュールを立てる 予復修課題: 予修: 合格者体験談を探して読んでくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)		
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修 学部	スポーツ学部		
配当年次	3年生	開講学期	後期				
授業概要	本講義は、教員採用試験対策用の講義として開講されるため、教員採用試験を受験する学生を対象としております。なお、必修科目ではありません。教職教養問題で出題される内容を中心に進行する予定です。したがって、授業の形式は、基本的には、「講義演習(問題演習やグループワーク等)」の繰り返しとなります。						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が受験する自治体の問題の傾向を把握し、それに対応できるようになる。</li> <li>自分で情報を集めて分析する能力と問題の意味を理解する能力を身に付ける。</li> <li>近年の教育に関して、どのような議論が展開されているのかを理解し、自分の目指す教師像について説明ができるようになる。</li> </ul>						
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が受験する自治体の問題の傾向を把握し、それに対応できるようになる。</li> <li>自分で情報を集めて分析する能力と問題の意味を理解する能力を身に付ける。</li> <li>近年の教育に関して、どのような議論が展開されているのかを理解し、自分の目指す教師像について説明ができるようになる。</li> </ul>						
	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
	1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
	2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
	3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。							
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。							
成績評価の方法		履修における留意事項				7 模擬授業対策 指導案作り 予復修課題: 予修: 指導案作りのポイントについて調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)	
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>出欠に関しては重く評価します。</li> <li>必修ではありませんので、教師になりたいと本気で考えている学生を対象とします。</li> <li>グループワークなどで自分の考えを発表する機会を定期的に設ける可能性があります。</li> <li>学習した内容の理解を深めるために、論文演習などを設ける可能性があります。</li> <li>毎回の予修・復修の取り組み時間は、120分を目安とします。</li> </ul>				8 模擬授業の実施 予復修課題: 予修: 指導案を完成させる(60) 復修: 講義の振り返り(60)	
1) 授業到達目標への到達努力の評価						9 論文対策 書き方を知る 予復修課題: 予修: 論文や集団討論の課題について調べてくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)	
1. 小テスト、感想文など		%				10 論文作成 予復修課題: 予修: 特になし 復修: 論文の修正(120)	
2. 中間テスト		%				11 教育原理 頻出箇所について 予復修課題: 予修: 自分の受ける自治体の過去問を確認してくる(60) 復修: 講義の振り返り(60)	
3. 課題レポートなどの提出物		15 %				12 問題演習 予想問題演習(やり直し含む) 予復修課題: 予修: 特になし 復修: 演習課題のやり直し(120)	
4. 授業中の発表、討論		%				13 集団討論対策 予復修課題: 予修: 教育問題を調べ、意見をまとめる(60) 復修: 講義の振り返り(60)	
5. 授業への参加意欲		55 %				14 集団討論対策 予復修課題: 予修: 特になし 復修: 講義の振り返り(60)	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				15 まとめのテスト まとめのテストの解説, 講義の総括 予復修課題: 予修: 講義全体を振り返っておく(120)	
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		30 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	特にありません。						
参考書	自分の受験する自治体の過去問を5年分用意できることが望ましい。						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育課程論 Curriculum Development		単位数	授業内容*	
担当者		鶴田 百々 (TSURUTA Momo)		2	1 教育課程とは何か 教育課程について解説する他、本科履修に当たり必要な知識を確認する。 予復修課題：(予修)自身が受けた小・中・高の教育経験を振り返る。(4時間)	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教育の基礎理論に関する科目	2 教育の法体系を理解し、教育法と教育課程・学習指導要領の関係について学ぶ。 予復修課題：(復修)教育法と教育課程の関係を再確認する。(4時間)	
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		3 教育課程と学習指導要領 (昭和20年代) 学校で学ぶ教育内容はどのように変わってきているのか、変遷について学ぶ。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)		
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM2201		
授業形式		講義		科目区分		履修学部
配当年次		2年生		開講学期		スポーツ学部
後期		4 教育課程と学習指導要領 (昭和30年代) 前時に引き続き、学習指導要領の変遷とその背景・学校現場における対応について学ぶ。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
授業概要		5 教育課程と学習指導要領 (昭和40年代) 前時に引き続き、学習指導要領の変遷とその背景・学校現場における対応について学ぶ。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
授業到達目標		6 小括～昭和時代の学習指導要領 昭和時代の学習指導要領の特徴と重要ポイントについて確認を行う。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
本講義は、教育職員免許法施行規則に規定する「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育課程の意義及び編成の方法」に関する科目として開設している科目であり、教員免許状取得に必須の科目である。 本科目での学習内容は、教育課程とは何か、教育改革と教育課程の変遷過程、教育課程の編成・実施・評価である。		7 教育課程と学習指導要領 (平成元年版) 平成元年版学習指導要領の内容とその時代背景について学習する。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
・学校の「教育課程」について説明し、計画を作成することができる。 ・自身の社会性を育むとともに、生徒の社会性を育むための活動を計画・実践できる。 ・学生間で協力して教育課程の作成、授業活動の実践ができる。		8 教育課程と学習指導要領 (平成10年版)～ゆとり教育と学校完全週五日制 平成10年版学習指導要領の内容とその時代背景について学習する。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)		9 教育課程と学習指導要領 (平成15年一部改訂版)～国際学力調査結果と指導要領 確かな学力が登場した背景を理解し、どのように教育課程に組み込まれたかを学ぶ。 予復修課題：(予修)自分が小学校～高校まで社会がどのように変化したかまとめる。(4時間)				
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。		10 教育課程と学習指導要領 (平成20年版) 平成20年版学習指導要領の内容とその時代背景について学習する。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。		11 教育課程と学習指導要領 (平成29年版) 新指導要領において重視されているポイントを理解する。 予復修課題：(復修)学習指導要領の変化と社会情勢の関係を再確認する。(4時間)				
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。		12 教育課程の編成・実施・評価(各教科)のポイント～カリキュラム・マネジメントとは 現行学習指導要領における教育課程の編成・実施・評価のポイントを理解する。 予復修課題：(復修)模擬的に教育課程を編成し評価計画を作成する。(4時間)				
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。		13 教育課程の編成・実施・評価(教科外教育)のポイント 現行学習指導要領における教育課程の編成・実施・評価のポイントを理解する。 予復修課題：(復修)模擬的に教育課程を編成し評価計画を作成する。(4時間)				
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。		14 教育課程の編成・実施・評価のポイント～カリキュラム・マネジメントの実践 現行学習指導要領における教育課程の編成・実施・評価のポイントを理解する。 予復修課題：(復修)模擬的に教育課程を編成し評価計画を作成する。(4時間)				
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		アクティブ・ラーニング		
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		10 %				
4. 授業中の発表、討論		10 %				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		60 %				
1. まとめのテスト		%				
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する		しない		
教科書		九州大学大学院教育法制研究室『教育法規エッセンス』花書院、2018年(新訂版)				
参考書		「学習指導要領」(各年度版) 「学習指導要領解説 総則編」(2017年・2018年)				
15		講義の総括 前時までの学習の総括を行う。 予復修課題：(予修)教育課程の意義を整理する。(4時間)				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		道徳教育指導法 Teaching Method on Moral Education		単位数	授業内容*	
担当者	舩原 将太 (FUNAHARA Shota)			非常勤講師	オリエンテーション 1 過去に経験した道徳教育を思い返し、現行の「特別の教科」道徳との差異を確認する。 予復修課題：これまでの教育課程を振り返り、自分なりに道徳教育の意味を明らかにしておく。	
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育課程及び指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		道徳の指導法				
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM3201		
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修学部	スポーツ学部	
配当年次	3年生	開講学期	後期			
授業概要	学校における「道徳教育」は学習指導要領に明記されているように、「学校の教育課程全体を通じて行うもの」とされている。ゆえに教師を目指す人々は広く、道徳教育に携わる心構えを持たねばならない。同時に私たちの生きる現代社会とは、無数のシステムが連関した複雑な様相を示すために本講義では、道徳教育の方法のみならず、この複雑な社会において私たち一人ひとりが、どのような価値基準に基づいて善悪を判断するべきか、までも含めて受講者とともに吟味する事となるだろう。					
授業到達目標	1. 道徳教育とは何かについて、自分なりに説明できること。 2. 道徳教育が扱う様々な内容について、多面的に考えることができること。 3. 指導案を書き、授業をすることができること。					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	本講義では、受講生間はもとより、受講生・担当教員間での対話・議論を重視する。そのため、講義のテーマによっては事前に小レポートを作成してもらうこともある。評価時には、小レポートの作成及びそれに基づく議論への参加態度なども考慮することになるであろう。				
1. 小テスト、感想文など	10 %	事前に1時間程度の予修をした上で臨むこと。				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	毎回の講義終了時に感想・質問などを提出し翌講義開始時にそれらを共有・議論する時間を設けることで、主体的・対話的で深い学びにつながるものとした。				
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %					
3.	%					
再評価の実施	する	しない				
教科書	講義時に配布した資料を用いる					
参考書	中学校学習指導要領解説					
11		学習指導案の作成 10回目の内容をもとに、学習指導案を作成する。 予復修課題：事前に学習指導案の素案を作成してくる。				
12		模擬授業について 提出した指導案をもとに、次回以降の模擬授業について説明していく。 予復修課題：前回の内容をもとに、指導案を完成させること。				
13		模擬授業 予復修課題：方法論について説明した回の講義資料を読み直しておくこと。				
14		模擬授業 予復修課題：方法論について説明した回の講義資料を読み直しておくこと。				
15		現代社会と道徳 講義全体をもとにしながら、現代社会における道徳教育の持つ意義を解説する。 予復修課題：講義内容をもとに、自身の道徳観を小レポートにまとめること。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	教育方法論 Educational Method		単位数	授業内容*	
担当者	金子 研太 (KANEKO Kenta)		2	専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育課程及び指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)			
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM3202	
授業形式	講義	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修学部	スポーツ学部
配当年次	3年生	開講学期	後期		
授業概要	本講義は、教育職員免許法施行規則に規定する「教育の方法及び技術に関する科目」として大学が開設している科目であり、教員免許状取得に必須の科目である。 本科目の学習内容は、カリキュラム構造及び編成過程、効果的授業・学級経営の実践的方法、総合的な学習に関する基礎知識に区分することができる。これらの内容は教育実習に直結するものであり、実習を睨んだ構成となっている。 本科目で取得した単位は、読替により新免許状対応課程においても有効である。				
	教育実践に必要な教育方法に関する基礎知識を獲得する。 教育内容及び教育方法を決定できる。 総合的な学習の時間の具体的な計画を作成できる。				
授業到達目標	教育実践に必要な教育方法に関する基礎知識を獲得する。 教育内容及び教育方法を決定できる。 総合的な学習の時間の具体的な計画を作成できる。				
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)					
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。					
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。					
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。					
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。					
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。					
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	UNIVERSAL PASSPORTに配布資料・関連資料を掲載しています。予復修に活用してください。各自所有のICT機器を使う場合があります。情報機器の活用の回など、内容により教室を変更する場合があります。		
1. 小テスト、感想文など		%			
2. 中間テスト		35 %			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %			
4. 授業中の発表、討論		35 %			
5. 授業への参加意欲		%			
6. 自主的学習(予習・復習など)		%			
7.		%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト		%	ミニッツペーパー [第1回～第8回]		
2. 論文、まとめのレポートなど		%	グループワーク [第10回～第14回]		
3.		%	プレゼンテーション [第15回]		
再評価の実施	する	しない			
教科書					
参考書	北海道大学オープン・コースウェア「学びのユニバーサル・デザイン入門(2015)」 「学習指導要領」各年度版				
* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。					
1 教育方法の理論 既習科目との関係性を確認し、既履修科目の理解度の確認を行う。 予復修課題： 予修 これまでの教職課程科目の内容の確認(2時間) 復修 誤答ノートの作成(2時間)					
2 学習指導要領と教育方法 教育方法と教職科目や学習指導要領との関連性を具体的に考察する。 予復修課題： 予修 学習指導要領(総則)及び指導要領解説を読み込んでおくこと。(2時間～4時間)					
3 教育方法の歴史 時代に応じて求められる教育方法 時代背景や子どもの状況を踏まえつつ、教育方法の歴史を概観する。 予復修課題： 予修 重要人物と関連事項をまとめる 復修 オープンコースウェアの残りの部分を閲覧する(4時間)					
4 教育方法の歴史 平成29年版指導要領において求められる教育方法 学習指導及び生徒指導場面で実践されている効果的な教育方法を紹介し考察する。 予復修課題： これまで受けた授業の中で最も効果的と感じる方法をまとめておこう。(4時間)					
5 教育方法と学習評価 平成29年版指導要領において示されている教育方法とその評価方法について学習する。 予復修課題： 講義の内容を踏まえ指導構想を練っておこう。(4時間)					
6 教材開発と情報機器 情報機器を活用した教育方法 効果的な情報機器の使用方法について検討する。情報モラルについても考察する。 予復修課題： ICT機器を導入している学校を調べ効果的使用方法について考えよう。(4時間)					
7 国際化への対応と教育方法 国際化への対応と求められる教育方法について、国際到達度調査などから読み解く。 予復修課題： 授業を踏まえて、今後の自分の課題を文章化しておこう。(4時間)					
8 諸外国における教育方法の実践事例 前回の内容に関連付けた事例や教材を素材として、比較分析を行う。 予復修課題： ビデオの内容に関して日本との共通点・相違点について振り返る。(2時間)					
9 中間まとめ これまで取り扱った内容についての理解度、習得度を確認する。 予復修課題： これまでのポイントを全て確認しておくこと。(4時間)					
10 総合的な学習の時間とは 総合的な学習の時間創設の背景・目的を確認し、プランを作成する。 予復修課題： 自分自身が受けた総合的な学習の時間について思い出してみよう。(4時間)					
11 指導案作成と指導技法 グループに分かれ、年間指導計画をもとにディスカッションを行う。 予復修課題： 次回までに自分の担当分の計画を作成しておくこと。(4時間)					
12 総合的な学習の時間の計画を作ろう グループに分かれ、総合的な学習の時間の計画を練る。 予復修課題： 自分の担当分について確認しておくこと。(4時間)					
13 総合的な学習の時間の計画を作ろう グループごとに、計画のプレゼンテーションに必要な準備を行う。 予復修課題： グループの中の自分の役割等について確認し作業を進めておくこと。(4時間)					
14 総合的な学習の時間の計画を作ろう 最終週の発表会に向け最終準備を行う。 予復修課題： グループの中の自分の役割等について確認しておくこと。(4時間)					
15 発表会 成果物の発表と相互評価を通し、総合的な学習の時間について考察する。 予復修課題： 本講義を通して身に着けたスキルと今後の課題を確認しておこう。(4時間)					

授業科目名 (Subject)		生徒・進路指導 Youth Education & Career Counseling		単位数	授業内容*	
担当者		重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)		2	専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法				
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM3103		
授業形式		講義		科目区分		自由選択科目(教職課程関連科目)
配当年次		3年生		開講学期		前期
履修学部		スポーツ学部				
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒理解(児童・生徒等との信頼関係)に基づいた生徒指導・進路指導の知識や指導の方法を身につけ、新しい時代に必要となる資質・能力を持った人材の育成を担うことができる教員の養成を目指す。生徒指導主事や管理職としての自身の経験を活かした授業を展開する。</li> <li>・生徒指導提要(文科省)の内容を中心にしながら学校教育現場における事例を交え、ICTを用いて説明するとともに、ペアやグループによるディスカッションやワークなどのアクティブ・ラーニングの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。</li> </ul>				
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を育成する生徒指導、及び児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するキャリア教育(進路指導)に関する知識を身につけるとともに活用できる。</li> <li>・生徒指導や進路指導に欠かせない児童生徒理解のための取組(教育相談・保護者や地域との連携・チーム学校など)について主体的に学び、教育実習や現場で実践できるようになる。</li> <li>・これからの教員として求められる資質・能力を身につけ、将来、学校教育に寄与できる。</li> </ul>				
授業が重視する教育目標(特に重視 重視)						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業後の小レポートを提出物として評価します。資料の丸写しではなく重要と思う内容を自分なりにまとめて記述してください。</li> <li>・アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業の際には、より主体的・対話的な姿勢で、積極的に取り組んでください。</li> <li>・中間テスト及びまとめのテストについては、事前の授業の際に詳細を説明します。</li> </ul>		
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		20 %				
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめテスト		50 %		・小レポート(ミニツツペーパー) [全回]		
2. 論文、まとめレポートなど		%		・ペアやグループ等によるディスカッションやワーク [全回]		
3.		%		・ジグソー法 [第5回]		
再評価の実施		する		しない		
教科書		『生徒指導提要』文部科学省、平成22年3月				
参考書		適宜、資料を配付する。				
1		ガイダンスの後、これからの時代や社会が求める資質・能力について考える。 生徒指導とは何か。生徒指導の定義と基本的な枠組みを知る。 予復修課題：予：生徒指導提要第1章第1節を読み、まとめる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
2		生徒指導の機能 生徒指導と教育課程、教育相談、進路指導との関係について知る。 予復修課題：予：生徒指導第2章第2節を読み、まとめる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
3		児童生徒理解 児童生徒理解についての多面的・多角的視点の重要性を知る。 予復修課題：予：児童生徒理解の情報収集の方法について調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
4		発達段階の特性とその課題(児童期まで)児童期までの発達課題に合った対応を考える。 予復修課題：予：小1プロブレムについて調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
5		発達段階の特性とその課題(青年期)青年期の発達課題に合った対応を考える。 小1・中1・高1における課題について、ジグソー法を用いて討論・発表し理解を深める。 予復修課題：中1ギャップ、高1クライシスについて調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
6		生徒指導の方法 集団指導・個別指導の方法原理を知り、具体的な方法を考える。 予復修課題：予：生徒指導提要第1章第4節を読み、まとめる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
7		問題行動への対応(1)非行、喫煙、飲酒、薬物などへの生徒指導的対応を考える。 予復修課題：予：生徒指導提要第2章の第3節を読み、まとめる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
8		問題行動への対応(2)いじめ、暴力行為などへの生徒指導的対応を考える。 予復修課題：予：最新のいじめの認知件数について調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
9		問題行動への対応(3)不登校、途中退学などへの生徒指導的対応を考える。 予復修課題：予：最新の不登校の報告件数について調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
10		中間テスト(前半部分の理解度の確認) 生徒指導に関わる法的制度 校則、懲戒や体罰についての法的見解について知る。 予復修課題：予：体罰に関するニュースについて調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
11		中間テストの返却、テストの解説、及び各自の振り返り 問題行動の予防(1)積極的生徒指導の意義と取り組みについて理解する。 予復修課題：生徒指導提要第6章の第4節を読み、まとめる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
12		問題行動の予防(2)学内外の資源との連携について考える。 予復修課題：予：生徒指導提要第8章の第2節を読み、まとめる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
13		進路指導・キャリア教育の意義と理論 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 予復修課題：予：キャリア教育について調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
14		進路指導・キャリア教育の指導方法 進路指導・キャリア教育の集団・個人指導方法を 知る。 予復修課題：予：進路指導の具体的方法について調べる(120分)復：本時の内容を要約する(120分)				
15		まとめのテスト及び振り返り(テストの解説及び講義の総括) 予復修課題：予：全講義を振り返りまとめる(120分)復：理解できていなかった部分を調べなおす(120分)。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育相談 School Counseling		単位数	授業内容*	
担当者		清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)		2	専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育相談(カウンセリング)に関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法				
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SSM2202		
授業形式		講義		科目区分		履修学部
配当年度		2年生		開講学期		後期
授業概要		学校教育における教育相談の意義と位置づけを理解し、幼児児童生徒理解のために必要となる基礎的な心理的理論やカウンセリングに関する基礎的・技術を身につけて学ぶ。さらに、具体的な援助場面における教育相談的取り組みや学校における教育相談体制について知る。				
授業到達目標		1) 幼児児童生徒の発達の状況に即して、個々の心理的特質や教育的課題を考えることができる 2) 幼児児童生徒への教育や支援に必要な心理学の基礎的な理論・概念を理解できる 3) カウンセリングの意義、理論や基本的な技法について理解できる。 4) 教育相談の組織的な取り組みやチームづくりについて考えることができる。				
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	毎回の復修小テストや授業後の小レポートを提出物として評価します。			
1. 小テスト、感想文など		20 %	小レポートについては、その書き方から参加意欲も把握するので、しっかり書き込んでください。			
2. 中間テスト		%	まとめのテストについては、時期が近付いたら授業の際に詳細を説明します。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめテスト		60 %	小レポート(全回)			
2. 論文、まとめレポートなど		%	復修小テスト(第2回~第14回)			
3.		%	ロールプレイ(第10回)			
再評価の実施		する	しない			
教科書		生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)				
参考書		適宜、資料を配付する。				
1		教育相談の意義と位置づけ 学校教育における教育相談の意義と位置づけについて知る。 予復修課題: 予:教育相談について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
2		子ども理解1 学習,対人関係,生活環境,発達課題など多面的理解の重要性を考える。 予復修課題: 予:児童期から青年期の発達課題と学校適応について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
3		子ども理解2 発達課題について確認し,発達段階に応じた対応について考える。 予復修課題: 予:教育現場における問題にはどのようなものがあるのか調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
4		子ども理解3 発達障害を中心に,特別なニーズをもつ子どもへの対応について考える。 予復修課題: 予:子どもの精神疾患について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
5		学校適応 学校適応を把握するための方法と心理教育的援助サービスについて知る。 予復修課題: 予:不登校児童生徒数やその対応法を調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
6		心理検査法 代表的な心理検査法を確認するとともに,心理的支援の専門家について知る。 予復修課題: 予:学校教育で活用される心理検査法を調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
7		学校教育とカウンセリング カウンセリングの代表的な技法を確認するとともに,教育相談とカウンセリングの位置づけについて知る。 予復修課題: 予:いじめ,不登校,学級崩壊の事例について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
8		カウンセリングマインド カウンセリングマインドとは何かを知り,教員がカウンセリング能力を生かす場面について確認する。 予復修課題: 予:カウンセリングマインドについて調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
9		カウンセリングの理論 ロジャースの来談者中心療法を中心にカウンセリングの理論を知る。 予復修課題: 予:来談者中心療法について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
10		カウンセリングの技法 傾聴とそれに必要な技法の一部を体験し,学ぶ。 予復修課題: 予:会話の技法について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
11		予防的介入 問題を未然に防ぐ介入の視点とソーシャルスキルトレーニングなど子どものスキルを向上させるための技法を知る。 予復修課題: 保護者の立場について考える(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
12		危機対応 危機対応についての基礎的手順を知るとともに,いじめなどが生じた場合に学校でどのように連携して対応するかについて考える。 予復修課題: 予:校内の組織について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
13		学内の教育相談資源 すべての教員の教育相談への関わり方を校務分掌をふまえて考える。 予復修課題: 予:教員が直面する問題や解決方法について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
14		学外の教育相談資源 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー,学外の施設との連携について考える。 予復修課題: 予:連携機関について調べる(120分)復:本時の内容を要約する(120分)				
15		まとめのテストと振り返り 予復修課題: 予:全講義を振り返りまとめる(120分)復:理解できていなかった部分を調べなおす(120分)。				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教職発展ゼミナール Advanced Seminar in Teaching Profession		単位数	授業内容*				
担当者		重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)		2	専任				
実務経験のある教員による授業		ナンパリング							
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(教職課程関連科目)	履修 学部	スポーツ学部				
配当年次	3-4年生	開講学期	前期/後期						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場が抱える諸問題については、いじめ、不登校、体罰、学級崩壊など様々な教育課題が指摘されている。そのような中、これからの教師には何が求められているのだろうか。教育現場での実務経験を活かし、本授業において、学生が実際に学校現場での実習を通し、現在の子どもたちの状況を体験的に学ぶとともに現役教師の指導を観察・補助し、教師としての資質と能力を高めることを目指す。</li> <li>・学校現場での体験(授業・給食指導・クラス運営等に係る先生方の補助)が中心になるため学生には、自己管理とともに教師になるための高い意識と自己研鑽の態度での受講を求める。</li> </ul>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な視野で学校現場における教職員の業務や取組について把握・説明できる。</li> <li>・学校現場が抱える課題について体験的に理解し、その指導や対応について説明できる。</li> <li>・先生方の指導の下、児童との関わりをとおして、教育の魅力(喜びや難しさ)を体感する。</li> <li>・問題意識をもって実習に取り組み、個に応じた対応を自ら考え実践できる。</li> <li>・児童や教職員などとの、TPOに応じた適切なコミュニケーションができる。</li> <li>・自分の意見や考えをまとめ、それらを分かりやすくプレゼンすることができる。</li> </ul>								
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な視野で学校現場における教職員の業務や取組について把握・説明できる。</li> <li>・学校現場が抱える課題について体験的に理解し、その指導や対応について説明できる。</li> <li>・先生方の指導の下、児童との関わりをとおして、教育の魅力(喜びや難しさ)を体感する。</li> <li>・問題意識をもって実習に取り組み、個に応じた対応を自ら考え実践できる。</li> <li>・児童や教職員などとの、TPOに応じた適切なコミュニケーションができる。</li> <li>・自分の意見や考えをまとめ、それらを分かりやすくプレゼンすることができる。</li> </ul>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な視野で学校現場における教職員の業務や取組について把握・説明できる。</li> <li>・学校現場が抱える課題について体験的に理解し、その指導や対応について説明できる。</li> <li>・先生方の指導の下、児童との関わりをとおして、教育の魅力(喜びや難しさ)を体感する。</li> <li>・問題意識をもって実習に取り組み、個に応じた対応を自ら考え実践できる。</li> <li>・児童や教職員などとの、TPOに応じた適切なコミュニケーションができる。</li> <li>・自分の意見や考えをまとめ、それらを分かりやすくプレゼンすることができる。</li> </ul>								
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)									
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。									
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。									
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。									
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。									
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。									
成績評価の方法				履修における留意事項					
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際には、近隣の指定の小中学校で、週1日(原則、定例の曜日、終日)で実習を行います。</li> <li>・教職員の方々や児童とともに活動を行いますので安全の確保に努めるとともに教員になる意識を十分に持って自己研鑽に努めてください。</li> <li>・大学での授業では、意見交換を重視します。</li> <li>・小中学校での活動時はもちろんのこと、自身の登下校中も安全の確保に十分努めてください。</li> </ul>					
1) 授業到達目標への到達努力の評価				<b>アクティブ・ラーニング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション[第1、2、3回]</li> <li>・体験活動[第4～7、9～14回]</li> <li>・プレゼンテーション[第8回、15回]</li> </ul>					
1. 小テスト、感想文など									
2. 中間テスト									
3. 課題レポートなどの提出物									
4. 授業中の発表、討論									
5. 授業への参加意欲									
6. 自主的学習(予習・復習など)									
7.									
2) 最終到達度の評価									
1. まとめのテスト									
2. 論文、まとめのレポートなど									
3.									
再評価の実施	する	しない							
教科書	特定のテキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。								
参考書									
15 総括 これまでの活動を振り返り、それぞれ発表(プレゼンテーション)する。 予復修課題: 予:これまでの活動内容をまとめる(120分)復:総括で話し合った結果を振り返る(120分)。									

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	文章理解 Literal Realization			単位数	授業内容*																					
担当者	前田 恵美 (MAEDA Emi)			1	1	ガイダンス 予復修課題：公務員試験制度やSPI3試験について調べる																				
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEN1101・ERN1101・SSN1101	2	趣旨問題の考え方(1) 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	2	趣旨問題の考え方(2) 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																			
配当年次	1年生	開講学期	前期/後期			3	内容合致問題の考え方 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																			
授業概要	公務員採用試験での「文章理解」や民間企業採用試験で実施されるSPI3試験の「非言語分野」などで課せられる日本語現代文の長文読解を中心に講義を行う。文章読解能力は採用試験で必要となるだけでなく、日常的なコミュニケーションやあらゆる科目の学習の基礎となる能力であり、社会で活躍する人材になる上で必要不可欠な能力である。この講義ではより多くの文章に触れながら自ら文章を読み、自ら考えることを重視し、読解能力の向上を目指す。					4	空欄補充問題の考え方 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職試験で出題される文章読解問題の形式に慣れ、問題を解くことができる。</li> <li>・文章を読む時に気を付けるポイントや、内容を理解するために必要な考え方を身につける。</li> <li>・就職試験に向けて、問題演習の進め方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。</li> </ul>					5	文章整序問題の考え方 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																			
授業到達目標	<p>授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)</p> <p>1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点を身につける。</p> <p>2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。</p> <p>3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。</p>					6	中間のまとめ 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う																			
	<p>成績評価の方法</p> <p>成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。</p> <p>1) 授業到達目標への到達努力の評価</p> <table border="1"> <tr><td>1. 小テスト、感想文など</td><td>20 %</td></tr> <tr><td>2. 中間テスト</td><td>20 %</td></tr> <tr><td>3. 課題レポートなどの提出物</td><td>%</td></tr> <tr><td>4. 授業中の発表、討論</td><td>%</td></tr> <tr><td>5. 授業への参加意欲</td><td>30 %</td></tr> <tr><td>6. 自主的学習(予習・復習など)</td><td>%</td></tr> <tr><td>7.</td><td>%</td></tr> </table> <p>2) 最終到達度の評価</p> <table border="1"> <tr><td>1. まとめのテスト</td><td>30 %</td></tr> <tr><td>2. 論文、まとめのレポートなど</td><td>%</td></tr> <tr><td>3.</td><td>%</td></tr> </table>					1. 小テスト、感想文など	20 %	2. 中間テスト	20 %	3. 課題レポートなどの提出物	%	4. 授業中の発表、討論	%	5. 授業への参加意欲	30 %	6. 自主的学習(予習・復習など)	%	7.	%	1. まとめのテスト	30 %	2. 論文、まとめのレポートなど	%	3.	%	7
1. 小テスト、感想文など	20 %																									
2. 中間テスト	20 %																									
3. 課題レポートなどの提出物	%																									
4. 授業中の発表、討論	%																									
5. 授業への参加意欲	30 %																									
6. 自主的学習(予習・復習など)	%																									
7.	%																									
1. まとめのテスト	30 %																									
2. 論文、まとめのレポートなど	%																									
3.	%																									
履修における留意事項					8	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
<p>毎回の授業終了時にミニツッペーパーを書いてもらいます。文章読解能力を向上させるには、文章を自分で書くことも大事です。感想や疑問などを積極的に書くようにしてください。</p> <p>毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。</p>					9	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
アクティブ・ラーニング					10	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニツッペーパー[第1~6、8~14回]</li> <li>・中間テスト[第7回]</li> </ul>					11	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
再評価の実施					12	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
<table border="1"> <tr><td>再評価の実施</td><td>する</td><td>しない</td></tr> </table>					再評価の実施	する	しない	13	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																	
再評価の実施	する	しない																								
教科書	TAC株式会社(公務員講座) 編著 『地上・国家・国税対策 公務員Vテキスト 23 文章理解』 TAC出版 2014年				14	問題演習・解説 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し																				
参考書					15	講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う																				

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	社会科学【基礎】 Social Science (Basic)			単位数	授業内容*	
担当者	村田 祐貴子 (MURATA Yukiko)			1	1 ガイダンス、「大日本帝国憲法と日本国憲法」 新旧憲法を比較し、日本国憲法の全体像をつかむ 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEN1102・ERN1102・SSN1102	2 「国会」小テスト1回 国会の地位や役割、衆議院の優越などを理解する 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部	3 「内閣」小テスト2回 内閣の地位や役割、議院内閣制を理解する 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
配当年次	1年生	開講学期	前期		スポーツ学部	4 「裁判所」小テスト3回 裁判所の地位や役割、裁判員制度等を理解する 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業概要	社会科学分野の基礎として、政治、法律、経済について中学校、高等学校での学習内容を中心に講義を行う。この講義で学習する内容は民間企業、公務員、教員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、日頃の政治や経済のニュースを理解する上でも必要な知識である。また、大学で専門的に学習する法律や経済の基礎となる内容でもあるので重要度はとても高い。この講義では、社会科学の基礎的な内容を広く学習し、知識を着実に身につけ今後の学習につなげることを目的とする。					
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学の基礎的な内容、基本的事項について理解し、問題を解くことができる。</li> <li>・今後の就職試験に向けて、社会科学の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。</li> <li>・大学で学習する法律や経済学の基礎として、中学校、高等学校での学習内容の復修を行い、今後の学習の土台作りを行う。</li> </ul>					
授業が重視する教育目標（特に重視 重視）						
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。						
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。						
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。						
成績評価の方法			履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する（全体で100％）。			毎回授業の初めに前回の内容の復修テストを行います。毎回集計して成績をつけていきますので、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取り知識を定着させるようにしてください。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価						
1. 小テスト、感想文など			30 %			
2. 中間テスト			20 %			
3. 課題レポートなどの提出物			%			
4. 授業中の発表、討論			%			
5. 授業への参加意欲			20 %			
6. 自主的学習(予習・復習など)			%			
7.			%			
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト			30 %			
2. 論文、まとめのレポートなど			%			
3.			%			
再評価の実施	する	しない				
教科書	プリント配布					
参考書						
						15 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	人文・自然科学【基礎】 Humanities & Natural science (Basic)			単位数	授業内容*		
担当者	松ヶ下 剛士 (MATSUGASHITA Tsuyoshi)		島 一弘 (SHIMA Kazuhiro)		1	ガイダンス、物理 (松ヶ下) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業			ナンパリング		EEN1201・ERN1201・SSN1201	2	生物 (松ヶ下) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3	生物 (松ヶ下) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
配当年次	1年生	開講学期	後期			4	地学 (松ヶ下) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業概要	人文科学(日本史、世界史、地理)、自然科学(物理、化学、生物、地学)の基礎として、中学校、高等学校での学習内容を中心に講義を行う。この講義で学習する内容は、民間企業、公務員、教員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないので、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身につけておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。					5	地学 (松ヶ下) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
	授業到達目標 ・人文科学、自然科学の就職試験での頻出事項や基本的事項について理解し、問題を解くことができる。 ・今後の就職試験に向けて、各科目の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。					6	化学 (松ヶ下) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点を身につける。					8	中間のまとめ (松ヶ下) 予復修課題: テストに備えて今までの総復修を行う	
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。					9	日本史 江戸時代 (島) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。					10	日本史 明治時代 (島) 予復修課題: 講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
成績評価の方法		履修における留意事項					
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。		毎回の授業終了時にミニツッペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。					
1. 小テスト、感想文など 20 %		アクティブ・ラーニング ・ミニツッペーパー[第1~7、9~14回] ・中間テスト[第8回]					
2. 中間テスト 25 %							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 30 %							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト 25 %							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	プリント配布						
参考書							
					15	講義の振り返り、まとめテスト (島) 予復修課題: テストに備えて今までの総復修を行う	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	数的処理 Logical inferences & Mathematical inferences				単位数	授業内容*	
担当者	松ヶ下 剛士 (MATSUGASHITA Tsuyoshi)				1	1	ガイダンス 予復修課題：公務員試験制度やSPI3試験について調べる
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				EEN1103・ERN1103・SSN1103	2	判断推理 論理分野 「対応関係」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3	判断推理 論理分野 「対応関係」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
配当年次	1年生	開講学期	前期			4	判断推理 論理分野 「順序関係」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
授業概要	公務員採用試験での「判断推理」「数的推理」「資料解釈」と言った科目や、民間企業採用試験でのSPI3試験の「非言語分野」などで必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。この講義では特に基礎的な内容を重視し、多くの問題に触れながら解法のポイントを紹介し、課題を論理的に解決する方法を学ぶ。また、問題解決で必要になる連立方程式や図形の法則などの数学に関する知識に関しても中学校、高等学校の復習を行い、基礎的な数学力を身につける。					5	判断推理 論理分野 「順序関係」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
	授業到達目標 ・判断推理、数的推理、資料解釈の基本的な解法を理解し、問題を解くことができる。 ・公務員試験やSPI3試験では「速く正確に解く」ことが求められるので、試験時間を意識しながら問題演習を行うことができる。					6	判断推理 図形分野 「多面体」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。						8	中間の振り返り、テスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。						9	数的推理 導入 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。						10	数的推理 方程式と不等式 「濃度」「平均」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
成績評価の方法				履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。				得点力向上のためには、多くの問題を解くことがカギになります。講義中に多くの解法を紹介しますので、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取り、繰り返し問題を解くようにしてください。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価				また、毎回の授業終了時にミニッツペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。			
1. 小テスト、感想文など 20 %				アクティブ・ラーニング ・実践学習[第2~7、9~14回] ・ミニッツペーパー[第2~7、9~14回] ・中間テスト[第8回]			
2. 中間テスト 20 %							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 30 %							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト 30 %							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	(株)麻生キャリアサポート編『判断推理テキスト編』『数的推理テキスト編』2020年						
参考書							
						15	講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		数的処理 Logical inferences & Mathematical inferences			単位数	授業内容*	
担当者		松ヶ下 剛士 (MATSUGASHITA Tsuyoshi)			1	1 ガイダンス 予復修課題：公務員試験制度やSPI3試験について調べる	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			EEN1202・ERN1202・SSN1202	2 判断推理 論理分野 「論理」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3 判断推理 論理分野 「論理」「集合」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
配当年次	1年生	開講学期	後期	4 判断推理 論理分野 「位置・方位」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し			
授業概要	公務員採用試験での「判断推理」「数的推理」「資料解釈」と言った科目や、民間企業採用試験でのSPI3試験の「非言語分野」などで必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。この講義では数的処理で学習した内容をもとに、さらに多くの問題に触れながら応用問題、発展問題の解法について学習を行う。また、数的処理では学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、数的処理能力を向上させ、より多くの課題を解決できる力を身につける。						
	授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>判断推理、数的推理、資料解釈の基本的な解法を理解し、問題を解くことができる。</li> <li>公務員試験やSPI3試験では「速く正確に解く」ことが求められるので、試験時間を意識しながら問題演習を行うことができる。</li> </ul>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。					8 中間の振り返り、テスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う		
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。					9 数的推理 方程式と不等式 「速さ」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し		
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。					10 数的推理 方程式と不等式 「旅人算」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し		
成績評価の方法				履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。				得点力向上のためには、多くの問題を解くことがカギになります。講義中に多くの解法を紹介しますので、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取り、繰り返し問題を解くようにしてください。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価				また、毎回の授業終了時にミニッツペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。			
1. 小テスト、感想文など 20%				アクティブ・ラーニング ・実践学習[第2~7、9~14回] ・ミニッツペーパー[第2~7、9~14回] ・中間テスト[第8回]			
2. 中間テスト 20%							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 30%							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価				11 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し			
1. まとめのテスト 30%				12 数的推理 方程式と不等式 「仕事算」「ニュートン算」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し			
2. 論文、まとめのレポートなど %				13 数的推理 図形分野 「三角形と多角形」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し			
3. %				14 数的推理 図形分野 「円」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し			
再評価の実施	する	しない		15 講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う			
教科書	(株)麻生キャリアサポート編『判断推理テキスト編』『数的推理テキスト編』2020年						
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		数的処理 Logical inferences & Mathematical inferences			単位数	授業内容*	
担当者		松ヶ下 剛士 (MATSUGASHITA Tsuyoshi)			1	1 ガイダンス 予復修課題：公務員試験制度やSPI3試験について調べる	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			EEN2101・ERN2101・SSN2101	2 判断推理 論理分野 「手順」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3 判断推理 論理分野 「数量」「その他の問題」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
配当年次	2年生	開講学期	前期	4 判断推理 図形分野 「平面図形」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し			
授業概要	公務員採用試験での「判断推理」「数的推理」「資料解釈」などの科目で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。この講義では数的処理、数的処理で学習した内容をもとに、実際の公務員試験の問題にも触れながら問題の解法について学習を行う。また、数的処理、数的処理では学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、採用試験に向けて、より実戦的な力を身につけ得点力向上、解題解決能力の向上を目指す。						5 判断推理 図形分野 「立体図形」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
	授業到達目標						6 判断推理 図形分野 「立体図形」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						7 資料解釈 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。						8 中間の振り返り、テスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う	
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。						9 数的推理 数の性質と計算 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。						10 数的推理 数の性質と計算 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
成績評価の方法			履修における留意事項			11 数的推理 数の性質と計算 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。			得点力向上のためには、多くの問題を解くことがカギになります。講義中に多くの解法を紹介しますので、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取り、繰り返し問題を解くようにしてください。			12 数的推理 場合の数と確率 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
1) 授業到達目標への到達努力の評価			また、毎回の授業終了時にミニッツペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。			13 数的推理 場合の数と確率 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
1. 小テスト、感想文など 20%			アクティブ・ラーニング			14 数的推理 図形分野「立体」 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
2. 中間テスト 20%						•実践学習[第2~7、9~14回]	
3. 課題レポートなどの提出物 %			•ミニッツペーパー[第2~7、9~14回]		15 講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う		
4. 授業中の発表、討論 %			•中間テスト[第8回]				
5. 授業への参加意欲 30%							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト 30%							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	(株)麻生キャリアサポート編『判断推理テキスト編』『数的推理テキスト編』2020年						
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	社会科学【応用】 Social Science (Advanced)			単位数	授業内容*		
担当者	前田 恵美 (MAEDA Emi)			1	1	ガイダンス 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEN2102・ERN2102・SSN2102	2	第1章 法律 第1章・1 法学 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	2	予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
配当年次	2年生	開講学期	前期			3	第1章・2 憲法の基本原理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業概要	社会科学分野について、「社会科学(基礎)」の内容をもとに、より応用的、発展的な内容を学習する。この講義では社会科学の中でも特に政治・法律分野の学習を中心にを行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目の憲法や政治学の基礎的な内容まで学習する。					4	第1章・2 憲法の基本原理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
						5	第1章・3 人権 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業到達目標	・社会科学の応用的、発展的な内容について理解し、問題を解くことができる。 ・法律や政治学などの専門科目の基礎的な内容について理解し、専門科目の学習の準備を進めることができる。					6	第1章・3 人権 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
						7	中間のまとめ、テスト 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点を身につける。					8	第1章・4 統治機構 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う	
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。					9	第1章・4 統治機構、第1章・5 その他の法律 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。					10	第2章 政治 第2章・1 政治とは何か、第2章・2 民主政治の成立と発展 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
成績評価の方法			履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。			毎回の授業終了時にミニツッパーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価			知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。				
1. 小テスト、感想文など 20%			アクティブ・ラーニング ・ミニツッパーパー[第1~6、8~14回] ・中間テスト[第7回]				
2. 中間テスト 20%							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 30%							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト 30%							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	TAC株式会社(公務員講座)編『公務員試験 過去問攻略Vテキスト19 社会科学』TAC出版 2019年					15	講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	社会科学【応用】 Social Science (Advanced)				単位数	授業内容*	
担当者	前田 恵美 (MAEDA Emi)				1	1	第3章 経済 第3章・1 ミクロ経済学 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				EEN2201・ERN2201・SSN2201	2	第3章・1 ミクロ経済学 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3	第3章・1 ミクロ経済学 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
配当年次	2年生	開講学期	後期			4	第3章・2 マクロ経済学 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業概要	社会科学分野について、「社会科学(基礎)」の内容をもとに、より応用的、発展的な内容を学習する。この講義では社会科学の中でも特に経済分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目のミクロ経済学やマクロ経済学、経済史、金融政策などの基礎的な内容まで学習する。						5
	・社会科学の応用的、発展的な内容について理解し、問題を解くことができる。 ・ミクロ経済学などの専門科目の基礎的な内容について理解し、専門科目の学習の準備を進めることができる。						6
授業到達目標	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						7
	1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点を身につける。 2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。 3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。						8
成績評価の方法		履修における留意事項				9	第3章・3 財政学 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。		毎回の授業終了時にミニツッペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。				10	第3章・4 戦後経済史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
1) 授業到達目標への到達努力の評価		知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。				11	第3章・5 その他の論点 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
1. 小テスト、感想文など 20 %						12	第4章 社会 第4章・1 社会保障 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
2. 中間テスト 20 %						13	第4章・2 労働問題 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
3. 課題レポートなどの提出物 %						14	第4章・3 現代社会の諸問題 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
4. 授業中の発表、討論 %						15	講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う
5. 授業への参加意欲 30 %							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめテスト 30 %		・ミニツッペーパー[第1~6、8~14回]					
2. 論文、まとめのレポートなど %		・中間テスト[第7回]					
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	TAC株式会社(公務員講座)編『公務員試験 過去問攻略Vテキスト19 社会科学』TAC出版 2019年						
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教養基礎答練 Liberal arts basic answering practice		単位数	授業内容*		
担当者		松ヶ下 剛士 (MATSUGASHITA Tsuyoshi)		1	1	ガイダンス 物理分野 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング		EEN2103・ERN2103・SSN2103	2	物理分野 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3	物理分野・まとめテスト 化学分野 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
配当年次	2年生	開講学期	前期			4	化学分野 予復修課題：授業中に解説した問題の解き直し
授業概要	公務員採用試験や教員採用試験で実施される一般教養試験対策として、講義および問題演習を行う。この講義では一般教養科目の中でも特に自然科学分野に関する講義を行う。自然科学分野については1年生の時の「人文・自然科学」の講義でも学習したが、この講義では、「人文・自然科学」では講義しなかった内容や発展的な内容について取り扱う。また、実際の公務員試験の問題にも触れ、学習した内容が試験でどのように取り扱われるのかについても学習する。						
	授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般教養(自然科学)のうち、公務員採用試験、教員採用試験に頻出分野の内容について理解し、問題を解くことができる。</li> <li>公務員採用試験での出題形式に慣れ、今後の学習に活用することができる。</li> </ul>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。							
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。							
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。							
成績評価の方法			履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。			毎回の授業終了時にミニツッペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価			知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。				
1. 小テスト、感想文など			10 %				
2. 中間テスト			%				
3. 課題レポートなどの提出物			%				
4. 授業中の発表、討論			%				
5. 授業への参加意欲			30 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)			%				
7.			%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト			60 %				
2. 論文、まとめのレポートなど			%				
3.			%				
再評価の実施	する	しない					
教科書	プリント配布						
参考書							
					15	予復修課題：実戦力を確認し、弱点を克服する	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	教養基礎答練 Liberal arts basic answering practice				単位数	授業内容*	
担当者	田上 義修 (TANOUE Yoshinobu)				1	1	ガイダンス、地理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
実務経験のある教員による授業	ナンパリング				EEN2202・ERN2202・SSN2202	2	地理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3	地理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
配当年次	2年生	開講学期	後期			4	地理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業概要	公務員採用試験、教員採用試験で実施される教養試験対策として講義および問題演習を行う。この講義では教養科目の中でも特に知識分野(人文科学)について、基礎的、基本的な事項に関する講義を行い、さらに問題演習を行うことで、重要事項の確認、基礎的知識の定着を図ることを目的とする。さらに、実際の採用試験での頻出分野を理解することで、これからの受験勉強の準備を行う。						5
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人文科学の就職試験での頻出事項や基本的事項について理解し、問題を解くことができる。</li> <li>今後の就職試験に向けて、各科目の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。</li> <li>問題演習を繰り返すことで、速く正確に解くことができる。</li> </ul>						6
授業到達目標	<p>授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)</p> <p>1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。</p> <p>2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。</p> <p>3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。</p>						7
成績評価の方法		履修における留意事項				8	日本史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。		毎回の授業終了時にミニツッペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。				9	日本史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
1) 授業到達目標への到達努力の評価		知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。				10	日本史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
1. 小テスト、感想文など 10 %		<p style="text-align: center;">アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニツッペーパー[第1~14回]</li> <li>・中間テスト[第6、11回]</li> </ul>				11	中間テスト(日本史)、世界史 予復修課題：テストに備えて今までの復修を行う
2. 中間テスト 40 %						12	世界史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
3. 課題レポートなどの提出物 %						13	世界史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
4. 授業中の発表、討論 %						14	世界史 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
5. 授業への参加意欲 30 %						15	講義の振り返り、まとめのテスト(世界史) 予復修課題：テストに備えて今までの復修を行う
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト 20 %							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	プリント配布						
参考書							

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	(K-CIP) 憲法演習 (K-CIP) Constitution practice			単位数	授業内容*	
担当者	河野 雄一 (KAWANO Yuuichi)			1	1 ガイダンス、憲法総論、統治 その他の問題 憲法の基本原理、憲法の分類、天皇、前文・平和主義・憲法保障 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSN2104	2 基本的人権 総論 基本的人権の原理、基本的人権の限界 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	3 基本的人権 総則的権利 生命・自由・幸福追求の権利、法の下での平等 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
配当年次	2年生	開講学期	前期	スポーツ学部	4 基本的人権 精神的自由権 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業概要	公務員採用試験の専門試験において出題される憲法について講義を行う。法律は全ての法律の 抛り所となる存在で他の法律と比較すると条文は多くないが、数多くの法律の中でも重要な役 割を担っている。「総論」「人権」「統治機構」が主な内容であり、この講義ではこれらの内 容について条文の理解や重要な判例の学習を行う。この講義では各論点について公務員試験で 出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかに ついて学び、より理解を深める。					
	授業到達目標 ・公務員試験における憲法の重要論点を理解し、問題を解くことができる。 ・今後の公務員試験の受験に向けて、憲法の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めるこ とができる。					
	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)					
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。						
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。						
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を 育成する。						
成績評価の方法			履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。			毎回の授業終了時にミニツッパーパーを書いて もらいますので、疑問点などがあれば、積極的 に質問するようにしてください。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価			知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は 復修の時間を取るようにしてください。			
1. 小テスト、感想文など 30 %						
2. 中間テスト 20 %						
3. 課題レポートなどの提出物 %						
4. 授業中の発表、討論 %						
5. 授業への参加意欲 %						
6. 自主的学習(予習・復習など) %						
7. %						
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト 50 %			・ミニツッパーパー[第1~15回]			
2. 論文、まとめのレポートなど %			・中間テスト[第8回]			
3. %						
再評価の実施	する	しない				
教科書	TAC株式会社(公務員講座) 編著 『公務員試験 過去問攻略Vテキスト 3 憲法』TAC出版 2019					
参考書	15 講義の振り返り、まとめのテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	(K-CIP)民法(総則、物権)演習 (K-CIP) Civil Law (General Provisions and Property Law)			単位数	授業内容*		
担当者	前田 恵美 (MAEDA Emi)			1	1	ガイダンス、第1章・1 民法の全体 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			EEN2105・ERN2105・SSN2105	2	第1章・2 権利の主体 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部	3	第1章・3 法律行為(1) 法律行為と意思表示 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
配当年次	2年生	開講学期	前期			4	第1章・4 法律行為(2) その他の問題 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
授業概要	公務員採用試験の専門試験において出題される民法について講義を行う。民法は身近なことに 関する法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。この講義では、 民法の中でも「総則」「物権」の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や 重要な判例の学習を行う。また、この講義では各論点について公務員採用試験で出題される 実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても 学び、より理解を深める。						
	授業到達目標 ・公務員試験における民法の重要論点を理解し、問題を解くことができる。 ・今後の公務員試験の受験に向けて、民法の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進める ことができる。						
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。					8		
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。					9		
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を 育成する。					10		
成績評価の方法			履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。			毎回の授業終了時にミニツッパーパーを書いて もらいますので、疑問点などがあれば、積極的 に質問するようにしてください。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価			知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は 復修の時間を取るようにしてください。				
1. 小テスト、感想文など 20 %			アクティブ・ラーニング ・ミニツッパーパー[第1~6、8~14] ・中間テスト[第7回]				
2. 中間テスト 20 %							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 30 %							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価			予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える				
1. まとめのテスト 30 %			11				
2. 論文、まとめのレポートなど %			12				
3. %			13				
再評価の実施	する	しない	14				
教科書	TAC株式会社(公務員講座)編著『公務員試験 過去問攻略Vテキスト1 民法(上)』(2019年)						
参考書	15 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	(K-CIP)民法(債権、親族・相続)演習 (K-CIP)Civil Law (Law of Obligations and Relatives・Inheritance)				単位数	授業内容*		
担当者	前田 恵美 (MAEDA Emi)				1	1	第4章 債権総論 第4章・1 債務不履行 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング	EEN2203・ERN2203・SSN2203			2	第4章・2 債務者の責任財産の維持 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	経済学部 スポーツ学部			
配当年次	2年生	開講学期	後期					
授業概要	公務員採用試験の専門試験において出題される民法について講義を行う。民法は身近なことに 関する法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。この講義では、 民法の中でも「債権」「親族・相続」の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理 解や重要な判例の学習を行う。また、この講義では各論点について公務員採用試験で出題され る実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても 学び、より理解を深める。							
	・公務員試験における民法の重要論点を理解し、問題を解くことができる。 ・今後の公務員試験の受験に向けて、民法の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進める ことができる。							
	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
	1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。							
	2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。							
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を 育成する。								
成績評価の方法		履修における留意事項						
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。		毎回の授業終了時にミニツッパーパーを書いて もらいますので、疑問点などがあれば、積極的 に質問するようにしてください。						
1) 授業到達目標への到達努力の評価		知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は 復修の時間を取るようにしてください。						
1. 小テスト、感想文など		20 %						
2. 中間テスト		20 %						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		30 %	・ミニツッパーパー[第1~6、8~14]					
2. 論文、まとめのレポートなど		%	・中間テスト[第7回]					
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	TAC株式会社(公務員講座)編著『公務員試験 過去問攻略Vテキスト2 民法(下)』(2019年)							
参考書								
						15	講義の振り返り、まとめテスト 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		(K-CIP) 行政法演習 (K-CIP) Administrative Law practice			単位数	授業内容*	
担当者		河野 雄一 (KAWANO Yuuichi)			1	1 ガイダンス、行政法の基本原理 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSN2204	2 行政行為 行政行為の意義と諸効力、行政行為の分類(1)、(2) 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	スポーツ学部	3 行政行為 行政行為の附款、行政行為の分類(3)、行政行為の取消しと撤回 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
配当年次	2年生	開講学期	後期			4 行政行為 行政手続法 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業概要	公務員採用試験の専門試験において出題される行政法について講義を行う。行政法や他の民法や商法のように単独の法典は存在せず、行政に関連する法律の総称であるため、全体像が見えにくく学習を進めにくい科目であるが、公務員として働く上で行政に関する法律の知識は必須である。この講義では、地方自治法や行政手続法、国家賠償法などの行政法について、特に公務員採用試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、この講義では各論点について公務員採用試験で出題される実際の問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。						5 行政上の強制手段 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える
	授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員試験における行政法の重要論点を理解し、問題を解くことができる。</li> <li>・今後の公務員試験の受験に向けて、行政法の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。</li> </ul>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。							
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。							
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。							
成績評価の方法				履修における留意事項			
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。				毎回の授業終了時にミニツッパーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。			
1) 授業到達目標への到達努力の評価				知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。			
1. 小テスト、感想文など 30 %							
2. 中間テスト 20 %							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 %							
6. 自主的学習(予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト 50 %				・ミニツッパーパー[第1~15回]			
2. 論文、まとめのレポートなど %				・中間テスト[第9回]			
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	TAC株式会社(公務員講座) 編著『公務員試験 過去問攻略Vテキスト 4 行政法』TAC出版 2019						
参考書	予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		(K-CIP) ミクロ経済学演習 (K-CIP) Micro Economics practice			単位数	授業内容*		
担当者		柏木 士郎 (KASIWAGI Shirou)			1	1 費用関数について学ぶ。短期の費用関数から、平均費用、平均可変費用、限界費用の導出についても学びます。ここで簡単な微分の練習をします。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える		
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSN2106	2 長期の費用関数とコブ=ダグラス型生産関数について学びます。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える		
授業形式		演習			科目区分	自由選択科目 (K-CIP関連科目)	履修学部	スポーツ学部
配当年次		2年生			開講学期	前期		
授業概要	公務員採用試験の専門試験において出題される経済原論のうち、ミクロ経済学の分野について講義を行う。経済学の中でもミクロ経済学は特に消費者や企業の行動に着目し価格の決まり方などについて学習する。また、科目の性質上、微分などの数学的な必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。この講義では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。							
	<p>授業到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員試験におけるミクロ経済学の重要論点を理解し、問題を解くことができる。</li> <li>・ミクロ経済学の問題を解くために必要な微分などの数学的スキルを習得し、計算することができる。</li> <li>・今後の公務員試験の受験に向けて、ミクロ経済学の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。</li> </ul>							
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)								
1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。								
2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。								
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。								
成績評価の方法				履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。				毎回の授業終了時にミニツペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価				知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。				
1. 小テスト、感想文など				%				
2. 中間テスト				25 %				
3. 課題レポートなどの提出物				%				
4. 授業中の発表、討論				%				
5. 授業への参加意欲				50 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)				%				
7.				%				
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト				25 %				
2. 論文、まとめのレポートなど				%				
3.				%				
再評価の実施		する		しない				
教科書		TAC株式会社(公務員講座)編『公務員試験 過去問攻略Vテキスト8 ミクロ経済学』TAC出版 2019年						
参考書								
		15 これまで学習した内容について、振り返ります。 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		(K-CIP) マクロ経済学演習 (K-CIP) Macro Economics practice			単位数	授業内容*	
担当者		柏木 士郎 (KASIWAGI Shirou)			1	1 財市場の分析 GDPについて、その定義や式を理解し、計算できるようにしましょう。また、物価指数と産業連関表についても学びます。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング			SSN2205	2 財市場の分析 45度線分析、乗数理論。インフレギャップとは何か、デフレギャップとは何かをしっかりと理解しましょう。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	スポーツ学部		
配当年次	2年生	開講学期	後期				
授業概要	公務員採用試験の専門試験において出題される経済原論のうち、マクロ経済学の分野について講義を行う。経済学の中でもマクロ経済学は国家や市場といった大きな視点から経済のメカニズムについて学習する。また、科目の性質上、微分などの数学的な必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。この講義では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員試験におけるミクロ経済学の重要論点を理解し、問題を解くことができる。</li> <li>マクロ経済学の問題を解くために必要な微分などの数学的スキルを習得し、計算することができる。</li> <li>今後の公務員試験の受験に向けて、マクロ経済学の勉強の仕方を理解し、受験勉強の準備を進めることができる。</li> </ul>						
授業到達目標		<p>授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)</p> <p>1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。</p> <p>2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。</p> <p>3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。</p>					
成績評価の方法		履修における留意事項					
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。		毎回の授業終了時にミニツペーパーを書いてもらいますので、疑問点などがあれば、積極的に質問するようにしてください。					
1) 授業到達目標への到達努力の評価		知識の定着のために、毎回の授業後に1時間は復修の時間を取るようにしてください。					
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		25 %					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		50 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		25 %					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	TAC株式会社(公務員講座)編『公務員試験 過去問攻略Vテキスト8 ミクロ経済学』TAC出版 2019年						
参考書							
		8 中間のまとめ、テスト これまでの内容についてテストを実施します。 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う					
		9 労働市場の分析 労働市場の均衡について、ケインズ派と古典派(新古典派)の主張の違いについて学びます。また、失業の種類もしっかり理解しましょう。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える					
		10 労働市場の分析 9回目の授業に基づいて、AD-AS分析を学びます。ここでもケインズ派古典派の主張の違いについて理解しましょう。計算問題も解きます。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える					
		11 フィリップス曲線とIAD-IAS分析。マネタリストの自然失業率仮説、合理的期待形成学派の主張について学びます。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える					
		12 国際マクロ経済学の基礎、マンデル=フレミングモデルについて学びます。変動相場制、固定為替相場制の下での財政政策と金融政策の有効性について学びます。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える					
		13 経済成長論 ハロッド=ドーマーの経済成長論について学びます。保証成長率と自然成長率が一致するかどうか、一致しないのはなぜなのかについて学びます。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える					
		14 経済成長論 新古典派成長論について学びます。併せて、ハロッド=ドーマーモデルとの相違について理解しましょう。計算問題も少し難しいですが頑張りましょう。 予復修課題：講義内容をしっかりと復修し、重要用語などを覚える					
		15 講義の振り返り、まとめのテスト これまでに勉強した内容について再度振り返り、マクロ経済学の全体像をつかむ。 予復修課題：テストに備えて今までの総復修を行う					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	(K-CIP) 教職教養 (教育原理・教育心理) Preparation for Teaching Staff Examination (Principle of Edu.)			単位数	授業内容*		
担当者	山内 絵美理 (YAMAUCHI Emiri)	ほか		1	1	オリエンテーション・学修の心構え 授業の概要、教員採用試験に向けた学修の心構え等を解説する (TAC講師) 予復修課題: 自身の志望する自治体の採用試験について調べ、学修計画を立てる (2時間)	
実務経験のある教員による授業	ナンパリング		SSN2107	非常勤講師	2	教育原理 教育の意義 / 教授・学習の理論 (山内) 予復修課題: 1章第1節・2節の見直しと誤答の確認 (4時間)	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目 (K-CIP関連科目)	履修学部	スポーツ学部	3	教育原理 学習指導の形態 / 教育課程の概念 / 教育課程の類型 (山内) 予復修課題: 第1章第3節、第2章第1・2節の見直しと誤答の確認 (4時間)
配当年次	2年生	開講学期	前期			4	教育原理 生徒指導の意義と課題 / 生徒指導の方法 (山内) 予復修課題: 第7章第1・2節の見直しと誤答の確認 (4時間)
授業概要	教員採用試験において出題される教職教養科目の教育原理、教育心理について学修する。教員免許取得のために必要な「教育原論」「教育心理学」の講義とは異なり、採用試験対策を重視し採用試験での頻出事項や、各科目の重要論点について知識を整理し、教員採用試験合格に向けて必要な知識を身につける。また、実際の教員採用試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。免許法科目の「教育原論」「教育心理学」の成績にかかわらず履修は可能である。ただし、未修得の内容は自主学習で補うこと。本授業の単位は免許状申請には使用できない。						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育原理・教育心理に関する基礎知識や解答技術を修得し、正答を導くことができる。</li> <li>・教育原理・教育心理に関して得た知識を、様々な場面において生かすことができる。</li> </ul>						
授業到達目標	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
	1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。						
	2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。						
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。							
成績評価の方法			履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する (全体で100%)。			・知識の定着のために予復修が欠かせません。授業外の学修機会も活用しながら、積極的に取り組んでください。				
1) 授業到達目標への到達努力の評価			・教科書・参考書が必須です。入手方法は初回の授業の際に連絡するので、期間内に必ず購入してください。本授業の教材は後期の「教職基礎演習」やその後の授業でも使用することがあります。				
1. 小テスト、感想文など 35 %							
2. 中間テスト %							
3. 課題レポートなどの提出物 %							
4. 授業中の発表、討論 %							
5. 授業への参加意欲 30 %							
6. 自主的学習 (予習・復習など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト 35 %							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. %							
再評価の実施	する	しない					
教科書	教職教養『教育原理』トレーニング、2019年・『教育心理』トレーニング、2019年 (TAC)						
参考書	教職教養『教育原理』テキスト、2019年・『教育心理』テキスト、2019年 (TAC)						
						5	学修のまとめ、試験動向の最新情報 試験の最新動向を学ぶとともに、今後の学修を考える (TAC講師) 予復修課題: 夏期休業期間や後期に向けての学修計画を立てる (4時間)

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	(K-CIP) 保健体育科 (K-CIP) Health and Physical Education			単位数	授業内容*		
担当者	重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)			1	1 オリエンテーション、教員採用試験の制度、学修の心構え等について 授業の概要、教員採用試験の制度について解説する。学修の心構え等について確認する。 予復修課題：自身の志望する自治体の教員採用試験について調べ、学修計画を立てる(120分)		
実務経験のある教員による授業	ナンパリング			SSN2108	2 筆記試験対策法 (模擬テスト口、及び振り返り) 専門教養(保健体育科)の模擬テスト口に挑み、自身の力量を把握し、課題を見つける。 予復修課題：模擬テストの口の内容についてやり直し、次回の模擬テストの準備をする(120分)		
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	スポーツ学部		
配当年次	2年生		開講学期	後期			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい時代に必要となる資質・能力を持った人材の育成を担うことができる教員の養成を目指す。これまでの保健体育科教諭や管理職等としての実務経験を活かした授業を展開する。</li> <li>・教員採用試験対策を重視する中で、教員採用試験合格に向けて必要な知識を身につけるとともに、学び方(個、ペアやグループ等に応じた対策方法)の習得と実践力の育成を図る。</li> <li>・学校教育現場で求められる保健体育科教員に必要な基礎的な資質・能力の養成を目指して、具体的な場面や事例を取り上げ、ペアやグループによるディスカッションやワークなどのアクティブ・ラーニングの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。</li> </ul>						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験をとおして求められる保健体育科教諭としての専門的知識について身につけるとともに、将来、教員としてその知識を活用し、生徒に対して授業等で指導することができる。</li> <li>・アクティブ・ラーニングを体験しながら、教諭として求められる思考力・判断力・表現力等の能力を高め、生徒理解を基盤とした教科指導や生徒指導、教育的配慮等が実践できる。</li> <li>・学校教育現場における事例等を想定したディスカッション等をとおして、保健体育科教諭として求められる学びに向かう力や人間性等を向上させる。</li> <li>・教員採用試験突破に向け教員として求められる総合的な資質・能力を高めることができる。</li> </ul>						
授業到達目標	授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
	1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。						
	2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。						
3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。							
成績評価の方法			履修における留意事項				
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験対策における知識の定着のためには予復修や自主的な学びの継続、教え合い等が不可欠です。仲間と積極的に取り組みましょう。</li> <li>・ペアやグループによるディスカッション等の際には、他者や少数の発言等も大切に、安心&amp;安全の場を互いに保障するとともに、より主体的・対話的な姿勢で取り組みましょう。</li> </ul>				
1) 授業到達目標への到達努力の評価			<b>アクティブ・ラーニング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループによるディスカッション、まなボードによる発表等 [第4~13回]</li> <li>・小レポート等(ミニツッペーパーを含む)</li> </ul>				
1. 小テスト、感想文など							20 %
2. 中間テスト							%
3. 課題レポートなどの提出物							20 %
4. 授業中の発表、討論							20 %
5. 授業への参加意欲							20 %
6. 自主的学習(予習・復習など)							20 %
7.			%				
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト			%				
2. 論文、まとめのレポートなど			%				
3.			%				
再評価の実施	する	しない	[全回]				
教科書	『中学校・高等学校学習指導要領解説「保健体育編 体育編」』文部科学省、2017年・2018年						
参考書	保健体育の教科書やノート、採用試験に関する問題集・参考書等、各自が所有しているもの						
					15 学修のまとめ、「理想の教師像とその実現を目指して今後やるべきこと」について考える これまでの自身や仲間の取組・成果・課題等を踏まえて、今後の決意と実践案を語る。 予復修課題：春期休業期間や3年次に向けての学修計画を立てる(120分)		

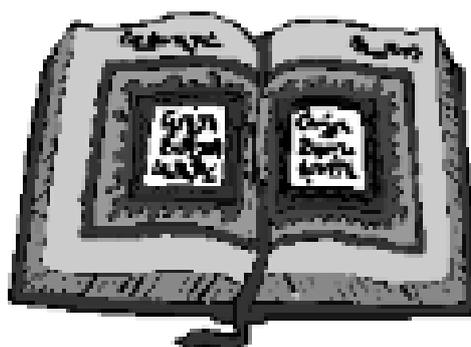
\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	(K-CIP) 教職基礎演習 Preparation for Teaching Staff Examination (Oral Exam & Essay)			単位数	授業内容*		
担当者	山内 絵美理 (YAMAUCHI Emiri)	ほか		1		オリエンテーション 1 授業の概要を解説するとともに、前期修得内容を振り返る(山内) 予復修課題: 自身の状況に基づき学修計画を立てる(2時間)	
実務経験のある教員による授業		ナンパリング	SSN2206			2 人物試験のポイント、志望動機・自己PR等の書き方 出願書類や人物試験に対応するための基本的な技術を確認する(TAC講師) 予復修課題: 自己分析を行い、想定問答を作る(4時間)	
授業形式	演習	科目区分	自由選択科目(K-CIP関連科目)	履修学部	スポーツ学部		
配当年次	2年生	開講学期	後期				
授業概要	<p>教員採用試験を受験する際に必要となる願書(自己PR文)や論作文の書き方の基礎を学ぶ。また、模擬授業・面接などに向けた基礎的な力を養う。問題演習を行うことで論述力の向上を図るとともに、演習の中から体験的に自身の課題を発見し、今後の学習計画に生かす。</p> <p>免許法科目及び前期開講の「教職教養(教育原理・教育心理)」の修得状況にかかわらず履修は可能である。ただし、未修得の内容は自主学習で補うこと。 本授業の単位は免許状申請には使用できない。</p>						
	<p>・人物試験、論作文試験等への対応力を高め、自信をもって取り組むことができる。 ・教職教養試験の出題内容に対する知識をさらに深め、解答に生かすことができる。 ・本授業から得た知識や技術を、様々な場面において生かすことができる。</p>						
授業到達目標	<p>授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)</p> <p>1) 公務員、教員、民間企業などの就職試験において、合格できる得点力を身につける。 2) 社会で活躍する人材になるために幅広い知識・教養を身につける。 3) 問題の趣旨を正確に理解し、論理的に考え、正解を導くことができる課題解決能力を育成する。</p>						
	<p>8 集団討論対策の方法 集団討論の方法と対策、テクニック等を解説する(TAC講師) 予復修課題: 集団討論をイメージトレーニングする(4時間)</p>						
	<p>9 集団討論の実践 実際に集団討論を行ったり、他の受講者の討論を題材に相互に学ぶ(山内) 予復修課題: 授業のポイントをもとに自分なりに解答を構想する(4時間)</p>						
成績評価の方法		履修における留意事項					
成績は以下の項目・基準で評価する(全体で100%)。		<p>・知識の定着のために予復修が欠かせません。 授業外の学修機会も活用しながら、積極的に取り組んでください。</p> <p>・講師のスケジュールにより、授業内容を入れ替えたり、変更することがあります。 ・教科書・参考書が必須です。入手方法は初回の授業の際に連絡するので、期間内に必ず購入してください。</p>					
1) 授業到達目標への到達努力の評価							
1. 小テスト、感想文など		35 %					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		35 %					
4. 授業中の発表、討論		15 %					
5. 授業への参加意欲		15 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		%					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	教員採用試験『面接対策』2019年(TAC)						
参考書	教職教養テキスト・トレーニング『教育原理』『教育心理』テキスト、2019年(TAC)						
	15 人物試験に向けた教職教養の学習方法を学び、今後の学修を考える(TAC講師) 予復修課題: 春期休業期間や3年生に向けての学修計画を立てる(4時間)						

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

## 自由科目

自由科目の単位は卒業単位に含まれません。



# シラバス一覧 F 《 自由科目 》

(要卒単位に含まれない科目)

科目区分・科目名		配当年次・学期		掲載 ページ
教職に関する 専門教育科目	保健体育科教育法	2年	前	382
	保健体育科教育法	2年	後	383
	保健体育科教育法	3年	前	384
	保健体育科教育法	3年	後	385
	教育実習	4年	前集中	386
	教育実習	4年	前集中	387
	事前事後指導	4年	通年	388
	教育実践演習(中・高)	4年	後	389



授業科目名 (Subject)		保健体育科教育法 Health & Sports Pedagogy		単位数	授業内容*	
担当者		鄭 英美 (JUNG Youngmi)		2	専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)(保健体育)				
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00101		
授業形式	講義	科目区分	教職に関する科目	免許区分	中一種	高一種
配当年次	2年生	開講学期	前期			
授業概要	本科目では、保健体育科教育の目的、内容、方法、評価等についての理論的な学習と、文部科学省告示「学習指導要領」に関する内容の理解を深める。					
	また、優れた体育授業の具体例を紹介しながら、体育教師としての心構え、よい指導法、よい授業づくりについての考え方について学ぶ。それらを通して、保健体育科教員として実際の教育現場で授業を展開していくために必要な基礎的資質を養うことをねらいとする。					
授業到達目標	学習指導要領の目標、内容、内容の取扱いを説明することができる。					
	よい体育授業をするための方法を説明することができる。保健体育科教員としての職務を理解し、よい教師とは何かを考え説明することができる。					
授業が重視する教育目標〔特に重視 重視〕						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本科目は保健体育の教員免許状を取得する学生の受講を認める。			
1. 小テスト、感想文など		%	予修・復修を励行し、疑問点は早期に解決すること。			
2. 中間テスト		%	課題には意欲的に取り組み、期日を厳守すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%	担当教員の指示に従わない学生の単位は認定しない。			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7. 別途指示する		50 %				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	中・高の保健体育科の領域からグループ(2・3人)ごとに単元を決め、内容の分析、発表する。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3. 別途指示する		50 %	毎回の授業で、グループワークを実施する。			
再評価の実施	する	しない				
教科書	「中学校学習指導要領解説 保健体育編」「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」(最新版)					
参考書	実技指導書、中、高保健体育教科書					
1	オリエンテーション (本科目の目標、内容、方法、評価等について解説) 予復修課題: 資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
2	保健体育科教育法の意義、体育に関する諸概念 (体育とスポーツの捉え方、保健体育科教育の領域について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
3	保健体育科の歴史の変遷・その1: 明治期から昭和20年まで (わが国における戦前の保健体育科に関する略史について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
4	保健体育科の歴史の変遷・その2: 昭和20年から現代まで (わが国における戦後の保健体育科に関する略史について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
5	教育課程における保健体育 (憲法や教育基本法、各種教育法規と保健体育科の位置について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
6	体育の授業の構造と構成要素 (目標、内容、方法、評価等の構造と構成要素について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
7	保健体育教師の役割 (保健体育科教師の職務や求められる姿について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
8	体育分野の教育方法(ICT機器を活用した授業方法を含む) (授業の方略にて解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
9	保健分野の教育方法(ICT機器を活用した授業方法も含む) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
10	学習計画(年間指導計画・単元計画、単位時間計画)の作成 (保健体育科指導に関わる各種計画の解説及び事例を元に、学習過程について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
11	保健体育科の学習内容 (学習指導要領解説保健体育編の内容について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
12	保健体育科の評価 (保健体育科の評価方法や評価内容について解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
13	授業実践事例の検討 (高田四原則について事例を元に解説) 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
14	授業実践事例の検討 予復修課題: 前時の資料の読み返し等。前時の資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					
15	まとめのテスト、授業の総括 予復修課題: 全ての資料の読み返し等予復修の目安時間:120分					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT

で確認してください。

授業科目名 (Subject)		保健体育科教育法 Health & Sports Pedagogy II		単位数	授業内容*	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)		2	1 オリエンテーション(本科目の目標、内容、評価、留意事項について) 予復修課題：保健体育科教育法Iの授業内容、試験内容を復習しておく。	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		専任	2 体育科の指導計画作成の留意点、指導計画作成の意義 予復修課題：指導計画作成の留意点について復習しておく。	
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)(保健体育)			3 指導計画の作成1:器械運動 アクティブラーニング 予復修課題：授業時間内に完成しなかった指導計画を完成させる。	
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00201	4 指導計画の作成2:陸上競技 アクティブラーニング 予復修課題：授業時間内に完成しなかった指導計画を完成させる。	
授業形式	講義	科目区分	教職に関する科目	免許区分	中一種	高一種
配当年次	2年生	開講学期	後期			
授業概要	<p>本科目は、保健体育科の指導計画を作成できるようにすることを目的としている。毎回の授業では、保健体育科の各領域の指導計画作成のポイントの解説、各自での指導計画の作成、グループでの発表及び振り返りやミニ模擬授業を行う。</p> <p>前期の「保健体育科教育法I」で学んだ理論をもとに、よい体育授業の実践の基礎的条件となる指導計画の作成のポイントを学習し、次年度以降の模擬授業や教育実習に取り組むための準備を進めていく。</p>					
授業到達目標	<p>1 保健体育科の全ての領域の指導計画(単元計画及び学習指導案)を作成することができる。</p> <p>2 作成した指導計画について、要点を説明することができる。</p> <p>3 指導計画作成のポイントを理解し、自己及び他者の計画を省察することができる。</p>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本科目は「保健体育科教育法I」の単位を修得した学生のみ受講することができる。全課題の提出が単位認定の条件となる。予復修は120分を目安とする。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		20 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学習(予習・復習など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		30 %	グループディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		%	事前学習型授業			
3.		%	模擬授業			
再評価の実施	する	しない	ピアティーチング			
教科書	「中学校学習指導要領解説 保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」(最新版)					
参考書	実技指導書 中、高保健体育教科書					
				15 予復修課題：授業で配布した資料等をファイリングして持参すること。		

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		保健体育科教育法 Health & Sports Pedagogy III			単位数	授業内容*	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)		田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)		専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教育課程及び指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		各教科の指導法 (保健体育)					
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00102			
授業形式		講義		科目区分		教職に関する科目	
配当年次		3年生		開講学期		前期	
免許区分		中一種		高一種			
授業概要		<p>本科目では、保健体育科教育の理論的側面、実践的側面及び諸計画の立案についての理解を深めるため、模擬授業の計画・実践・評価を行う。各自のテーマに基づく模擬授業の実践を通して、指導者、学習者、学習指導、評価等についての理解を深めるとともに教育実習への準備を進めていく。</p>					
授業到達目標		<p>1 体育授業における単元計画や学習指導案の作成ができる。  2 学習指導案に従い、授業を実践することができる。  3 模擬授業後に授業の反省を記述でき、それに基づいた新しい指導案を作成することができる。  4 授業分析の観点を説明でき、自己評価及び他者評価ができる。</p>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。							
2) 教育の基礎理論 (教育心理学、教育思想、教育制度等) に関する知識を習得する。							
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。							
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。							
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		1 本科目は「保健体育教育法I・II」の単位を修得した学生のみ受講可能とする。			
1. 小テスト、感想文など		%		2 学習指導案の作成・修正を積極的に実施すること。			
2. 中間テスト		%		3 担当教員の指示に従わない学生の単位は認定しない。			
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		20 %		グループディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %		事前学習型授業			
3.		%		模擬授業			
再評価の実施		する		ピアティーチング			
教科書		「中学校学習指導要領解説 保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」(最新版)					
参考書		実技指導書 中、高保健体育教科書					
1		オリエンテーション(本科目の目標、内容、方法、評価等) 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。保健体育科教育法I・IIの資料の熟読。予復修の目安時間:各120分					
2		体育科教育の目標、内容、方法、評価 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。単元計画の作成。予復修の目安時間:各120分					
3		模擬授業の進め方と授業分析の観点 (模擬授業で取り扱う単元と使用場所・道具の周知、雨天時の対応等) 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導案の作成。予復修の目安時間:各120分					
4		模擬授業の実施と授業評価「陸上競技・短距離走」 学習指導案の作成意義、アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
5		模擬授業の実施と授業評価「陸上競技・跳躍種目」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
6		模擬授業の実施と授業評価「球技・ネット型」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
7		模擬授業の実施と授業評価「球技・ゴール型」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
8		模擬授業の実施と授業評価「球技・ベースボール型」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
9		模擬授業の実施と授業評価「体づくり運動・体ほぐしの運動/体力を高める運動」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
10		模擬授業の実施と授業評価「ダンス」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
11		模擬授業の実施と授業評価「武道」 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
12		模擬授業の実施と授業評価保健(健康な生活と疾病予防/心身の機能の発達と心の健康) アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
13		模擬授業の実施と授業評価保健(傷病の防止/健康と環境) アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
14		モデル模擬授業の実施と授業検討会 アクティブラーニング 予復修課題： 授業内容に関する情報収集。学習指導要領解説の精読。予復修の目安時間:各120分					
15		授業のまとめ 予復修課題： これまでの模擬授業の振り返りと整理。予復修の目安時間:各120分					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		保健体育科教育法 Health & Sports Pedagogy IV			単位数	授業内容*	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)		田代 智紀 (TASHIRO Tomoki)		専任	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教育課程及び指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		各教科の指導法 (保健体育)					
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00202			
授業形式		講義		科目区分		教職に関する科目	
配当年度		3年生		開講学期		後期	
				免許区分		中一種 高一種	
授業概要		<p>本科目では、保健体育科教育の理論的側面、実践的側面及び諸計画の立案についての理解を深めるため、模擬授業の計画・実践・評価を行う。各自のテーマに基づく模擬授業の実践を通して、指導者、学習者、学習指導、評価等についての理解を深めるとともに教育実習への準備を進めていく。</p>					
授業到達目標		<p>1 単元計画の立案が個人で三単元・各10時間できる。 2 学習指導案に従い、授業を実践することができる。 3 模擬授業後に授業の反省を記述でき、それに基づいた新しい指導案を作成することができる。 4 授業分析の観点を説明でき、自己評価及び他者評価ができる。</p>					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。							
2) 教育の基礎理論 (教育心理学、教育思想、教育制度等) に関する知識を習得する。							
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。							
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。							
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。							
成績評価の方法 (全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		1 本科目は保健体育の教員免許状を取得する学生の受講を認める。			
1. 小テスト、感想文など		%		2 予修・復修を励行し、疑問点は早期に解決すること。			
2. 中間テスト		%		3 課題には意欲的に取り組み、期日を厳守すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%		4 担当教員の指示に従わない学生の単位は認定しない。 予復修の目安は120分。			
4. 授業中の発表、討論		%		アクティブラーニング 学生が作成してきた指導案、当日行った模擬授業に対してディスカッションを行う。			
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習 (予習・復習など)		%					
7. 上記1.6.までの総合評価		50 %					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施		する		しない			
教科書		「中学校学習指導要領解説 保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」(最新版)					
参考書		実技指導書 中、高保健体育教科書					
1		オリエンテーション(本科目の目標、内容、方法、評価等)					
2		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 体育科教育の目標、内容、方法、評価					
3		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の進め方と授業分析の観点					
4		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループAB: 器械体操)					
5		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループCD: 球技・ゴール型)					
6		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループEF: 球技・ネット型)					
7		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループGH: 球技・ベースボール型)					
8		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループIJ: ダンス)					
9		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループKL: 武道)					
10		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループMN: 体づくり運動)					
11		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループOP: 体育理論)					
12		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(グループQR: 陸上競技)					
13		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(担当者AB: 保健)					
14		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 模擬授業の実施と授業評価(担当者CD: 保健)					
15		予復修課題： 授業の進展に応じて指示する。 授業のまとめ					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育実習 Teaching Practice		単位数	授業内容*	
担当者		前田 武男 (MAEDA Takeo)	重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)	2	1	
		金子 研太 (KANEKO Kenta)	木村 菜太 (KIMURA Kanta)	専任	2	
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教育実習		
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育実習		3		
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00103		
授業形式	実習	科目区分	教職に関する科目	免許区分	中一種	高一種
配当年次	4年生	開講学期	前期集中			
授業概要	教育実習校では、教科指導のみならず学級経営など学校教育のすべてにわたり指導を受ける。大学で学んだ、教科や教職についての理論を体験的に実践するとともに、深化させ、教師としての総合的な教育指導力を身につけるべく、教育実習校と本学との相互連携において指導がおこなわれる。					
	4					
授業到達目標	教科・科目、道徳教育等の領域、総合的な学習の時間、さらに部活動等、教育実践を通して教職の基盤を確立するとともに、将来への課題を自覚することができる。					
	5					
授業到達目標	教育者としての愛情や使命感を向上させて組織の一員としての認識を持つことができる。					
	6					
授業到達目標	教育実習を通して、自己の人格形成に生かすことができる。					
	7					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)						
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。						
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。						
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。						
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。						
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。						
8						
成績評価の方法(全体で100%)						
1) 授業到達目標への到達努力の評価			評価割合	履修における留意事項		
1. 小テスト、感想文など			%	評価は、実習校からの評価表に拠る。		
2. 中間テスト			%	高校免許の取得には教育実習 の履修が必要。		
3. 課題レポートなどの提出物			%	教育実習履修要件を満たさなければ履修できない。		
4. 授業中の発表、討論			%	予復修時間は、1時間の授業に2時間程は必要。		
5. 授業への参加意欲			%	11		
6. 自主的学習(予習・復習など)			%	12		
7.			%	13		
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト			%	14		
2. 論文、まとめのレポートなど			%	14		
3.			%	14		
再評価の実施	する	しない		15		
教科書						
参考書	『高等学校学習指導要領』文部科学省(最新版)					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教育実習 Teaching Practice		単位数	授業内容*			
担当者		前田 武男 (MAEDA Takeo)	重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)	2	1			
		金子 研太 (KANEKO Kenta)	木村 菜太 (KIMURA Kanta)	専任				
教員の免許状取得のための必修科目		科目	教育実習	2				
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育実習						
実務経験のある教員による授業		ナンバリング	SS00104	3				
授業形式	実習	科目区分	教職に関する科目	免許区分			中一種	
配当年次	4年生	開講学期	前期集中					
授業概要	教育実習校では、教科指導のみならず学級経営など学校教育のすべてにわたり指導を受ける。大学で学んだ、教科や教職についての理論を体験的に実践するとともに、深化させ、教師としての総合的な教育指導力を身につけるべく、教育実習校と本学との相互連携において指導がおこなわれる。							
	4							
授業到達目標	教科・科目、道徳教育等の領域、総合的な学習の時間、さらに部活動等、教育実践を通して教職の基盤を確立するとともに、将来への課題を自覚することができる。							
	5							
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		事前事後指導 Guidance for Teaching Practice		単位数	授業内容*		
				1	オリエンテーション(教育実習全般について) 1 教育実習までの具体的予定を確認する。 予復修課題: 履修カルテを記入し、関連した学習をしてくる。学習時間は180分を予定。		
担当者		重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi) 清永 裕子 (KIYONAGA Yuko) 金子 研太 (KANEKO Kenta) 木村 栞太 (KIMURA Kanta)		専任	2 教育実習の意義と心構え、その目標 教育実習に臨む心構えを問い直し、教師として生きていく自分を見つめ直す。 予復修課題: レポートに自分の考えをまとめ提出する。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。		
教員の免許状取得のための必修科目		科目		教育実習			
施行規則に定める科目区分又は科目に含めることが必要な事項		教育実習					
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00105			
授業形式		講義		科目区分		教職に関する科目	
配当年次		4年生		開講学期		通年	
				免許区分		中一種 高一種	
授業概要		1) 事前指導: 教育実習の意義を理解し、教育実習に必要な知識を習得する。 教育実習生としてのマナーを確認して、これまでの教職課程で学んだことを総括する。 2) 事後指導: 教育実習での活動を振り返り、レポートを作成する。教育実習の成果をこれからの自己形成、進路にどう活かすのか考察する。					
授業到達目標		1) 事前指導: これまで教職課程で学んだことを整理し、理解したうえで実践できる。 2) 事後指導: 実習を終えて、自己の課題を明確に整理し、表現できる。					
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。							
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。							
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。							
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。							
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合					
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		30 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%		第10~12回 模擬授業			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施		する		しない			
教科書							
参考書							
						10 模擬授業 教科 実際に模擬授業を行い自らの課題を発見する。 予復修課題: 自身の課題をレポートにまとめること。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。	
						11 模擬授業 道徳および特別活動 実際に模擬授業を行い自らの課題を発見する。 予復修課題: 自身の課題をレポートにまとめること。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。	
						12 模擬授業 学級運営 実際に模擬授業を行い自らの課題を発見する。 予復修課題: 自身の課題をレポートにまとめること。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。	
						13 個人面接 単位修得状況から教育実習の準備まで、各自の進行状況を教員と確認する。 予復修課題: 自身の課題をレポートにまとめること。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。	
						14 個人面接 教育実習への準備状況を確認した上で、教育実習に対する心構えを再度確認する。 予復修課題: これまでの活動をまとめた上で参加すること。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。	
						15 総括~人権教育 人権について再度考え、教育実習に向かう総仕上げとする。 予復修課題: 全講義をよく振り返り、仲間と共有すること。さらに関連した学習をすること。学習時間は180分を予定。	

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		教職実践演習(中・高)			単位数	授業内容*	
		Practice Seminar for the Teaching Profession			2	1 教職実践演習とは オリエンテーション これまでの教職課程の学習について振り返り、各自の残された課題を確認する。 予復修課題：履修カルテを完成させた上で参加すること。	
担当者		重枝 武司 (SHIGEEDA Takeshi)	清永 裕子 (KIYONAGA Yuko)	専任		2 教職課程の総復習 教科指導に関して 教材研究および板書指導について総復習する。 予復修課題：各自の課題を意識し、レポートにまとめること。	
		金子 研太 (KANEKO Kenta)	木村 栞太 (KIMURA Kanta)			3 教職課程の総復習 特別活動に関して 教育実習を振り返り、学級経営の方法等について再度学ぶ。 予復修課題：教育実習振り返りレポートを持参すること。	
教員の免許状取得のための必修科目		科目			教職実践演習		
施行規則に定める科目区分又は科目に含まれることが必要な事項		教職実践演習					
実務経験のある教員による授業		ナンバリング		SS00203			
授業形式	演習	科目区分	教職に関する科目	免許区分	中一種	高一種	
配当年次	4年生	開講学期	後期				
授業概要	<p>本科目は近年の教員制度改革の一つとして新規創設された教職課程における必修の科目である。</p> <p>本科目最大の狙いは、「教職課程の総仕上げ」である。これまで履修した科目の理解度を確認する。教育実習を経て成長した部分や残された課題を自分自身で把握し、主体的に取り組むことにより卒業までの期間、教員志望者としてより一層の成長を遂げて欲しい。</p>						
授業到達目標	<p>自分自身の教師としての資質能力を把握し、課題を見出すことができる。</p> <p>教職課程の総復習および実践的な演習を通して教師の役割と職務に関して理解を深める。</p>						
授業が重視する教育目標 (特に重視 重視)							
1) 免許取得予定の教科・科目、領域および総合的な学習の時間についての専門知識を深める。							
2) 教育の基礎理論(教育心理学、教育思想、教育制度等)に関する知識を習得する。							
3) 免許取得予定の教科・科目等の学習指導案を作成し、授業ができる力を身につける。							
4) 生徒指導や教育相談、教育課程編成、学級経営等の教育業務にかかわる力量を高める。							
5) 教師としての使命感や責任感、マナーを体得し、教育的愛情の本質を深く理解する。							
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	教育実習履修要件を満たさなければ履修できない。				
1. 小テスト、感想文など		%	* 各授業の予復修課題に必要な時間は平均4時間程度です。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		20 %					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	第5回～第7回 模擬授業				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	第14回 グループワーク				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
		15 総括 教職課程で学んだことを振り返り、教師としての自分になることを再度意識する。 予復修課題：全講義をよく振り返り、仲間と共有すること。					

\* 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。